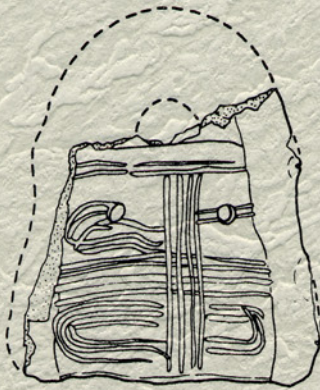


三重県埋蔵文化財調査報告123-7

一般国道42号松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ

堀町遺跡



2000.3

三重県埋蔵文化財センター



銅鐸形土製品

序

埋蔵文化財は、土に埋もれた、あるいは刻まれた過去の記録で、私たちの祖先がその時代を懸命に生きた証です。

一般国道42号松阪・多気バイパス路線内にも埋蔵文化財が多く残っていることがわかりました。これらは、一度破壊してしまうと二度と復元できないかけがえのないものであることは言うまでもありません。しかし一方で、自動車の運搬力や起動力は現代の生活に欠くことができないものとなり、道路の建設や改良は公共事業の緊急課題となっています。

三重県教育委員会では、これらの埋蔵文化財の保護と道路建設との調和を図るため、建設省等関係機関と協議を重ねてきました。その結果、バイパスの建設工事によって、どうしても保存のできない遺跡については、発掘調査によって記録として残すことになりました。平成元年度から始まった路線内の埋蔵文化財発掘調査事業も、今年度の堀町遺跡の報告をもって終了となります。ご協力を頂いた関係諸機関に感謝申し上げます。

平成12年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 大井 興生

例 言

1 本書は、三重県教育委員会が建設省中部地方建設局から委託を受けて実施した、一般国道42号松阪・多気バイパス建設予定地内に所在する埋蔵文化財発掘調査事業のうち、平成9～11年度に整理・報告書作成業務を実施した、堀町遺跡の発掘調査報告書である。

2 現地発掘調査及び整理・報告書作成にかかる費用は、建設省中部地方建設局の全額負担による。

3 本書に掲載した各遺跡の概要については、すでに当センター発行の『一般国道42号松阪・多気バイパス埋蔵文化財発掘調査概報』(V)～(Ⅷ)で紹介しているが、本書の記述をもって最終報告とする。

4 本書に使用した事業計画図面は、建設省紀勢国道工事事務所の提供により、他に建設省国土地理院発行の地形図、松阪市作成の都市計画図を使用した。

5 本書に掲載した写真の撮影、遺構・遺物図面の作成は、調査・報告担当者、調査補助員・業務補助員を中心に行った。現地調査の担当者は第4表に示したとおりである。執筆分担は目次に示し、さらに文末にも記した。

6 図面における方位は、国土座標第Ⅵ系を基準とする座標北を用いた。

7 写真図版の遺物番号は、実測図の番号に対応している。写真図版は特に断らない限り縮尺不同である。

8 本書で報告した記録類および出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターが保管している。

9 現地調査及び報告書作成期間中には、下記の方々に専門的な御指導と御助言をいただいた。記して感謝の意を表したい。(五十音順、敬称略)

天本洋一	池田公一	伊藤正人	岩野見司	上村安生	榎村寛之
草野誠司	楠本正士	蒲原宏行	川副麻理子	久保禎子	近藤 広
七田忠昭	土本典生	堤 安信	外山秀一	中村健二	原 直樹
樋口秀信	藤瀬禎博	前田達男	向田雅彦	森岡秀人	吉本健一

10 本書では、土層及び遺物の色調について、小山・竹原編『新版標準土色帖』(9版1989)を使用した。

11 本書で使用した遺構表示略記号は下記による。

S B : 掘立柱建物 S D : 溝・環濠 S E : 井戸 S K : 土坑 S R : 旧河道
S X : 墓 S Z : その他・不明

12 スキャニングによるデータ取り込みのため、若干のひずみが生じています。

各図の縮尺率はスケールバーを参照ください。

目 次

I 前 言	(小濱 学)	1
II 位置と歴史的環境	(森川常厚・小濱 学)	8
III 遺 構	(小濱 学)	11
IV 遺 物	(小濱 学)	77
V 自然科学分析	(パリノ・サーヴェイ株式会社・小濱 学)	261
VI 結 語	(小濱 学)	273

插图目次

I 前言

第1图	路線、工区、遺跡位置图	2
II 位置と歴史的環境		
第2图	遺跡位置图	9
第3图	第1次調査区地区割图	10
第4图	第2～4次調査区地区割图	10
第5图	調査区位置图	10
III 遺構		
第6图	調査区西壁土層断面图①	12
第7图	調査区西壁土層断面图②	13
第8图	調査区西壁土層断面图③	14
第9图	調査区西壁土層断面图④	15
第10图	調査区東西壁土層断面图①	16
第11图	調査区東西壁土層断面图②	17
第12图	調査区東西壁土層断面图③	18
第13图	SB257・258・374・487 実測图	19
第14图	SK1・360 実測图	20
第15图	SK8・29・31 実測图	21
第16图	SK14・15, SE37 実測图	22
第17图	SK302・305・310・326 実測图	23
第18图	SK330・340・359・372 実測图	24
第19图	SK410・420・434 実測图	25
第20图	SK421・426 実測图	26
第21图	SE327 実測图	27
第22图	SD303, SK398, SZ399 実測图	28
第23图	SD303 実測图	29
第24图	SB489・492 実測图	30
第25图	SK27・396, SE230・362・370 実測图	31
第26图	SB35・36 実測图	32
第27图	SB391・392・393・394 実測图	33
第28图	SB488 実測图	34
第29图	SB18 実測图	35
第30图	SB64・65・66 実測图	36
第31图	SB377 実測图	37
第32图	SB378・379 実測图	38
第33图	SB382 実測图	39
第34图	SB60・63 実測图	40
第35图	SB383・384 実測图	41
第36图	SB375・376・381・490 実測图	42
第37图	SB385・386・387・388・389・390 実測图	43
第38图	SK6・48・51・61・450 実測图	44
第39图	SK44・45 実測图	45
第40图	SK215・324・341 実測图	46
第41图	SK43, SE47 実測图	47
第42图	SE353・363・451 実測图	48
第43图	SE54・217・218・323 実測图	49
第44图	SE337・345・357・358, SX318・419 実測图	50

第45图	SB380・491 実測图	51
第46图	SB247・248・249 実測图	52
第47图	SB250・251・252・253 実測图	53
第48图	SB255・256・259・262・264 実測图	54
第49图	SB260・261 実測图	55
第50图	SK220・223・407・415 実測图	56
第51图	SK418・471, SD472 実測图	57
第52图	SE46・55・208・225 実測图	58
第53图	SE207 実測图	59
第54图	SK222, SE221・224・232・233 実測图	60
第55图	SE226・231・368 実測图	61
第56图	SK25・26 実測图	62
第57图	SK313 実測图	63
第58图	SR210 土層断面图, SZ227・228 実測图	64
第59图	SR210 遺物出土分布图	65
IV 遺物		
第60图	SB257, SK1・29・41・53・61 出土遺物実測图	78
第61图	SK15 出土遺物実測图	79
第62图	SK31 出土遺物実測图①	80
第63图	SK31 出土遺物実測图②	81
第64图	SK31 出土遺物実測图③	82
第65图	SK302 出土遺物実測图	83
第66图	SK305 出土遺物実測图①	84
第67图	SK305 出土遺物実測图②	85
第68图	SK305 出土遺物実測图③	86
第69图	SK305 出土遺物実測图④	87
第70图	SK305 出土遺物実測图⑤	88
第71图	SK310・317・330・343・361 出土遺物実測图	89
第72图	SK326 出土遺物実測图①	90
第73图	SK326 出土遺物実測图②	91
第74图	SK326 出土遺物実測图③	92
第75图	SK326 出土遺物実測图④	93
第76图	SK326 出土遺物実測图⑤	94
第77图	SK340 出土遺物実測图	95
第78图	SK359 出土遺物実測图	96
第79图	SK372 出土遺物実測图	97
第80图	SK410 出土遺物実測图	98
第81图	SK420 出土遺物実測图	99
第82图	SK421・434 出土遺物実測图	100
第83图	SK426 出土遺物実測图	101
第84图	SE327 出土遺物実測图①	102
第85图	SE327 出土遺物実測图②	103
第86图	SE327 出土遺物実測图③	104
第87图	SD303 出土遺物実測图①	105
第88图	SD303 出土遺物実測图②	106
第89图	SD303 出土遺物実測图③	107
第90图	SD303 出土遺物実測图④	108

第91图	SD303 出土遺物実測図⑤	109	第139图	SK223 · 407 · 415 · 418 出土遺物実測図	157
第92图	SD303 出土遺物実測図⑥	110	第140图	SE46 出土遺物実測図①	158
第93图	SD12 · 303 · 329 · 336, SZ399 出土遺物実測図	111	第141图	SE46 出土遺物実測図②	159
第94图	SK8 · 398 出土遺物実測図	112	第142图	SE46 出土遺物実測図③	160
第95图	SB489 · 492 出土遺物実測図	113	第143图	SE46 出土遺物実測図④	161
第96图	SK27 · 51 · 396 出土遺物実測図	114	第144图	SE46 出土遺物実測図⑤	162
第97图	SK446 出土遺物実測図	115	第145图	SE46 出土遺物実測図⑥	163
第98图	SE37 出土遺物実測図①	116	第146图	SE46 出土遺物実測図⑦	164
第99图	SE37 出土遺物実測図②	117	第147图	SE46 出土遺物実測図⑧	165
第100图	SE230 · 362 出土遺物実測図	118	第148图	SE46 出土遺物実測図⑨	166
第101图	SE370 出土遺物実測図	119	第149图	SE55 出土遺物実測図	167
第102图	SB35 · 36 · 63 · 65 · 376 · 378 · 383 · 384 · 391 · 392 · 393 · 394 · 488 出土遺物実測図	120	第150图	SE207 出土遺物実測図	168
第103图	SB18 · 60 · 381 · 385 · 386 · 387 · 390 · 490 出土遺物実測図	121	第151图	SE221 出土遺物実測図	169
第104图	SK24 · 42 出土遺物実測図	122	第152图	SE224 · 225 · 226 出土遺物実測図	170
第105图	SK6 出土遺物実測図	123	第153图	SE231 出土遺物実測図	171
第106图	SK45 出土遺物実測図①	124	第154图	SE232 · 233 出土遺物実測図	172
第107图	SK45 出土遺物実測図②	125	第155图	SE208 · 368, SD472 出土遺物実測図	173
第108图	SK48 · 215 出土遺物実測図	126	第156图	SK25 · 313 · 423 出土遺物実測図	174
第109图	SK324 · 341 · 450 出土遺物実測図	127	第157图	SK356 出土遺物実測図	175
第110图	SE47 出土遺物実測図①	128	第158图	SD204 · 206 · 371 出土遺物実測図	176
第111图	SE47 出土遺物実測図②	129	第159图	SZ227 出土遺物実測図	177
第112图	SE47 出土遺物実測図③	130	第160图	SR210 出土遺物実測図①	178
第113图	SE353 出土遺物実測図①	131	第161图	SR210 出土遺物実測図②	179
第114图	SE353 出土遺物実測図②	132	第162图	SR210 出土遺物実測図③	180
第115图	SE363 出土遺物実測図	133	第163图	SR210 出土遺物実測図④	181
第116图	SE451 出土遺物実測図	134	第164图	SR210 出土遺物実測図⑤	182
第117图	SE54 出土遺物実測図①	135	第165图	SR210 出土遺物実測図⑥	183
第118图	SE54 出土遺物実測図②	136	第166图	SR210 出土遺物実測図⑦	184
第119图	SE217 出土遺物実測図①	137	第167图	SR210 出土遺物実測図⑧	185
第120图	SE217 出土遺物実測図②	138	第168图	SR210 出土遺物実測図⑨	186
第121图	SE218 出土遺物実測図①	139	第169图	SR210 出土遺物実測図⑩	187
第122图	SE218 出土遺物実測図②	140	第170图	SR210 出土遺物実測図⑪	188
第123图	SE323 出土遺物実測図①	141	第171图	SR210 出土遺物実測図⑫	189
第124图	SE323 出土遺物実測図②	142	第172图	SR210 出土遺物実測図⑬	190
第125图	SE323 出土遺物実測図③	143	第173图	SR210 出土遺物実測図⑭	191
第126图	SE337 出土遺物実測図	144	第174图	SR210 出土遺物実測図⑮	192
第127图	SE345 出土遺物実測図	145	第175图	SR210 出土遺物実測図⑯	193
第128图	SE357 出土遺物実測図	146	第176图	SR210 出土遺物実測図⑰	194
第129图	SE358 出土遺物実測図	147	第177图	SR210 出土遺物実測図⑱	195
第130图	SD21 · 28 · 39 出土遺物実測図	148	第178图	SR210 出土遺物実測図⑲	196
第131图	SD4 出土遺物実測図①	149	第179图	SR210 出土遺物実測図⑳	197
第132图	SD4 出土遺物実測図②	150	第180图	SR210 出土遺物実測図㉑	198
第133图	SD4 出土遺物実測図③	151	第181图	SR210 出土遺物実測図㉒	199
第134图	SD4 出土遺物実測図④	152	第182图	SR210 出土遺物実測図㉓	200
第135图	SX318 · 419 出土遺物実測図	153	第183图	SR210 出土遺物実測図㉔	201
第136图	SB491, SK10 · 22 · 43 出土遺物実測図	154	第184图	SR210 出土遺物実測図㉕	202
第137图	SK220 出土遺物実測図	155	第185图	SR210 出土遺物実測図㉖	203
第138图	SK367 出土遺物実測図	156	第186图	SR210 出土遺物実測図㉗	204
			第187图	柱穴 出土遺物実測図	205
			第188图	包含層 出土遺物実測図①	206

第189図	包含層 出土遺物実測図②	207
第190図	包含層 出土遺物実測図③	208
VI 結語		
第191図	遺構の変遷①	274
第192図	遺構の変遷②	275
第193図	後期前半弥生土器分類(案)①	277
第194図	後期前半弥生土器分類(案)②	278
第195図	後期前半弥生土器分類(案)③	279

第196図	後期前半弥生土器統計結果①	281
第197図	後期前半弥生土器統計結果②	282
第198図	斎串型式分類(案)	284
第199図	S R 210祭祀木製品出土状況	285
第200図	祭祀木製品統計結果	286
第201図	杉垣内遺跡祭祀木製品統計結果	287

付図 堀町遺跡遺構平面図

写真図版目次

銅鐸形土製品	巻頭図版
調査前風景	289
第1次調査区空中写真	289
第2次調査区空中写真	289
第3次調査区空中写真	289
S B 2 5 7 ・ 2 5 8	290
S B 4 8 0	290
S K 1 5	290
S K 3 4 0	290
S K 3 1 出土状況	291
S K 3 1 銅鐸形土製品出土状況	291
S K 3 0 5 出土状況	291
S K 3 0 5 槽出土状況	291
S K 3 2 6 出土状況	292
S K 3 2 6	292
S K 3 5 9 出土状況	292
S K 4 1 0 出土状況	292
S K 4 2 0 出土状況	293
S K 4 2 1 出土状況	293
S K 4 2 6 出土状況	293
S K 4 2 6 土器集中地点	293
S E 3 2 7 上層出土状況	294
S E 3 2 7 下層出土状況	294
S E 3 2 7 集水遺構出土状況	294
S E 3 2 7 袋状土製品出土状況	294
S D 3 0 3 土器集中状況	295
S D 3 0 3 出土状況	295
S D 3 0 3 土層断面	295
S Z 3 9 9	295
S K 8 出土状況	296
S K 8 竪櫛出土状況	296
S B 4 9 2	296
S B 4 9 2 柱穴出土状況	296
S B 4 8 9	297
S K 4 8 ・ 5 1	297
S E 3 7 出土状況	297
S E 3 6 2 出土状況	297
S E 3 7 0 出土状況	298
S B 3 5	298

S B 3 8 4	298
S B 3 8 5 ~ 3 9 5	298
S B 4 8 8	299
S B 4 8 8 柱穴出土状況	299
S B 4 9 0	299
S B 4 9 0 柱穴出土状況	299
S K 6 出土状況	300
S E 2 1 8 出土状況	300
S E 3 2 3 出土状況	300
S E 4 5 1	300
S X 4 1 9	301
S K 2 2 3 出土状況	301
S E 4 6	301
S E 4 6 調査状況	301
S E 2 0 7	302
S Z 2 2 7	302
S R 2 1 0	302
S R 2 1 0 斎串出土状況	302
遺物写真1	303
遺物写真2	304
遺物写真3	305
遺物写真4	306
遺物写真5	307
遺物写真6	308
遺物写真7	309
遺物写真8	310
遺物写真9	311
遺物写真10	312
遺物写真11	313
遺物写真12	314
遺物写真13	315
遺物写真14	316
遺物写真15	317
遺物写真16	318
遺物写真17	319
遺物写真18	320
遺物写真19	321
遺物写真20	322
遺物写真21	323

遺物写真22	324
遺物写真23	325
遺物写真24	326
遺物写真25	327
遺物写真26	328
第1次調査 木材・炭化材1	329
第1次調査 木材・炭化材2	330

第1次調査 木材・炭化材3	331
第1次調査 木材・炭化材4	332
第1次調査 木材・炭化材5,種実遺体	333
第2次調査 木材	334
第1～3次調査 種実遺体	335
第1・3次調査 木材	336

表 目 次

I 前言

第1表 遺跡概況	3
第2表 現地説明会一覧表	5
第3表 松阪・多気バイパス調査経過表	5
第4表 発掘調査遺跡一覧	7

III 遺構

第5表 遺構一覧表①	66
第6表 遺構一覧表②	67
第7表 遺構一覧表③	68
第8表 遺構一覧表④	69
第9表 遺構一覧表⑤	70
第10表 遺構一覧表⑥	71
第11表 遺構一覧表⑦	72
第12表 遺構一覧表⑧	73
第13表 遺構一覧表⑨	74
第14表 遺構番号対照表①	75
第15表 遺構番号対照表②	76

IV 遺物

第16表 遺物観察表①	209
第17表 遺物観察表②	210
第18表 遺物観察表③	211
第19表 遺物観察表④	212
第20表 遺物観察表⑤	213
第21表 遺物観察表⑥	214
第22表 遺物観察表⑦	215
第23表 遺物観察表⑧	216
第24表 遺物観察表⑨	217
第25表 遺物観察表⑩	218
第26表 遺物観察表⑪	219
第27表 遺物観察表⑫	220
第28表 遺物観察表⑬	221
第29表 遺物観察表⑭	222
第30表 遺物観察表⑮	223
第31表 遺物観察表⑯	224
第32表 遺物観察表⑰	225
第33表 遺物観察表⑱	226
第34表 遺物観察表⑲	227
第35表 遺物観察表⑳	228
第36表 遺物観察表㉑	229

第37表 遺物観察表㉒	230
第38表 遺物観察表㉓	231
第39表 遺物観察表㉔	232
第40表 遺物観察表㉕	233
第41表 遺物観察表㉖	234
第42表 遺物観察表㉗	235
第43表 遺物観察表㉘	236
第44表 遺物観察表㉙	237
第45表 遺物観察表㉚	238
第46表 遺物観察表㉛	239
第47表 遺物観察表㉜	240
第48表 遺物観察表㉝	241
第49表 遺物観察表㉞	242
第50表 遺物観察表㉟	243
第51表 遺物観察表㊱	244
第52表 遺物観察表㊲	245
第53表 遺物観察表㊳	246
第54表 遺物観察表㊴	247
第55表 遺物観察表㊵	248
第56表 遺物観察表㊶	249
第57表 遺物観察表㊷	250
第58表 遺物観察表㊸	251
第59表 遺物観察表㊹	252
第60表 遺物観察表㊺	253
第61表 遺物観察表㊻	254
第62表 遺物観察表㊼	255
第63表 遺物観察表㊽	256
第64表 遺物観察表㊾	257
第65表 遺物観察表㊿	258
第66表 遺物観察表①	259
第67表 遺物観察表②	260

V 自然科学分析

第68表 樹種同定結果①	263
第69表 時代別・用途別樹種構成	264
第70表 種実同定結果①	265
第71表 樹種同定結果②	267
第72表 種実同定結果②	271
第73表 種実同定結果③	272
第74表 樹種同定結果③	272

I 前 言

1 はじめに

一般国道42号は和歌山県和歌山市を起点とし、三重県津市に至る幹線道路である。東紀州方面から松阪市への入口の櫛田川に架かる両郡橋付近は、道路幅員が狭いため慢性的な交通渋滞に悩まされてきた。また、松阪市内の幹線道路も市街地に集中しているため、交通渋滞が繰り返されており、交通環境の悪化が懸念されていた。これらの状況を打開する方策として、多気郡多気町仁田から松阪市古井町に至る延長11.9kmの、周辺の地域活性化も視野に入れた一般国道42号松阪・多気バイパスが計画されたのである。堀町遺跡はその計画の第12工区内にある。なお、松阪・多気バイパス建設事業の全体についての調査に至る経過等については、第I分冊に詳しいのでご参照願いたい。

2 調査の体制

調査の体制については、いわゆる三者体制を当該事業では採り入れた。三重県教育委員会は建設省と調査に関する委託契約を結ぶ一方、建設省は外郭団体である(社)中部建設協会と現場作業に係る作業員の任用や労務管理、各種機材の手配等といった土工部門に關した委託契約を結ぶ。そして、この三者間の協力関係を明らかにするため三者で協定を結ぶことで、当該事業を推進しようという方法である。詳細については、第I分冊に譲りたい。

また、平成5年～9年度には「県教育委員会・市町村教育委員会職員人事交流実施要綱」に基づいて、松阪市および多気町の両教育委員会から各1名、計2名の職員の派遣を得て調査体制を強化、充実させた。以下は、堀町遺跡に關わった調査体制及び整理体制である。

[平成5年度]

所長 久保富子

次長 若林祥男、山澤義貴
主幹兼調査第2課長 伊藤克幸
主査 倉田直純
第2係長 田村陽一
主事 東 良樹、宇河雅之
西村修久(多気町より派遣)
小濱 学(松阪市より派遣)
総務課長 小柳 清
主事 伊藤直樹、寺前秀紀

[平成6年度]

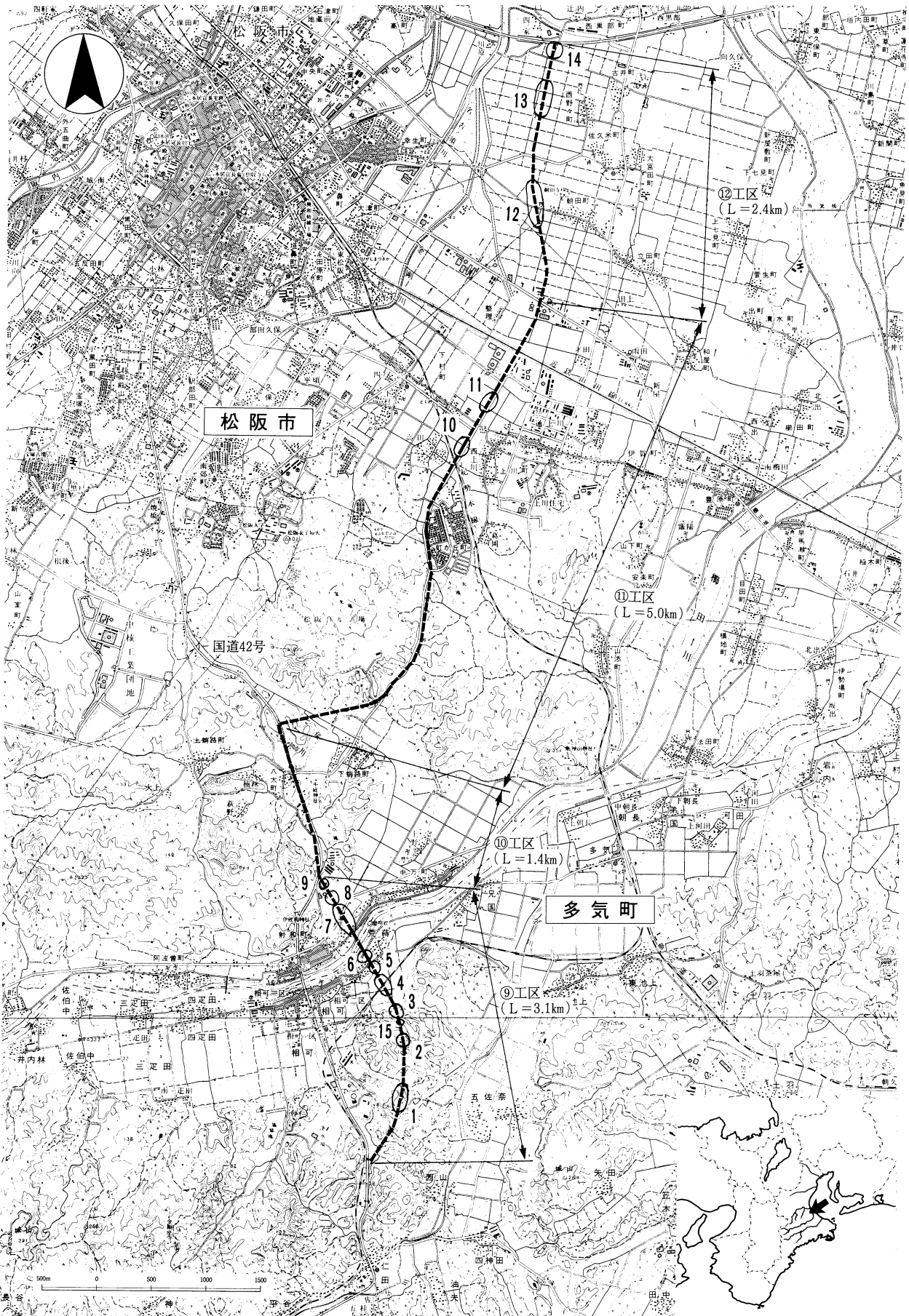
所長 川村政敬
次長 若林祥男、山澤義貴
主幹兼調査第2課長 伊藤克幸
主査兼第2係長 田村陽一
主事 下平康弘、東 良樹
西村修久(多気町より派遣)
小濱 学(松阪市より派遣)
総務課長 小柳 清
主事 伊藤直樹、橋川 功

[平成7年度]

所長 川村政敬
次長 田中 守、山澤義貴
主幹兼調査第2課長 伊藤克幸
主査兼第2係長 田村陽一
主事 下平康弘、松本美先、小林 秀
西村修久(多気町より派遣)
小濱 学(松阪市より派遣)
総務課長 中西勝之
主事 伊藤直樹、橋川 功

[平成8年度]

所長 奥村敏夫
次長 田中 守、山澤義貴
主幹兼調査第2課長 山田 猛
第2係長 森川常厚
主事 松本美先、小濱 学
兼古 慎(松阪市より派遣)
小山憲一(多気町より派遣)



第1図 路線、工区、遺跡位置図 (1 : 50,000) (国土地理院 松阪・国東山 1 : 25,000)

番号	遺跡名	所在地	確認面積 (㎡)	現状	種類	時代	概要	工区
1	明気窯跡群	多気町相可字明気	2,000	山林	散布地 窯跡	古墳	平成4～5年度調査。須恵器窯5基、竪穴住居等を確認。	9 工 区
2	明気古墳群	多気町相可字明気	900	山林	古墳	古墳	平成3年度多気町教委試掘で7号墳確認。協議の結果、多気町教委が調査を実施。	
3	甘糟遺跡	多気町荒蒔字甘糟	2,650	畑	散布地 水田	中世	平成3年度試掘調査実施。後世の開墾等で削平され本調査除外地となる。	
4	巢護遺跡 (多気条里)	多気町荒蒔字巢護ほか	7,500	水田	散布地 条里	古墳 ～中世	平成5年度調査。明確な条里遺構は確認できず。前方後方型周溝墓を検出したほか、石帯出土。	
5	上ノ垣外遺跡	多気町荒蒔字上ノ垣外	6,000	畑 水田	散布地 集落跡	縄文 古墳 ～中世	平成5年度第1次、6年度第2次調査実施。縄文～中世の遺構・遺物。	
	梅ノ世古遺跡	多気町相可字梅ノ世古		宅地	散布地	中世	上ノ垣外遺跡3次調査として平成8年度に実施。弥生～古墳・平安・室町時代の遺物が出土。	
6	新徳寺遺跡	多気町相可字新徳寺	2,400	畑 水田	散布地	縄文	平成6年度第1次、平成8年度第2次調査。縄文時代後期前葉の竪穴住居や土坑を多数確認。	
7	鴻ノ木遺跡	松阪市射和町字鴻ノ木・水引場・久保田ほか	11,200	水田 宅地	集落跡	縄文 弥生 ～中世	平成2～6年度調査。縄文時代早期、弥生、奈良～平安時代の集落跡、墓跡等を確認。	
8	朱中遺跡	松阪市射和町字朱中	5,200	水田	集落跡	縄文 古墳 ～中世	平成3年度調査。奈良～平安時代の集落跡確認。	
9	朱中古墳	松阪市射和町字朱中	400	山林	古墳	古墳	平成2年度試掘調査実施。後世の開墾等により墳形等不明。須恵器樽形罎、壺片、円筒埴輪片出土。	
10	中野前遺跡 (石津)	松阪市下村町字石津	4,200	水田	散布地	中世	平成6年度試掘調査実施。遺構は確認できず、遺物は客土からのため、本調査にいたらず。	
11	甘子遺跡 (東牛込)	松阪市上川町字甘子	3,700	水田	散布地	中世	平成7年度調査。ほ場整備時に削平を受け、遺構の残存わずか。	
	北上遺跡	松阪市上川町字北上		水田	散布地	古墳 ～奈良	古代官道の検出を目的に平成7年度確認調査。官道は検出できず。古墳～奈良の自然流水路検出。	
12	堀町遺跡	松阪市朝田町字堀町ほか	14,300	水田	散布地	弥生 ～中世	平成6～9年調査。弥生～室町時代の遺構を多数確認。同時代の土器・銅鐸形土製品・斎串出土。	
13	御堂山遺跡	松阪市西野々町字御堂山	8,100	水田	散布地	奈良 ～中世	平成4年度試掘調査実施。遺構・遺物ともに確認できず、本調査除外地となる。	
14	山ノ花遺跡	松阪市古井町字山ノ花	4,100	水田	散布地	中世	平成7年度調査。中世の遺構をわずかに検出。遺跡の周辺部と判断。	
15	大日山古墳群	多気町荒蒔字大日山	600	山林	古墳	古墳	平成5年度工事中発見。直径約20m、高さ約2mの円墳。主体部なし。他に丘陵斜面に主体部2基。	

第1表 遺跡概況

総務課長 広瀬雅晴
主事 尾崎嘉春、橋川 功

[平成9年度]

所長 奥村敏夫
次長 中口 孝、山澤義貴
主幹兼調査第2課長 山田 猛
第2係長 森川常厚
主事 小濱 学
兼古 慎 (松阪市より派遣)
小山憲一 (多気町より派遣)

総務課長 広瀬雅晴
主事 尾崎嘉春、橋川 功

[平成10年度]

所長 大井與生
次長兼総務GL 三井利男
次長兼資料普及GL 山澤義貴
主幹兼調査第2課長 吉水康夫
第2係長 筒井正明
主事 小濱 学、小山憲一
総務G主幹 広瀬雅晴
主事 尾崎嘉春、長谷川 登

[平成11年度]

所長 大井與生
次長兼総務GL 三井利男
次長兼資料普及GL 山澤義貴
主幹兼調査第2課長 吉水康夫
第2係長 筒井正明
主事 小濱 学、小山憲一
総務G主幹 広瀬雅晴
主事 尾崎嘉春、長谷川 登

*Gはグループ、GLはグループリーダーを指す

以上のほか、各種調査記録類の整理や出土遺物の整理、実測などで以下の方々の補助を得た。

調査補助作業員

奥 明子 (松阪女子高校) 加藤里江 (皇學館大学)
瀬野弥知世 (皇學館大学) 河角龍典 (立命館大学)
高谷典子 (松阪女子高校) 塚田幸子 (皇學館大学)
松井理栄子 (橘女子大学) 中島沙恵 (佛教大学)

業務補助員

北川ゆき 白石みよ子 中里輝子 瀬野弥知世
中村敬子 服部美奈子 広瀬則代 谷久保美知代

廣田洋子 山路艶子 山分孝子 脇葉輝美

3 調査の方法

地区割については、4m方眼で設定しており、適切な道路中心杭2点を結ぶ延長方向に、北から南へ数字を、これと直行する方向には西から東へアルファベットを与え、各地区の北西杭をその地区の名称とした。

遺構カードは原則として4m×4mの地区ごとに作成する。略図は遺構検出後、掘り下げまでに記入することとし、遺構の重複関係、埋土の色調・状態等を明示することにした。遺構番号は通し番号を付け、ピットについては各グリッドごとに通し番号を付した。また、遺構の検討や遺物の整理等のため、遺構カードをもとに、100分の1の遺構略測図も作成した。

遺構等の写真撮影は、原則として6×7cm版(モノクロ、カラーポジ)を使用した。この他全景や特殊遺構などについては4×5インチ版(モノクロ、カラーポジ)、報道依頼関係に使用するカラーネガ(35ミリ版)も必要に応じて使用した。

使用したカメラは、アサヒペンタックス6×7、ニコンF301、ウイスタSP(4×5インチ版)、マミヤRZ67である。

遺構実測については、国土座標に基づいておこなった。当地域は第VI座標系に属する。現地調査期間の短縮のため、空中写真測量を原則としつつ、1:20手書き実測も一部実施した。また、各遺構の遺物出土状況図など詳細な実測図は、全て1:10手書き実測を行った。

4 調査の経過

堀町遺跡の現地発掘調査については、平成5年度に範囲確認調査を実施し、本調査面積9,700㎡を確定した。本調査が進むにつれて、当初の範囲確認の結果よりも遺跡範囲が広がる可能性が出てきた。そのため、平成8年度に現地調査の合間をぬって、再度範囲確認調査を行った。その結果を受け、本調査面積を14,300㎡に変更した。範囲確認調査の限界と

〔平成5年度〕

新徳寺・堀町遺跡の範囲確認調査2件計452㎡、明気窯跡群・巢護・上ノ垣外・鴻ノ木遺跡の本調査4件計11,450㎡を行い、上ノ垣外遺跡で112㎡、鴻ノ木遺跡で2,200㎡の下層調査を追加している。また、大日山2号墳を伐採工事中に発見し、協議の結果、平成6年度に調査を実施することになった。

また、報告書作成業務を開始し、明気窯跡群、甘糟・巢護遺跡の遺物整理作業を行った。

なお、バイパスの工事計画や用地買収の進展などから建設省との二者協定や（社）中部建設協会との三者協定の変更の必要がでてきた。協議の結果、協定の変更を実施することになった。

〔平成6年度〕

中野前・甘チ・山ノ花遺跡の範囲確認調査3件計496㎡、大日山古墳群・上ノ垣外・新徳寺・鴻ノ木・朱中・堀町遺跡の本調査6件計9,450㎡を行い、上ノ垣外遺跡で64㎡、新徳寺遺跡で333㎡の下層調査を追加している。堀町遺跡は第1次調査を行い、弥生時代後期の銅鐸形土製品が出土し注目を浴びた。報告書作成業務は、『一般国道松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰ』を刊行し、上ノ垣外・新徳寺・朱中遺跡、朱中古墳群の遺物整理作業を行った。

〔平成7年度〕

榎ノ世古・新徳寺遺跡の範囲確認調査2件計96㎡、甘チ・山ノ花・堀町遺跡の本調査3件の計6,000㎡を行い、甘チ遺跡の調査の際に、古道確認の目的で、北上遺跡のトレンチ調査を行っている。堀町遺跡については、第2次調査を行い大量の斎串が出土した旧河道等を確認し、調査区より遺跡が広がることが判明したため、平成8年度に再度範囲確認調査を行うこととなった。報告書作成業務は、『一般国道松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告Ⅱ、Ⅴ』を刊行し、中野前・甘チ・北上・御堂山・山ノ花・鴻ノ木遺跡の遺物整理作業を行った。

〔平成8年度〕

堀町遺跡の範囲確認調査1件270㎡、榎ノ世古・新徳寺・堀町遺跡の本調査3件の計4,150㎡の調査を実施した。堀町遺跡の範囲確認調査では、新たに3,500㎡の調査が必要となり、平成9年度に第4次

調査として行うこととなった。堀町遺跡は、第3次調査を行い弥生時代後期の環濠等を確認し、環濠集落であることが判明した。報告書作成業務については、『一般国道松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告Ⅲ、Ⅵ』を刊行し、鴻ノ木遺跡の遺物整理作業を行った。

また、第9工区の工事進展に伴い、整理所の移転が必要となった。そこで、第10工区内の松阪市上川町に6月に移転し、平成10年の業務終了まで発掘調査や遺物整理の基地とした。

〔平成9年度〕

現地調査の最終年度にあたり、堀町遺跡（3,500㎡）の発掘調査1件のみである。報告書作成業務では、鴻ノ木遺跡の報告書作成と堀町遺跡の遺物整理作業を行った。なお、鴻ノ木遺跡の報告書は、業務量過多のため、平成10年度刊行とした。

〔平成10年度〕

報告書作成業務のみ行った。鴻ノ木遺跡の報告書を刊行し、堀町遺跡の報告書作成と遺物整理作業を行った。なお、堀町遺跡の報告書は、業務量過多のため、平成11年度刊行とした。

〔平成11年度〕

堀町遺跡の報告書の刊行。 （小濱 学）

番号	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積(m ²)	担当者
1	みょうげ 明気窯跡群	多気町相可字明気	平成4(1992)年8月28日～9月30日(試掘)	530	田村陽一・宇河雅之
			平成4(1992)年10月18日～平成5(1993)年2月28日 平成5(1993)年4月19日～10月29日 *平成4年6月17日～6月25日予備調査(磁気探査)	1,500 1,400 計 3,430	
2	みょうげ 明気古墳群	多気町相可字明気		—	多気町教育委員会
3	あまかす 甘糟遺跡	多気町荒蒔字甘糟	平成3(1991)年8月26日～10月11日(試掘)	144 計 144	田中喜久雄・野原宏司
4	すご 巢護遺跡	多気町荒蒔字巢護	平成3(1991)年8月26日～10月11日(試掘)	908	田中喜久雄・野原宏司 西村修久・東良樹
			平成5(1993)年8月23日～平成6(1994)年1月27日 *遺跡名を変更、旧遺跡名は【多気郡条里遺構】	2,300 計 3,208	
5	うえのがいと 上ノ垣外遺跡	多気町荒蒔字上ノ垣外 ほか	平成2(1990)年7月23日～9月12日(試掘)	68	河瀬信幸 田村陽一・宇河雅之 西村修久 東良樹・下平康弘
			平成5(1993)年1月28日～2月1日(試掘) 平成5(1993)年8月23日～平成6(1994)年1月27日 平成6(1994)年4月18日～8月31日	96 1,950 3,050	
9	とがのせこ 梅ノ世古遺跡	多気町相可字梅ノ世古	平成8(1996)年2月6日(試掘)	48	田村陽一・松本美先 松本美先・小山憲一
			平成8(1996)年4月11日～5月10日 *遺跡名を変更、旧遺跡名は【上ノ垣外遺跡3次調査】	50 計 5,262	
6	しんたくじ 新徳寺遺跡	多気町相可字新徳寺	平成5(1993)年7月9日～7月12日(試掘)	96	宇河雅之 小濱学・西村修久 田村陽一・松本美先 松本美先・小山憲一
			平成6(1994)年5月23日～8月24日 平成8(1996)年2月6日(試掘) 平成8(1996)年4月11日～6月27日	1,100 48 500 計 1,744	
7	こうのみ 鴻ノ木遺跡	松阪市射和町字鴻ノ 木・水引場・久保田ほか	平成2(1990)年7月23日～9月12日(試掘)	272	河瀬信幸 河瀬信幸・小林秀 田中喜久雄・野原宏司 宇河雅之・田村陽一 東良樹・小濱学 小濱学・田村陽一 下平康弘
			平成2(1990)年10月11日～平成3(1991)年3月19日 平成3(1991)年4月23日～5月31日 平成4(1992)年5月11日～8月31日 平成5(1993)年4月19日～8月29日 平成5(1993)年8月23日～平成6(1994)年3月31日 平成6(1994)年8月23日～平成7(1995)年1月25日	1,500 460 3,500 3,600 2,200 1,300 計 12,832	
8	しゆなか 朱中遺跡	松阪市射和町字朱中	平成2(1990)年7月23日～9月12日(試掘) 平成3(1991)年6月1日～8月24日 平成3(1991)年10月14日～平成4(1992)年3月13日 平成6(1994)年9月5日～9月22日	184 2,300 2,500 400 計 5,384	*850 *900 *900
9	しゆなか 朱中古墳	松阪市射和町字朱中	平成2(1990)年7月23日～9月12日(試掘) 平成5(1993)年6月25日～8月20日	98 1,000 計 1,098	河瀬信幸 西村修久
10	なかのまえ 中野前遺跡	松阪市上川町字中野 前・八王子	平成6(1994)年9月26日～10月5日(試掘) *遺跡名を変更、旧遺跡名は【石津遺跡】	176 計 176	東良樹
11	はたち 廿子遺跡	松阪市上川町字廿子 ほか	平成6(1994)年10月6日～10月14日(試掘) *遺跡名を変更、旧遺跡名は【東牛込遺跡】	144	東良樹 下平康弘・小林秀
			平成7(1995)年6月7日～7月19日 (範囲確認)	1,600 計 1,744	
12	ほりまち 堀町遺跡	松阪市朝田町字堀町・ 斎宮ほか	平成5(1993)年7月19日～7月23日(試掘)	356	宇河雅之 小濱学 小濱学・松本美先 小濱学・兼古慎 小濱学・兼古慎 小濱学・兼古慎
			平成6(1994)年8月26日～平成7(1995)年2月20日 平成7(1995)年8月7日～平成8(1996)年1月24日 平成8(1996)年7月15日・8月19日～21日(試掘) 平成8(1996)年7月15日～平成9(1997)年1月31日 平成9(1997)年5月6日～平成9(1997)年12月10日	3,000 3,100 270 4,700 3,500 計 14,926	
13	みどうやま 御堂山遺跡	松阪市西野々町字御 堂山	平成5(1993)年1月26日～1月27日(試掘)	224 計 224	宇河雅之
14	やまのはな 山ノ花遺跡	松阪市古井町字山ノ花	平成6(1994)年10月17日～10月20日(試掘)	176	東良樹 松本美先・西村修久
			平成7(1995)年5月10日～5月26日	1,300 計 1,476	
15	だいいちやま 大日山古墳群	多気町荒蒔字大日山	平成6(1994)年4月7日～6月10日	600 計 600	西村修久・小濱学

第4表 発掘調査遺跡一覧

Ⅱ 位置と歴史的環境

松阪市は、南北に細長い三重県のほぼ中央に位置している。北は伊勢湾及び一志郡三雲町、南は多気郡多気町・勢和村、東は多気郡明和町、西は一志郡嬉野町及び飯南郡飯南町に接している。

市内には複数の河川が流入しているが、そのなかでも櫛田川は最大規模を誇っている。櫛田川は、紀伊山地に源を發し中央構造線に沿って東流するが、松阪市南部の丘陵地帯から平野に出るあたりで北方に向きを変え、伊勢湾に注ぐ総延長約84kmの三重県を代表する大河川である。この屈曲点から分流し、本流の東側を北流する祓川が本来の河道とされるが、乱流を繰り返し、11世紀後半の大洪水により現流路に移行したものと考えられている。この乱流の結果、松阪市東部には堀町遺跡(12)も立地する広大な沖積平野が形成された。

この沖積平野は櫛田川低地と呼ばれており、櫛田川、祓川などによってつくられた氾濫平野とその前面の三角州と海岸平野及び干拓地を含んだ地域を指す。氾濫平野については砂質土壌からなる扇状地性の平野、三角州についてはシルト・粘土からなり低湿、海岸平野については砂堆と一般面からなること、干拓地については強グライ質の細砂からなり低湿であるという特徴がそれぞれみられるということである。

櫛田川低地を含む沖積平野及び周辺の丘陵部分には、多くの遺跡が存在する。ここでは、堀町遺跡が存続した時期である弥生時代以降について概観したい。

沖積平野を望む周辺の低位丘陵には、弥生から古墳時代にかけての有力な遺跡が存在する。草山遺跡(5)は発掘調査の結果、竪穴住居や方形周溝墓が多数検出され、弥生時代後期の集落であることが判明した。杉垣外遺跡(20)は弥生時代後期の環濠の存在が認められ、堀町遺跡から西へ1.8 kmと指呼の位置関係である。また、同じ弥生時代後期で出土遺物から杉垣外遺跡、堀町遺跡よりは若干新しい時期と考えられる阿形遺跡も環濠が認められた遺跡である。

また、堀町遺跡から東へ約2.3 kmには、前方後方型周溝墓を多数確認した瀬干遺跡(21)があり、拠点集落の存在を窺わせる。古地図により直径55mの周溝を伴う円墳であったことがわかる茶臼山古墳(7)、それと同様な規模で残存する久保古墳(4)は、4世紀後半頃の築造と考えられる大型墳である。前者からは内行花文鏡、後者から三角縁神獸鏡のいずれも舶載鏡の出土が伝えられている^②。5世紀代の築造では、全長95mを測り、伊勢国最大の前方後円墳である宝塚1号墳(1)、全長72mの造出し付き円墳の2号墳(2)があり、強大な権力者の存在を明示している。

遺跡は沖積平野にも広がり、弥生時代中期の涌早崎遺跡(6)、後期の堀町遺跡(12)の両者から、近年の発掘調査で銅鐸形土製品が出土した^③。銅鐸を模倣した遺物としては、前述した草山遺跡からも銅鐸形銅製品が出土している^④。西山遺跡(15)では、古墳時代後期の竪穴住居が検出され、全長45mの前方後円墳に推定される大塚山古墳を中心とする佐久米古墳群(8)は、出土遺物から5世紀後半に築造されたものと考えられる^⑤。このように、河川の氾濫が相継いだと思われる沖積平野にも、弥生時代以来人々は拠点を構えていたようである。

山ノ花遺跡(14)、御堂山遺跡(13)、廿子遺跡(11)、北上遺跡(9)は、いずれも沖積平野に、中野前遺跡(10)は低位丘陵から緩やかに傾斜する扇状地の先端部に位置している。これらの遺跡の周囲は、「和名抄」に記載のある飯野郡黒部郷、長田郷、神戸郷に比定されている。古代官道は、現在の駅部田町(3)から早馬瀬町(18)へまっすぐ延びていた^⑥と推定されており、両町の名は、それに関連するものと考えられる。都と齋宮・伊勢神宮、あるいは志摩方面を結ぶ交通路で、齋王群行等、盛んな往来があったものと思われる。

伊勢神宮の勢力は、中世にはいっても無視できず、西黒部町には黒部御厨が設置された。しかし、北畠氏が徐々に支配を強化し戦国大名化するにつれて、

神宮の力は後退する。西黒部町周辺は、中世後期には北畠氏の支配下にあり、塩業を行っていたことが古文書に記されている^⑧。そしてそれを裏付けるかのように、同町の池ノ上遺跡(16)、小狐遺跡(17)からは、周囲に粘土を貼りつけたかん水槽をはじめとする製塩遺構が検出されている^⑨。

その北畠氏も織田氏に支配され、蒲生氏郷により松坂城(19)やそれに伴う城下町が建設され、三井家をはじめとする松坂商人が活躍することになる。そしてこの伝統は現在に受け継がれ、松阪市は人口10万人をこえる商都として繁栄しているのである。

(森川常厚・小濱 学)

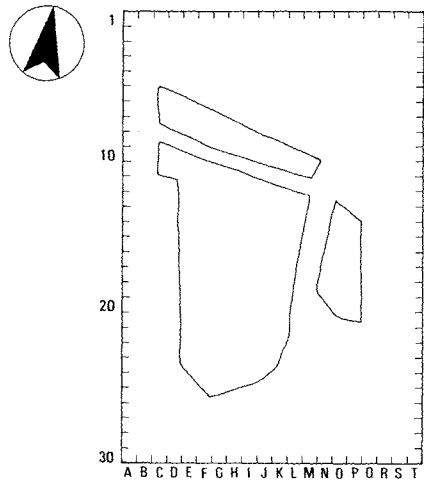
〔註〕

- ① 松阪市教育委員会『草山遺跡発掘調査月報』(1982～1985年)。
- ② 西山克・久松倫生・下村登良男「松阪市」『日本歴史地名大系24三重の地名』(1983年)。
- ③ 福田 昭『浦早崎遺跡発掘調査報告』(松阪市教育委員会、1992年)。
- ④ ①に同じ。

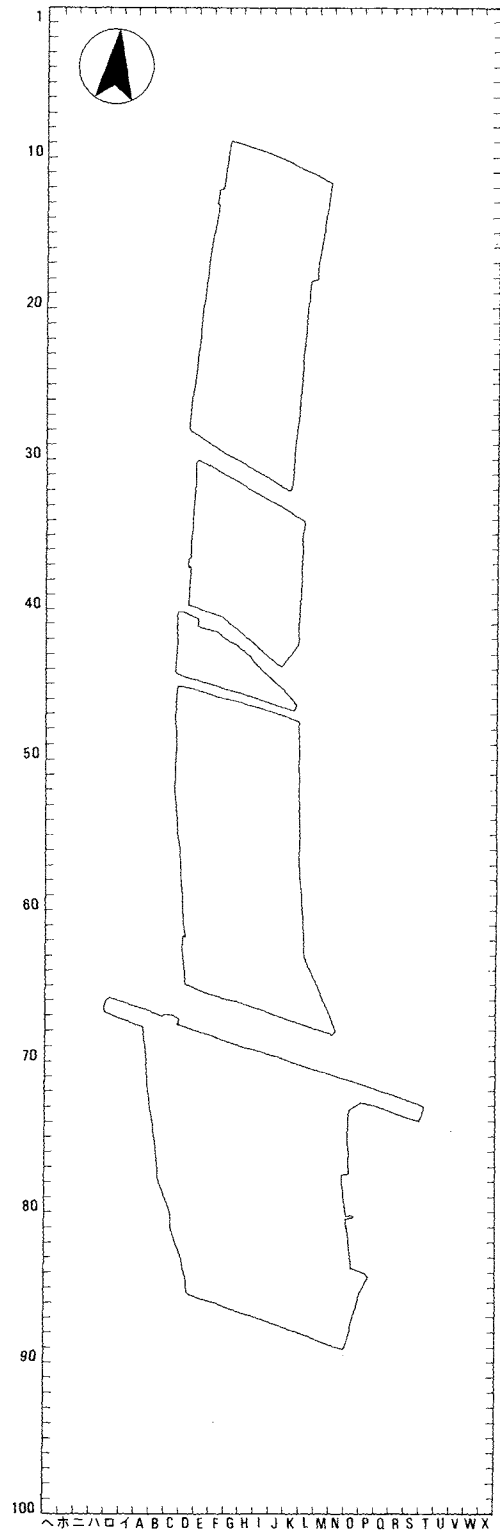
- ⑤ 三重県埋蔵文化財センター『三重県埋蔵文化財センター年報4』(1993年)。
- ⑥ ②に同じ。
- ⑦ 足利健亮「人から伊勢神宮への古代の道」『探訪古代の道第1巻』(1988年)。
- ⑧ ②に同じ。
- ⑨ ⑤に同じ。



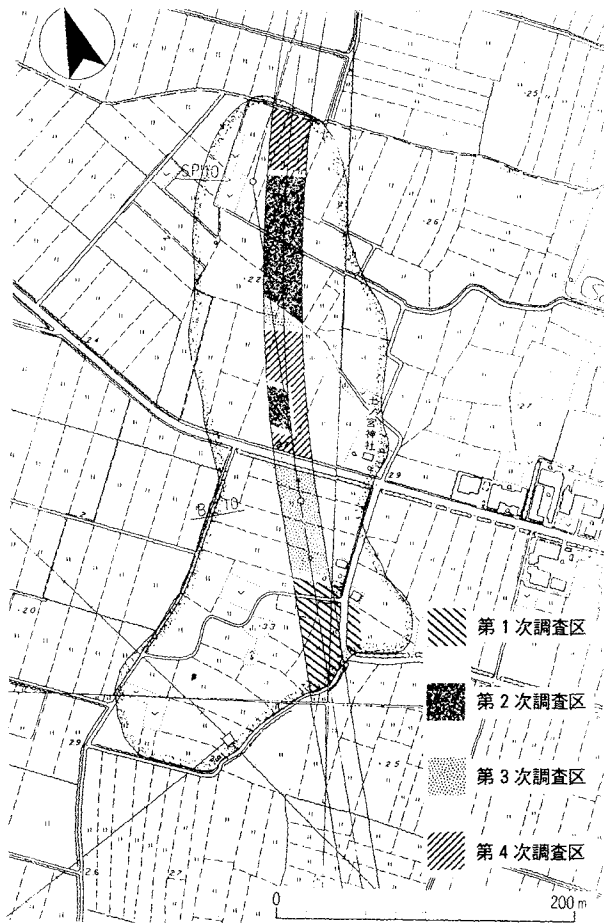
第2図 遺跡位置図 (1 : 50,000) (国土地理院・松阪港・松阪 1 : 25,000)



第3図 第1次調査区地区割図 (1 : 2,000)



第4図 第2～4次調査区地区割図 (1 : 2,000)



第5図 調査区位置図 (1 : 5,000)

Ⅲ 遺 構

1 基本層序

道路建設予定地の調査であるので、南北に細長い調査区となった。層序については、基本的上から現代の耕作土、床土、包含層、遺構検出面である。

遺跡の現況は、水田あるいは畑地である。耕作土と床土については遺跡全体に分布している。包含層については、遺跡全体にあるわけではない。包含層自体厚くても20cm程である。場所によっては、2層の包含層が存在する場合や、土色が違っている場合もある。黒色粘質土(10YR3/1)、黄灰色シルト(2.5Y4/1)、暗黄灰色粘質砂混土(2.5Y4/2)や、灰オリブ色シルト(5Y4/2)が包含層としてみられる。自然条件の違いや後世の改変などの影響がでたのだろうか。また、調査区によっては、包含層がなく耕作土、床土を除けばすぐ遺構検出面であることもある。このことは、耕地整理などにより、遺跡全体が削平されている可能性を示している。

遺構検出面については、全体的には、シルト質か、それに近い性質である。包含層と同様に、場所により土色の違いがある。暗オリブ色シルト(5Y4/3)、灰オリブ色砂(5Y5/2)、灰オリブ色シルト(7.5Y6/2)、黄灰色砂質粘土混土(2.5Y4/1)、灰色粘質砂混土(7.5Y6/1)、褐灰色シルト(10YR6/1)、灰白色礫(N8/0)、暗黄灰色粘質砂混土(2.5Y4/2)、黄灰色砂質粘土混土(2.5Y6/2)や灰白色砂質土(2.5Y7/1)がみられた。土色の違いは、場所よっての自然条件の違いや後世の改変などの影響がでたのだろうか。また、遺跡のほぼ中央の遺構検出面直下には、暗褐色粘質土(7.5YR3/3)の安定した土層が存在しており、水田などの遺構の存在を想定していたが、試掘の結果、遺構は存在しないことが判明した。

2 遺構

堀町遺跡は、第1次～第4次にわたり調査されて

いる。遺構番号については、調査時のものを生かすこととし、その番号の頭に整理の便宜上、第2次調査では2を、第3次調査では3を、第4次調査では4を冠するものとする(例：第2次調査のSE7はSE207となる)。なお、詳細については、第14・15表遺構番号対照表を参照されたい。井戸の部分名称や分類については、先行の研究を参考^①にしている。また、遺構数もかなりの数にのぼるため、主要な遺構については詳述するものとし、それ以外のものについては、遺構一覧表をご覧いただきたい。

弥生時代

掘立柱建物

S B 257 (第13図)

規模は梁行2間、桁行3間の東西棟建物である。棟方向についてはE11.0°Sである。柱穴は、0.25～0.43mの掘形があり、底部で0.05～0.1mの柱痕跡を検出した。遺構検出面での検出時には柱痕跡は確認できなかった。柱穴内の一つから中期末から後期にかけての口縁部片が出土しているが、環濠内に位置していることから考えて後期に属するものであろう。住居というよりは倉庫的なものと考えられる。

S B 258 (第13図)

梁行1間、桁行1間である。棟方向についてはN11.0°Eで、S B 257と揃っている。柱穴は、0.25～0.35mの掘形があり、底部で0.05～0.1mの柱痕跡を検出した。柱穴内からは出土遺物はなかった。棟方向が同一であることと環濠内に位置していることから考えて後期に属するものであろう。住居というよりは倉庫的なものであろう。

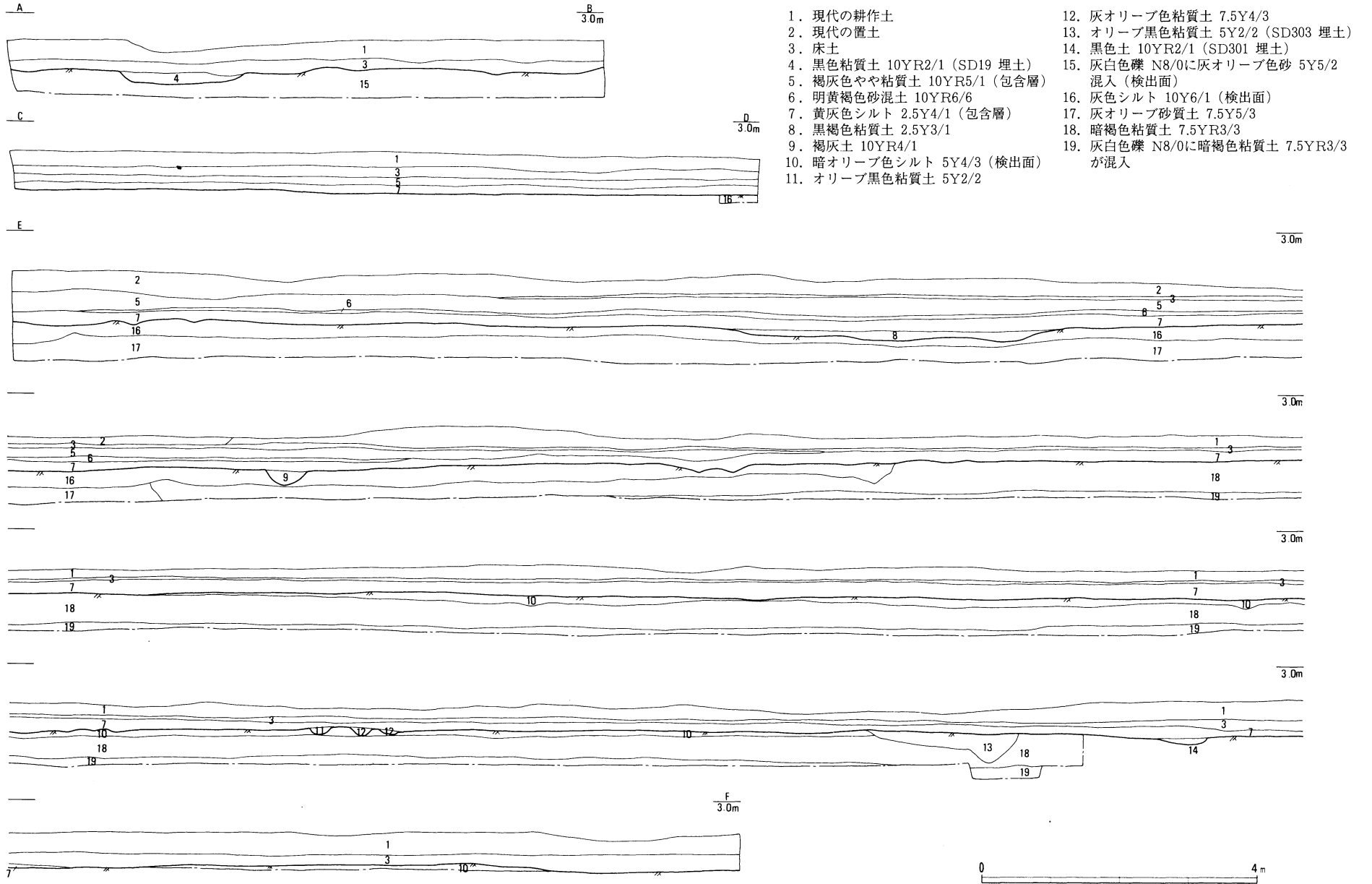
S B 374 (第13図)

梁行1間、桁行4間の南北棟建物である。棟方向についてはN34.0°EでS B 257・258とは若干違う。時期差があるのか。柱穴からの遺物の出土がないので判断に苦しむ。

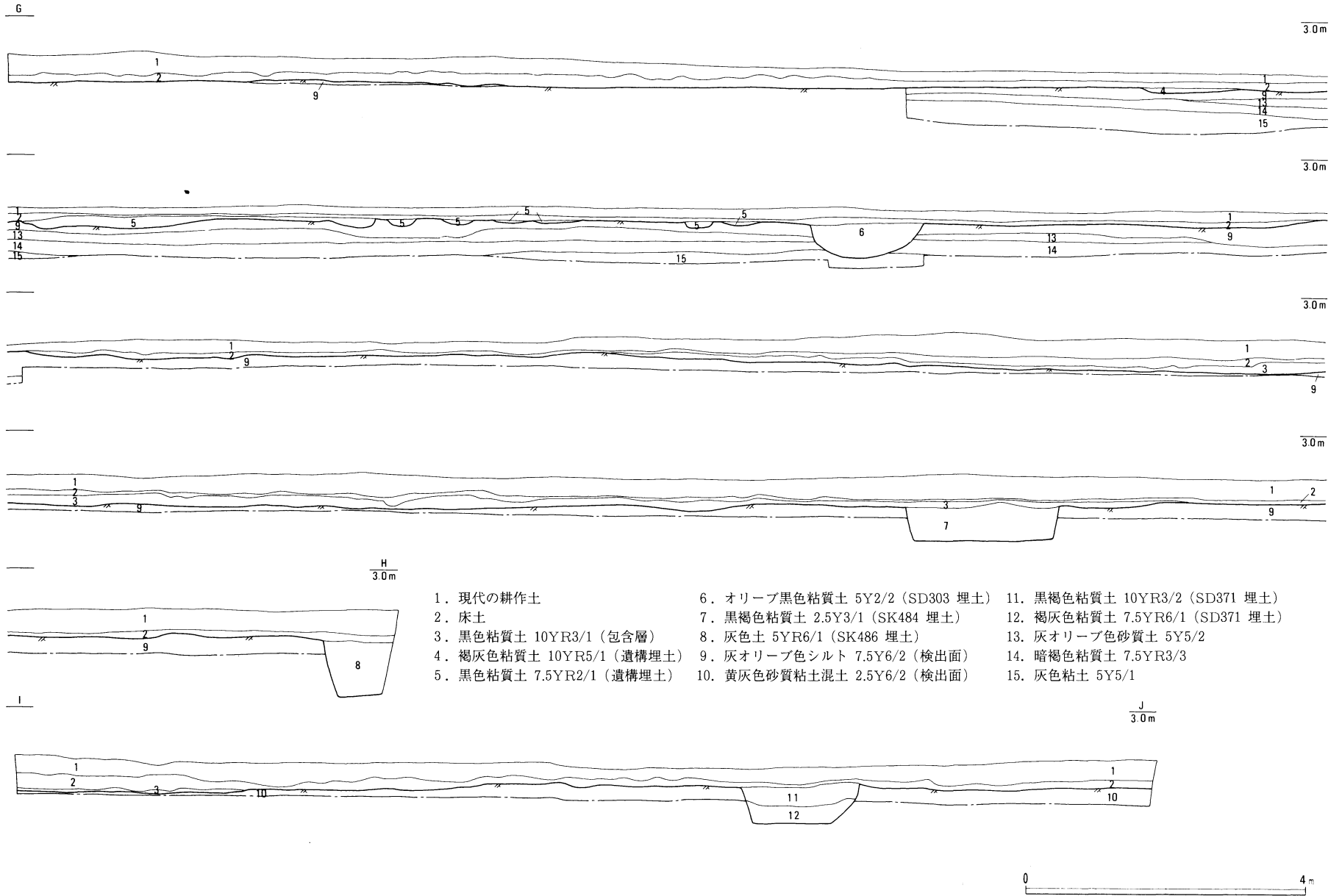
S B 487 (第13図)

梁行1間、桁行2間の東西棟建物である。棟方向

第6図 調査区西壁土層断面図① (1:80)



第7図 調査区西壁土層断面図② (1:80)



についてはE12.5° Sである。小規模でもあり、住居とは考えにくい。棟方向も他建物とは若干違う。柱穴からの遺物の出土もなかった。

土坑

SK1 (第14図)

平面形は不整形な楕円を呈している。長軸2.9m、短軸1.55m、深さ0.08~0.11mの浅い土坑である。埋土からは、弥生土器壺・高杯などが出土しているが、量としては少ない。後期に属するものであろう。

SK15 (第16図)

平面形は不整形楕円を呈し、長軸4.2m、短軸2.95m、深さ0.69~0.76mである。埋土は2層で上から、黄灰色砂質土、灰黄褐色粘質土である。遺物の出土量はそれほど多くなく、底部において、横斧などの木製品や弥生土器壺などが出土した。何らかの理由で投げ入れられたものと考えられる。祭祀が行われていた可能性もある。SK14、SE37とSB18の柱穴に切られている。後期に属すると考えられる。

SK29 (第15図)

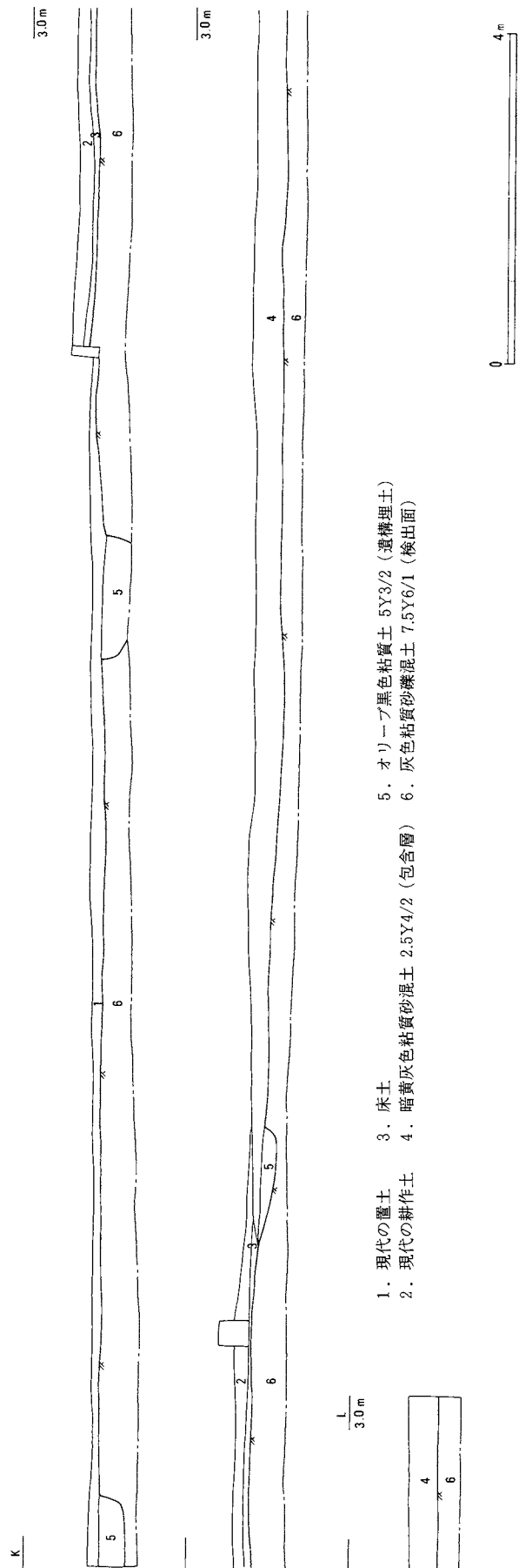
平面形は楕円形。長軸1.27m、短軸0.83m、深さ0.29mの小型の土坑である。埋土からは、弥生土器壺・高杯などが出土しているが、量的には少ない。後期に属すると考えられる。

SK31 (第15図)

平面形は円形を呈し、長軸4.12m、短軸3.74m、深さ0.75mである。埋土は2層であった。遺構検出面近くの埋土と底部近くで遺物の集中がみられた。底部近くでは、完形の壺や甕などの土器類、斧の柄や泥除けなどの木製農具や自然木が折り重なって出土した。また、それらを取り除くと砂質土が顔を出し大量の湧水があった。底部直上からは、逆位の状態で銅鐸形土製品が割れて出土している。銅鐸形土製品は埋納というよりは投げ入れられたものであろう。この遺構の周辺で何らかの祭祀が行われていた可能性が考えられる。後期に属するものと考えられる。

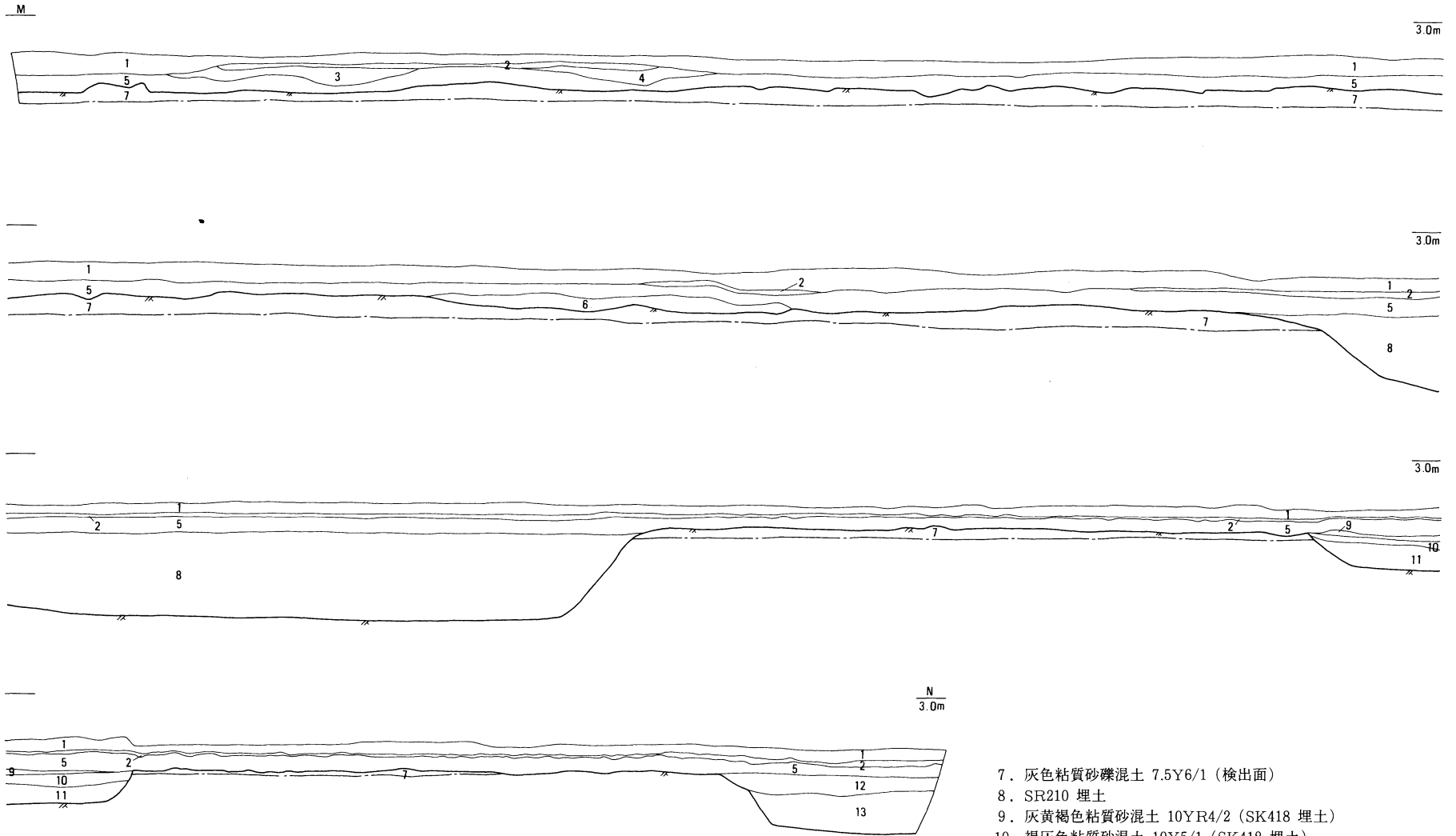
SK302 (第17図)

平面形はほぼ円形で、径1.8m、深さ0.50~0.56mである。埋土は3層で、上から灰黄褐色粘質砂混土、黒褐色粘質土、黒色粘質土である。弥生土器壺・高杯などが底部近くから出土している。後期に属する



第8図 調査区西壁土層断面図③ (1:80)

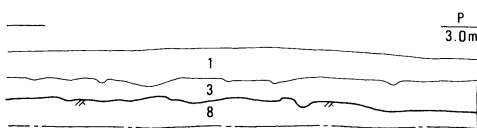
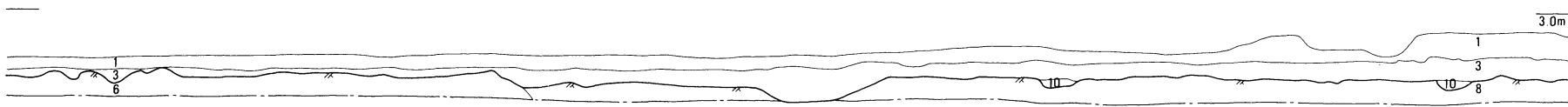
第9図 調査区西壁土層断面図④ (1:80)



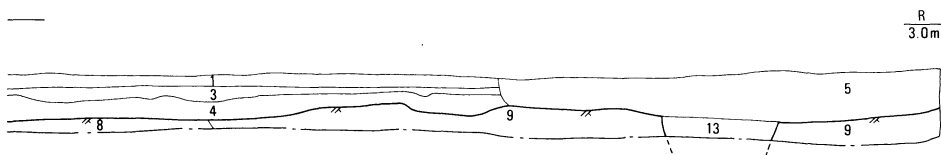
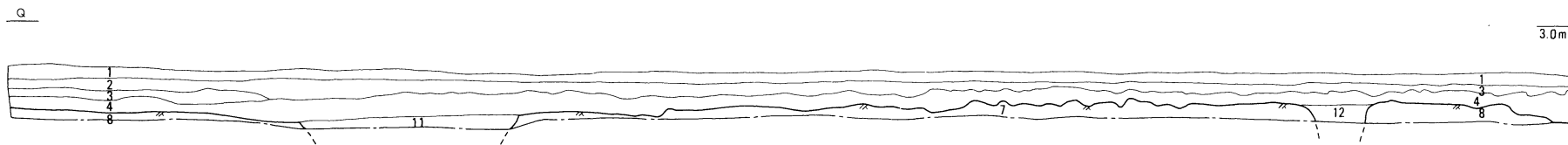
- | | | |
|--------------------|----------------------------|---------------------------------|
| 1. 現代の耕作土 | 4. 灰黄褐色土 10YR6/2 | 7. 灰色粘質砂礫混土 7.5Y6/1 (検出面) |
| 2. 床土 | 5. 暗黄灰色粘質砂混土 2.5Y4/2 (包含層) | 8. SR210 埋土 |
| 3. にぶい黄橙色土 10YR6/3 | 6. 黄灰色礫混土 2.5Y4/1 | 9. 灰黄褐色粘質砂混土 10YR4/2 (SK418 埋土) |
| | | 10. 褐灰色粘質砂混土 10Y5/1 (SK418 埋土) |
| | | 11. 灰色粘質砂混土 7.5Y4/1 (SK418 埋土) |
| | | 12. 灰色粘質砂混土 5Y4/1 (SK415 埋土) |
| | | 13. 灰色粘土 10Y5/1 (SK415 埋土) |



第10図 調査区東西壁土層断面図① (1:80)



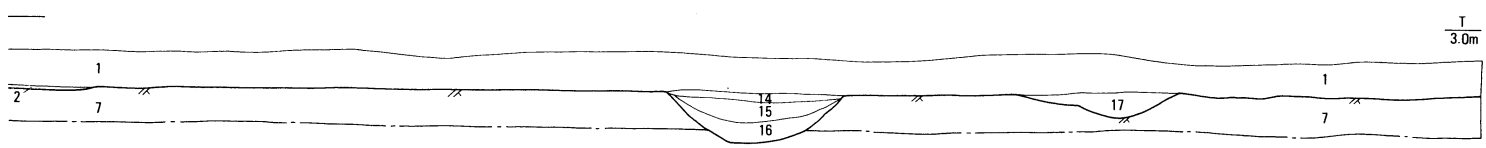
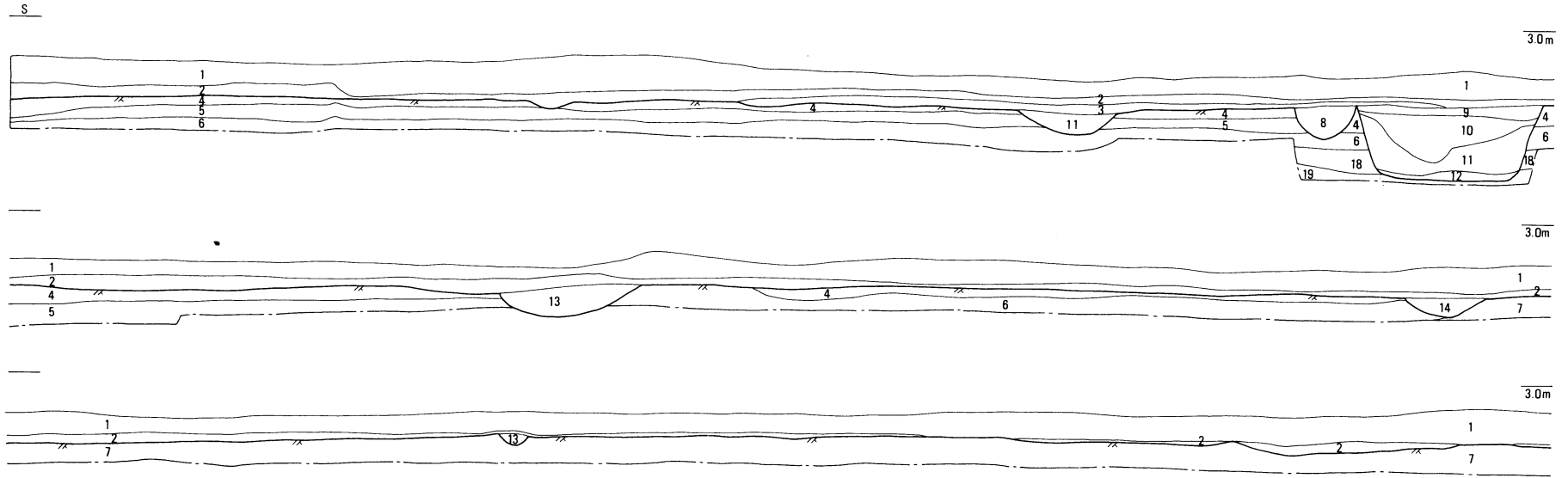
- | | | |
|--------------------------|-------------------------|---------------------------|
| 1. 現代の耕作土 | 4. 黄灰色シルト 2.5Y4/1 (包含層) | 7. 褐灰色砂質土 10Y6/1 (検出面) |
| 2. 床土 | 5. 現代の攪乱 | 8. 褐灰色シルト 10Y6/1 (検出面) |
| 3. 褐灰色やや粘質土 10Y5/1 (包含層) | 6. 灰白色礫 N8/0 (検出面) | 9. 褐灰色砂質礫混土 10YR6/1 (検出面) |



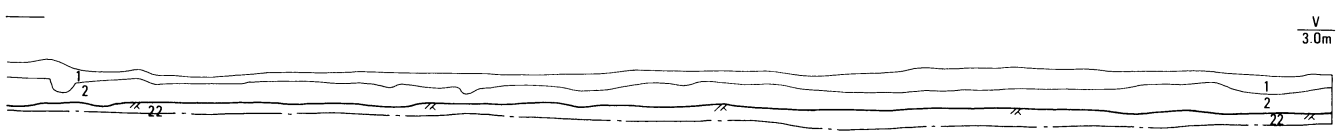
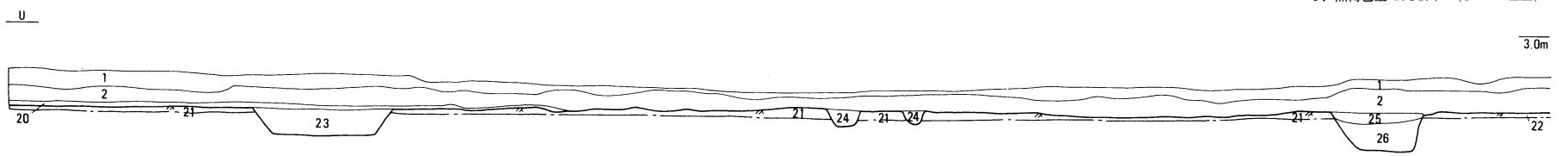
- | |
|---|
| 10. 褐灰色土 10YR4/1 (SD4・20・21・28 埋土) |
| 11. 黒褐色土 10YR2/1 (SK31 埋土) |
| 12. 黒褐色土 10YR3/1 に黄灰色シルト 2.5Y4/1 混入 (SK13 埋土) |
| 13. 黒褐色粘質砂礫混土 10YR2/2 (SE357 埋土) |



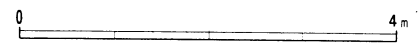
第11図 調査区東西壁土層断面図② (1:80)



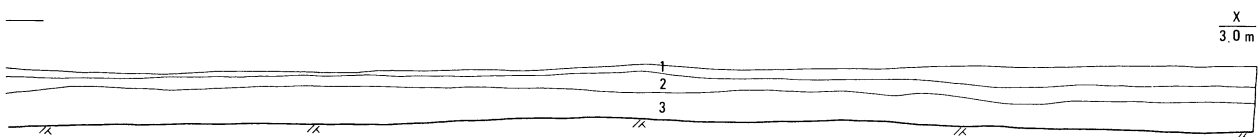
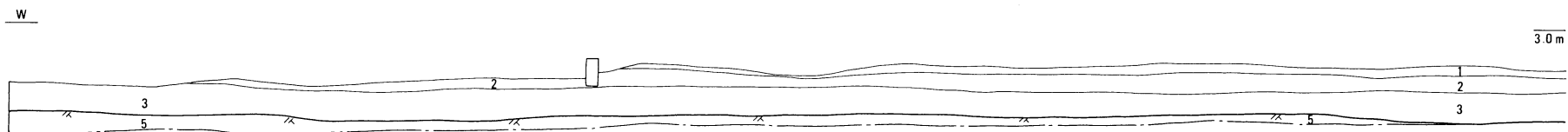
- 1. 現代の耕作土
- 2. 床土
- 3. 灰オリーブ色シルト 5Y4/2 (包含層)
- 4. 暗オリーブ色シルト 5Y4/3 (検出面)
- 5. 暗褐色粘質土 7.5YR3/3
- 6. 灰色粘質土 7.5Y4/1
- 7. 灰色シルト 10Y6/1 (検出面)
- 8. 黒褐色土 10YR2/2 (SK309 埋土)



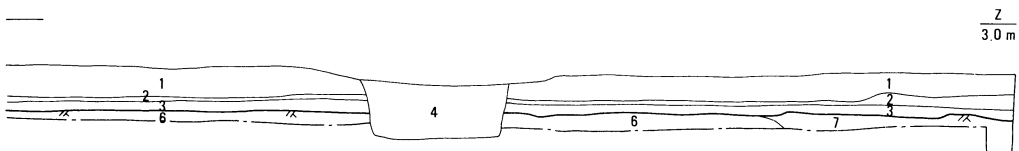
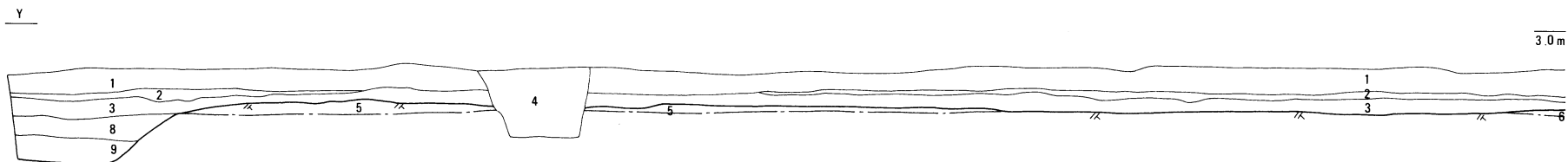
- 9. 黒色土 10YR2/1 (SK305 埋土)
- 10. オリーブ黒色土 5Y3/1 (SD303・SK305 埋土)
- 11. オリーブ黒色シルト 5Y2/2 (SK305 埋土)
- 12. 暗緑灰色シルト 10G4/1 (SK305 埋土)
- 13. オリーブ黒色シルト (SK311 埋土)
- 14. 灰オリーブ色シルト砂混入 5Y4/2 (SD303 埋土)
- 15. オリーブ黒色シルト 5Y3/2 (SD303 埋土)
- 16. オリーブ黒色シルト 5Y2/2 (SD303 埋土)
- 17. 灰色シルト 5Y4/1 (SD4 埋土)
- 18. 青灰色砂質土 5PB6/1
- 19. 青灰色砂 5B5/1
- 20. 黒色粘質土 10YR3/1 (包含層)
- 21. 灰オリーブ色シルト 7.5Y6/2 (検出面)
- 22. 黄灰色砂質土粘土混 2.5Y6/2 (検出面)
- 23. 褐色粘質土 10YR4/1
- 24. 黄灰色粘質土 2.5Y4/1 (遺構埋土)
- 25. 褐色粘質礫混土 7.5YR6/1 (SK365 埋土)
- 26. 黒褐色粘質礫混土 2.5Y3/1 (SK365 埋土)



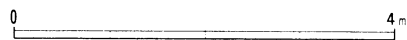
第12図 調査区東西壁土層断面図③ (1:80)



- 1. 現代の耕作土
- 2. 床土
- 3. 暗黄灰色粘質砂礫混土 2.5Y4/2 (包含層)



- 4. 試掘トレンチ
- 5. 灰色粘質礫混土 7.5Y6/1 (検出面)
- 6. 灰白色砂質土 2.5Y7/1 (検出面)
- 7. 灰オリーブ色シルト 5Y5/2 (検出面)
- 8. 灰色粘質砂混土 5Y4/1 (SK415 埋土)
- 9. 灰色粘土 (SK415 埋土)



ものと考えられる。

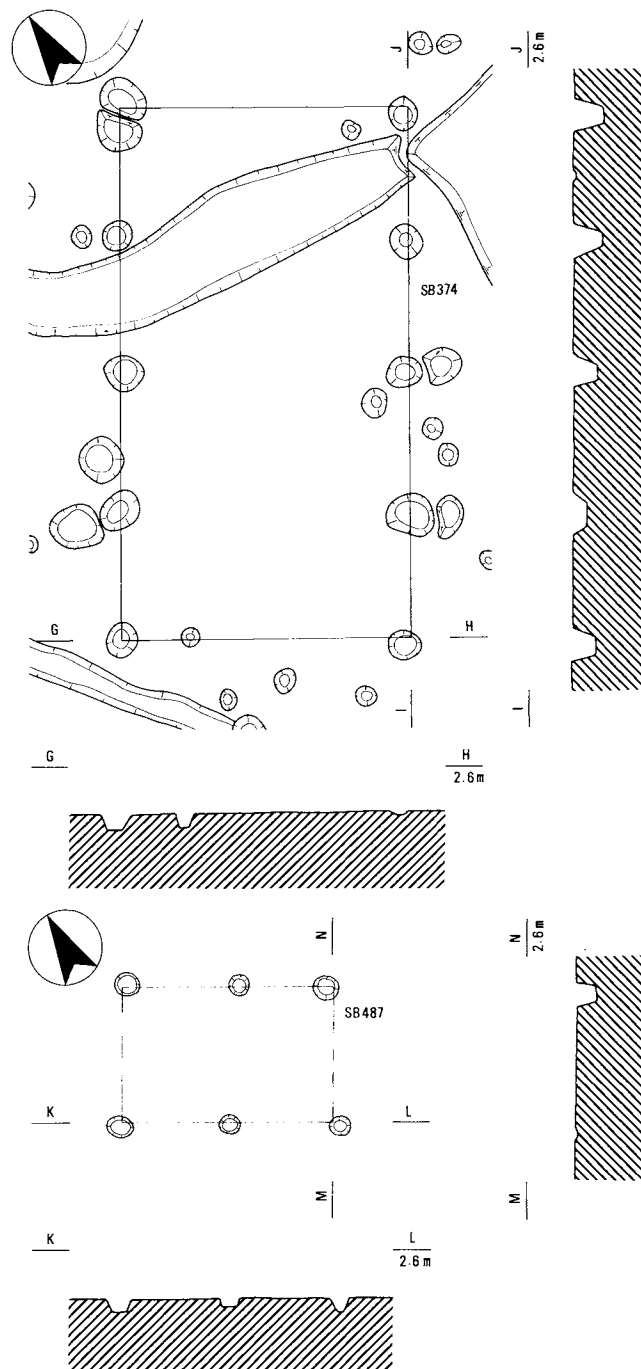
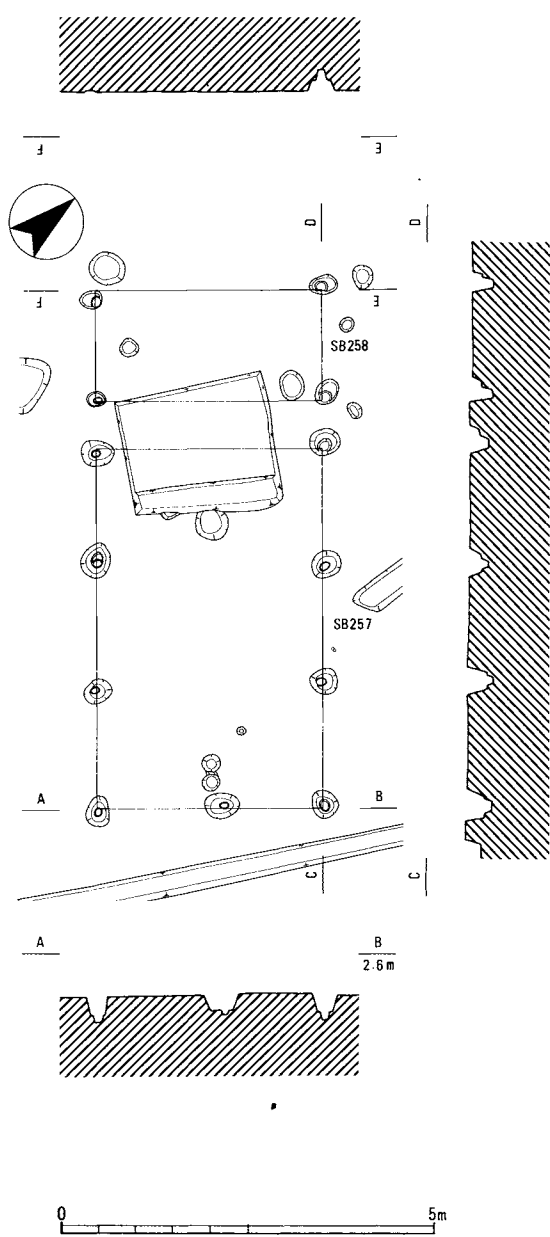
S K 305 (第17図)

平面は円形を呈し、径2.49m、深さ0.85~0.92mである。遺構検出面に近い遺構の上面から土器の集中がみられた。掘削を続けていくと、遺物の出土が少なくなる。弥生土器壺・甕・高杯・鉢・ミニチュア土器などが多く出土した。また、脚付槽や杭などの木製品もみられた。なお、底部近くで完形の壺や高杯などの土器類や木製槽が出土した。槽を取り上

げると、その直下に口縁部が欠失した壺が槽を支えるような形で出土した。それらを取り除くと砂質土が顔を出し水が大量に湧いてきた。後期に属するものと考えられる。

S K 310 (第17図)

平面形は不整形な楕円、長軸1.79m、短軸0.74m、深さ0.10~0.23mの浅い遺構である。遺構埋土から弥生土器高杯の脚などが底部近くから出土している。後期に属するものであろう。



第13図 SB257・258・374・487実測図(1:100)

S K 326 (第17図)

平面形は不整形な楕円を呈し、長軸3.68m、短軸2.15m、深さ0.53~0.74mである。検出時から弥生土器の集中がみられた。遺構埋土は4層に分かれる。遺構検出面に近い遺構上面に多くの土器が集中し、出土遺物は弥生土器壺・甕・高杯・鉢・ミニチュア土器などが大量に出土した。それらを取り除くと、底部に近づくにつれて遺物の出土が少なくなり、砂質土が顔を出し水が大量に湧いてきた。後期に属するものと考えられる。

S K 330 (第18図)

平面形は不整形楕円を呈し、長軸3.2m、短軸2.46m、深さ0.33~0.62mである。遺構埋土は4層に分かれる。遺物の出土は遺構の底部近くに少量みられた。出土遺物は弥生土器壺や高杯で、自然木も出土した。それらを取り除くと砂質土が顔を出し水が大量に湧いてきた。後期に属するものであろう。

S K 340 (第18図)

平面は不整形円形を呈し、長軸1.92m、短軸1.69m、深さ0.7~0.91mである。遺構検出面から少し掘り下げたところで土器の集中がみられた。弥生土器壺や甕がみられた。掘削を続けていくと、遺物の出土が少なくなった。底部近くでは、なにも出土しなくなり、砂質土が顔を出し水が大量に湧いてきた。後期に属するものであろう。

S K 359 (第18図)

平面は不整形円形で、長軸2.01m、短軸1.96m、深さ0.57~0.71mである。遺構検出面から少し掘り下

げたところで土器の集中がみられた。弥生土器壺・甕・高杯がみられた。掘削を続けていくと、遺物の出土が少なくなった。それらを取り除くと砂質土が顔を出し水が大量に湧いてきた。後期に属するものと考えられる。

S K 372 (第18図)

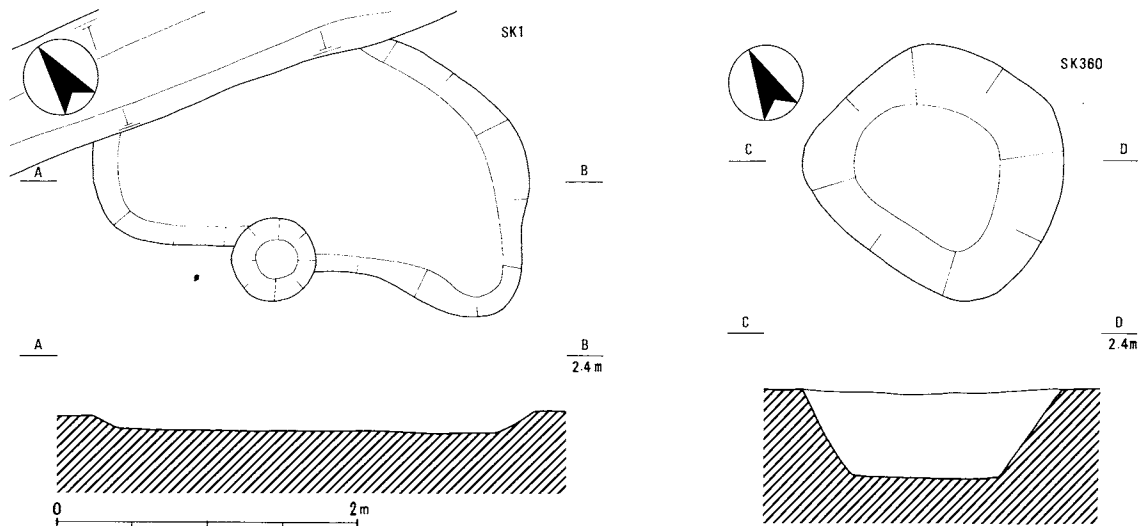
平面形は不整形な楕円である。長軸2.72m、短軸2.31m、深さ0.23~0.39mである。遺構検出面と同レベルから土器の集中がみられた。弥生土器壺・甕・高杯が出土した。掘削を続けていくと、遺物の出土が少なくなった。後期に属するものと考えられる。

S K 410 (第19図)

平面形は楕円形、長軸2.76m、短軸2.05m、深さ0.13~0.67mの規模である。埋土上方から土器等が集中して出土した。底部に近づくにつれて土器の出土量は少なくなり、湧水点に達した。土器群については、出土状況から投げ入れられたものといえよう。土器については、壺、甕、高杯等が良好な状態で出土しており、そのなかにはあまり類例のない把手付鉢がみられた。底部から水が湧き出ていることから、その当時間も同様の様相を呈していたことが考えられる。井戸とも考えられるが現状では判断に苦しむ。また、何らかの祭祀に関わった遺構ともいえなくもない。後期に属するものと考えられる。

S K 420 (第19図)

平面形は楕円形で、長軸2.6m、短軸1.76m、深さ0.47~0.54m。遺構の北東部分では後世の攪乱が見られた。埋土は3層で、上から1層目から土器等が

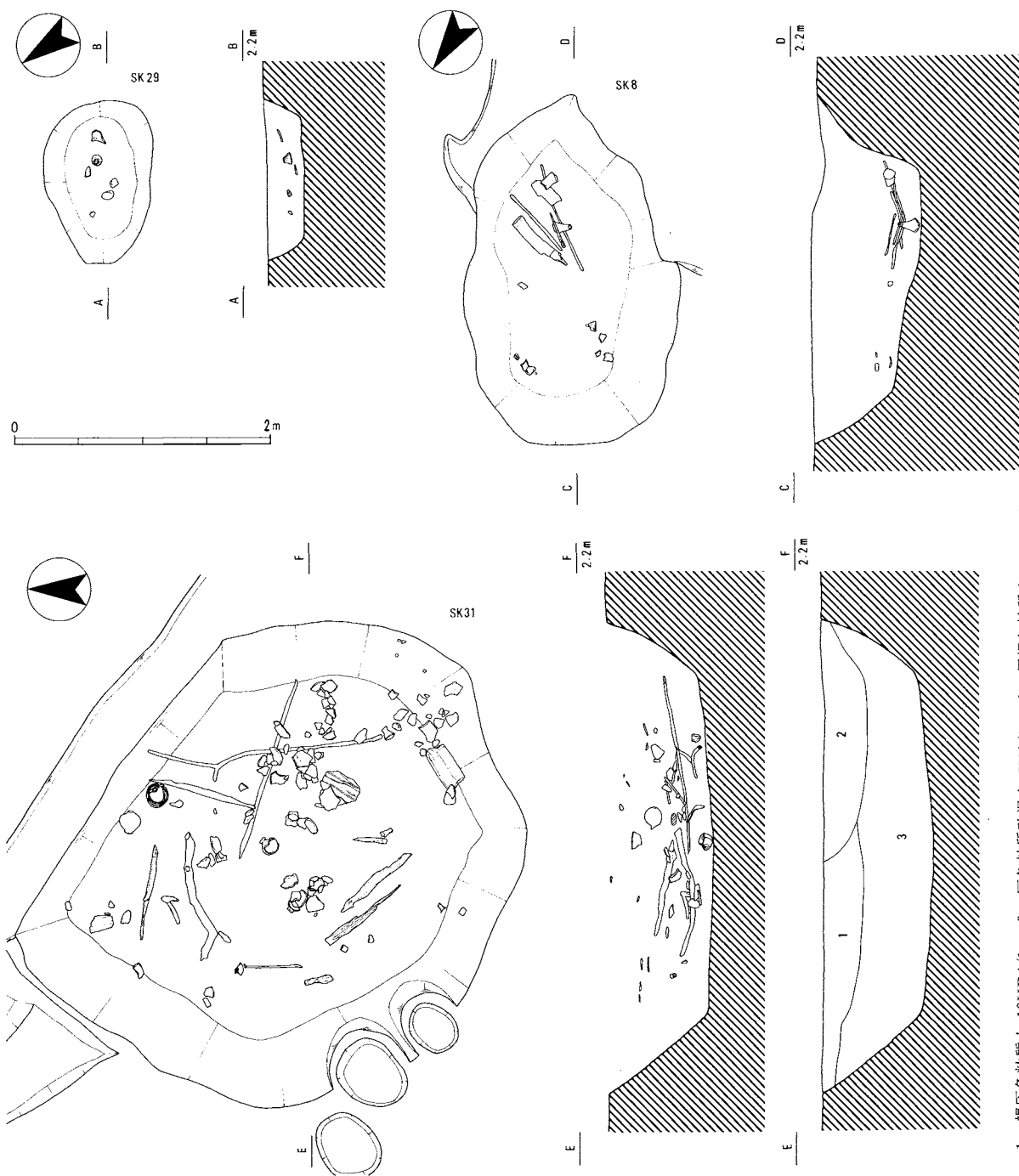


第14図 SK1・360実測図(1:50)

集中して出土した。底部に近づくにつれて土器の出土量は少なくなり、湧水点に達した。土器群については、埋納というよりも、土器のほとんどが割れていることや出土状況から投げ入れられたものといえよう。土器については、壺、甕、高杯等が良好な状態で出土している。井戸や何らかの祭祀に関わった遺構ともいえなくもない。後期に属するものと考えられる。

S K 421 (第20図)

平面形は不整形形で、長軸2.71m、短軸2.51m、深さ0.54~0.71mである。遺構の西側は後世の攪乱が見られた。埋土は3層で、上から1層目から土器等が集中して出土した。底部に近づくにつれて土器の出土量は少なくなり、湧水点に達した。土器群については、土器のほとんどが割れていることや出土状況から投げ入れられたものといえよう。土器については、壺、甕、高杯、ミニチュア土器等が良好な



第15図 SK8・29・31実測図(1:50)

状態で出土している。水が大量に底部から湧き出ていることから、井戸とも考えられなくもない。後期に属するものと考えられる。

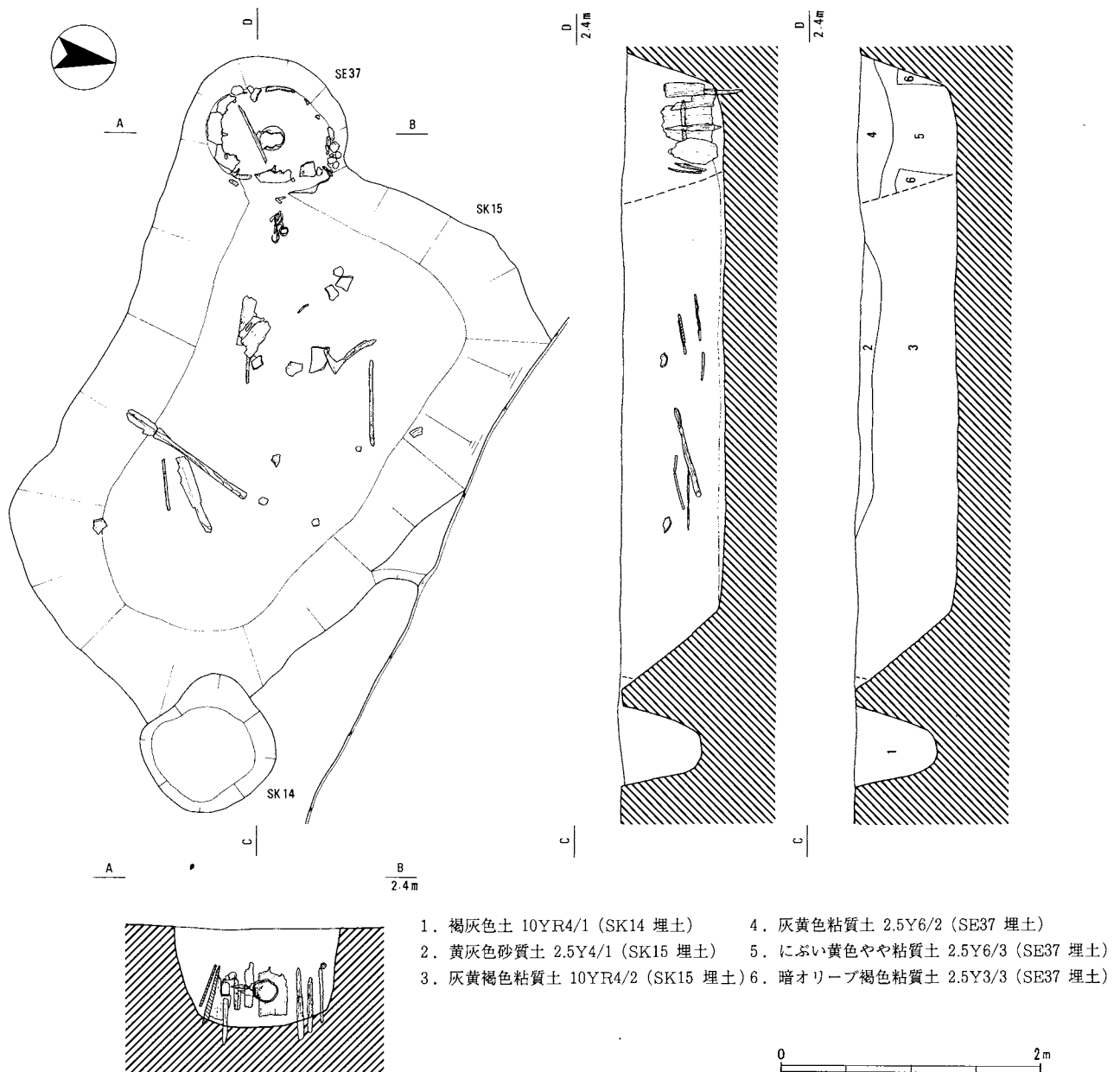
S K 426 (第20図)

平面形は不整形円形、長軸2.24m、短軸2.05m、深さ1.04~1.14mである。埋土上方から土器等が集中して出土した。底部に近づくにつれて土器の出土量は少なくなり、湧水点に達した。土器群については、埋土上方から出土の土器については、土器のほとんどが割れていることや出土状況から投げ入れられたものといえるが、底部出土のものについてはまるで据えられたような状況を呈していた。土器について

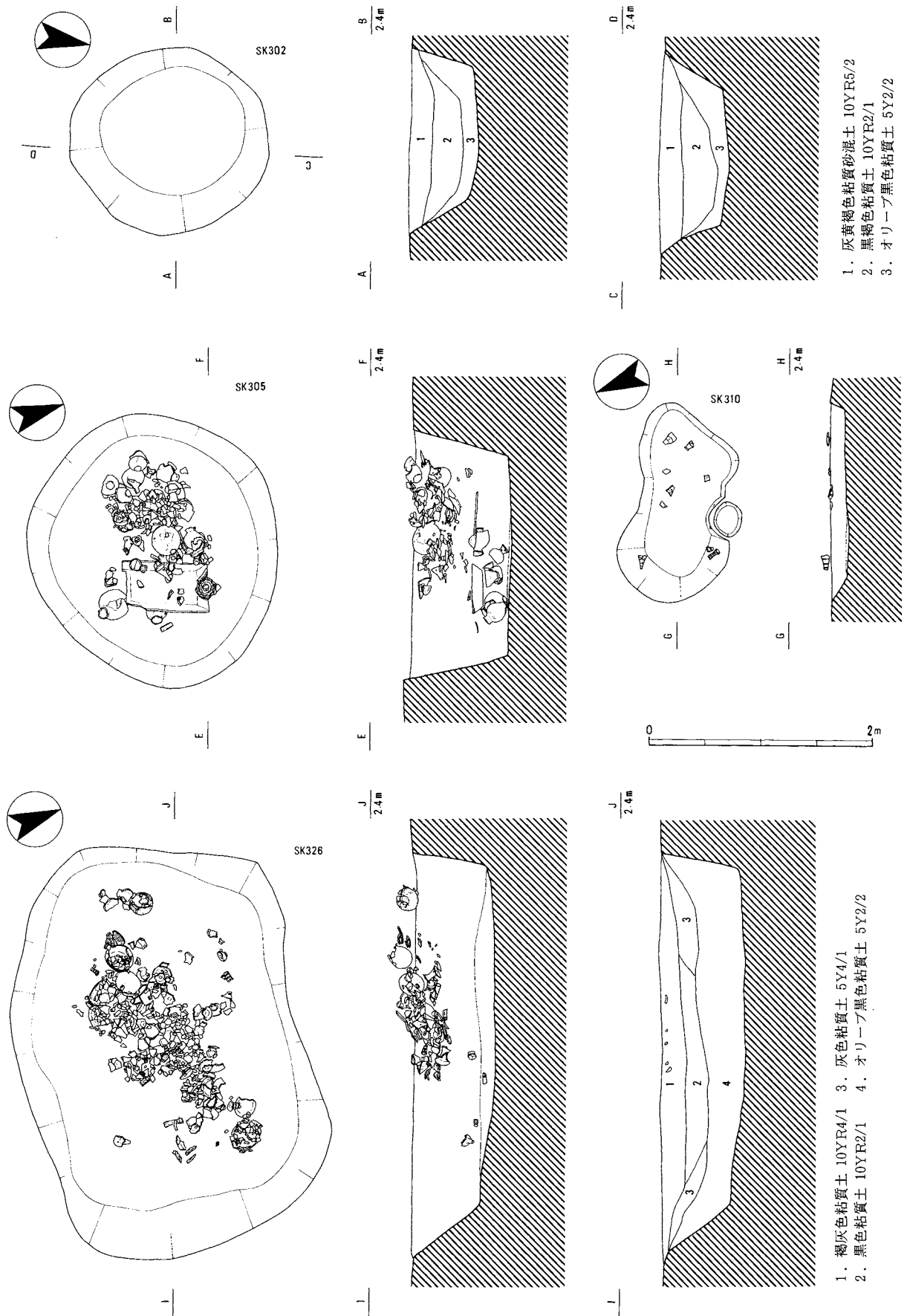
は、壺、甕、高杯、器台、ミニチュア土器、土錘等が良好な状態で出土した。他の遺構と同様に井戸である可能性や何らかの祭祀に関わった遺構とも考えられる。後期に属するものと考えられる。

S K 434 (第19図)

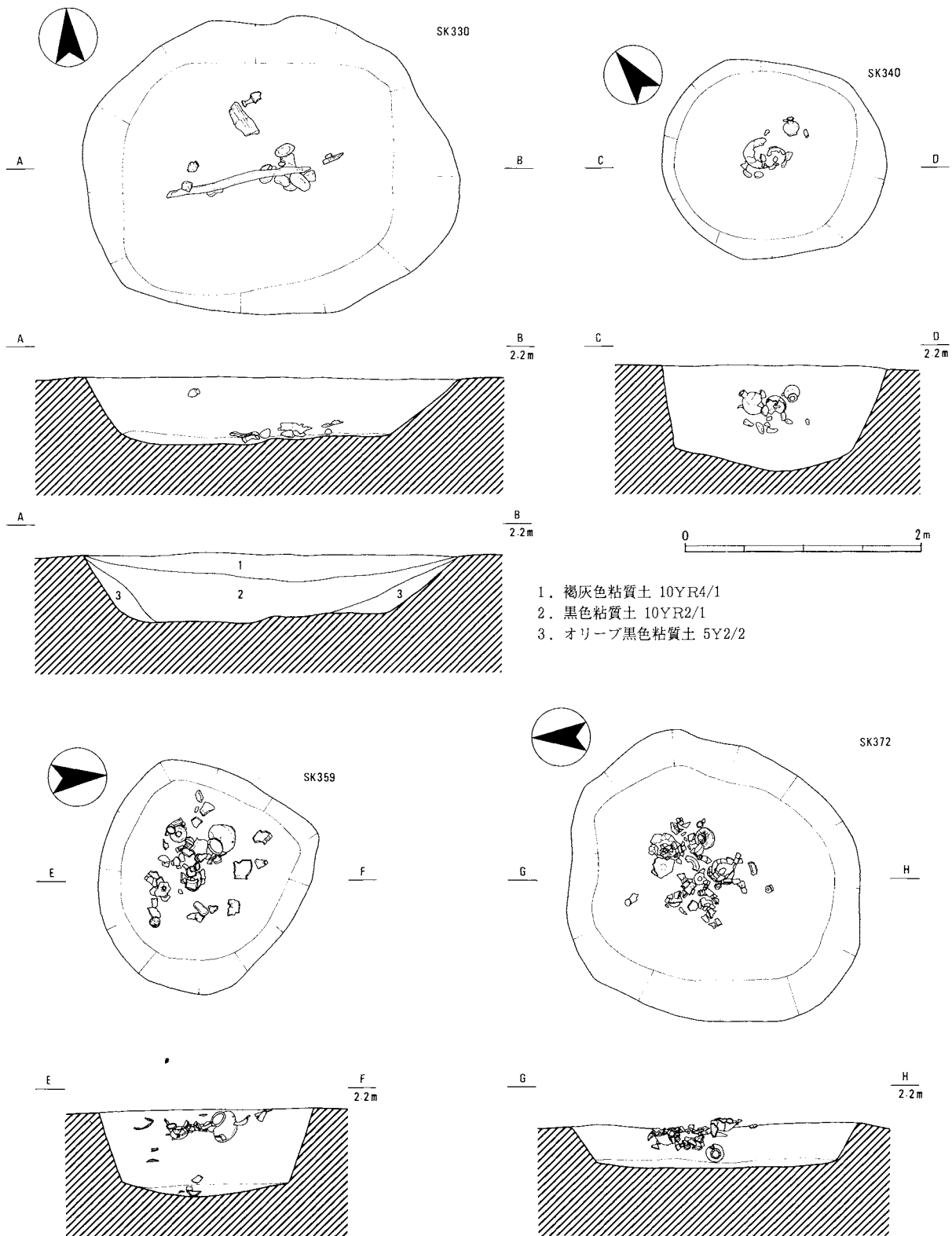
平面は不整楕円形を呈し、長軸1.06m、短軸0.65m、深さ0.06~0.07mである。遺物の出土状況については、検出面から土器が浮いている状態であった。本来はもう少し深い遺構であったことが想定できる。土器については、甕、高杯等が出土している。後期に属するものと考えられる。



第16図 SK14・15, SE37実測図 (1 : 50)



第17図 SK302・305・310・326実測図 (1:50)



第18図 SK330・340・359・372実測図 (1:50)

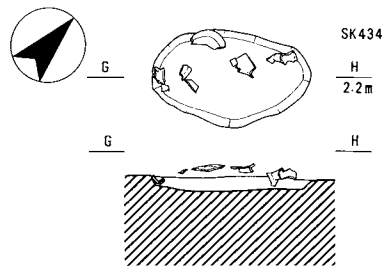
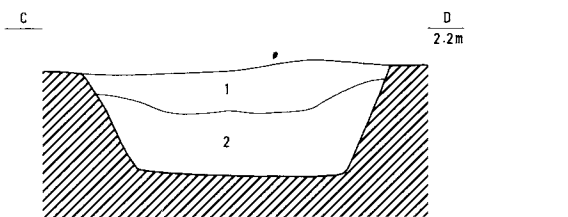
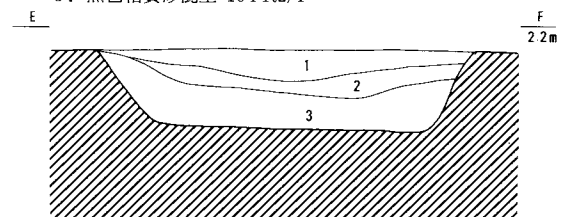
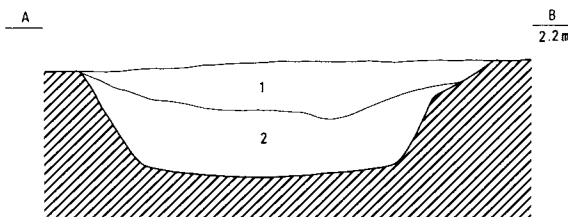
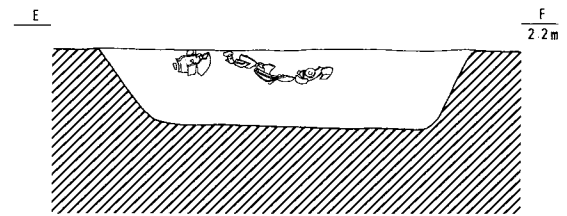
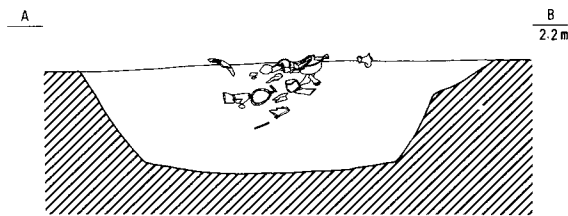
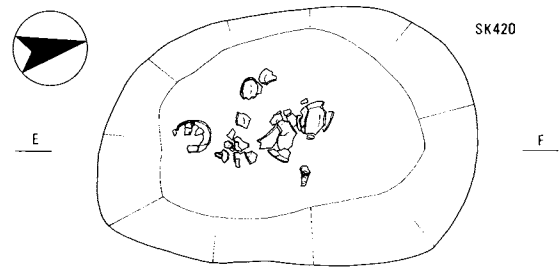
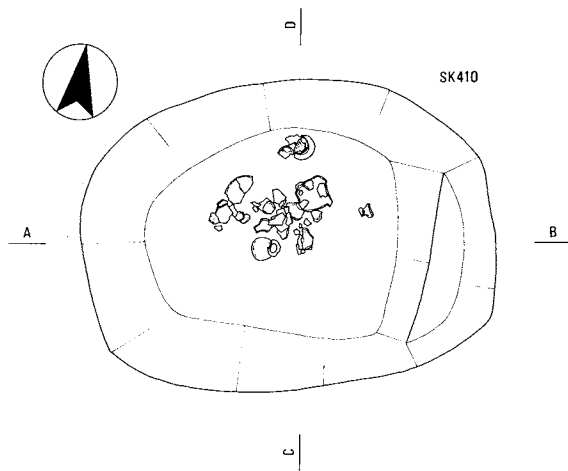
SK 8 (第15図)

平面形は不整楕円形で、長軸2.74m、短軸1.68m、深さ0.64~0.84mである。底部付近ではかなりの湧水がみられた。埋土は、黒褐色土の一層である。底部の南側に弥生土器壺・高杯や杵・陽物形などの木製品の集中がみられた。遺構北側隅で黒漆塗結歯竪櫛が出土した。陽物形や竪櫛の出土は何か特異な感を受ける。末期に属するものと考えられる。

井戸

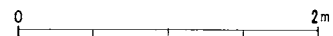
SE 327 (第21図)

平面は不整楕円形を呈し、長軸3.07m、短軸2.34m、深さ0.53~0.72mである。遺構埋土は3層に分かれる。遺構検出面に近い遺構の上面から土器の集中がみられた。底部に近づくとつれ、遺物の出土が少なくなる。出土遺物は弥生土器壺・甕や高杯などが大量に出土した。なお、遺構の底部付近では大量の湧水がみられた。また、遺構底部には割れた大型



- 1. 灰黄褐色粘質土 10YR4/2
- 2. 黒色粘質砂混土 10YR2/1

- 1. 褐灰色粘質土 10YR4/1
- 2. 灰黄褐色砂質土粘土混 10YR4/2
- 3. 黒色粘質砂混土 10YR2/1



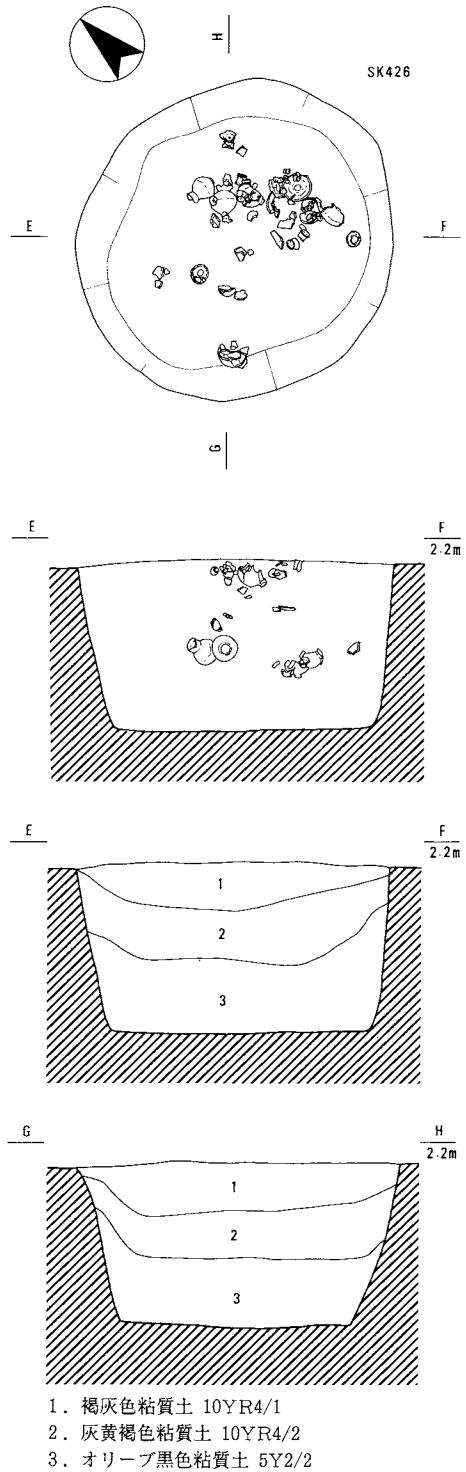
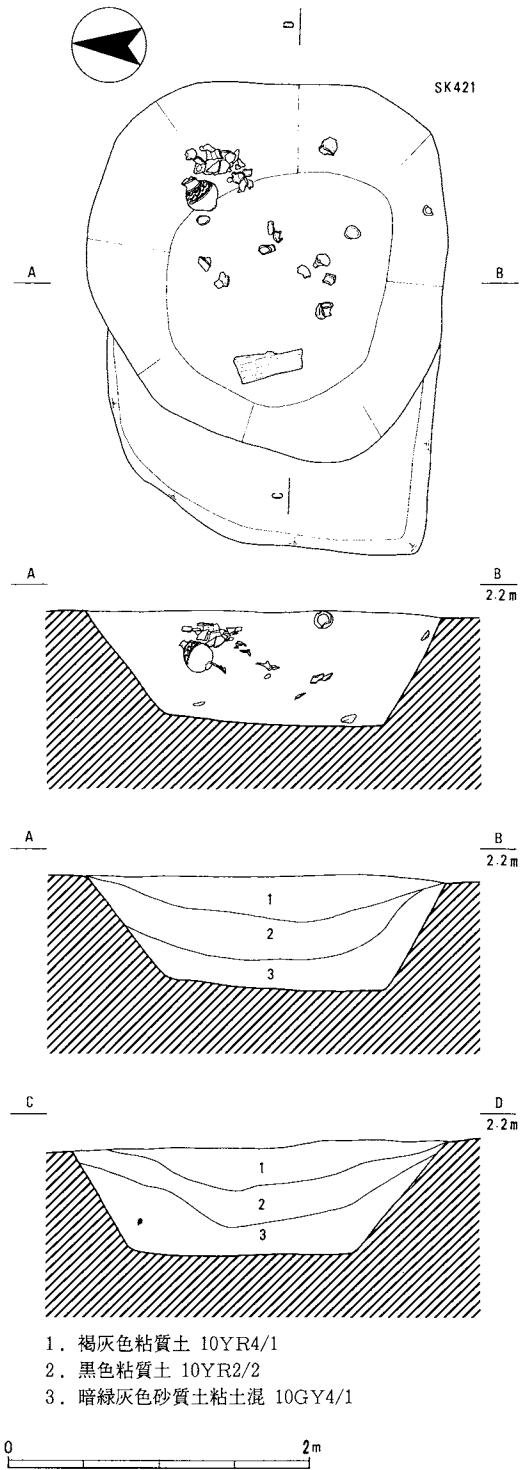
第19図 SK410・420・434実測図 (1:50)

の弥生土器壺が据えられていた。その壺の直近から袋状土製品も出土している。それらを取り除くとすり鉢状の配石が顔を出した。水を集めるための施設の集水遺構と考えるのが妥当であろう。このような形態の井戸の検出例はなく判断に苦しんだが、すり鉢状配石の存在から井戸と考えたい。後期に属するものであろう。

環濠

S D 303 (第22・23図)

幅1.2～1.6m、深さ0.23～0.52mの規模がある。本来は幅、深さとももう少し大きかったと思われる。第2・3・4次調査区にまたがっている。断面形はU字状を呈している。第2・4次調査区においては、調査区を東西に横切っており、この部分が環濠の北



第20図 SK421・426実測図 (1:50)

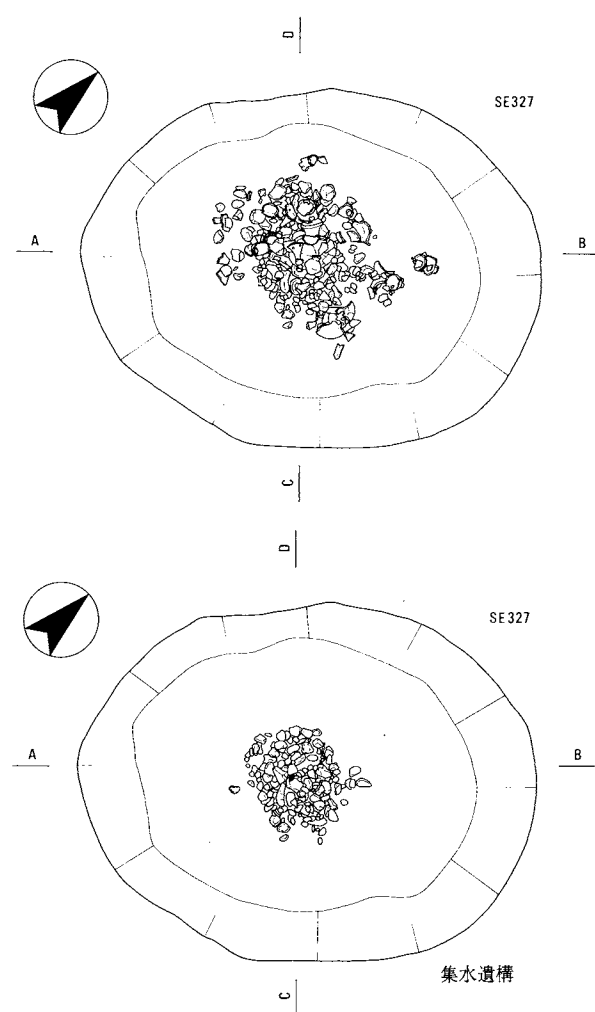
端と考えられる。そこから、調査区外の東西に少し延び、南側に向かって曲がっていくものと思われる。そして、第3次調査区においては、調査区の東西両端で環濠の一部分を検出した。東側は土橋により途中で途切れるが、ゆるやかに曲がり南に延びていく。西側は東側よりも短く、検出できたのはほんの一部であるが、南に遺構が延びていく様子がわかる。これらより南側では、環濠は調査区内では検出されていない。第1次調査区の南側は、旧河川であることが、地形から読み取れるので調査は行っていない。おそらく環濠は、この旧河川にぶつかるように掘削されたものかあるいは後世の氾濫により旧河川ができて削り取られている可能性も否定できない。出土遺物については、自然木を数点確認したが製品は出土しておらず全て土器であった。第2・4次調査区分と第3次調査区分の西側については土器の出土はそれほど多くない。第3次調査区分の東側は、土橋

をはさみ土器の集中がみられた。弥生土器壺・甕・高杯・鉢・ミニチュア土器などが、環濠の底部近くで折り重なるように出土したものがほとんどであった。後期に属するものと考えられる。

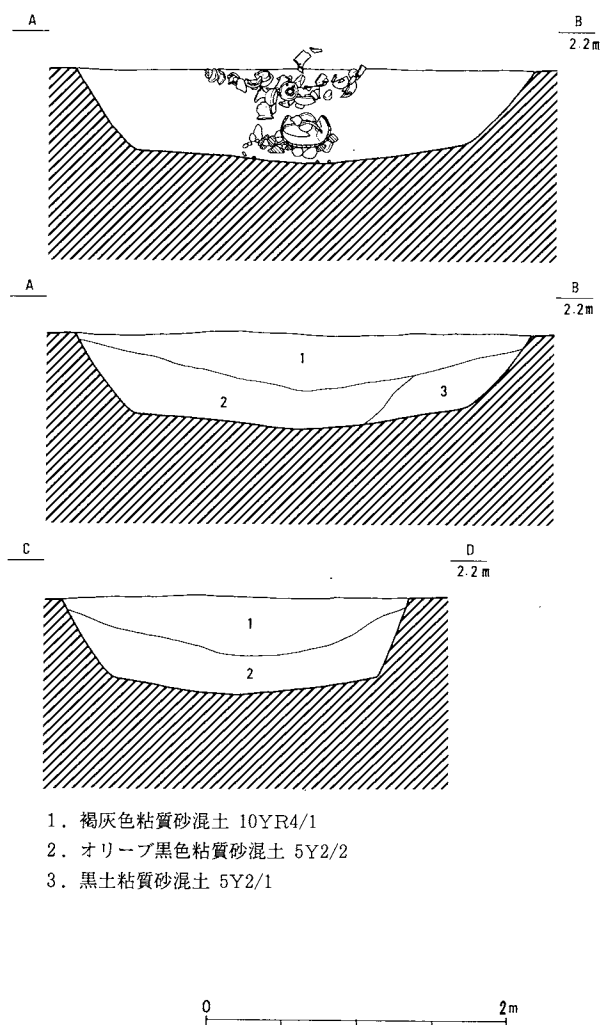
橋状遺構

S Z 399 (第22図)

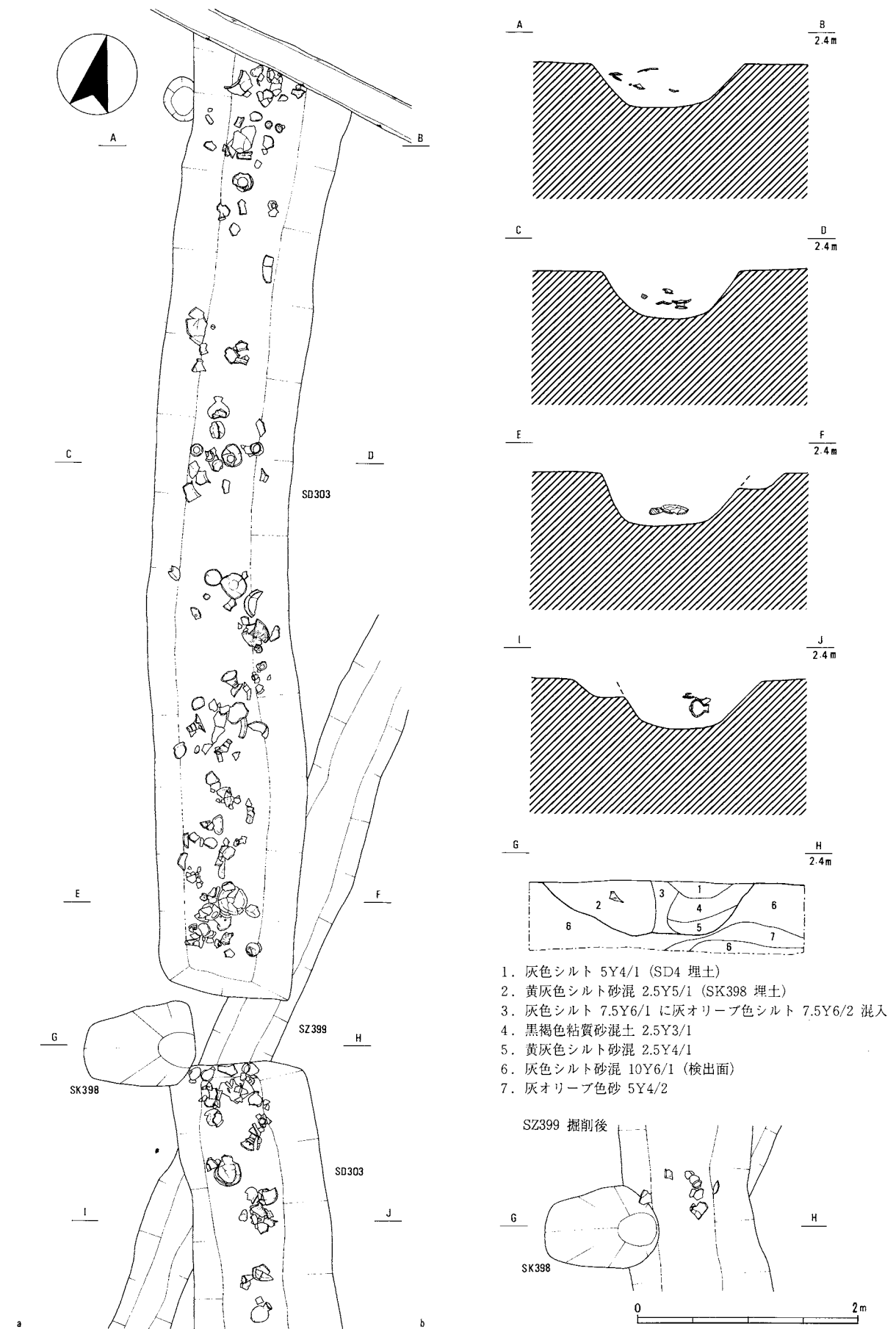
環濠の第3次調査区分の東側にある。長さ1.23m、幅0.63m、深さ0.4～0.44mが残存していた。本来の規模はもう少し大きかったと思われる。検出時には環濠掘削時に橋の部分を残して掘削したものであるが、土橋の断面観察の結果、環濠を掘削後に土を入れて築造したものであることが判明した。土をたたきしめたりといった手は加えられていなかった。後期に属するものと思われる。



第21図 SE327実測図 (1:50)



1. 褐灰色粘質砂混土 10YR4/1
2. オリーブ黒色粘質砂混土 5Y2/2
3. 黒土粘質砂混土 5Y2/1



第22図 SD303, SK398, SZ399実測図 (1 : 50)

奈良時代

掘立柱建物

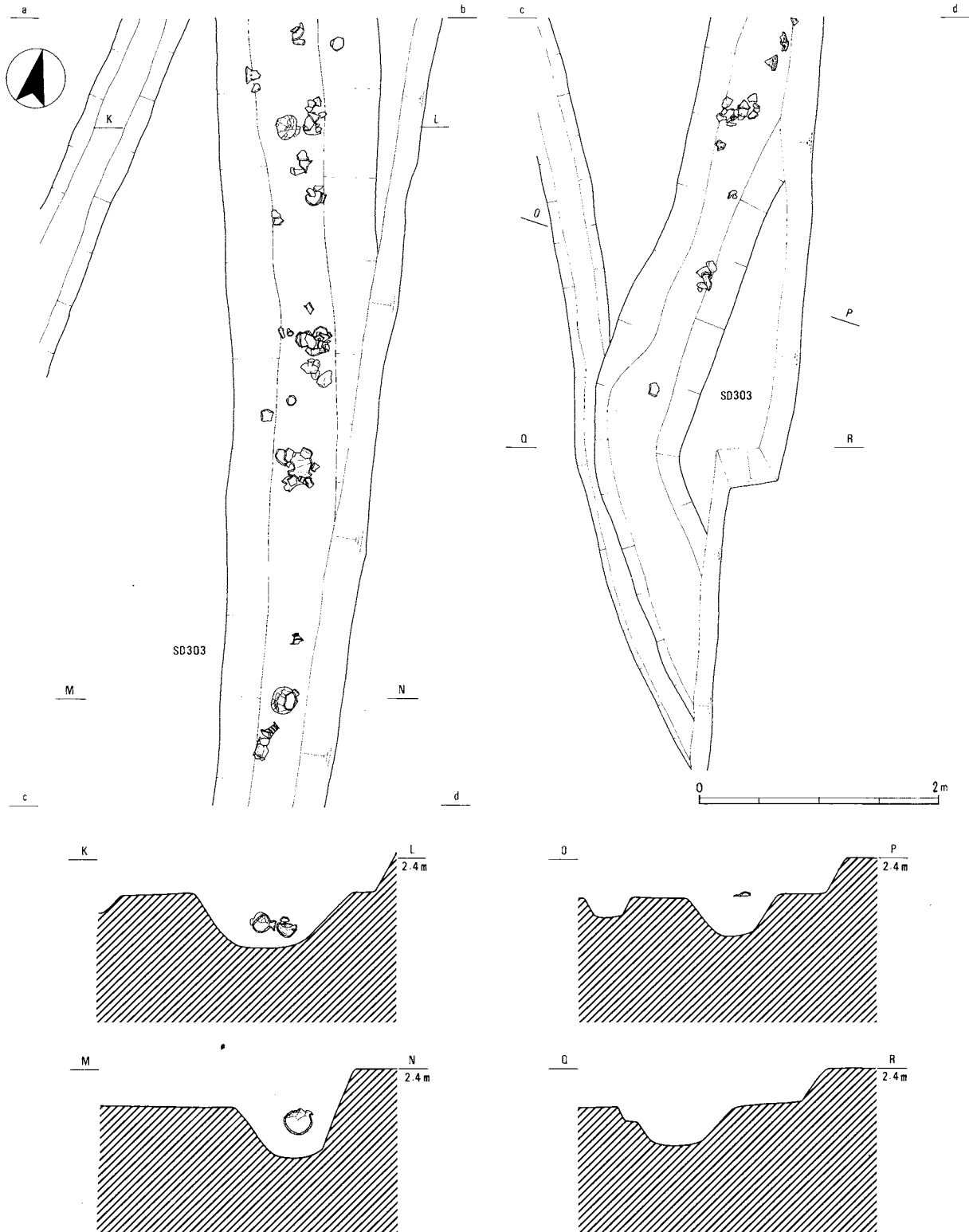
S B 489 (第24図)

梁行2間、桁行2間で、柱間は不等間である。棟方向はN14.5° Eである。柱穴からは、弥生土器片

と土師器片が出土していた。S B 492 に隣接している。

S B 492 (第24図)

梁行2間、桁行3間の東西棟建物である。柱間は桁行と梁行それぞれ等しくなっている。棟方向はE



第23図 SD303実測図 (1 : 50)

4.5° Sである。柱穴の一つからは、遺構検出面よりも上で土師器甕が逆位の状態で出土した。

土坑

S K 27 (第25図)

平面形は楕円である。長軸2.42m、短軸2.12m、深さ0.55~0.61mである。遺構埋土は2層に分かれる。遺物は少量の出土を確認した。そのほとんどが底部に近いところでの出土で、土師器甕・甌、須恵器壺・甕・杯を確認した。

S K 51 (第38図)

平面形は円形である。径2.50m、深さ0.48mである。遺物は少量の出土を確認した。土師器甕・杯、須恵器杯などを確認した。S K 48に切られている。

S K 396 (第25図)

平面はほぼ円形。径1.01m、深さ0.76~0.79mである。遺物は、そのほとんどが底部に近いところでの出土で、土師器杯・甕を確認した。S D 371と重複している。

井戸

S E 37 (第16図)

木組円形縦板組無支持型井戸。掘形は楕円形を呈し、長軸1.28m、短軸1.0m、深さ0.67~0.78mである。縦板組のすぐ外側に杭状のものを10本確認した。

添板であろうか。井側は疎らで抜き取りなどがあったのだろうか。また、掘形と井側の間には、拳大の石が土と共に詰められている部分も確認できた。底部から少し上で口縁部から底部にかけて斜めに割れた土師器甕が横位で出土している。これ以外には土師器杯や須恵器杯の破片を確認した。

S E 230 (第25図)

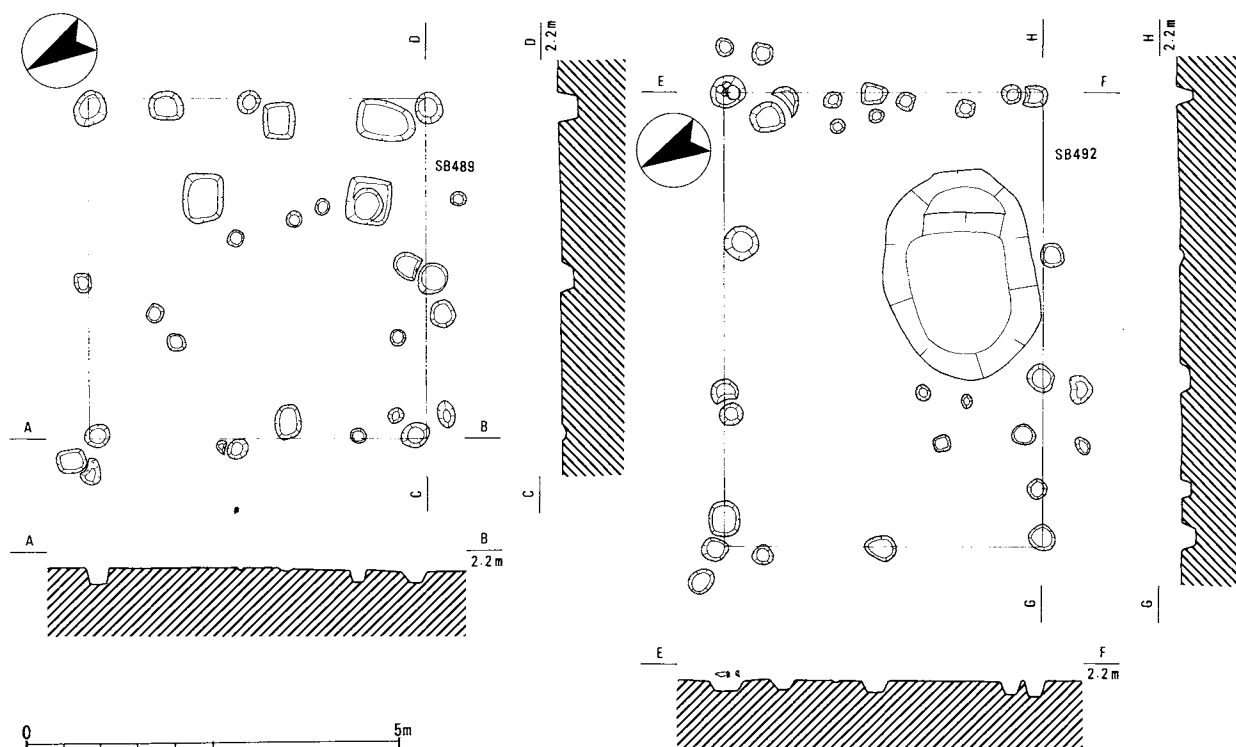
素掘り井戸か。掘形は楕円形で、長軸2.47m、短軸2.20m、深さ0.74~0.80m。掘形底部中央には径0.55mの円形の掘り込みを確認した。曲物などの抜き取り痕の可能性もある。この部分に土師器甕ばかりが集中していた。

S E 362 (第25図)

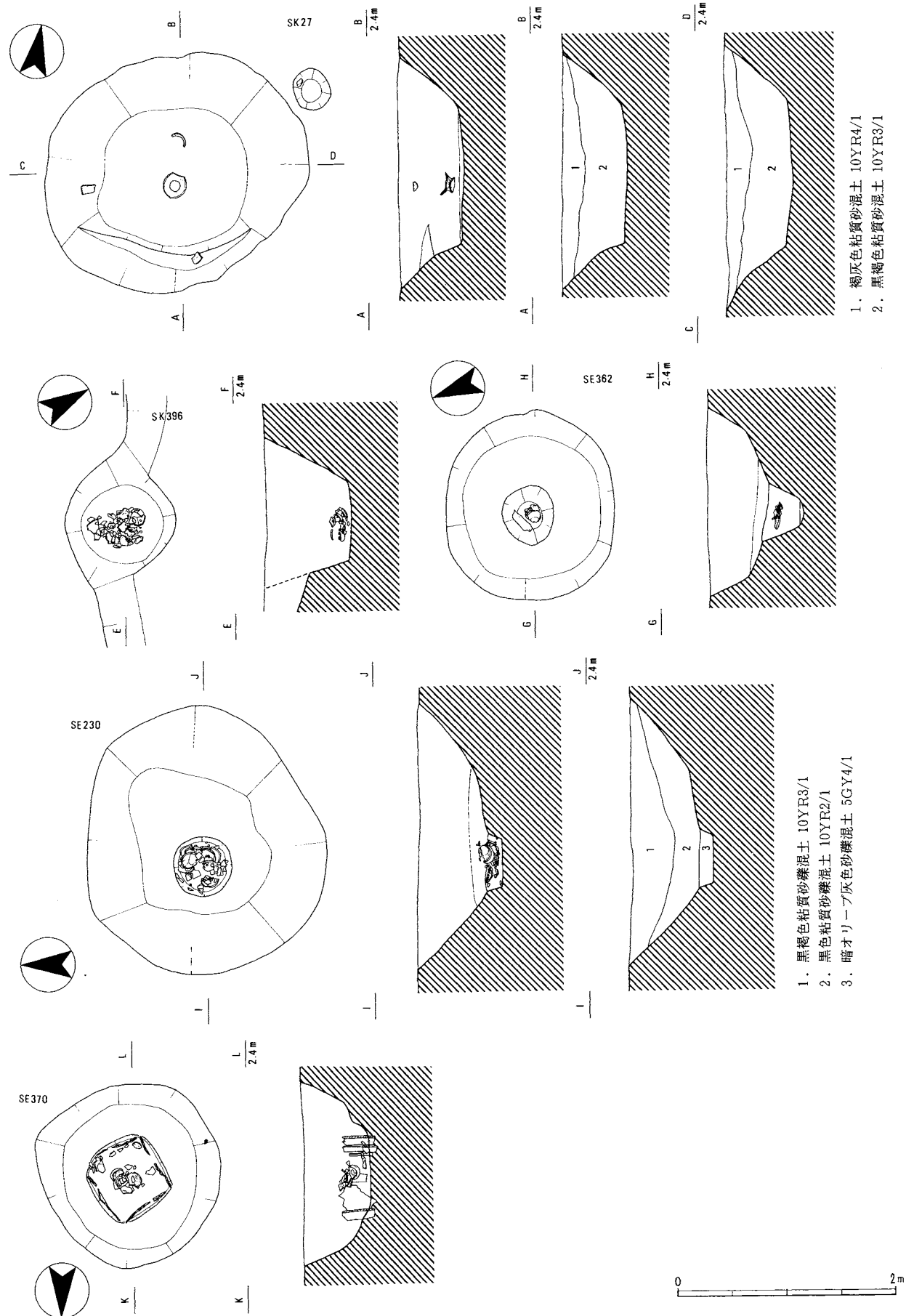
素掘り井戸か。掘形は楕円形、長軸1.74m、短軸1.54m、深さ0.83~0.84mである。掘形底部中央には径0.55mの円形の掘り込みを確認した。曲物などの抜き取り痕であろうか。この掘り込みに土師器杯・甕や木片が集中していた。

S E 370 (第25図)

木組方形縦板組無支持型井戸。掘形は円形で、径1.75m、深さ0.61~0.64mである。井側は疎らで、抜き取りや腐食などの可能性がある。井戸枠内中央で土師器甕が集中していた。須恵器片は1点だけ確



第24図 SB489・492実測図 (1 : 100)



第25図 SK27・396, SE230・362・370実測図 (1 : 50)

認した。

平安時代

掘立柱建物

S B 393 (第27図)

梁行2間、桁行2間で、柱間は梁行と桁行でそれぞれ等しい。棟方向はN18.5° Eである。前期に属するものと考えられる。

S B 488 (第28図)

梁行2間、桁行3間の南北棟建物である。柱間は梁行と桁行でそれぞれ等しい。棟方向は、N16.5° Eである。前期に属するものと考えられる。

S B 35 (第26図)

梁行2間、桁行4間の東西棟建物である。柱間は梁行・桁行でそれぞれ等しい。棟方向は、E12.0° Sである。柱穴からは、ほとんどが土師器片で、須恵器片が少量出土している。S B 36とは、棟方向が同一方向である。S K 23と重複する。後期に属するものと思われる。

S B 36 (第26図)

梁行2間、桁行3間の東西棟建物である。柱間は等間である。棟方向はE12.0° Sである。柱穴からは、ほとんどが土師器片で、須恵器片が少量出土している。S K 23と重複する。後期に属するものと思われる。

S B 63 (第34図)

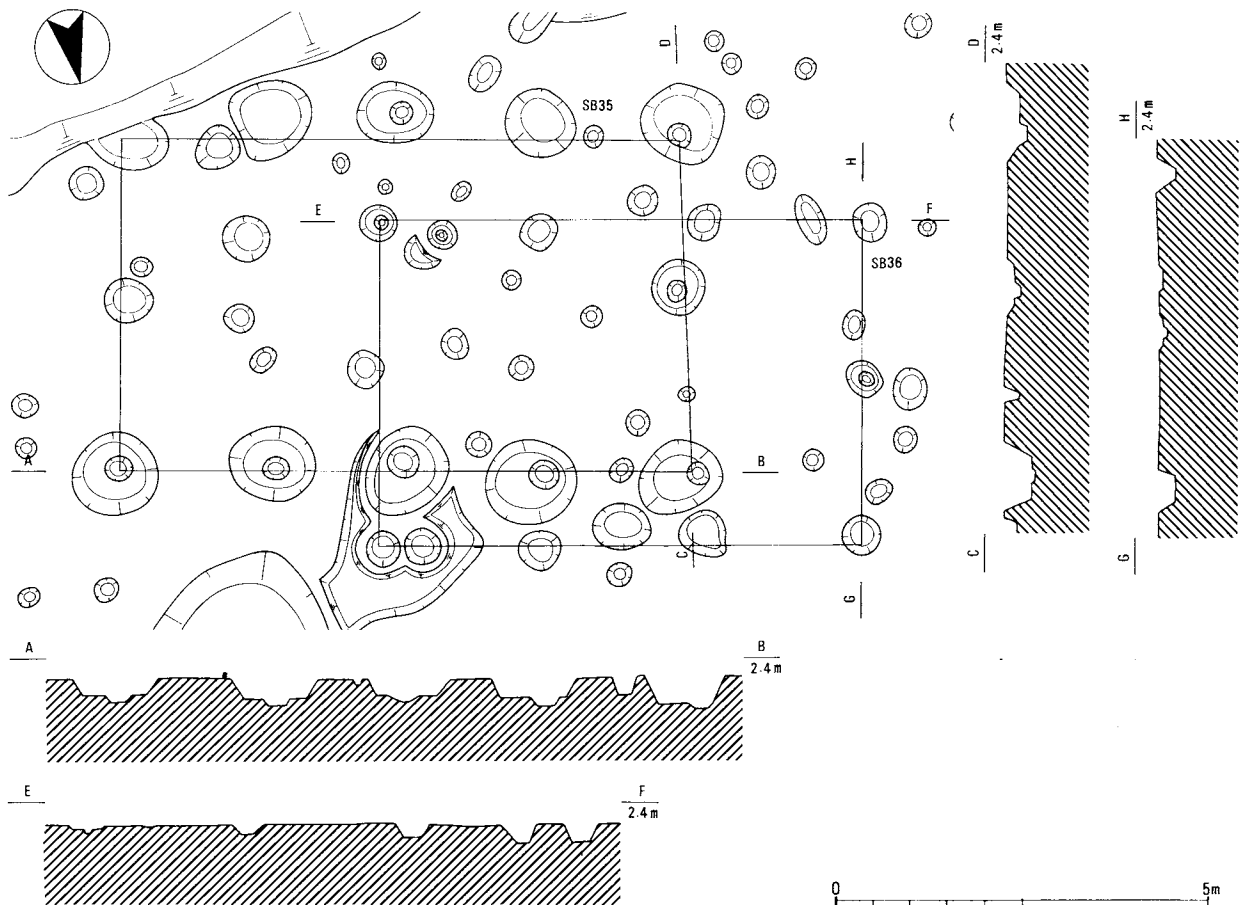
梁行2間、桁行3間の南北棟建物である。柱間は不等間である。棟方向はN17.0° Eである。柱穴から、土師器皿・甕片や須恵器片が出土した。後期に属するものと考えられる。

S B 65 (第30図)

梁行2間、桁行2間の総柱建物である。柱間は梁行と桁行でそれぞれ等しくなっている。棟方向はE1.0° Nである。柱穴からの出土遺物は、ほとんどが土師器片である。須恵器片が1点だけ出土した。後期に属するものと考えられる。

S B 376 (第36図)

梁行1間、桁行4間の東西棟建物で、柱間は不等



第26図 SB35・36実測図 (1:100)

間である。棟方向はE17.0° Sである。柱穴からは土師器片等の出土を確認した。後期に属するものか。

S B 377 (第31図)

梁行2間、桁行3間の南北棟建物である。棟方向はN12.0° Eである。柱穴からの出土遺物は土師器片がほとんどであった。後期に属するものと考えられる。

S B 378 (第32図)

梁行2間、桁行2間の総柱建物である。柱間は梁行は不等間であるが、桁行については等しくなっている。棟方向はE22.0° Sである。梁行の柱穴が一ヶ所ない。柱穴からは土師器片等が出土した。後期に属するものと考えられる。

S B 383 (第35図)

梁行2間、桁行2間で、柱間は等間である。棟方向はN22.5° Eである。柱穴からの出土遺物は土師器片がほとんどであった。後期に属するものと考えられる。

S B 384 (第35図)

梁行1間、桁行2間で、柱間は不等間である。柱穴からの出土遺物は、ほとんどが土師器片であった。棟方向はN20.0° Eである。後期に属するものと思われる。

S B 391 (第27図)

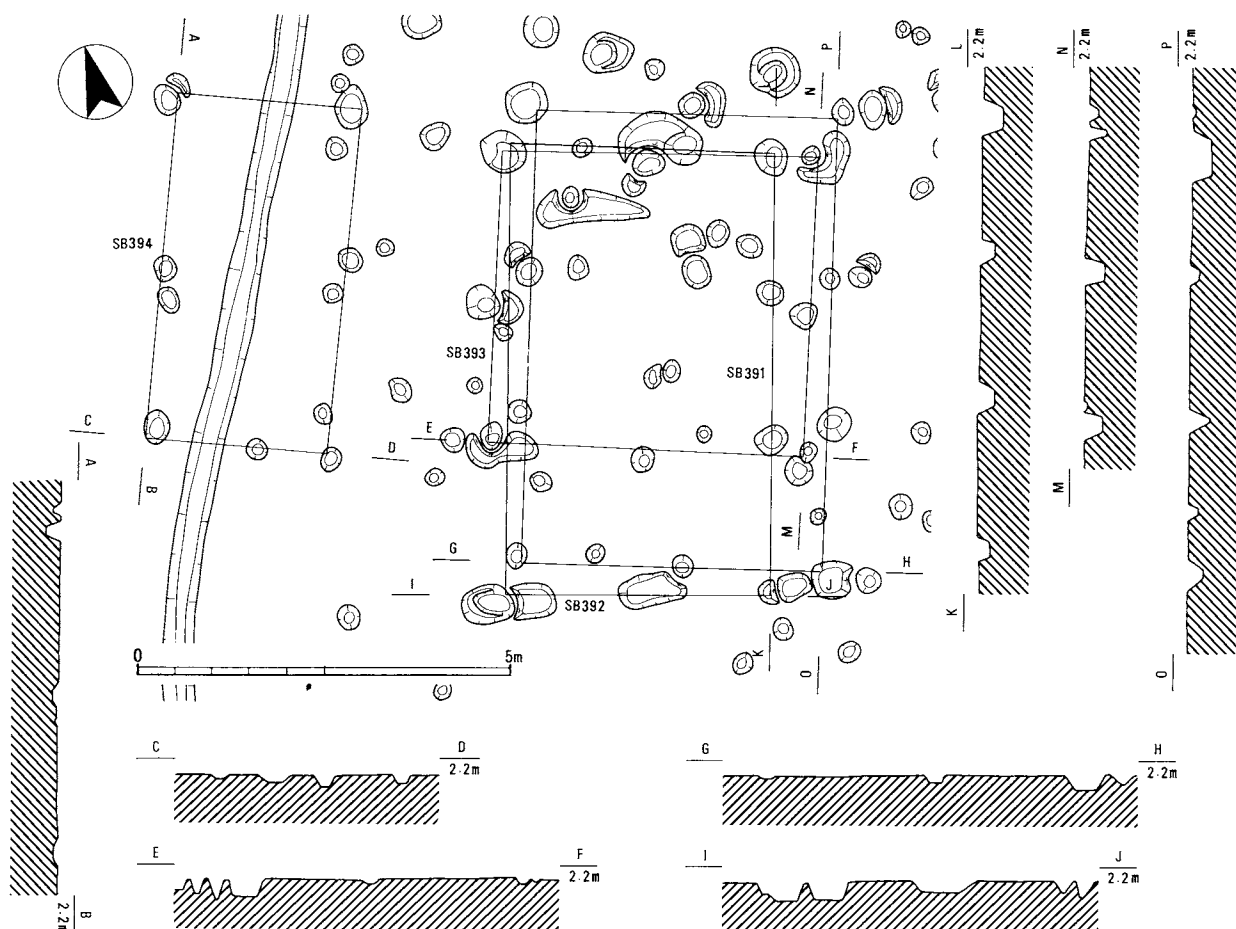
梁行2間、桁行3間の南北棟建物で、柱間は等間である。棟方向はN17.5° Eである。柱穴からは土師器片等の出土を確認した。S B 392 と重複する。後期に属するものと考えられる。

S B 392 (第27図)

梁行2間、桁行3間の南北棟建物で、柱間は梁行と桁行でそれぞれ等しい。棟方向はN16.0° Eである。柱穴からは土師器片等の出土を確認した。後期に属するものと考えられる。

S B 394 (第27図)

梁行1間、桁行2間の南北棟建物で、柱間は不等間である。棟方向はN21.5° Eである。柱穴からは土師器片等の出土を確認した。後期に属するもの



第27図 SB391・392・393・394実測図 (1:100)

考えられる。

S B 18 (第29図)

梁行3間以上、桁行4間の総柱建物で、柱間は揃っていない。棟方向はE16.0° Sである。柱穴の一つからは山茶碗が遺構検出面よりも上で出土した。末期に属するものと思われる。

S B 60 (第34図)

梁行2間、桁行3間の南北棟建物である。柱間は等間である。棟方向はN23.0° Eである。柱穴から、土師器皿・甕・碗片や山茶碗片が出土した。末期に属するものである。

S B 64 (第30図)

梁行2間、桁行3間の南北棟建物である。柱間は梁行と桁行でそれぞれ等しい。棟方向についてはN26.0° Eである。柱穴からの出土遺物は、ほとんどが土師器片であった。須恵器片が1点だけ出土した。末期に属するものと考えられる。

S B 66 (第30図)

梁行2間、桁行3間の南北棟建物である。柱間は不等間である。棟方向はN39.0° Eである。柱穴からの出土遺物は、土師器片と製塩土器片である。末期に属するものと思われる。

S B 379 (第32図)

梁行2間、桁行3間の東西棟建物で、柱間は梁行と桁行でそれぞれ等しくなっている。梁行の柱穴は、一ヶ所検出できなかった。柱穴からの出土遺物は、ほとんどが土師器片であった。棟方向はE13.0° Sである。末期に属するものと考えられる。

S B 385 (第37図)

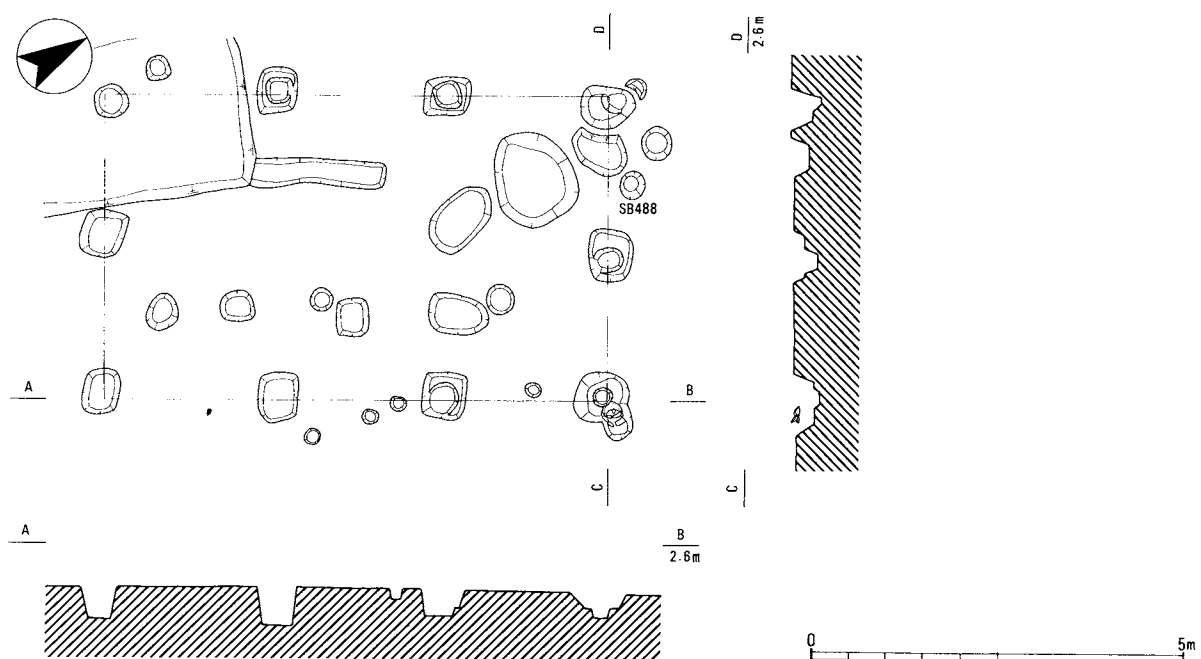
梁行2間、桁行3間の東西棟建物である。柱間は不等間である。棟方向はE27.0° Sである。柱穴からは土師器片等の出土を確認した。末期に属するものと考えられる。

S B 386 (第37図)

梁行2間、桁行3間の南北棟建物である。柱間は梁行と桁行でそれぞれ等しくなっている。柱穴からの出土遺物は、ほとんどが土師器片であった。棟方向はN21.0° Eである。末期に属するものと考えられる。

S B 387 (第37図)

梁行2間、桁行3間の東西棟建物である。柱間は等間である。柱穴からの出土遺物は、ほとんどが土師器片であった。棟方向はE25.0° Sである。末期に属するものと考えられる。



第28図 SB488実測図 (1:100)

S B 389 (第37図)

梁行1間、桁行2間の南北棟建物、柱間は不等間である。棟方向はN36.5° Eである。柱穴からは土師器片等の出土を確認した。S K 354、S B 387 に切られる。末期に属するものと考えられる。

S B 390 (第37図)

梁行1間、桁行3間の東西棟建物である。柱間は梁行と桁行でそれぞれ等しくなっている。棟方向はE20.5° Sである。柱穴からは土師器片等の出土を確認した。末期に属するものと考えられる。

S B 490 (第36図)

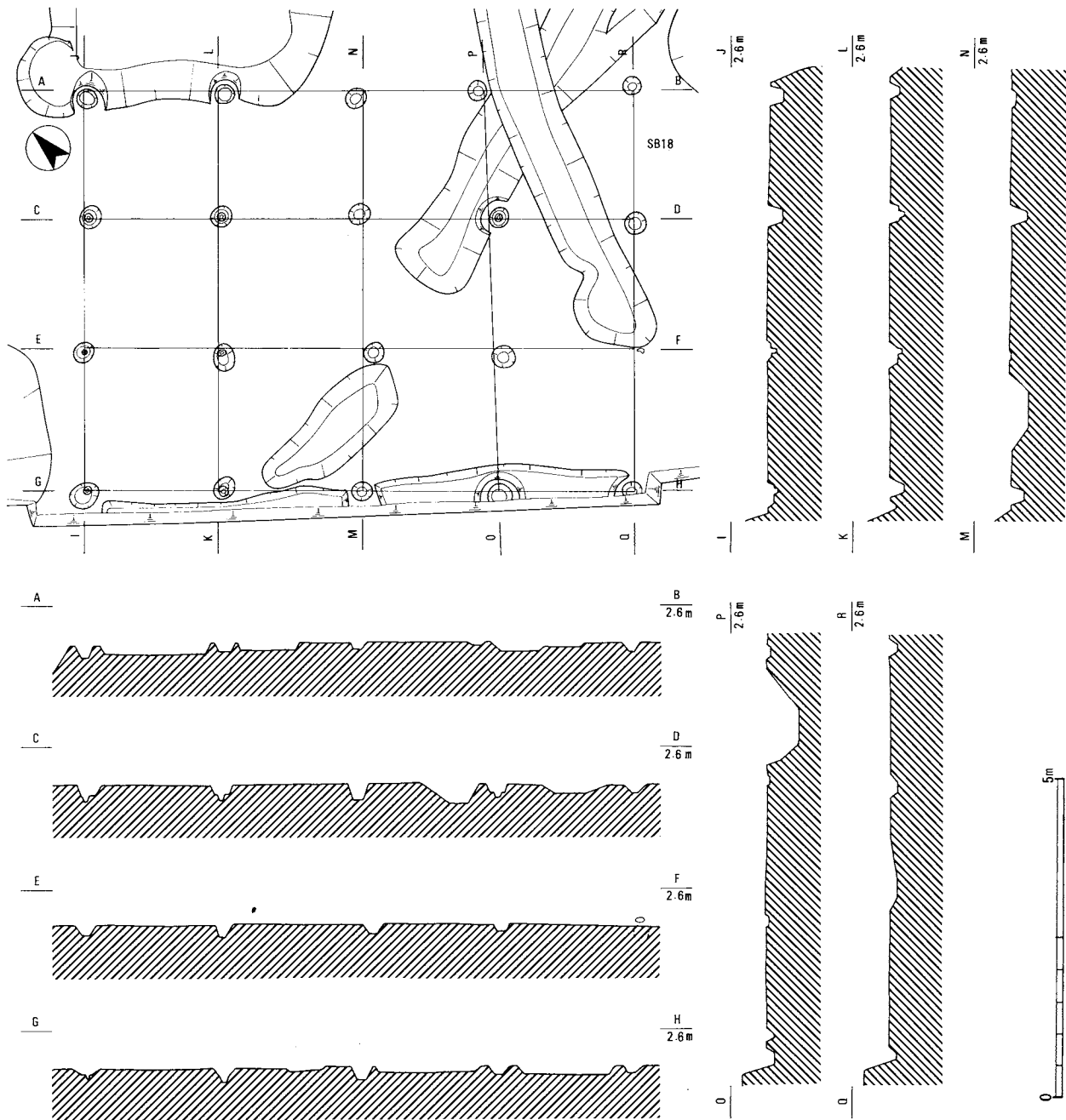
梁行2間、桁行2間で、柱間は不等間である。棟方向はN10.5° Eである。末期に属するものと考えられる。

S B 375 (第36図)

梁行2間、桁行3間の南北棟建物で、柱間は不等間である。棟方向はN45.5° Eである。

S B 381 (第36図)

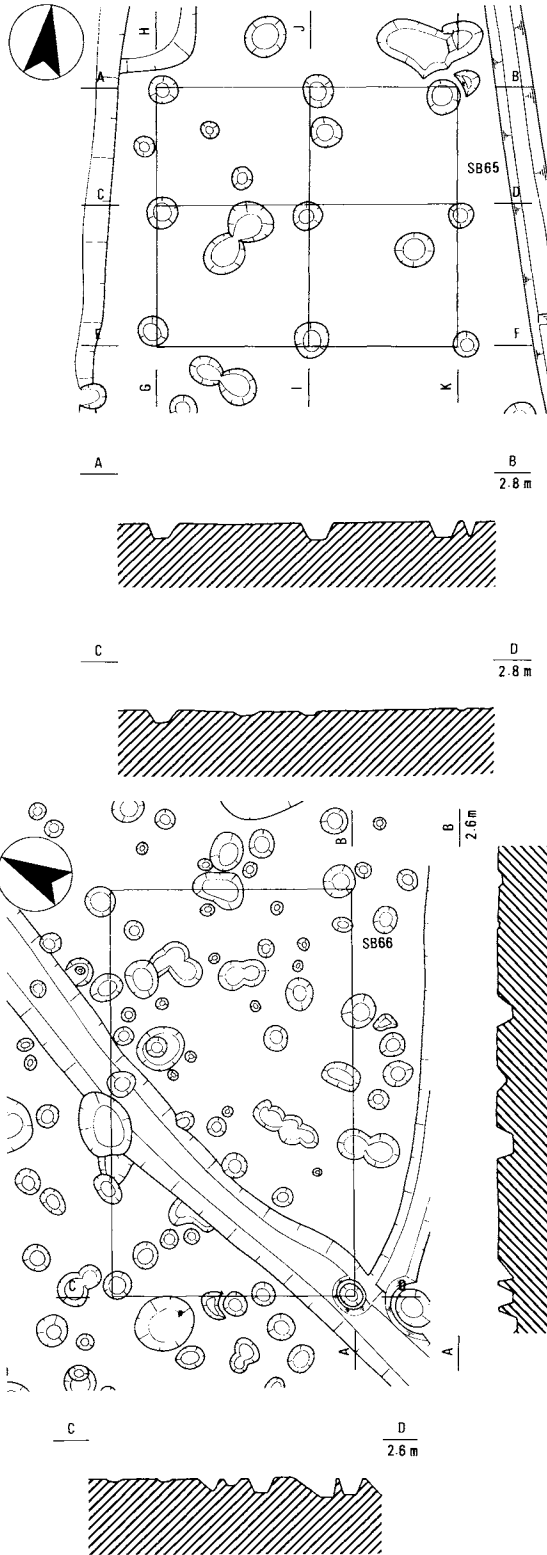
梁行1間、桁行3間の東西棟建物である。柱間は不等間である。棟方向はE22.0° Sである。



第29図 SB18実測図 (1 : 100)

S B 382 (第33図)

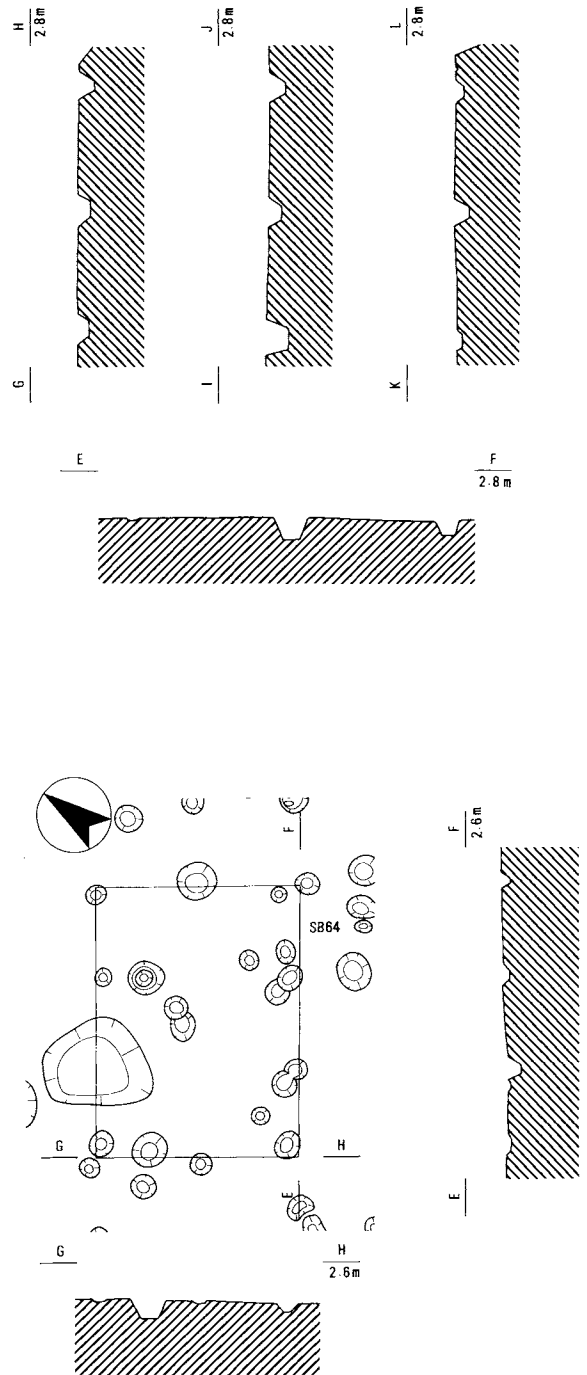
梁行2間、桁行4間の東西棟で総柱建物である。
柱間は不等間である。棟方向はE8.5° Sである。



土坑

S K 6 (第38図)

平面形はほぼ円形で、長軸4.3m、短軸3.6m、深さ
0.57~0.65m である。遺物はほとんどが底部近くか
らの出土で、土師器甕・杯、ロクロ製土師器皿、山



第30図 SB64・65・66実測図 (1:100)

茶碗片、須恵器片、加工円盤、斎串、植物種実片、牛骨³などを確認した。斎串や牛骨などの出土は、何か特異な感を受ける。末期に属するものと思われる。

S K 26 (第56図)

平面形は方形である。長軸5.83m、短軸4.05m、深さ0.06~0.10mである。遺物の出土は少量である。土師器甕片・皿片などを確認した。

S K 45 (第39図)

平面形は不整楕円形で、長軸2.92m、短軸2.54m、深さ0.61~0.63mである。土師器皿、ロクロ製土師器皿が大量に出土した。これら以外には須恵器片、山茶碗片、製塩土器片、瓦器片、瓦片、土錘などの出土を少量ではあるが確認した。末期に属するものと考えられる。

S K 48 (第38図)

平面形は不整楕円形で、長軸2.08m、短軸1.83m、深さ0.48~0.50mである。土師器甕、山茶碗底部片等を少量ではあるが確認した。末期に属するものと考えられる。

S K 215 (第40図)

平面形は方形を呈し、半分以上が調査区外に延びる。調査区内で少し落ち込む。長軸5.4m、短軸4.1m、

深さ0.13~0.68mである。土師器杯・皿、山茶碗、山皿を確認した。末期に属するものと考えられる。

S K 324 (第40図)

平面形は円形で、径2.45m、深さ0.57~0.63mである。遺構埋土は5層に分かれる。遺物は少量の出土を確認した。山茶碗片を確認した。末期に属するものと考えられる。

S K 341 (第40図)

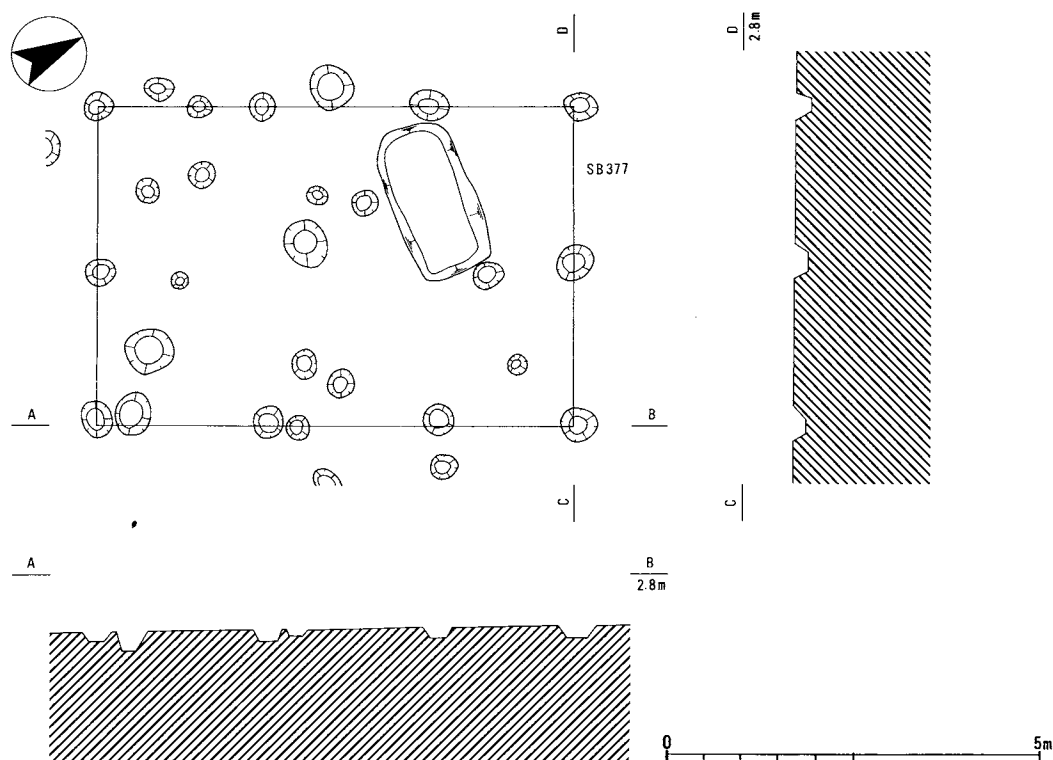
平面形は楕円形で、長軸3.5m、短軸2.85m、深さ0.71~0.80mである。遺構埋土は上から2層に分かれる。土師器皿片、山茶碗片などを確認した。

S K 450 (第38図)

平面形は不整方形で、長軸3.28m、短軸1.5m、深さ0.25~0.29mである。遺構埋土は上から2層に分かれる。土師器皿・高杯片、ロクロ製土師器皿片、須恵器片などを確認した。末期に属するものと考えられる。

S K 471 (第51図)

平面は方形である。半分以上が調査区外に延びる。長軸2.55m、短軸1.68m、深さ0.22~0.25mである。遺構埋土は上から2層に分かれる。土師器高杯片、山茶碗片などを確認した。S D 472 を切り、S D



第31図 SB377実測図 (1:100)

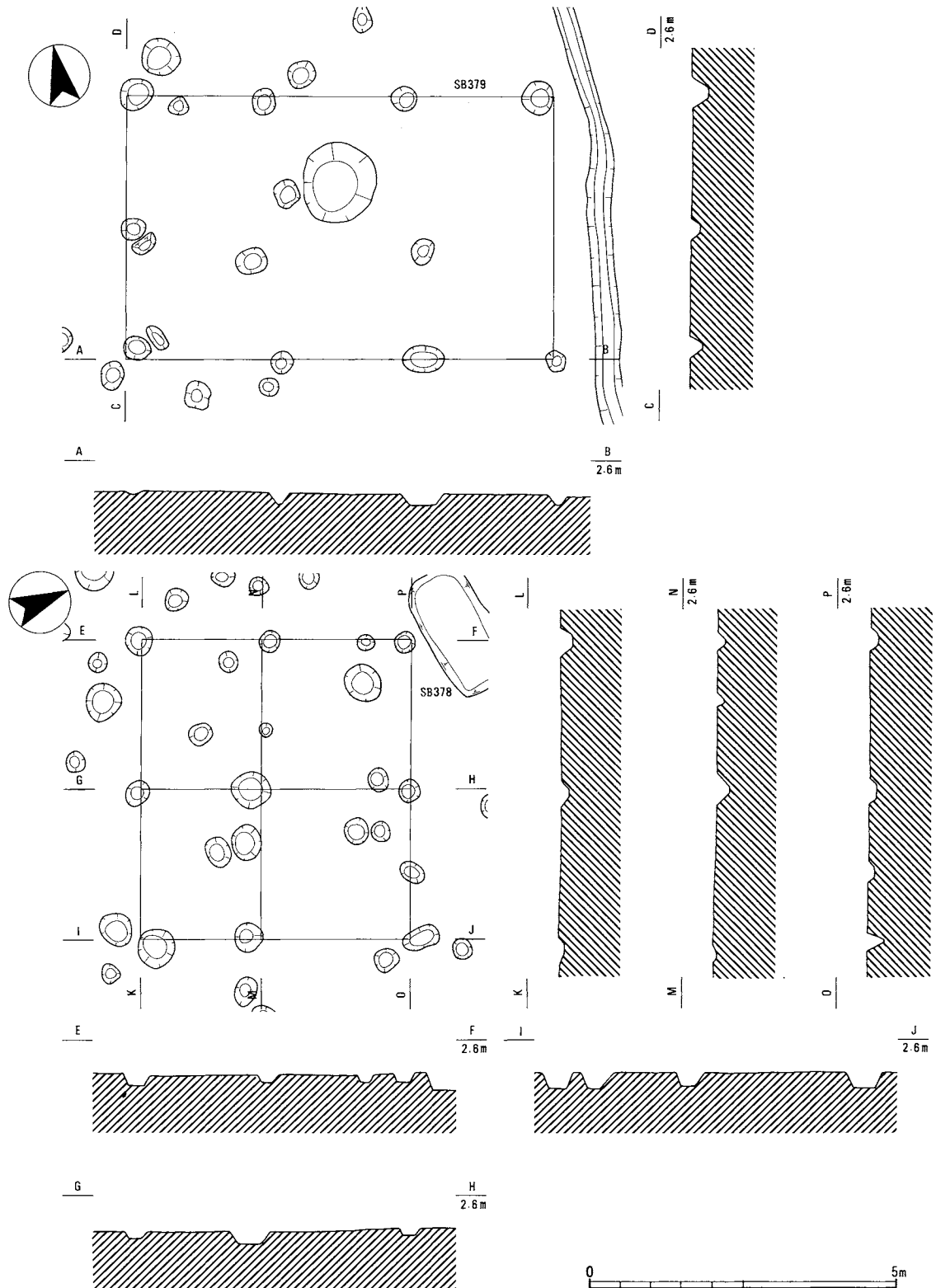
467 に切られている。末期に属するものと考えられる。

井戸

S E 47 (第41図)

木組方形縦板組横棧型井戸。掘形は楕円形で、長

軸3.12m、短軸2.94m、深さ0.94m である。井側の
 一辺は0.9mである。横棧は包込み柄組み。出土土器
 はほとんどが土師器片であった。土師器杯・皿や須
 恵器杯・甕片を確認した。前期に属するものと思わ
 れる。



第32図 SB378・379実測図 (1:100)

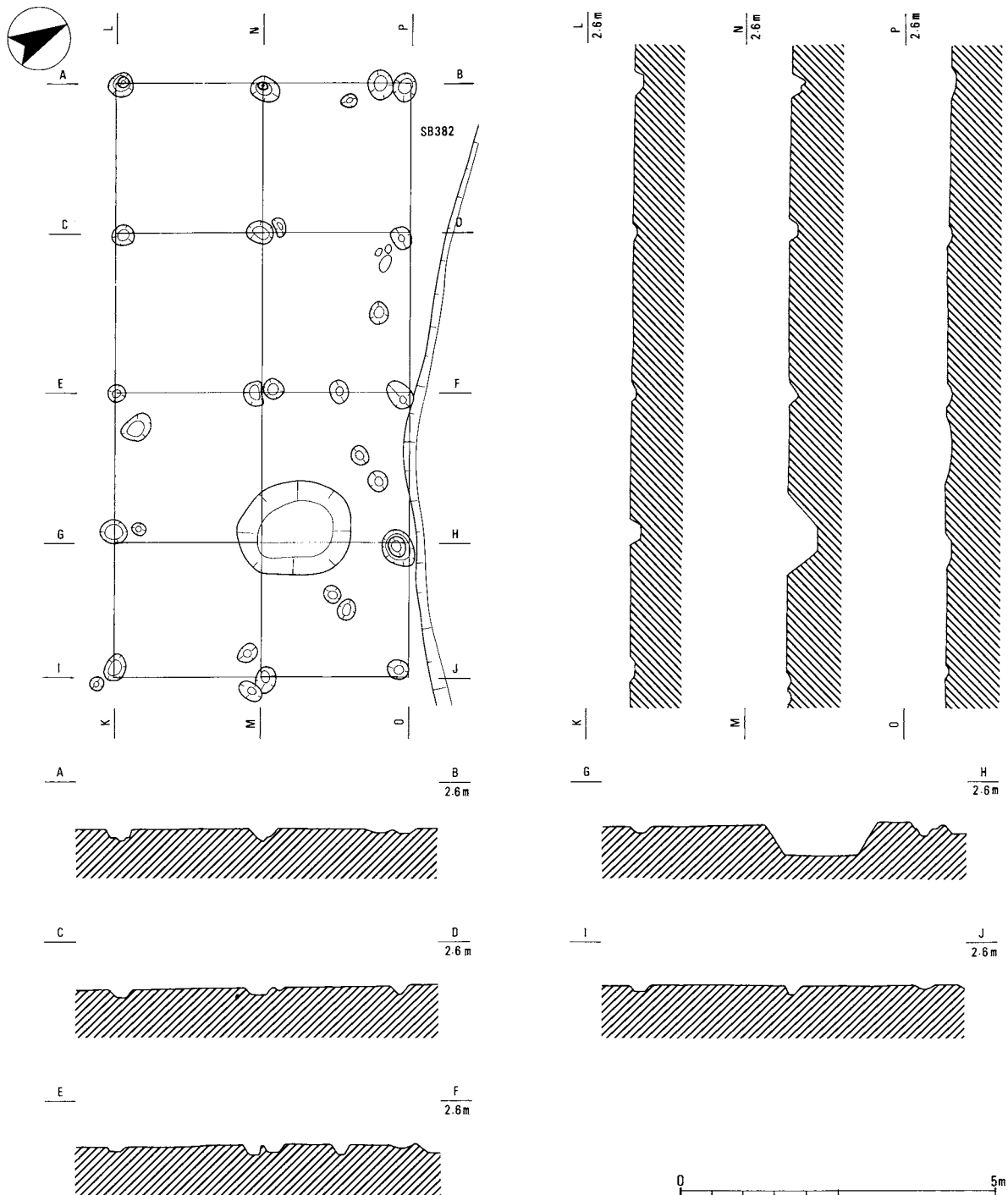
S E 353 (第42図)

木組方形縦板組横棧型井戸。掘形は円形、径1.83 m、深さ0.71~0.73mの規模である。横棧は目違い柄組みであった。井側底部で曲物を1点確認した。土師器甕・皿片や多量の製塩土器が出土した。前期に属するものと思われる。

S E 363 (第42図)

木組方形縦板組横棧型井戸か。柄穴が一方の横棧

だけに施され、それらが組み合わさる。「片欠き柄組み」とでも呼称しようか。縦板については一部残存するのみである。掘形は楕円形を呈し、長軸2.43 m、短軸2.13 m、深さ0.55~0.63 mである。井側は一边0.8 mである。遺構検出面直近と井側内で土師器皿・甕片の出土を確認した。土器内面に「九字」[㊦]を表すドーマンの線刻がある土師器皿が出土している。



第33図 SB382実測図 (1:100)

S E 451 (第42図)

掘形は円形で、径1.86m、深さ0.39～0.50mである。底部には長軸0.92m、短軸0.55m、深さ0.15mの楕円形の掘り込みが確認できた。曲物などの抜き取り痕である可能性もあるが、現状としては、素掘り井戸と考える。遺構検出面に近いレベルで土師器杯・皿・甕・甑・鍋・高杯片や須恵器片が出土した。前期に属するものと思われる。

S E 54 (第43図)

横板組+縦板組横棧型の木組方形井戸。掘形は不整楕円形で、長軸1.68m、短軸1.52m、深さ0.75～1.06mである。井側は、一辺0.6mを測り、南北方向は縦板組の一部が残存、東西方向は縦4段の横板組で、横板に枅穴を穿ち横棧を挿入している。井側底部東側には曲物が1点すえられていた。出土土器については、土師器皿片、須恵器片、山茶碗などを確認した。末期に属するものと思われる。

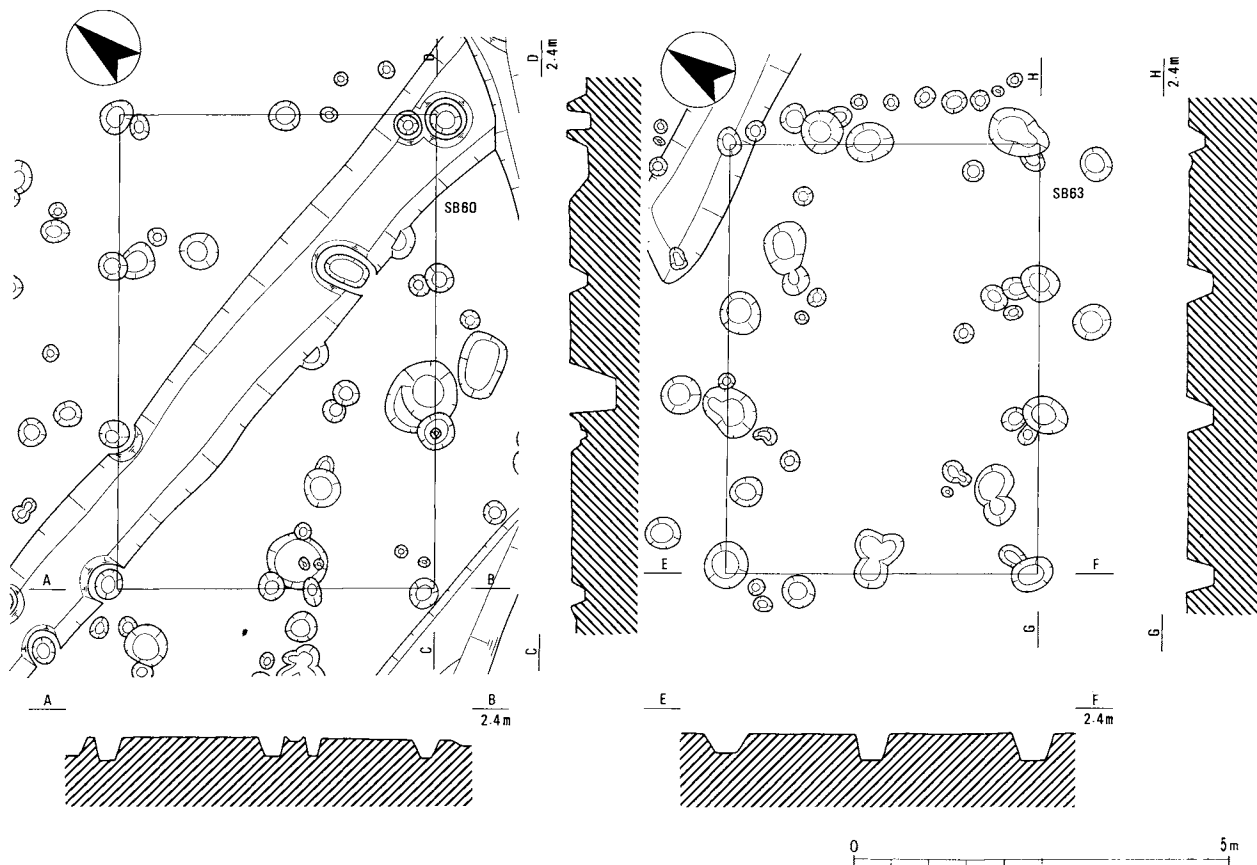
S E 217 (第43図)

木組方形井戸。現状では縦2段の横板組が明確なだけであるが、1段目には横棧を挿入する枅穴が存

在することや東側の薄板などから横板組+縦板組横棧型である可能性が考えられる。縦板や横棧は腐食か抜き取られたのかもしれない。掘形は楕円形で、長軸1.83m、短軸1.52m、深さ0.76～0.84mである。遺構検出面から0.5m下で井側を確認した。井側底部には曲物が1点すえられていた。出土土器については、土師器皿片、山茶碗片などを確認した。末期に属するものと思われる。

S E 218 (第43図)

木組円形井戸。丸太くり抜き+曲物積み上げ型。掘形は不整楕円形で、長軸1.53m、短軸1.13m、深さ0.29～1.18mである。遺構南端部分はテラス状になり、そこから落ち込む形になる。遺構検出面から0.3m下で井側を確認した。上から半円状のものを2つ合わせた丸太くり抜きの井戸枠1段、そして曲物が2段に積み上げられている。井側と掘形の間には石が詰められていた。また、曲物の直ぐ外側には支柱と考えられる4本の棒が垂直方向に打ち込まれていた。出土土器は、土師器皿・甕・鍋片、山茶碗片などを確認した。末期に属するものと思われる。



第34図 SB60・63実測図 (1:100)

S E 323 (第43図)

木組方形井戸。横板組+縦板組横棧型と考えられる。横板組は縦2段で、上から2段目に柄穴が片欠きの状態で施され、横棧が挿入されている。縦板については東側部分だけで残存している。もう一方については腐食か抜き取りがあったのだろうか。掘形は円形で、径2.86m、深さ0.69~0.80mである。遺構検出面から0.3m下で長方形の井側を確認し、長辺が横板組、短辺が縦板組であった。2段目の横板上面よりやや低い位置で曲物を確認した。曲物の周辺には石が込められており、曲物自体を留めるためのものなのだろうか。出土土器については、土師器皿片、須恵器壺片、山茶碗片などを確認した。末期に属するものと思われる。

S E 337 (第44図)

木組円形井戸。現状では曲物積み上げ型と考えられる。掘形楕円形を呈し、長軸1.61m、短軸1.28m、深さ0.97~1.02mである。底部で、上から大小の順で曲物を2段確認した。出土土器はほとんどが土師器片であった。土師器皿片や灰釉陶器片を確認した。末期に属するものと思われる。

S E 345 (第44図)

木組方形井戸。縦板や横棧は一部しか残存していないが木組は存在したのだろう。縦板組横棧型+曲物積み上げ型の複合型であったのだろう。掘形は楕

円形で、長軸1.79m、短軸1.51m、深さ0.12~0.15mの浅い掘り込みがあり、その中央部には径1m、深さ0.9mの深い掘り込みを確認した。そこには方形の井戸枠、その直下に曲物が上から大中小の順で3個の曲物が積み上げられていた。出土土器は土師器皿・甕片、ロクロ製土師器皿片、山茶碗片などが出土している。末期に属するものと思われる。

S E 357 (第44図)

木組方形井戸。縦板や横棧はごく一部しか残存していないが縦板組横棧型であったことが窺える。掘形は円形を呈し、径1.35m、深さ1.02mである。底部には曲物を1点確認した。曲物内埋土から土師器皿片、ロクロ製土師器皿片や木製挽歯横櫛が出土した。末期に属するものと思われる。

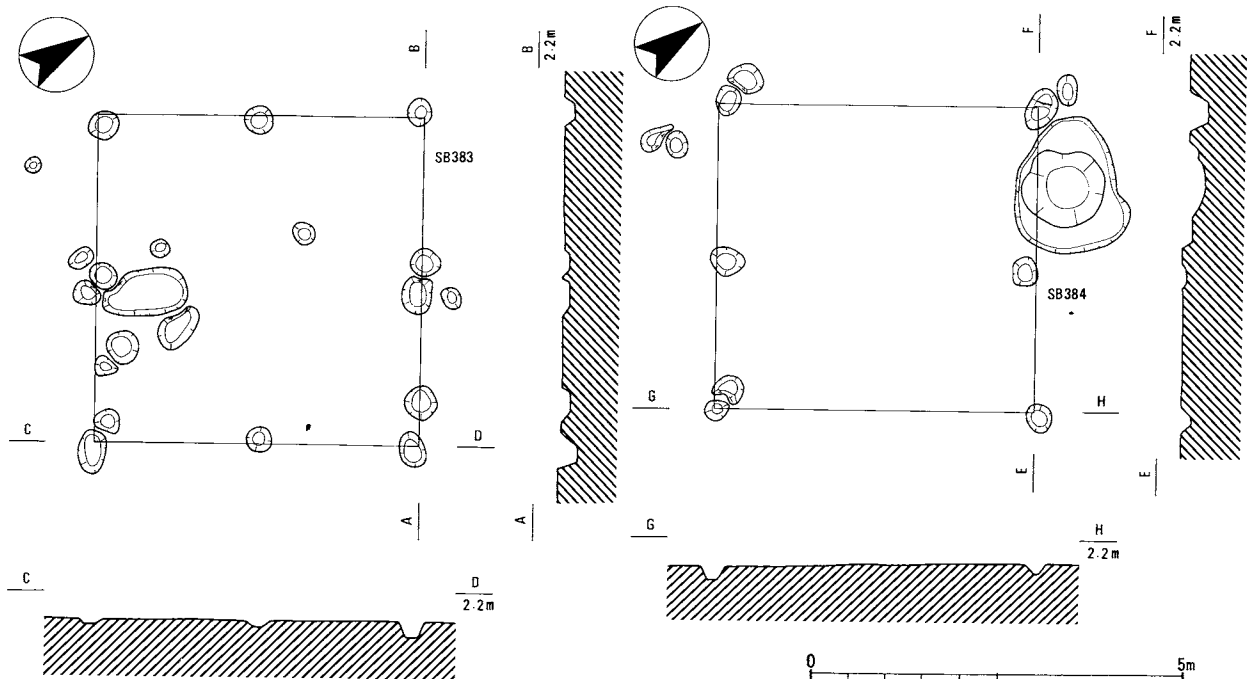
S E 358 (第44図)

木組方形井戸。縦板や曲物は一部しか残存していないが縦板組無支持型であったことが窺える。横棧の有無は不明である。掘形は楕円形で、長軸1.72m、短軸1.53m、深さ0.88~1.04mである。井側底部中央に長軸0.96m、短軸0.75m、深さ0.4mの楕円形の掘り込みを確認した。出土土器は、土師器甕片などが出土した。末期に属するものと思われる。

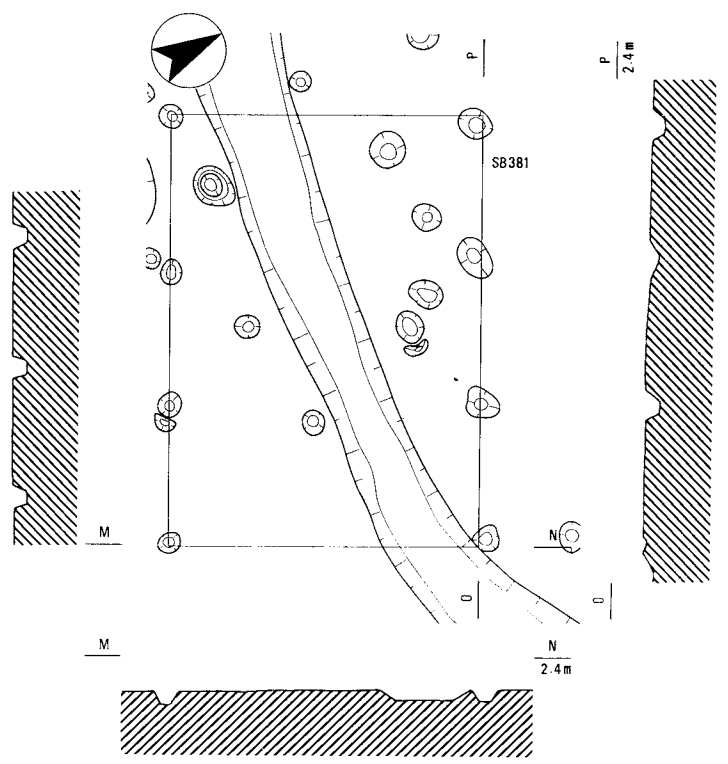
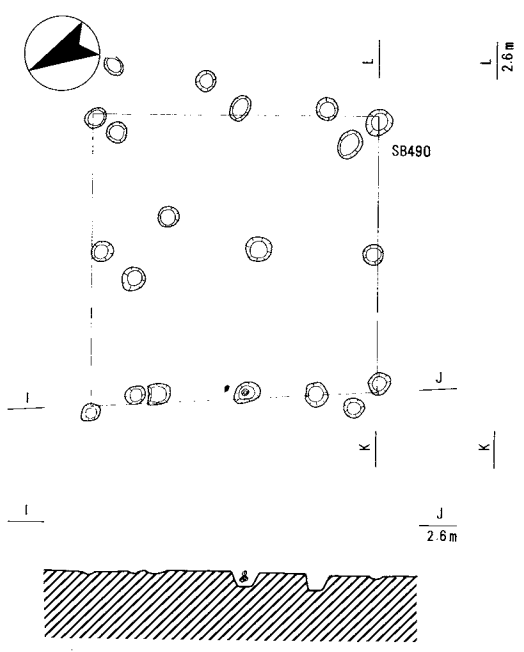
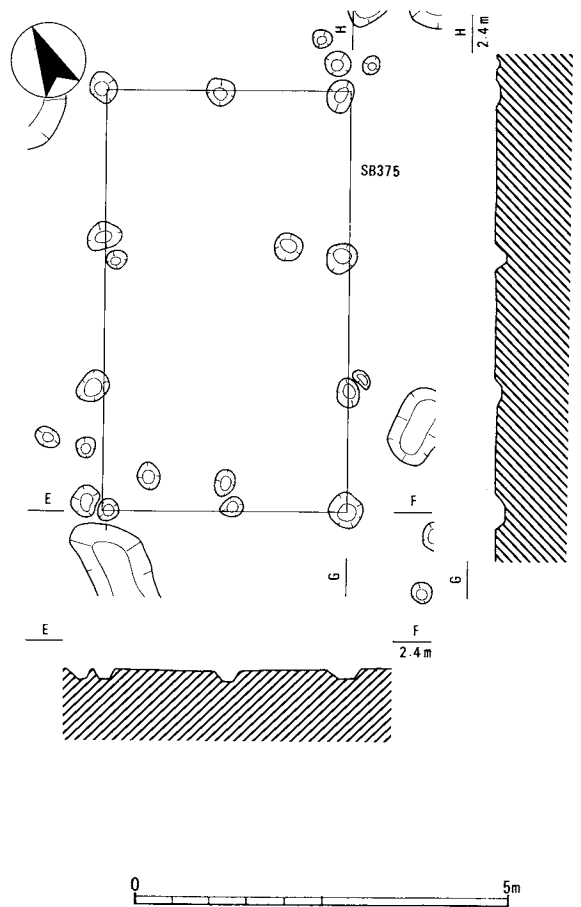
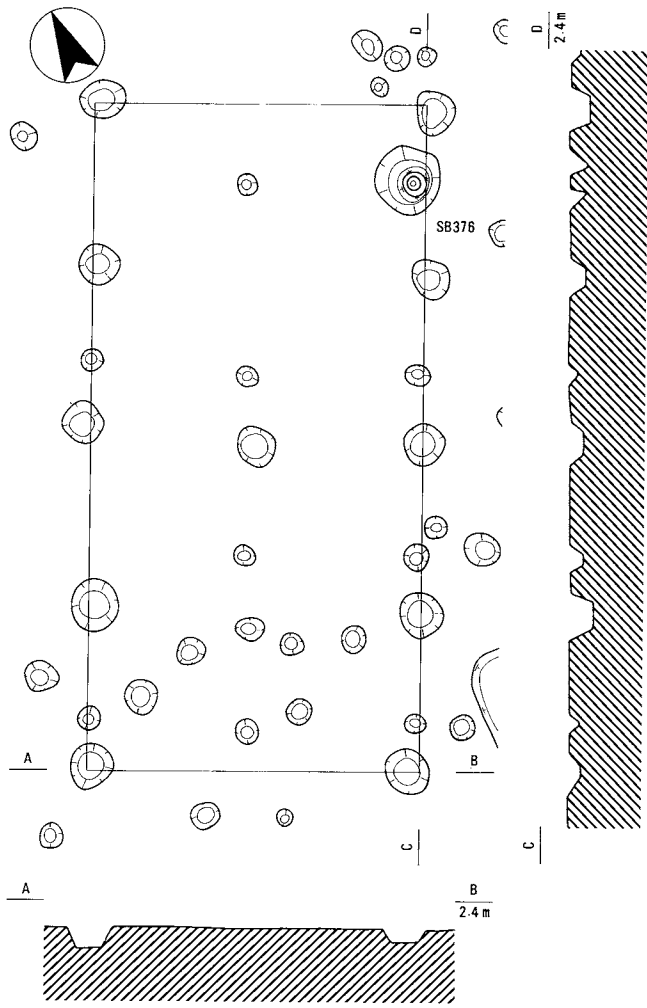
墓墳

S X 318 (第44図)

平面形は楕円形を呈している。長軸0.71m、短軸



第35図 SB383・384実測図(1:100)



第36图 SB375・376・381・490实测图 (1:100)

0.51m、深さ0.23~0.26mである。遺構検出面より上で山茶碗2点が重なって出土した。これらは蔵骨器として使用されたものであろう。末期に属するものと考えられる。

S X 419 (第44図)

平面形は不整形な楕円形を呈している。長軸1.15m、短軸0.53m、深さ0.17~0.22mである。遺構北端底部に山茶碗が1点すえられていた。これ以外にも土師器片が少量遺構埋土から出土している。末期

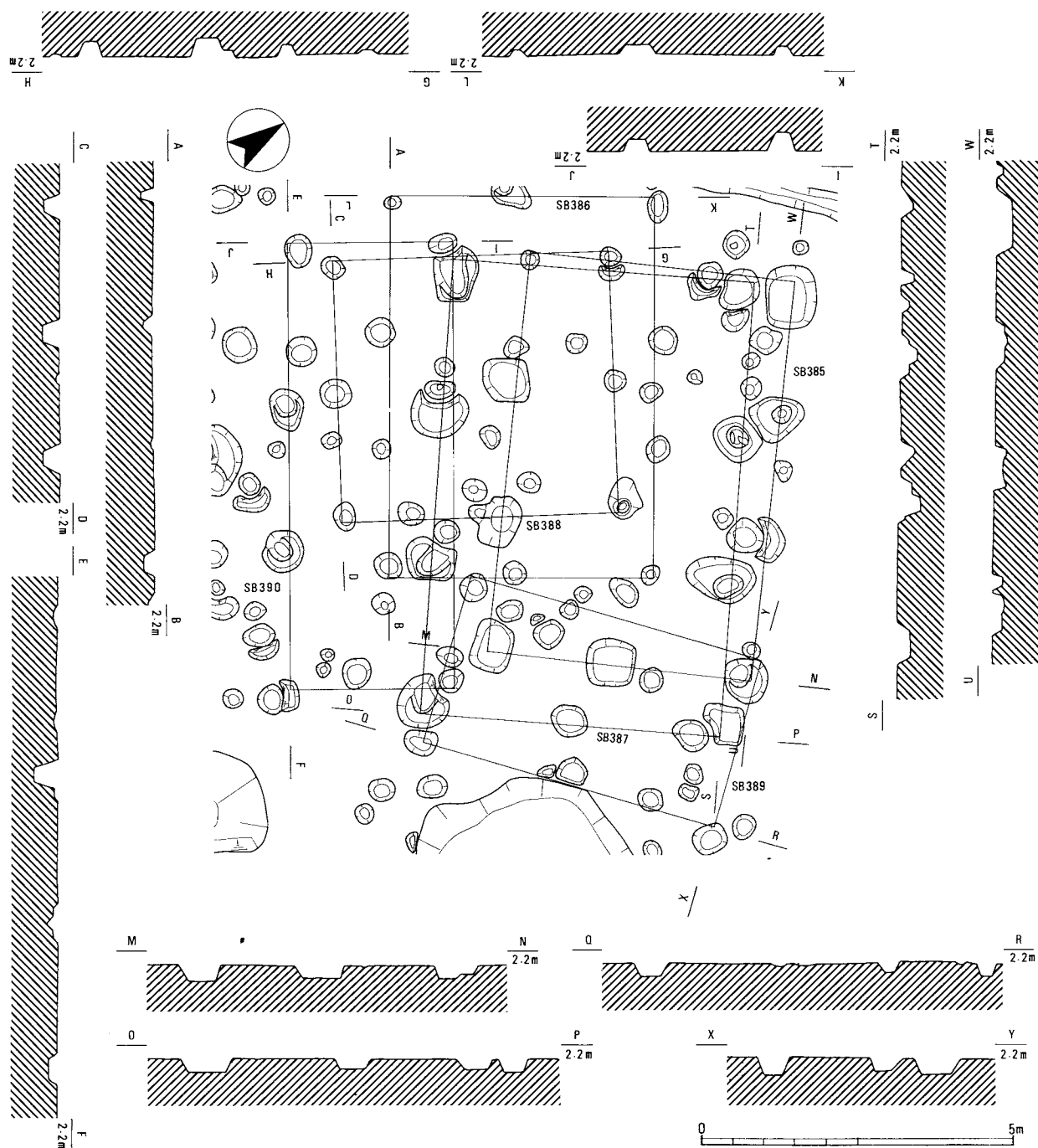
に属するものと思われる。

鎌倉時代

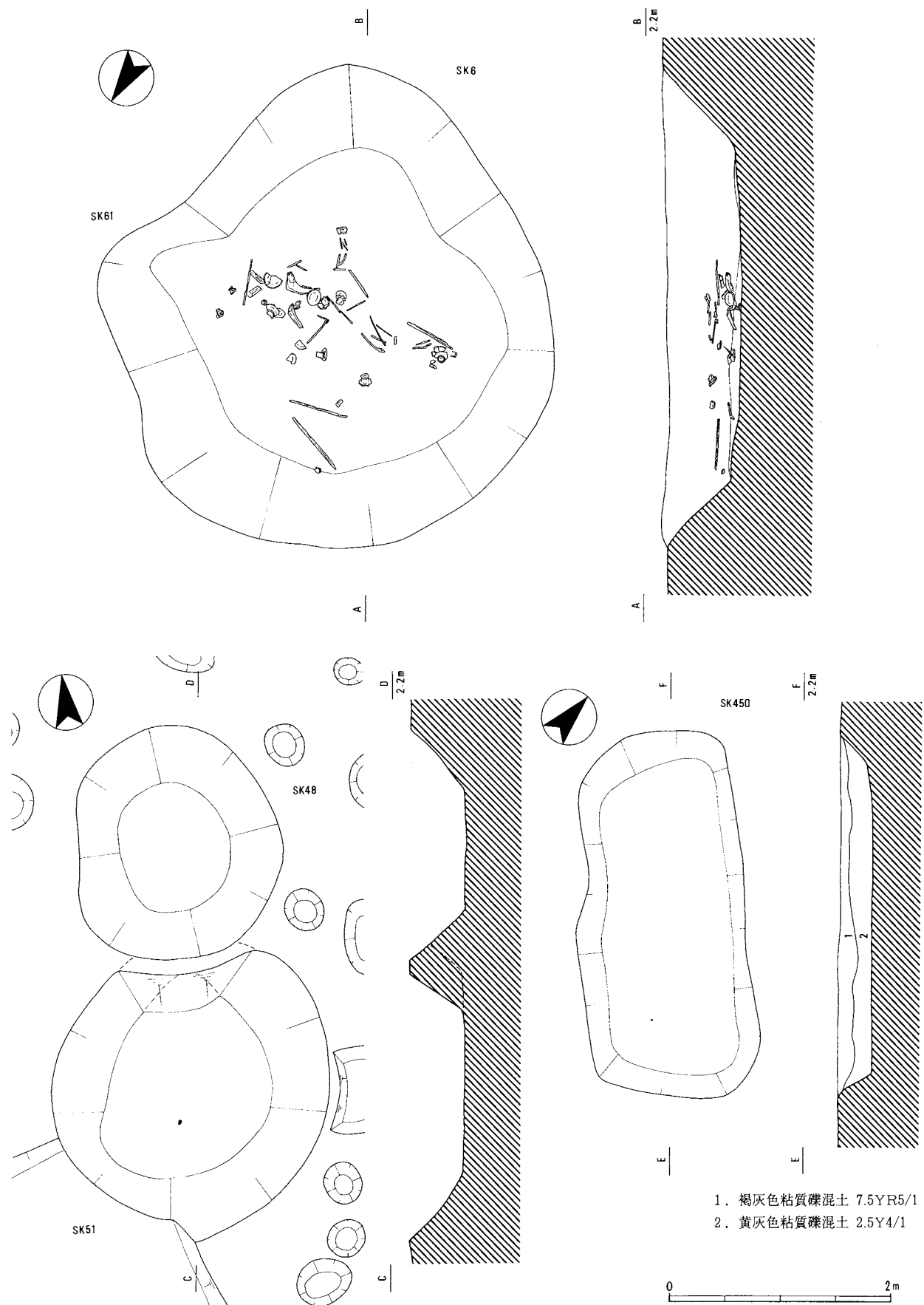
掘立柱建物

S B 247 (第46図)

梁行1間以上、桁行3間、柱間は不等間である。棟方向はN3.0°Eである。柱穴からは遺物の出土はなく遺構形態などから判断した。



第37図 SB385・386・387・388・389・390実測図(1:100)



第38图 SK6·48·51·61·450实测图 (1:50)

S B 248 (第46図)

梁行1間以上、桁行3間以上で、柱間は梁行と桁行でそれぞれ等しい。棟方向はN27.0° Eである。柱穴からは遺物の出土はなく、遺構形態などから判断した。

S B 249 (第46図)

梁行3間、桁行4間の南北棟の総柱建物である。柱間は梁行と桁行でそれぞれ等しい。棟方向は、N1.0° Eである。柱穴からは遺物の出土はなく、遺構形態などから判断した。

S B 250 (第47図)

梁行2間、桁行3間の南北棟建物である。柱間は不等間である。棟方向はN1.0° Eである。柱穴からは遺物の出土はなく、遺構形態などから判断した。

S B 251 (第47図)

梁行2間、桁行3間の東西棟建物である。柱間は不等間である。棟方向はE9.5° Sである。柱穴からは遺物の出土はなく、遺構形態などから判断した。

S B 252 (第47図)

梁行2間、桁行3間の東西棟建物で、柱間は不等

間である。棟方向はE8.0° Nである。柱穴からは遺物の出土はなく、遺構形態などから判断した。

S B 253 (第47図)

梁行2間、桁行2間以上の南北棟建物か。柱間は不等間である。棟方向はN29.0° Eである。柱穴からは遺物の出土はなく、遺構形態などから判断した。

S B 255 (第48図)

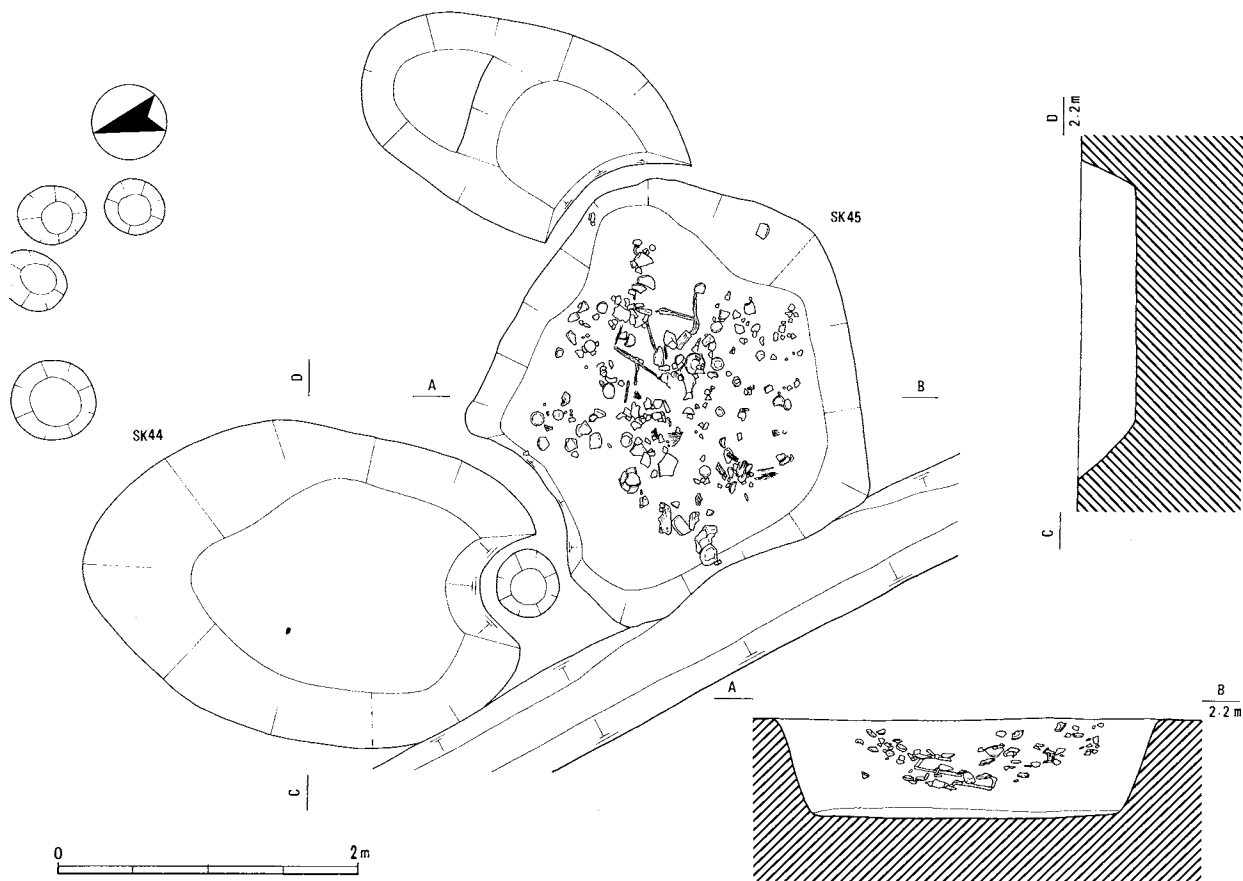
梁行2間、桁行2間以上の南北棟建物か。柱間は等間。棟方向はN1.0° Wである。柱穴からは遺物の出土はなく、遺構形態などから判断した。

S B 256 (第48図)

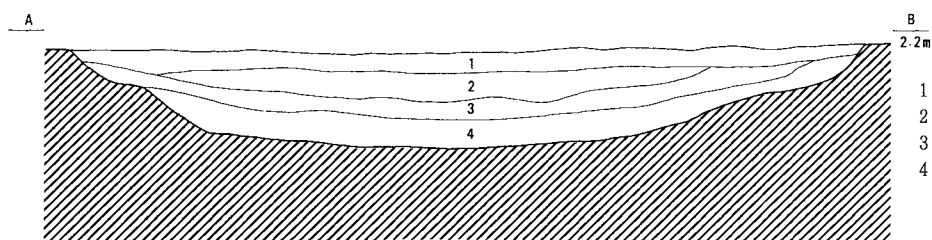
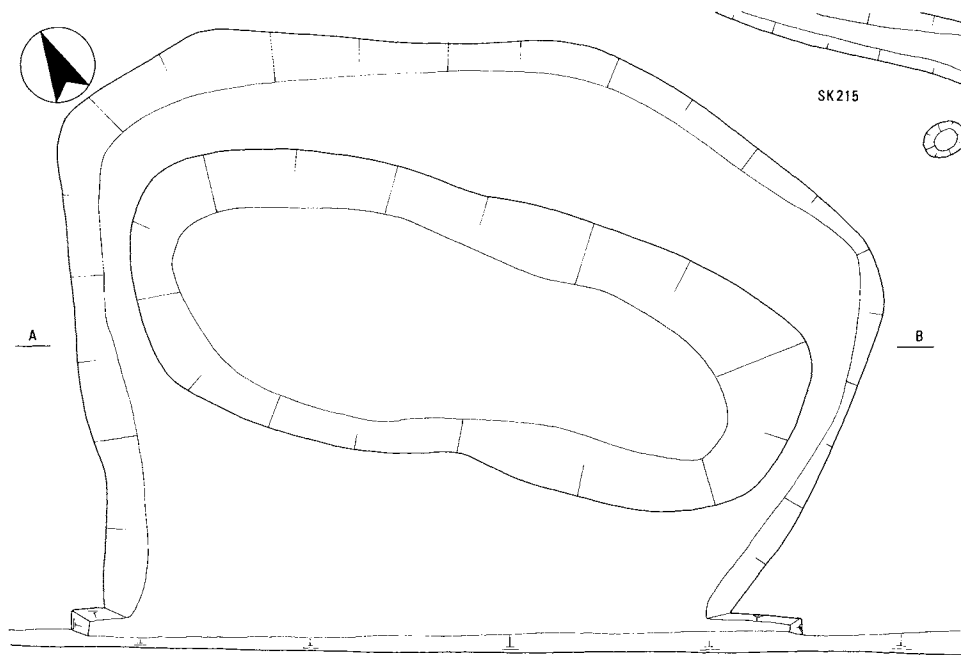
梁行2間、桁行3間の東西棟建物である。柱間は不等間である。棟方向はE5.5° Sである。柱穴からは遺物の出土はなく、遺構形態などから判断した。

S B 259 (第48図)

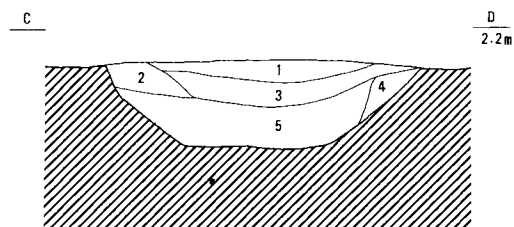
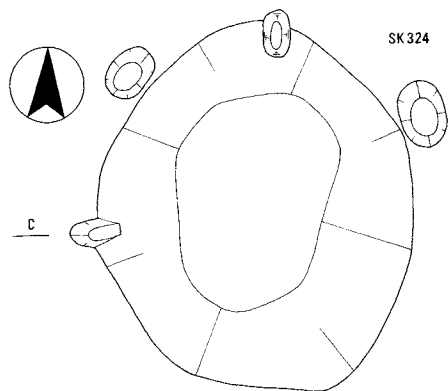
梁行1間以上、桁行2間の南北棟建物である。柱間は不等間である。棟方向はN2.5° Eである。柱穴からは遺物の出土はなく、遺構形態などから判断した。



第39図 SK44・45実測図 (1:50)

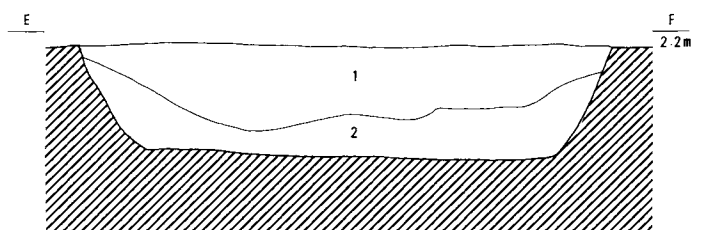
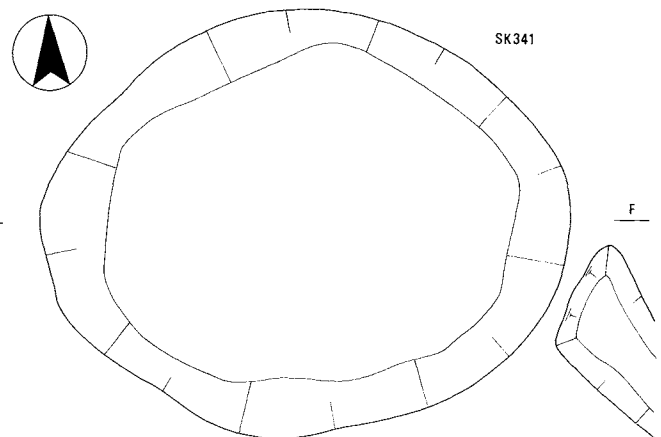


1. 暗灰黄色粘質土 2.5Y4/2
2. 暗灰黄色粘質礫混土 2.5Y5/2
3. 暗オリーブ褐色粘質礫混土 2.5Y3/3
4. 黒褐色砂礫土 10YR3/2



1. 褐灰色粘質砂混土 10YR4/1
2. 灰黄褐色粘質砂混土 10YR4/2
3. 黒褐色粘質礫混土 2.5Y3/1
4. 灰オリーブ色粘質礫混土 7.5Y4/2
5. 黒褐色粘質礫混土 10YR3/1

0 2m



1. 灰褐色粘質砂礫混土 5YR4/2
2. 黄灰色粘質砂礫混土 2.5Y4/1

第40図 SK215・324・341実測図 (1:50)

S B 260 (第49図)

梁行2間、桁行3間の東西棟建物である。柱間は不等間である。棟方向はE33.0° Sである。柱穴からは遺物の出土はなく、遺構形態などから判断した。

S B 261 (第49図)

梁行2間、桁行2間の総柱建物である。柱間は不等間である。棟方向はE5.0° Nである。柱穴から

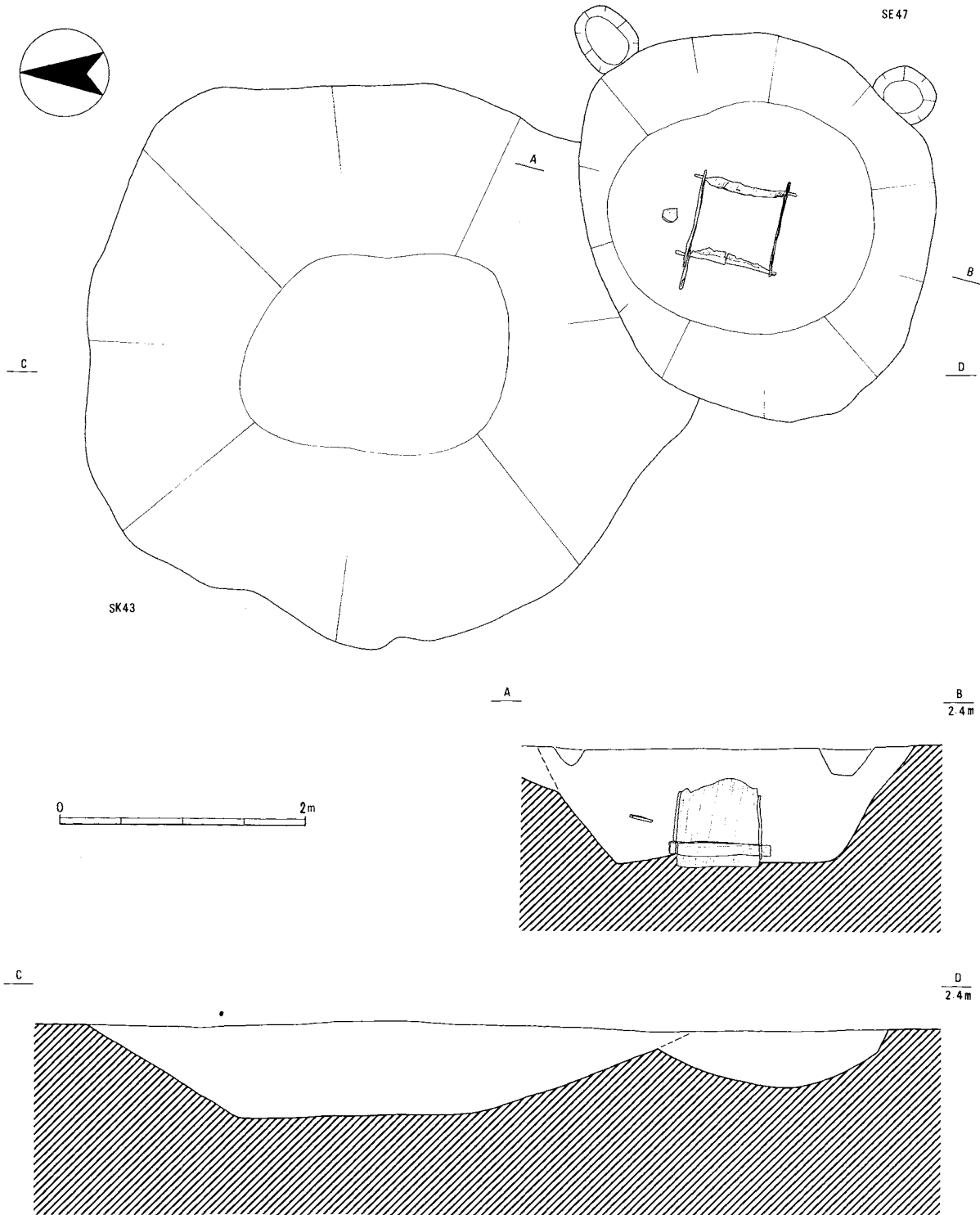
は遺物の出土はなく、遺構形態などから判断した。

S B 262 (第48図)

梁行2間、桁行3間の東西棟建物である。柱間は不等間である。棟方向はE18.0° Sである。柱穴からは遺物の出土はなく、遺構形態などから判断した。

S B 264 (第48図)

梁行2間、桁行3間の南北棟建物である。柱間は



第41図 SK43, SE47実測図 (1:50)

不等間である。棟方向はN21.5° Wである。柱穴からは遺物の出土はなく、遺構形態などから判断した。

S B 380 (第45図)

梁行2間、桁行3間の東西棟建物である。柱間は等間である。棟方向はE22.0° Sである。

S B 388 (第37図)

梁行2間、桁行2間。柱間は不等間である。棟方向はN18.5° Eである。

S B 491 (第45図)

梁行2間、桁行2間の南北棟建物である。柱間は不等間である。棟方向はN27.0° Eである。

土坑

S K 44 (第39図)

平面形は不整楕円形で、長軸3.03m、短軸2.08m、深さ0.57~0.63mである。調査区外に遺構が延び、本来の形は判然としない。出土遺物は、ほとんどは土師器片だが、山茶椀片なども若干確認した。

S K 220 (第50図)

平面形は不整楕円形で、長軸7.30m、短軸6.25m、深さ0.59~1.10mである。複数遺構の重複が考えられるが、土層断面の観察からは確認できなかった。出土遺物は、土師器皿・甕片、土器内面に漆が付着していた山皿、山茶椀片、陶器片などを確認した。

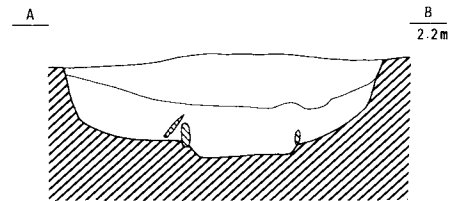
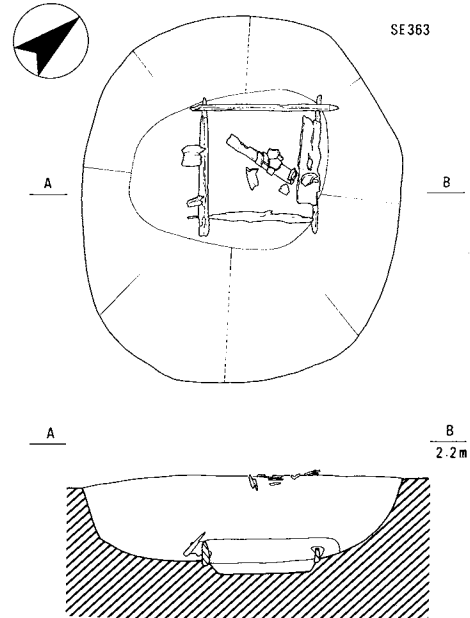
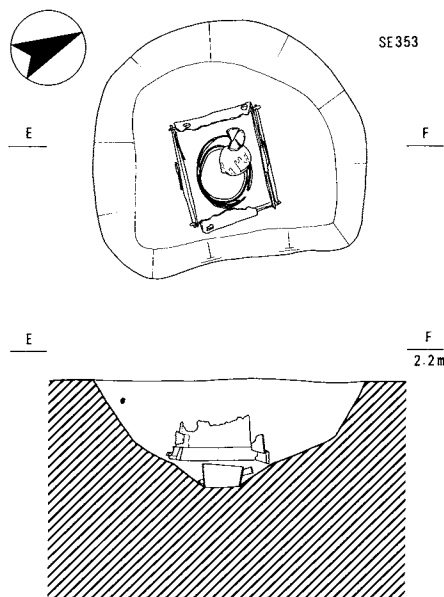
S K 223 (第50図)

平面形は楕円形である。長軸1.95m、短軸1.44m、

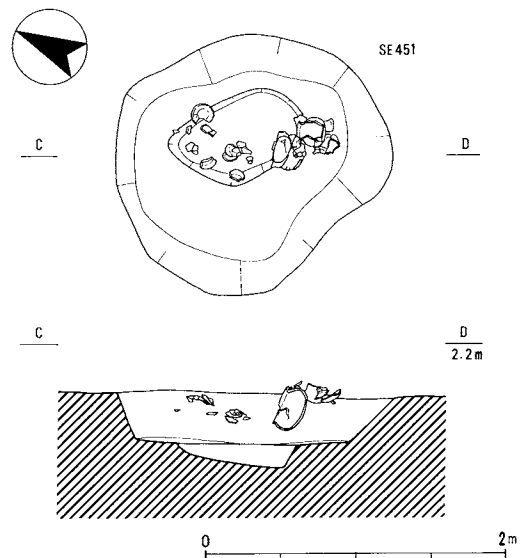
深さ0.51~0.57mの規模がある。土師器皿片、山茶椀片の出土を確認した。

S K 407 (第50図)

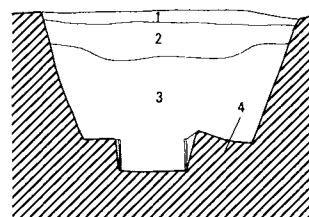
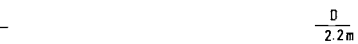
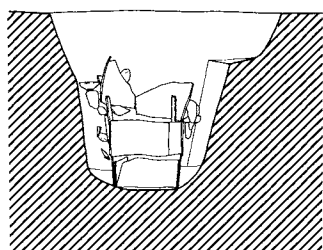
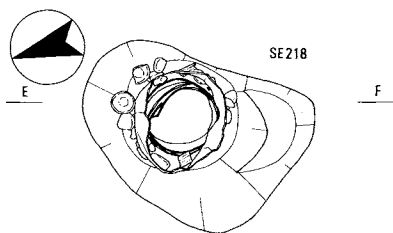
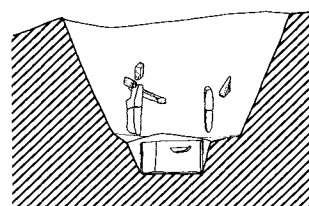
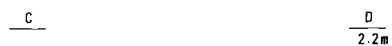
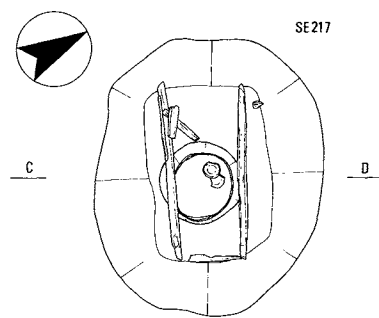
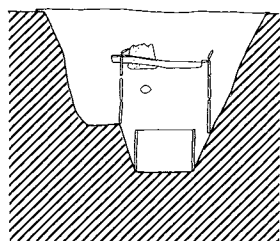
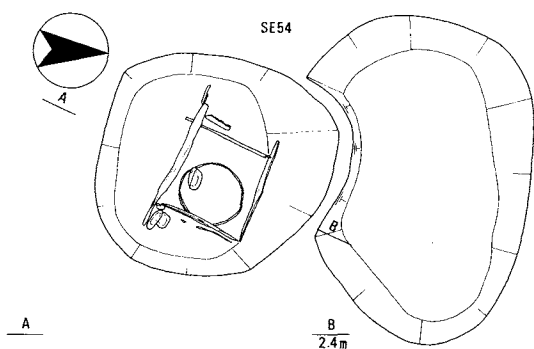
平面形は不整楕円形で、長軸2.07m、短軸1.59m、深さ0.69~0.76mの規模がある。出土遺物は、土師



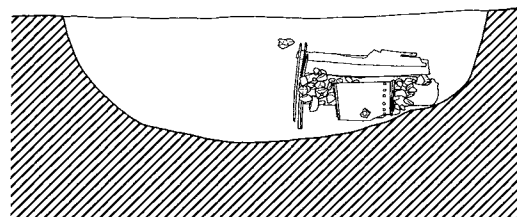
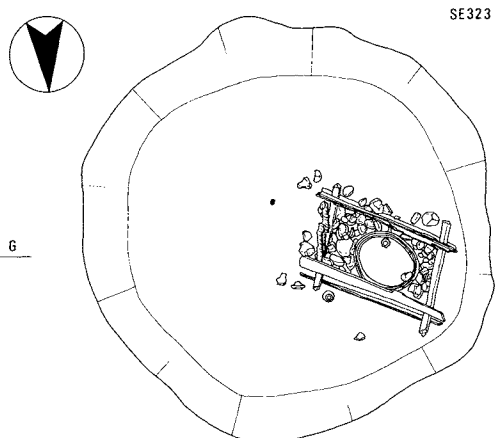
- 1. 黒褐色土 10YR3/2
- 2. 褐灰色粘質土 10YR4/1



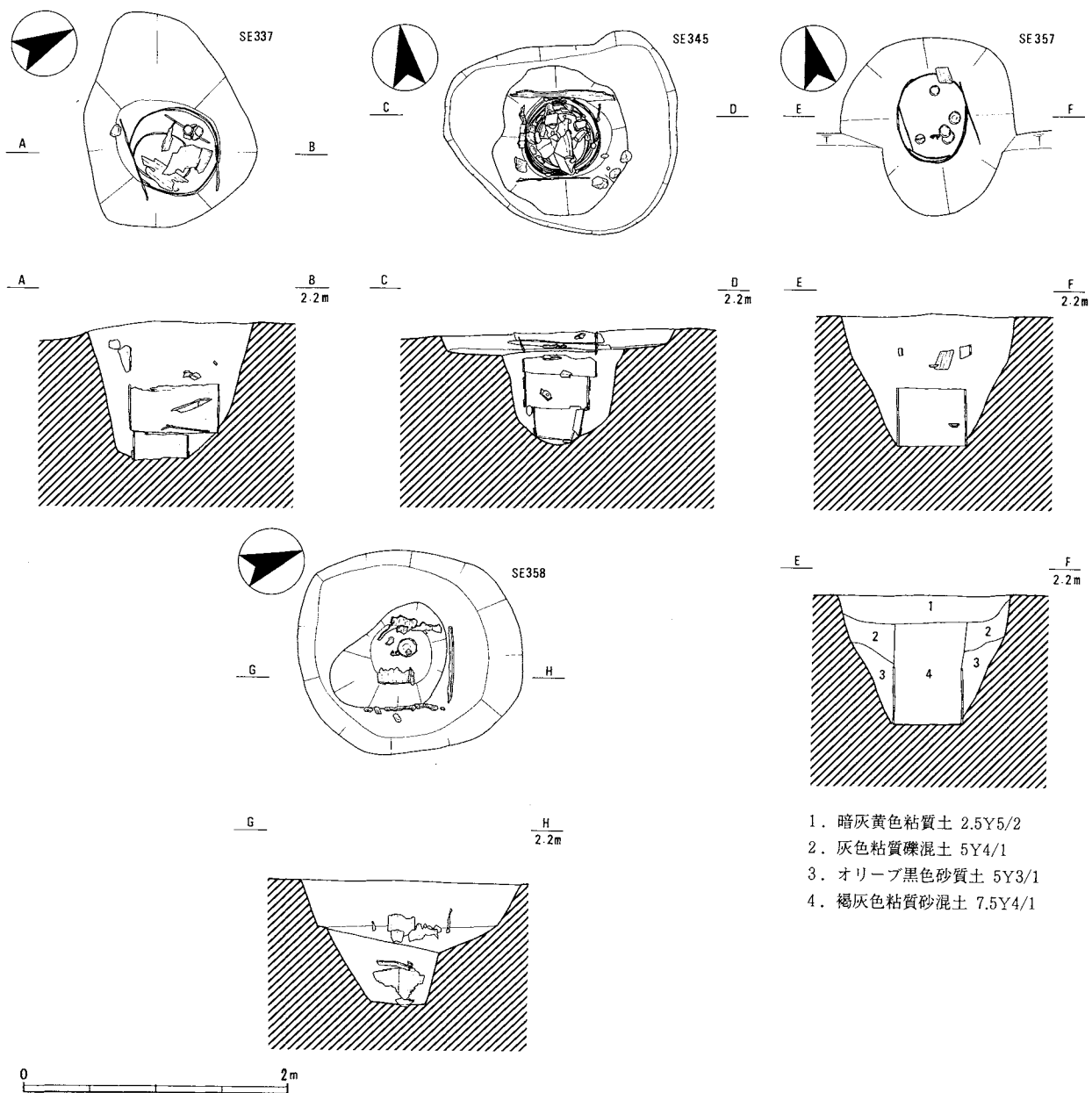
第42図 SE353・363・451実測図(1:50)



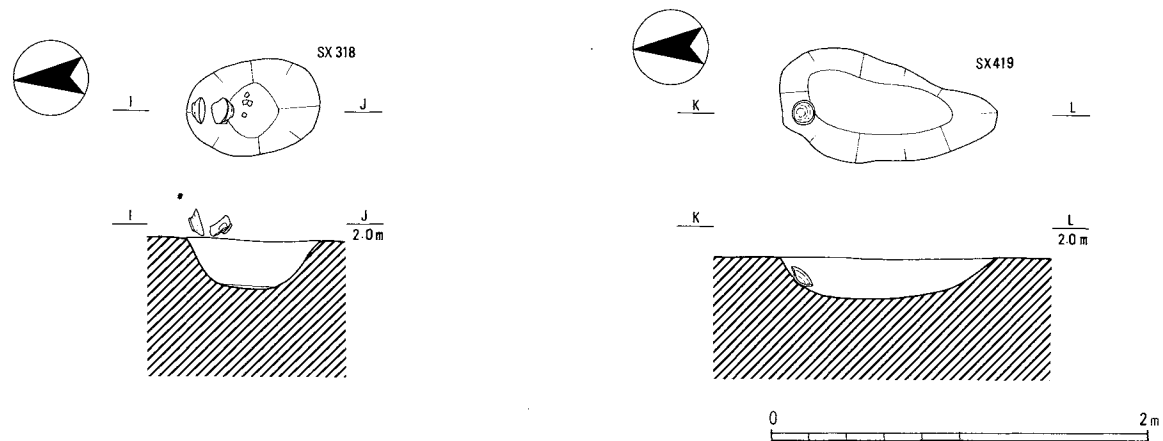
1. 褐灰色粘質砂礫混土 10YR5/1
2. 褐灰色粘質土 10YR5/1
3. 黄灰シルト粘土混 2.5Y5/1
4. 黄灰色粘質土 2.5Y4/1



第43図 SE54・217・218・323実測図 (1 : 50)



1. 暗灰黄色粘質土 2.5Y5/2
2. 灰色粘質礫混土 5Y4/1
3. オリーブ黒色砂質土 5Y3/1
4. 褐灰色粘質砂混土 7.5Y4/1



第44図 SE337・345・357・358, SX318・419実測図 (1:50, SX318・419は1:40)

器皿片、山茶椀片、陶器甕片などを確認した。

S K 415 (第50図)

平面形は本来は円形か。調査区外に遺構が延びて全容はわからない。長軸3.12m、短軸2.22m、深さ0.48~0.78mの規模がある。土師器片、山茶椀片などが出土している。ほとんどが山茶椀片であった。

S K 418 (第51図)

平面形は本来は楕円形か。調査区外に遺構が延びている。長軸4.67m、短軸3.74m、深さ0.54~0.59mである。土師器皿・甕・鍋、山皿、山茶椀片、須恵器片などが出土している。

井戸

S E 46 (第52図)

木組円形井戸。縦板組無支持型+曲物積み上げ型の複合型。掘形は不整形円で、径3.40m、深さ1.0~1.42mである。遺構検出面から0.25m下で井側を確認した。縦板は二重であったり疎らであったりする部分もあり、その間には拳大程の石が詰められていた。乱雑に縦板を打ち込んだ感は拭えない。曲物の積み上げは3段で上2段については入れ子のような

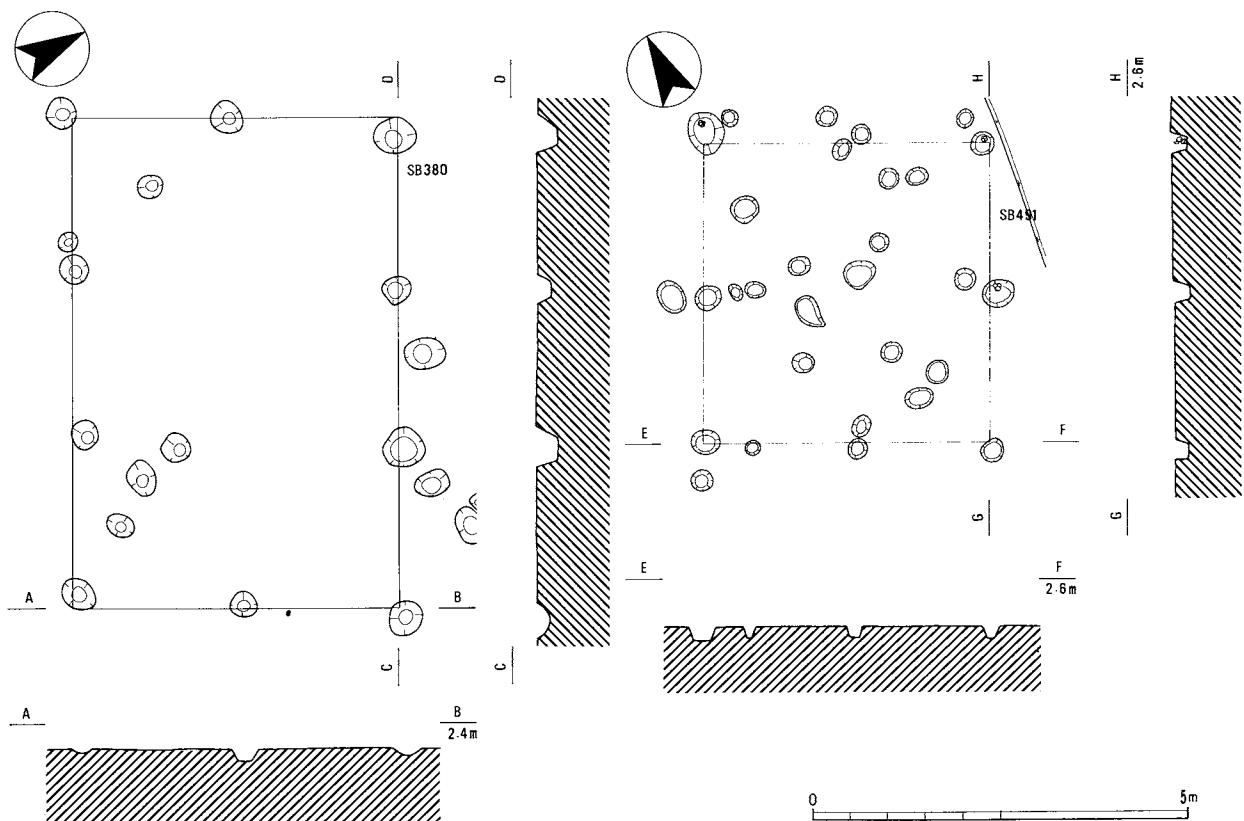
状態であった。曲物の外側に、長さ1.3m、幅0.25m、厚み0.15mの線路の枕木状のものを確認したが方形には組まれておらず南北方向に並行にすえられていた。横棧とは考えにくい。出土土器については、土師器皿・甕片、ロクロ製土師器皿片、須恵器片、緑釉陶器片、黒色土器片、山茶椀片、瓦片、製塩土器片などを確認した。

S E 55 (第52図)

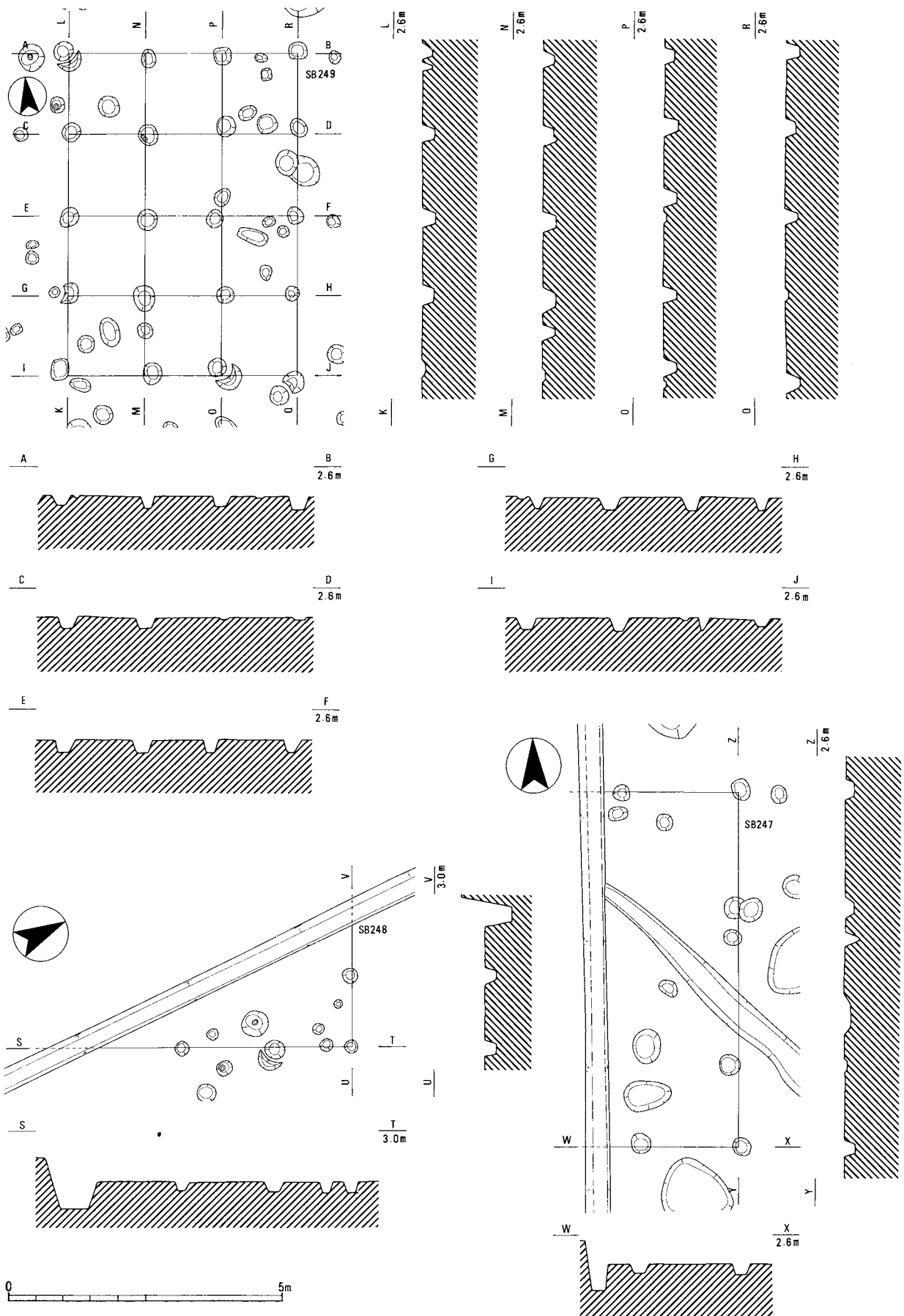
木組円形曲物積み上げ型井戸である。掘形は円形で、径1.77m、深さ0.45~1.00mである。遺構検出面から0.5m下で2段に積み上げられた曲物を確認した。出土土器については、土師器皿・甕片、須恵器片、山茶椀片などを確認した。

S E 207 (第53図)

木組円形井戸。掘形は不整形楕円形で、長軸5.93m、短軸4.38m、深さ1.06~1.15mである。掘形南端底部で曲物を確認した。「曲物単独型」という呼称はどうか。以後、S E 207と同形態のものについてはそのように呼称する。一つの遺構としては大きく、遺構が重複している可能性が高い。底部中央に



第45図 SB380・491実測図(1:100)

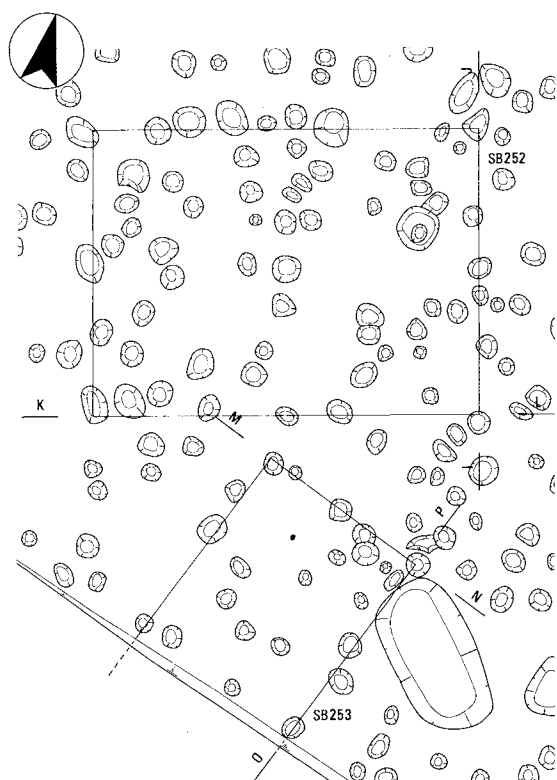
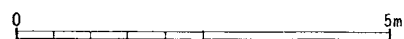
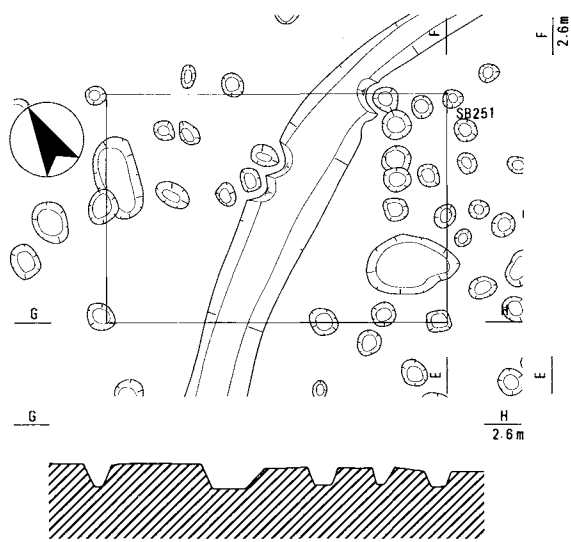


第46图 SB247・248・249実測図 (1:100)

は、長軸1.2m、短軸0.5m、深さ0.15m程の浅い掘り込みがあり、曲物などの抜き取り痕の可能性もあるが、検出時や土層断面の観察時に確認できなかった。出土遺物は、土師器皿片、山茶碗片、黒漆塗り木製椀、斎串などを確認した。

S E 208 (第52図)

木組円形曲物単独型井戸。掘形は楕円形を呈し、

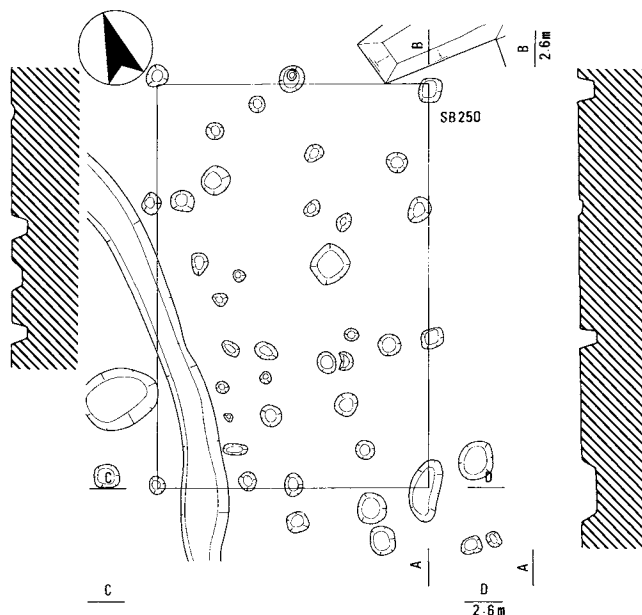


第47図 SB250・251・252・253実測図 (1:100)

長軸2.78m、短軸2.19m、深さ0.56~1.15mである。遺構南端には径1m程の掘り込みを確認した。その底部で曲物を1点確認した。出土土器については、弥生土器片、山茶碗片を確認した。

S E 221 (第54図)

木組円形曲物積み上げ型井戸。掘形は楕円形で、長軸1.97m、短軸1.39m、深さ0.33~0.53mである。



遺構検出面から0.5m下に板状木製品を数点と曲物を2段確認した。板状木製品は井戸枠破片とも考えられるが曲物積み上げ型と考える。出土土器は、土師器皿・甕片、山茶椀片などを確認した。

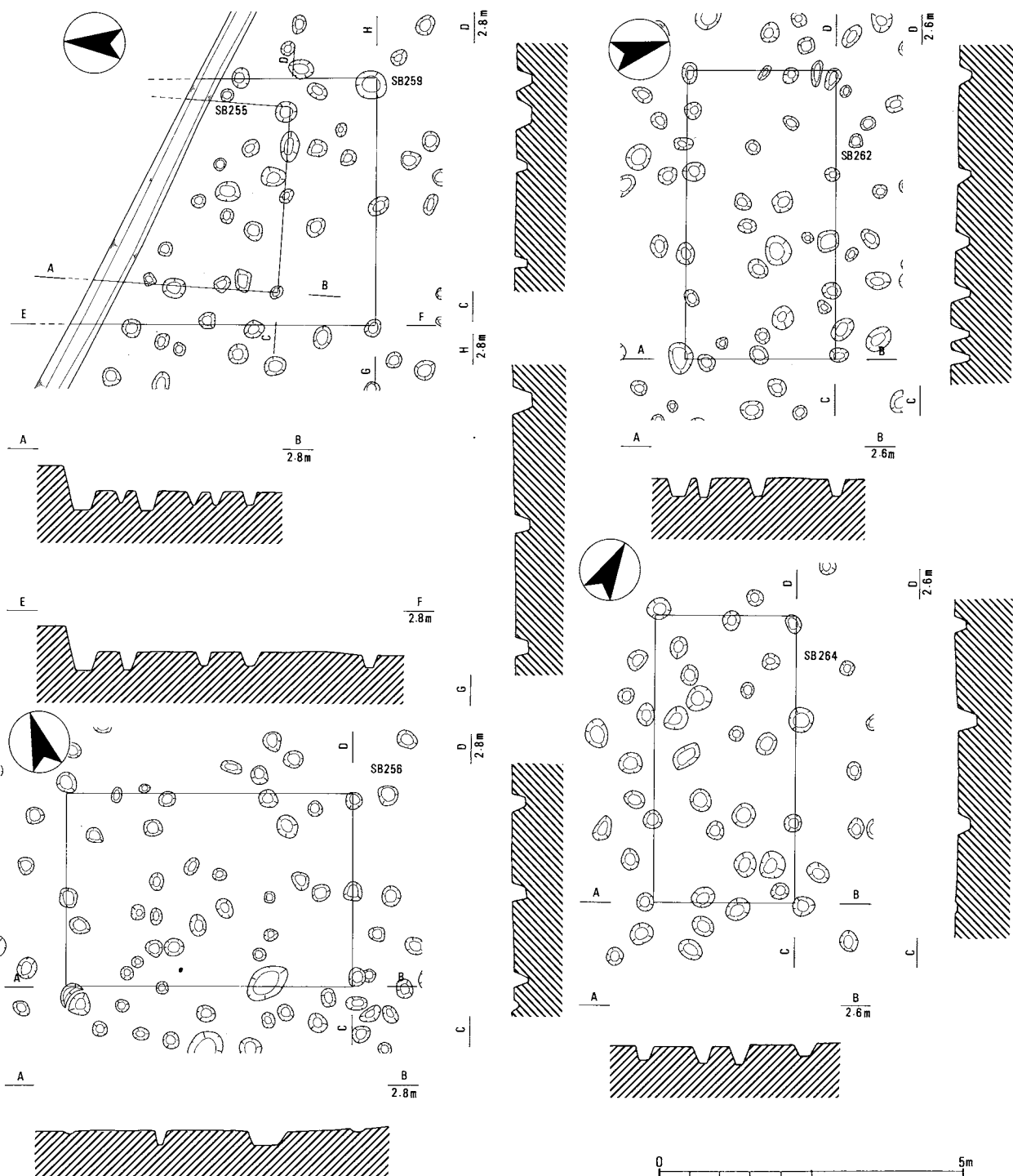
S E 224 (第54図)

素掘り井戸。掘形は楕円形で、長軸1.16m、短軸1.01m、深さ1.20~1.28mである。遺構検出面から0.7m下に板状木製品や土師器片、須恵器片、山茶椀

片を確認した。投げ込まれたような状況であった。それらを取り除くと底部に達するまで遺物の出土がみられなかった。

S E 225 (第52図)

素掘り井戸か。掘形は楕円形で、長軸1.41m、短軸1.14m、深さ0.61~0.68mである。底部には、径0.5m程の円形の掘り込みが確認できた。曲物などの抜き取り痕の可能性も考えられる。出土遺物は、土



第48図 SB255・256・259・262・264実測図(1:100)

師器皿、墨書山茶椀片を確認した。

S E 226 (第55図)

土器組+曲物単独型の円形井戸。掘形は楕円形で、長軸2.31m、短軸2.12m、深さ1.27~1.33mである。底部には径0.7m程の円形の掘り込みが確認でき、その部分に曲物と半分欠失の土師器鍋がすえられていた。土師器鍋が曲物の外側にあった。曲物の補強が曲物の機能を果たしていたのだろうか。出土土器は、土師器鍋以外には土師器皿片、山茶椀片などを確認した。

S E 231 (第55図)

木組円形曲物積み上げ型井戸か。掘形は楕円形で、長軸2.39m、短軸2.10m、深さ0.99~1.15mである。掘形底部中央に曲物を1点確認した。曲物内埋土からは板状木製品が出土した。曲物などが崩壊したものであろうか。本来は曲物が複数存在していたので

あろう。出土土器は、土師器皿・甕・鍋片、須恵器片、山茶椀片などを確認した。

S E 232 (第54図)

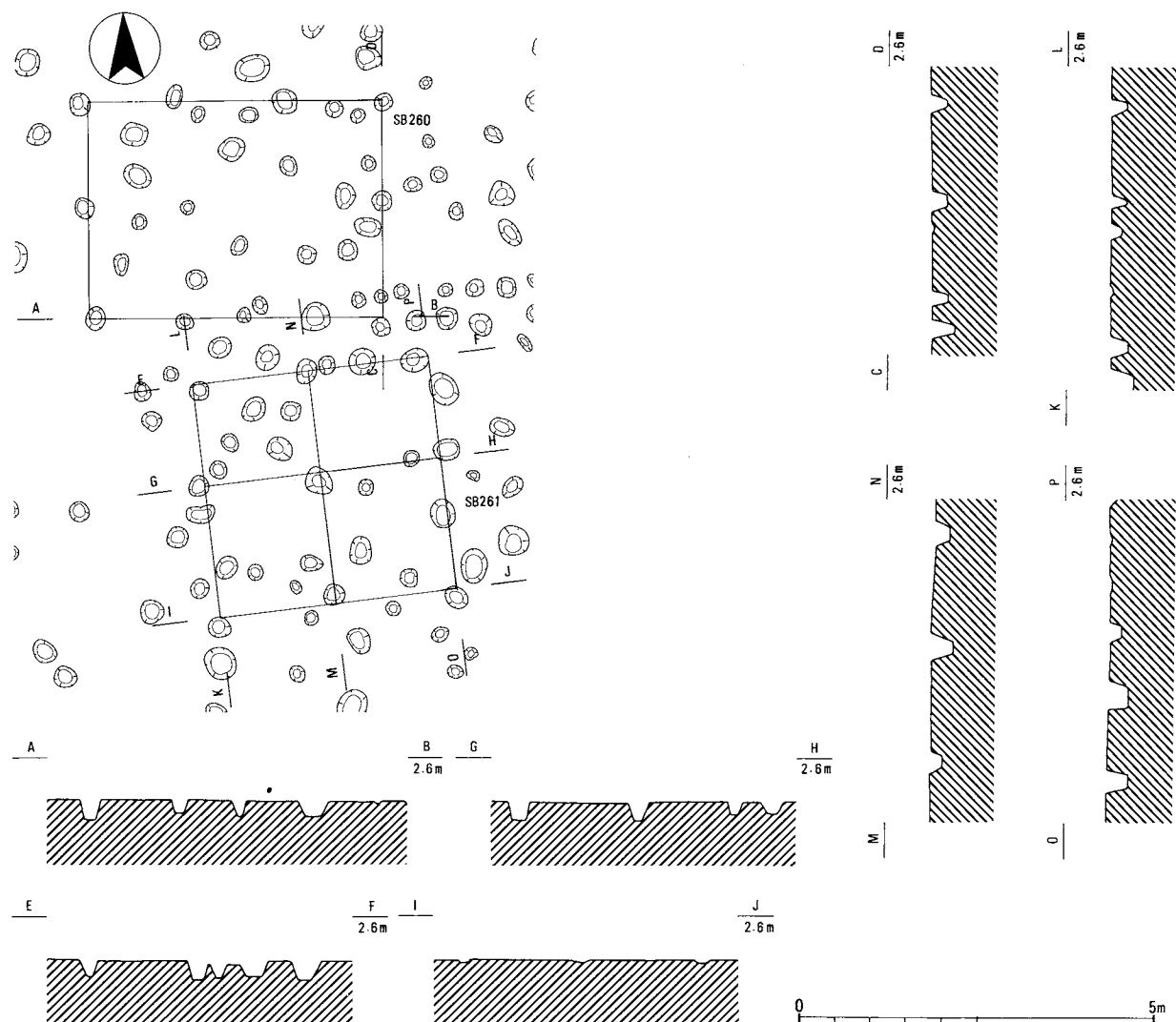
木組円形曲物単独型井戸。掘形はS E 233 との重複のためよくわからないが円形と考えられる。規模は径2.2m、深さ1.1mである。掘形の底部中央に長軸0.8m、短軸0.55m、深さ0.35mの掘り込みがあり、その中に曲物を1点確認した。出土土器については土師器片や須恵器片を確認した。

S E 233 (第54図)

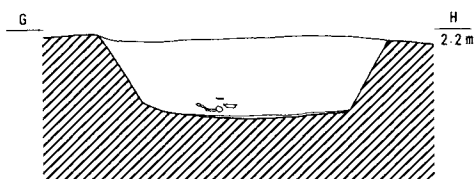
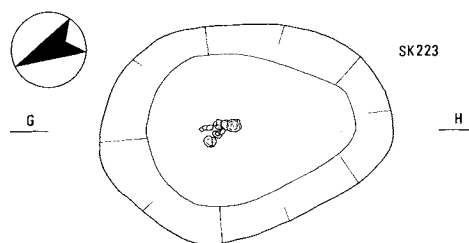
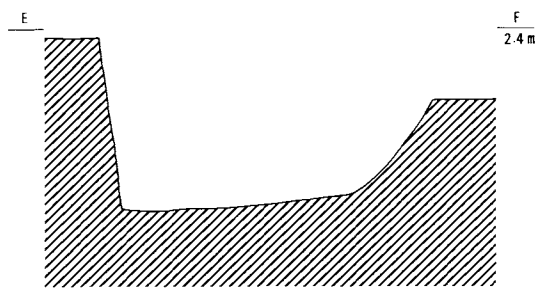
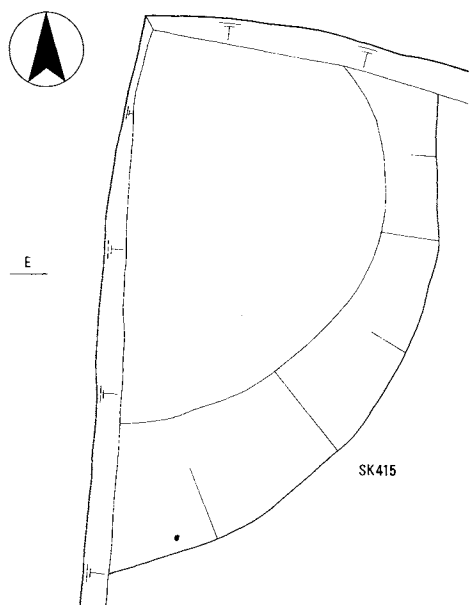
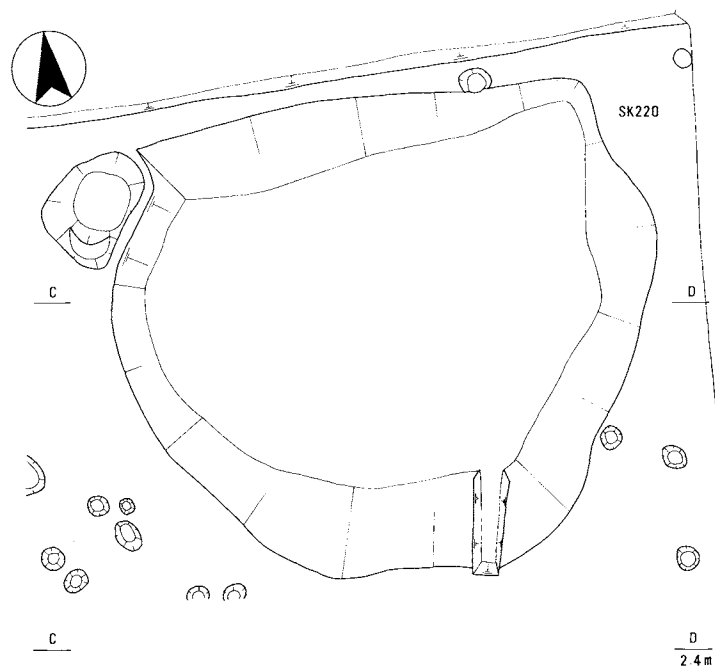
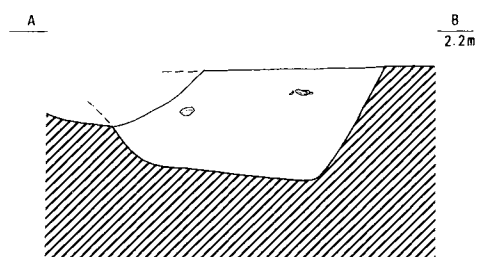
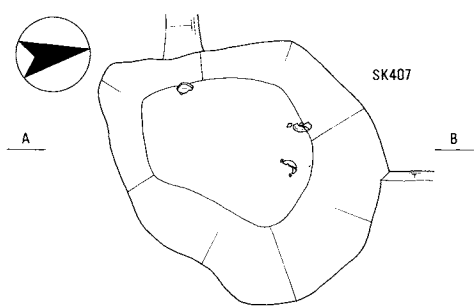
木組円形曲物積み上げ型井戸。掘形は不整形で、長軸1.90m、短軸1.36m、深さ0.90mである。底部のほぼ中央に曲物が2段積み上げられていた。出土土器については土師器片や須恵器片を確認した。

S E 368 (第55図)

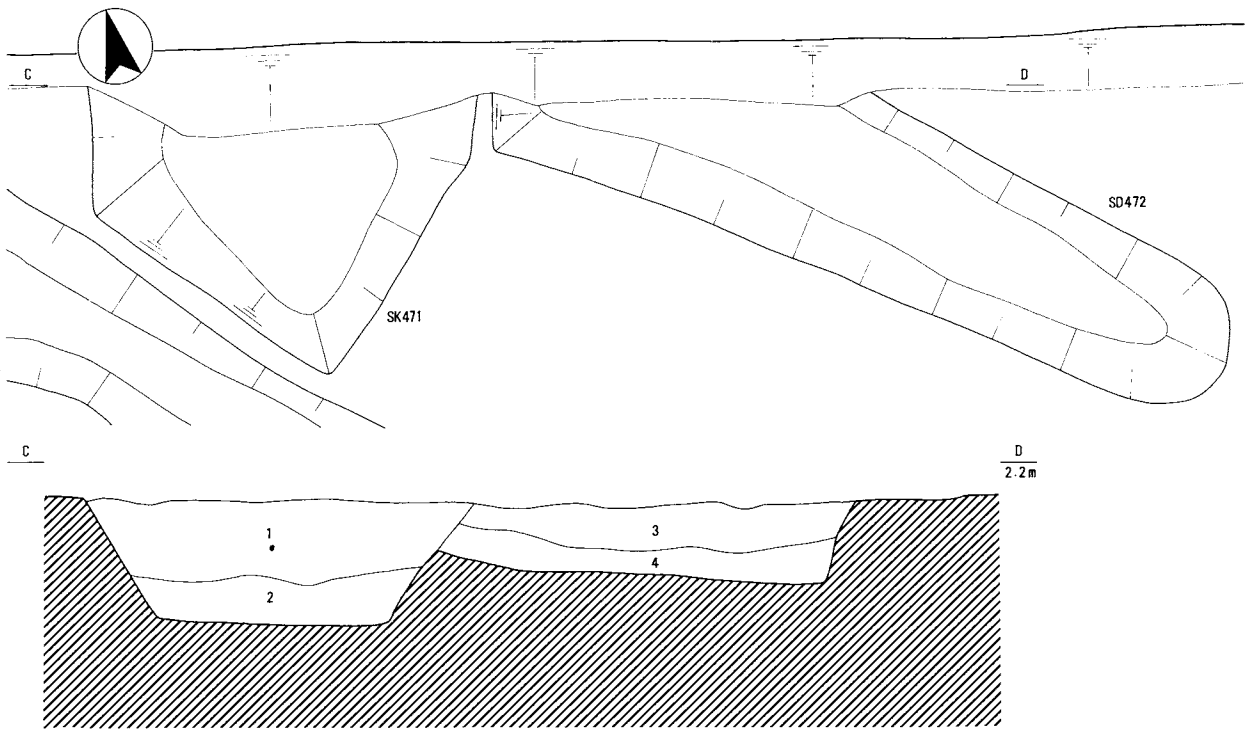
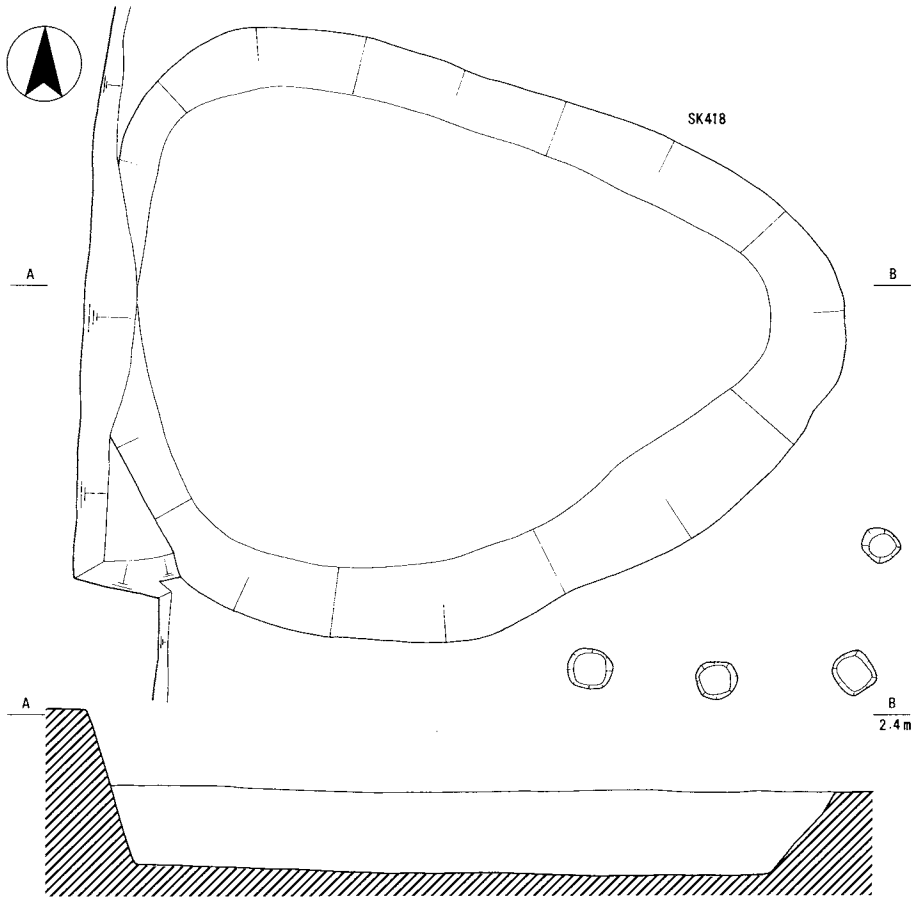
木組円形曲物単独型井戸か。掘形は楕円形で、長



第49図 SB260・261実測図 (1:100)



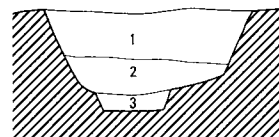
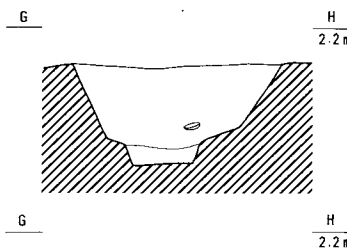
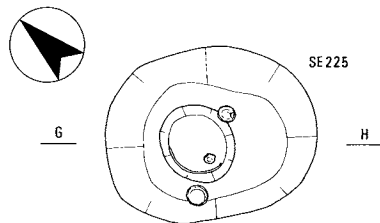
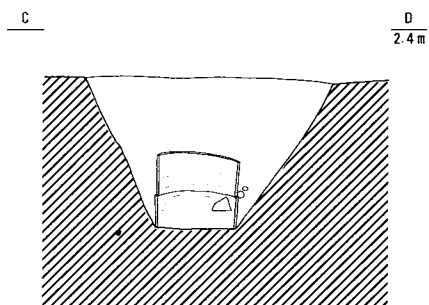
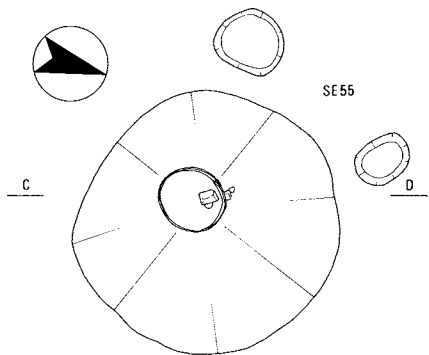
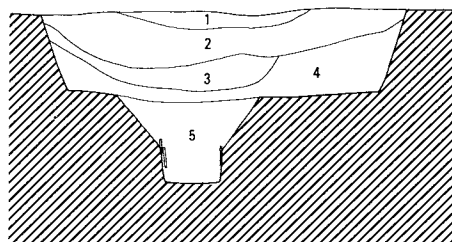
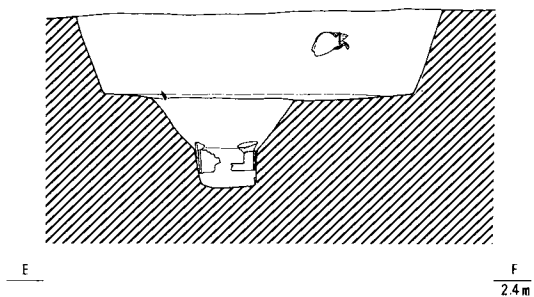
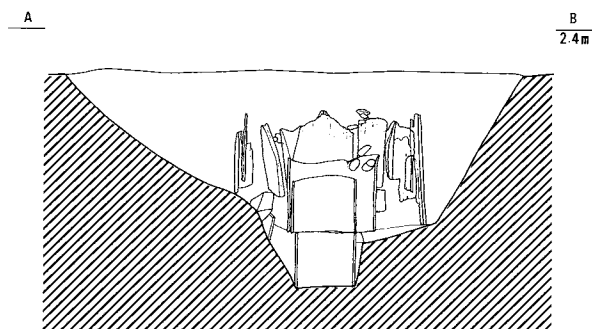
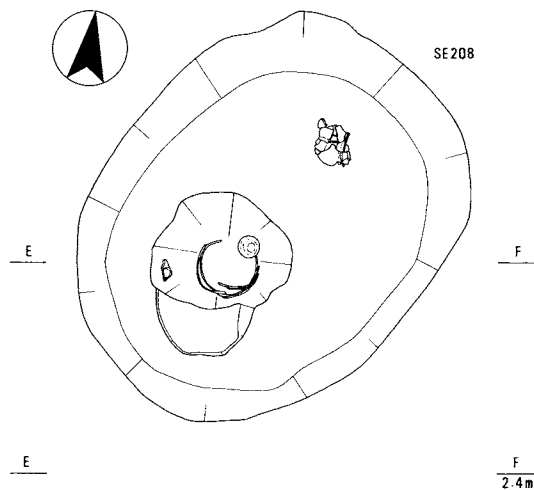
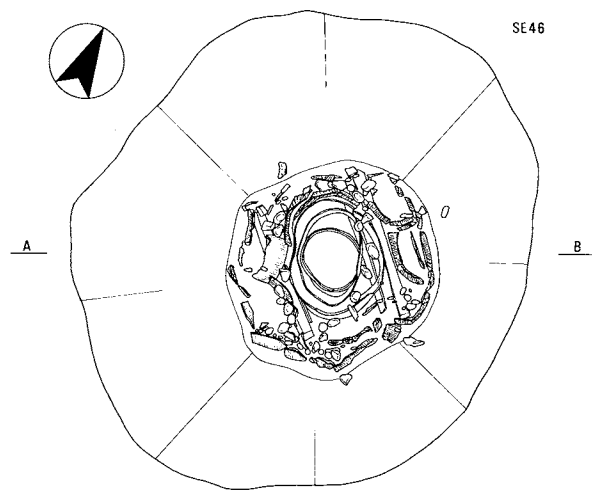
第50図 SK220・223・407・415実測図 (1 : 50)



- 1. 褐灰色粘質礫混土 10YR4/1 3. 黒褐色粘質礫混土 10YR3/1
- 2. 灰色粘質砂混土 5Y4/1 4. 灰黄褐色粘質砂混土 10YR4/2

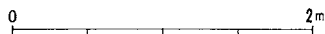


第51図 SK418・471, SD472実測図 (1 : 50)

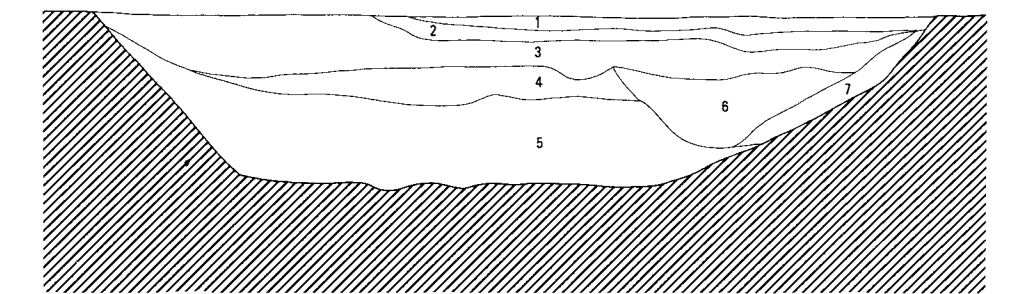
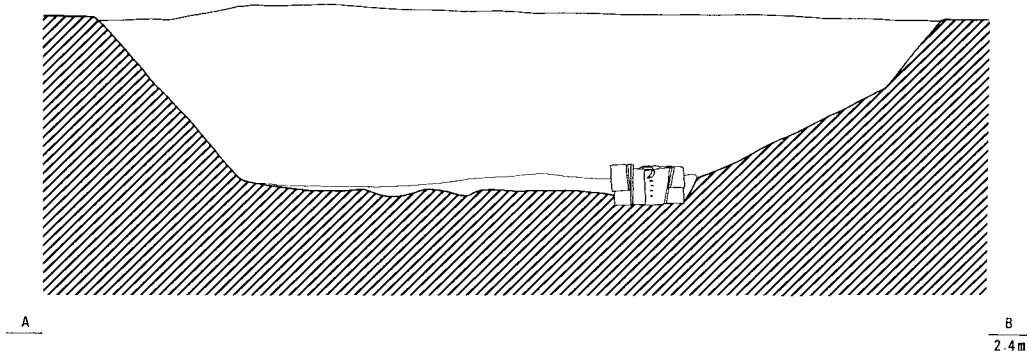
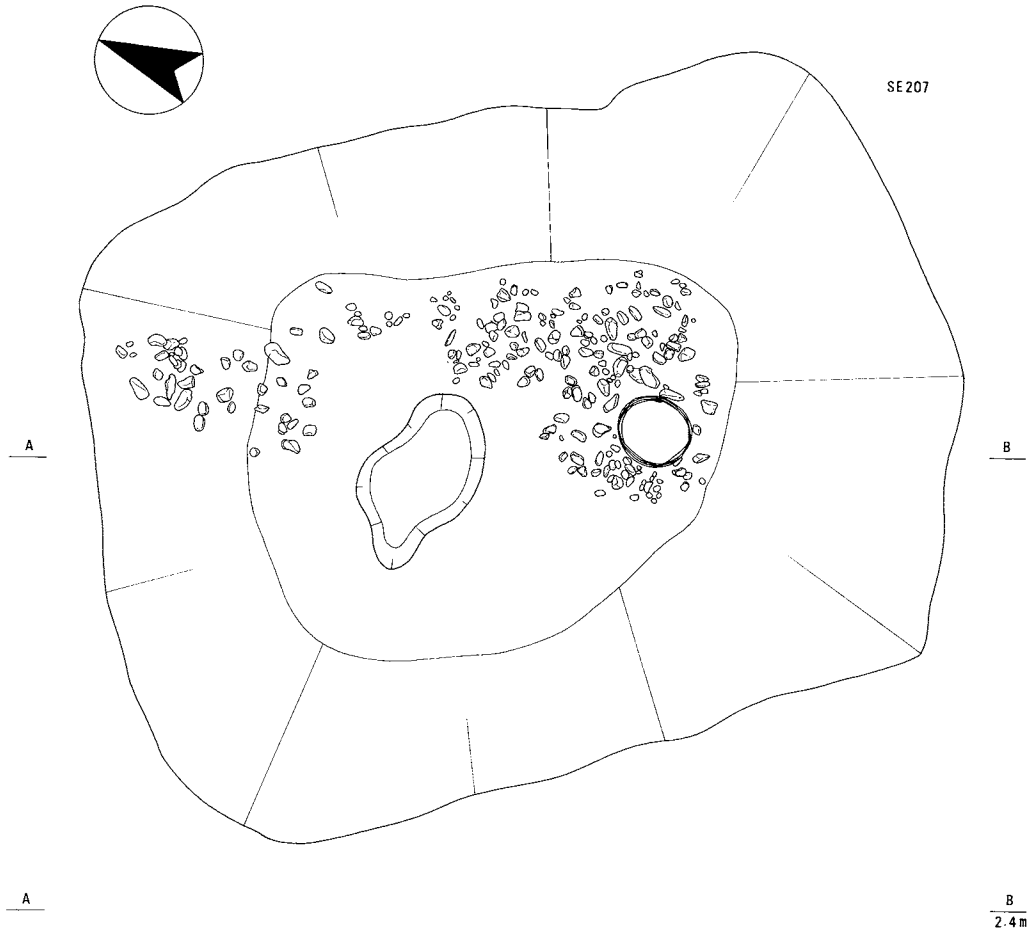


- 1. 灰白色粘質土 10YR8/1 4. 明褐色粘質砂礫混土 5YR7/1
- 2. 褐色粘質砂礫混土 5YR6/1 5. 黒褐色粘質土 7.5YR3/1
- 3. 灰褐色粘質土 5YR4/2

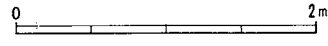
- 1. 褐色砂礫混土 7.5YR4/3
- 2. 灰オリーブ色砂混土 7.5Y4/2
- 3. オリーブ黒色粘質砂礫混土 7.5Y3/1



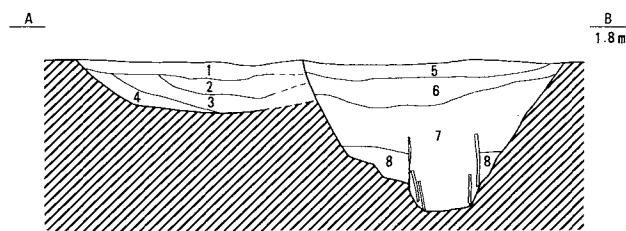
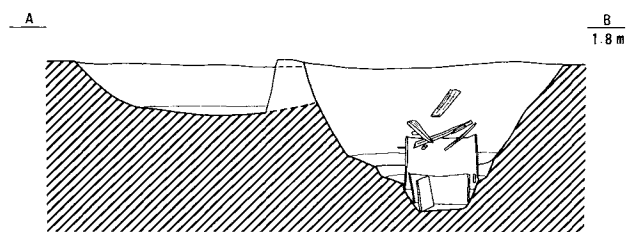
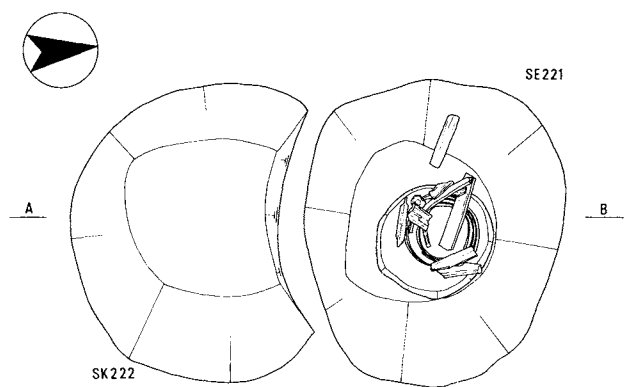
第52図 SE46・55・208・225実測図 (1:50)



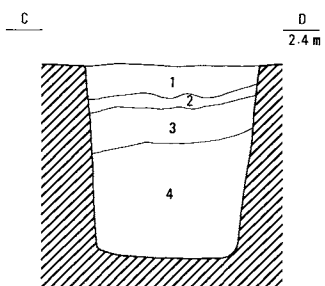
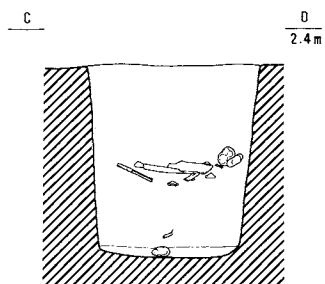
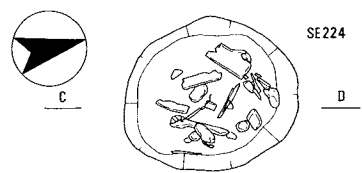
- | | | |
|-------------------------|---------------------|---------------------|
| 1. 明褐色砂礫混土 7.5YR7/2 | 4. 褐色粘質砂礫混土 10YR4/1 | 7. 灰黄褐色砂礫混土 10YR4/2 |
| 2. にぶい黄橙色粘質砂礫混土 10YR7/3 | 5. 暗灰黄色砂礫混土 2.5Y5/2 | |
| 3. 褐色粘質土 10YR6/1 | 6. 黄灰色粘質土 2.5Y5/1 | |



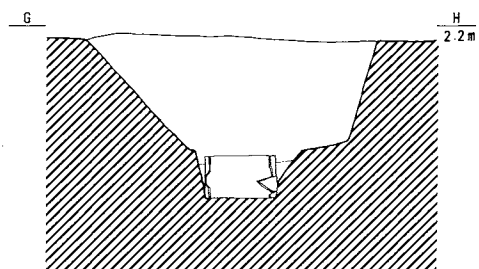
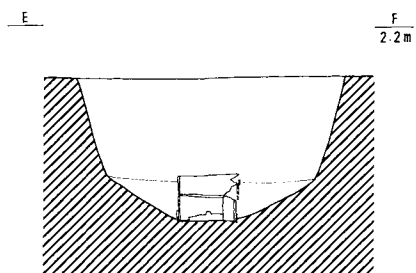
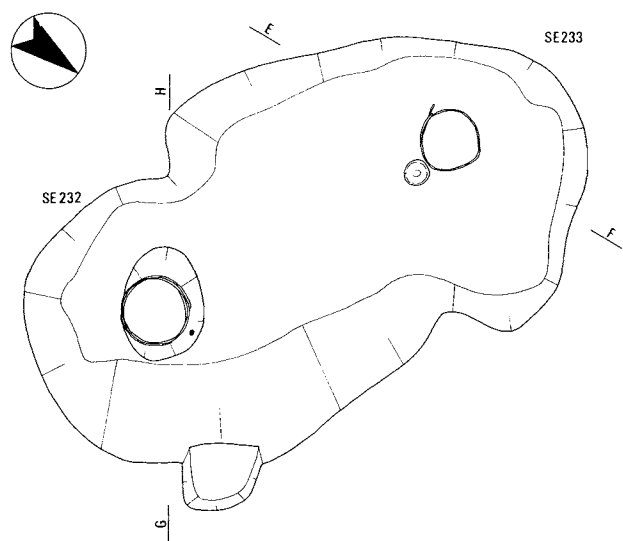
第53図 SE207実測図 (1 : 50)



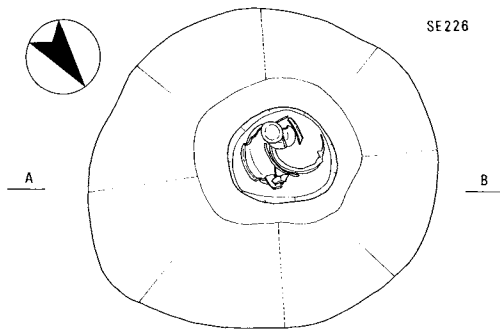
- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1. 黄灰色粘質土 2.5Y4/1 | 5. オリーブ黒色粘質土 5Y3/2 |
| 2. 褐灰色粘質土 10YR4/1 | 6. オリーブ黒色粘質土 5Y2/1 |
| 3. 黒褐色粘質砂混土 10YR3/1 | 7. 暗オリーブ灰色粘質土 2.5GY4/1 |
| 4. 黒褐色粘質砂混土 2.5Y3/1 | 8. 黒褐色粘質土 7.5YR3/1 |



- | |
|--------------------------|
| 1. 褐色粘質砂混土 7.5YR4/4 |
| 2. 暗褐色砂混土 7.5YR3/4 |
| 3. 暗オリーブ褐色粘質砂混土 2.5YR3/3 |
| 4. 黒褐色粘質砂混土 2.5YR3/1 |

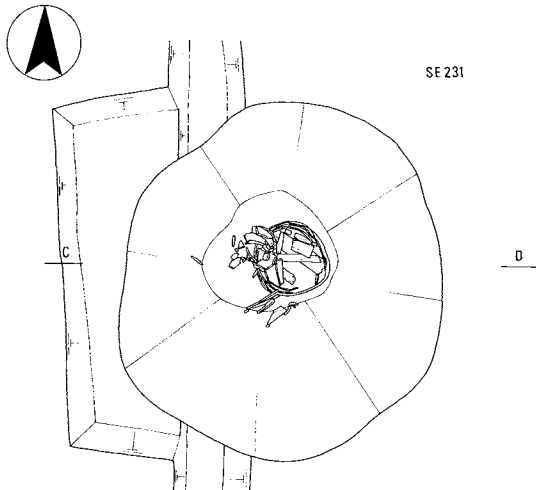
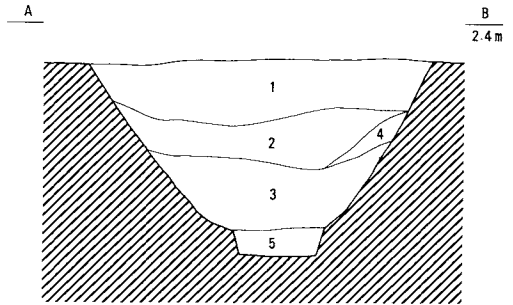
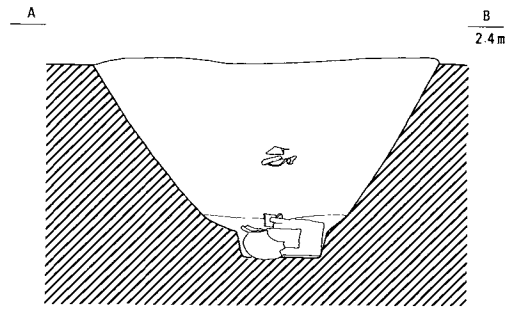


第54図 SK222, SE221・224・232・233実測図 (1:50)



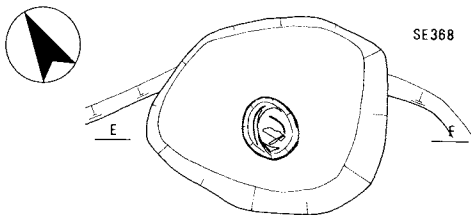
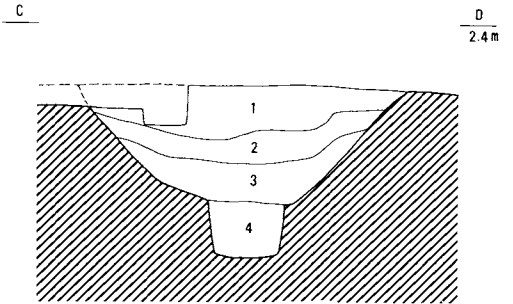
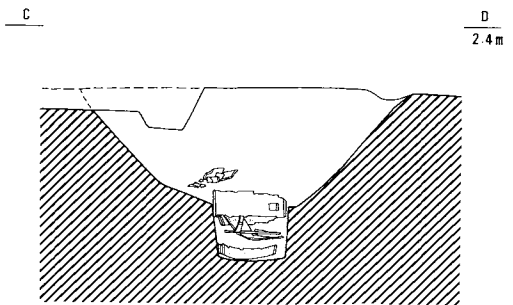
SE226

1. 黒褐色粘質砂礫混土 10YR3/2
2. 黒褐色粘質土 10YR3/1
3. 暗褐色やや粘質砂混土 10YR3/3
4. 黄灰色やや粘質粘土混土 2.5Y4/1
5. オリーブ黒色粘質砂礫土 5Y3/1

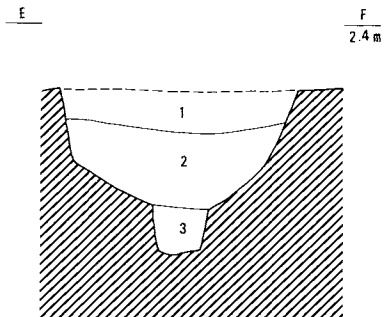
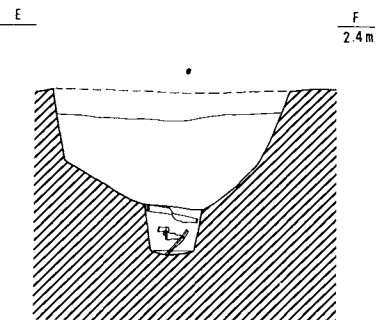


SE231

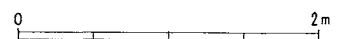
1. にぶい黄褐色粘質砂混土 10YR4/3
2. 黒褐色粘質砂混土 2.5Y3/1
3. 黄灰色やや粘質砂混土 2.5Y4/1
4. 黒褐色粘質砂礫混土 10YR3/2



SE368



1. 褐灰色粘質礫混土 10YR4/1
2. 灰黄褐色粘質礫混土 10YR4/2
3. 黒褐色粘質土 10YR3/2



第55図 SE226・231・368実測図 (1:50)

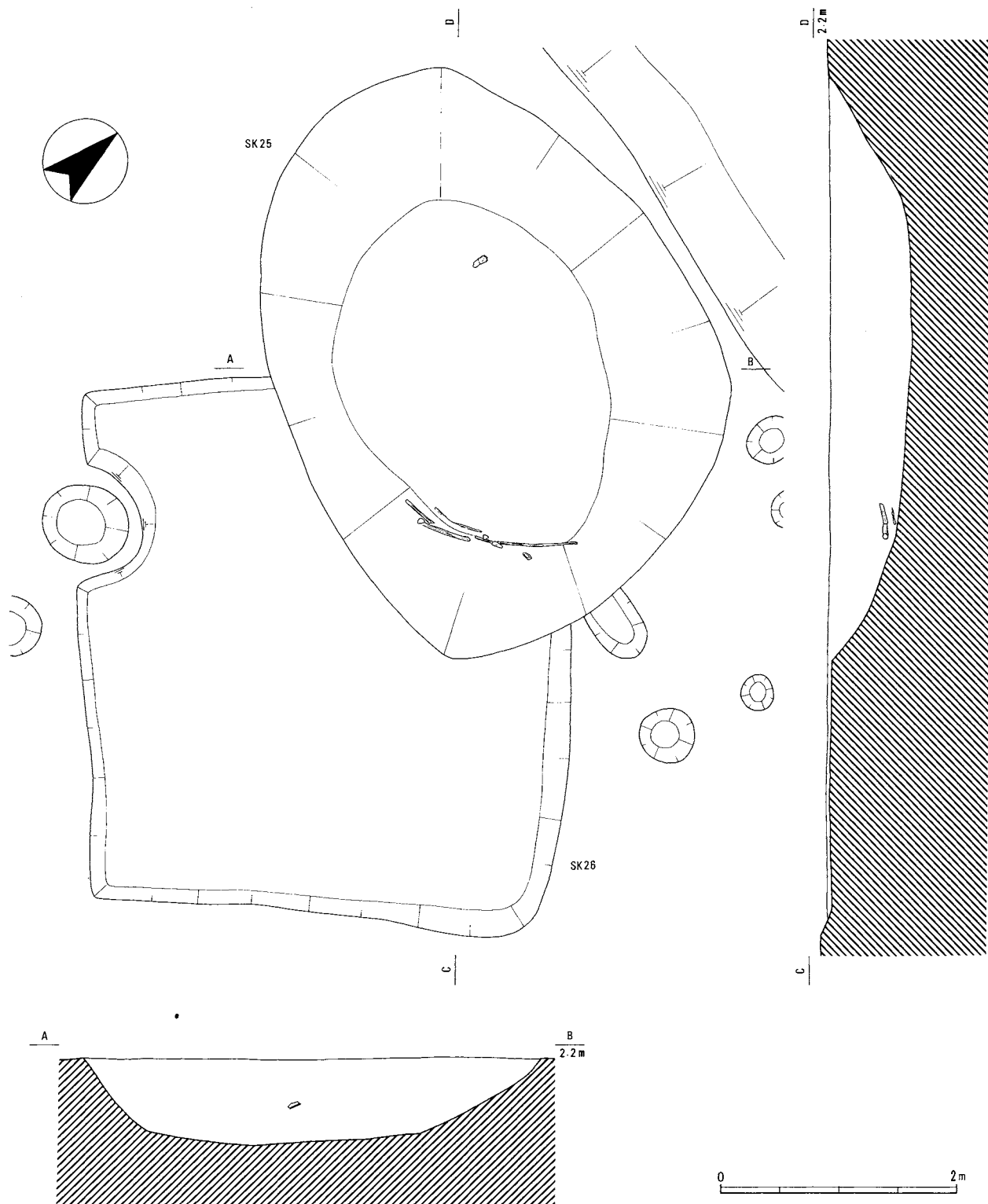
軸1.67m、短軸1.32m、深さ0.27~0.55m である。
 底部中央には曲物を確認した。曲物の残存状況が悪いので判断に苦しむ。出土土器は、土師器皿・甕・鍋片、山茶椀片などを確認した。

室町時代以降

土坑

S K 25(第56図)

平面形は楕円形で、長軸2.47m、短軸1.95m、深さ0.30~0.36m である。出土遺物は、土師器小皿、



第56図 SK25・26実測図 (1 : 50)

漆塗木製椀、陶器片などを確認した。室町時代に属するものであろう。

SK313 (第57図)

平面形は不整形円形で、径9.30m、深さ0.62~0.94mである。複数遺構の重複の可能性も考えられるが、土層断面の観察からは確認できなかった。池遺構と考えられなくもない。出土遺物は、土師器皿・甕片、山皿、山茶椀片、陶器片などを確認した。また、埋土からヒシの実が大量に出土した。室町時代に属するものであろう。

不明遺構

SZ227 (第58図)

平面形は不整形楕円形で、長軸2.84m、短軸1.90m、深さ0.59~0.69mである。出土遺物は、土師器皿片、山茶椀片、陶器甕片、元豊通宝を含む鑄貨5枚、人や馬の骨なども確認した。人骨や鑄貨の出土だけをみれば墓塚と考えられるが、馬骨の出土を考えると判断に苦しむ。室町時代に属するものか。

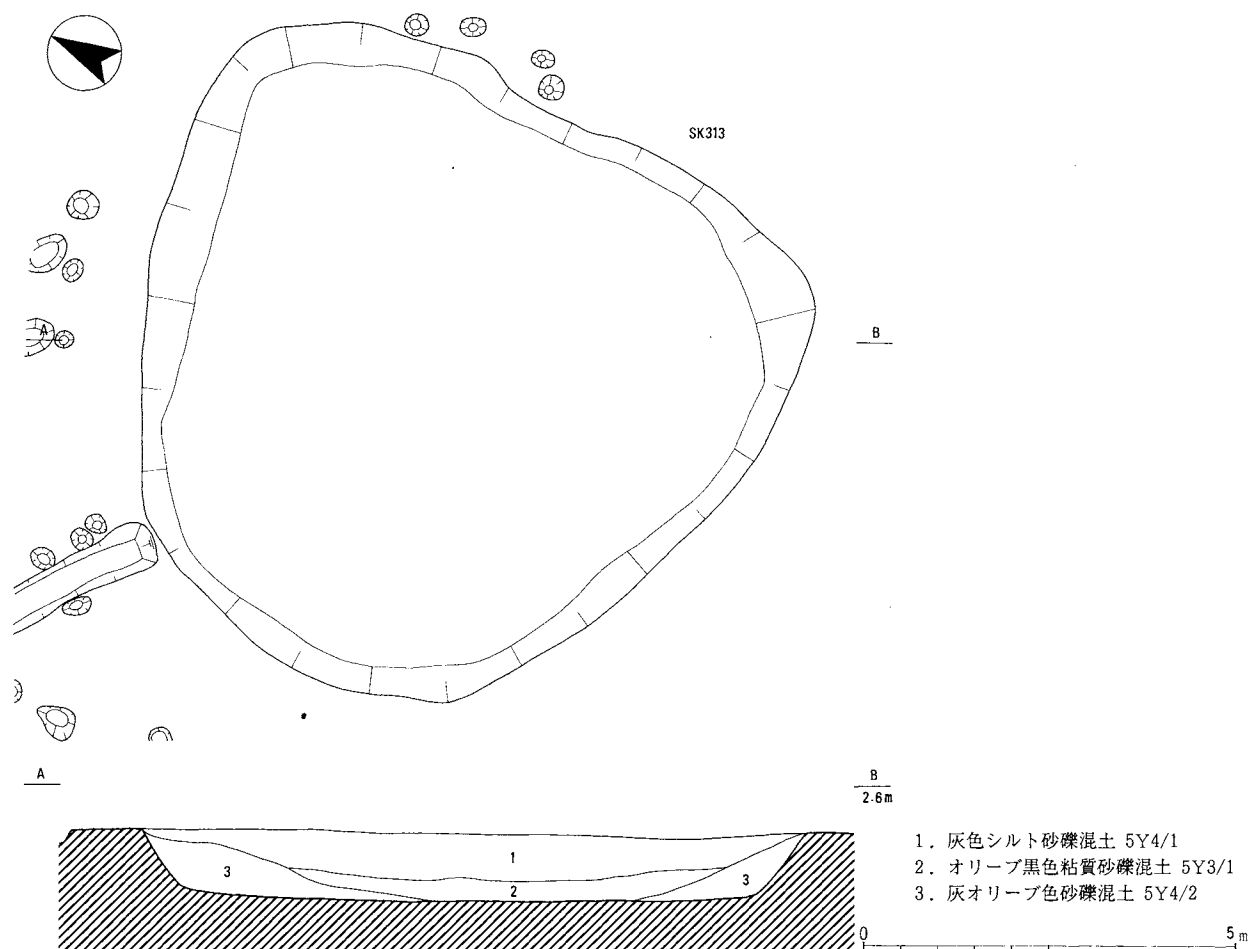
SZ228 (第58図)

平面形は円形で、径1.83m、深さ0.19~0.27mである。出土遺物は、人や馬の骨片が大量に出土した。人骨の出土だけをみれば墓塚と考えられるが、馬骨の出土を考えるとSZ227同様に墓塚とは考えにくく、判断に苦しむ。室町時代に属するものか。

旧河道

SR210 (第58・59図)

幅10.25~14.50m、深さ1.02~1.53mの規模を有する旧河道である。調査区を北西から南東にかけて横切る。埋土については、基本的には5層に分かれる。ゆっくり堆積していった土が水量などにより攪拌されたようである^④。調査は、土層を分層しつつ掘り下げていったが、河道の最も深い部分でも山茶椀が出土する状況であったため、層位で時期区分はできなかった。埋土の上層は中世土器の占める割合が多く、下層はいけばいくほど古代の土器の占める割合が多くなる傾向がみられる。出土遺物は、奈良時



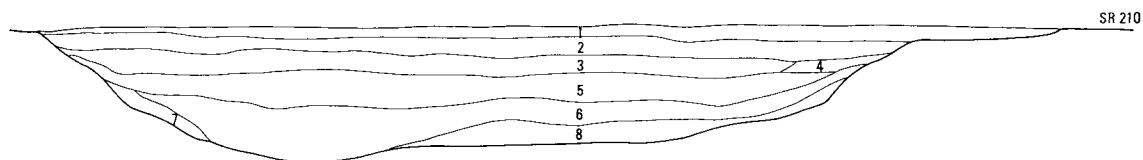
第57図 SK313実測図 (1:100)

代から室町時代にかけての土器類や木製品を中心に、調査区内の河道全面でほぼまんべんなく出土した。土器については、墨書や線刻が施されたものも多く見られた。ほとんどがローリングを受けておらず遺跡に近接する場所から投げ入れられ、流れ込んだものと思われる。木製品については、日常使用されていたもの以外にも、斎串、人形、舟形などの祭祀木製品が大量に出土している。いわゆる「祓い」^⑤などに関わる祭祀が遺跡周辺で行われていた可能性が高いといえよう。特に斎串は149点を数え、県内最多の出土量を誇る松阪市杉垣内遺跡^⑥に匹敵する出土量である。

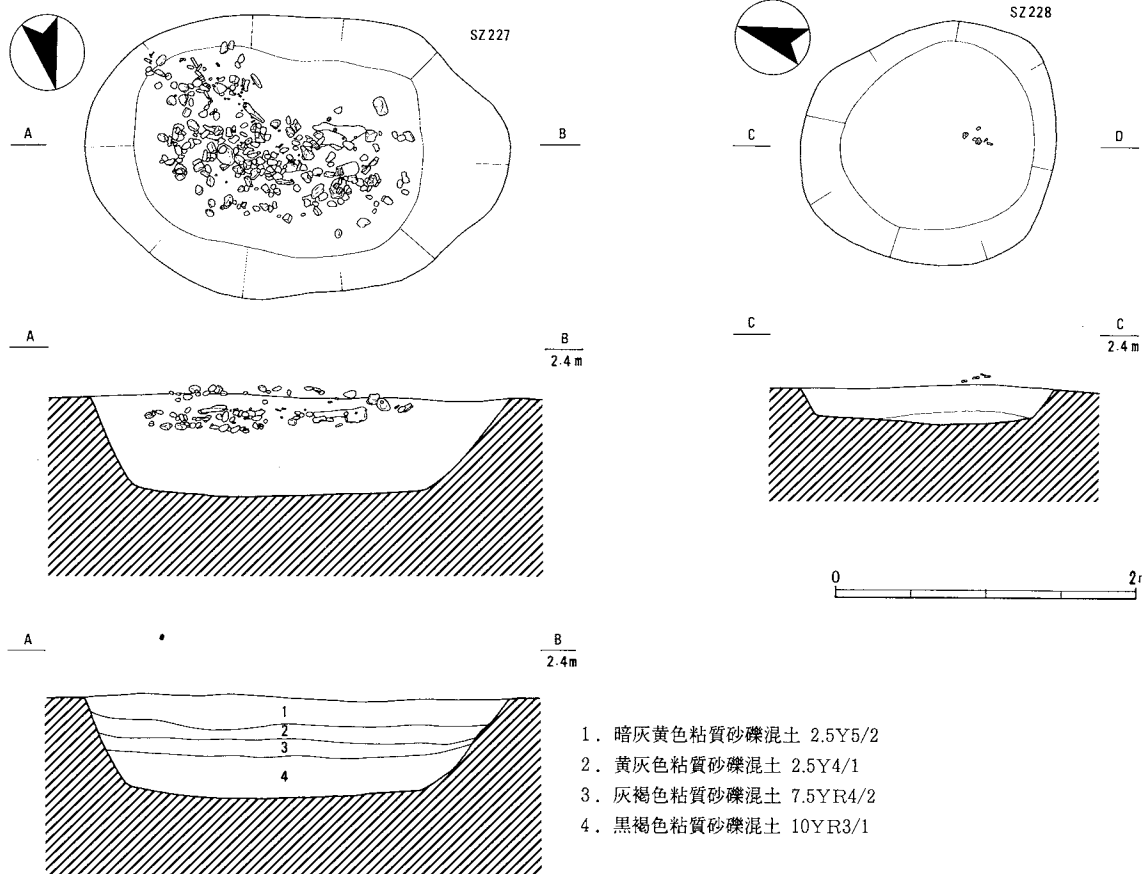
(小濱 学)

〔註〕

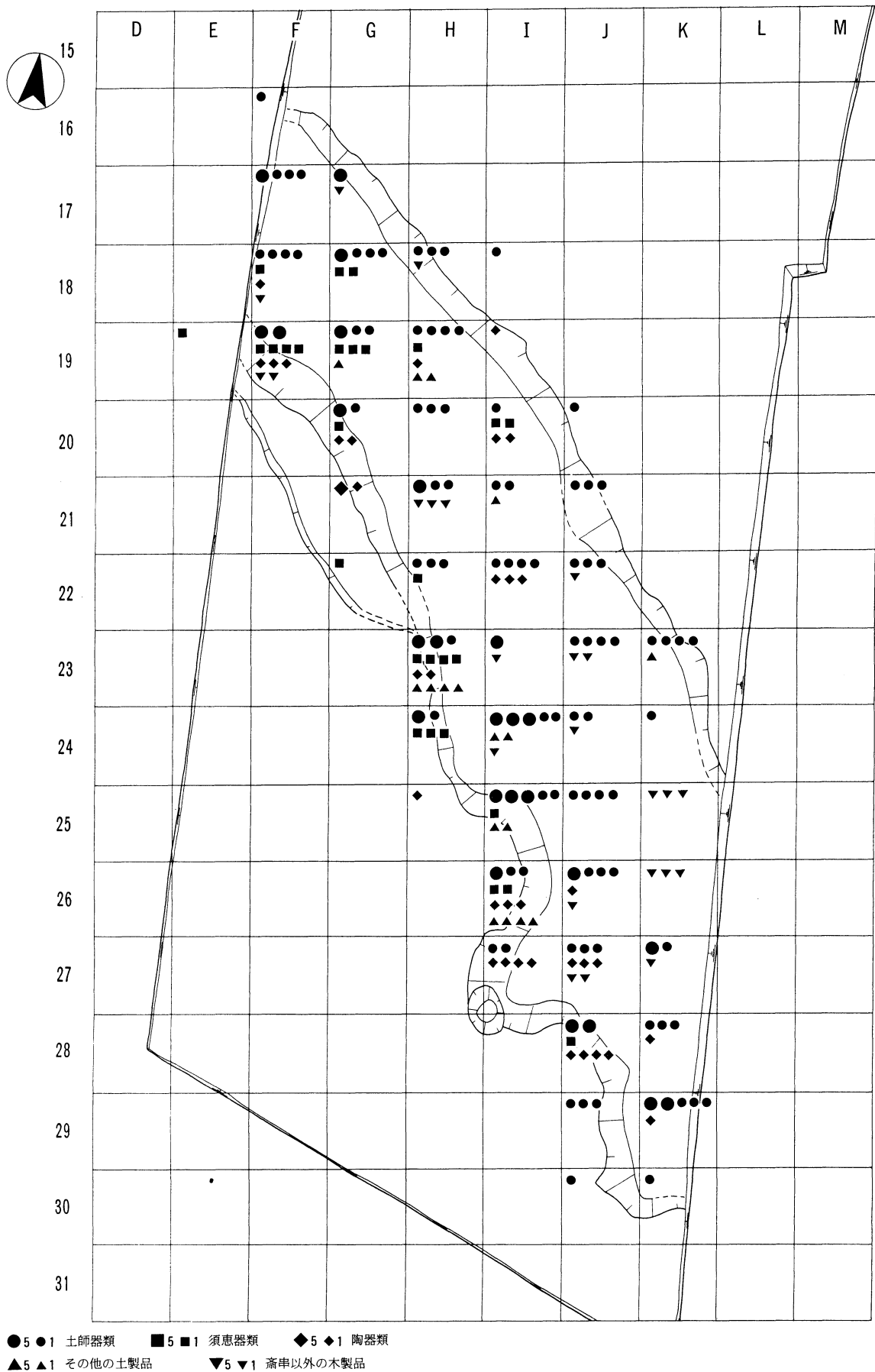
- ① 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所『草戸千軒町遺跡発掘調査報告書V』(1996年)。
- ② V 自然科学分析を参照。以後の植物遺体などについてもVを参照されたい。
- ③ 福田哲也ほか「IV. 阿形遺跡」『ヒタキ廃寺・打出遺跡・阿形遺跡ほか』(三重県埋蔵文化財センター、1992年)。
- ④ 皇學館大学外山秀一氏のご教示による。
- ⑤ 河瀬信幸ほか「IV 杉垣内遺跡」『昭和61年度農業基盤整備事業地域 埋蔵文化財発掘調査報告I』(三重県教育委員会、1989年)。
- ⑥ ⑤に同じ。



- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 灰黄色粘質砂礫混土 2.5Y5/2 | 5. 黄灰色粘質砂 2.5Y4/1 |
| 2. 黄灰色粘質土 2.5Y5/1 | 6. オリーブ黒色粘質砂 5Y3/1 |
| 3. 褐灰色粘質土 10YR4/1 | 7. オリーブ灰色砂 2.5GY5/1 |
| 4. 灰オリーブ色粘質砂 5Y4/2 | 8. 暗青灰色砂 5BG4/1 |



第58図 SR210土層断面図, SZ227・228実測図(1:50)



第59図 SR210遺物出土分布図 (1 : 300)

遺構番号	性格	調査次	地区	時期	特徴・形状・計測数値など
SK1	土坑	1	L10	弥生後期	不整楕円形/2.90×1.55×0.08~0.11m
SK2	土坑	1	I・J8・9 K9	平安	楕円形?/5.70×0.65×0.12~0.23m SD4に切られる
3					欠番
SD4	溝	1	I11 J9~11ほか	平安末期	0.35~0.95×0.01~0.29m SK2・5, SD28・56・303・306・344を切る SD57に切られる, 製塩土器多量出土
SK5	土坑	1	J9・10	平安前期	不整形?/1.40×0.38×0.05m SD4に切られる
SK6	土坑	1	H・I9・10	平安末期	円形/4.30×3.60×0.57~0.65m SK61を切る, 齋串や牛骨出土
SD7	溝	1	H・I10	平安	0.35~0.60×0.06~0.10m
SK8	土坑	1	H8・9	弥生末期	不整楕円形/2.74×1.68×0.64~0.84m 黒漆結菌壺出土
SK9	土坑	1	H9	弥生後期	不整楕円形/1.30×0.90×0.41m
SK10	土坑	1	G8	鎌倉	円形/2.68×2.38×0.77~0.82m SD12を切る
11					欠番
SD12	溝	1	E~H8 G7	弥生後期	1.05~1.60×0.31~0.65m SD16に切られる
SK13	土坑	1	F・G7	平安	不整形?/1.23×1.03×0.38m
SK14	土坑	1	F7	古墳	方形/1.05×1.05×0.65m SK15を切る
SK15	土坑	1	E6・7 F7	弥生後期	不整楕円形/4.20×2.95×0.69~0.76m SK14, SE37に切られる
SD16	溝	1	F7~9	平安	0.93~1.15×0.10~0.15m SD12を切る
SK17	土坑	1	C・D8	鎌倉	円形?/3.93×2.53×0.57~0.68m
SB18	掘立柱建物	1	D・E7~9 F8・9 G8	平安末期	3間以上×4間/総柱建物 {2.00+2.00+2.10+...×2.30+1.90+2.30+2.10m} SD12, SK15, SE37を切る
SD19	溝	1	C11 D11・12	不明	0.53~1.15×0.07~0.12m
20					→SD4に
SD21	溝	1	J12 K13・14 L14~16	平安前期	0.25~0.45×0.60~0.12m SD28に切られる
SK22	土坑	1	I12・13 J12	鎌倉	不整楕円形/3.20×2.85×0.26~0.32m SK23を切る
SK23	土坑	1	H・I12・13	平安?	不整形/2.80×1.93×0.07~0.10m SK22, SB35・36と重複
SK24	土坑	1	J15	平安	楕円形/1.63×0.83×0.35m
SK25	土坑	1	H15~17 I16・17	室町	楕円形/2.47×1.95×0.30~0.36m SK26を切る
SK26	土坑	1	H16・17 I16~18	平安	方形/5.83×4.05×0.06~0.10m SK25に切られる
SK27	土坑	1	I・J17	奈良	楕円形/2.42×2.12×0.55~0.61m
SD28	溝	1	J19~20 K13・18・19 L13~18	平安	0.23~0.65×0.08~0.15m SD21, SK33を切る/SD4, SK34に切られる
SK29	土坑	1	L・M13	弥生後期	楕円形/1.27×0.83×0.29m
SK30	土坑	1	L13・14	平安	不整形/1.90×1.58×0.29~0.30m
SK31	土坑	1	D6・7	弥生後期	円形/4.12×3.74×0.75m SK38を切る 銅鐔形土製品出土
SK32	土坑	1	D~F9	平安	不整形?/8.30×0.58×0.10~0.15m SD67を切る
SK33	土坑	1	L16・17	平安	円形/2.28×0.78×0.45m SD28に切られる
SK34	土坑	1	L17・18	鎌倉	円形?/2.85×1.35×0.68~0.77m SD28を切る
SB35	掘立柱建物	1	G13 H12~14 I13・14	平安後期	2間×4間/東西棟建物 {2.20+2.20×1.90+1.90+1.90m} (2.30+2.10) (1.80) SK23と重複
SB36	掘立柱建物	1	G・H12・13 I12	平安後期	2間×3間/東西棟建物 {2.15+2.15×2.15+2.15+2.15m} SK23と重複
SE37	井戸	1	D・E7	奈良	掘形楕円形 1.28×1.00×0.67~0.78m/井側木組円形 SK15を切る/SB18に切られる

第5表 遺構一覧表①

遺構番号	性格	調査次	地区	時期	特徴・形状・計測数値など
S K38	土坑	1	C・D6	弥生後期?	不整形? / 2.70×1.53×0.05~0.22m S K31に切られる
S D39	溝	1	N14~19 O13・14	平安後期	0.33~0.43×0.09~0.20m S D40を切る / S D62に切られる
S D40	溝	1	N15 O14・15	奈良	0.43~1.05×0.09~0.18m S D39に切られる
S K41	土坑	1	P15	弥生後期	円形? / 1.40×0.38×0.33m
S K42	土坑	1	P18・19	平安	方形? / 3.85×2.13×0.06~0.08m
S K43	土坑	1	G・H17~19	鎌倉	楕円形 / 2.76×2.45×0.62m S E47を切る
S K44	土坑	1	D・E19・20	鎌倉	不整形楕円形 / 3.03×2.08×0.57~0.63m S K45を切る
S K45	土坑	1	D・E20・21	平安末期	不整形楕円形 / 2.92×2.54×0.61~0.63m S K44に切られる
S E46	井戸	1	E21・22	鎌倉	掘形不整形円形 3.40×1.00~1.42m / 井側木組円形
S E47	井戸	1	G・H18・19	平安前期	堀形楕円形 3.12×2.94×0.94m / 井側木組方形 S K43に切られる
S K48	土坑	1	H・I19	平安末期	不整形楕円形 / 2.08×1.83×0.48~0.50m S K51を切る
S K49	土坑	1	K・L19・20	鎌倉	方形? / 6.50×0.83×0.15~0.20m S D50を切る
S D50	溝	1	J・K20・21	鎌倉	0.98~1.28×0.15~0.21m S K49に切られる / S B63を切る
S K51	土坑	1	H19・20	奈良	円形 / 2.50×0.48m S K48に切られる
S K52	土坑	1	H・I20・21	不明	楕円形 / 2.20×1.48×0.09~0.31m
S K53	土坑	1	H21	弥生後期	円形 / 2.18×1.50×0.18m S E54に切られる
S E54	井戸	1	H21	平安末期	掘形不整形楕円形 1.68×1.52×0.75~1.06m / 井側木組方形 S K53を切る
S E55	井戸	1	H22・23	鎌倉	掘形円形 1.77×0.45~1.00m / 井側木組円形
S D56	溝	1	F25・26 G24・25 H・I24 J・K23・24	平安	0.93~1.78×0.18~0.26m S D4・57, S B60に切られる
S D57	溝	1	J24 K21~24	平安	0.58~0.88×0.24~0.30m S D4・56を切る
S K58	土坑	1	H22・23	鎌倉	方形? / 1.83×1.25×0.56m
S K59	土坑	1	G24	弥生後期	不整形 / 2.98×2.00×0.23~0.34m
S B60	掘立柱建物	1	I24 J23~25 K23	平安末期	2間×3間 / 南北棟建物 {2.10+2.10×2.10+2.10+2.10m} S D56を切る
S K61	土坑	1	I9	弥生後期	円形? / 1.43×0.38×0.68m S K6に切られる
S D62	溝	1	M19・20 N15~20 O15~18	近世以降	1.13~3.30×0.12~0.36m 攪乱か?
S B63	掘立柱建物	1	I22 J21~23 K21・22	平安後期	2間×3間 / 南北棟建物 {2.20+2.20×2.30+1.20+2.20m} (1.90+1.90+1.90) S D50に切られる
S B64	掘立柱建物	1	F・G22・23	平安末期	2間×3間 / 南北棟建物 {1.35+1.35×1.20+1.20+1.20m}
S B65	掘立柱建物	1	O・P16・17	平安後期	2間×2間 / 総柱建物 {1.70+1.70×2.00+2.00m} 柱穴より緑釉陶器出土
S B66	掘立柱建物	1	I19 J・K18・19	平安末期	2間×3間 / 南北棟建物 {1.60+1.60×1.40+2.40+1.60m} (1.60+1.60+2.20)
S D67	溝	1	E8・9	平安?	0.58~1.00×0.18~0.23m
S D201	溝	2	E22 F22~25 G23~25	鎌倉	0.28~0.65×0.07~0.12m
S K202	土坑	2	F24	鎌倉	楕円形 / 1.03×0.78×0.31m → S E208に
203		2			
S D204	溝	2	E28 F27・28 G・H26・27	室町	0.43~1.08×0.23~0.32m
205		2			→ S E207に
S D206	溝	2	G25	不明	0.40~0.80×0.15m
S E207	井戸	2	F~H25・26	鎌倉	掘形不整形楕円形 5.93×4.38×1.06~1.15m / 井側木組円形
S E208	井戸	2	E26	鎌倉	掘形楕円形 2.78×2.19×0.56~1.15m / 井側木組円形

第6表 遺構一覧表②

遺構番号	性格	調査次	地区	時期	特徴・形状・計測数値など
S K209	土坑	2	E 27	不明	不整形/1.65×0.45×0.13m
S R210	旧河道	2	E 19・20 F 16~20 G 16~23 H 17~25・27 I 18~28 J 20~30 K 21~31 L 24~29	奈良~中世	10.25~14.50×1.02~1.53m S K211、S D216、S E217と重複 祭祀木製品多量に出土
S K211	土坑	2	H・I 27・28	不明	不整形/2.50×1.80×1.08~1.18m S R210を切る
S D212	溝	2	J 19	室町以降	0.65~0.75×0.10~0.13m
213					欠番
S K214	土坑	2	K 30・31	平安	不整形/1.98×1.20×0.14~0.15m
S K215	土坑	2	I・J 30・31 K 31	平安末期	方形/5.40×4.10×0.13~0.68m
S D216	溝	2	J 30・I 31	鎌倉?	0.25~0.45×0.04~0.12 S R210と重複
S E217	井戸	2	K 21	平安末期	掘形楕円形 1.83×1.52×0.76~0.84m/井側木組方形 S R210と重複
S E218	井戸	2	J 19	平安末期	掘形不整形円形 1.53×1.13×0.29~1.18m/井側木組円形 →S K220に
219		2			
S K220	土坑	2	J~L 19・20	鎌倉	不整形楕円形/7.30×6.25×0.59~1.10m
S E221	井戸	2	J 18	鎌倉	掘形楕円形 1.97×1.39×0.33~0.53m/井側木組円形 S K222を切る
S K222	土坑	2	J 18・19	不明	円形?/2.04×1.74×0.56~0.62m S E221に切られる
S K223	土坑	2	J 40	鎌倉	楕円形/1.95×1.44×0.51~0.57m
S E224	井戸	2	J 38・39 K 39	鎌倉	掘形楕円形 1.16×1.01×1.20~1.28m/素掘り
S E225	井戸	2	E・F 39	鎌倉	掘形楕円形 1.41×1.14×0.61~0.68m/素掘り
S E226	井戸	2	J 43	鎌倉	掘形楕円形 2.31×2.12×1.27~1.33m/井側土器+曲物
S Z227	不明遺構	2	H・I 38	室町	不整形楕円形/2.84×1.90×0.59~0.69m 骨片多数出土
S Z228	不明遺構	2	G 38・39	室町?	円形/1.83×0.19~0.27m 骨片多数出土
S K229	土坑	2	J 41・42	鎌倉	楕円形/2.37×2.10×0.46~0.51m
S E230	井戸	2	E 36	奈良	掘形楕円形 2.47×2.20×0.74~0.80m/素掘り
S E231	井戸	2	D・E 37	鎌倉	掘形楕円形 2.39×2.10×0.99~1.15m/井側木組円形
S E232	井戸	2	J・K 37・38	鎌倉	掘形円形 2.20×1.10m/井側木組円形 S E233と重複
S E233	井戸	2	K 37・38	鎌倉	掘形不整形円形 1.90×1.36×0.9m/井側木組円形 S E232と重複
S D234	溝	2	D 61・62 E 62 F・G 62・63 H 63・64 I 64	鎌倉	0.98~1.90×0.03~0.11m S D235に切られる, S K239を切る
S D235	溝	2	E 58~62 F 57・58	室町	0.53~1.78×0.04~0.20m S K239・240, S D234・238・303を切る
S D236	溝	2	F 61・62	不明	0.28~0.53×0.02~0.11m
S D237	溝	2	D 61	不明	0.20~0.23×0.05~0.07m
S D238	溝	2	D 60・61	弥生後期	0.20~0.30×0.07~0.10m S D235に切られる
S K239	土坑	2	D・E 61	弥生後期	楕円形?/2.87×1.23×0.06~0.07m S D234・235に切られる
S K240	土坑	2	E 60・61	弥生後期	不整形?/3.43×1.70×0.11~0.14m S D235に切られる
241		2			→S D303に 環濠
S D242	溝	2	H~J 57 I 58	鎌倉?	0.55~0.75×0.06~0.15m S D303を切る
S D243	溝	2	H~K 55 F~H 56 E・F 57	鎌倉?	0.23~0.58×0.04~0.22m S K439を切る
S D244	溝	2	D・E 57	鎌倉	0.23~0.30×0.09~0.11m
245					欠番
246					欠番

第7表 遺構一覧表③

遺構番号	性格	調査次	地区	時期	特徴・形状・計測数値など
S B247	掘立柱建物	2	E・F21・22	鎌倉	1間以上×3(?)間 {2.15+…×2.15+2.15m} (1.90+…)
S B248	掘立柱建物	2	E23・24	鎌倉	1間以上×3間以上 {1.40+…×1.50+1.50…m}
S B249	掘立柱建物	2	E・F24・25	鎌倉	3間×4間/南北棟総柱建物 {1.40+1.40+1.40×1.45+1.45+1.45+1.45m} S B248に切られる
S B250	掘立柱建物	2	F・G23・24	鎌倉	2間×3間/南北棟建物 {1.80+1.80×1.70+1.80+1.90m}
S B251	掘立柱建物	2	E～G27 F26	鎌倉	2間×3間/東西棟建物 {1.50+1.50×1.50+1.30+1.70m} (1.50+1.50+1.50)
S B252	掘立柱建物	2	G・H28・29	鎌倉	2間×3間/東西棟建物 {1.90+1.90×2.00+1.35+1.90m} (1.90+1.90+1.45)
S B253	掘立柱建物	2	G29・30 H29	鎌倉	2間×2間以上/南北棟建物 {1.20+1.20×1.30+1.30…m} (1.30+1.40…)
254					欠番
S B255	掘立柱建物	2	H32・33 I33	鎌倉	2間×2間以上/南北棟建物 {2.00+2.00×…+2.20m} (…+2.00+2.00)
S B256	掘立柱建物	2	H33・34 I34	鎌倉	2間×3間/東西棟建物 {1.55+1.55×1.50+1.50+1.65m} (1.55+1.55+1.55)
S B257	掘立柱建物	2	F～H59・60	弥生後期	2(1)間×3間/東西棟建物 {1.50+1.50×1.60+1.60+1.60m} (3.00)
S B258	掘立柱建物	2	F・G59・60	弥生後期	1間×1間 {1.95×3.00}
S B259	掘立柱建物	2	H32・33 I33	鎌倉	1間以上×2間/南北棟建物 {…+1.60×1.50+1.50m}
S B260	掘立柱建物	2	F・G34・35	鎌倉	2間×3間/東西棟建物 {1.50+1.50×1.35+1.50+1.20m} (1.00+1.75+1.30)
S B261	掘立柱建物	2	F・G35・36	鎌倉	2間×2間/総柱建物 {1.65+1.60×1.40+1.85} (1.65+1.65)
S B262	掘立柱建物	2	G～I35 H36	鎌倉	2間×3間/東西棟建物 {1.20+1.20×1.90+0.95+1.70m} (1.55+1.55+1.55)
263					欠番
S B264	掘立柱建物	2	F・G37・38	鎌倉	2間×3間/南北棟建物 {1.15+1.15 ×1.70+1.70+1.25m} (1.00+1.30) (1.65+1.70+1.35)
S K265	土坑	2	L36・37	不明	楕円形?/2.30×0.52×0.24～0.28m
S D301	溝	3	↑67・68 A68～70 B70～72 C72～74 D74	弥生	0.35～0.65×0.05～0.09m
S K302	土坑	3	B・C75・76	弥生後期	円形/1.80×0.50～0.56m
S D303	環濠	3	A68・69 B68 D～K57・58 N72～76 O74～77	弥生後期	1.20～1.60×0.23～0.52m S K304, S D306を切る S D4・235・242に切られる 第3次調査区東側に土器集中
S K304	土坑	3	A・B69	不明	不整形/0.26×0.18×0.23～0.27m
S K305	土坑	3	B・C68	弥生後期	円形/2.49×0.85～0.92m 木製槽出土/弥生土器大量出土
S D306	溝	3	B～D69 D～G70 G～J71 J～L72 L・M73 M74 M・N75 N76 O77・78	弥生?	0.28～1.28×0.05～0.13m S K314・316・341, S D303に切られる

第8表 遺構一覧表④

遺構番号	性格	調査次	地区	時期	特徴・形状・計測数値など
S D 307	溝	3	B 79 C・D 79・80 E～G 80	平安?	0.58～1.28×0.05～0.13m S K 325を切る
308		3			→S K 31に
S K 309	土坑	3	B 68	弥生?	楕円形?/1.25×0.33×0.17～0.23m
S K 310	土坑	3	D・E 72・73	弥生後期	不整楕円形/1.79×0.74×0.10～0.23m
S K 311	土坑	3	E 69	平安?	円形?/1.15×0.53×0.04～0.11m
S K 312	土坑	3	C・D 78・79	鎌倉	楕円形/4.46×3.21×0.49～0.72m
S K 313	土坑	3	C 74・75 D・E 74～76	室町	不整円形/9.30×0.62～0.94m/池? ヒシの実多量出土
S K 314	土坑	3	D 69	不明	不整形/1.65×0.80×0.18～0.19m S D 306を切る/S K 316に切られる
S D 315	溝	3	D 69	鎌倉?	0.55～1.35×0.02～0.09m
S K 316	土坑	3	C・D 69・70	不明	方形/3.85×1.90×0.14～0.23m S D 306, S K 314を切る 攪乱か?
S K 317	土坑	3	F 70	弥生後期	楕円形/1.40×0.75×0.23～0.26m
S X 318	墓壇	3	E 77	平安末期	楕円形/0.71×0.51×0.23～0.26m 蔵骨器(山茶碗)あり
S K 319	土坑	3	G 70	不明	楕円形?/1.70×0.60×0.10～0.13m
S K 320	土坑	3	G 72	不明	不整形/1.25×0.68×0.09～0.10m
S K 321	土坑	3	F 73 G 73・74	弥生?	不整形/3.05×0.85×0.14～0.53m
S K 322	土坑	3	F・G 75	鎌倉	円形/2.00×0.33～0.38m
S E 323	井戸	3	F 77・78	平安末期	掘形円形 2.86×0.69～0.80m/井側木組方形
S K 324	土坑	3	F 75・76	平安末期	円形/2.45×0.57～0.63m
S K 325	土坑	3	F 80	弥生後期	円形?/1.73×1.68×0.60～0.64m S D 307に切られる
S K 326	土坑	3	G・H 75・76	弥生後期	不整楕円形/3.68×2.15×0.53～0.74m S K 328を切る 弥生土器大量出土
S E 327	井戸	3	G 75・76・77	弥生後期	掘形不整楕円形 3.07×2.34×0.53～0.72m/底部に配石 弥生土器大量出土
S K 328	土坑	3	F・G 75	弥生後期	不整円形?/1.85×1.11×1.78～1.79m S K 326に切られる
S D 329	溝	3	F・G 86 G・H 87	弥生後期?	0.73～1.58×0.12～0.15m
S K 330	土坑	3	G・H 79	弥生後期	不整楕円形/3.20×2.46×0.33～0.62m S D 344を切る
S K 331	土坑	3	G 80	平安	円形/1.40×0.36～0.43m
S K 332	土坑	3	F 81・82	不明	楕円形/1.63×0.85×0.18～0.21m
S K 333	土坑	3	F・G 85・86	平安末期～鎌倉	楕円形/2.78×0.95×0.07～0.10m
S K 334	土坑	3	H 74・75	不明	楕円形/2.20×0.80×0.16～0.19m
S K 335	土坑	3	I 33	不明	円形/1.30×0.41～0.42m
S D 336	溝	3	G～I・K 80 H～K 81	弥生後期	0.85～1.63×0.12～0.17m
S E 337	井戸	3	H 80	平安末期	掘形楕円形 1.61×1.28×0.97～1.02m/井側木組円形
338		3			→S D 303に 環濠
339		3			→S D 4に
S K 340	土坑	3	I 78	弥生後期	不整円形/1.92×1.69×0.70～0.91m
S K 341	土坑	3	L・M 73・74	平安末期	楕円形/3.50×2.85×0.71～0.80m S D 306を切る
342					欠番
S K 343	土坑	3	I 81・82	弥生後期	楕円形/1.80×1.45×0.47～0.52m
S D 344	溝	3	H～J 79 J～N 80 M～O 81	弥生後期	0.38～0.68×0.06～0.23 S D 4, S K 330に切られる
S E 345	井戸	3	H・I 83・84	平安末期	掘形楕円形 1.79×1.51×1.02～1.05m/井側木組方形
S K 346	土坑	3	M 77	平安後期	円形/1.30×0.55～0.59m
347		3			→S D 303に 環濠
S K 348	土坑	3	G 87	不明	円形/1.25×0.42～0.44m
S K 349	土坑	3	H 86 I 86・87	不明	細長い楕円形/4.18×1.23×0.06～0.14m
S K 350	土坑	3	I 86 J 86・87	平安後期?	不整楕円形/3.30×2.30×0.20～0.24m
S K 351	土坑	3	L 83 M 83・84	鎌倉	不整円形/3.50×3.25×0.54～0.57m
352		3			→S D 4に
S E 353	井戸	3	N 87	平安前期	掘形円形 1.83×0.71～0.73m/井側木組方形 S K 355に切られる

第9表 遺構一覧表⑤

遺構番号	性格	調査次	地区	時期	特徴・形状・計測数値など
S K 354	土坑	3	O86・87	鎌倉	円形/3.52×3.20×0.54~0.64m S B 389を切る
S K 355	土坑	3	N・O87・88	鎌倉以降	方形?/2.60×2.33×0.61~0.63m S K 356に切られる/S K 353を切る
S K 356	土坑	3	N・O88・89	室町以降	不整形楕円形?/3.11×1.41×0.43~0.72m S K 355を切る
S E 357	井戸	3	N89・90	平安末期	掘形円形 1.35×1.02m/井側木組方形
S E 358	井戸	3	D42	平安末期	掘形楕円形 1.72×1.53×0.88~1.04m/井側木組方形
S K 359	土坑	3	H45・46	弥生後期	不整形円形/2.01×1.96×0.57~0.71m
S K 360	土坑	3	I 46	弥生後期?	楕円形/1.70×1.70×0.51~0.55m
S K 361	土坑	3	G・H45	弥生後期	楕円形/1.00×0.90×0.64~0.65m
S E 362	井戸	3	J 46	奈良	掘形楕円形 1.74×1.54×0.83~0.84m/素掘り
S E 363	井戸	3	J・K46・47	平安	掘形楕円形 2.43×2.13×0.55~0.63m/井側木組方形 ト・マ・線刻土師器皿出土
S K 364	土坑	3	H45	鎌倉	不整形円形/1.20×0.93×0.29~0.32m
S K 365	土坑	3	G46	平安	円形?/1.15×0.68×0.45~0.49m
S K 366	土坑	3	E・F45	鎌倉	楕円形/1.25×0.60×0.30~0.32m
S K 367	土坑	3	E・F44・45	鎌倉	不整形/4.50×3.05×0.48~0.68m S D 371に切られる
S E 368	井戸	3	G・H44	鎌倉	掘形楕円形 1.67×1.32×0.27~0.55m/井側木組円形
S K 369	土坑	3	H44	平安	楕円形/1.40×1.10×0.46m
S E 370	井戸	3	F 43	奈良	掘形円形 1.75×0.61~0.64m/井側木組方形
S D 371	溝	3	C~E42 D~F43 E~G44	室町	2.10×0.29~0.47m S K 367・397を切る/S K 396と重複
S K 372	土坑	3	D・E42	弥生後期	不整形楕円形/2.72×2.31×0.23~0.39m
S K 373	土坑	3	F 42	近世	楕円形/0.95×0.95×0.41~0.46m
S B 374	掘立柱建物	3	B69~71 C69・70	弥生?	1間×4間/南北棟建物 {3.80×3.50+3.50+3.50+3.50m}
S B 375	掘立柱建物	3	H74・75 I 73~75	平安	2間×3間/南北棟建物 {1.60+1.60×2.10+1.85+1.60m} (1.90+1.90+1.65)
S B 376	掘立柱建物	3	I・L75 J・K74~76	平安後期	1間×4間/東西棟建物 {4.40×2.20+2.20+2.20+2.20m}
S B 377	掘立柱建物	3	K74・75 L74~76 M74	平安後期	2間×3間/南北棟建物 {2.10+2.10×1.90+2.10+2.30m} (2.10+2.10+2.10)
S B 378	掘立柱建物	3	K~M75 L・M76	平安後期	2間×2間/総柱建物 {2.40+1.90×2.40+2.40m}
S B 379	掘立柱建物	3	L76・77 M76~78 N77	平安末期	1(2)間×3間/東西棟建物 {4.20 ×2.30+2.30+2.30m} (2.10+2.10)
S B 380	掘立柱建物	3	J・M78 K77~79 L78・79	鎌倉	2間×3間/東西棟建物 {2.15+2.15×2.15+2.15+2.15m}
S B 381	掘立柱建物	3	I 80・81 J 80~82	平安	1間×3間/東西棟建物 {4.20×1.80+1.80+2.10m}
S B 382	掘立柱建物	3	G80~82 H・I 81・82	平安	2間×4間/東西棟総柱建物 {2.30+2.30×2.10+2.30+2.50+2.30m}
S B 383	掘立柱建物	3	F・G83~84 H83	平安後期	2間×2間 {2.15+2.15×2.15+2.15m}
S B 384	掘立柱建物	3	H83~85 I 84・85	平安後期	1間×2間 {4.20×2.00+2.00m}
S B 385	掘立柱建物	3	M84・85 N85・86 O85	平安末期	2間×3間/東西棟建物 {2.10+2.10×2.10+2.10+2.10m} S B 388に切られる
S B 386	掘立柱建物	3	L~N85・86	平安末期	2間×3間/南北棟建物 {2.10+2.10×2.00+2.00+2.00m}
S B 387	掘立柱建物	3	M84~86 N・O85・86	平安末期	2間×3間/東西棟建物 {2.40+2.40×2.40+2.40+2.40m} S B 389を切る/S B 385・388・390と重複
S B 388	掘立柱建物	3	L 86 M・N85・86	鎌倉	2間×2間 {2.05+2.05×2.20+2.20m} S B 385を切る
S B 389	掘立柱建物	3	N・O85・86	平安末期	1間×2間/南北棟建物 {2.45 ×2.4+2.4m} (2.4) (3.1+1.7) S K 354, S B 387に切られる

第10表 遺構一覧表⑥

遺構番号	性格	調査次	地区	時期	特徴・形状・計測数値など
S B 390	掘立柱建物	3	L 85・86 M 85・86 N 85・86・87	平安末期	1間×3間／東西棟建物 {2.6×2.35+2.35+2.35m} S B 387と重複
S B 391	掘立柱建物	3	L・M 86~88 N 87	平安後期	2間×3間／南北棟建物 {2.00+2.00×2.00+2.00+2.00m} S B 392と重複
S B 392	掘立柱建物	3	L 86~88 M 87・88	平安後期	2間×3間／南北棟建物 {1.75+1.75×1.90+1.90+1.90m} S B 391・393と重複
S B 393	掘立柱建物	3	L 86・87 M 87・88	平安前期	2間×2間／東西棟建物 {2.00+2.00×2.10+2.10m} S B 392と重複
S B 394	掘立柱建物	3	K・L 86・87	平安後期	1間×2間／南北棟建物 {2.40×2.50+2.10m} (2.30+2.30)
395					欠番
S K 396	土坑	3	F・G 44	奈良	円形／1.01×0.76~0.79m S D 371と重複
S K 397	土坑	3	D・E 43・44	平安?	方形／3.15×2.45×0.13~0.21m S D 371に切られる
S K 398	土坑	3	N 74	弥生末期	楕円形／1.04×0.72×0.38~0.41m S D 303に切られる
S Z 399	橋状遺構	3	N 74	弥生後期	1.23×0.63×0.40~0.44m S D 4に切られる
S K 401	土坑	4	K・L 15	鎌倉	楕円形／1.18×0.88×0.09~0.13m
S D 402	溝	4	L 15~18	平安	0.23~0.53×0.06~0.11m S K 405に切られる
S K 403	土坑	4	K 15・16	平安?	円形／1.19×0.15~0.17m
S K 404	土坑	4	J・K 17・18	平安末期	楕円形／2.12×1.34×0.18~0.22m
S K 405	土坑	4	K 18	鎌倉	楕円形／2.64×0.73×0.08~0.09m S D 402を切る
S D 406	溝	4	I 10・12 J 10~12	不明	0.18×0.39×0.04~0.14m
S K 407	土坑	4	J 17・18	鎌倉	不整楕円形／2.07×1.59×0.69~0.76m
S K 408	土坑	4	I 16	不明	不整楕円形／2.76×1.18×0.24~0.38m
S K 409	土坑	4	H 16	不明	不整楕円形／1.94×1.10×0.09~0.33m
S K 410	土坑	4	H・I 14	弥生後期	楕円形／2.76×2.05×0.13~0.67m 弥生土器多量出土
S K 411	土坑	4	I 12・13	平安?	楕円形／1.27×1.11×0.19~0.21m
S K 412	土坑	4	I 12	平安?	楕円形／1.00×0.60×0.08~0.14m
S K 413	土坑	4	G 16・17	鎌倉?	不整円形／3.42×2.72×0.30~0.59m
S K 414	土坑	4	I 12	平安?	楕円形／0.78×0.51×0.15~0.16m
S K 415	土坑	4	F 9・10	鎌倉	円形?／3.12×2.22×0.48~0.78m
S K 416	土坑	4	H 10・11	不明	不整円形?／2.16×1.73×0.05~0.08m
S K 417	土坑	4	G 10・11	不明	楕円形?／2.41×0.66×0.08~0.17m
S K 418	土坑	4	E・F 12~14	鎌倉	楕円形?／4.67×3.74×0.54~0.59m
S X 419	墓壇	4	H 16・17	平安末期	不整楕円形／1.15×0.53×0.17~0.22m 蔵骨器(山茶碗)出土
S K 420	土坑	4	M 67・68	弥生後期	楕円形／2.60×1.76×0.47~0.54m 弥生土器多量出土
S K 421	土坑	4	L 66	弥生後期?	不整円形／2.71×2.51×0.54~0.71m 攪乱に切られる 弥生土器多量出土
S K 422	土坑	4	K 68	鎌倉	楕円形?／3.75×1.35×0.85~0.89m
S K 423	土坑	4	G・H 66・67 I 67	室町	方形?／6.25×1.35×0.67~0.89m
S K 424	土坑	4	I・J 67	不明	不整楕円形?／2.18×2.40×0.91~1.09m
S K 425	土坑	4	L・M 68	不明	不整楕円形／1.75×0.75×0.22~0.23m
S K 426	土坑	4	K 61	弥生後期	不整円形／2.24×2.05×1.04~1.14m 弥生土器多量出土
S K 427	土坑	4	K・L 59・60	不明	不整円形?／3.38×2.40×0.91~1.09m
428		4			→ S D 234に
429		4			→ S D 243に
430		4			→ S D 303に 環濠
431		4			→ S D 242に
S K 432	土坑	4	I 62	弥生後期?	不整楕円形／2.48×0.50×0.06m
S D 433	溝	4	H・I 58・59	不明	0.30~0.50×0.09~0.11m 第2次調査区へのびる
S K 434	土坑	4	I 61 J 60・61	弥生後期	不整楕円形／1.06×0.65×0.06~0.07m
S K 435	土坑	4	J 60・61	弥生後期	不整楕円形／1.08×0.65×0.09m

第11表 遺構一覧表⑦

遺構番号	性格	調査次	地区	時期	特徴・形状・計測数値など
S K 436	土坑	4	F・G56	不明	楕円形/1.00×0.78×0.29~0.30m
S D 437	溝	4	K53~55	平安?	0.40~0.53×0.06~0.12m S K 478, S K 479を切る
S K 438	土坑	4	J 55	平安?	円形/1.33×0.07~0.08m S K 439と重複
S K 439	土坑	4	J 55・56	不明	不整楕円形/4.25×2.95×0.14~0.32m S D 243に切られる/S K 438と重複
S K 440	土坑	4	H・I 52~54	平安後期	不整形/6.35×5.03×0.07~0.19m S K 449・461・481を切る
S D 441	溝	4	H 49 I 49・50 J 50・51 K 51・52	平安末期	0.68~1.20×0.09~0.27m S D 442を切る
S D 442	溝	4	I・J 50・51 K 51・52	平安?	0.13~0.85×0.06~0.10m S D 441, S K 448, S K 452に切られる
S K 443	土坑	4	J 51・52	平安?	楕円形/1.25×0.98×0.11~0.12m
S K 444	土坑	4	G 52 H 51・52	平安?	不整形/3.43×3.13×0.06~0.18m S K 449を切る
S K 445	土坑	4	K 51	奈良	不整楕円形/1.78×0.90×0.02~0.10m
S K 446	土坑	4	K 50	奈良	不整楕円形/2.01×1.57×0.66~0.76m
S K 447	土坑	4	J 52	平安?	楕円形/1.38×1.13×0.21~0.24m
S K 448	土坑	4	J・K 52	平安?	不整形/2.00×1.50×0.05~0.06m S D 442, S K 453を切る
S K 449	土坑	4	H・I 52	平安?	不整形/?/2.73×1.73×0.07m S K 440・444に切られる
S K 450	土坑	4	J・K 49・50	平安末期	不整形/3.28×1.50×0.25~0.29m
S E 451	井戸	4	J 47・48	平安前期	掘形円形 1.86×0.39~0.50m/素掘り
S K 452	土坑	4	J 51・52	平安?	楕円形/?/2.51×0.40×0.14m S D 442に切られる
S K 453	土坑	4	J 52	平安?	楕円形/?/1.40×0.40×0.05m S K 448に切られる
S K 454	土坑	4	E 48・49	平安後期	不整楕円形/1.90×1.15×0.40~0.42m
S K 455	土坑	4	H 51	平安?	不整形/1.30×0.93×0.26m
S K 456	土坑	4	D・E 48	平安後期	楕円形/3.25×1.43×0.12~0.19m
S D 457	溝	4	H 49	平安?	0.50~0.53×0.14~0.31m
S K 458	土坑	4	E 48	不明	楕円形/1.05×0.48×0.20m
S D 459	溝	4	G 48 H 48・49	平安末期	0.28~0.83×0.17~0.34m
S D 460	溝	4	F 47 G 47・48	鎌倉	0.50~0.88×0.29~0.34m
S K 461	土坑	4	H 52・53	不明	楕円形/?/1.23×1.10×0.07~0.12m S K 440に切られる
S K 462	土坑	4	E 46・47 F 46	不明	不整形/2.33×1.85×0.51~0.54m S D 465・466を切る
S K 463	土坑	4	E 47	弥生後期	楕円形/0.88×0.68×0.18~0.50m
S D 464	溝	4	F 46・47	不明	0.30~0.45×0.11~0.12m
S D 465	溝	4	D・E 46	不明	0.18~0.40×0.05~0.07m S D 462・486に切られる
S D 466	溝	4	D・E 46	平安後期	0.23~0.85×0.17~0.31m S K 462・469・470に切られる
S D 467	溝	4	F 46・47 G 46~48 F 47・48	室町	0.58~1.25×0.12~0.34m S K 471を切る
S K 468	土坑	4	H 48	平安?	楕円形/1.03×0.50×0.18m
S K 469	土坑	4	E 46	平安?	楕円形/0.83×0.73×0.31~0.32m S D 466を切る
S K 470	土坑	4	E 46	鎌倉	不整楕円形/1.18×0.43×0.18~0.20m S D 466を切る
S K 471	土坑	4	G 46・47	平安末期	方形/2.55×1.68×0.22~0.25m S D 472を切る/S D 467に切られる
S D 472	溝	4	G・H 47	平安	0.95~1.20×0.38~0.49m S K 471に切られる
S K 473	土坑	4	H・I 50	鎌倉	不整形/0.88×0.83×0.44~0.51m
S K 474	土坑	4	H・I 48・49	鎌倉	楕円形/1.45×0.58×0.08m
S K 475	土坑	4	I 48	不明	楕円形/1.28×0.88×0.11m
S K 476	土坑	4	I 52	不明	円形/0.80×0.11m
S K 477	土坑	4	J 52・53	不明	楕円形/2.00×1.00×0.12m
S K 478	土坑	4	K 53・54	不明	不整楕円形/3.35×1.60×0.05~0.07m S D 437に切られる
S K 479	土坑	4	K 54・55	不明	楕円形/?/4.78×2.03×0.05~0.07m S D 437に切られる

第12表 遺構一覧表⑧

遺構番号	性格	調査次	地区	時期	特徴・形状・計測数値など
S K 480	土坑	4	I 52・53	不明	楕円形／0.65～0.60×0.07～0.08m
S K 481	土坑	4	I 53	不明	円形？／1.15×0.68×0.08m S K 440に切られる
S K 482	土坑	4	E 66	弥生後期	円形／1.00×0.90×0.32～0.35m
483		4			→S D 235へ
S K 484	土坑	4	C・D 48	鎌倉	円形？／2.33×0.27～0.38m
S K 485	土坑	4	C 47	鎌倉	楕円形／0.85×0.43×0.23m
S K 486	土坑	4	C・D 45・46	不明	楕円形？／2.38×1.18×0.51～0.75m S D 465を切る（攪乱か？）
S B 487	掘立柱建物	4	L 12	弥生？	1間×2間／東西棟建物 {1.80×1.30+1.50m} (1.40+1.40)
S B 488	掘立柱建物	4	H 13 I 11～13 J 11・12	平安前期	2間×3間／南北棟建物 {2.00+2.00×2.25+2.25+2.25m} 柱穴より 土師器長胴甕 出土
S B 489	掘立柱建物	4	H・I 11・12	奈良	2間×2間 {2.25+2.25 ×2.40+2.10m} (2.00+2.50) (2.25+2.25)
S B 490	掘立柱建物	4	I・J 14・15	平安末期	2間×2間 {1.90+1.90 ×1.85+2.00m} (2.00+1.80) (1.95+1.95) 柱穴1ヶ所から 緑釉陶器 土師器皿 山皿 が同時に出土
S B 491	掘立柱建物	4	I・J 16・17	鎌倉	2間×2間／南北棟建物 {1.90+2.10×2.00+2.00m} (1.80+2.00)
S B 492	掘立柱建物	4	H・I 13・14	奈良	2間×3間／東西棟建物 {2.10+2.10×2.00+2.00+2.00m}

第13表 遺構一覧表⑨

<遺構一覧表凡例>

遺構番号：本文、図版、遺構番号対照表の番号に対応する。

性格：土坑、井戸、溝などの遺構の性格を記入している。

調査次：第1次調査は1、第2次調査は2というように数字を記入している。

地区：遺構が位置する地区を記入している。

時期：時期区分の考え方や遺構の時期は本文と対応している。

特徴・形状・計測数値など：特徴や形状は、遺物の出土状況や遺構の形状などを、計測数値は、土坑・井戸ならば（長軸×短軸×深さ、径×深さ）、溝ならば（幅×深さ）、掘立柱建物ならば（梁行×桁行／○+○×○+○+○m）というように表記している。

第 1 次 調 査

遺構番号	概 報	調査時	備 考
SK 1	1	SK 1	
SK 2	2	SK 2	欠番
SK 3	3	SK 3	
SD 4	4	SD 4	
SK 5	5	SK 5	
SK 6	土坑	SK 6	
SD 7	7	SD 7	
SK 8	土坑	SK 8	
SK 9	9	SK 9	
SK 10	10	SK 10	
SK 11	11	SK 11	
SD 12	溝	SD 12	
SK 13	13	SK 13	
SK 14	14	SK 14	
SK 15	土坑	SK 15	
SD 16	16	SD 16	
SK 17	17	SK 17	
SB 18	掘立柱建物	SB 18	
SD 19	19	SD 19	
SD 20	溝	SD 20	SD 4 に
SD 21	21	SD 21	
SK 22	22	SK 22	
SK 23	23	SK 23	
SK 24	24	SK 24	
SK 25	25	SK 25	
SK 26	26	SK 26	
SK 27	27	SK 27	
SD 28	28	SD 28	
SK 29	29	SK 29	
SK 30	30	SK 30	
SK 31	土坑	SK 31	
SK 32	32	SK 32	
SK 33	33	SK 33	
SK 34	34	SK 34	
SB 35	掘立柱建物	SB 35	
SB 36	掘立柱建物	SB 36	
SE 37	井戸	SE 37	
SK 38	38	SK 38	
SD 39	39	SD 39	
SD 40	40	SD 40	
SK 41	41	SK 41	
SK 42	42	SK 42	
SK 43	43	SK 43	
SK 44	44	SK 44	
SK 45	45	SK 45	
SE 46	井戸	SE 46	
SE 47	井戸	SE 47	
SK 48	48	SK 48	
SK 49	49	SK 49	
SD 50	50	SD 50	
SK 51	51	SK 51	
SK 52	52	SK 52	
SK 53	53	SK 53	
SE 54	井戸	SE 54	
SE 55	55	SE 55	
SD 56	56	SD 56	
SD 57	57	SD 57	
SK 58	58	SK 58	
SK 59	59	SK 59	
SB 60	掘立柱建物	SB 60	
SK 61	61	SK 61	
SD 62	62	SD 62	
SB 63	掘立柱建物	SB 63	
SB 64	64	SB 64	
SB 65	掘立柱建物	SB 65	
SB 66	掘立柱建物	SB 66	
SD 67	67	SD 67	

第 2 次 調 査

遺構番号	概 報	調査時	備 考
SD 20 1	1	SD 1	
SK 20 2	2	SK 2	
SD 20 3	3	SK 3	SE 20 8 に
SD 20 4	4	SD 4	
SD 20 5	5	SD 5	SE 20 7 に
SD 20 6	6	SD 6	
SE 20 7	SE	SK 7	
SE 20 8	SE	SK 8	
SK 20 9	9	SK 9	
SK 21 0	SR 10	SD 10	
SK 21 1	11	SK 11	

SD 21 2	12	SD 12	
SD 21 3	13	SK 13	欠番
SK 21 4	14	SK 14	
SK 21 5	SK 15	SK 15	
SD 21 6	SK 16	SD 16	
SE 21 7	SE 17	SE 17	
SE 21 8	SE 18	SE 18	
SE 21 9	19	SK 19	SK 220 に
SK 22 0	SK 20	SK 20	
SE 22 1	SE 21	SK 21	
SK 22 2	22	SK 22	
SK 22 3	SK 23	SK 23	
SE 22 4	24	SK 24	
SE 22 5	SE 25	SE 25	
SE 22 6	SE 26	SE 26	
SE 22 7	SE 27	SE 27	
SK 22 8	28	SK 28	
SK 22 9	29	SK 29	
SE 23 0	SK 30	SK 30	
SE 23 1	SE 31	SE 31	
SE 23 2	SE 32	SE 32	
SE 23 3	33	SK 33	
SD 23 4	34	SD 34	
SD 23 5	SD 35	SD 35	
SD 23 6	36	SD 36	
SD 23 7	37	SD 37	
SD 23 8	SD 38	SD 38	
SK 23 9	39	SK 39	
SK 24 0	SK 40	SK 40	
SD 24 1	SD 41	SD 41	SD 303 に
SD 24 2	42	SD 42	
SD 24 3	43	SD 43	
SD 24 4	44	SD 44	
SD 24 5	45	ZZ 45	欠番
SD 24 6	46	ZZ 46	欠番
SB 24 7	47	SB 47	
SB 24 8	48	SB 48	
SB 24 9	SB 49	SB 49	
SB 25 0	SB 50	SB 50	
SB 25 1	51	SB 51	
SB 25 2	52	SB 52	
SB 25 3	53	SB 53	欠番
SB 25 4	54	SB 54	
SB 25 5	55	SB 55	
SB 25 6	56	SB 56	
SB 25 7	SB 57	SB 57	
SB 25 8	SB 58	SB 58	
SB 25 9	59	SB 59	
SB 26 0	60	SB 60	
SB 26 1	SB 61	SB 61	
SB 26 2	62	SB 62	
SB 26 3	63	SB 63	欠番
SB 26 4	64	SB 64	
SK 26 5	65	SK 101	

第 3 次 調 査

遺構番号	概 報	調査時	備 考
SD 30 1	1	SD 1	
SK 30 2	2	SK 2	
SD 30 2	濠	SD 3	
SK 30 4	4	SK 4	
SK 30 5	SK	SK 5	
SD 30 6	6	SD 6	
SD 30 7	7	SD 7	
SK 30 8	8	SK 8	SK 31 に
SK 30 9	9	SK 9	
SK 31 0	10	SK 10	
SK 31 1	11	SK 11	
SK 31 2	12	SK 12	
SK 31 3	13	SK 13	
SK 31 4	14	SK 14	
SD 31 5	15	SD 15	
SK 31 6	16	SK 16	
SK 31 7	17	SK 17	
SK 31 8	SX 18	SX 18	
SK 31 9	19	SK 19	
SK 32 0	20	SK 20	
SK 32 1	21	SK 21	
SK 32 2	22	SK 22	
SE 32 3	SE 23	SE 23	
SK 32 4	24	SK 24	
SK 32 5	25	SK 25	
SK 32 6	SK 26	SK 26	
SE 32 7	SK 27	SK 27	
SK 32 8	28	SK 28	

第14表 遺構番号対照表①

S D 3 3 2 9	2 9	S D 2 3 9	
S K 3 3 3 0	3 0	S K 3 3 0	
S K 3 3 3 1	3 1	S K 3 3 1	
S K 3 3 3 2	3 2	S K 3 3 2	
S K 3 3 3 3	3 3	S K 3 3 3	
S K 3 3 3 4	3 4	S K 3 3 4	
S K 3 3 3 5	3 5	S K 3 3 5	
S D 3 3 3 6	3 6	S D 3 3 6	
S E 3 3 3 7	3 7	S E 3 3 7	
3 3 3 8	環 濼	3 3 8	S D 3 0 3 に
3 3 3 9	3 9	3 3 9	S D 4 に
S K 3 3 4 0	4 0	S K 3 4 0	
S K 3 3 4 1	4 1	S K 3 4 1	欠番
3 3 4 2	4 2	3 4 2	
S K 3 3 4 3	4 3	S K 3 4 3	
S D 3 3 4 4	4 4	S D 3 4 4	
S E 3 3 4 5	S E 4 5	S E 3 4 5	
S K 3 3 4 6	S E 4 6	S K 3 4 6	S D 3 0 3 に
3 3 4 7	環 濼	3 4 7	
S K 3 3 4 8	4 8	S K 3 4 8	
S K 3 3 4 9	4 9	S K 3 4 9	
S K 3 3 5 0	5 0	S K 3 5 0	
S K 3 3 5 1	5 1	S K 3 5 1	
3 3 5 2	5 2	3 5 2	S D 4 に
S E 3 3 5 3	5 3	S E 3 5 3	
S K 3 3 5 4	5 4	S K 3 5 4	
S K 3 3 5 5	5 5	S K 3 5 5	
S K 3 3 5 6	5 6	S K 3 5 6	
S E 3 3 5 7	5 7	S E 3 5 7	
S E 3 3 5 8	5 8	S E 3 5 8	
S K 3 3 5 9	S K 5 9	S K 3 5 9	
S K 3 3 6 0	6 0	S K 3 6 0	
S K 3 3 6 1	6 1	S K 3 6 1	
S E 3 3 6 2	6 2	S E 3 6 2	
S E 3 3 6 3	S E 6 3	S E 3 6 3	
S K 3 3 6 4	6 4	S K 3 6 4	
S K 3 3 6 5	6 5	S K 3 6 5	
S K 3 3 6 6	6 6	S K 3 6 6	
S K 3 3 6 7	6 7	S K 3 6 7	
S E 3 3 6 8	6 8	S E 3 6 8	
S K 3 3 6 9	6 9	S K 3 6 9	
S E 3 3 7 0	7 0	S E 3 7 0	
S D 3 3 7 1	7 1	S D 3 7 1	
S K 3 3 7 2	S K 7 2	S K 3 7 2	
S K 3 3 7 3	7 3	S K 3 7 3	
S B 3 3 7 4	S B 7 4	S B 3 7 4	
S B 3 3 7 5	S B 7 5	S B 3 7 5	
S B 3 3 7 6	S B 7 6	S B 3 7 6	
S B 3 3 7 7	S B 7 7	S B 3 7 7	
S B 3 3 7 8	S B 7 8	S B 3 7 8	
S B 3 3 7 9	S B 7 9	S B 3 7 9	
S B 3 3 8 0	S B 8 0	S B 3 8 0	
S B 3 3 8 1	S B 8 1	S B 3 8 1	
S B 3 3 8 2	S B 8 2	S B 3 8 2	
S B 3 3 8 3	S B 8 3	S B 3 8 3	
S B 3 3 8 4	S B 8 4	S B 3 8 4	
S B 3 3 8 5	S B 8 5	S B 3 8 5	
S B 3 3 8 6	S B 8 6	S B 3 8 6	
S B 3 3 8 7	S B 8 7	S B 3 8 7	
S B 3 3 8 8	S B 8 8	S B 3 8 8	
S B 3 3 8 9	S B 8 9	S B 3 8 9	
S B 3 3 9 0	S B 9 0	S B 3 9 0	
S B 3 3 9 1	S B 9 1	S B 3 9 1	
S B 3 3 9 2	S B 9 2	S B 3 9 2	
S B 3 3 9 3	S B 9 3	S B 3 9 3	
S B 3 3 9 4	S B 9 4	S B 3 9 4	
3 3 9 5	9 5	3 9 5	欠番
S K 3 3 9 6	9 6	S K 3 9 6	
S K 3 3 9 7	9 7	S K 3 9 7	
S K 3 3 9 8	9 8	S K 3 9 8	
S Z 3 3 9 9	土 橋	S Z 3 9 9	土 橋部分

第 4 次 調 査

遺構番号	概 報	調査時	備 考
S K 4 0 1	1	S K 1	
S D 4 0 2	2	S D 2	
S K 4 0 3	3	S K 3	
S K 4 0 4	S K 4	S K 4	
S K 4 0 5	S K 5	S K 5	
S D 4 0 6	6	S D 6	
S K 4 0 7	S K 7	S K 7	
S K 4 0 8	8	S K 8	
S K 4 0 9	9	S K 9	

S K 4 1 0	S K 1 0	S K 1 0	
S K 4 1 1	1 1	S K 1 1	
S K 4 1 2	1 2	S K 1 2	
S K 4 1 3	1 3	S K 1 3	
S K 4 1 4	1 4	S K 1 4	
S K 4 1 5	S K 1 5	S K 1 5	
S K 4 1 6	1 6	S K 1 6	
S K 4 1 7	1 7	S K 1 7	
S K 4 1 8	S K 1 8	S K 1 8	
S X 4 1 9	S X 1 9	S X 1 9	
S K 4 2 0	S K 2 0	S K 2 0	
S K 4 2 1	S K 2 1	S K 2 1	
S K 4 2 2	S K 2 2	S K 2 2	
S K 4 2 3	S K 2 3	S K 2 3	
S K 4 2 4	2 4	S K 2 4	
S K 4 2 5	2 5	S K 2 5	
S K 4 2 6	S K 2 6	S K 2 6	
S K 4 2 7	2 7	S K 2 7	
4 2 8	2 8	S K 2 8	
4 2 9	2 9	S K 2 9	
4 3 0	環 濼	4 3 0	
4 3 1	3 1	S K 3 1	
S K 4 3 2	S K 3 2	S K 4 3 2	
S D 4 3 3	3 3	S D 4 3 3	
S K 4 3 4	3 4	S K 4 3 4	
S K 4 3 5	3 5	S K 4 3 5	
S K 4 3 6	3 6	S K 4 3 6	
S D 4 3 7	3 7	S D 4 3 7	
S K 4 3 8	3 8	S K 4 3 8	
S K 4 3 9	3 9	S K 4 3 9	
S K 4 4 0	S K 4 0	S K 4 4 0	
S D 4 4 1	S D 4 1	S D 4 4 1	
S D 4 4 2	4 2	S D 4 4 2	
S K 4 4 3	4 3	S K 4 4 3	
S K 4 4 4	4 4	S K 4 4 4	
S K 4 4 5	4 5	S K 4 4 5	
S K 4 4 6	S K 4 6	S K 4 4 6	
S K 4 4 7	4 7	S K 4 4 7	
S K 4 4 8	4 8	S K 4 4 8	
S K 4 4 9	4 9	S K 4 4 9	
S K 4 5 0	S K 5 0	S K 4 5 0	
S E 4 5 1	S E 5 1	S E 4 5 1	
S K 4 5 2	5 2	S K 4 5 2	
S K 4 5 3	5 3	S K 4 5 3	
S K 4 5 4	5 4	S K 4 5 4	
S K 4 5 5	5 5	S K 4 5 5	
S K 4 5 6	5 6	S K 4 5 6	
S D 4 5 7	5 7	S D 4 5 7	
S K 4 5 8	5 8	S K 4 5 8	
S D 4 5 9	5 9	S D 4 5 9	
S D 4 6 0	6 0	S D 4 6 0	
S K 4 6 1	6 1	S K 4 6 1	
S K 4 6 2	6 2	S K 4 6 2	
S K 4 6 3	6 3	S K 4 6 3	
S D 4 6 4	6 4	S D 4 6 4	
S D 4 6 5	6 5	S D 4 6 5	
S D 4 6 6	6 6	S D 4 6 6	
S D 4 6 7	6 7	S D 4 6 7	
S K 4 6 8	6 8	S K 4 6 8	
S K 4 6 9	6 9	S K 4 6 9	
S K 4 7 0	7 0	S K 4 7 0	
S K 4 7 1	S K 7 1	S K 4 7 1	
S D 4 7 2	S D 7 2	S D 4 7 2	
S K 4 7 3	7 3	S K 4 7 3	
S K 4 7 4	7 4	S K 4 7 4	
S K 4 7 5	7 5	S K 4 7 5	
S K 4 7 6	7 6	S K 4 7 6	
S K 4 7 7	7 7	S K 4 7 7	
S K 4 7 8	7 8	S K 4 7 8	
S K 4 7 9	7 9	S K 4 7 9	
S K 4 8 0	8 0	S K 4 8 0	
S K 4 8 1	8 1	S K 4 8 1	
S K 4 8 2	8 2	S K 4 8 2	
4 8 3	8 3	4 8 3	
S K 4 8 4	8 4	S K 4 8 4	
S K 4 8 5	8 5	S K 4 8 5	
S K 4 8 6	8 6	S K 4 8 6	
S B 4 8 7	S B 8 7	S B 4 8 7	
S B 4 8 8	S B 8 8	S B 4 8 8	
S B 4 8 9	S B 8 9	S B 4 8 9	
S B 4 9 0	S B 9 0	S B 4 9 0	
S B 4 9 1	S B 9 1	S B 4 9 1	
S B 4 9 2	S B 9 2	S B 4 9 2	

S D 2 3 4 に
S D 2 4 3 に
S D 2 4 2 に

S D 2 3 5 に

第15表 遺構番号対照表②

IV 遺物

遺物の調整・技法・法量などの詳細な観察については、観察表に譲ることとし、本稿では概要を述べることとする。時期区分については、弥生時代は弥生時代後期・末期、古墳時代、奈良時代は奈良時代、平安時代は前・中・後・末期とし、それぞれ「斎宮跡の土師器」^①の初期・前Ⅰ・Ⅱ期、中期、後Ⅰ・Ⅱ期、末期に相当する。鎌倉時代は鎌倉時代、室町時代は室町時代と記述するものとする。中世土師器については前川嘉宏氏^②や伊藤裕偉氏^③の編年に依っている。山茶椀の編年については藤澤良祐氏の編年に依っている^④。第〇型式というように記述するものとする。なお第4型式については平安時代末期、第5型式からは鎌倉時代とした。須恵器、黒色土器などについても先行の研究を参考にしている^⑤。木製品の名称などは、『木器集成図録—近畿古代編—』^⑥に依っている。また、弥生土器および斎串の型式分類については、VIで詳述するものとし、分類番号は遺物観察表を参照されたい。

弥生時代

S B 257出土遺物（第60図）

1は口縁端部に、ボタン状浮文がみられる壺。中期末から後期のものか。2は壺底部と考えられる。弥生時代後期前半に属するものといえよう。

S K 1 出土遺物（第60図）

3は壺底部、4は甕口縁部で受け口状口縁部の外面には刺突文が施されている。5は有段高杯の杯部である。口縁端部には波状文が施されている。6は器台。土器外面は全面ミガキ、透孔は2段施されている。これらは弥生時代後期前半のものと考えられる。

S K 15 出土遺物（第61図）

7～18は壺。7～12は広口壺である。7は口縁端部及び口頸部内面に刺突文がみられる。8は口縁端部に刻みが施されている。9は口縁端部及び口頸部内面に刺突文がみられる大型品。13・14は直口壺である。15～18は底部片である。19～24は甕である。

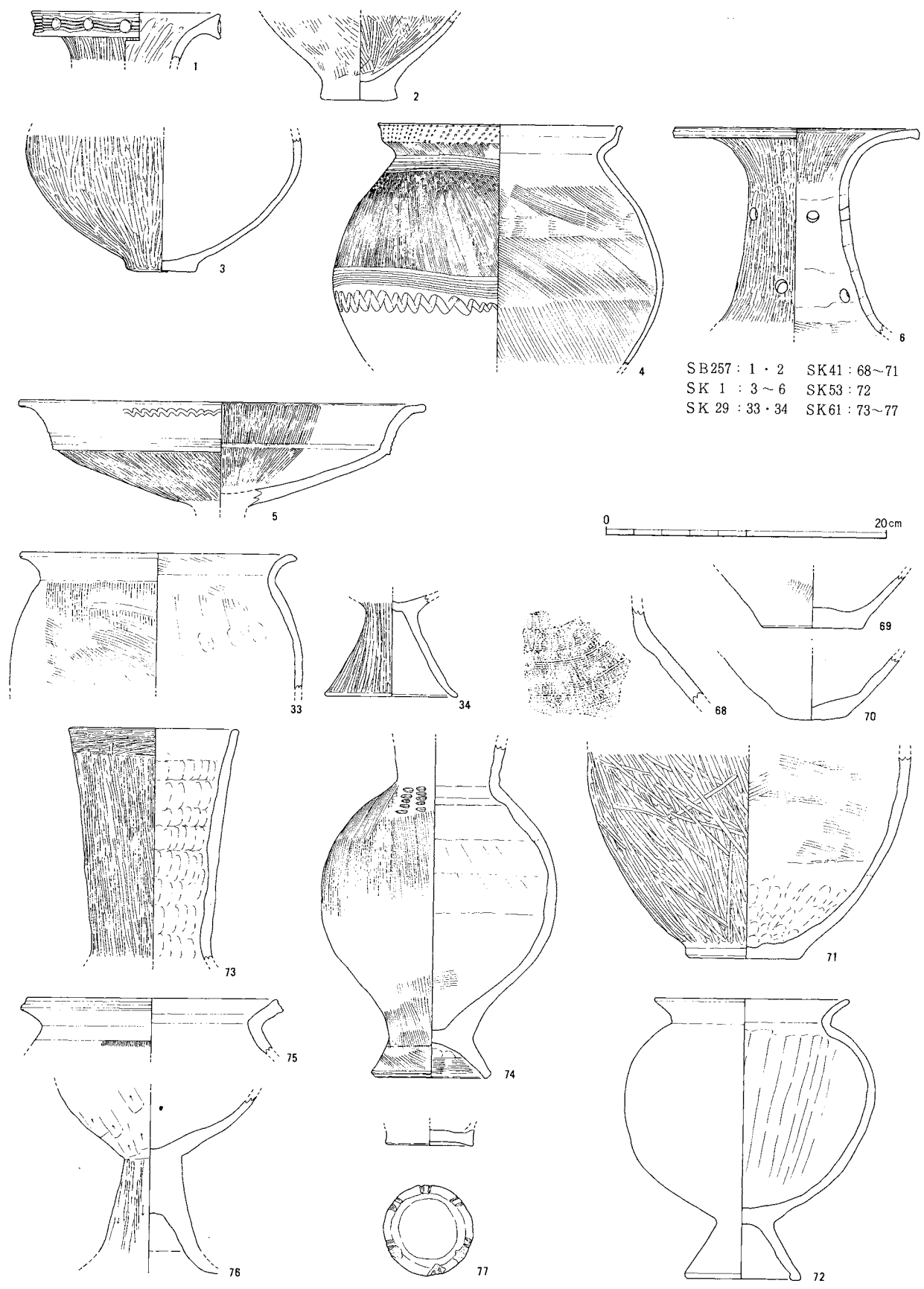
19～21は口縁部片で、22は甕底部片、23・24は台付甕の脚部である。25～27は高杯。25は杯部に段があるもの、26はワイングラス形のもの、27は脚部である。28は小型甕で口縁部から体部上半まで残る。29は口縁部に段のある鉢である。30はミニチュア土器である。鉢を意識しているものか。31は板状木製品で用途は不明。32は斧台の後面が平坦でなく徐々にすぼまっていく斧膝柄である。横斧。これらは弥生時代後期前半に属するものと考えられる。また、モモの種実遺体も確認している^⑦。

S K 29 出土遺物（第60図）

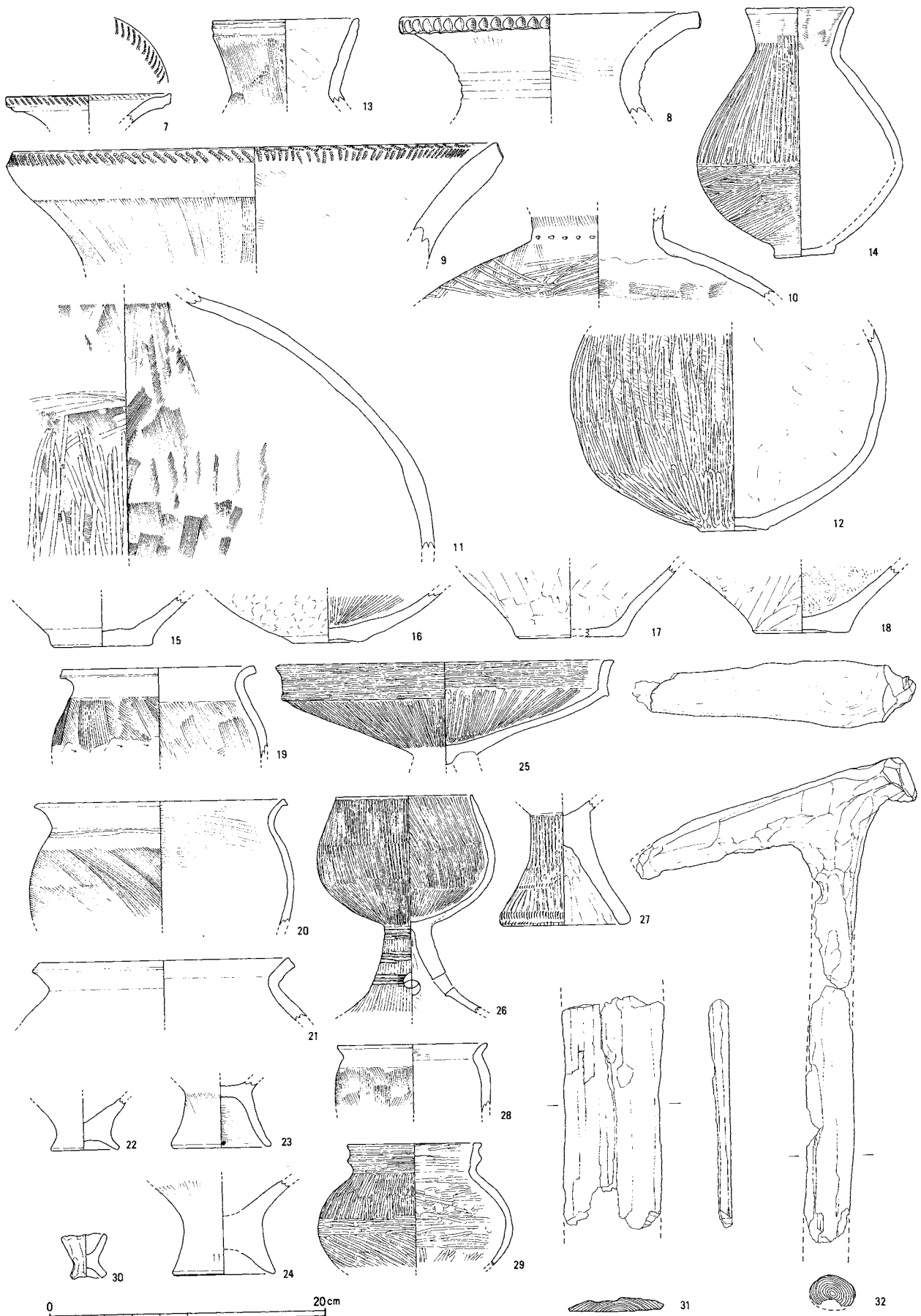
33は甕。体部上半まで残存する。34は台付甕の脚部である。これらは弥生時代後期前半のものと考えられる。

S K 31 出土遺物（第62～64図）

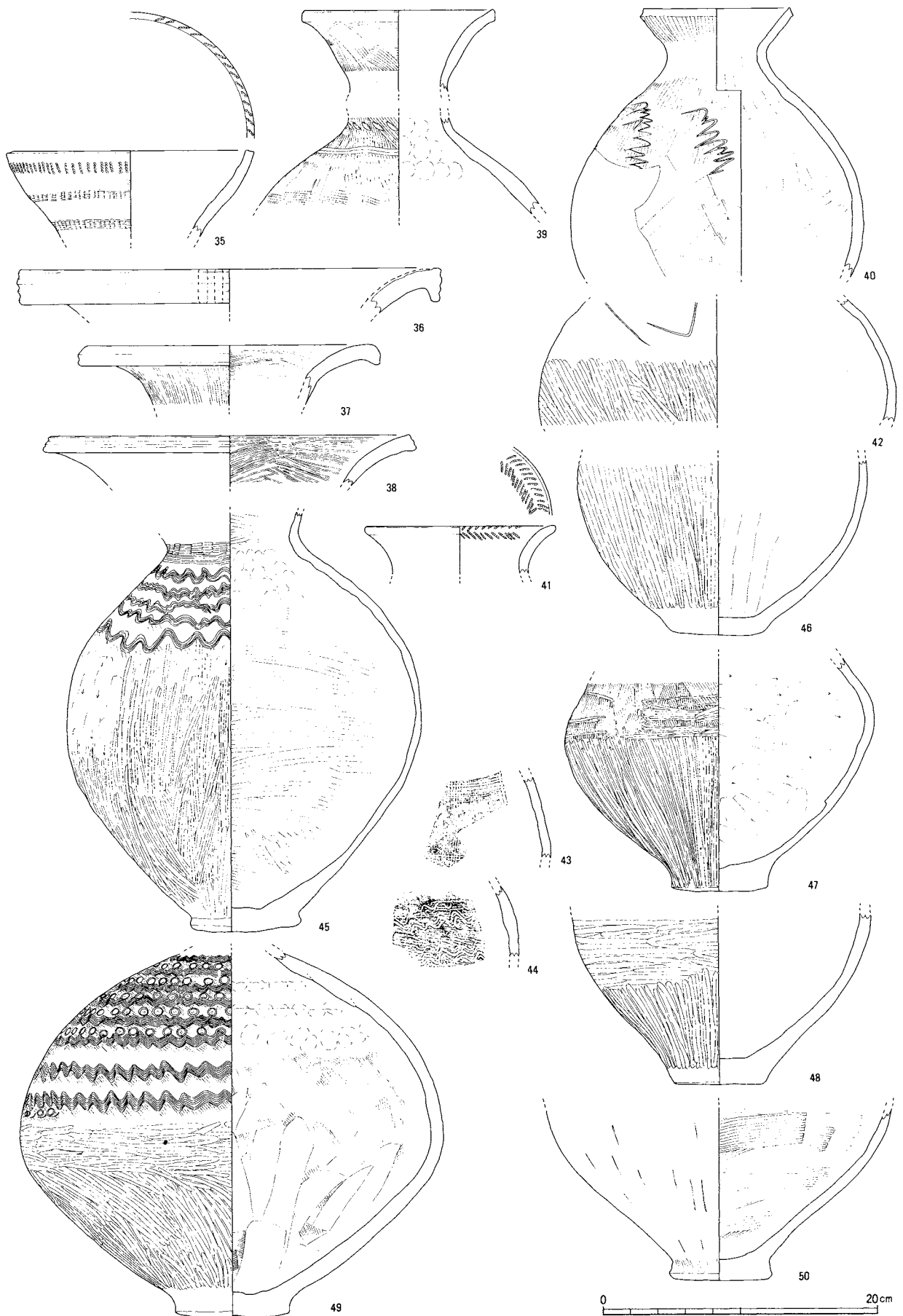
35～53は壺である。35は口頸部が少し内弯し、端部には刺突文がみられる。36～41は口頸部片である。38は口頸部内面に点状の赤彩が施される。40は肩部には縦に波状の線刻が施される。42～44は体部片である。42は肩部の一部に線刻、43は襷状の文様、44は波状文が施されている。45～50は体部から底部にかけて残存しているものである。45は外面肩部に波状文、49は外面肩部から体部上半に波状文で文様間には竹管による刺突が見られる。52は口頸部に3ヶ所の穿孔がみられる。53は外面全体ミガキの長頸壺である。54・55は甕、56は台付甕、凹底に近い底部である。57～59は高杯脚部である。60は銅鐸形土製品である。県下において6例目である。流水文や袈裟襷文、鈕や型もたせ孔など銅鐸そのものように模倣されている。61は敲石、62は加工痕がみられるが器種は不明である。63～67は木製品である。63は斧膝柄。一木で作ったのではなく組み合わせの履柄か。横斧と考えられる。64は斧膝柄。横斧と考えられる。65は泥除け、66・67は加工痕はあるが用途は不明である。何らかの未製品という可能性もある。弥生時代後期前半のものと考えられる。これらに混じり、モモの種実遺体やコガネムシ類の羽の昆虫化



第60图 SB257, SK1·29·41·53·61出土遺物実測図(1:4)



第61图 SK15出土遺物実測図(1:4)



第62図 SK31出土遺物実測図① (1 : 4)

石も出土した。

S K 41 出土遺物 (第60図)

68は壺肩部で外面には簾状文が施される。69~71は壺の底部である。これらは弥生時代後期前半のものであろう。

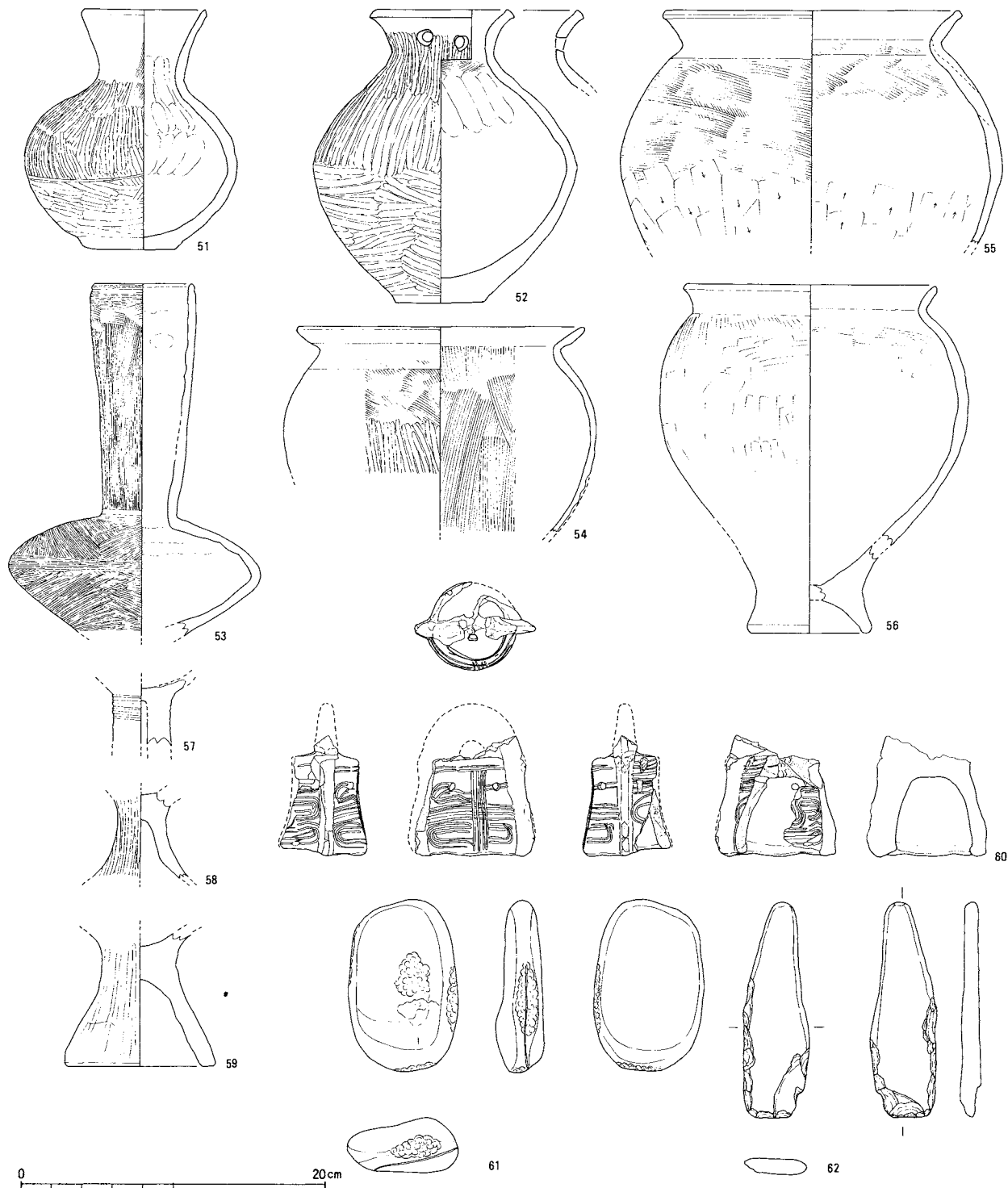
S K 53 出土遺物 (第60図)

72は口縁部外反し、体部球形に近い台付甕である。

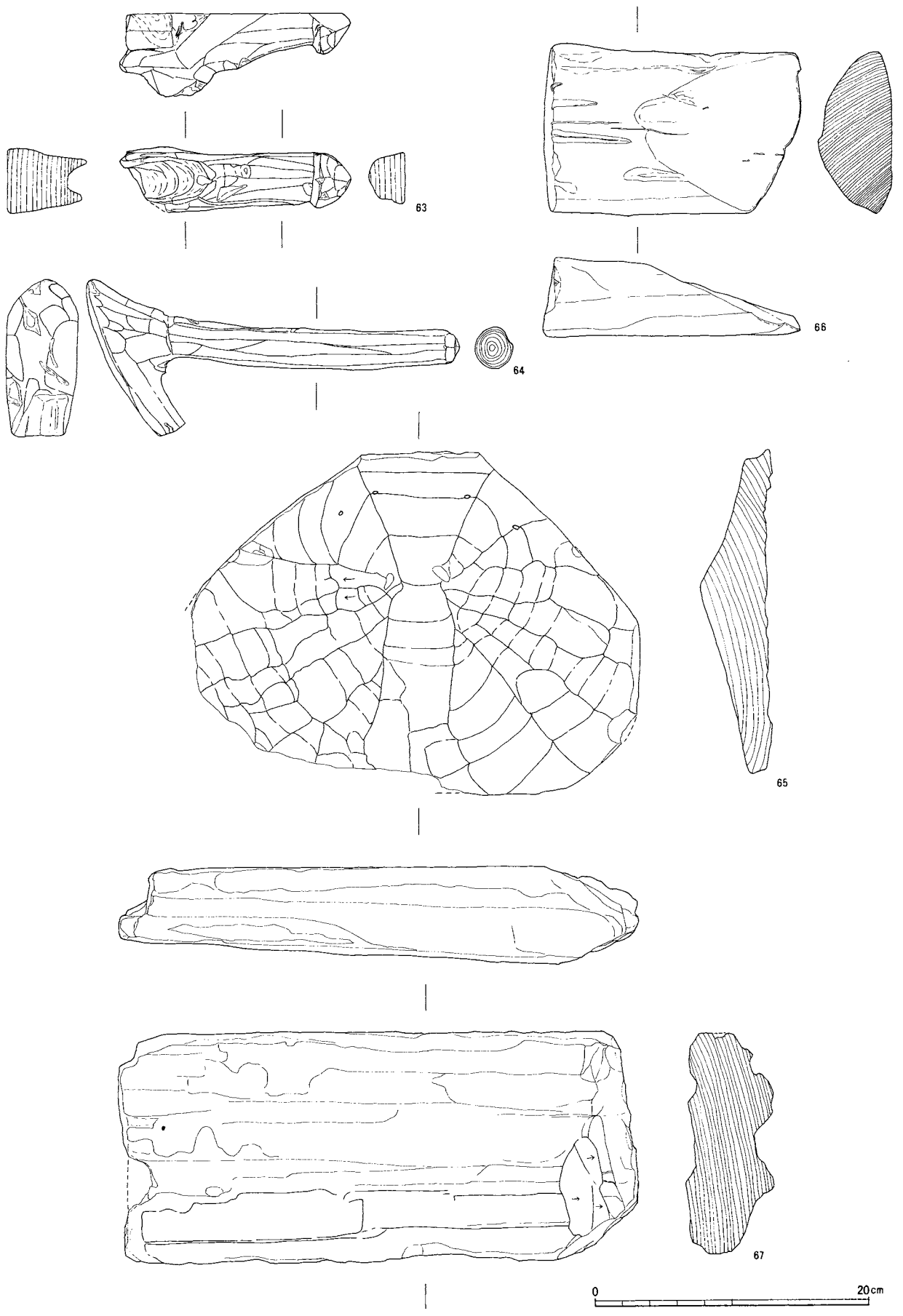
調整は磨滅などで判然としない。弥生時代後期前半のものと考えられる。

S K 61 出土遺物 (第60図)

73は長頸壺の口頸部片、74は肩部に縦5ヶ所2列の刺突状の列点が施されている台付壺である。75は口縁端部に沈線を施す甕口縁部片。76は高杯の脚部で杯底部が一部残存する。77は底部片であるが2個



第63図 SK31出土遺物実測図② (1 : 4)



第64图 SK31出土遺物実測図③(1:4)

1組の刻みが6ヶ所に施されている。これらは弥生時代後期前半のものと思われる。

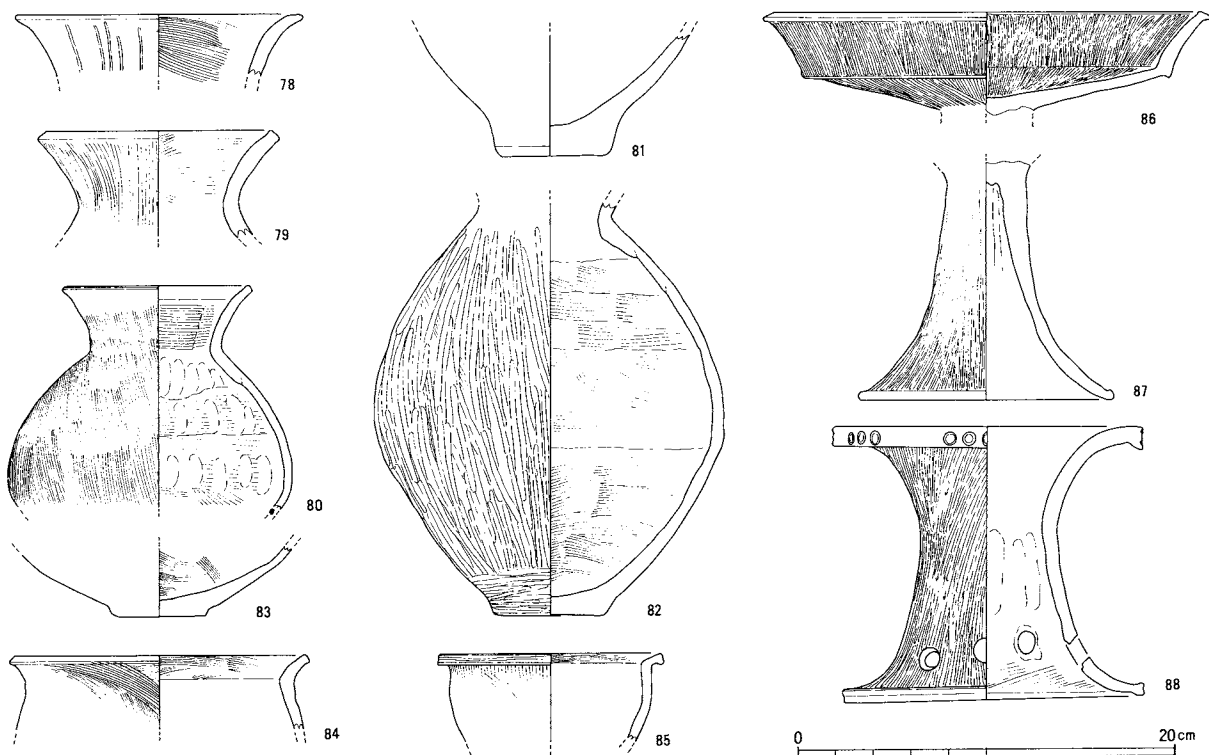
S K 302出土遺物（第65図）

78～83は壺である。78・79は口頸部片、80は口頸部から体部下半まで残存する。82は肩部から底部にかけて残存する体部があまり張り出さないものである。81・83は底部片である。84は甕口縁部片、85は口縁部が大きく外反する鉢口縁部片である。86は有段高杯の杯部、87は高杯脚部である。88は口縁端部に3個1組の竹管が7ヶ所、裾部近くで2個1組の三方透孔が施された器台である。弥生時代後期前半のものであろう。

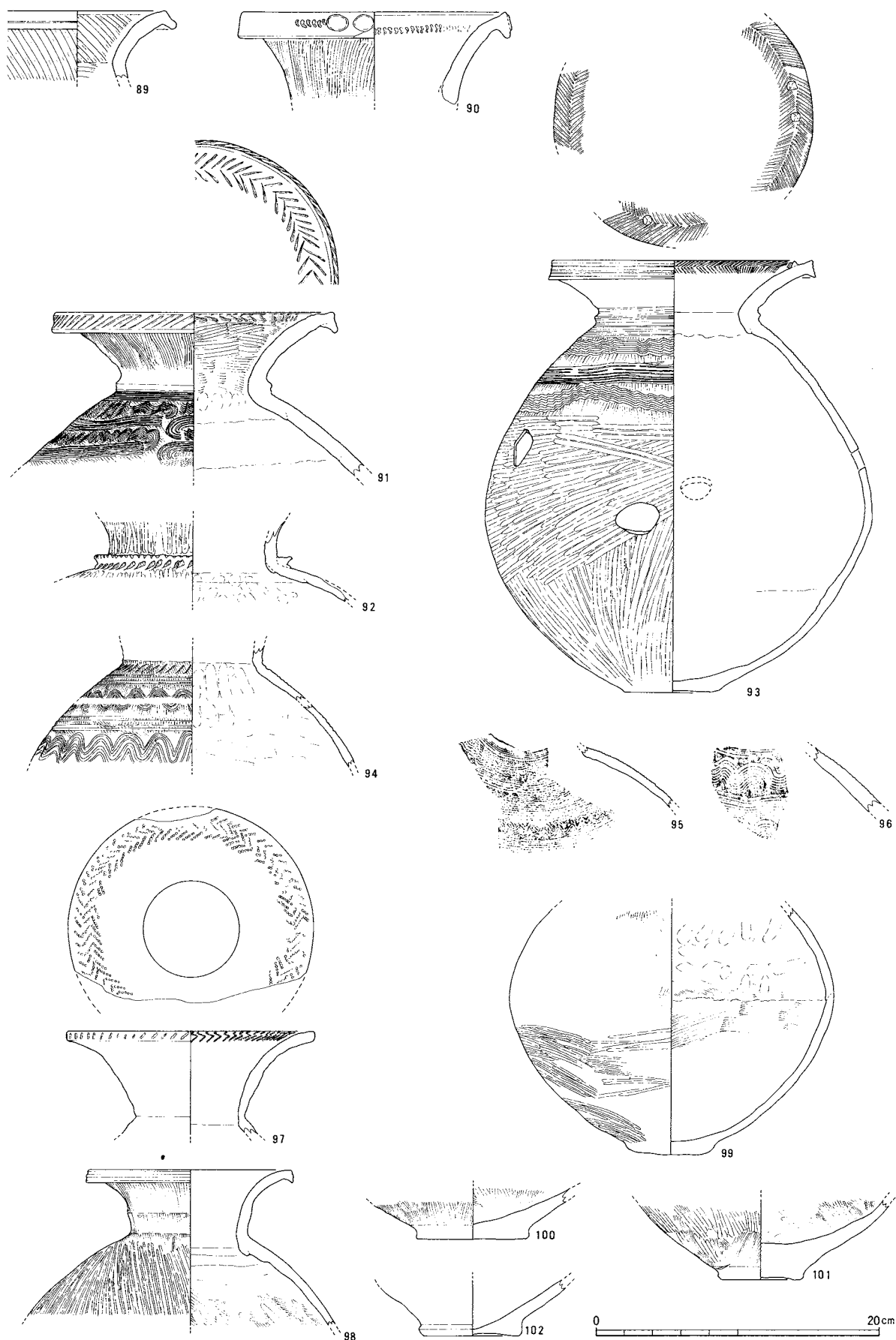
S K 305出土遺物（第66～70図）

89～117は壺である。90は口縁端部に2個一対のボタン状浮文と刺突文が施される。いわゆるパレススタイルの壺。91は口頸部下部には隆帯が施されているパレススタイルの壺。92は口頸部下部に刻目隆帯がみられる。93は口頸部下部には隆帯、口頸部内面には2個1組の浮文が3ヶ所、また体部には4ヶ所の穿孔が施されているパレススタイルの壺。94～96は波状文と横線文の組み合わせがみられる体部片である。97は口頸部内面に綾杉状の刺突文が巡る。98は口頸部から肩部まで残存する。99～102は底部

片である。103～106は口頸部が直線的に外反し、体部があまり張り出さないもの。104・105は肩部上部に刺突文が巡る。106は口頸部下部に刻目隆帯が巡り、肩部に2条の曲線が線刻されている。107は頸部に刺突文が巡り、体部下半が膨らむ。108は口縁部が外反し体部が張り出す。体部に大きな穿孔がみられる。109は肩部から底部まで残存する小型品である。110は口縁部に2個一対の穿孔が2ヶ所施された無頸壺である。111は底部片。112・113は底部片。114～117は小型壺である。116は体部下半に1ヶ所穿孔がみられ、117は体部下半が膨らむ器形である。118～136は甕である。118・119は口頸部が短く外反し口縁端部が内外面に肥厚する。120～125は外反する口縁部から肩部まで残存する。126・127は外反する口頸部から体部下半まで残存するもの。128は口頸部がゆるやかに外反し体部があまり張り出さないものである。129～131は受口状口縁で口径よりも体部径が大きくなるもの。近江系甕の影響を受けたものと考えられる。132は口縁端部に刻みが施されている。133は小型甕、134～136は底部片。137～141は台付甕である。137・138は肩部から体部上半が張る。139～141は台部片である。142～161は高杯である。142・143は、



第65図 SK302出土遺物実測図（1：4）



第66图 SK305出土遺物実測図① (1 : 4)

口縁部が大きく外反し杯底部が直線的な有段高杯の杯部。144～150はワイングラス形である。151・152は杯部が皿状のものである。153～161は脚部片である。162は器台裾部である。163は口縁部から底部にかけて直線的に外反する鉢。164は口縁部が外反する鉢である。165・166は木製品。165は尖った部分が見られる。杭と考えられる。166は脚付槽である。本来は4ヶ所の脚があったものと考え

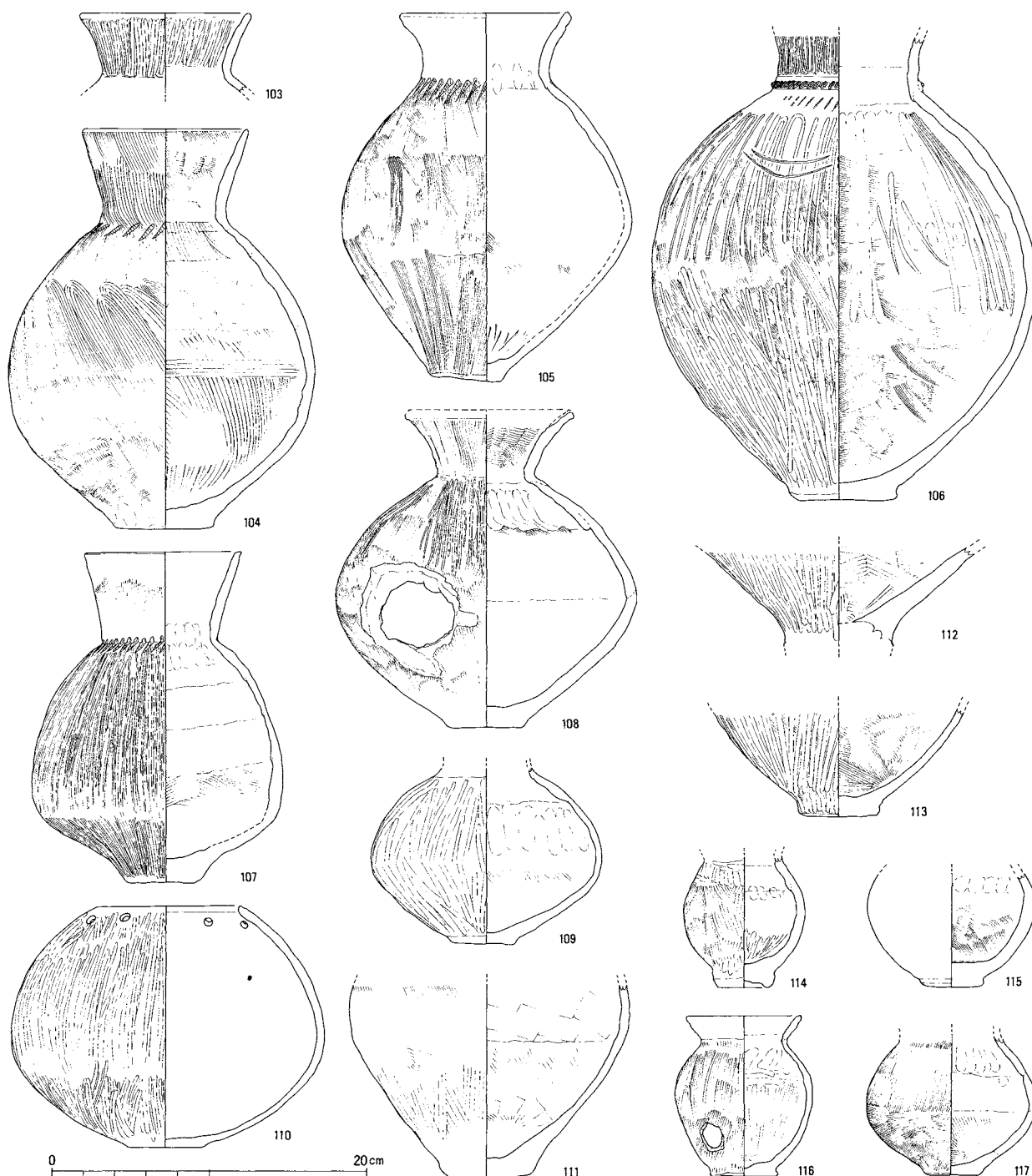
られる。これらは弥生時代後期前半に属するものと考えられる。

S K 310出土遺物（第71図）

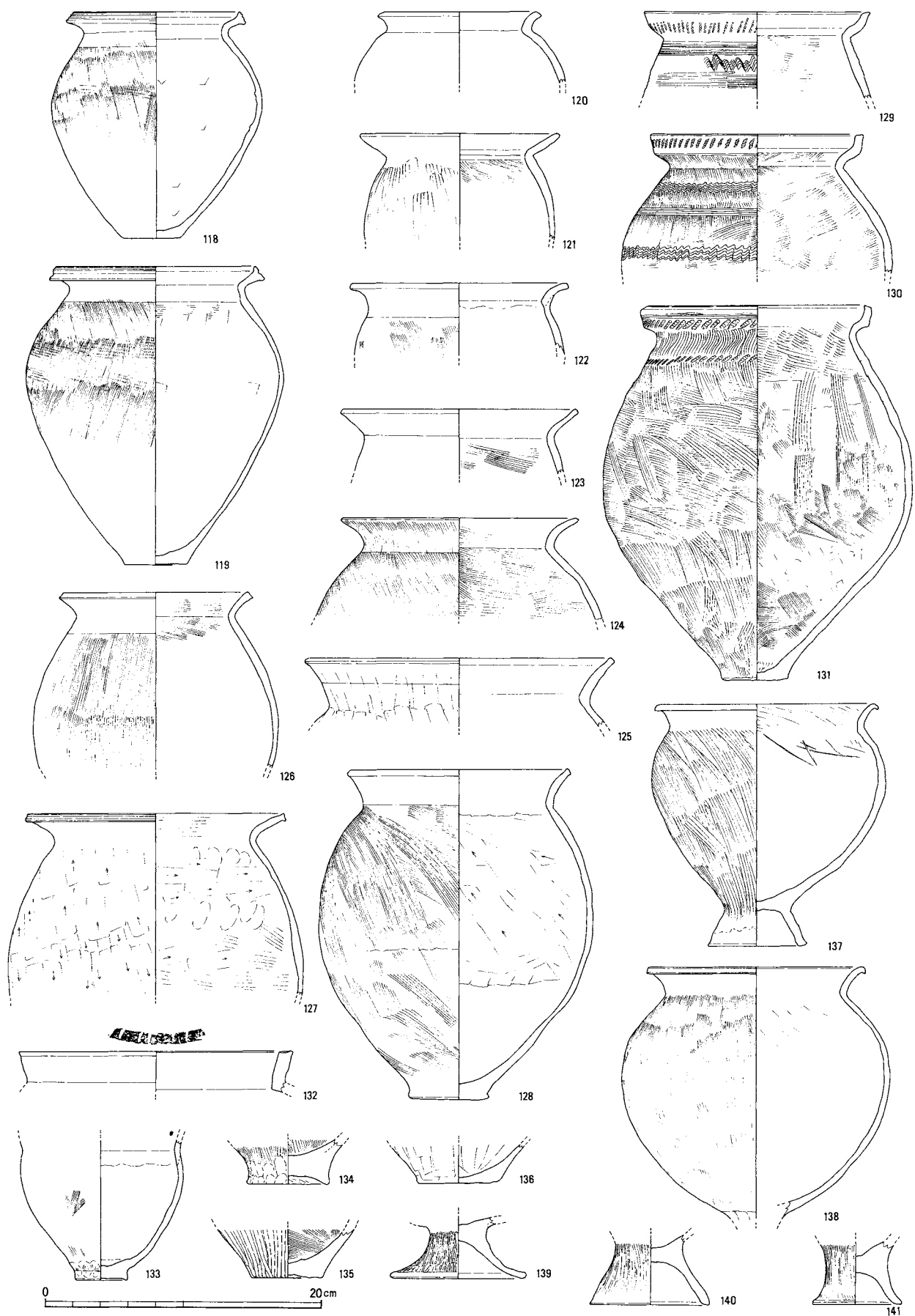
167・168は壺口頸部片である。169は台付甕脚部、170・171は高杯脚部である。これらは弥生時代後期前半に属するものと考えられる。

S K 317出土遺物（第71図）

172は壺底部片、173は石鉢。石材はサヌカイト



第67図 SK305出土遺物実測図②（1：4）



第68图 SK305出土遺物実測図③ (1 : 4)

である。これらは弥生時代後期前半に属するものと考えられる。

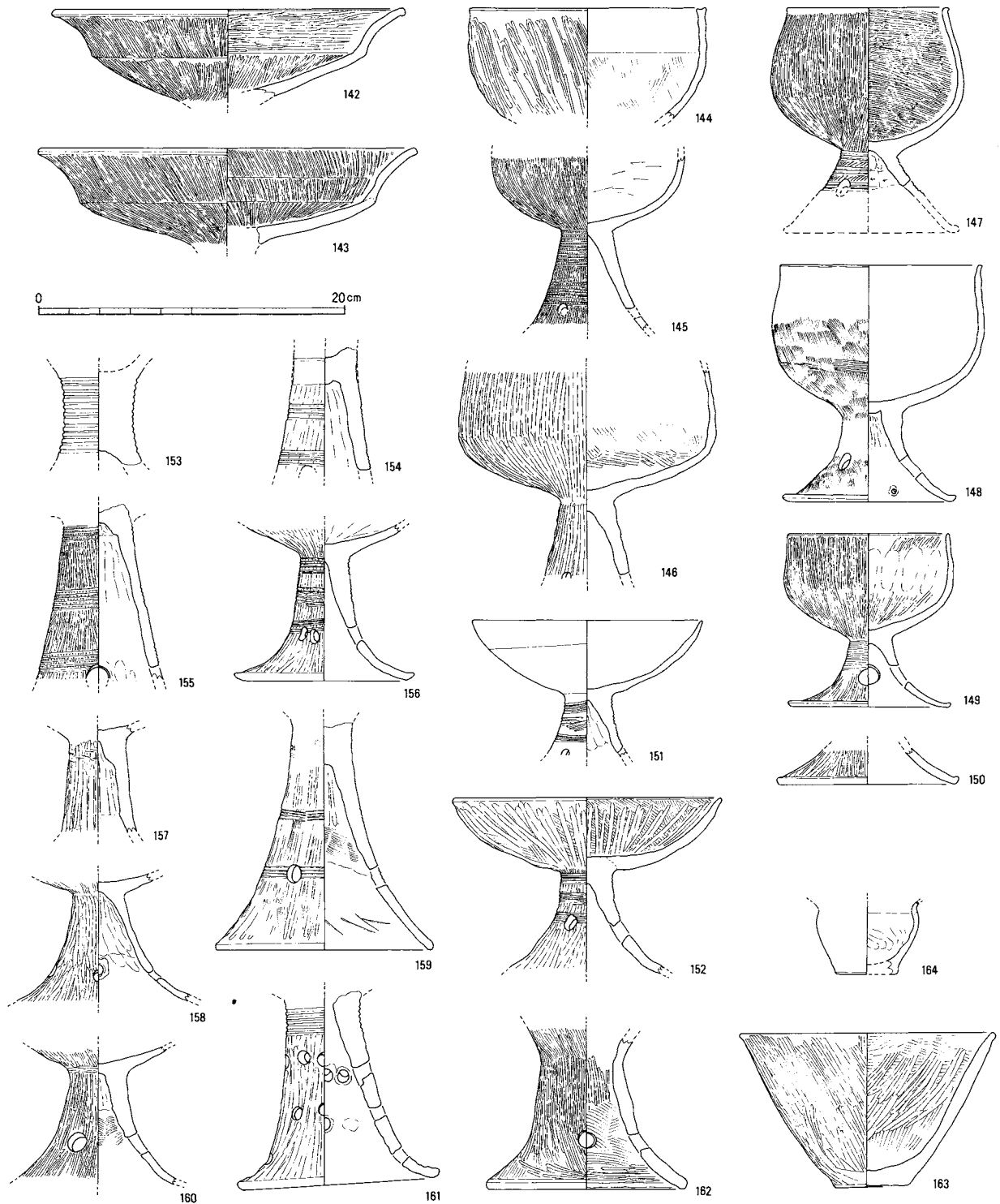
S K 330出土遺物（第71図）

174 は波状文の施された壺頸部片。175 は小型の口縁部が直線的に立ち上がる壺。176 は口頸部から体部まで残る甕である。177 は台付甕の脚部。178・179 は高杯脚部である。これらは弥生時代後期前

半に属するものと考えられる。

S K 343出土遺物（第71図）

180・181 は口縁部がやや受け口状で、頸部が細長く外面に横線文、体部上半には波状文が施された壺である。182 は口頸部に2条の波状文が施された壺である。183 は甕口縁部片。184・185 は台付甕の脚部である。これらは弥生時代後期前半に属する



第69図 SK305出土遺物実測図④（1：4）

ものと考えられる。

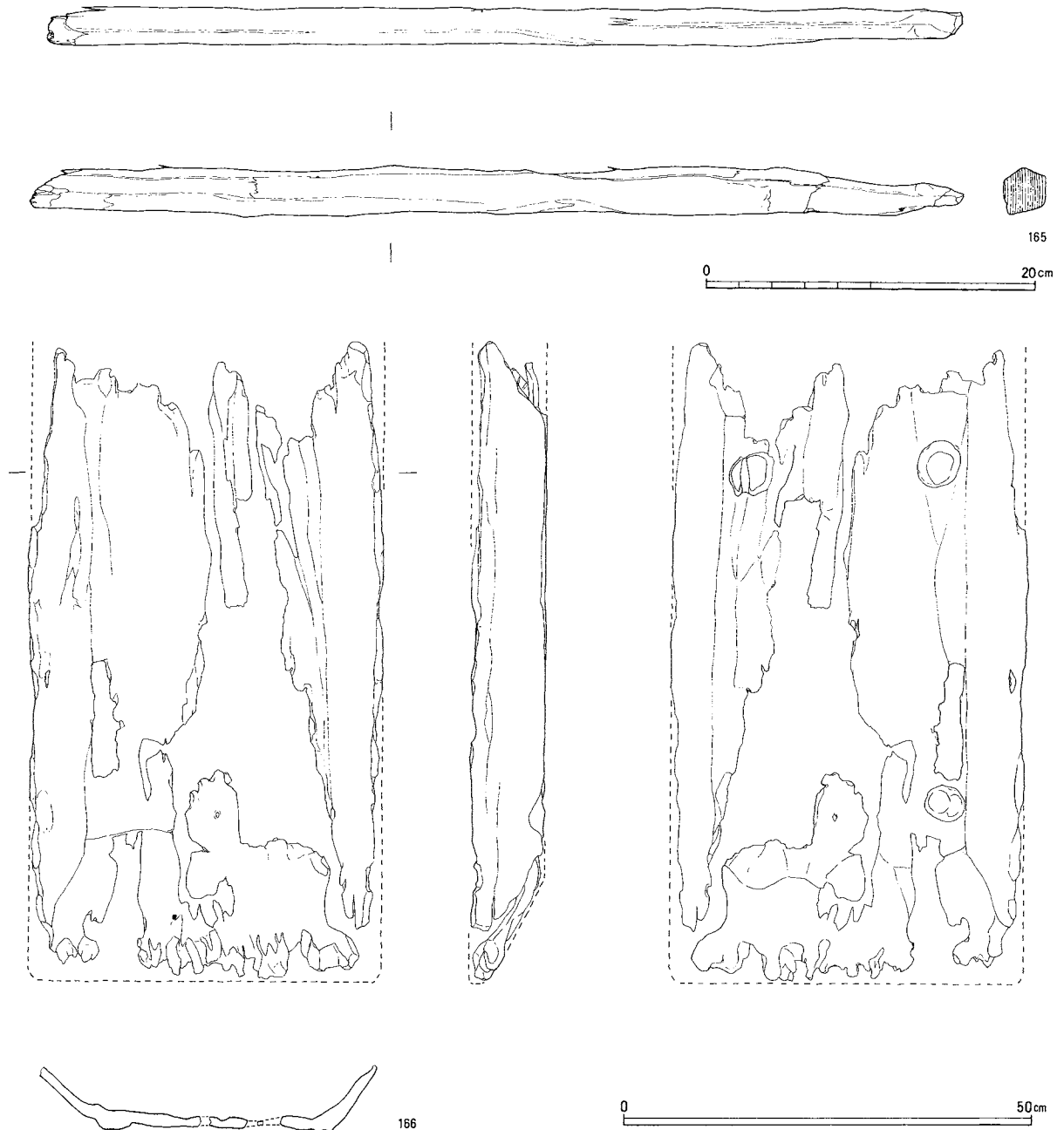
S K 361出土遺物 (第71図)

186 は壺の底部片である。187 は口縁部が外反する甕。188は高杯の脚部である。これらは弥生時代後期前半に属するものと考えられる。

S K 326出土遺物 (第72~76図)

189 ~220 は壺である。189 は口頸部が大きく広がる。190 は口頸部下部に隆帯、以下に横線文と波状文が施されている。191 ~198 は口頸部が189ほど広がらず、体部上半が少し張り出すもの。193 は肩部に波状文と横線文が、196 は体部に穿孔が施さ

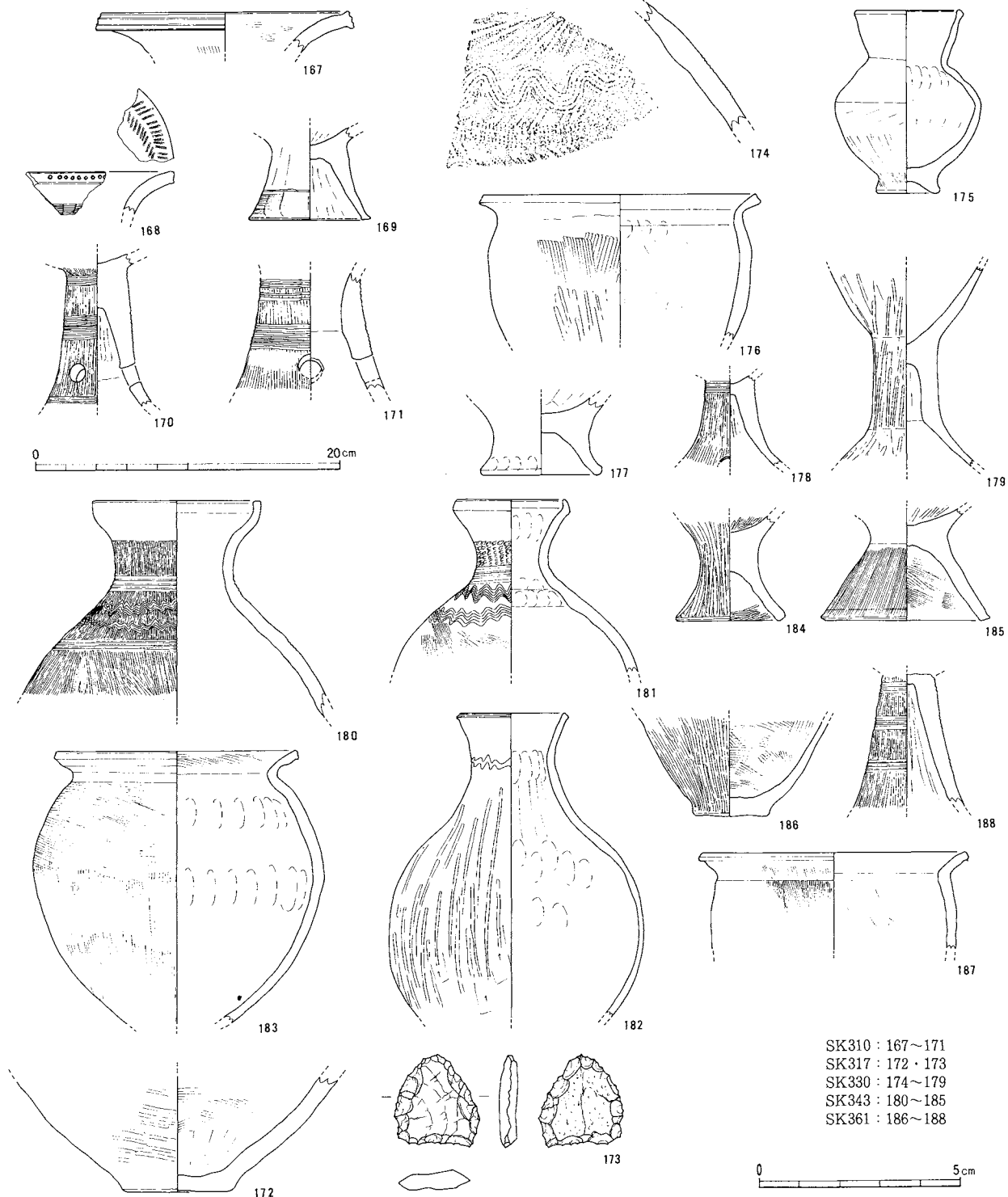
れている。199 ~201 は体部片。201 は3条の線刻がみられる。202・203 は底部片。204 ~209 は口縁部が上方に向かい直線的に延びる。210 は口頸部がほぼ90度に外反し口縁端部が上下に肥厚し、肩部から体部上半にかけて波状文と横線文が施されている。体部下半が少しもぶくれになる。211 ~213 は体部が張り出す小型のものである。214 は体部が球形のもの。215 は口頸部が短く外反し、体部下半がしもぶくれ状になる台付壺である。216 ~219 は小型のもので、216 は体部上半が張るもの、217・218 は体部の張りがあまりないもの、219 は体部下



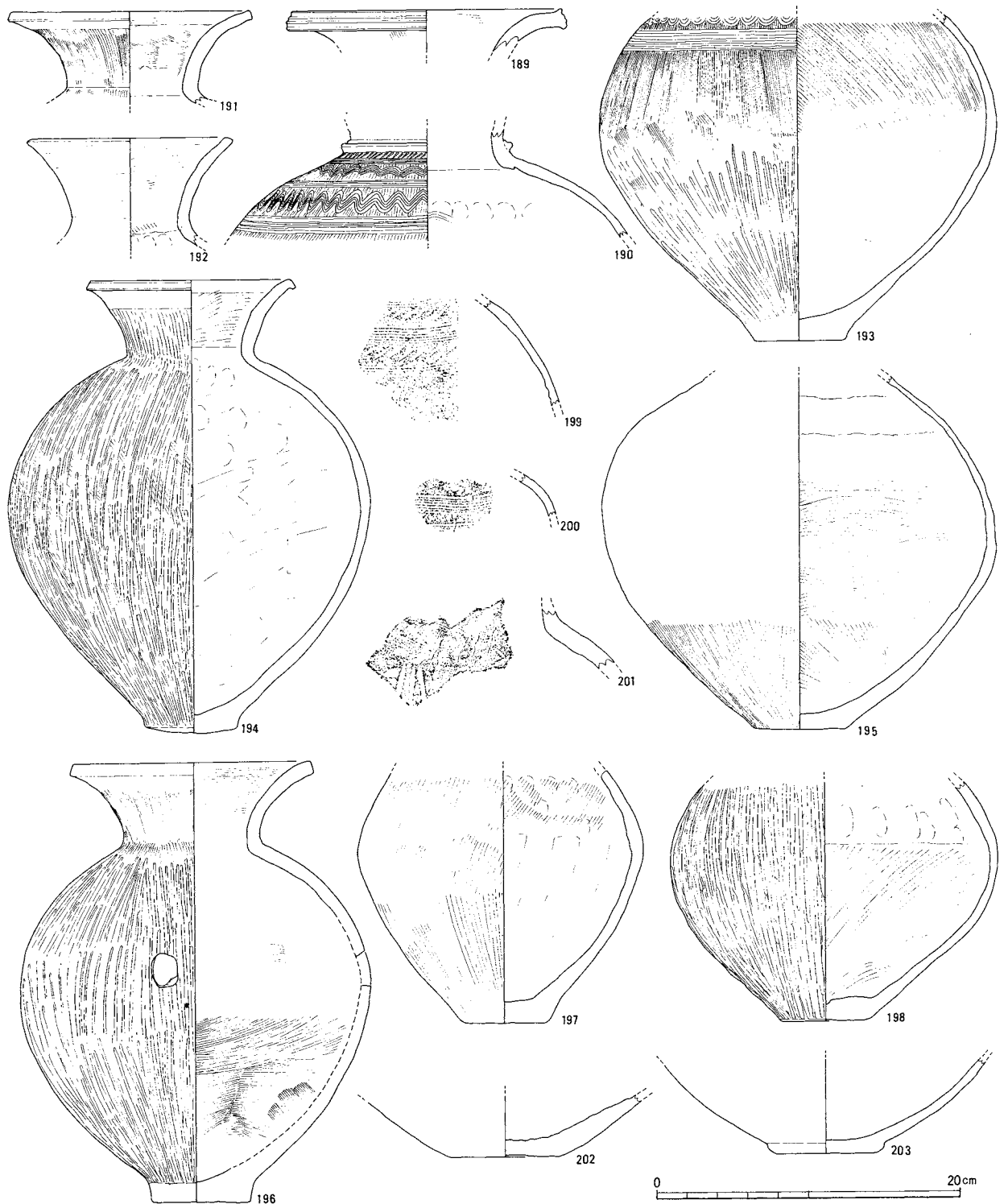
第70図 SK305出土遺物実測図⑤ (1:4, 166は1:8)

半がしもぶくれ状になるものである。220 は口縁部に2個の穿孔が2ヶ所施されている無頸壺である。221 ~245 は甕である。221 ~232 は口縁部が大きく外反し体部上半が張り底部に向かってほぼ直線的である。233 は口縁部は大きく外反し、体部はそれほど張り出さない。底部に穿孔がみられる。234 ~236 は口縁部が大きく外反し、体部が球形になる。

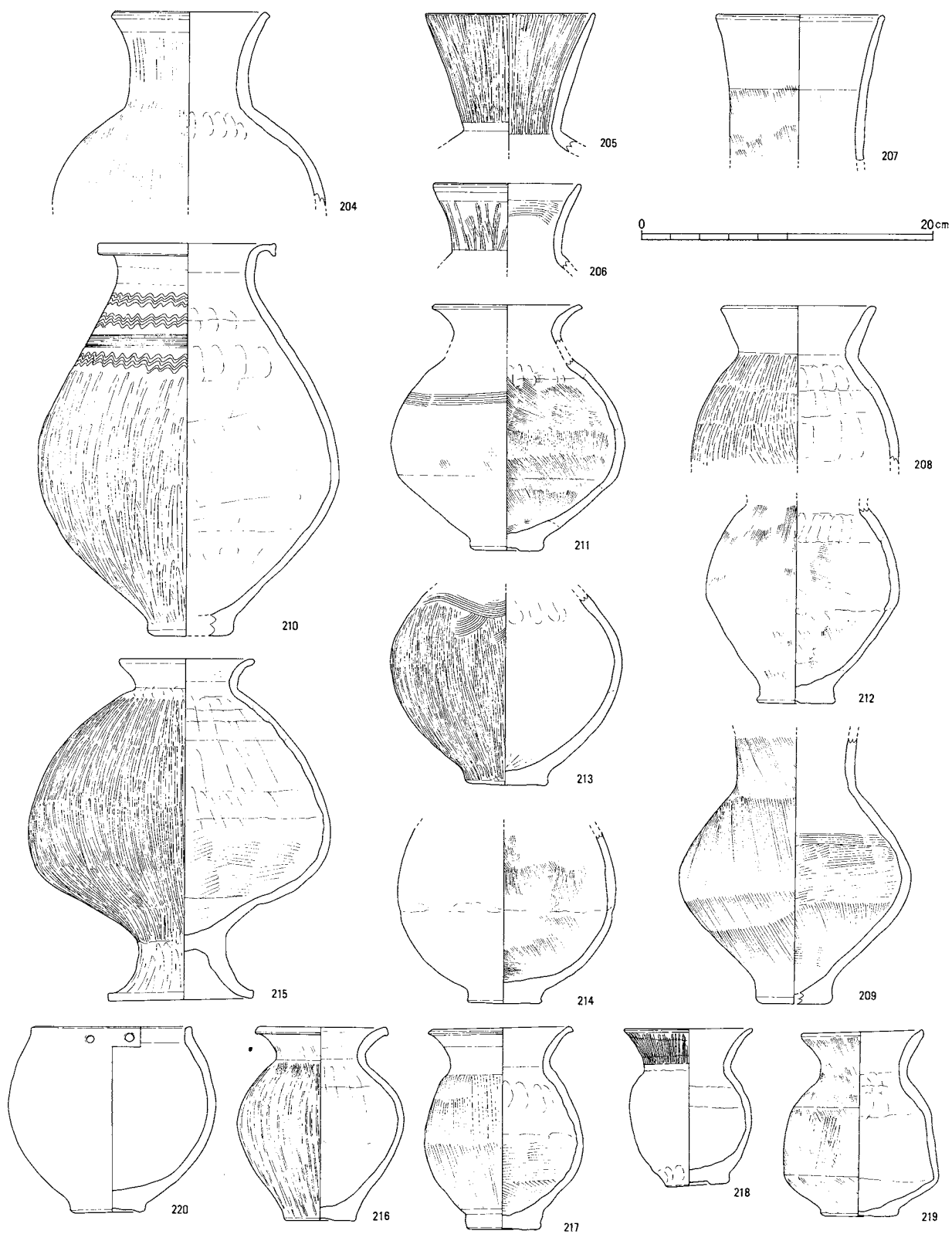
234 は口縁端部に刻みが施されている。237 ~239 は受け口状口縁で体部がそれほど張り出さないものである。237・238 ともに口縁部に刺突文、体部上半に横線文が施されている。239 は受け口部分の屈曲が緩い。240 ~244 は台付甕である。240・241 は口縁部が大きく外反し体部上半が張り出すもの、242 は体部が大きく張り出し球形に近いもの。243



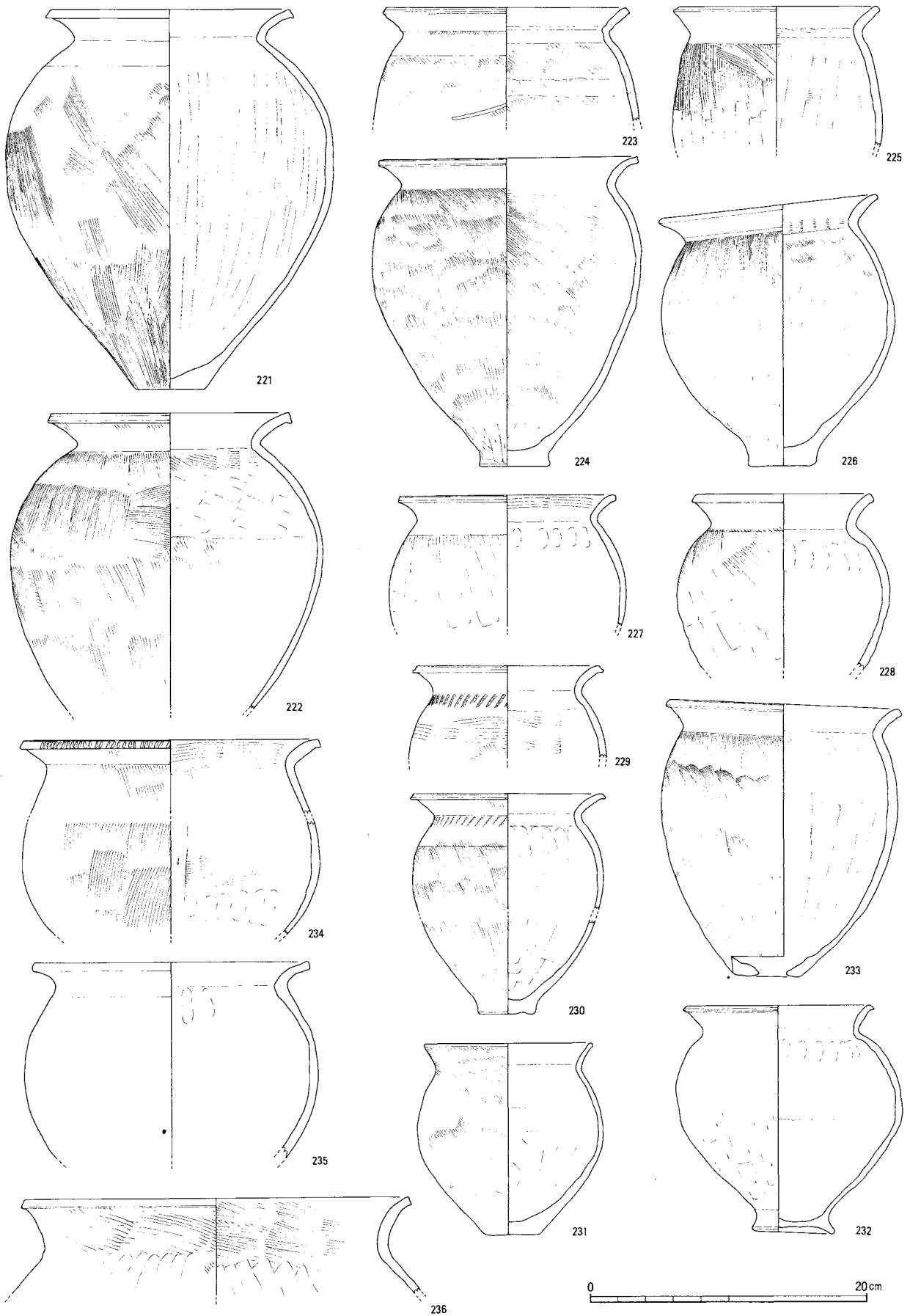
第71図 SK310・317・330・343・361出土遺物実測図(1:4, 173は2:3)



第72図 SK326出土遺物実測図① (1 : 4)



第73图 SK326出土遺物実測図② (1 : 4)



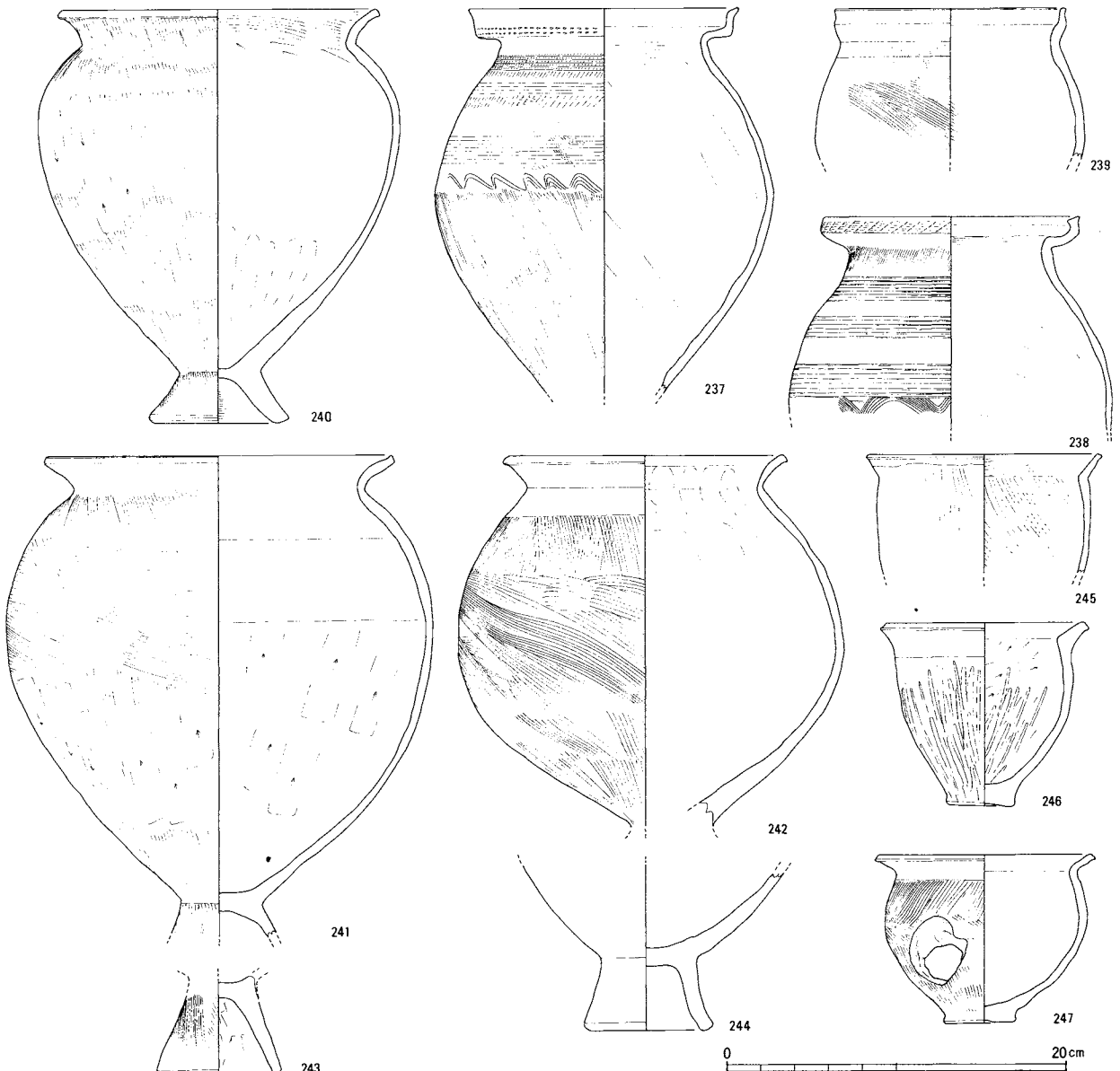
第74図 SK326出土遺物実測図③ (1:4)

・244 は脚部片である。245 は小型の甕。246 は口縁部外反する鉢とするが、甕といてもいいかもしれない。247 は器高が低く体部の径より口径の方が広い鉢である。体部に大きな穿孔がみられる。248 ~270 は高杯である。248 ~257 は有段高杯。248 は口縁部がほぼ垂直に上に延びる杯部。249 は口縁端部が水平に延びる杯部。250 ~252 は口縁部外反、杯底部が直線的で外面に加飾のない杯部。253 ~256 は口縁部外反、杯底部が少し曲線的で外面に加飾のないものである。257 は段の屈曲が緩く脚部も低いもの。258 ~270 は脚部片である。258・259・266 は裾部が接地部分近くで大きく外反する。265 は接地部分まで直線的である。267 ~269 はワイングラ

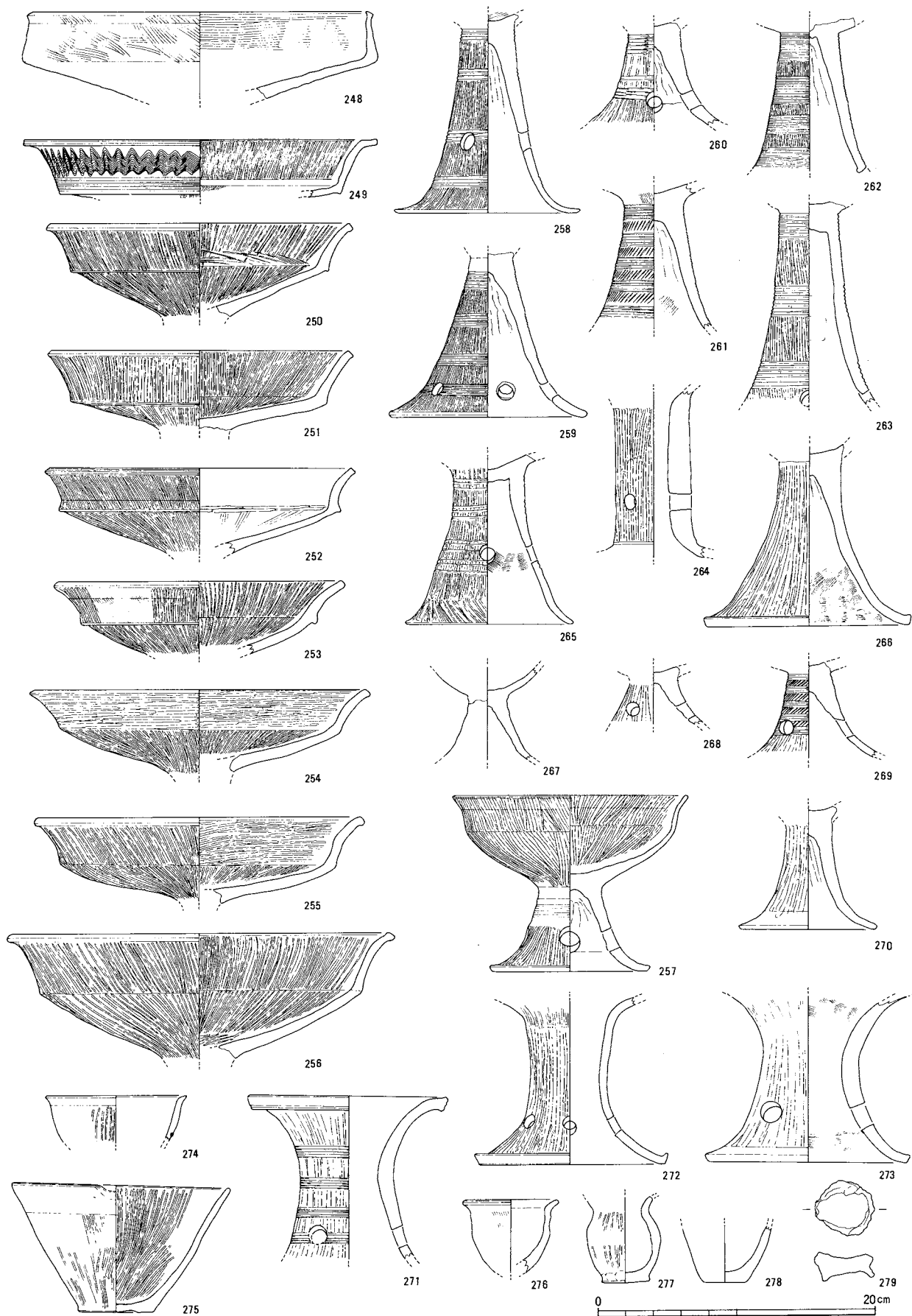
ス形の脚部であろう。271 ~273 は器台である。271 は柱状部に横線文が4段施され、裾部の接地部分近くで穿孔がみられる。272・273 は外面ミガキで裾部の接地部分近くで透孔がみられる。274 は碗状の鉢。外面に赤彩がみられる。275 は注口が1ヶ所みられる鉢である。底部内面や注口部内面に朱の付着がみられる。朱精製に使用されたものが⁸⁾。276 ~278 はミニチュア土器である。279 は底部を使った加工円盤である。これらは、弥生時代後期前半に属するものと考えられる。また、土器以外にもモモヤヒョウタン類の種実遺体が出土した。

S K 340出土遺物 (第77図)

280 ~285 は壺である。280・281 は口縁端部に



第75図 SK326出土遺物実測図④ (1 : 4)



第76图 SK326出土遺物実測図⑤ (1:4)

刻みが施されたもの。282 は緩く外反する口頸部片。
 283 は緩く外反する口頸部で体部があまり張り出さ
 ない器形である。284・285 は底部片。286～288
 は甕である。286 は端部に刻みのある口縁部が外反
 する。287・288 は口縁部が外反し、体部が球形に
 なるものである。289・290 は台付甕である。289
 は口縁部が外反し、体部下半がしもぶくれになる。
 290 は脚部片である。291～293 はワイングラス形

の高杯である。294 は甕形のミニチュア土器。295
 はミニチュア土器底部片である。これらは弥生時代
 後期前半に属するものと思われる。

S K 359出土遺物 (第78図)

296～302 は壺である。296 は緩く外反する口頸
 部片。297・298 は口頸部が上方に向かい直線的に
 延びるもの。299 は口頸部が上方に直線的にのび端
 部で外反するものである。300 は肩部近くに波状文



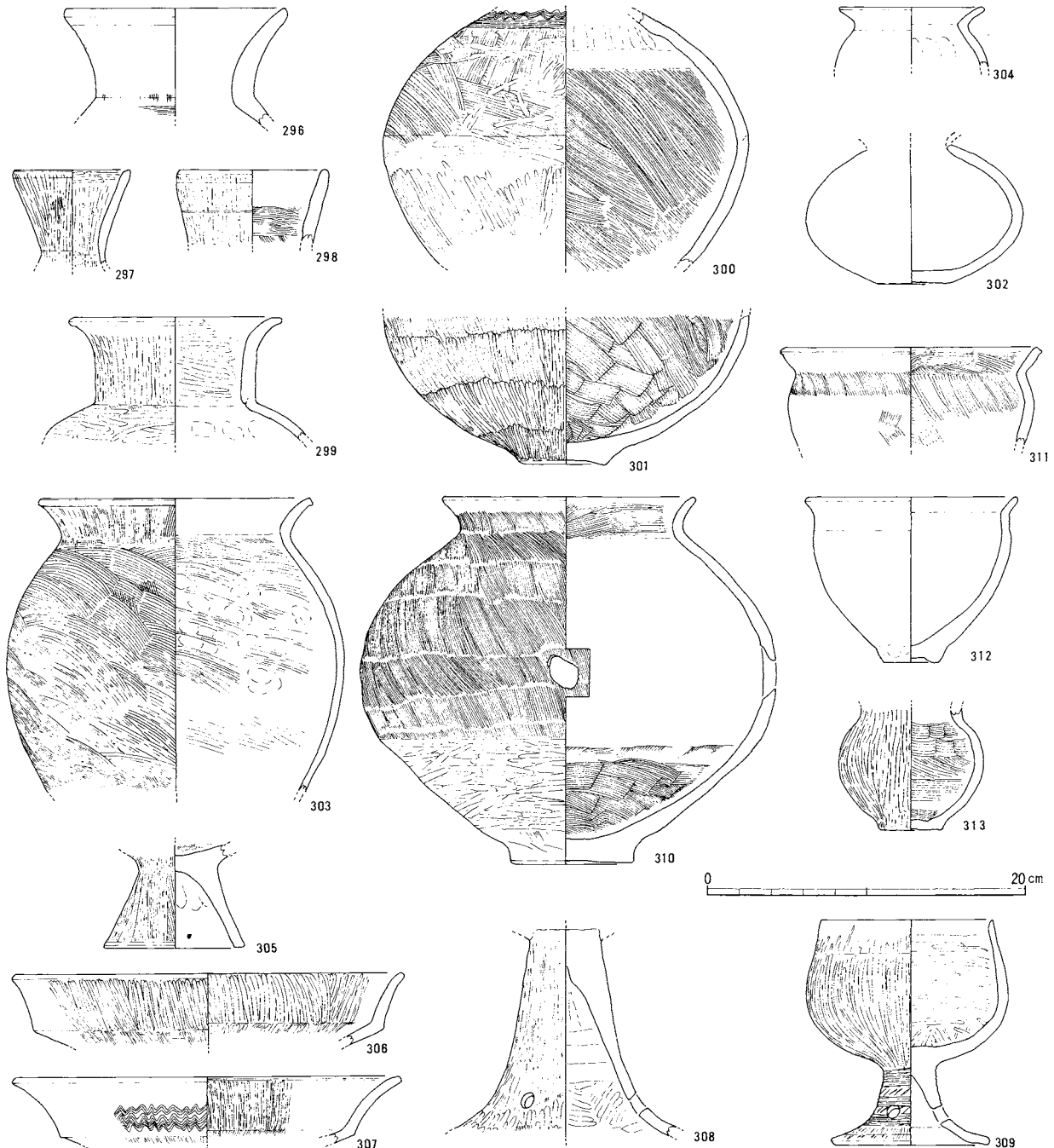
第77図 SK340出土遺物実測図 (1:4)

と横線文を施すもの、301 は体部がかなり張り出す底部片である。302 は小型の壺で口縁部は上方に向かい直線的にのびるものが付いていたのだろうか。303 は口頸部が外反し、体部があまり張り出さない甕である。304 は小型の甕口縁部片。305 は台付甕脚部片である。306 ~309 は高杯。306・307 は口縁部外反し、杯底部が直線的な有段の杯部である。308 は三方透孔の脚部片。309 はワイングラス形で脚は低い。310 は口頸部が短く外反し、口径よりも体部径がかなり大きくなるものである。体部には穿

孔が1ヶ所みられる鉢。311・312 は鉢。甕といってもおかしくはない。311 は器高が低く体部が張り出すもの、312 は口縁から体部にかけて外に広がるものである。313 は壺形のミニチュア土器である。口頸部は欠けている。これらは弥生時代後期前半に属するものと思われる。

S K 372出土遺物 (第79図)

314 ~320 は壺である。314 ~316 は大きく外反する口頸部片、316 は口縁端部や口頸部内面に刺突文が施されている。いわゆるパレススタイルのもの。



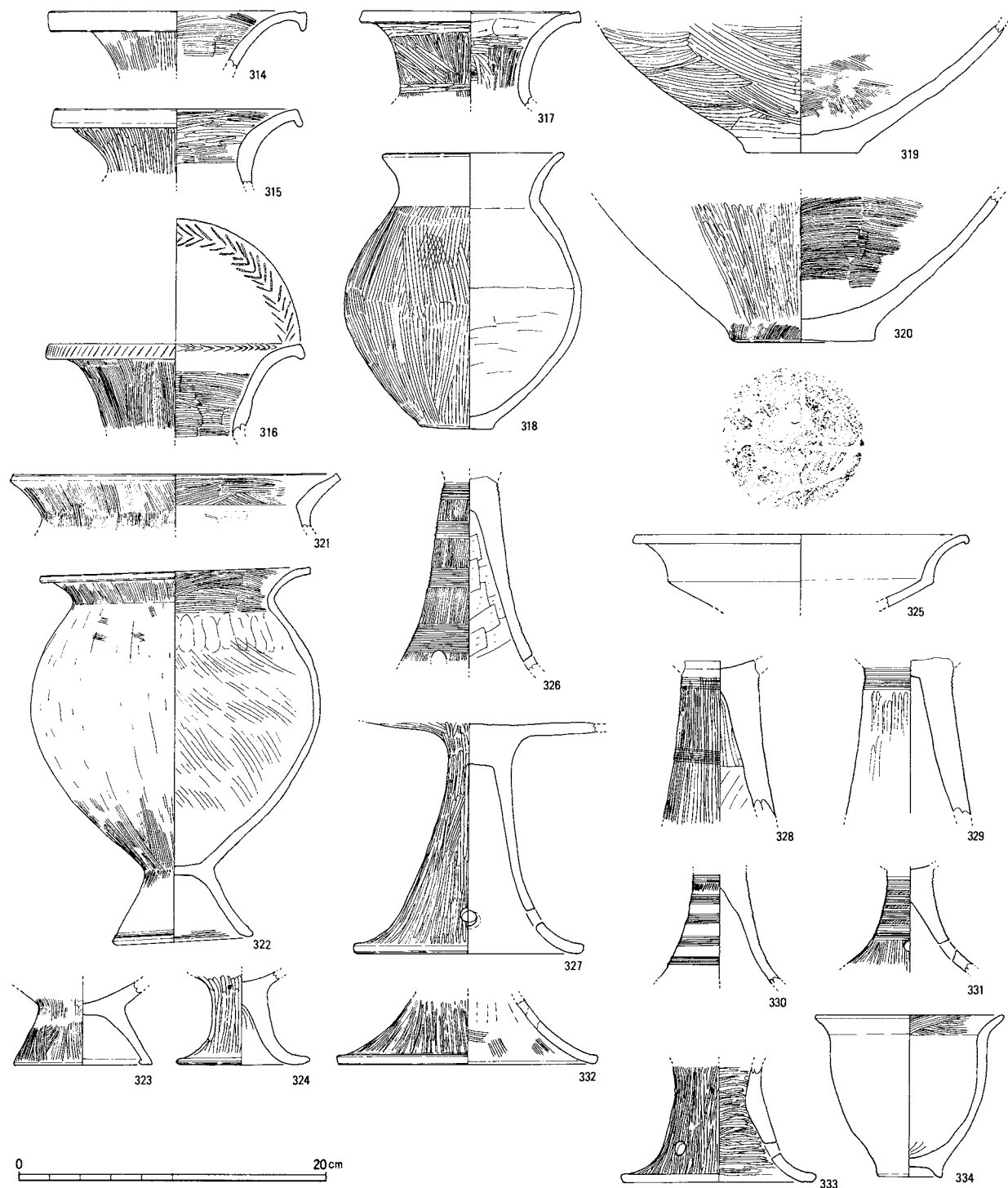
第78図 SK359出土遺物実測図 (1 : 4)

317 は大きく外反する口頸部片である。318 は口頸部は緩く外反し、体部はあまり張り出さないものである。319・320 は底部片、体部がかなり張り出すものと考えられる。320 は底部外面に木葉痕が残る。321 は口縁部が外反する甕である。322 は口縁部が大きく外反し、体部上半が少し膨れる台付甕である。323・324 は台付甕の脚部片である。325 ～332 は

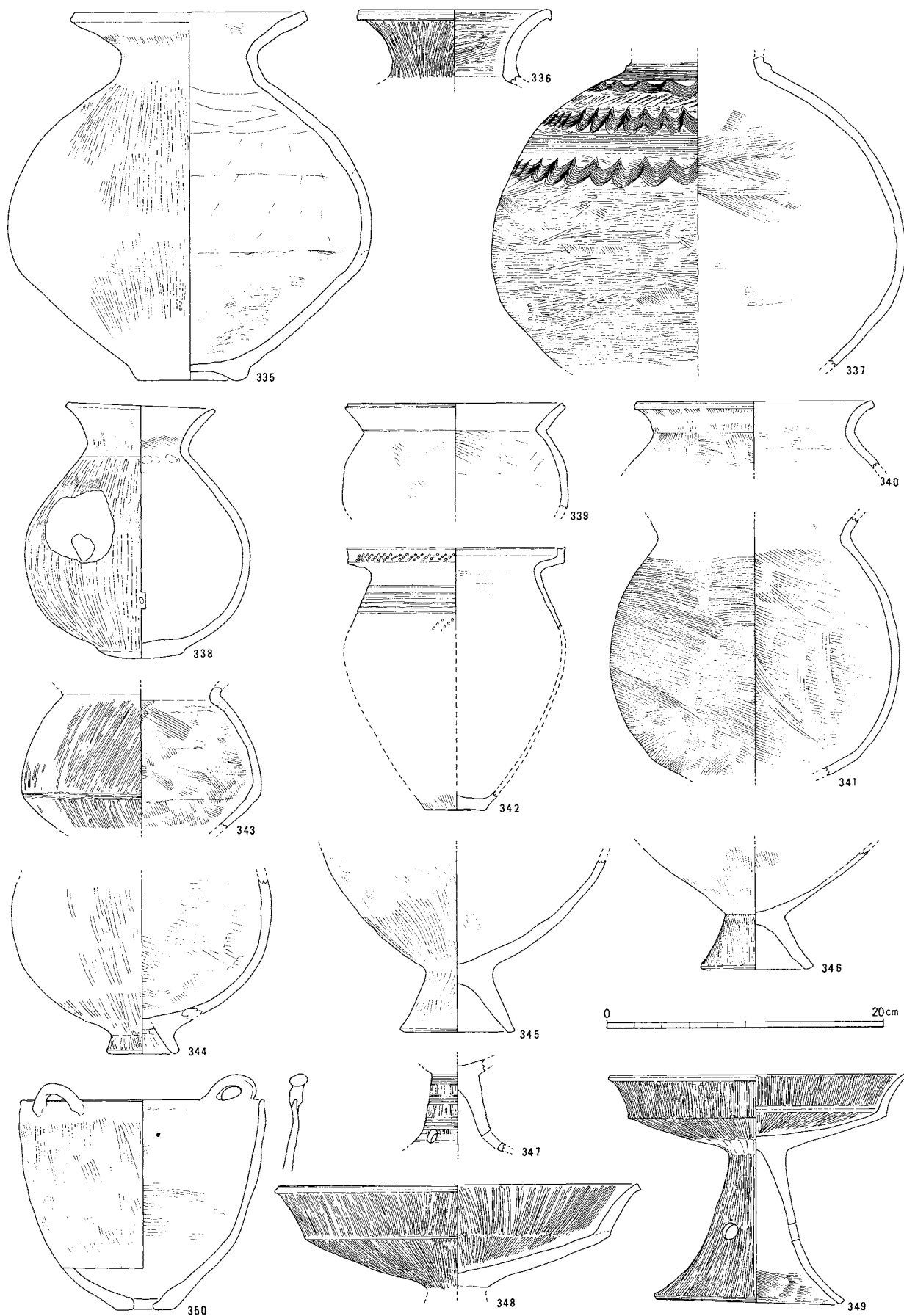
高杯である。325 は口縁部が大きく外反、杯底部が直線的な有段の杯部である。326～332 は脚部片である。333 は器台の裾部。334 は口縁部から体部にかけて外反気味の鉢である。これらは弥生時代後期前半に属するものと思われる。

S K 410出土遺物 (第80図)

335～338 は壺である。335 は口頸部が大きく外



第79図 SK372出土遺物実測図 (1 : 4)



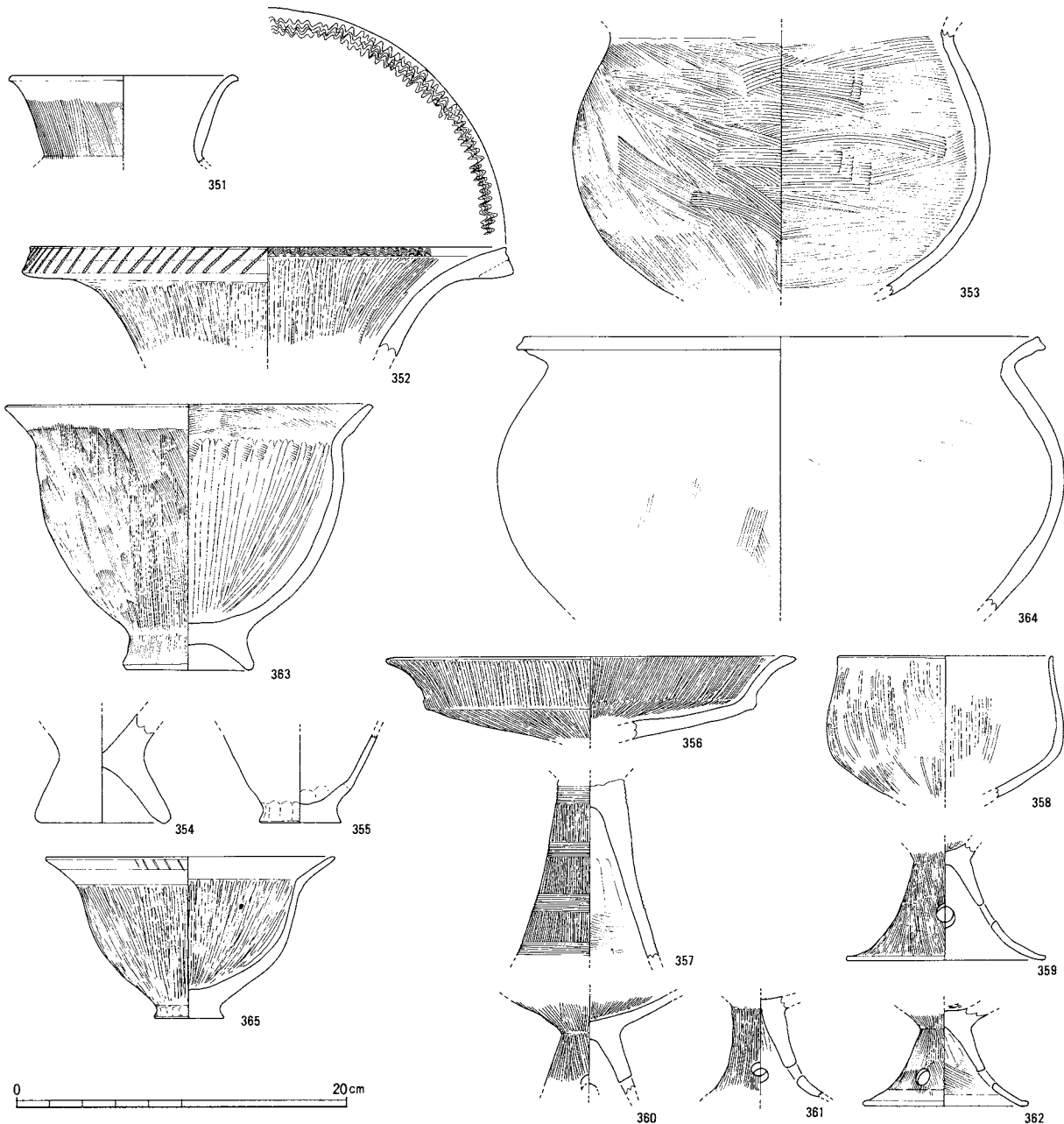
第80图 SK410出土遺物実測図(1:4)

反し、体部下半がかなり張り出すもの。336 は大きく外反する口頸部片。337 は頸部に隆帯、以下に横線文、波状文、刺突文が施されている。338 は口頸部が緩く外反し、体部下半が張り出す器形で、体部上半に大きな穿孔がみられる。339 ～343 は甕である。339 は口頸部が直線的に外反する。340 は口頸部が緩く外反する。341 は体部下半がかなり張り出すものである。342 は外面に刺突文が施された受け口状口縁で、体部上部に横線文がみられる。343 は体部下半がかなり張り出す小型の甕だろうか。344 ～346 は台付甕の体部下半から脚部にかけてのもの。

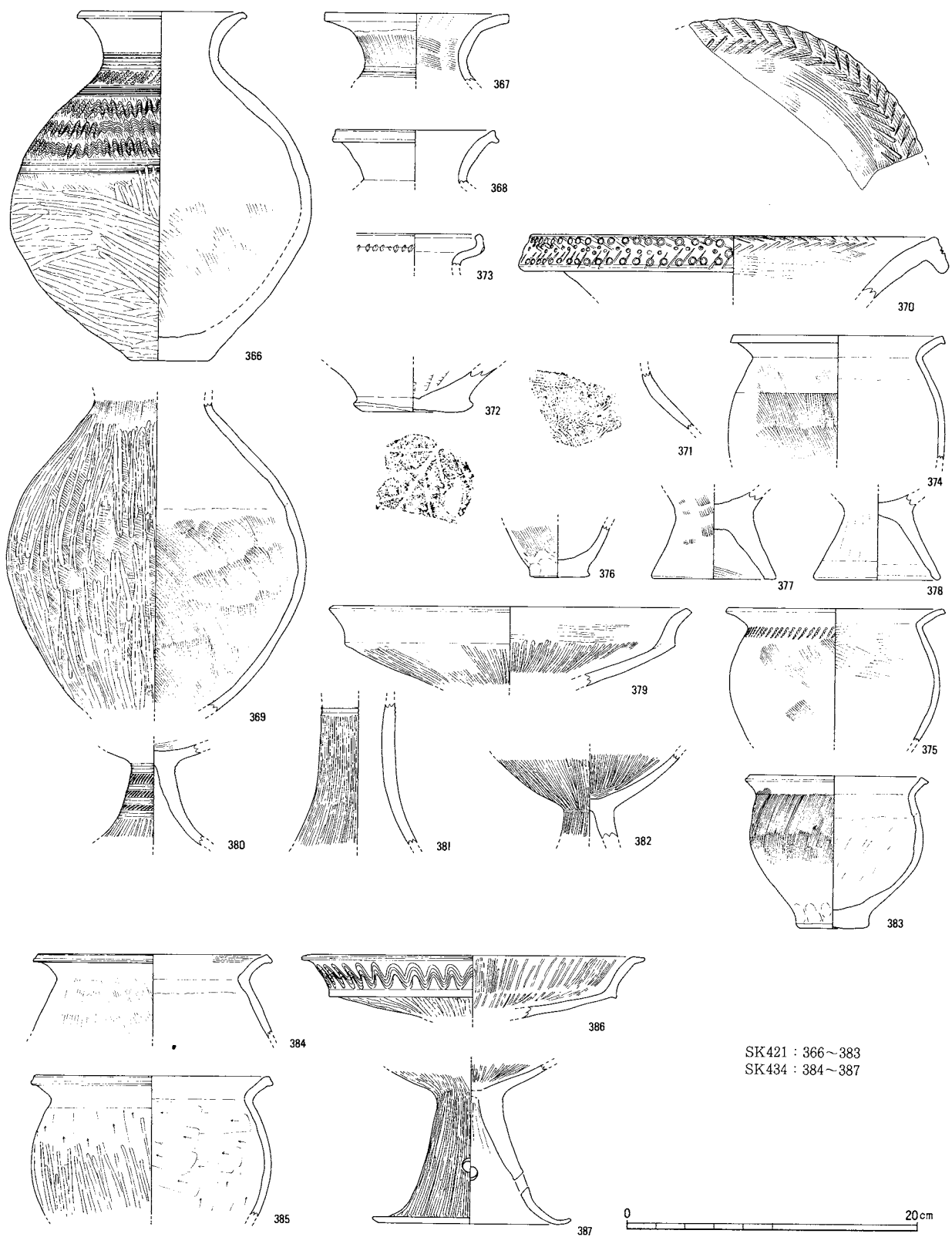
347 ～349 は高杯。347 は脚部片。348 ・349 は有段高杯。口縁部が緩く外反、杯底部が直線的である。350 は2ヶ所の把手のある鉢で、底部穿孔である。あまり類例をみない。これらは弥生時代後期前半に属するものと思われる。

S K 420出土遺物（第81図）

351 ・352 は壺である。351 は緩く外反する口頸部片、352 は口頸部は大きく外反し、口縁端部に刺突文、内面に波状文が施されている。353 ～355 は甕である。353 は体部が大きく張り出す。354 は台付甕脚部片である。355 は小型甕の底部片。356 ～

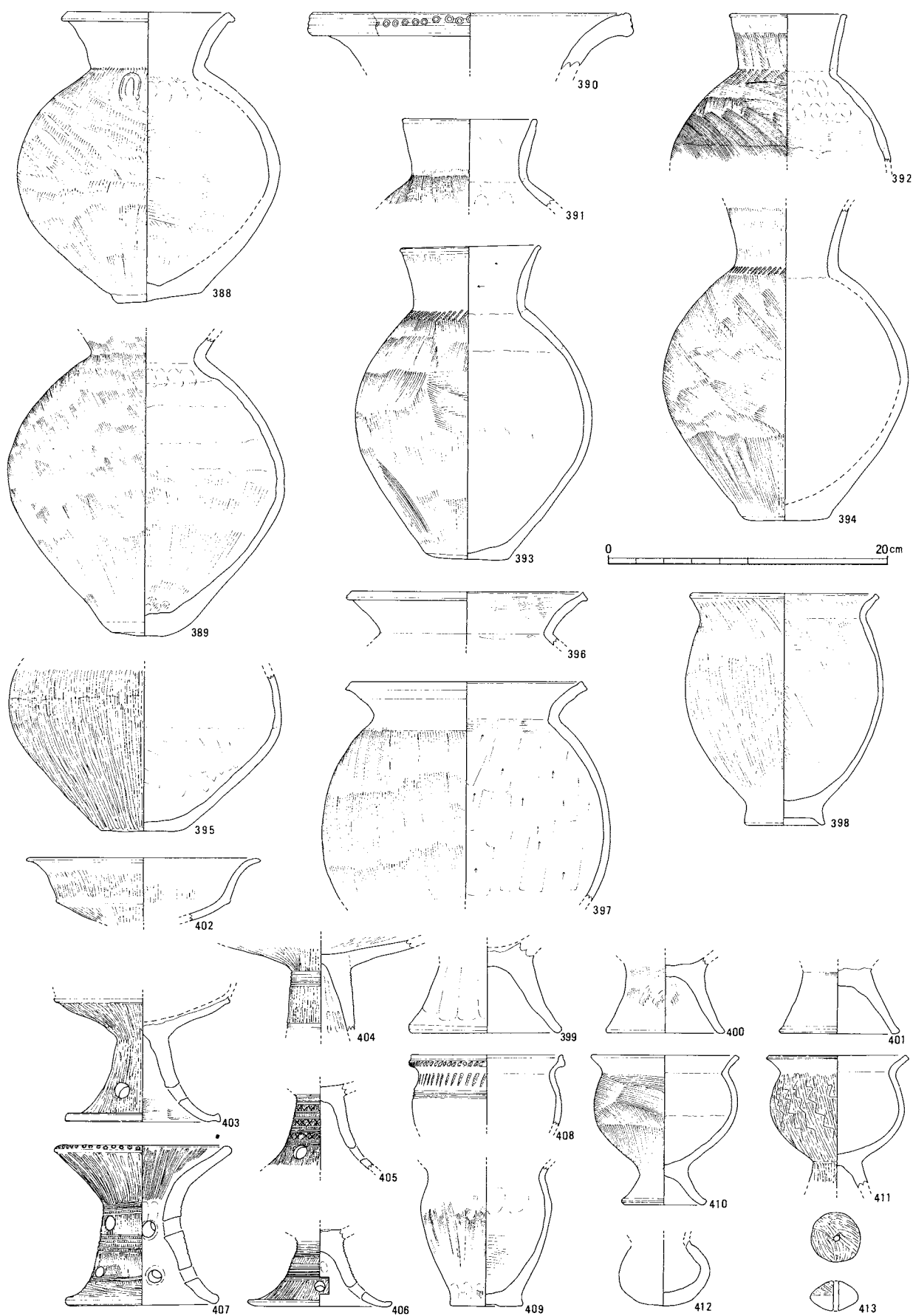


第81図 SK420出土遺物実測図（1：4）



SK421 : 366~383
 SK434 : 384~387

第82図 SK421・434出土遺物実測図(1:4)

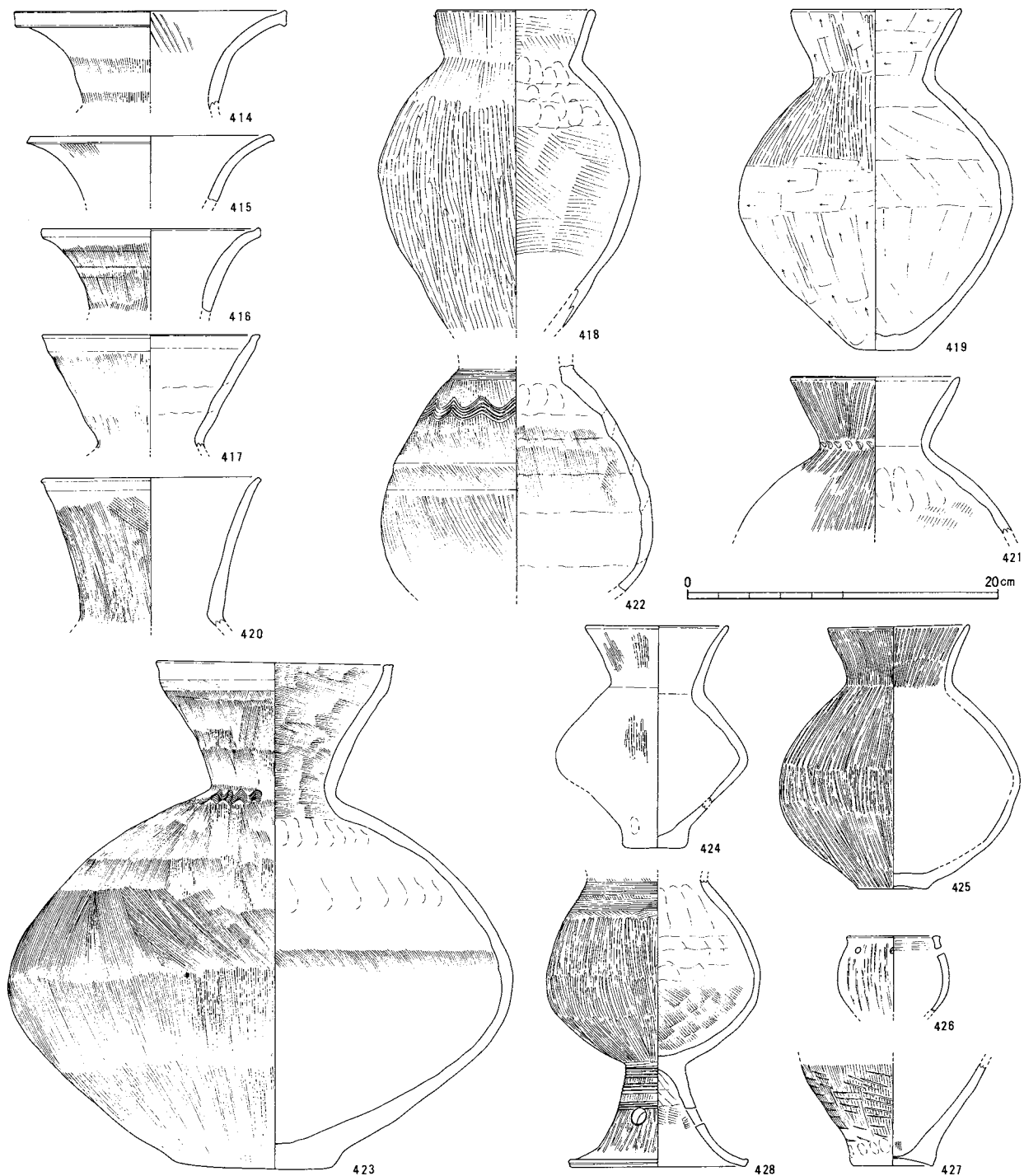


第83图 SK426出土遺物実測図 (1 : 4)

362 は高杯である。356 は口縁部が大きく外反し、杯底部が直線的である。357 は脚部片。358 はワイングラス形。359 ~362 は脚部片である。363 は口縁から体部にかけて外に広がる台付鉢。364 は口縁部が外反し、体部がかなり膨れるずんぐりとした大型の鉢。365 は口縁から体部にかけて外に広がる小型の鉢である。これらは弥生時代後期前半に属するものと考えられる。

S K 421出土遺物 (第82図)

366 ~372 は壺である。366 は口頸部が大きく外反し、体部が張り出す。口頸部下に横線文、以下に横線文、刺突文、波状文が施されている。367 は大きく外反する口頸部片。368 は緩く外反する口頸部片。369 は体部があまり張り出さない。370 は口頸部が大きく外反し、口縁端部には2列の竹管文と刺突文が、口縁部内面には矢羽根状の刺突文が施さ



第84図 SE327出土遺物実測図① (1 : 4)

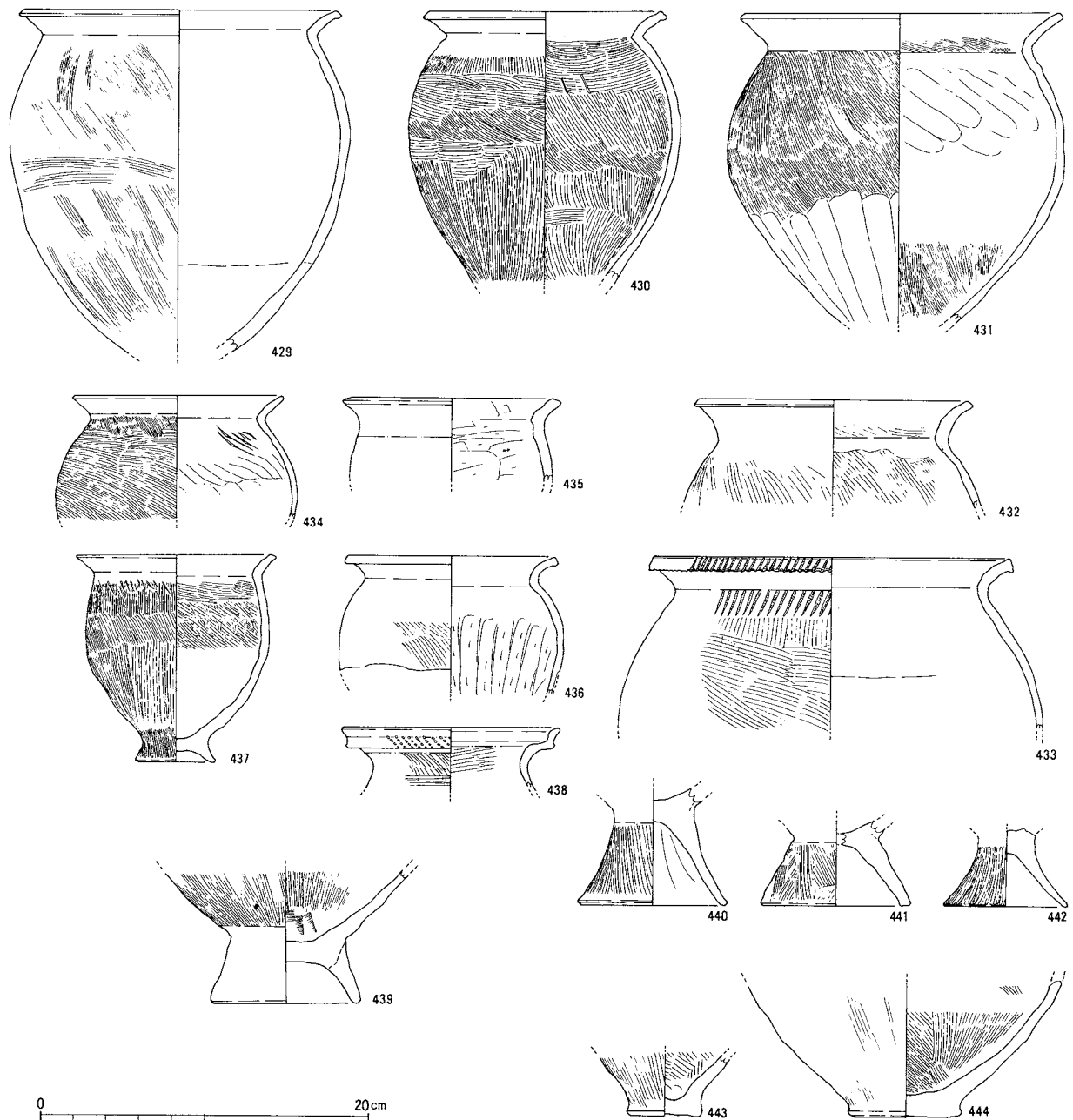
れている。パレススタイルのもの。371 は波状文のみられる体部片。372 は外面に木葉痕がみられる底部片である。373 ~378 は甕である。373 は受け口状口縁部片。374 は口縁部が外反し、体部が少し張り出すもの。375 は肩部に刺突文がみられる小型甕である。376 は小型甕の底部片か。377・378 は台付甕脚部片である。379 ~382 は高杯である。379 は口縁部が大きく外反し、杯底部が直線的な有段の杯部である。380 ~382 は脚部片。383 は口縁から体部にかけて外反する鉢である。これらは弥生時代後期前半に属するものと考えられる。

S K 434出土遺物 (第82図)

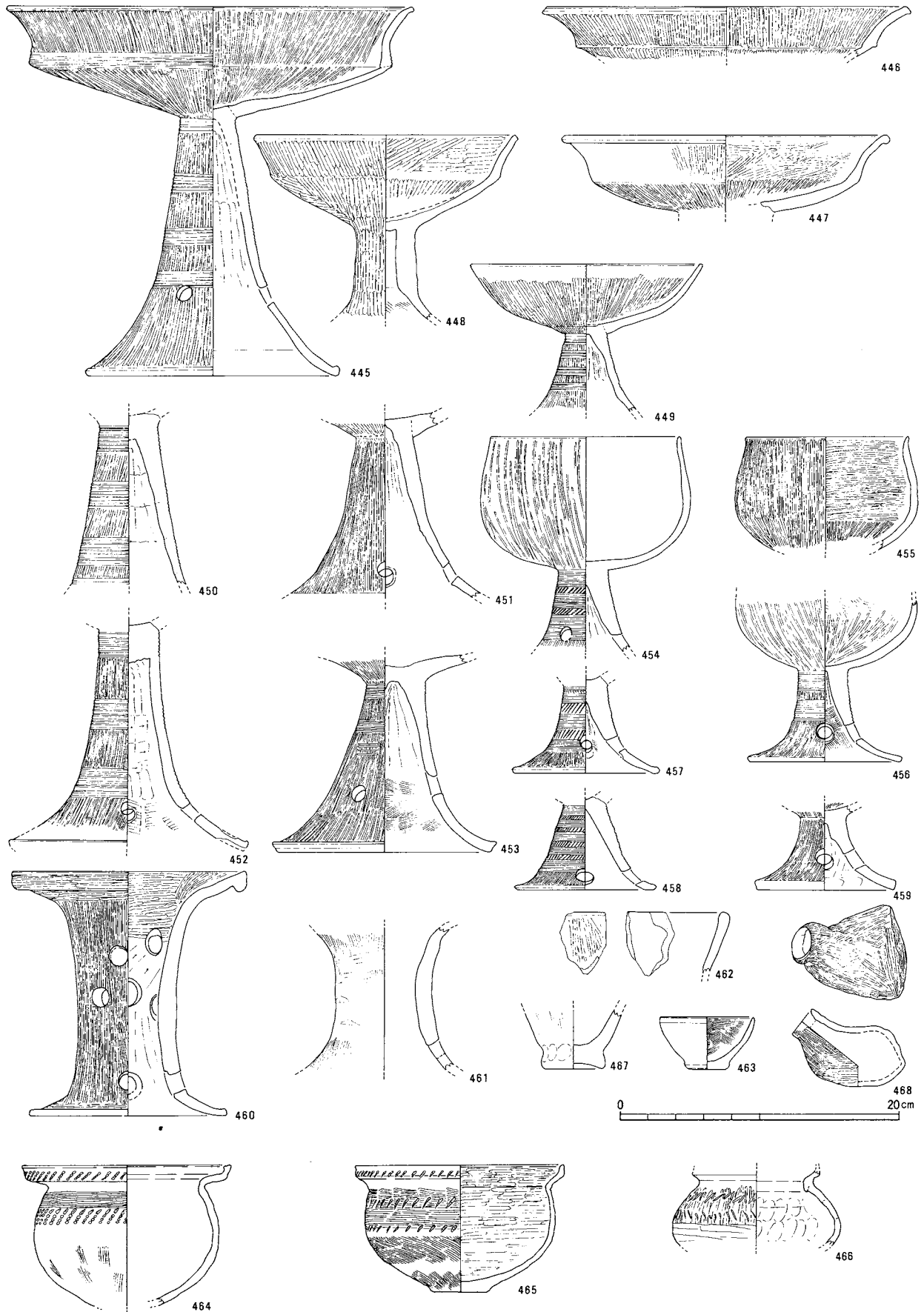
384・385 は甕で、口縁部が外反し体部が少し張り出す。386 は口縁部が大きく外反し、杯底部が直線的な有段高杯の杯部である。口縁部に波状文が施されている。387 は高杯脚部片。これらは弥生時代後期前半に属するものと思われる。

S K 426出土遺物 (第83図)

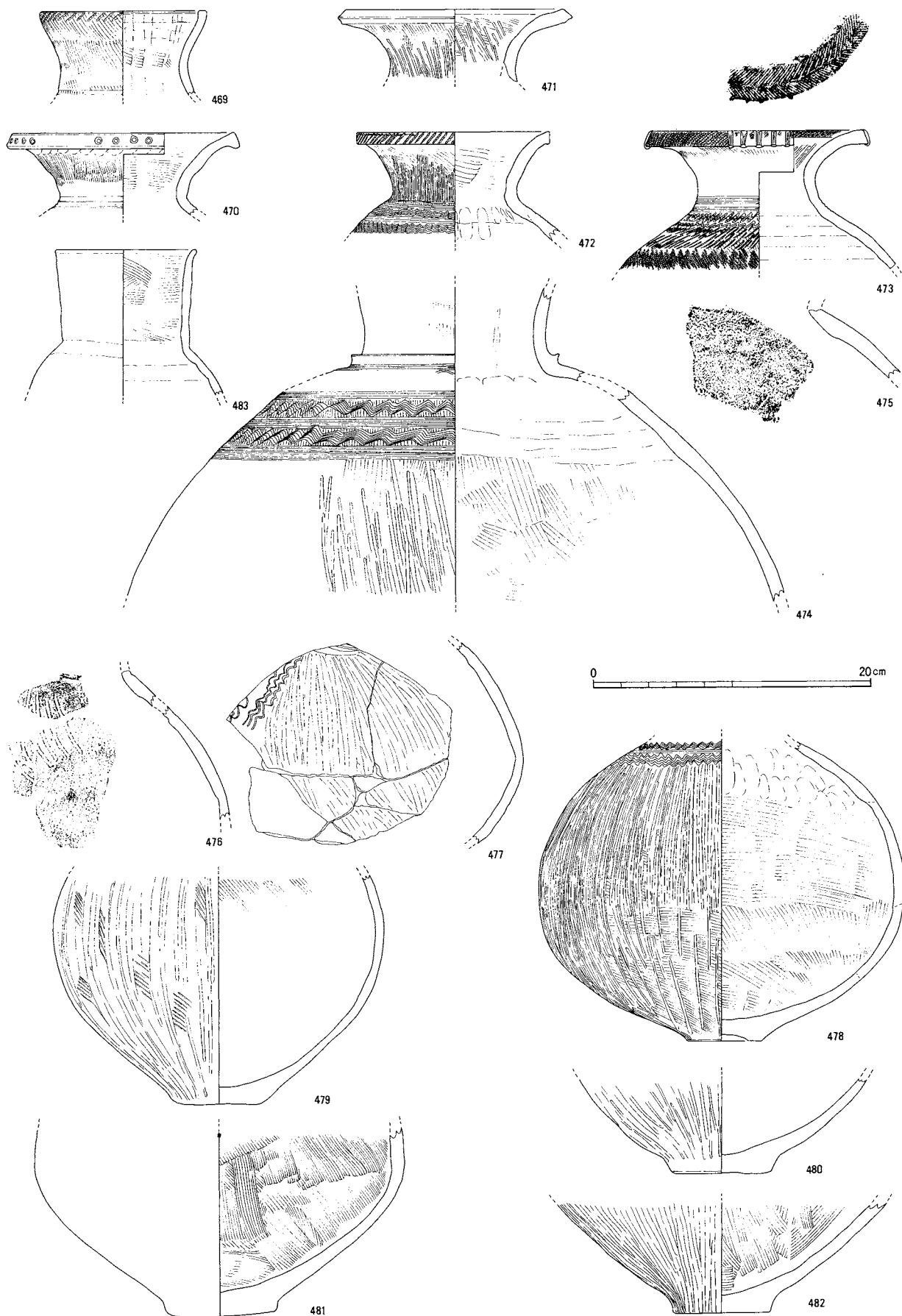
388 ~395 は壺である。388 は口頸部は大きく外反し体部が張り出す。頸部下に粘土塊を土器外面に付着させ指で押さえつけたような浮文がみられる。389 は口頸部は大きく外反し、体部が張り出すもの



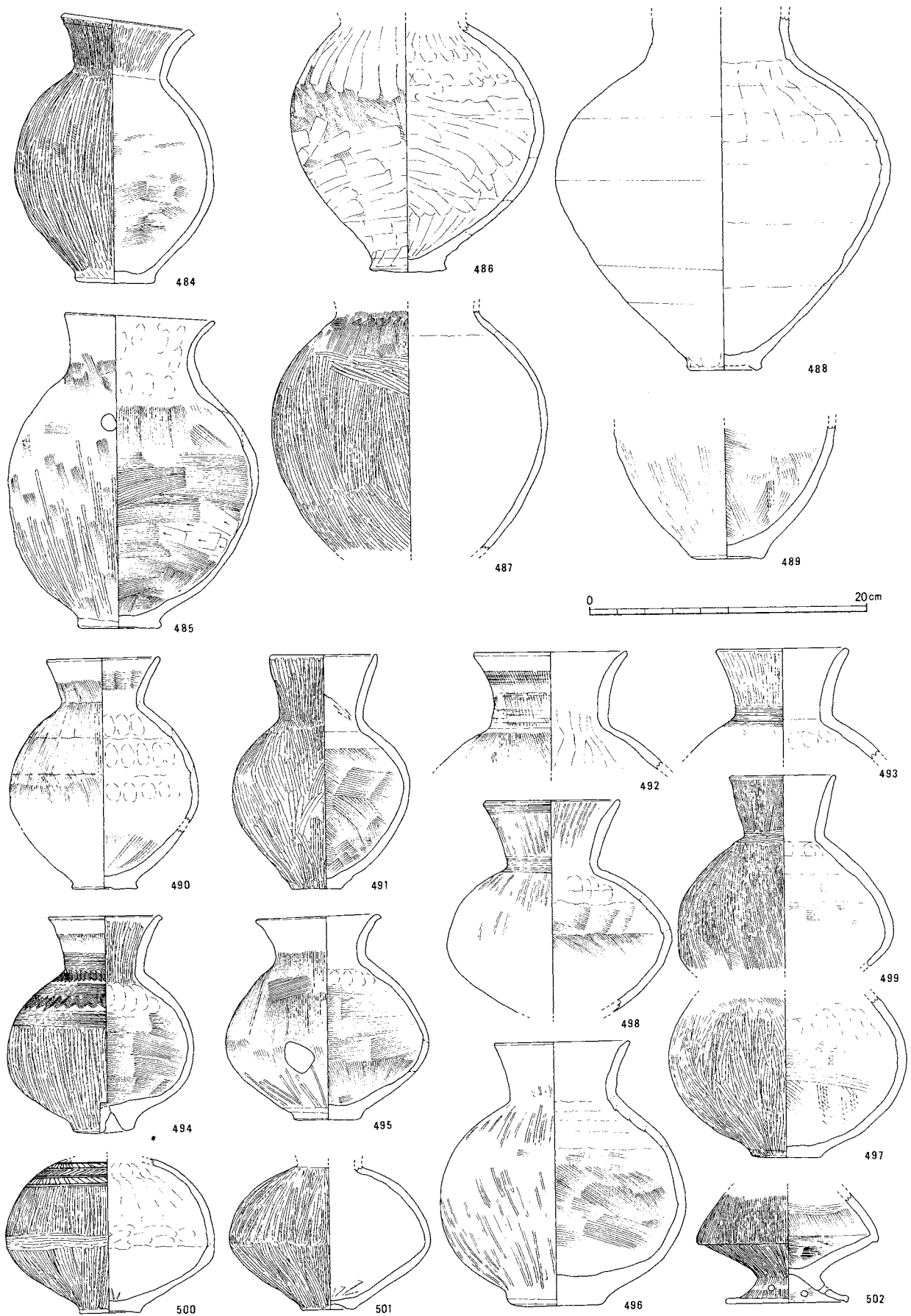
第85図 SE327出土遺物実測図② (1:4)



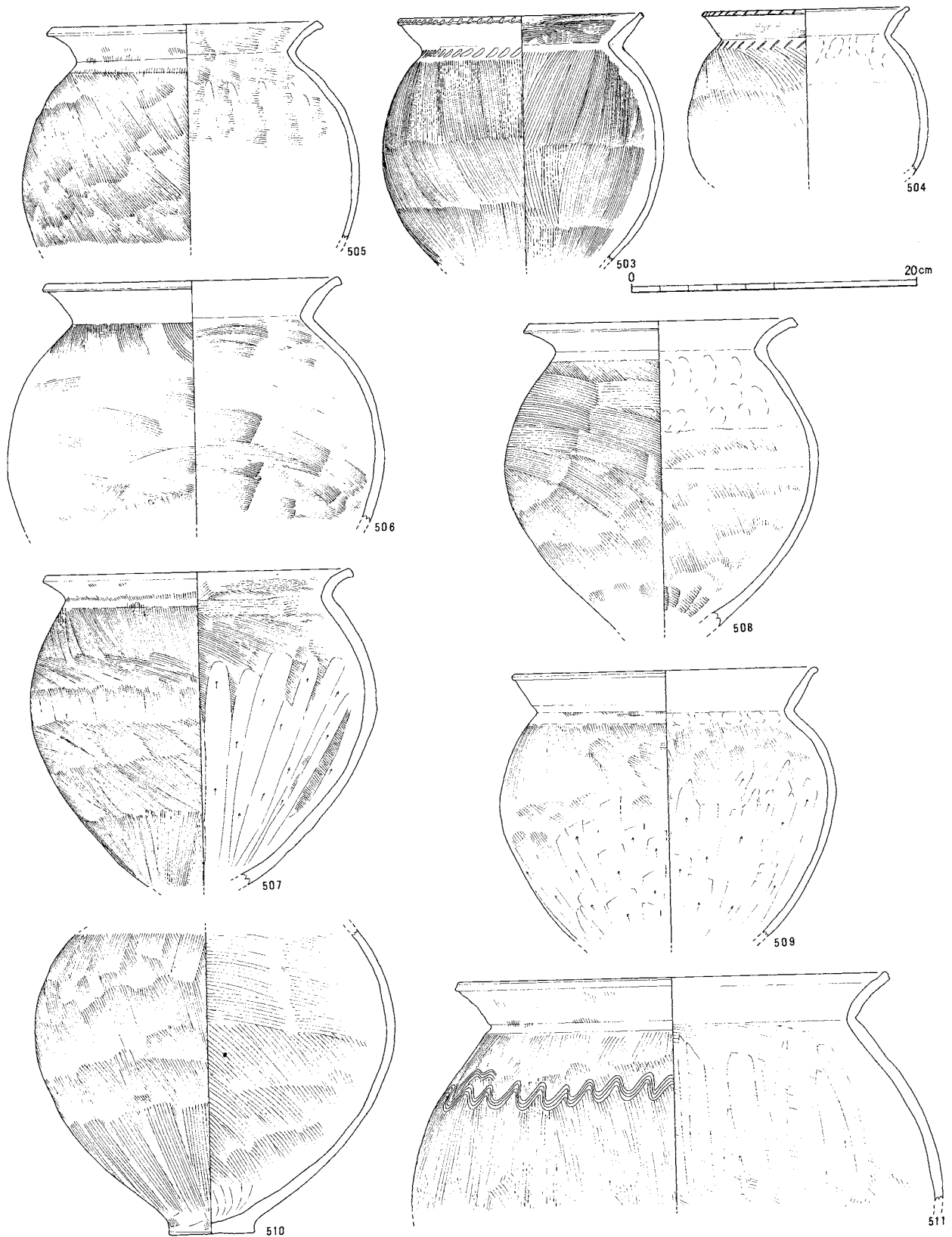
第86图 SE327出土遺物実測图③ (1:4)



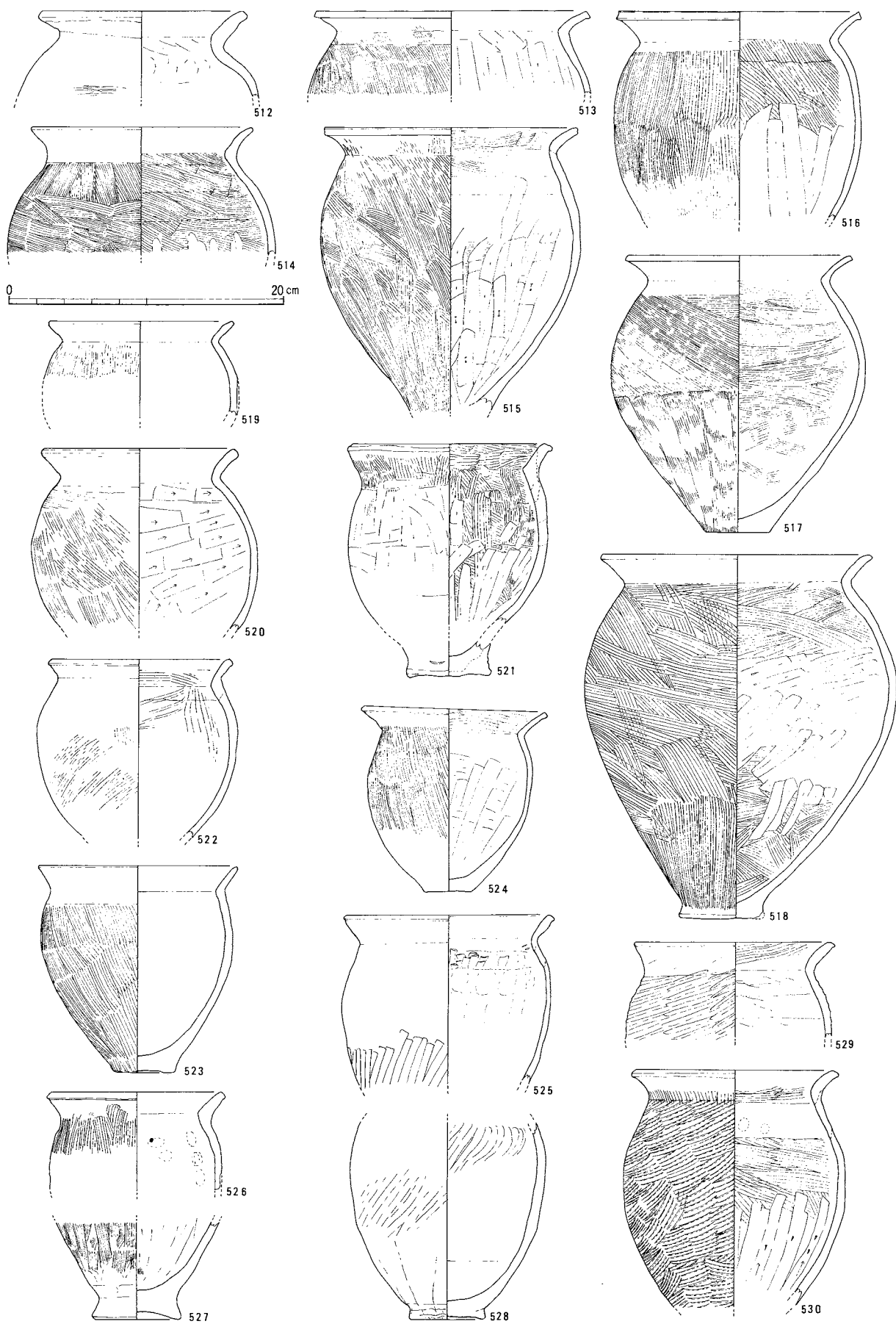
第87图 SD303出土遺物実測图① (1 : 4)



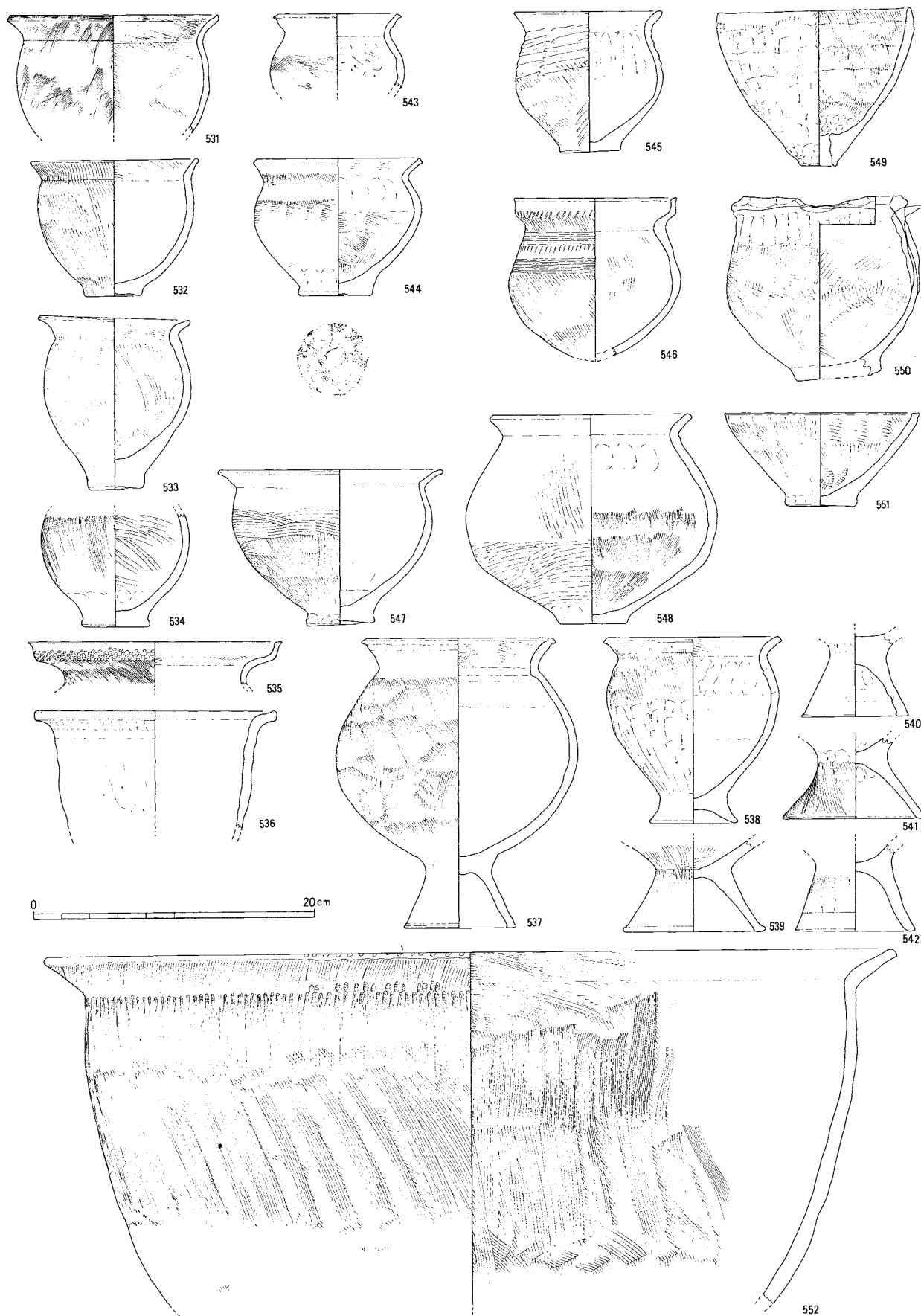
第88图 SD303出土遺物実測図② (1:4)



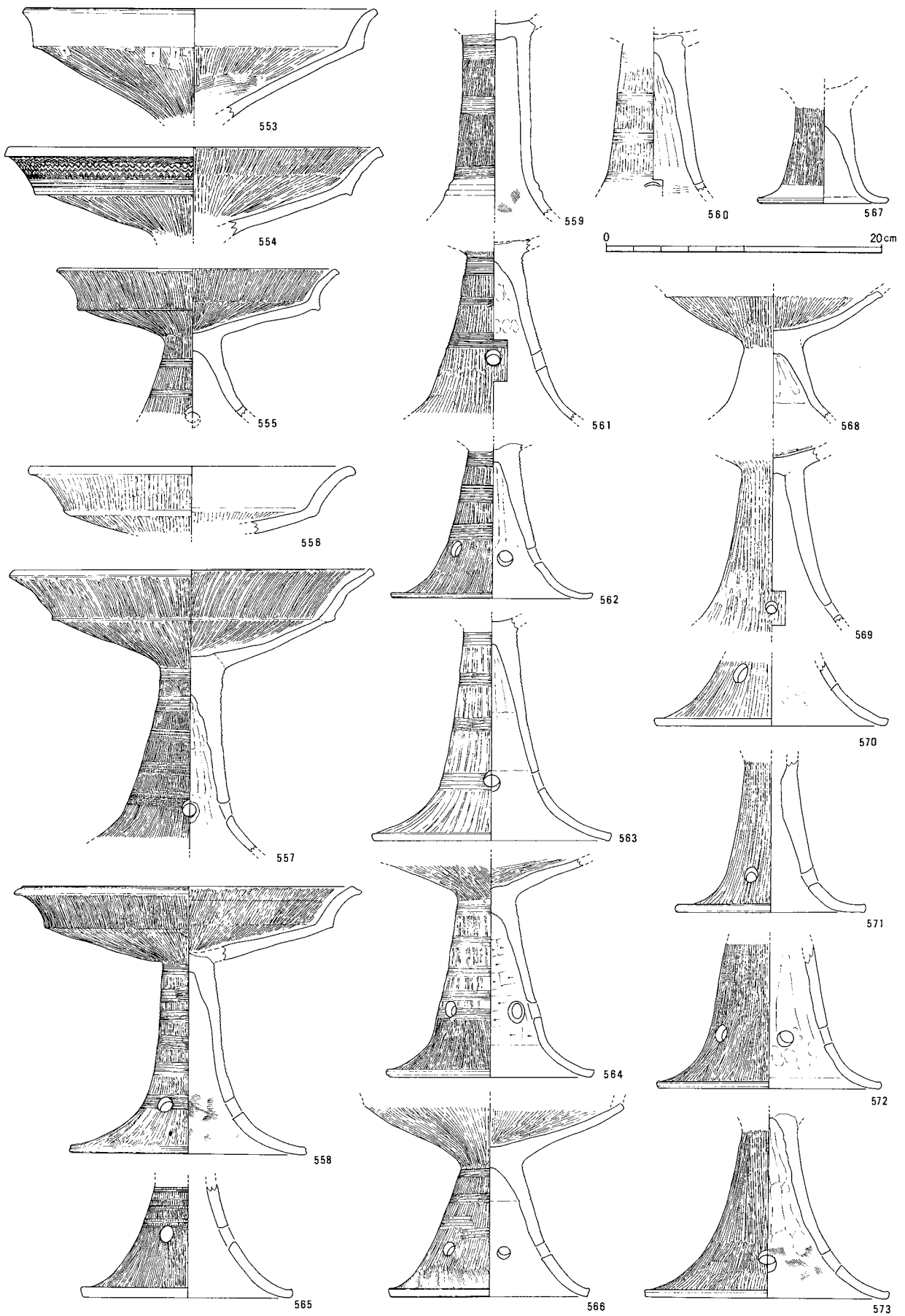
第89图 SD303出土遺物実測図③ (1:4)



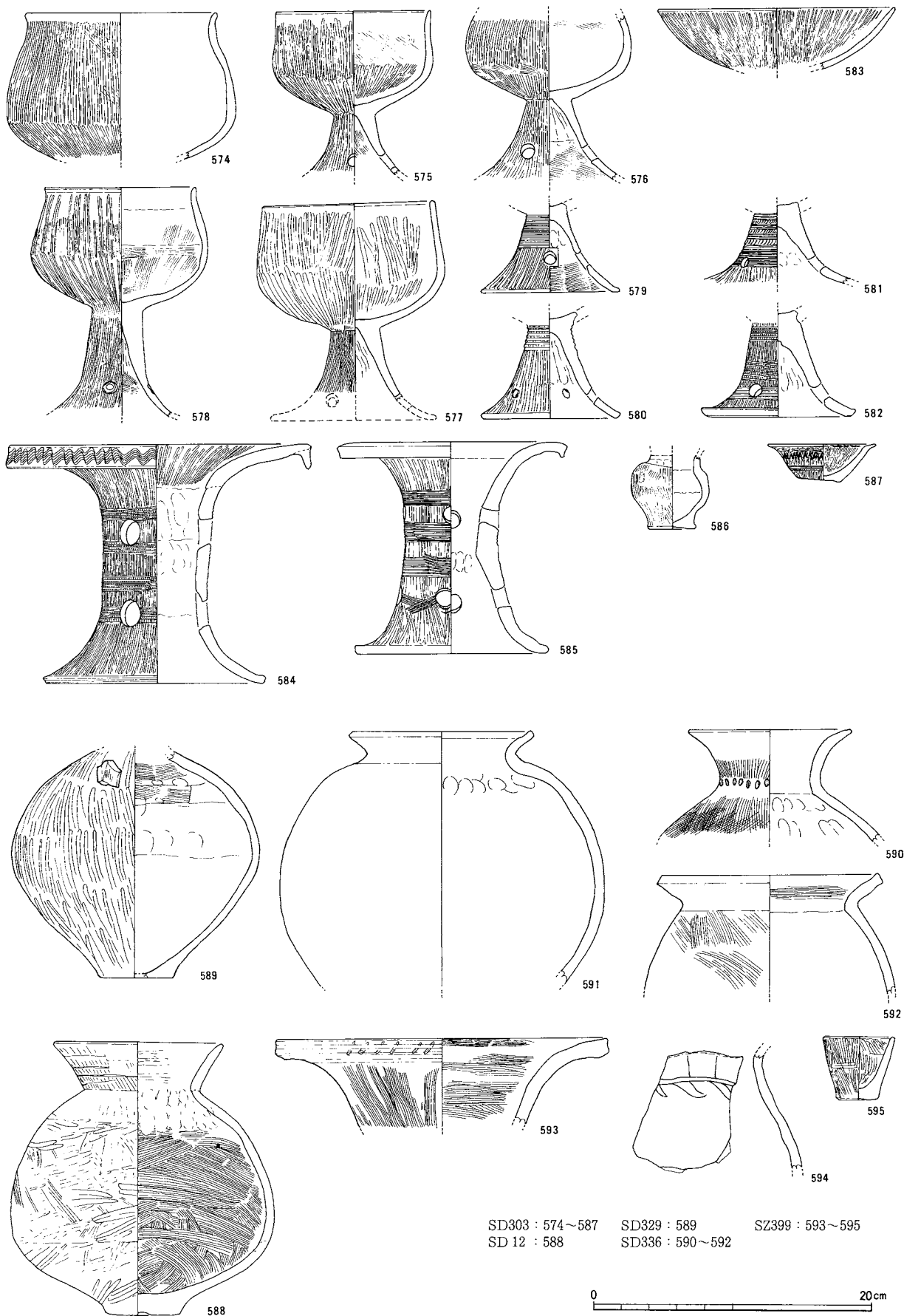
第90图 SD303出土遺物実測図④ (1 : 4)



第91図 SD303出土遺物実測図⑤ (1:4)

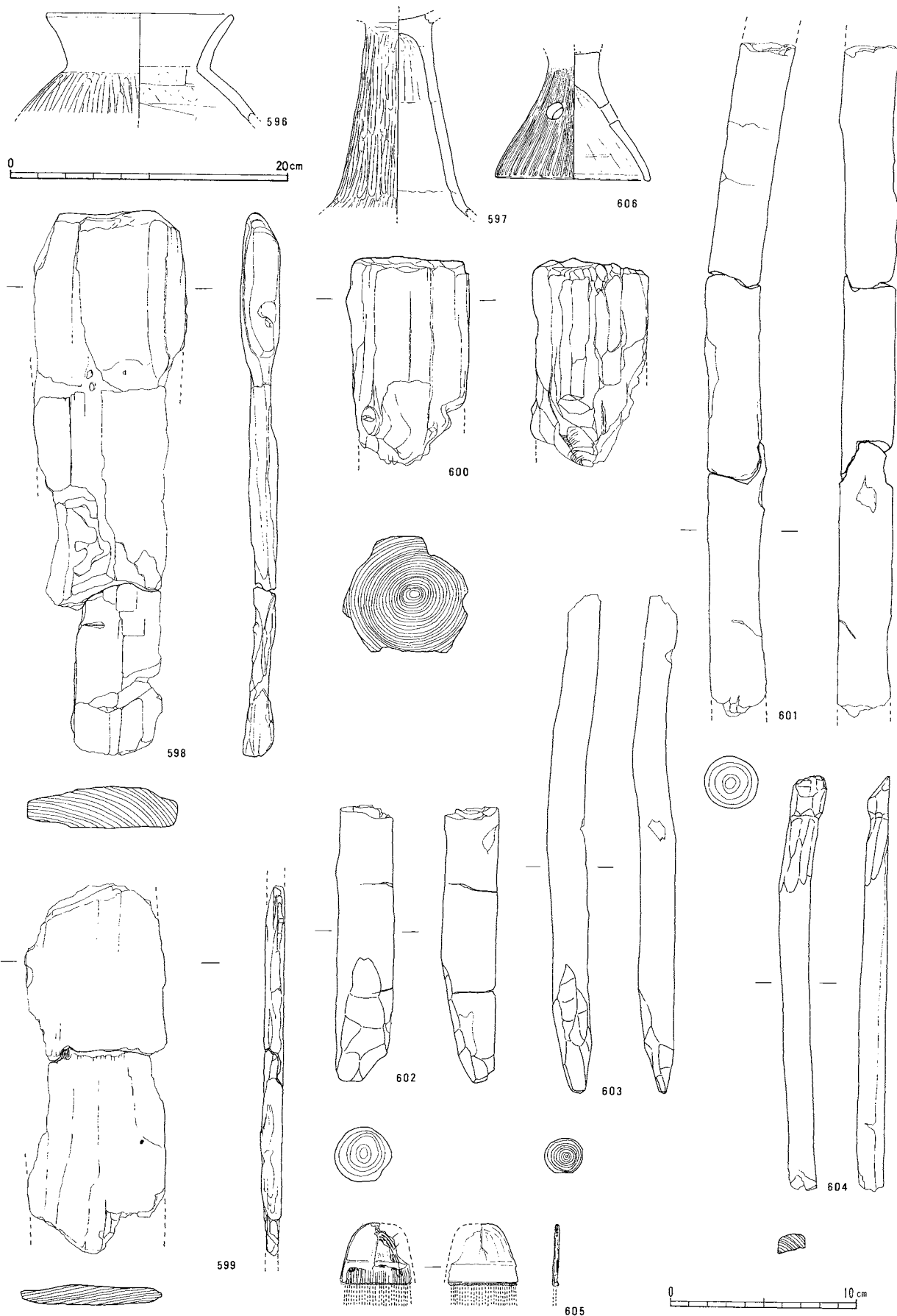


第92图 SD303出土遗物实测图⑥ (1 : 4)



SD303 : 574~587 SD329 : 589 SZ399 : 593~595
 SD 12 : 588 SD336 : 590~592

第93図 SD12・303・329・336, SZ399出土遺物実測図(1:4)



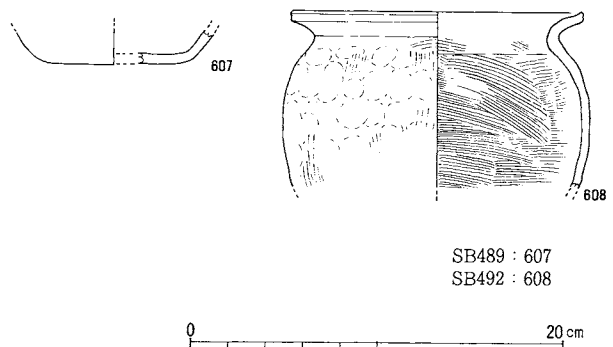
第94図 SK8・398出土遺物実測図(1:4, 605は1:3) ※ SK8:596~605, SK398:606

か。390 は大きく外反する口頸部片。口縁端部に竹管文が施されている。391～394 は直線的に外反する口頸部で、体部が細長い器形である。393・394 は頸部に刺突文が巡る。395 は体部下半が大きく張り出す器形である。396～398 は甕である。396 は外反する口頸部片。397 は口縁部が外反し、体部が張り出すもの。398 は小型の甕で、口縁部が外反し、体部が少し張り出す。399～401 は台付甕脚部片である。402～406 は高杯である。402 は口縁部が大きく外反し、杯底部が丸みを帯びる。403～406 は脚部片。403 は402 のような杯部が付くと考えられる。405・406 はワイングラス形の杯部が付くと考えられる。407 は口縁端部には竹管文、柱状部に五方透孔が2段ある器台である。408～411 は鉢である。408・409 は口縁から体部にかけて外に広がる鉢である。410・411 は口縁部が外反し体部が張り出す。台付鉢である。台付甕がそのまま小さくなった感がある。411 の体部外面には縦に5条の稲光状線刻が施されている。嬉野町天花寺遺跡においても同様のものが確認されている^⑧。412 は丸底のミニチュア土器片である。413 は算盤玉のような形状である。紡錘車であろう。これらは弥生時代後期前半に属するものと考えられる。

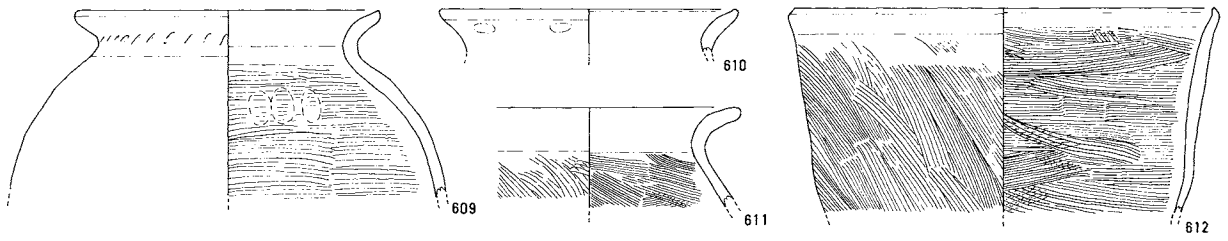
SE 327出土遺物（第84～86図）

414～427 は壺である。414～416 は口頸部が大きく外反する。417 は口縁端部に面取りがみられ、口頸部が直線的に外反するものである。418 は口縁端部に面取りが少しみられ、口頸部が直線的に外反し体部が細長い。419 は口頸部が直線的に外反し体部が少し張り出す。420 は口頸部が直線的に外反する。421 は口頸部が直線的に外反し体部が少し張り出すものか。422 は肩部に横線文、体部上半に波状文が施され、体部下半が張り出すしもぶくれのもの。423 は受け口状口縁の端部には面取りがみられ、口頸部が直線的に外反する。体部は算盤玉状に大きく張り出す。424 は小型壺で、口頸部が直線的に外反し、体部は算盤玉状に鋭角的に張り出す。425 は小型壺で、口頸部が直線的に外反し、体部は丸く大きく張り出す。426 はミニチュア土器壺。無頸壺形である。口縁部には2ヶ所の穿孔がみられる。427 は底部片。428 は肩部に横線文、体部下半が張り出す

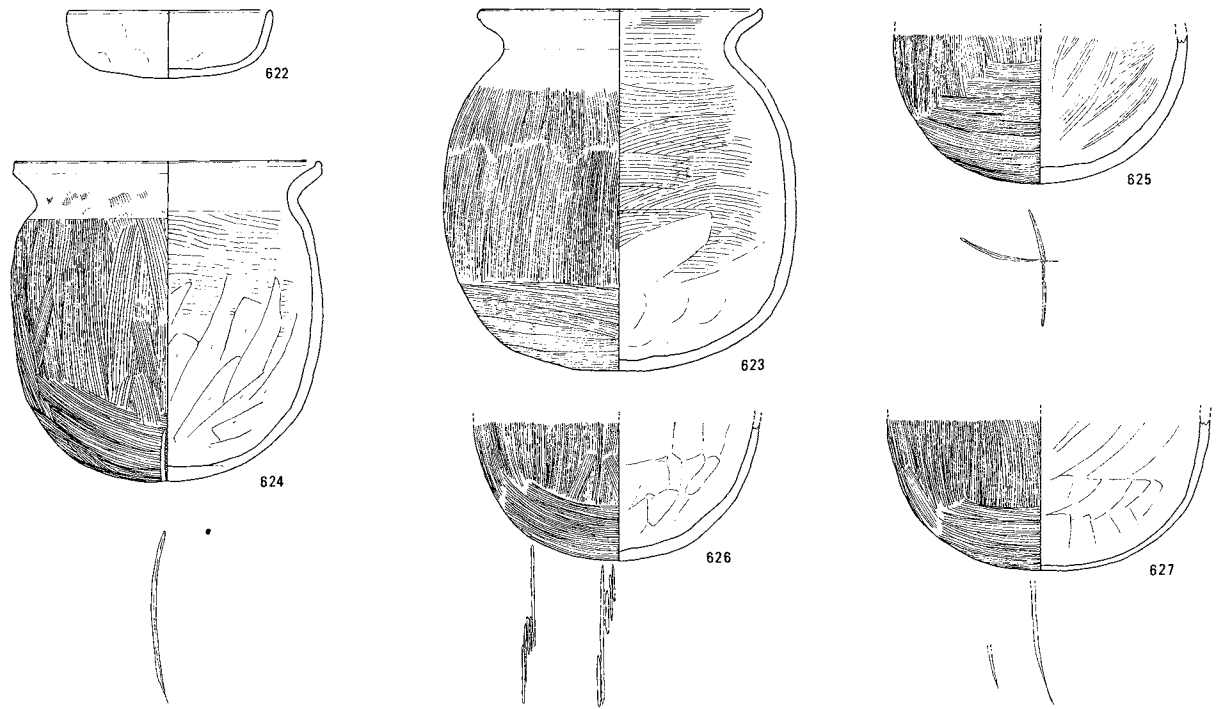
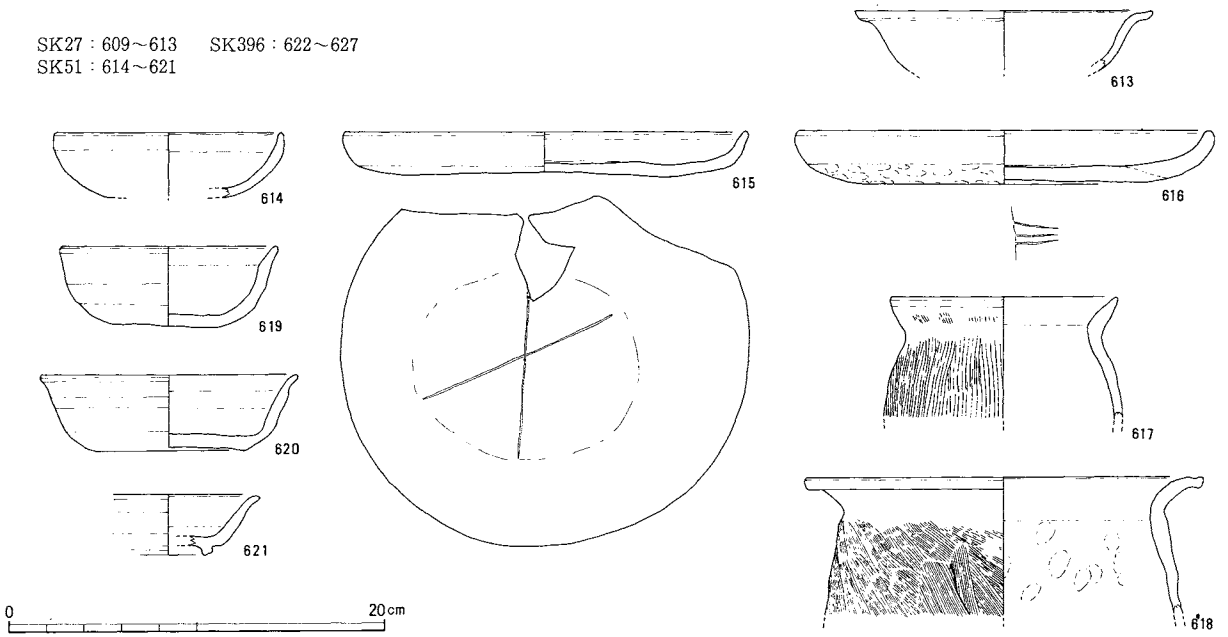
台付壺である。429～444 は甕である。429～432 は口縁部が大きく外反し体部上半が張り底部に向かってゆるやかな曲線を呈している。433 は口縁端部と頸部に刺突文が施されている。434 は口縁部は大きく外反し、体部はそれほど張り出さない。435 は口縁部は外反し、体部はあまり張り出さない。436 は口縁部が大きく外反し、体部が球形でずんぐりとしたもの。437 は口縁部は外反し、体部の張り出しはあまりない。438 は受け口状の口縁部片である。439～442 は台付甕脚部片である。443・444 は底部片である。445～459 は高杯。445 は有段高杯で口縁部が大きく外反し、杯底部は直線的である。脚部がすりと伸び4段の横線文、三方透孔が施され、裾部近くで広がる。446 は有段高杯で口縁部が大きく外反する。447 は有段高杯で口縁部が大きく外反し、杯底部は丸みを帯びる。448 は有段高杯で口縁部が直線的で、杯底部はやや丸みを帯びる。脚部上部は垂直に伸び裾部で広がるようである。449 は杯部が皿状のもの。450～453 は脚部片。杯部は有段のものが付くのだろうか。454～456 はワイングラス形の高杯である。457～459 は脚部片。杯部はワイングラス形のものが付くのだろうか。460・461 は器台である。460 は柱状部に透孔が3段に施されている。受部の端部断面は丸みを帯びている。462 は鉢口縁部片か。内外面とも赤彩である。463 は椀状の鉢。464～466 も鉢である。464 は受け口状口縁部の外面に刺突文、頸部には上から横線文、刺突文が施されている。体部が丸みを帯びずんぐりとした器形である。465 は受け口状口縁部の外面に刺突文、頸部には上から刺突文、横線文、刺突文が施されている。体部が丸みを帯びずんぐりとした器形で



第95図 SB489・492出土遺物実測図（1：4）



SK27 : 609~613 SK396 : 622~627
SK51 : 614~621



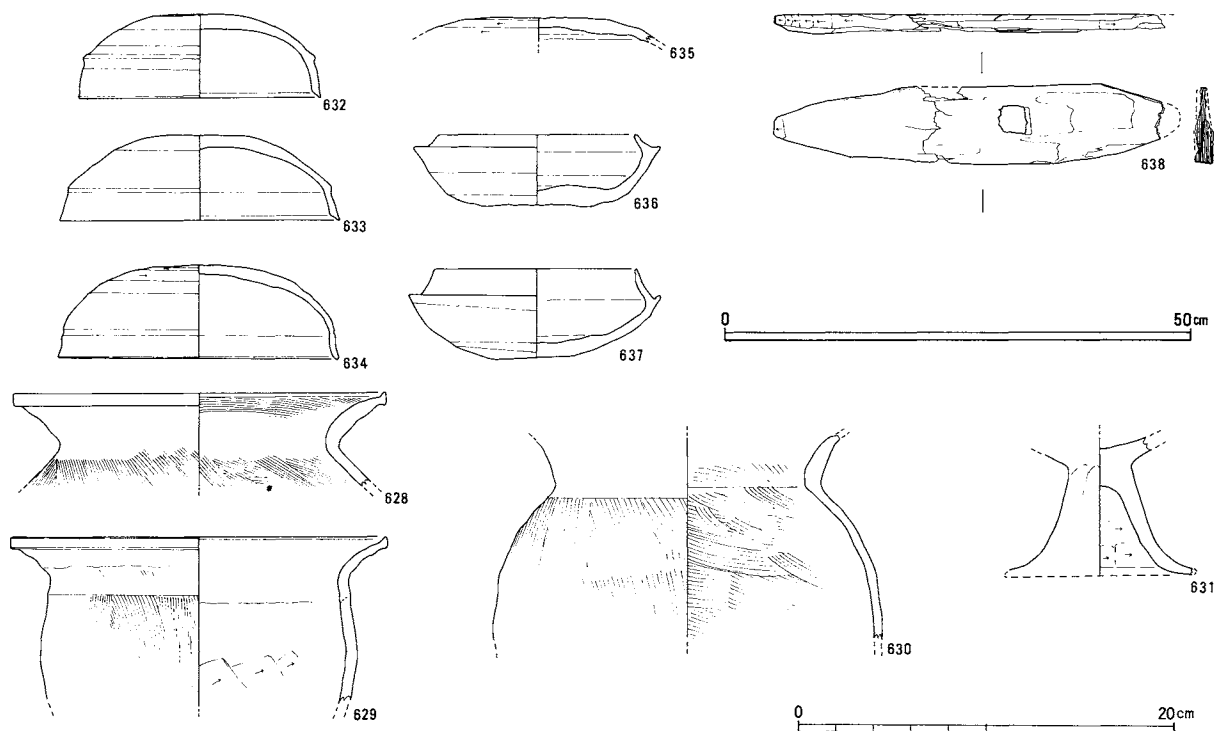
第96図 SK27・51・396出土遺物実測図（1：4）

ある。466 は体部上半に刺突文が施されている。体部は丸みを帯びずんぐりとしている。467 は鉢底部片か。468 は性格・用途が不明である。袋状土製品という呼称はどうだろうか。出土状況から祭祀に何らかの関わりがあるものと考えられる。口が上に延び、真上からは二等辺三角形が少し崩れた形である。愛知県高井遺跡に類似したものが出土している⁹⁸。これらは、弥生時代後期前半に属するものと考えられる。また、配石の間から、コナラ属の種実遺体も出土した。

S D 303出土遺物（第87～93図）

469～502 は壺である。469 は内弯する口縁端部には面取りがみられ、端部に近い外面に刺突文が施される。470 は口頸部が大きく外反し、口縁端部に4個1組の竹管文が6ヶ所施されている。471 は大きく外反した口頸部片である。472 は口頸部が大きく外反し、口縁端部に刺突文、頸部に横線文、波状文が施されている。473 は口頸部が大きく外反し、口縁端部に回転縄文を施し、4ヶ所に5個1組の棒状隆帯、口頸部内面にも回転縄文が施されている。以下に横線文、波状文、回転縄文が施されている。474 は口頸部下に隆帯、以下に横線文、波状文を施す。475 は横位の波状文がみられる体部片、476 は

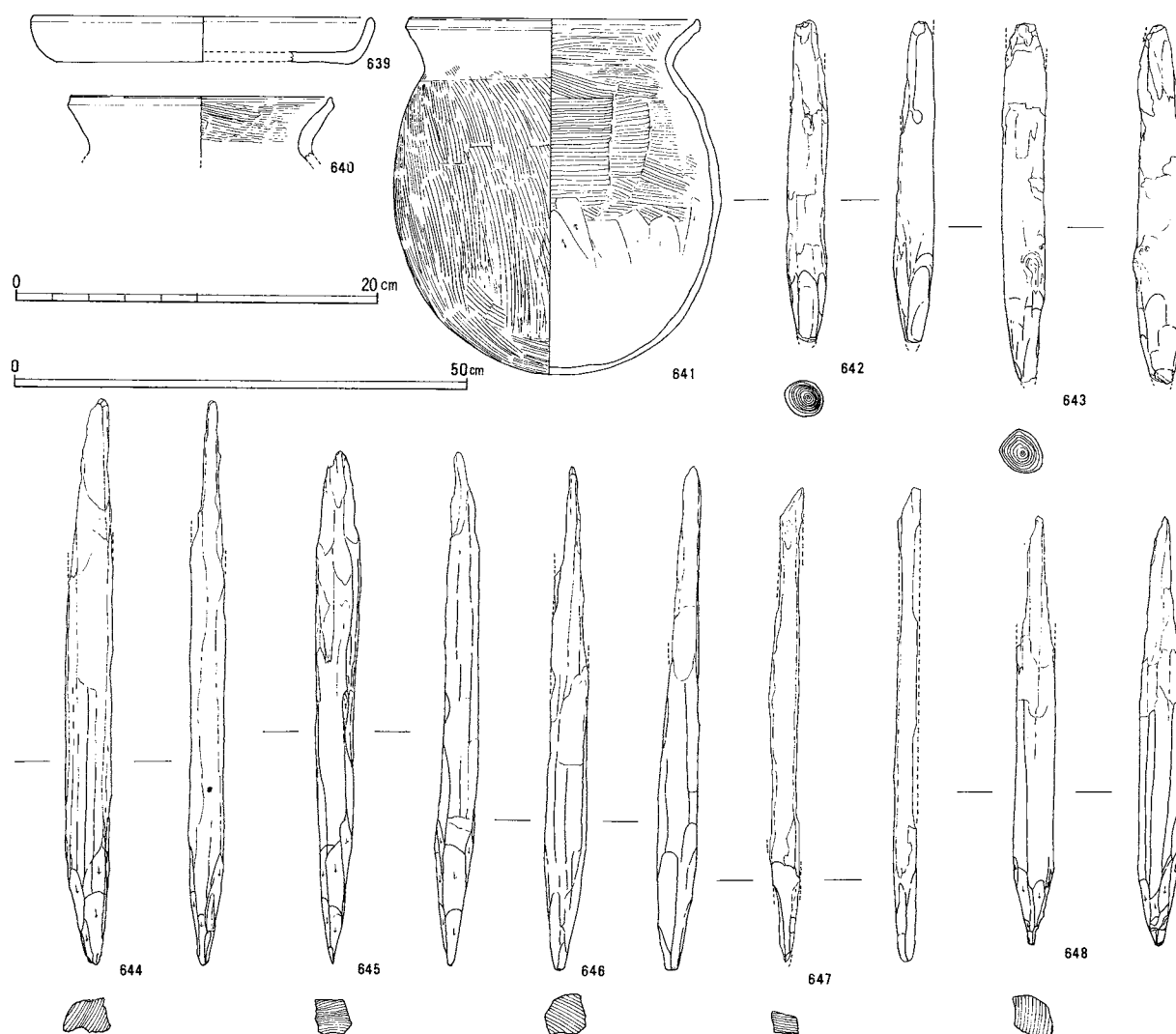
6条の曲線状の線刻が施された体部片、477 は縦位に4条の波状文が施されている体部片である。478 は頸部に波状文と横線文が施され、体部が球形に大きく張り出す。479・481 は体部が大きく膨れる。480・482 は底部片である。484 は口頸部がほぼ垂直で口縁端部が若干外反するもの。484・485 は口頸部が緩く外反し体部が細長いもの。486・487 は体部が少し張り出す。488 は体部上半が大きく張り出し底部に向かい窄んでいく器形である。489 は底部片である。490・491 は口頸部が外反し体部が少し張り出す。492・493 は口頸部が緩く外反するもの。494～496 は口頸部が緩く外反し、体部下半が丸く張り出す。497 は体部下半が丸く張り出す体部片である。498・499 は口頸部が直線的に外反する。体部は算盤玉状に張り出す。500・501 は体部片は算盤玉状に張り出す。502 は体部上半がきつく張り出し、体部下半が直線的で、低い脚部がつく台付壺である。503～542 は甕である。503～511 は口縁部が大きく外反し体部上半が張り底部に向かってゆるやかな曲線を呈するもの。503・504 は口縁端部と肩部に刺突文が施されている。511 は体部上半に波状文が巡る。512～530 については口縁部が外反し、体部はそれほど張り出さない。529・530 は体



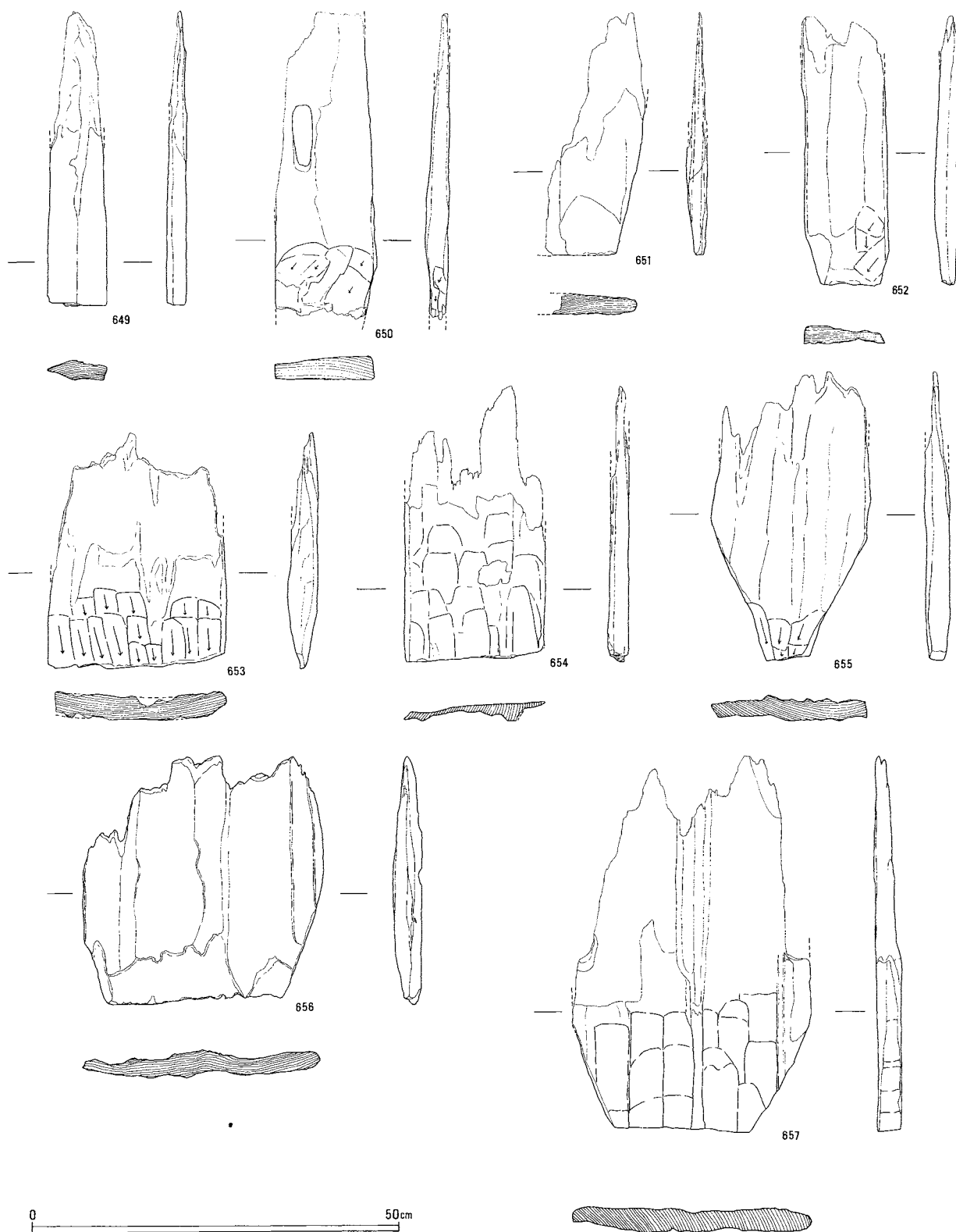
第97図 SK446出土遺物実測図（1：4，638は1：8）

部外面にタタキが施される。近畿地方の影響を受けたものであろう。531～534は、口縁部外反し、体部上半が少し張り出す小型の甕。535は口縁部外面に刺突文が施された受け口状口縁部片である。536は口縁部が大きく外反し、底部に向かって直線的な器形である。磨減などで調整は不明である。537～542は台付甕。537は体部径が口径よりも大きい。538は小型のもので、脚部もそれほど高さはない。539～542は脚部片。543～547は口縁部外反、器高が低くずんぐりとした鉢。545は肩部から体部上半にかけてタタキがみられる鉢。546は受け口状口縁部の外面に刺突文、肩部には上から横線文、刺突文が施されている。体部が丸みを帯びずんぐりとしている鉢。548は口縁部短く外反し、口径よりも体部が大きいずんぐりとした鉢である。549は焼成前穿孔が底部にみられる鉢。550は注口部の成形が粗

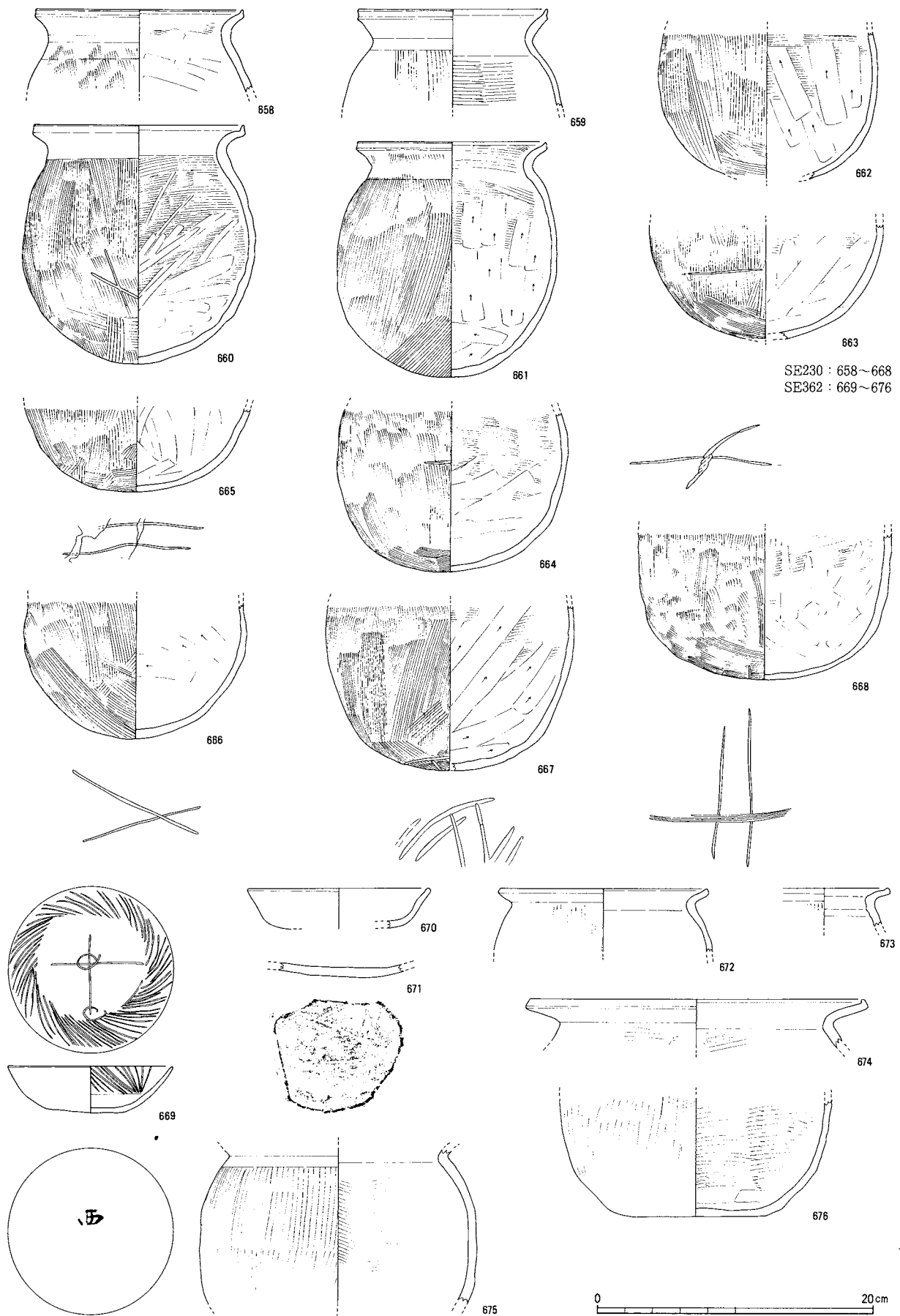
雑な鉢である。551は底部をそのまま転用したような椀状の鉢である。552は口縁部が大きく外反し、口縁端部と頸部に刺突がみられる大型品である。大型の鉢と考えたい。553～583は高杯である。553～573は有段高杯である。553は口縁部がほぼ垂直に立ち上がり杯底部は直線的である。554～558は口縁部が大きく外反し杯底部は直線的である。559～573は脚部片である。559～566は外面に横線文が施されているものである。567～573は外面全体にミガキが施されている。574～582はワイングラス形である。574・578は口縁端部が少し外反するもの。579～582は外面に横線文や刺突文が施されている脚部片。583は杯部が皿状になる高杯である。584・585は器台である。584は口縁端部に波状文、2段の三方透孔である。585は柱状部に横線文が4段、2段の四方透孔が施されている。586はミニチ



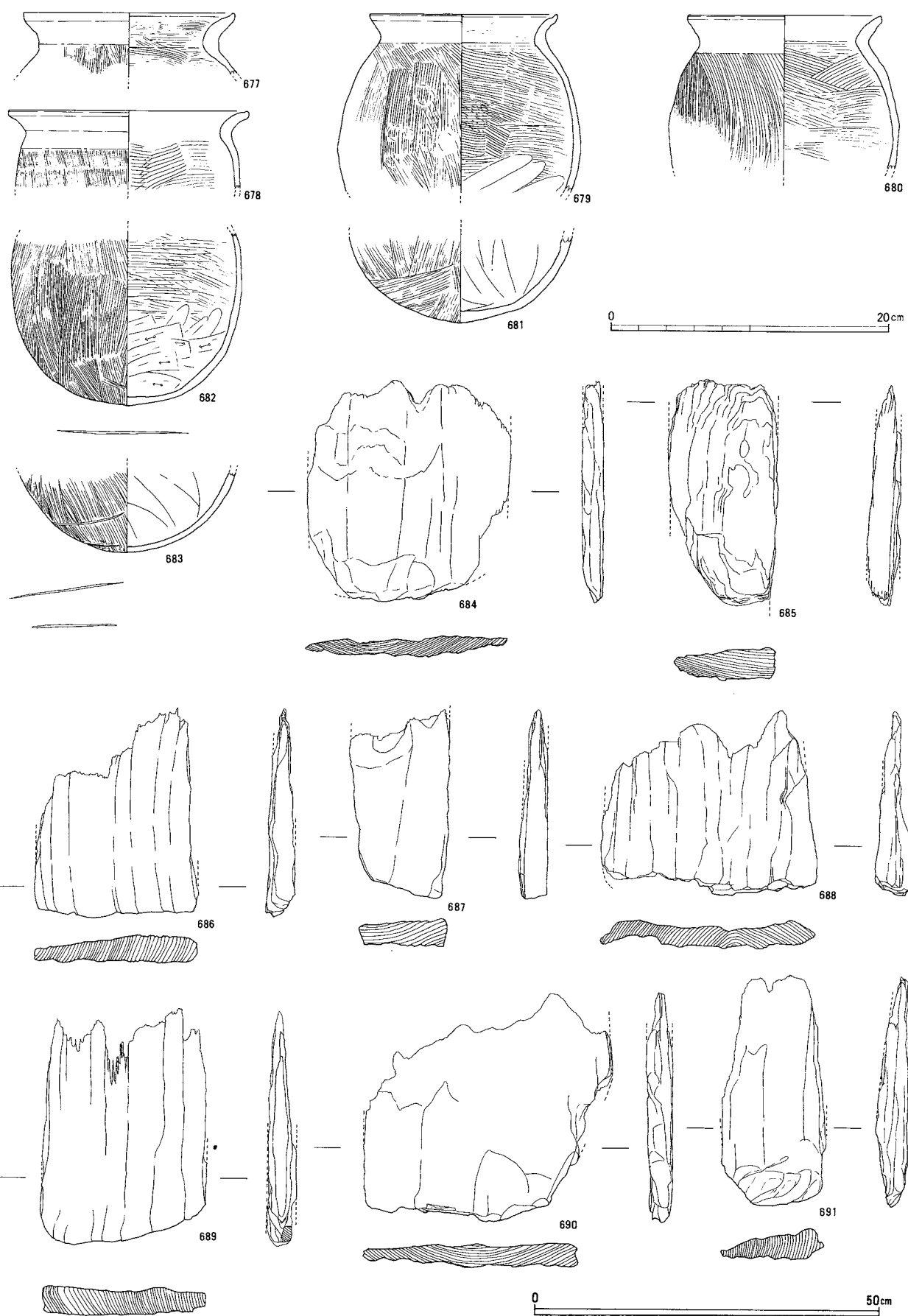
第98図 SE37出土遺物実測図① (1:4, 642~648は1:8)



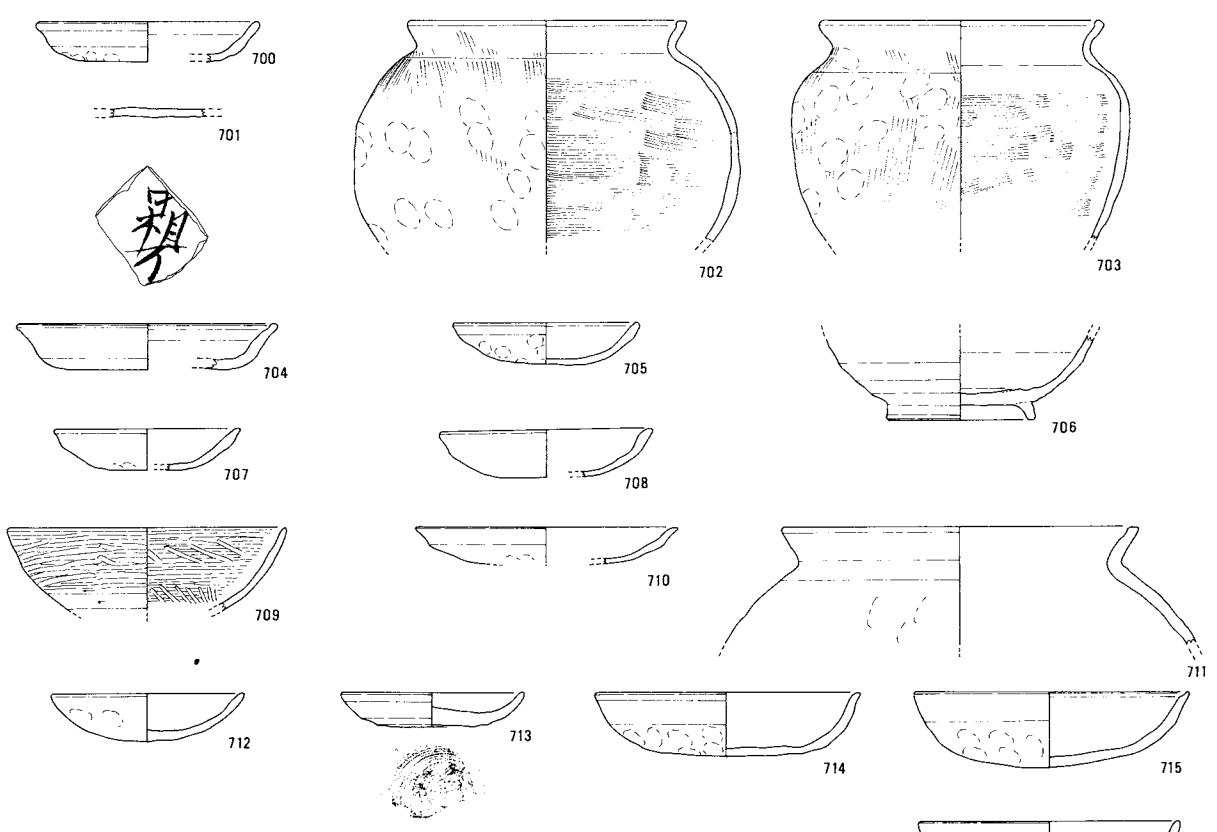
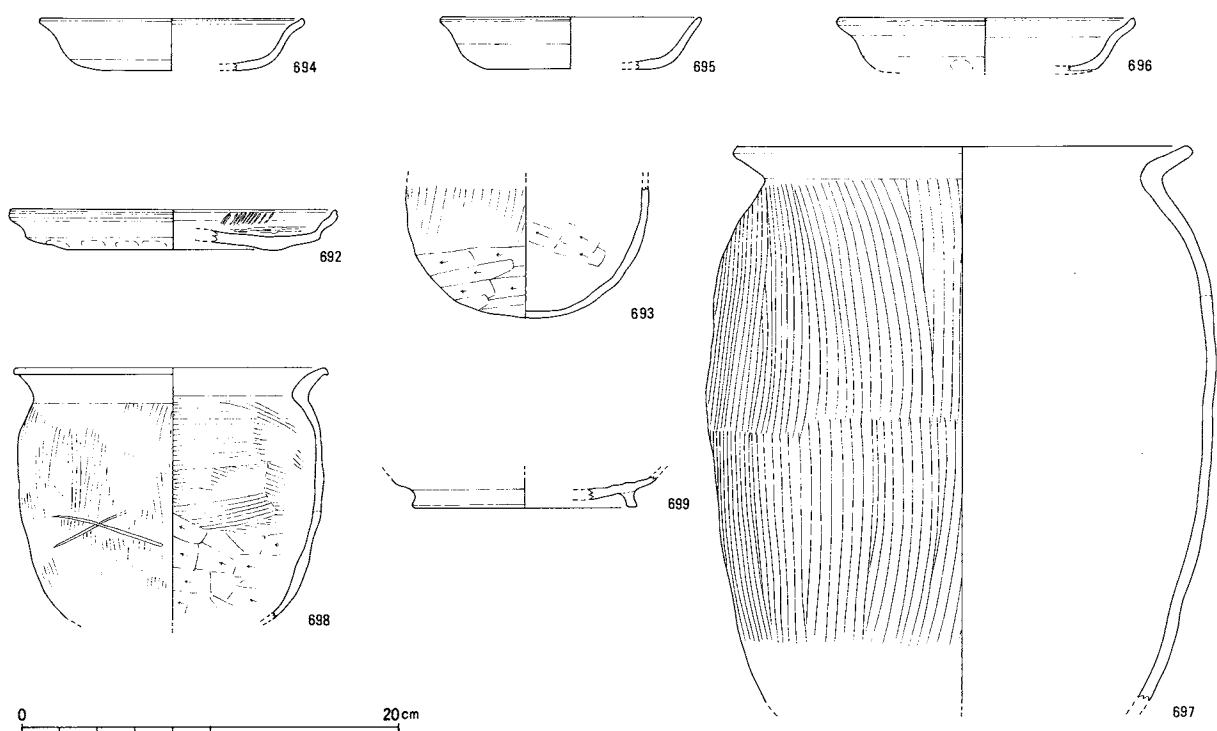
第99图 SE37出土遺物実測図② (1 : 8)



第100図 SE230・362出土遺物実測図(1:4)



第101図 SE370出土遺物実測図 (1 : 4, 684~691は1 : 8)



SB393 : 692 · 693 SB35 : 700 ~ 703 SB383 : 707 SB378 : 710 · 711 SB394 : 716
 SB488 : 694 ~ 697 SB63 : 704 SB384 : 708 SB391 : 712 · 713
 SB36 : 698 · 699 SB65 : 705 · 706 SB376 : 709 SB392 : 714 · 715

第102図 SB35 · 36 · 63 · 65 · 376 · 378 · 383 · 384 · 391 · 392 · 393 · 394 · 488出土遺物実測図 (1 : 4)

ユア土器の壺形、587 はミニチュア土器の鉢形のものである。外面には波状文や横線文がみられる。これらは弥生時代後期前半のものと考えられる。

S D 12出土遺物 (第93図)

588 は口頸部が少し外反し、体部下半が張り出す壺である。弥生時代後期のものか。

S D 329出土遺物 (第93図)

589 は外面ミガキの壺体部片で頸部から底部まで残存している。弥生時代後期前半のものと考えられる。

S D 336出土遺物 (第93図)

590 は肩部に刺突がみられる壺口頸部片。591 は

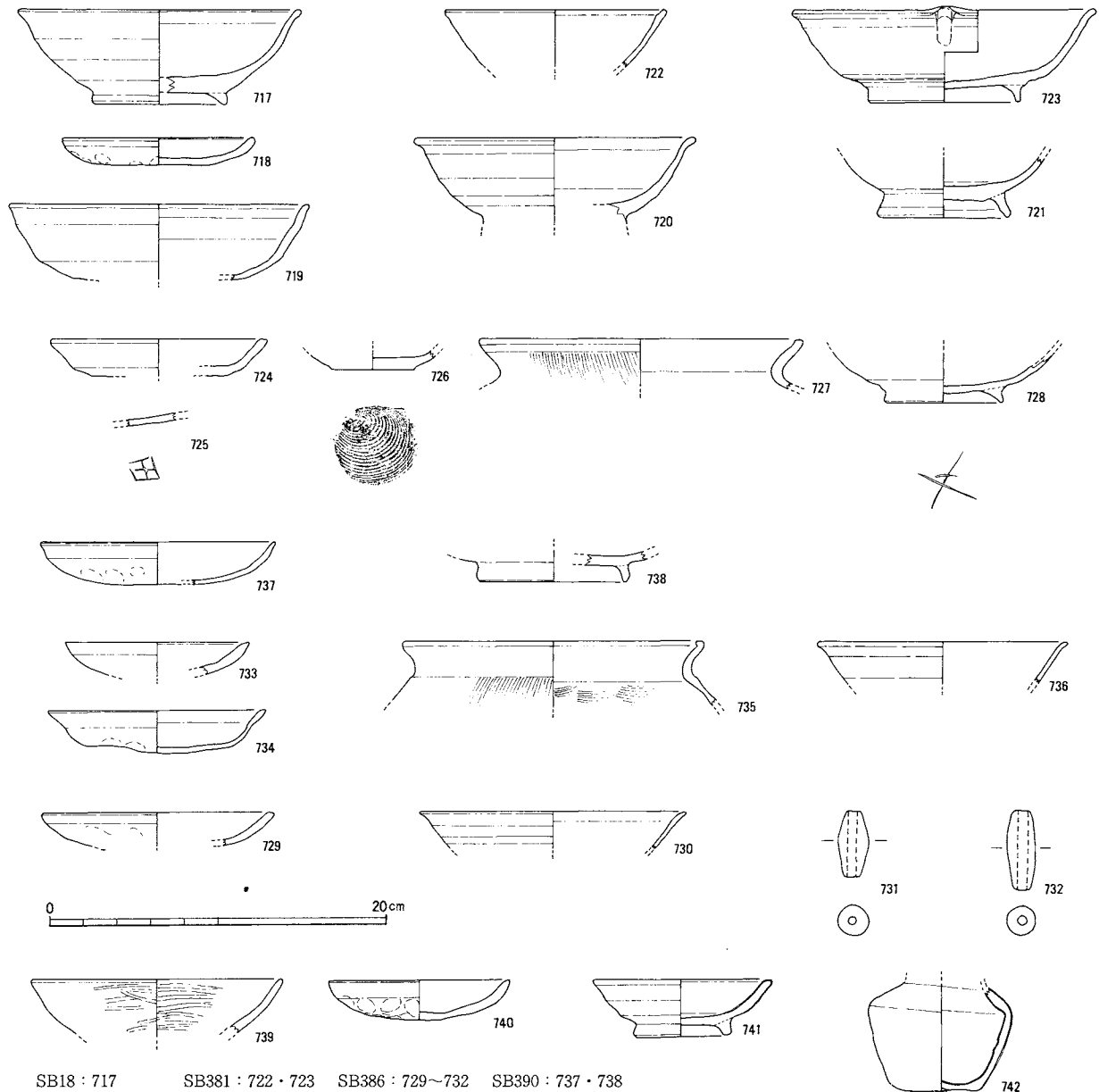
口径より体部径の方が大きい甕、592 は口縁部が外反し体部が591 ほど張り出さない甕である。これらは弥生時代後期前半のものと考えられる。

S Z 399出土遺物 (第93図)

橋状遺構内土からの出土である。593 は口縁端部に刺突文を施した壺口頸部片である。594 は壺体部上半である。外面には横位に2条の線刻があり、横線から数状の線刻が延びる。「龍」の絵をモチーフとしたものであろうか^⑩。595 はミニチュア土器である。猪口のような形状である。

S K 8 出土遺物 (第94図)

596 は口頸部が直線的に外反する壺である。597



第103図 SB18・60・381・385・386・387・390・490出土遺物実測図(1:4)

は高杯の脚部で外面にミガキが施されている。598・599 は木製農具の可能性が考えられるが依存状態が悪く器種などは判断に苦しむ。600 は木製杵の破片であろう。601～603 は杭状木製品と考えられる。604 は木製陽物形で半載した棒の曲線を利用している。605 は結歯豎櫛で外面には黒漆が塗布されている。歯部は残存していない。これらは弥生時代末期のものと思われる。これ以外にも、土器に混じりエゴノキ属の種実遺体も出土した。

S K 398出土遺物 (第94図)

606 は高杯脚部。弥生時代末期のものと思われる。

奈良時代

S B 489出土遺物 (第95図)

607 は土師器杯の底部片。

S B 492出土遺物 (第95図)

608 は土師器甕。外反する口縁部から体部下半まで残る。

S K 27出土遺物 (第96図)

609 は口縁部から体部上半まで残る弥生土器甕。弥生時代後期に属するものか。610・611 は土師器甕口縁部片である。612 は内外面とも細かいハケメの土師器甕である。613 は土師器鉢であろうか。

S K 51出土遺物 (第96図)

614 は口縁部が内弯気味の土師器杯。615 は底部外面に「イ」の線刻が施された土師器皿、616 は底部外面に3条の線刻が残る土師器皿。線刻の一部だけの残存であるので全体は判然としない。617 は口

縁部があまり外反しない土師器甕。体部は球形になると思われる。618 は口縁部が大きく外反する土師器甕である。619・620 は口縁端部が少し外反気味の須恵器杯。621 は須恵器台付杯である。

S K 396出土遺物 (第96図)

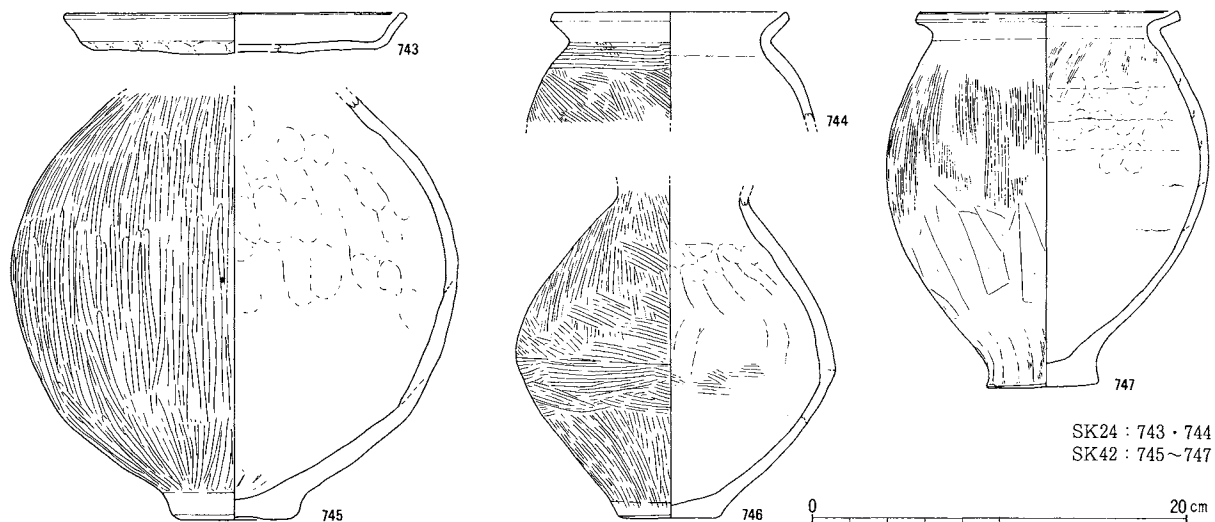
622 は土師器杯。口縁部が内弯気味のもの。623～627 は土師器甕である。623 は口縁端部が面取りされ、体部が球形で体部径が口径よりも大きいもの。624 は口縁端部が面取りされているもので体部球形、底部外面には線刻が1条施されている。625～627 は体部球形になる土師器甕底部片。外面には数条の線刻が施されている。

S K 446出土遺物 (第97図)

628～630 は土師器甕である。628・629 は口縁端部に面取りがみられる口縁部片。630 は頸部から体部上半までが残る。631 は土師器高杯の脚部で裾部が接地面近くで大きく外反する。632～635 は須恵器杯蓋、635 は天井部分だけの残存である。636・637 は須恵器杯身である。立ち上がりの長さが少し差がある。638 はほぼ中央に方形の穿孔がみられる木製品。上から俯瞰すると船の形に見えるがどのように使用されていたのかよくわからない。須恵器については時代は遡る可能性がある。

S E 37出土遺物 (第98・99図)

639 は口縁端部が肥厚する土師器皿。640 は土師器甕の口縁部片、641 は土師器甕。口縁端部が面取りされ、体部球形で体部径が口径よりも大きくなる。642～648 は杭状のもの。井戸杵の補強あるいは添



第104図 SK24・42出土遺物実測図 (1:4)

板として使用されたものであろうか。尖っている部分が地山に打ち込まれていた。649～657は板状のもの。井戸枠縦板である。先端部の腐食が進んでいる。650・651・652・655・656・657は地山への埋設部分の先が少し窄まっている。これら以外に641内の埋土からモモの種実遺体が出土した。

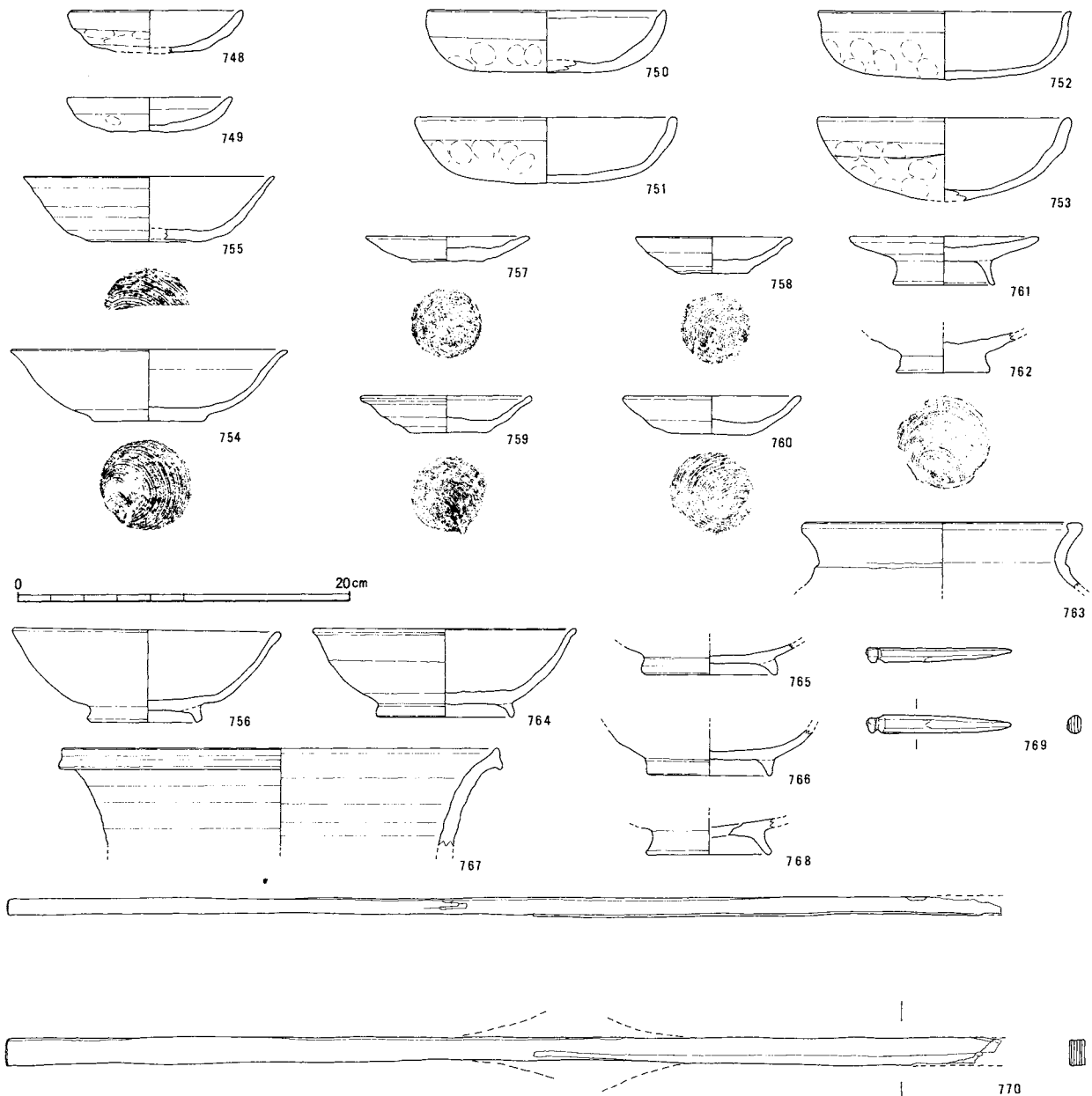
S E 230出土遺物 (第100図)

出土遺物についてはすべて口縁部外反し体部球形になる土師器甕であった。658・659は口縁端部が面取りされている口縁部片。660・661は口縁端部が面取りされ、体部径が口径よりも大きい。662～668は土師器甕の底部片である。663は体部外面に

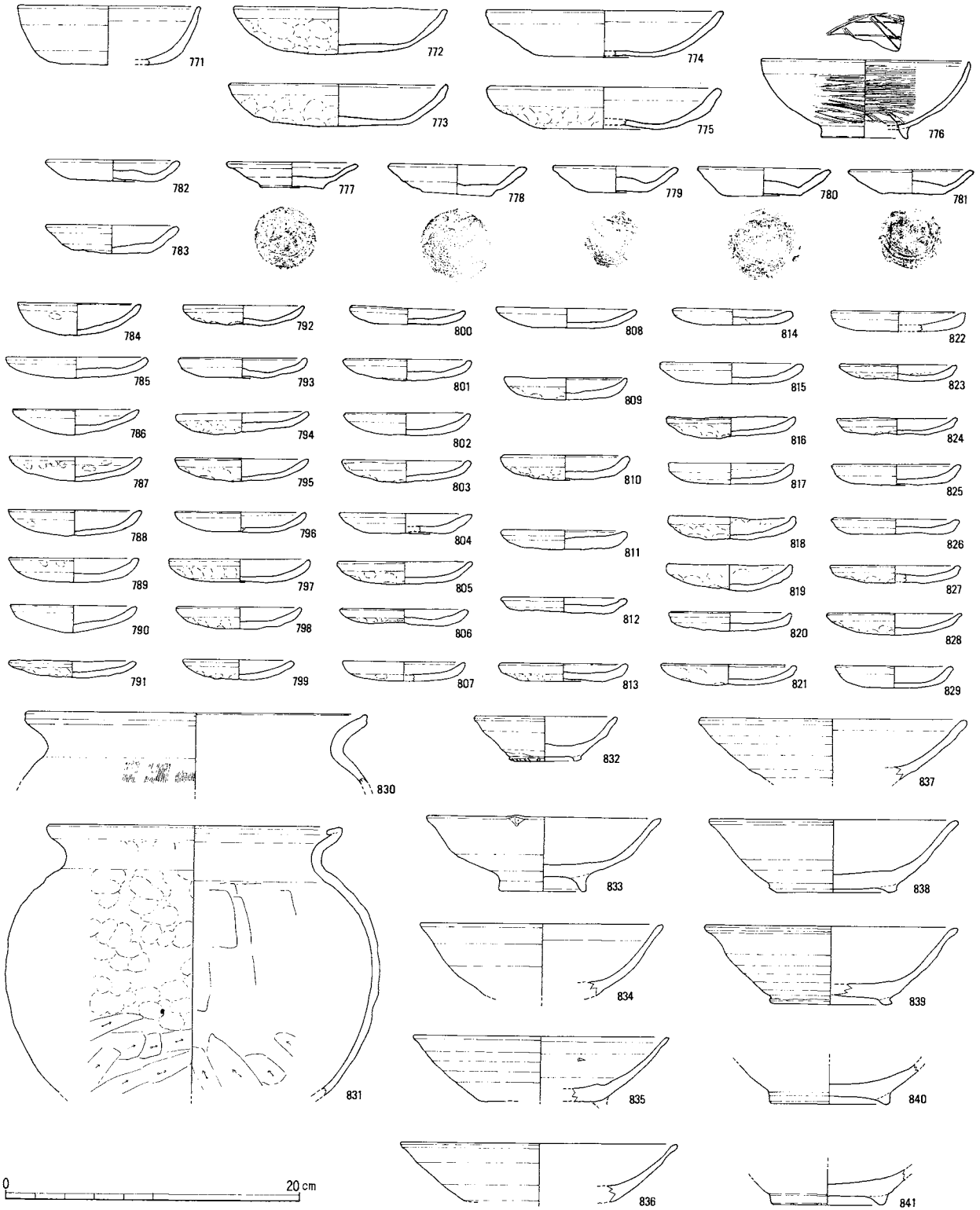
「一」、664は体部外面に「ㄨ」、665は底部外面に「=」、666は底部外面に「>」、667は底部外面に数条、668は底部外面に「斗」の線刻がそれぞれ施されている。

S E 362出土遺物 (第100図)

669は内面に放射状暗文と一部螺旋暗文が施され、底部外面中央に「西」の墨書がみられる土師器杯である。670は口縁部が若干外反する土師器杯である。671は土師器皿底部片。「×」の線刻がみられる。672～674は土師器甕の口縁部片、675は土師器甕、頸部から体部下半まで残る。676は土師器甕底部片である。底部平坦になっているもの。これら以外に



第105図 SK6出土遺物実測図 (1:4)



第106图 SK45出土遺物実測図① (1 : 4)

もマツ属の種実遺体が出土した。

SE 370出土遺物 (第101図)

677～680 は土師器甕口縁部片、679・680 は口縁部から体部下半まで残る。体部球形になるものである。681～683 は底部が丸みを帯びているもの。682 は底部外面に「一」の線刻が施されている土師器甕底部片。683 は底部外面に「＝」の線刻が施されている土師器甕底部片。684～691 は板状。井戸枠縦板である。684・685・691 は地山への埋設部分の先が少し窄まる。これら以外にスモモの種実遺体が出土した。

平安時代

SB 393出土遺物 (第102図)

692 は口縁部が少し外反し底部の調整が粗雑な土師器皿である。693 は土師器甕の底部。これらは平安時代前期のものと考えられる。

SB 488出土遺物 (第102図)

694～696 は口縁部が大きく外反する土師器杯である。697 は土師器長胴甕である。ハケメも粗く粗雑に作られている。これらは平安時代前期のものであろうか。

SB 36出土遺物 (第102図)

698 は体部下外面に「×」の線刻が施された甕である。699 はロクロ製土師器碗底部片。これらは平

安時代後期のものと思われる。

SB 35出土遺物 (第102図)

700・701 は土師器皿。701 は底部外面に「中朔万」の墨書が施された土師器皿底部片。「中朔万」については氏名の可能性もある^⑧。702・703 は口縁端部が肥厚する土師器甕である。これらは、平安時代後期のものと考えられる。

SB 63出土遺物 (第102図)

704 は土師器杯、口縁部が若干外反する。平安時代後期のものか。

SB 65出土遺物 (第102図)

705 は粗製の土師器皿。706 は緑釉陶器碗の底部片である。底部内面には、三叉トチンの痕がみられる。平安時代後期のものか。

SB 383出土遺物 (第102図)

707 は口縁部ヨコナデの土師器皿である。平安時代後期のものと思われる。

SB 384出土遺物 (第102図)

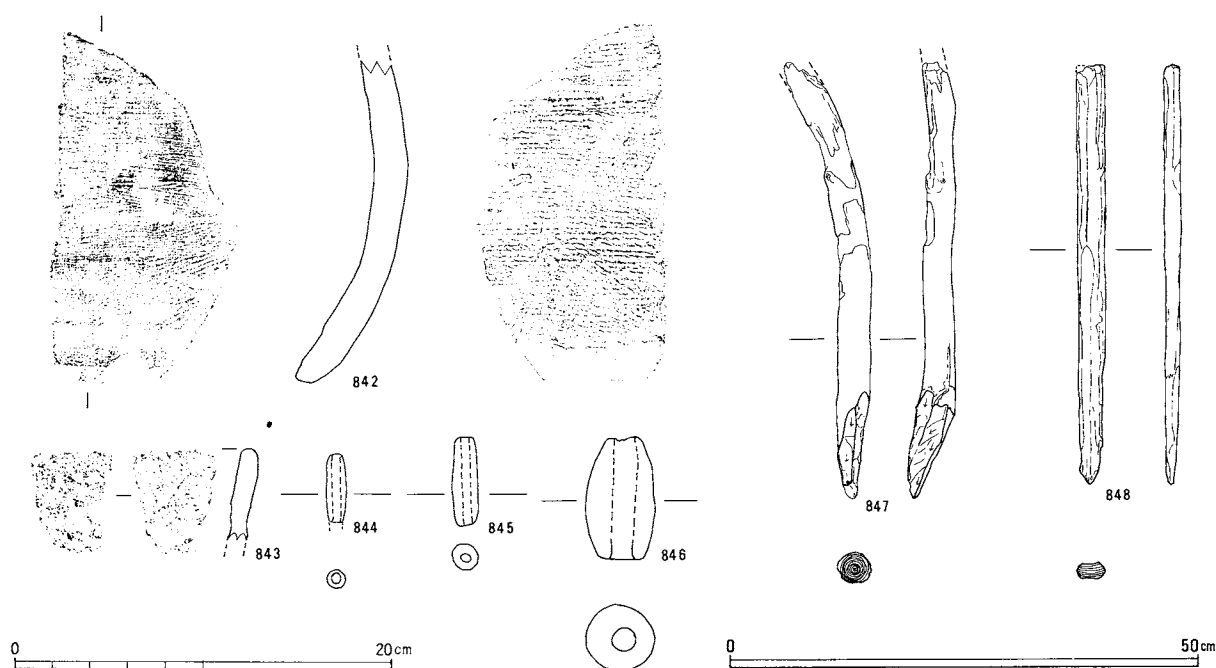
708 は口縁部ヨコナデの深めの土師器皿である。平安時代後期のものと思われる。

SB 376出土遺物 (第102図)

709 は内外面ともミガキが施された深めの土師器碗である。平安時代後期のものか。

SB 378出土遺物 (第102図)

710 は浅い土師器皿である。711 は土師器甕の口



第107図 SK45出土遺物実測図② (1:4, 847・848は1:8)

縁部片である。平安時代後期のものか。

S B 391出土遺物 (第102図)

712 は浅い粗製の土師器皿、713 は底部に糸切り痕が残るロクロ製土師器皿である。平安時代後期のものか。

S B 392出土遺物 (第102図)

714 ・715 は底部近くでユビオサエがみられる土師器皿である。平安時代後期のものと思われる。

S B 394出土遺物 (第102図)

716 は土師器杯で、平安時代後期のものか。

S B 18出土遺物 (第103図)

717 は口縁端部が少し外反し、しっかりした貼り付け高台が底部にみられる山茶碗である。第4型式

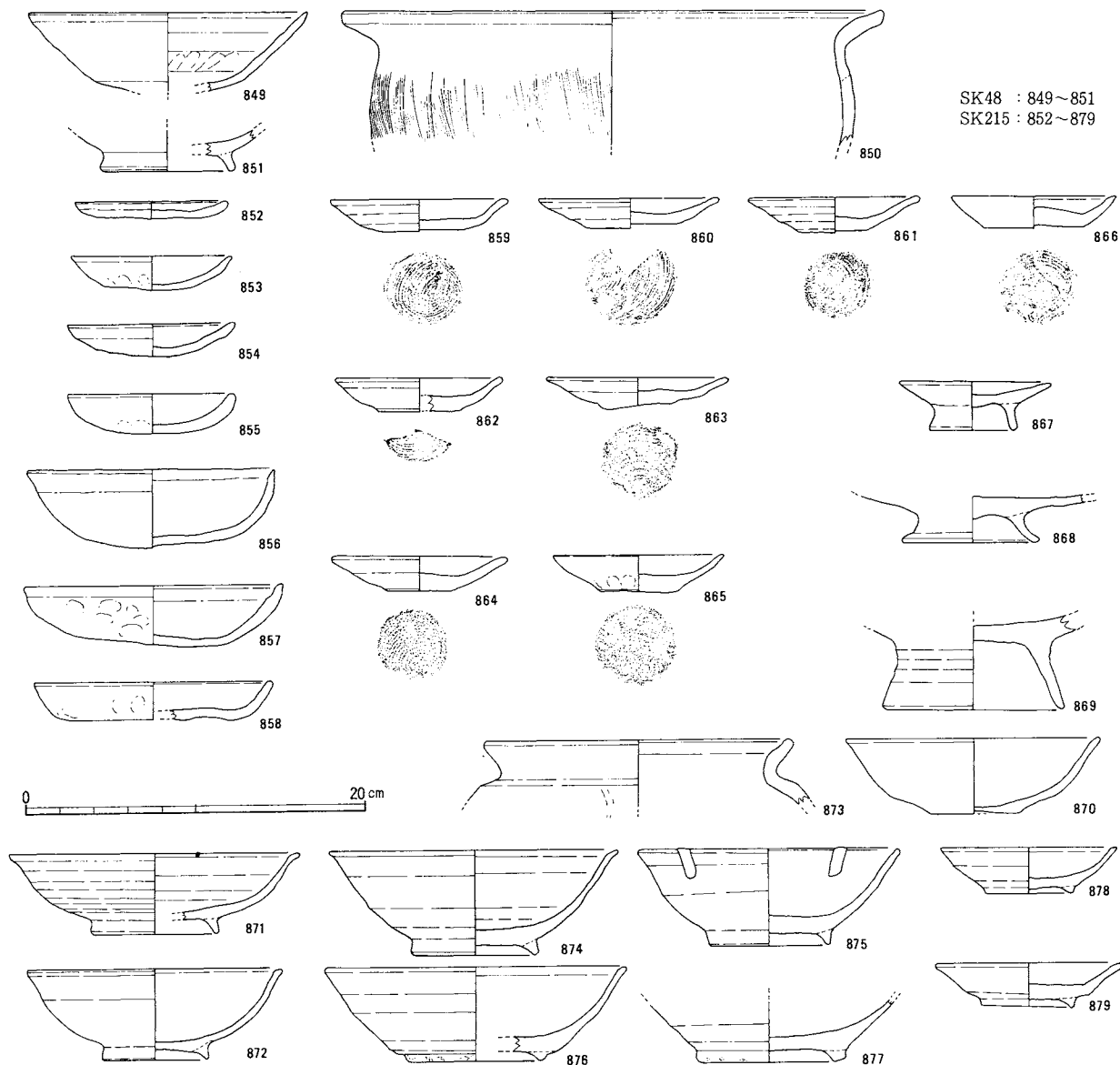
に属するものであろう。

S B 60出土遺物 (第103図)

718 は口縁部ヨコナデの土師器皿。719 は深めの土師器皿と考えられる。これらは平安時代後期のものと思われる。720 は山茶碗口縁部片、721 は高台がしっかりしている山茶碗底部片。これらは第4型式のものと思われる。

S B 381出土遺物 (第103図)

722 は口縁部が直線的な山茶碗である。723 は口縁端部が少し外反し、口縁部には輪花がみられる山茶碗である。これらは、第4型式に属するものと考えられる。



第108図 SK48・215出土遺物実測図 (1 : 4)

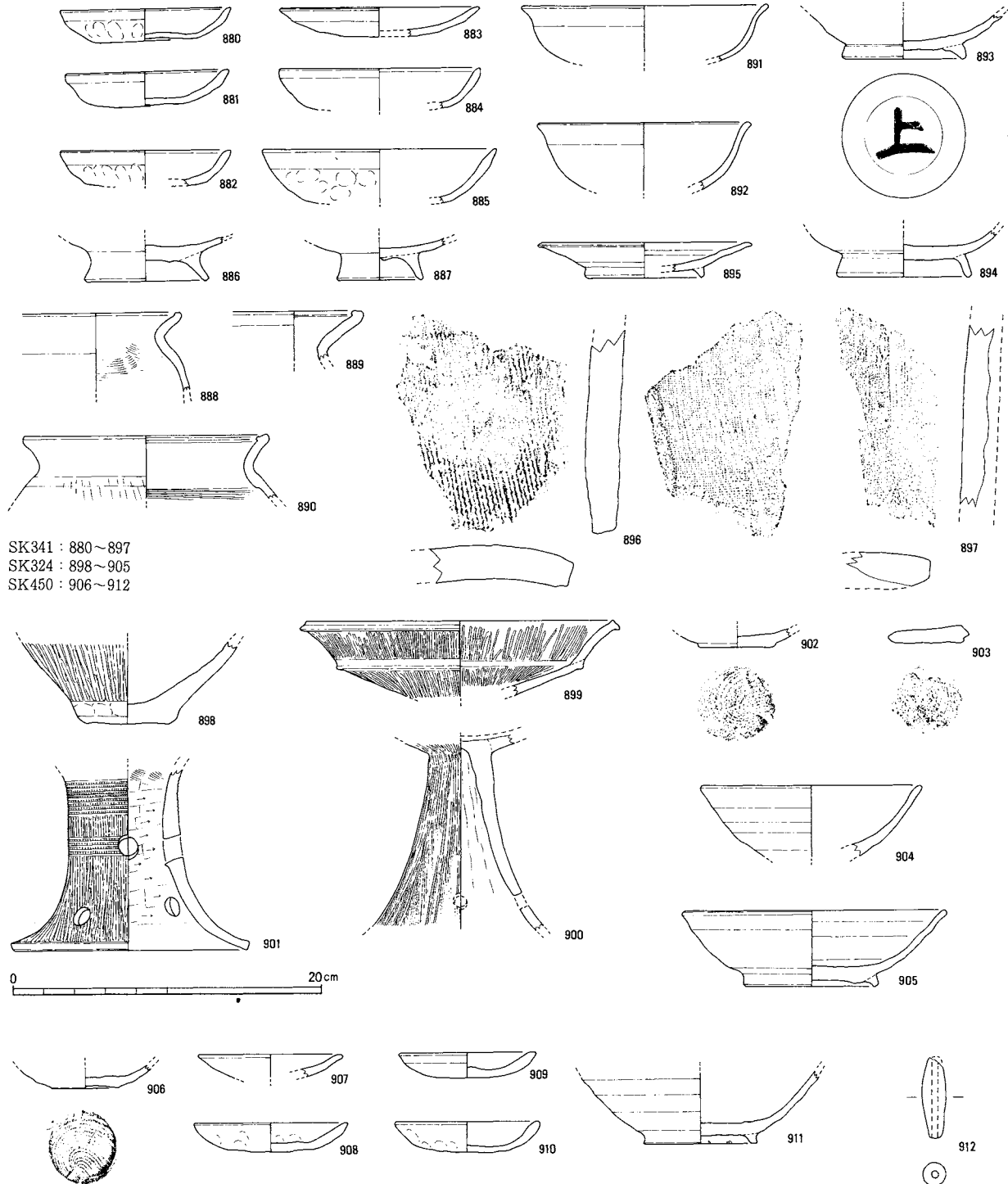
S B 385出土遺物 (第103図)

724 は底部が平坦で、口縁部が外反する土師器杯。
725 は底部外面に「田」と思われる線刻がみられる土師器杯の底部片。726 はロクロ製土師器皿、底部外面には糸切り痕が残る。727 は頸部にハケメ調整がみられる土師器甕口縁部片。728 は底部外面に「メ」の線刻がみられる黒色土器碗底部片。これら

は平安時代後期～末期のものと思われる。

S B 386出土遺物 (第103図)

729 は土師器杯。口縁部断面が弓状になっている。平安時代後期～末期のものと思われる。730 は口縁端部が少し外反する山茶碗口縁部片である。第4型式に属するものであろう。731・732 は土錘である。



第109図 SK324・341・450出土遺物実測図 (1 : 4)

S B 387出土遺物 (第103図)

733 は口縁部ヨコナデの土師器皿。734 は、底部が未調整で凹凸があり口縁部が外反する土師器杯。735 は口縁端部が内弯気味の土師器甕口縁部片。これらは平安時代後期～末期のものと思われる。736 は口縁端部が少し外反する山茶碗口縁部片である。第4型式に属するものであろう。

S B 390出土遺物 (第103図)

737 は薄手の土師器杯。口縁部断面が弓状になっている。平安時代後期～末期のものと考えられる。738 は高台がしっかりしている山茶碗底部片。第4型式に属するものであろう。

S B 490出土遺物 (第103図)

739 は黒色土器碗か。内面が黒化している。740 は粗製の浅い土師器皿、741 は高台がしっかりした山皿。第4型式に属するものか。742 は緑釉陶器小壺で口縁部が欠失している。平安時代末期のものか。742 については時期が遡ると思われる。

S K 24出土遺物 (第104図)

743 は口縁部が少し外反する浅い土師器皿である。744 は土師器甕の口縁部片である。平安時代前期のものと考えられる。

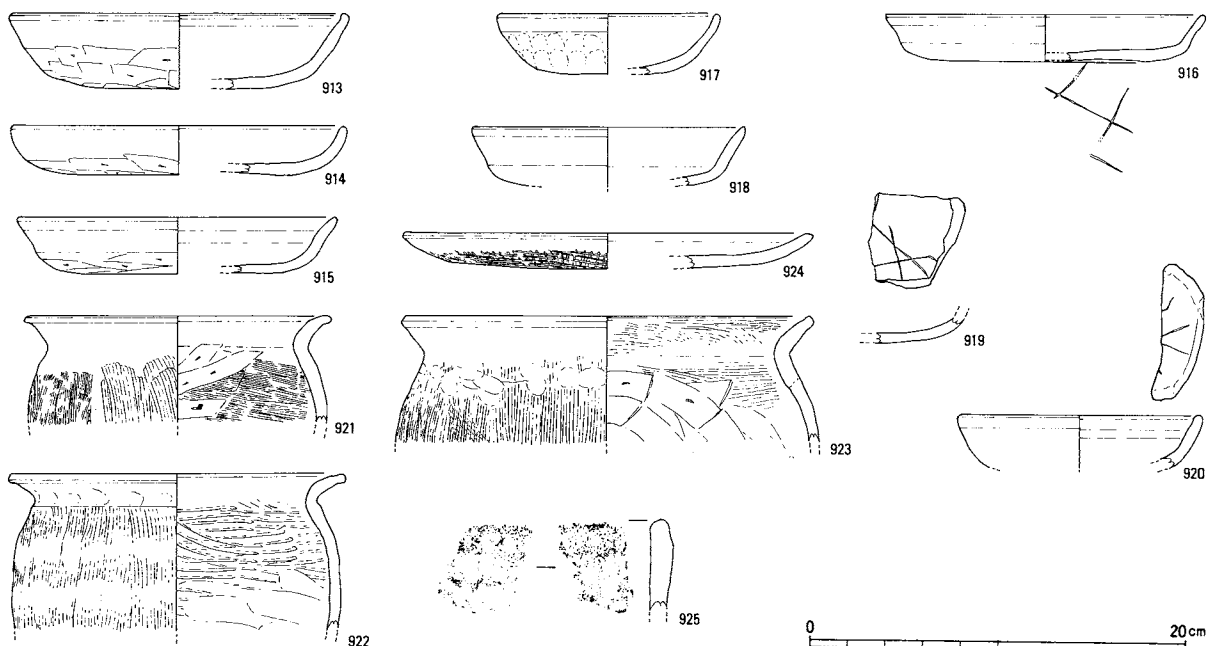
S K 42出土遺物 (第104図)

745 ~747 は混入遺物である。平安時代の遺物は破片が多く割愛した。745 は弥生土器壺で口縁部が

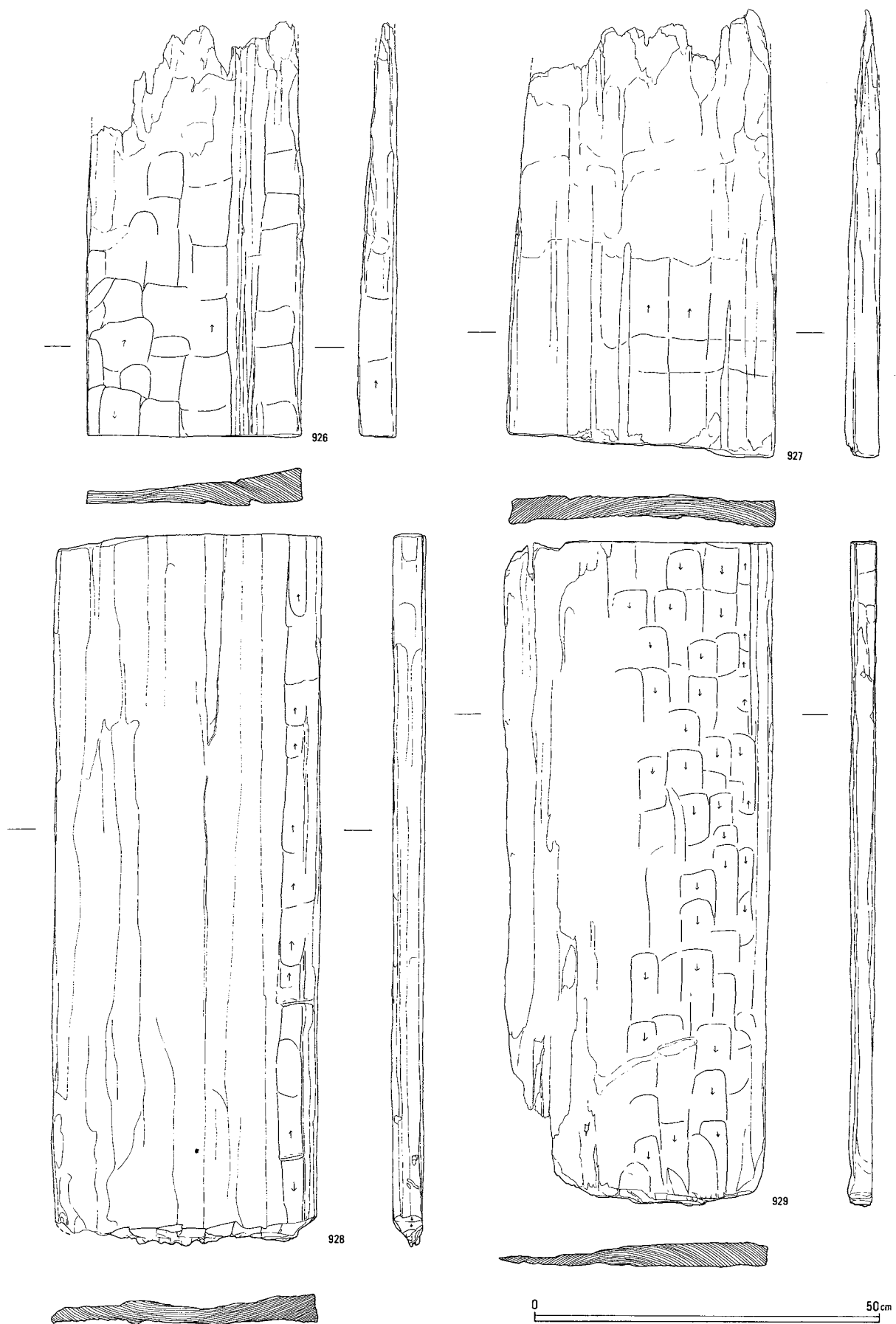
欠ける。丸みを帯びた器形である。746 は弥生土器壺で体部が算盤玉のような器形である。口縁部は欠ける。747 は口縁部が大きく外反する弥生土器甕である。弥生時代後期前半のものと考えられる。

S K 6 出土遺物 (第105図)

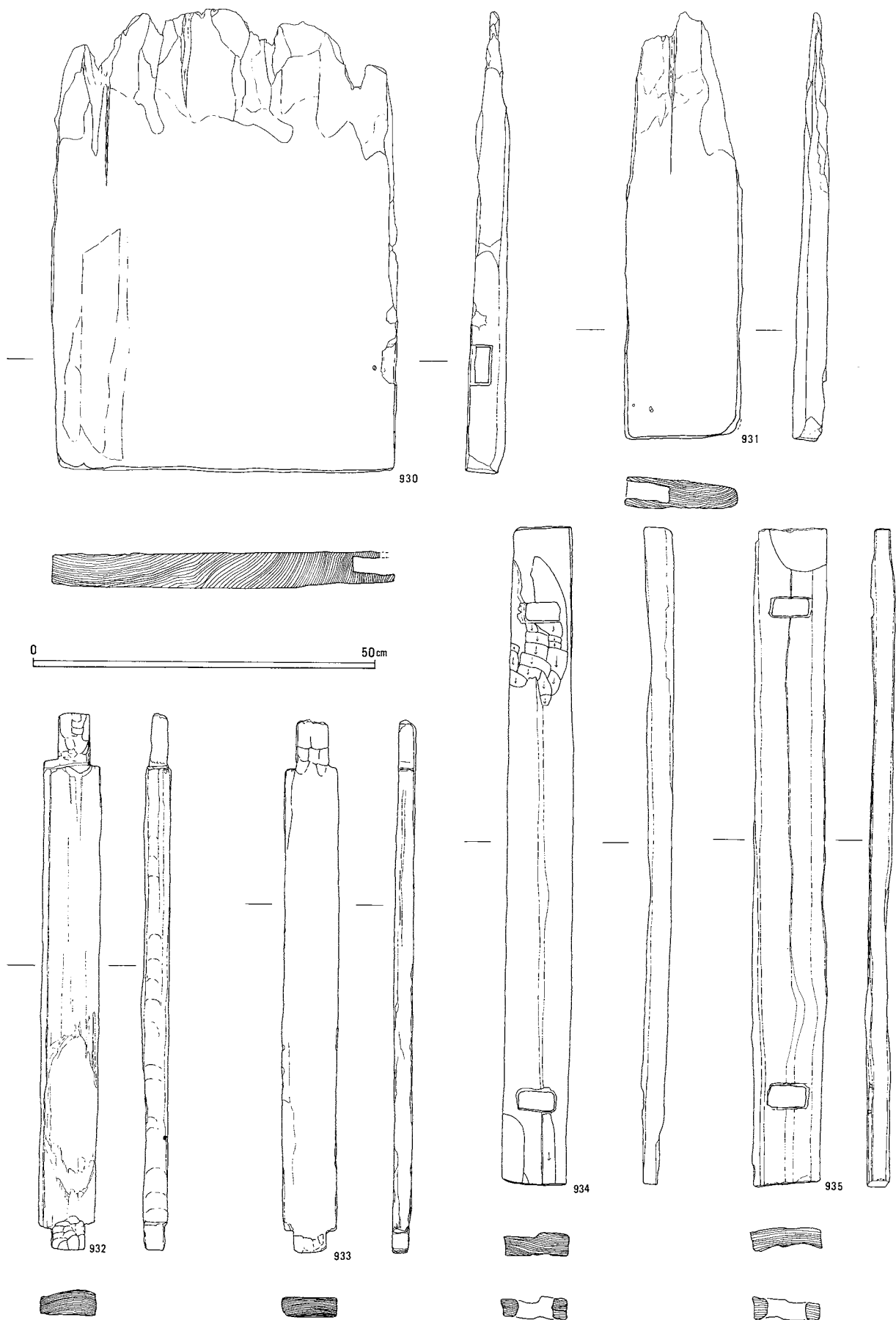
748・749 は底部に凹凸がみられる浅い土師器小皿。750~753 は口縁部断面が弓状の土師器杯である。754 は底部に糸切り痕の残るロクロ製土師器碗である。755 は底部に糸切り痕の残るロクロ製土師器碗である。756 は口縁部少し外反するロクロ製土師器碗である。757~760 は底部内面が少し盛り上がるロクロ製土師器皿である。759 は灯明皿と考えられる。761・762 はロクロ製土師器台付皿である。763 は口縁端部が内弯気味の土師器甕口縁部片。これらは概ね平安時代後期～末期のものと考えられる。764 は口縁端部が少し外反する山茶碗である。765・766 は山茶碗底部片。第4型式に属するものか。767 は須恵器甕の口縁部片。平安時代に属するものか。768 はロクロ製土師器底部を使用した加工円盤である。769 は木製の留針と思われる。770 は斎串。切込みが左右2ヶ所に確認できる大型品である。これらに混じって、ムクノキの種実遺体やオオゴミムシとアオゴミムシの羽と牛の下顎骨と脛骨などが出土した。牛骨は何らかの儀礼的な意味を持って土坑内に入れられたのかもしれないが、推定の域をでな



第110図 SE47出土遺物実測図① (1 : 4)



第111図 SE47出土遺物実測図② (1 : 8)



第112図 SE47出土遺物実測図③ (1 : 8)

い。

S K 45出土遺物 (第106・107図)

771 は口縁部断面が弓状の土師器杯である。平安時代後期のものであろう。772 ~775 は底部の調整が粗く口縁部断面が弓状の土師器皿である。平安時代末期のものと考えられる。776 は内外面ともミガキの瓦器椀である。777・778 は底部に糸切り痕の残るロクロ製土師器皿である。これらは平安時代後期のものと考えられる。779 ~783 は底部内面が少し盛り上がるロクロ製土師器皿である。784 ~829 は口縁部ヨコナデ、以下ナデ調整とユビオサエがみられる土師器小皿である。これらは平安時代末期のものか。830 は口縁端部ヨコナデの土師器甕口縁部片。平安時代前期のものか。831 は口縁端部が内弯する土師器甕口縁部片。平安時代末期のもの。832 は口縁端部が少し外反する山皿。833 ~839 は口縁

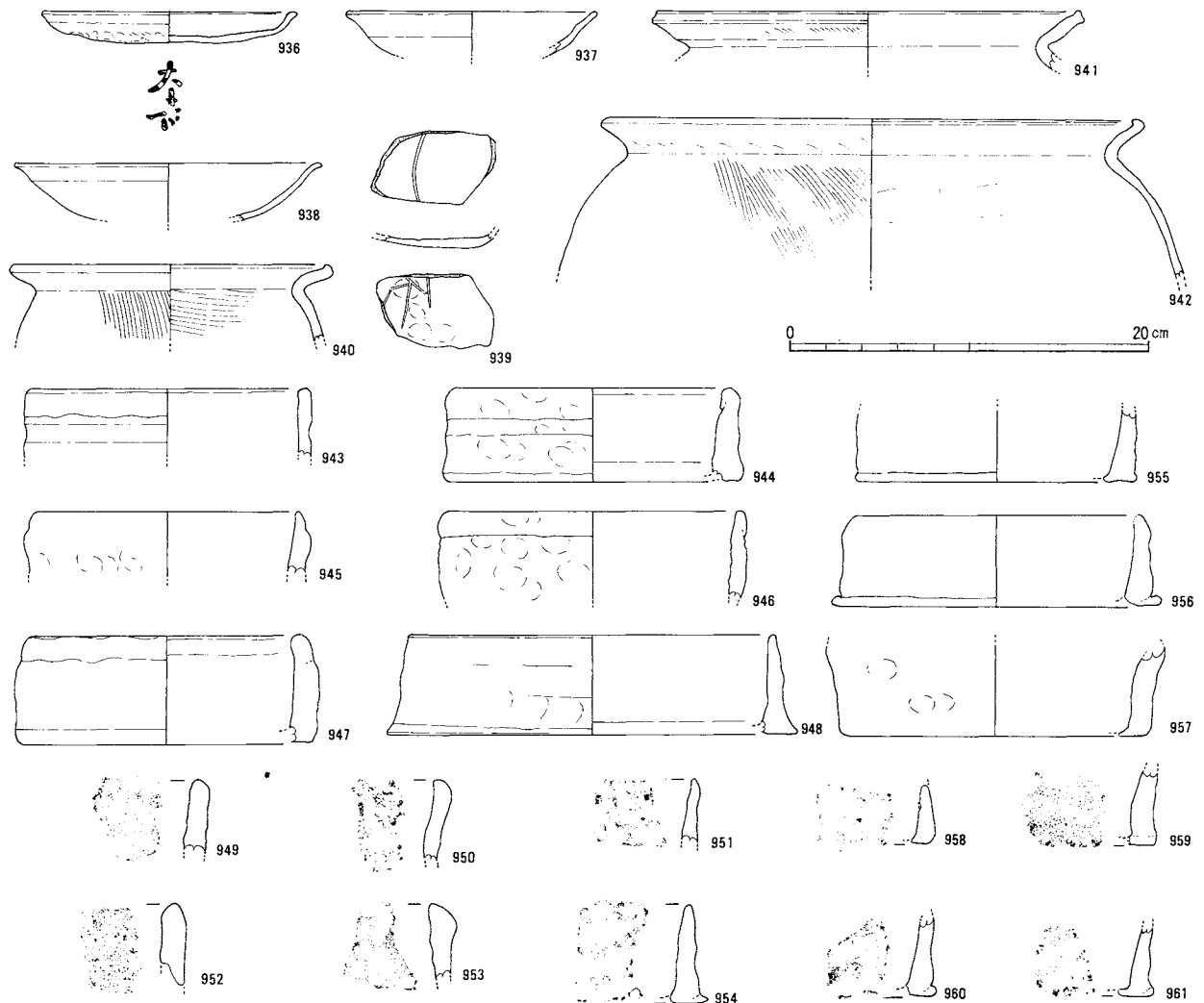
部が少し外反する山茶碗である。第4型式に属するものであろう。840・841 は山茶碗底部片。これらは、第4型式に比定できよう。842 は瓦片。843 は製塩土器口縁部片。いわゆる「志摩式製塩土器」である。844 ~846 は筒状の土鍾。847 は先端が尖っている木製杭。848 は板状木製品である。用途は不明である。

S K 48出土遺物 (第108図)

849 は古式土師器高杯の杯部である。古墳時代のもの。850 は口縁部が大きく外反する土師器甕口縁部片。奈良時代のものと考えられる。851 は高台がしっかりしている山茶碗底部片。第4型式に比定できよう。

S K 215出土遺物 (第108図)

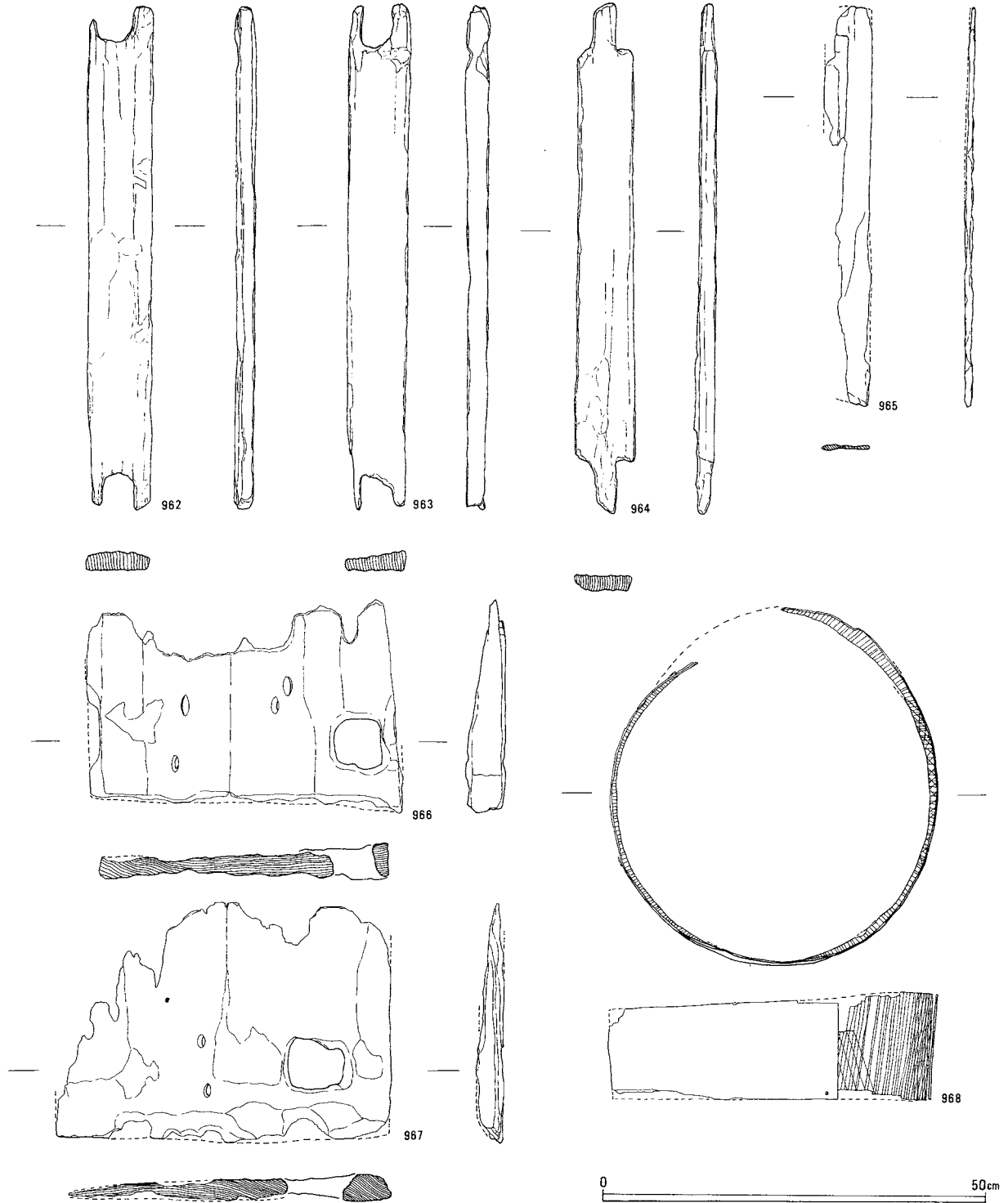
852 は底部の調整が粗雑な浅い土師器小皿である。853 ~855 は底部の調整が粗く口縁部断面が弓状の



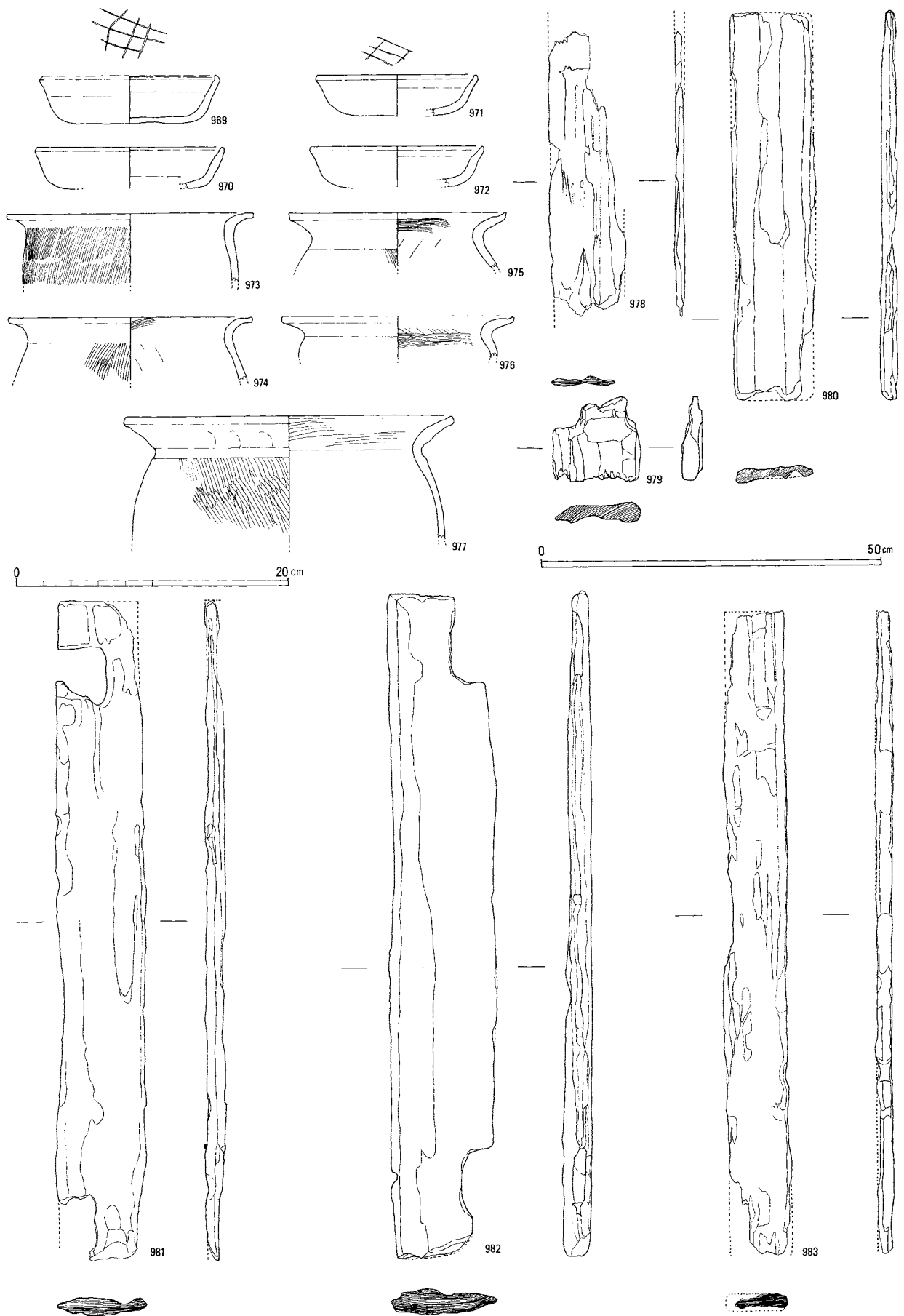
第113図 SE353出土遺物実測図① (1:4)

土師器小皿である。856・857は底部の調整が粗く口縁部断面が弓状の土師器杯である。858は底部が平坦で口縁部が外反する土師器杯である。これらは平安時代末期のものと思われる。859～865は底部に糸切り痕の残るロクロ製土師器皿である。平安時代後期のものと考えられる。866は底部内面が少し盛り上がるロクロ製土師器皿である。867～869は

ロクロ製土師器台付皿である。867・868は小型、869は大型である。870はロクロ製土師器椀で底部には糸切り痕が残る。871・872は口縁端部が外反し底部に高台がみられるロクロ土師器椀。873は内外面ともナデの土師器甕口縁部片。これらは平安時代後～末期のものか。874～876は口縁端部が少し外反し、底部から口縁部にかけて直線的な山茶椀で



第114図 SE353出土遺物実測図②(1:8)



第115図 SE363出土遺物実測図 (1 : 4, 978~983は 1 : 8)

ある。877 は山茶碗底部片、878 ・879 は口縁端部が少し外反する山皿である。これらは、第4 型式に属するものと考えられる。

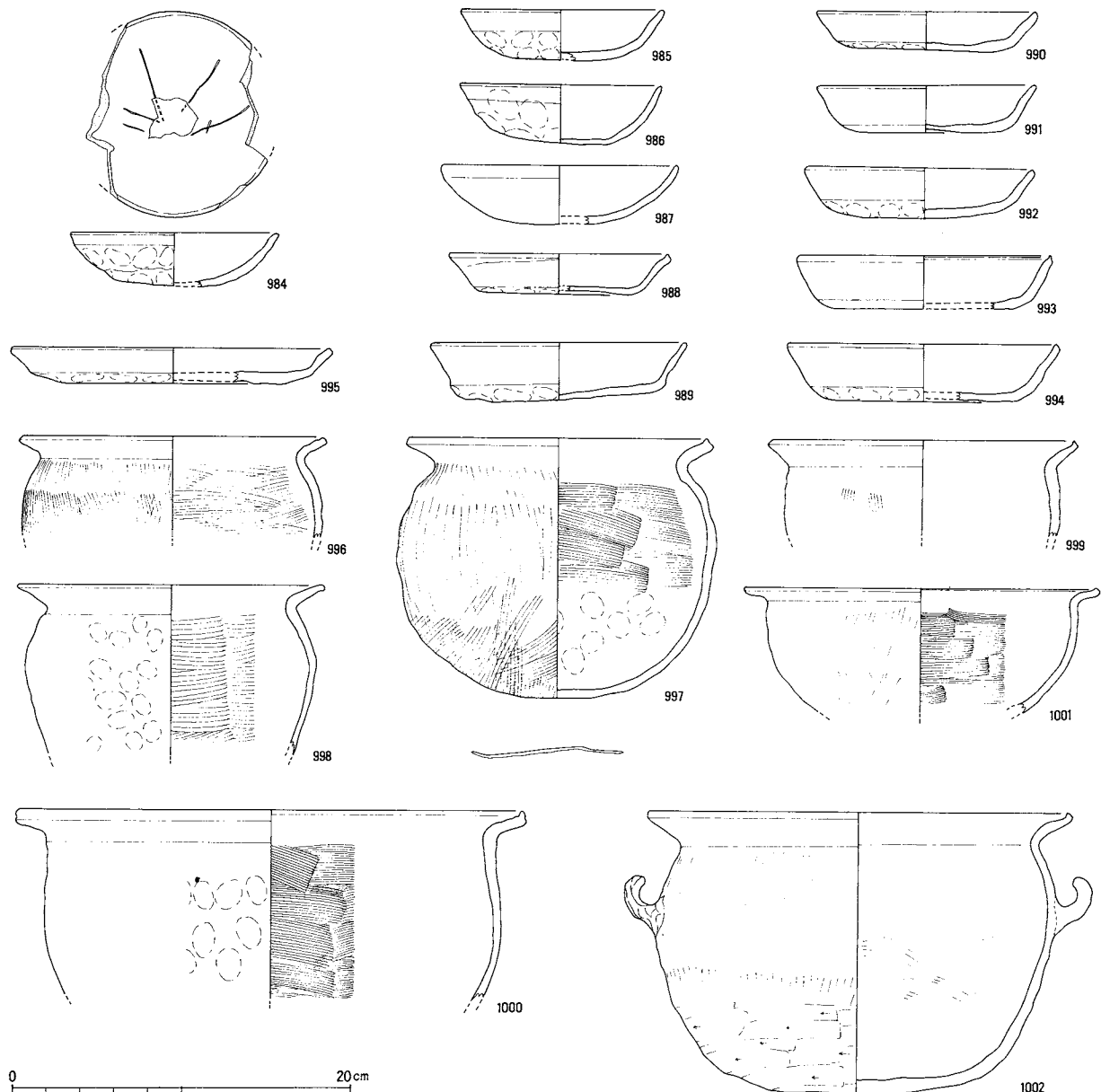
S K 341出土遺物 (第109図)

880 ～885 は底部の調整が粗く口縁部断面が弓状の土師器皿である。886 ・887 はロクロ製土師器台付皿である。888 ～890 は口縁端部が肥厚する土師器甕口縁部片。これらは平安時代末期に属するものと思われる。891 ・892 は口縁端部が外反する山茶碗、893 ・894 は山茶碗底部片。893 は底部外面に「上」の墨書がみられる。895 は口縁部が直線的に外反する山皿か。これらは、第4 型式に比定できよ

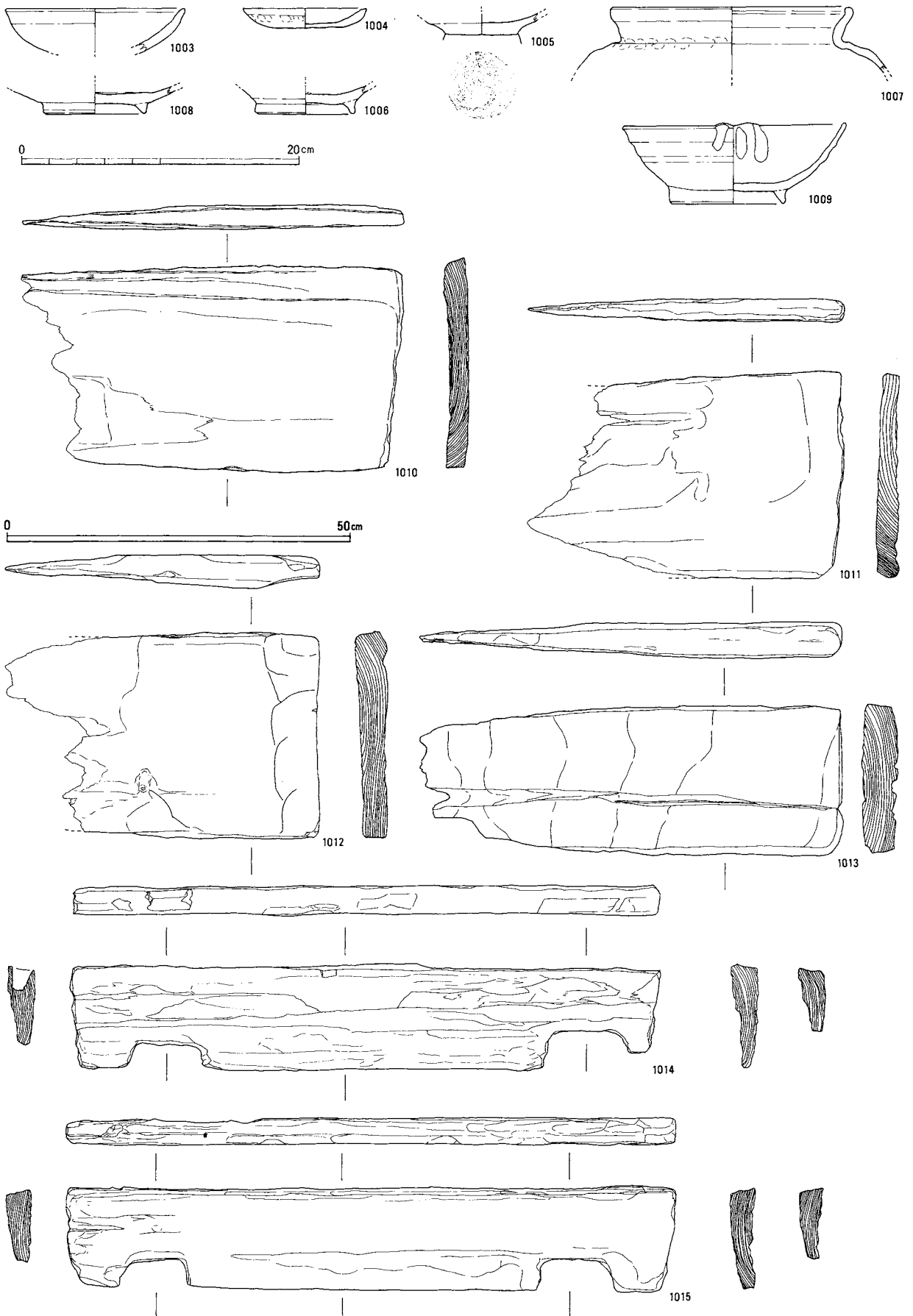
う。896 ・897 は平瓦片である。これらに混じり、モモの種実遺体が多量に出土した。

S K 324出土遺物 (第109図)

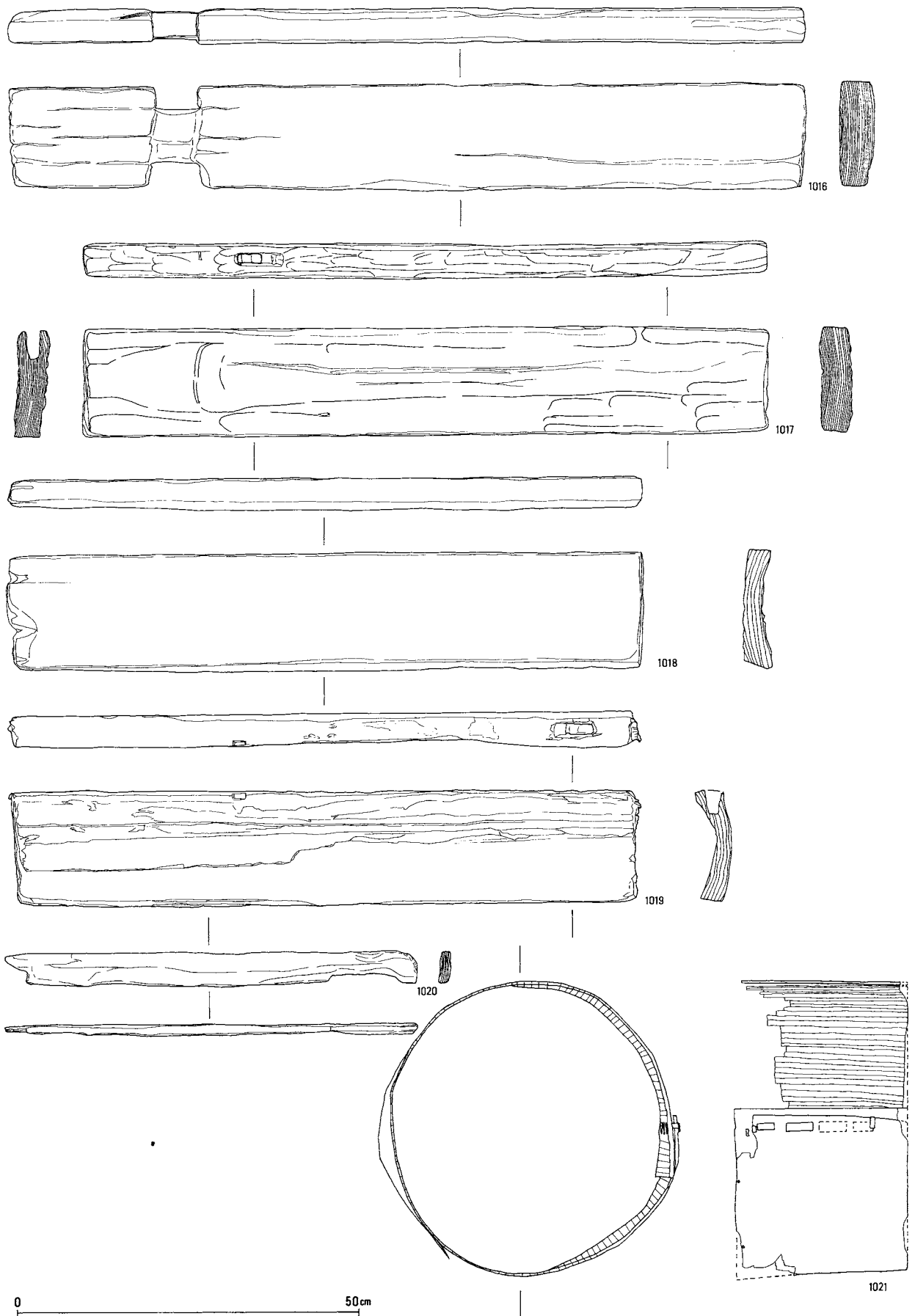
898 ～901 は弥生土器。898 は壺底部、899 は高杯杯部、900 は高杯脚部、901 は器台裾部分である。これらは混入遺物で、弥生時代後期前半のものと考えられる。902 はロクロ製土師器皿の底部で糸切り痕が残る。903 はロクロ製土師器皿あるいは碗の底部を利用した加工円盤である。これらは、平安時代末期のものか。904 ・905 は底部から少し丸みを帯びながら外反する山茶碗。これらは第4 型式に比定できよう。



第116図 SE451出土遺物実測図 (1 : 4)



第117図 SE54出土遺物実測図① (1 : 4, 1010~1015は1 : 8)



第118図 SE54出土遺物実測図② (1 : 8)

S K 450出土遺物 (第109図)

906 はロクロ製土師器皿の底部で糸切り痕が残る。907 ~910 は底部が平坦で口縁部断面が弓状の土師器小皿である。これらは平安時代末期のものと考えられる。911 は底部から少し丸みを帯びながら外反する山茶碗。第4型式に属するものであろう。912 は土錘である。

S E 47出土遺物 (第110~112図)

913 ~916 は土師器皿である。913 ~915 は底部にケズリがみられる。これらは奈良時代のものと考えられる。916 は底部外面に「#」の線刻であろうか。これは修験者が用いた護身呪法の「九字」を表し、志摩地方では「ドーマン」と呼ばれているものを略したものと考えられる。917・918 は土師器杯である。919 は内面に3条の線刻が重なっている。土師器皿か。920 は内面に3条の線刻が施されているが、何を表しているのかは不明である。土師器皿か。921 ~923 は土師器甕口縁部片である。923 は大型品である。924 は外面ミガキの土師器高杯か。これらは平安時代前期のものと思われる。925 はいわゆる「志摩式製塩土器」の口縁部片である。平安時代のものであろう。926 ~935 は井戸枠である。926 ~931 は板状の井戸枠縦板である。930 と931 は調査時は1つのものと考えていたが、取り上げ後1ヶ所の柄穴による柄組であることが判明した。縦板柄組a類に相当する^⑧。932 ~935 で井戸枠横棧で、方形に組まれていた。932・933 が934・935 に入れ込んである、包み込み柄組み^⑨と考えられる。これらに混じり、モモの種実遺体も出土した。

S E 353出土遺物 (第113・114図)

936 は底部外面に「大吉」の墨書がある口縁部外反する土師器皿、937・938 は口縁部が少し外反する土師器杯であろう。939 は土師器杯の底部か。内外面ともに線刻が施されているが、何を表しているのかは不明である。940 ~942 は土師器甕の口縁部

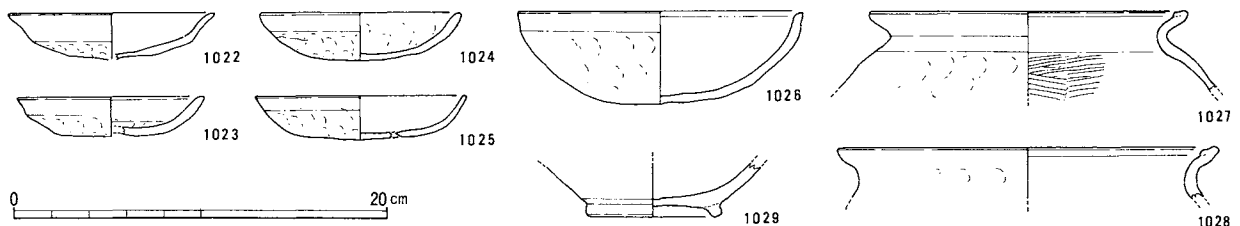
片。942 は大型品。これらは平安時代前期のものと考えられる。943 ~961 はいわゆる「志摩式製塩土器」である。943 ~954 は口縁部片である。947・948・954 のように破片ではあるが口縁部から底部まで残存していることが稀にある。955 ~961 は底部片である。962 ~967 は井戸枠。962 ~964 は形状は細長い。井戸枠の横棧で方形に組まれていたもので、目違い柄組み^⑩と思われる。965 は横棧の一部と思われるが、出土状況からは判断に苦しむ。966・967 は板状のもので井戸枠縦板である。横棧の外側にすえられていた。968 は井側底にすえられていた曲物である。残存状況は不良である。側板内面に縦平行線のケビキがみられる。一部に斜行しているケビキと重複している部分がある。これらに混じり、モモの種実遺体も出土した。

S E 363出土遺物 (第115図)

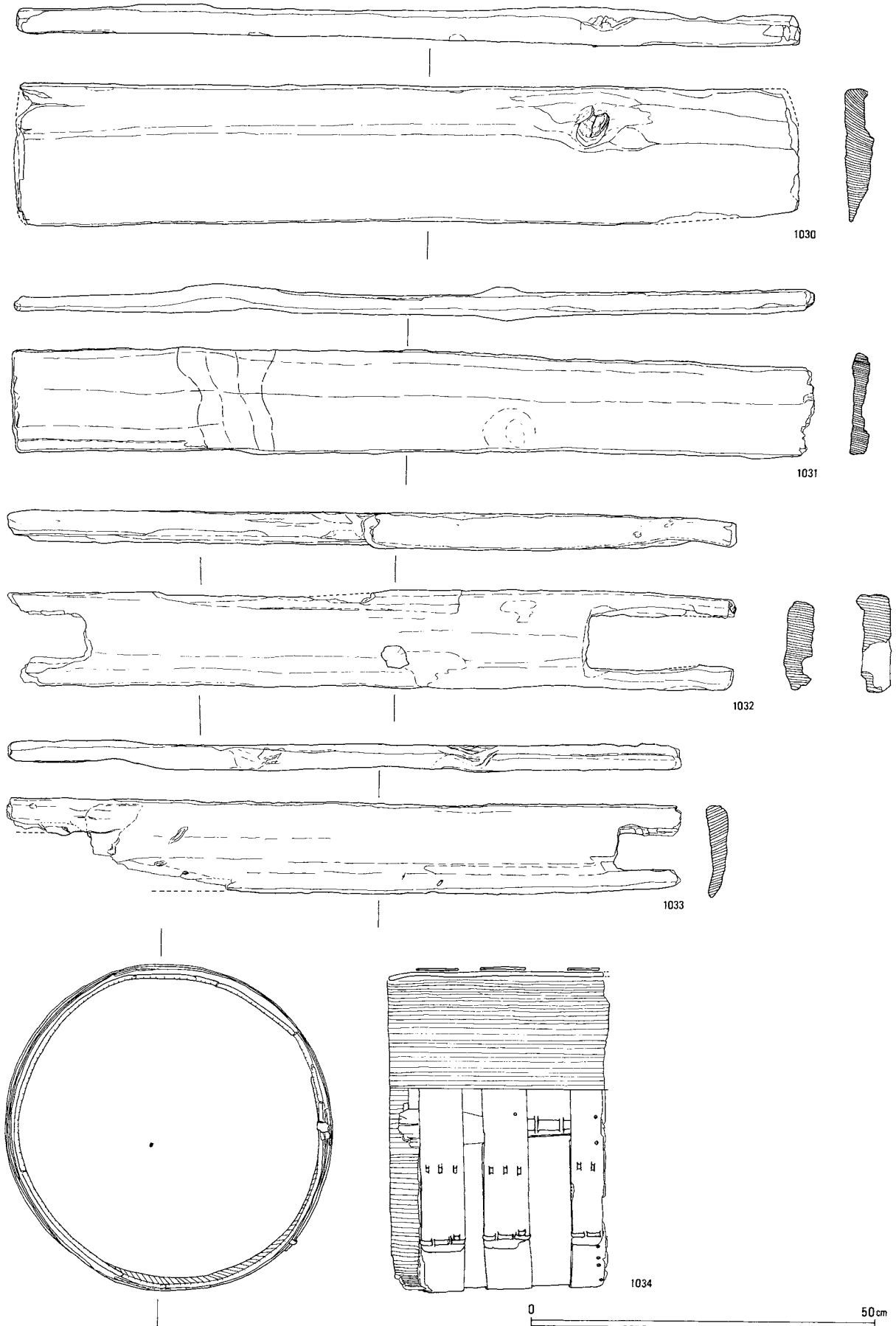
969 ~972 は口縁部外反し、口縁端部が肥厚する土師器杯である。969・971 は底部内面に線刻が施されている。これらは「ドーマン」を省略したものと思われる。973 ~977 は土師器甕の口縁部片である。973 ~976 はきつく屈曲した口縁部が特徴的である。977 は口縁部の屈曲がそれほどなく、口縁部から体部上半まで残る。これらは平安時代前期のものと思われる。978・979 は井戸枠縦板の一部と考えられるが、どのように使用されていたのか出土状況からでは何ともいえない。980 ~983 は井戸枠横棧。一方の横棧だけに柄穴を穿ち方形に組んでいたものである。

S E 451出土遺物 (第116図)

984 ~987 は土師器杯。底部から口縁部にかけて内弯気味に立ち上がる。984 は土器内面に放射状の5条の線刻が確認できる。988 ~994 は土師器杯。底部の調整が粗雑で口縁部が少し外反気味のもの。995 は土師器皿。底部の調整が粗雑で口縁部が少し外反する。996 ~999 は土師器甕である。997 は体



第119図 SE217出土遺物実測図① (1:4)



第120図 SE217出土遺物実測図② (1 : 8)

部球形で外面は粗いハケメ、底部外面に1条の線刻が施されたもの。998・999は調整が粗雑な体部球形になる甕である。1000～1002は口縁部の外反が強く底部が平坦な土師器鍋。1002は体部上半に把手がつくものである。これらは、平安時代前期に属するものであろう。

SE54出土遺物（第117・118図）

1003は底部の調整が粗く口縁部断面が弓状の土師器皿である。1004は口縁部ヨコナデ、底部の調整が粗雑な土師器皿。1005は底部に糸切り痕が残るロクロ製土師器皿である。1006は底部に高台がみられるロクロ製土師器碗である。1007は口縁端部は内弯し内外面ともナデの土師器甕口縁部片。これらは平安時代末期のものと思われる。1008は山茶碗底部片。1009は口縁端部に輪花が施された山茶碗である。これらは第4型式に属するものと考えられる。1010～1020は井戸杵。1010～1013は井戸杵縦板である。井戸の上面に近い部分ほど腐食がすすんでいる。1014～1019は井戸杵横板である。1014・1015は横棧を挿入するための柄穴を2ヶ所に施しているのがわかる。1016～1019は切断面の腐食が激しい。1016は一部分が切り取られている。井戸杵を組むためや横棧を組むというよりは不要になった板材を転用し、横板として使用したものと考えたい。1020は井戸杵横棧と考えられるが原形をとどめないほど腐食が激しい。1021は曲物である。籬は落ちてしまったのか確認で

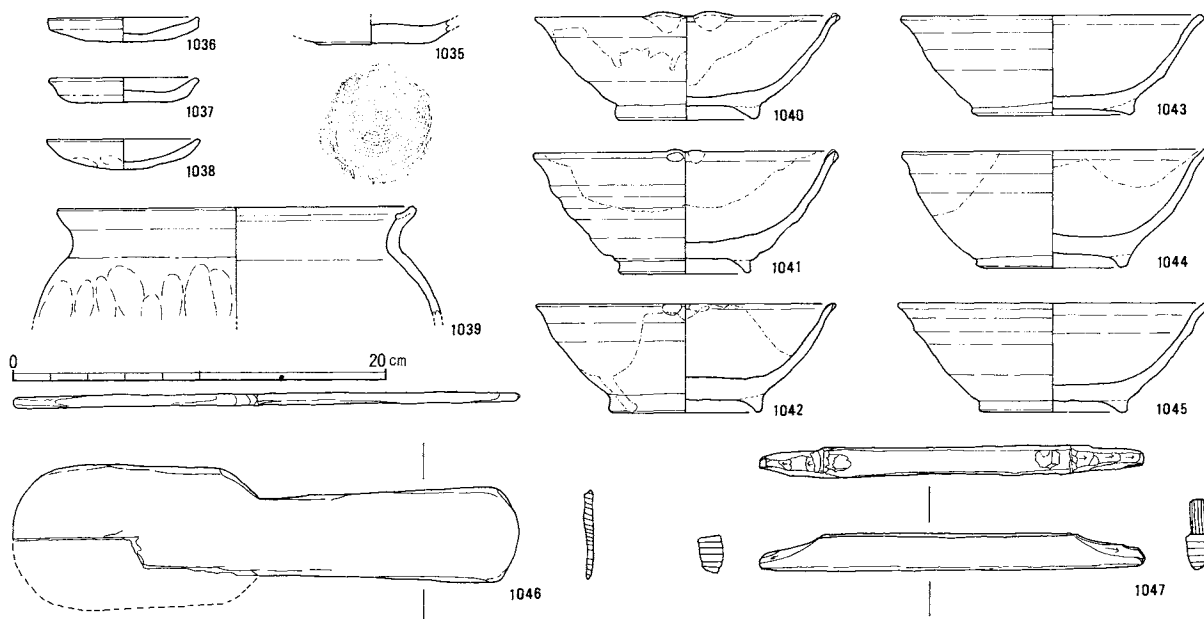
きなかった。側板は1列の樺皮綴じ、内面には縦平行線のケビキがみられる。これら以外にも、モモノ種実遺体出土した。

SE217出土遺物（第119・120図）

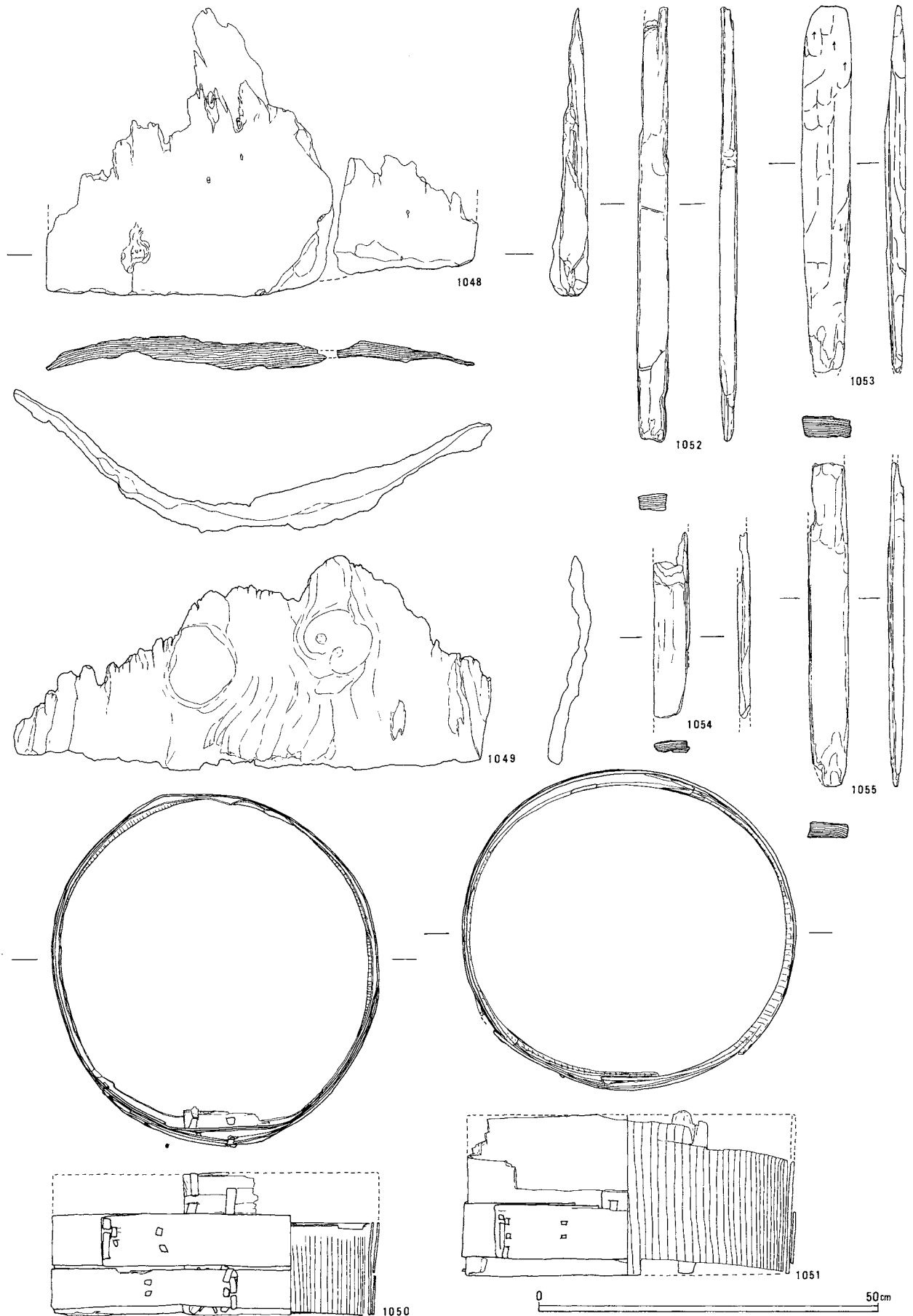
1022は底部の調整が粗雑で口縁部が外反する土師器皿である。平安時代後期のものと思われる。1023～1025は口縁部ヨコナデ、底部の調整が粗雑な土師器皿。1026は底部の調整が粗く口縁部断面が弓状の土師器杯である。1027・1028は口縁端部は内弯し内外面ともナデの土師器甕口縁部片。これらは平安時代末期のものと思われる。1029は山茶碗底部片。第4型式に属するものと考えられる。1030～1033は井戸杵横板である。1032・1033は横棧を挿入するための柄穴を両端に入れているが、横棧は出土状況からは確認できなかった。しかしながら、本来は横棧が存在したものと考えられる。1034は円形曲物である。籬は2列の樺皮綴じがされているものが3段、籬と側板の間1ヶ所添木を挿入している。側板は1列の樺皮綴じで、内面には縦平行線のケビキをいれている。

SE218出土遺物（第121・122図）

1035は底部外面に糸切り痕が残るロクロ製土師器皿である。平安時代後期のものと考えられる。1036は底部の調整が粗雑で口縁部ヨコナデの土師器小皿、1037は底部が平坦で口縁部が外反する土師器小皿、1038は底部の調整が粗雑で口縁部断面が弓状の土師



第121図 SE218出土遺物実測図①（1：4）



第122图 SE218出土遺物実測図② (1 : 8)

器小皿である。これらは平安時代末期のものと思われる。1039は口縁端部が肥厚し内外面ともナデの土師器甕口縁部片。平安時代末期のものと思われる。1040～1042は口縁端部が少し外反し、口縁部に輪花が施されている山茶碗である。1043～1045は口縁端部が少し外反する山茶碗である。これらは、第4型式に属するものと考えられる。1046は杓子形木器、1047は糸車の一部であろう。1048・1049は井戸杵。木の外縁を利用したものか。1050・1051は円形曲物。1050は樺皮綴じ2列の籬が2段残る。側板は樺皮綴じ2列で、内面には縦平行線のケビキをいれている。1051は籬は1段残り、2列の樺皮綴じである。籬と側板の間一ヶ所添木を挿入している。側板内面には縦平行線のケビキをいれている。1052～1055は曲物などの添板として使用されていたものと考えられる。

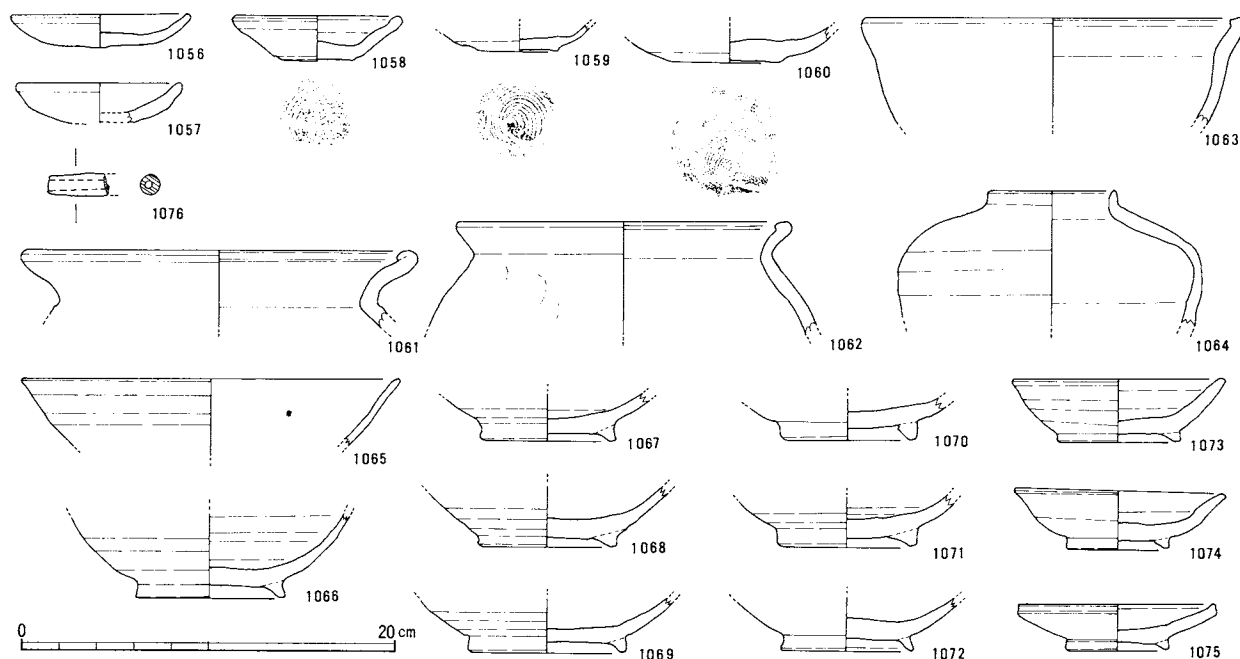
SE323出土遺物（第123～125図）

1056・1057は底部が平坦で口縁部断面が弓状の土師器皿である。1058～1060は底部内面が若干隆起し、底部外面には糸切り痕が残るロクロ製土師器皿である。1061・1062は口縁端部は内弯し内外面ともナデの土師器甕口縁部片。これらは平安時代末期のものと思われる。1063は土師器鉢か。口縁端部内弯し内外面ともナデである。1064は須恵器短頸壺である。これらは平安時代ものと考えられる。1065は口縁部が直線的な山茶碗口縁部片、1066～1072は山茶碗底

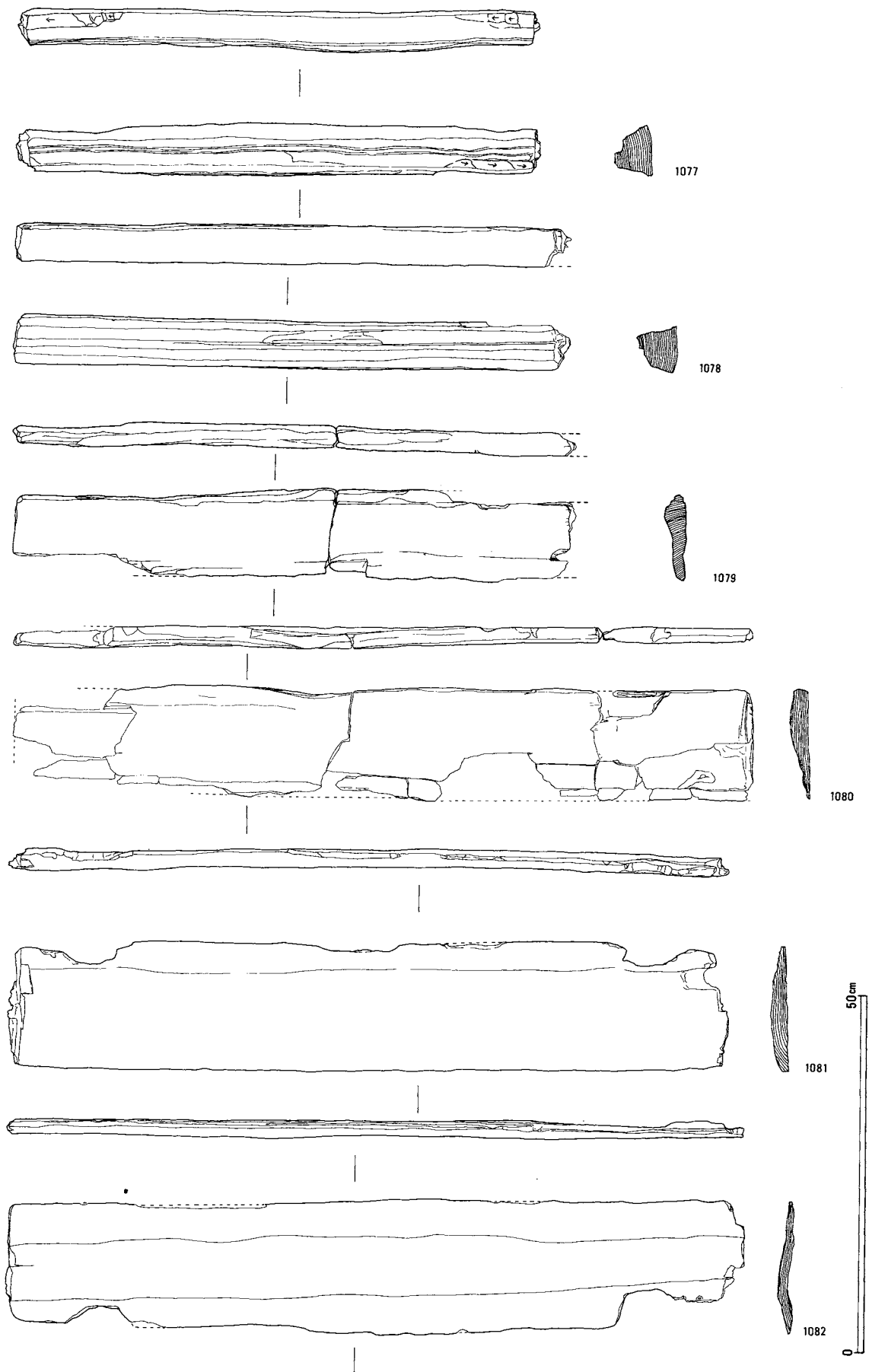
部片。高台の形状は様々である。1073～1075は山皿。口縁部が外反するものや直線的なものがみられる。これらは第4型式に属するものと考えられる。1076は筒状の土錘。1077・1078は井戸杵横棧。1079～1082は井戸杵横板として埋設されていたものである。1079・1080は横棧を挿入する柄穴が1ヶ所確認できるが、遺存状態が悪く全容がわからない。1081・1082の両端に近い部分に横棧を挿入する柄穴を2ヶ所施している。1083～1089は井戸杵の縦板として使用されていた。横板の周りに打ち込まれていた。1090は円形曲物である。籬は2段残りそれぞれ3列の樺皮綴じである。側板は1列の樺皮綴じで内面には縦平行線のケビキがいられている。これら以外に、ヒメビシやモモなどの種実遺体が多量に出土した。

SE337出土遺物（第126図）

1091は底部が平坦で口縁部が外反する土師器杯、1092～1094は底部の調整が粗く口縁部断面が弓状の土師器皿である。これらは平安時代末期に属するものといえよう。1095はロクロ製土師器台付皿である。平安時代後～末期のものか。1096は口縁端部が外反する高台が高い山茶碗である。1097は口縁部少し外反する山茶碗である。これらは第4型式に比定できよう。1098・1099は井戸杵、どのように使用されていたのかは出土状況からも判断しづらいが横板と思われる。1100・1101は円形曲物である。1100は籬は



第123図 SE323出土遺物実測図①（1：4）

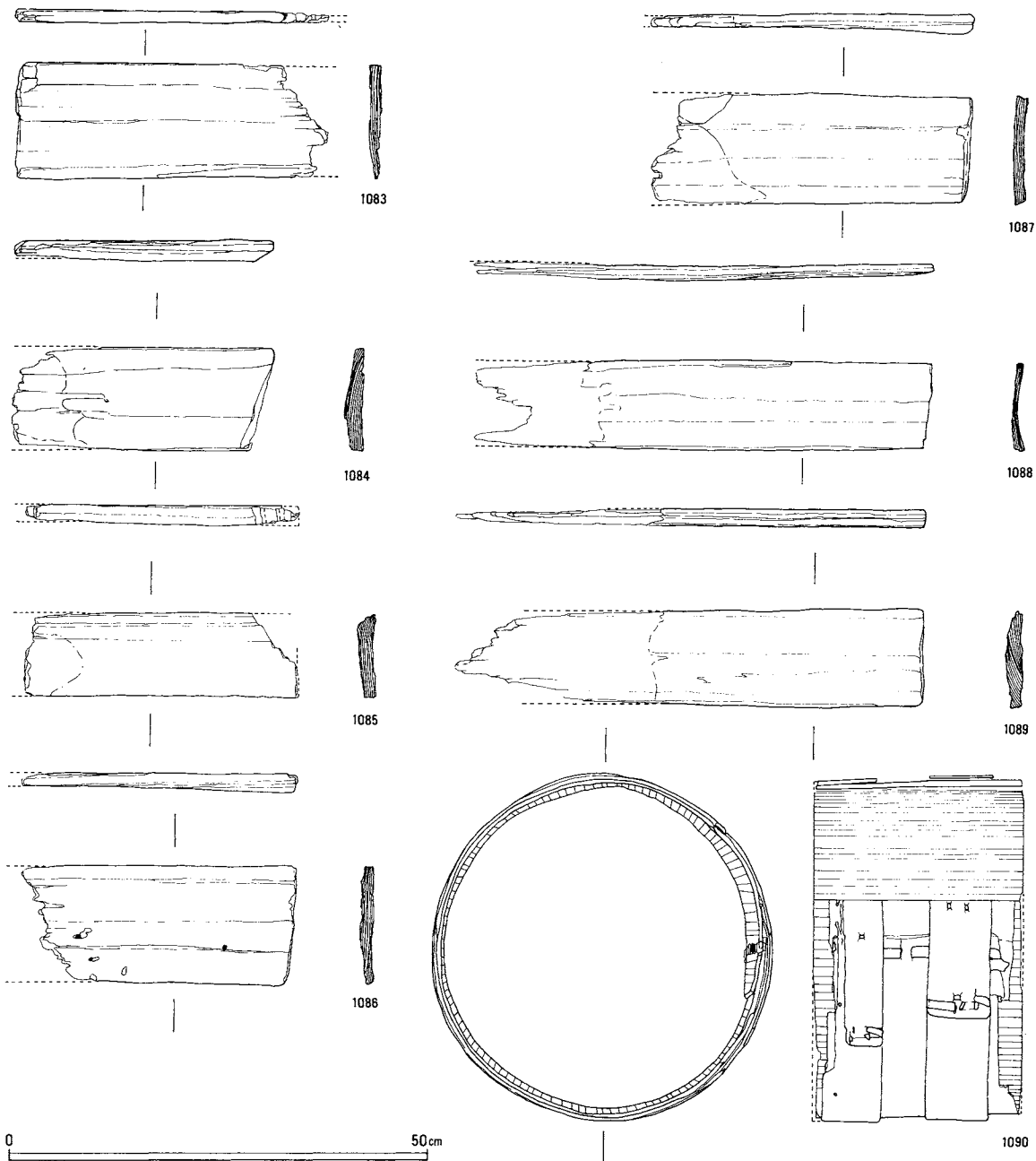


第124図 SE323出土遺物実測図② (1 : 8)

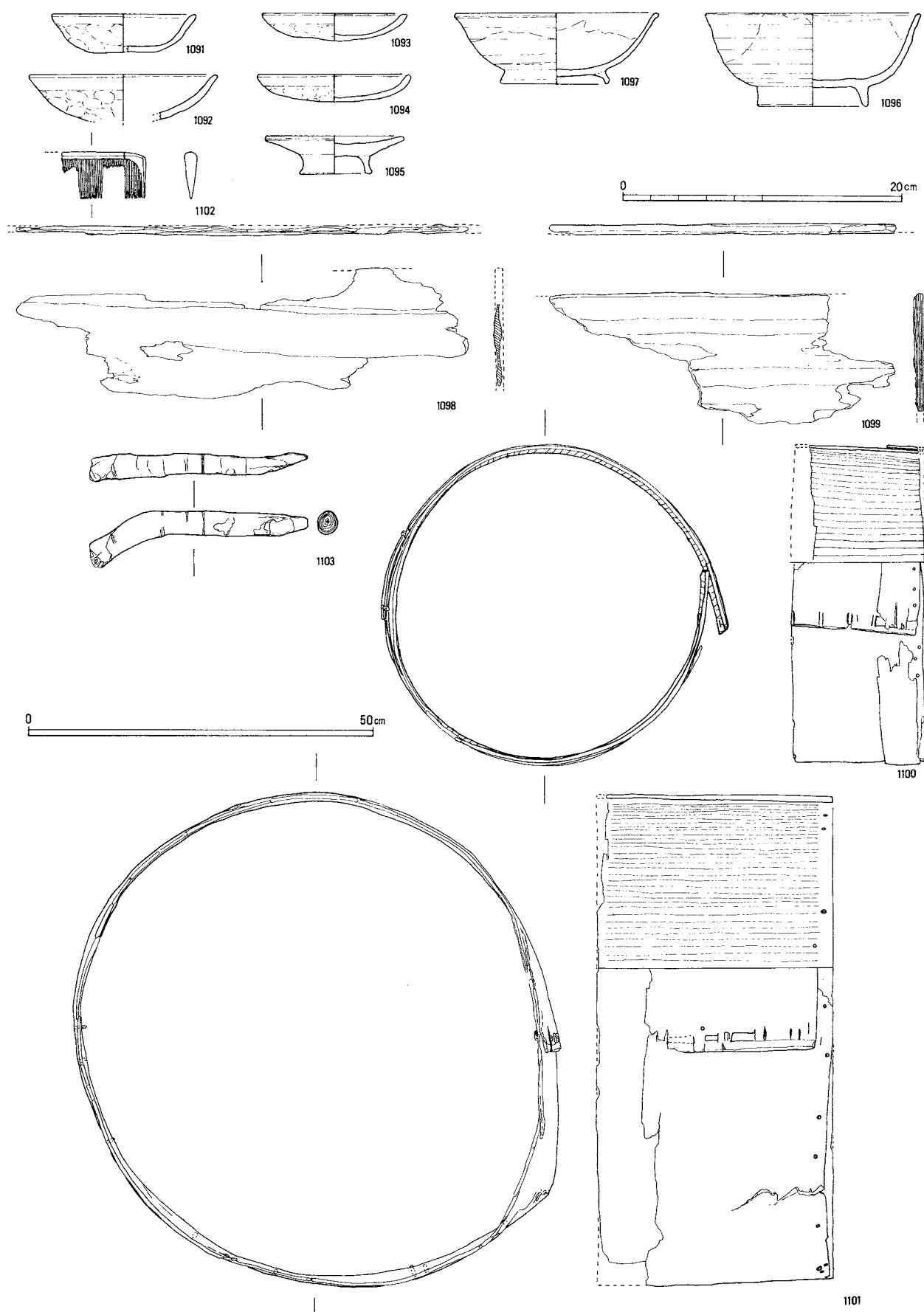
1段残り綴じ合わせの部分が欠けている。側板と結合するための結合孔が下方にみられる。側板は1列の樺皮綴じ、内面には縦平行線のケビキが入れられている。箍を固定するための結合孔が下部にみられる。1101は箍はなく側板が1列の樺皮綴じで留められているのがわかる。また、側板内面には縦平行線のケビキが入れられ、下部には箍を固定する結合孔が施されている。1102は挽歯横櫛。1103は先端が削られ尖っている。杭と考えられる。

SE345出土遺物（第127図）

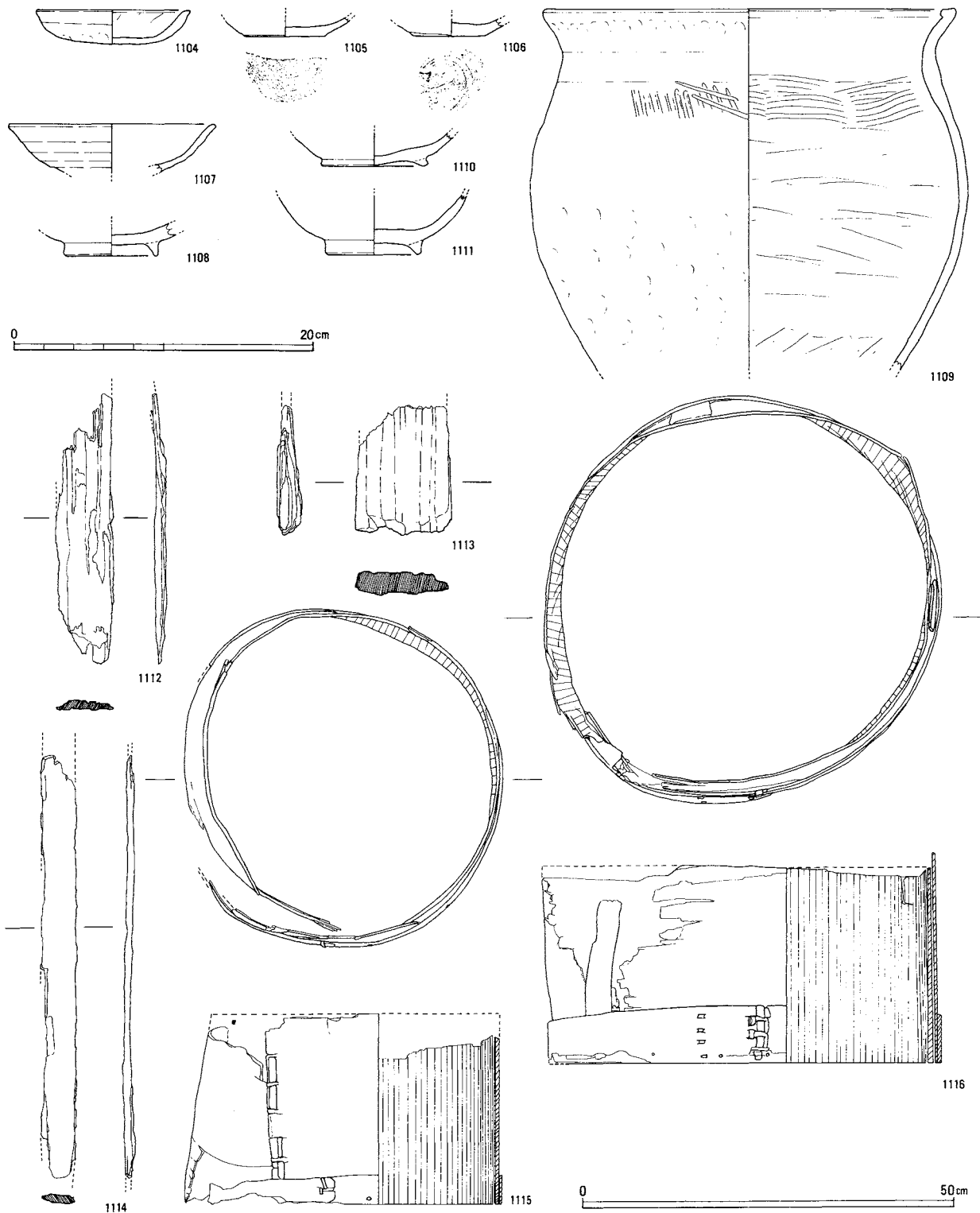
1104は口縁部ヨコナデの土師器皿。1105・1106は底部外面に糸切り痕が残るロクロ製土師器皿である。1107は口縁部が少し外反する口縁部片、1108は高台の残る底部片。これらはロクロ製土師器碗である。1109は口縁端部が肥厚する土師器甕である。これらは平安時代後期～末期に属するものと思われる。1110・1111は山茶碗底部片である。これらは第4型式のものか。1112～1114は井戸杵と思われる。破片であるため判断に苦しむが、1112・1113は縦板、1114は横



第125図 SE323出土遺物実測図③（1：8）



第126図 SE337出土遺物実測図（1：4，1098～1101は1：8）



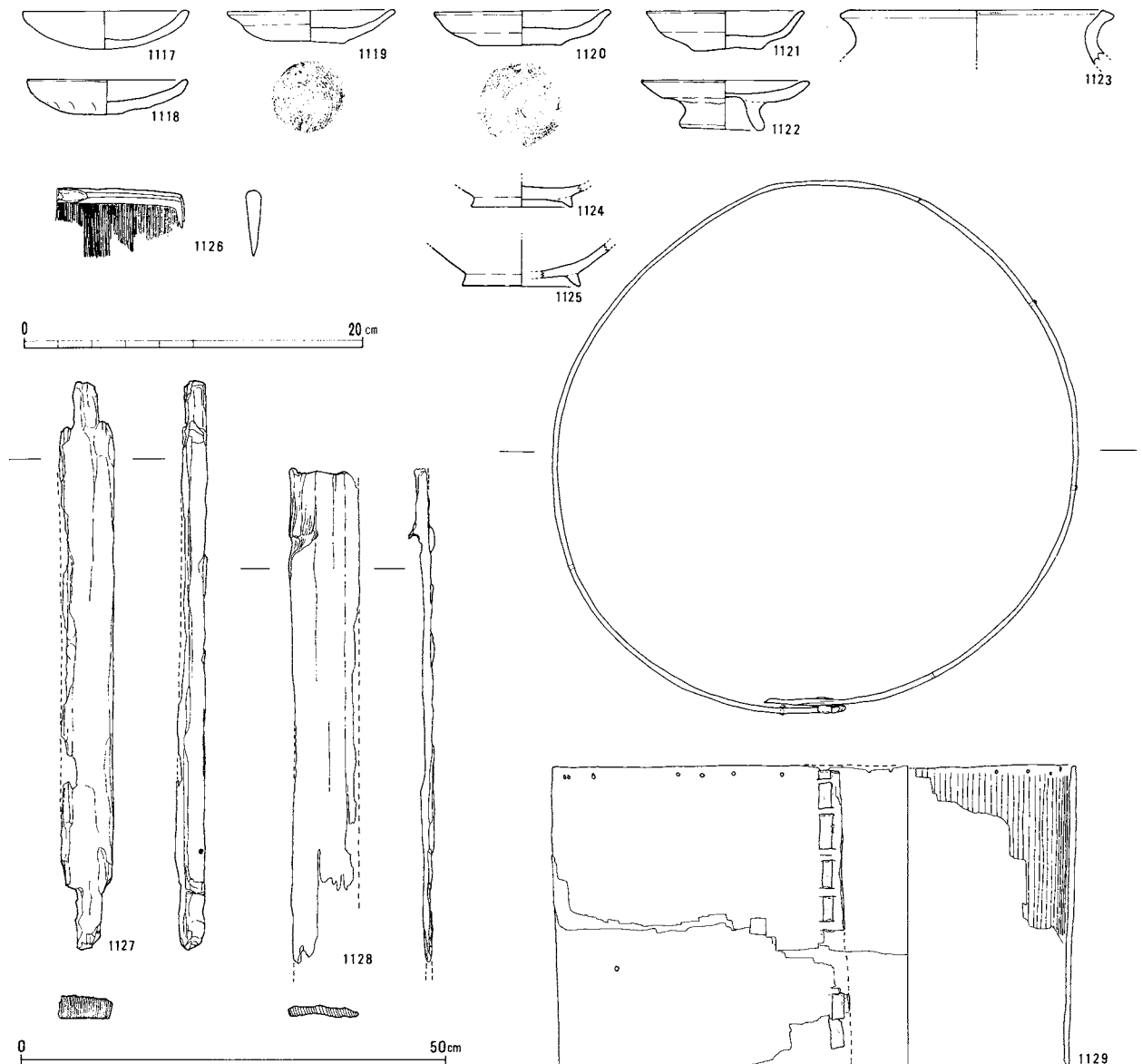
第127図 SE345出土遺物実測図（1：4，1112～1116は1：8）

棧か。1115は円形曲物である。1列の樺皮綴じの箍が1段残り、側板は1列の樺皮綴じで、内面には縦平行線のケビキがみられる。箍と側板には下部に結合孔がみられる。1116は円形曲物である。3列の樺皮綴じの箍が1段残り、側板は綴じ合わせ部分が欠失し、内面には縦平行線のケビキがみられ、下部には箍を固定する結合孔もみられる。また、箍と側板の間には添木が3カ所挿入されている。これら以外に、モモ、ウメ、ヒョウタン類などの種実遺体が出土した。

SE357出土遺物（第128図）

1117・1118は口縁部ヨコナデの土師器皿である。

1119～1121は底部外面に糸切り痕が残るロクロ製土師器皿である。1122はロクロ製土師器台付皿である。高台の裾部が外に開く。1123は口縁部が外反する土師器甕口縁部片である。これらは平安時代後期～末期のものと考えられる。1124・1125は山茶碗の高台がしっかりした底部片である。第4型式に属するものと考えられる。1126は挽歯横櫛の破片である。歯の部分も残存する。1127・1128は井戸杵と考えられるが、どのように使用されていたのかは不明である。敢えていうなら横棧部分であろうか。1129は曲物である。側板は1列の樺皮綴じ、箍は残存していなかった。上部には箍を留めていたであろう結合孔が施



第128図 SE357出土遺物実測図（1：4，1127～1129は1：8）

されている。側板内面には縦平行線のケビキがみられる。

S E 358出土遺物 (第129図)

1130は口縁部が外反する土師器杯である。1131・1132は土師器甕の口縁部片である。1131の口縁部はあまり外反しない。1133は土師器甕の底部片であろう。これらは平安時代後期のものか。1134は陶器の底部片。平安時代末期のものと思われる。1135は「志摩式製塩土器」の底部片である。1136は土錘である。粗雑な作り方である。1137・1138は井戸杵と考えられるが、どの部分に使用されていたのかは不明である。敢えていうなら縦板部分か。1139は挽歯横櫛の破片で歯の部分も若干残存している。これら以外に、モモの種実遺体も出土した。

S D 21出土遺物 (第130図)

1140は弥生土器壺の体部から底部にかけてのもの。弥生時代後期前半のものと考えられる。混入遺物である。1141は底部が平坦で口縁部が若干外反する須恵器杯。奈良時代のものと考えられる。1142は内外面ともナデ調整の土師器甕である。平安時代前期のものか。

S D 28出土遺物 (第130図)

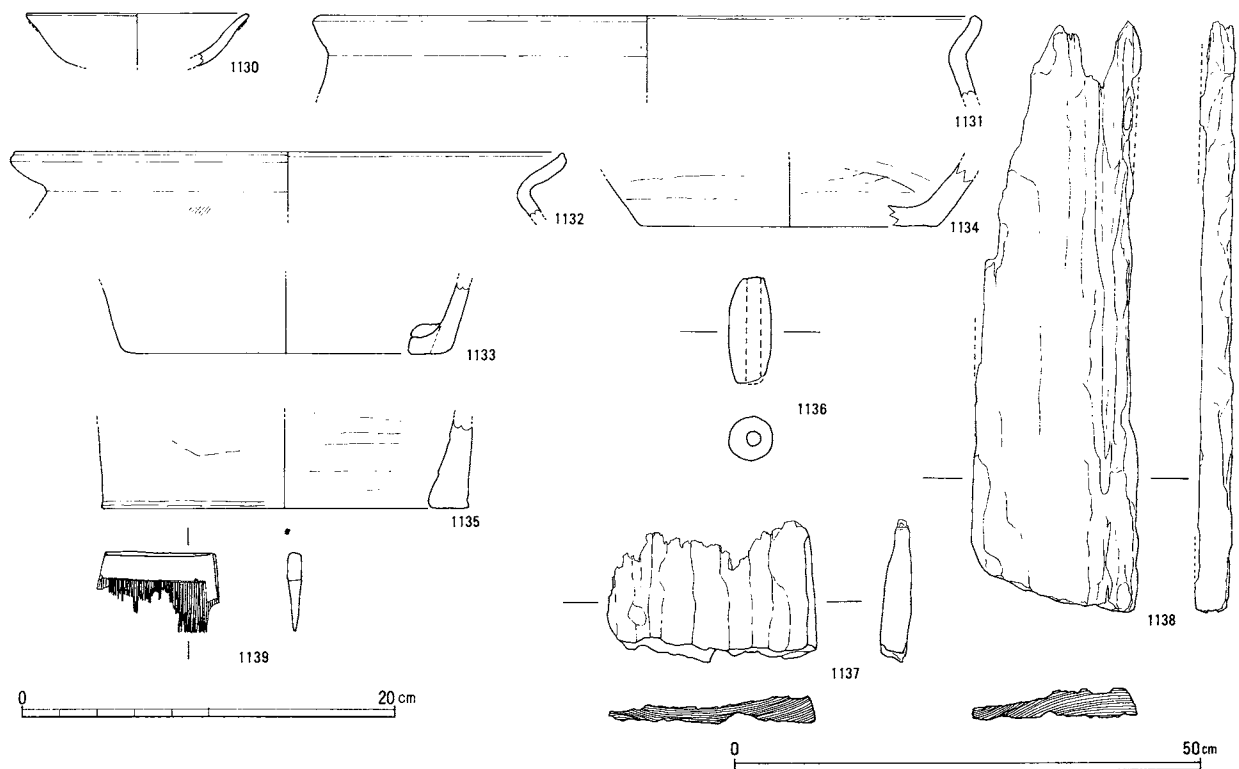
1143は底部が平坦で口縁部断面が弓形の土師器皿、平安時代前期のものか。1144は「志摩式製塩土器」で、底部から口縁部近くまで残存する。平安時代のものであると思われる。

S D 39出土遺物 (第130図)

1145は底部は平坦で口縁部が少し外反する土師器杯である。平安時代後期のものと考えられる。

S D 4 出土遺物 (第131～134図)

1146・1147は土師器長胴甕口縁部片である。1148は内弯気味に口縁部が立ち上がり、1149は口縁部がほぼ水平に外反する土師器高杯の杯部である。1150は土製竈か。1151は底部から鋭角的に外反する須恵器杯。1152は須恵器台付皿。1153は須恵器長頸壺である。口縁端部が屈曲する口縁から頸部にかけてのもの。1154は須恵器長頸壺。底部が台付の体部片である。これらは奈良時代のものと思われる。1155～1166は土師器皿。1155～1161は底部が水平で、口縁部断面が弓状のもの。1160の内外面には修験者の護身呪法に関わる「ドーマン」の線刻が施されている。1162～1166は底部は平坦、口縁部は少し外反し口縁



第129図 SE358出土遺物実測図 (1 : 4, 1137・1138は1 : 8)

端部が少し肥厚するものである。1167～1185までは底部は平坦、口縁部は少し外反し口縁端部が少し肥厚する土師器杯である。1167は底部内面には、「ドーマン」を省略したものと考えられる「#」と、「×」と考えられる線刻が施されている。1170は底部外面に墨書がみられる。「田」であろうか。1178は底部内面に「#」と考えられる線刻がみられる。「ドーマン」を、省略したものと考えてもよいであろう。1186は底部は平坦、口縁部は少し外反し口縁端部も少し外反するものである。これらは平安時代前期に属すると考えられる。1187は底部外面に数条の線刻が施された杯底部片か。1188は底部は平坦、口縁部が受け口状になる杯である。これは時期は若干遡るものか。1189～1192は体部球形の土師器甕。1193～1196は口縁部が外反し、内外面ともハケメ調整の土師器鍋。これらは奈良時代に属するものか。1197～1199は口径が体部最大径よりも大きく底部が平坦で偏平な土師器鍋である。これらは平安時代前期のものと思われる。1200～1213は「志摩式製塩土器」である。多量の出土があった。その一部である。これらは平安時代のもの。1214～1216は須恵器甕の口縁部片、1217は陶器甕の底部片である。平安時代のものか。1218は丸瓦片。1219は山茶碗の口縁部片。1220は山茶碗底部片。第4型式のものと考えられる。

1221・1222は円筒状の土鍾。

S X 318出土遺物（第135図）

1223は口縁端部外反し、口縁部に輪花がみられる山茶碗、1224は口縁端部が外反する山茶碗である。蔵骨器として使用されていたと考えられる。これらは、第4型式に属するものであろう。

S X 419出土遺物（第135図）

1225は口縁端部が外反する山茶碗である。蔵骨器として使用されていたものか。これらは、第4型式に属するものであろう。

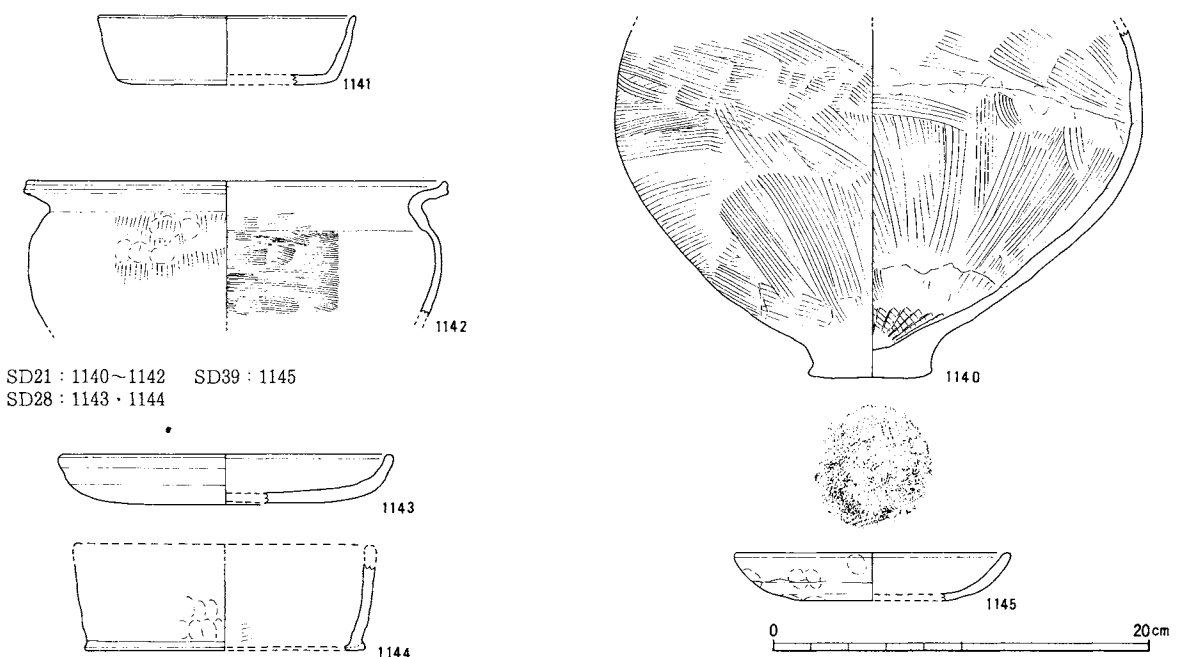
鎌倉時代

S B 491出土遺物（第136図）

1226・1227は口縁部ヨコナデの土師器小皿。これらは平安時代末期のものと思われる。1228は口縁端部が少し外反する山皿である。第4型式と考えられる。1229は口縁部が直線的な山茶碗である。第5型式に属するものであろう。1230は山茶碗底部片である。1229と同時期といえよう。

S K 10出土遺物（第136図）

1231・1232は口縁部ヨコナデの土師器小皿である。1233は底部に糸切り痕が残るロクロ製土師器碗である。1234・1235は土師器甕。口縁部内弯するもの。これらは、平安時代後期～末期のものと思われる。



SD21 : 1140～1142 SD39 : 1145
SD28 : 1143・1144

第130図 SD21・28・39出土遺物実測図（1：4）

1236は山茶碗底部片。高台部分が高くなっている。1237・1238は口縁端部が外反する山茶碗。これらは第4～5型式に属するものと思われる。1239・1240は山茶碗底部片である。高台が低く、口縁部が直線的に外反するものか。第5型式に比定できるものか。

S K 22出土遺物 (第136図)

1241は口縁部外反し、頸部に数状横線文がみられる弥生土器壺、1242は弥生土器底部片。これらは弥生時代後期前半のものと考えられる。1243は古式土師器小型丸底壺。古墳時代のもの。1244は口縁部が内弯する土師器甕口縁部片である。平安時代末期のものといえよう。1245・1246は山茶碗底部片。高台の形状から第5型式に属するものであろう。

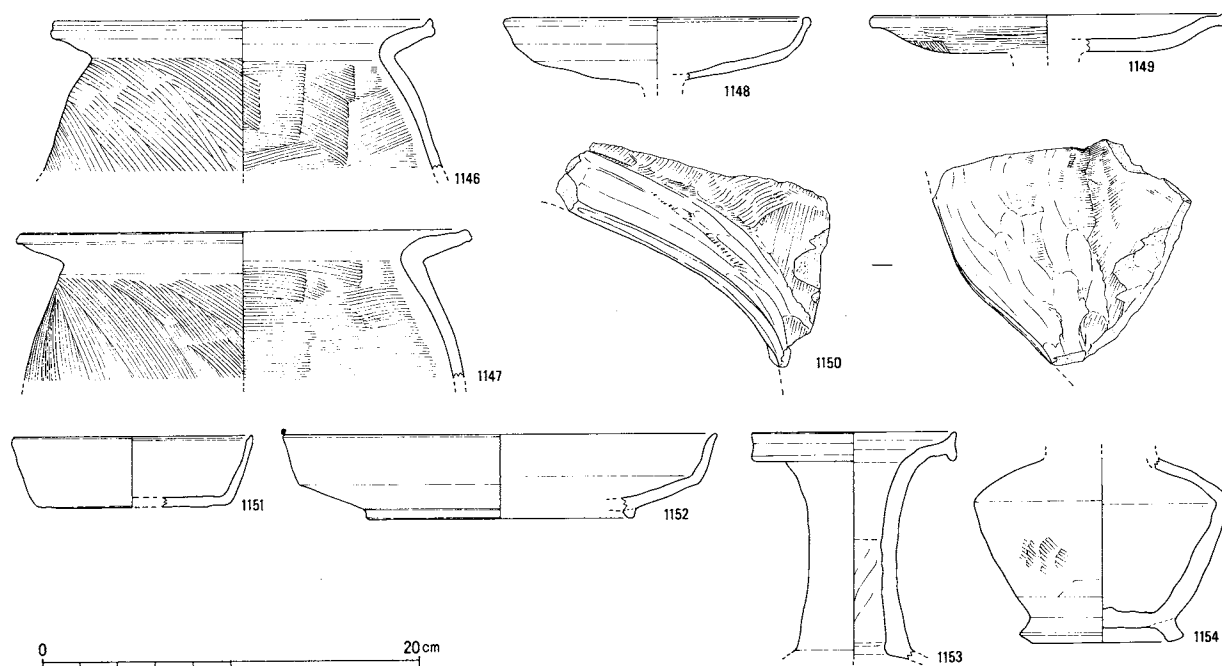
S K 43出土遺物 (第136図)

1247は弥生土器蓋。1248は口縁端部に刺突文、内弯する口縁部には横線文が施されている弥生土器壺口縁部片である。1249は土器外面ミガキの弥生土器壺底部片。これらは弥生時代後期前半のものといえよう。1250・1251は底部が平坦で調整が粗く口縁部が外反する土師器杯である。1252は口縁端部が少し外反するロクロ製土師器皿である。底部外面に糸切り痕が残る。1253は口縁部が底部から直線的に開くロクロ製土師器台付皿である。これらは概ね平安時代後期のものであろう。1254は口縁部ヨコナデの土

師器小皿。平安時代末期のものといえよう。1255は土師器甕。平安時代前期～中期のものか。1256は口縁部外反し、頸部の屈曲が顕著な土師器甕。平安時代のものか。1257は底部の調整が粗く底部から口縁部にかけて内弯する薄手の土師器皿。鎌倉時代のものと考えられる。1258は口縁端部外反する山茶碗口縁部片、1259・1260は貼り付け高台の山茶碗底部片である。第5型式に比定できよう。1261は製塩土器口縁部片。「志摩式製塩土器」である。1262は筒状で中央部分が膨らむ土鍾である。

S K 220出土遺物 (第137図)

平安時代後期から鎌倉時代までの遺物が混在する。1263・1264は底部が平坦で調整が粗く口縁部が外反する土師器杯である。1265はロクロ製土師器碗底部片。底部外面に糸切り痕が残る。1266は底部から口縁部にかけて直線的なロクロ製土師器皿である。底部外面に糸切り痕が残る。これらは概ね平安時代後期のものであろう。1267は口縁端部が少し外反するロクロ製土師器皿。底部内面が隆起、外面には糸切り痕が残る。1268・1269は口縁部端部が肥厚し、頸部の屈曲が顕著な土師器甕の口縁部である。これらは平安時代後～末期のものと考えられる。1270は口縁部ヨコナデの浅い土師器小皿。鎌倉時代のものと考えられる。1271は土器内面に漆の付着がみられる

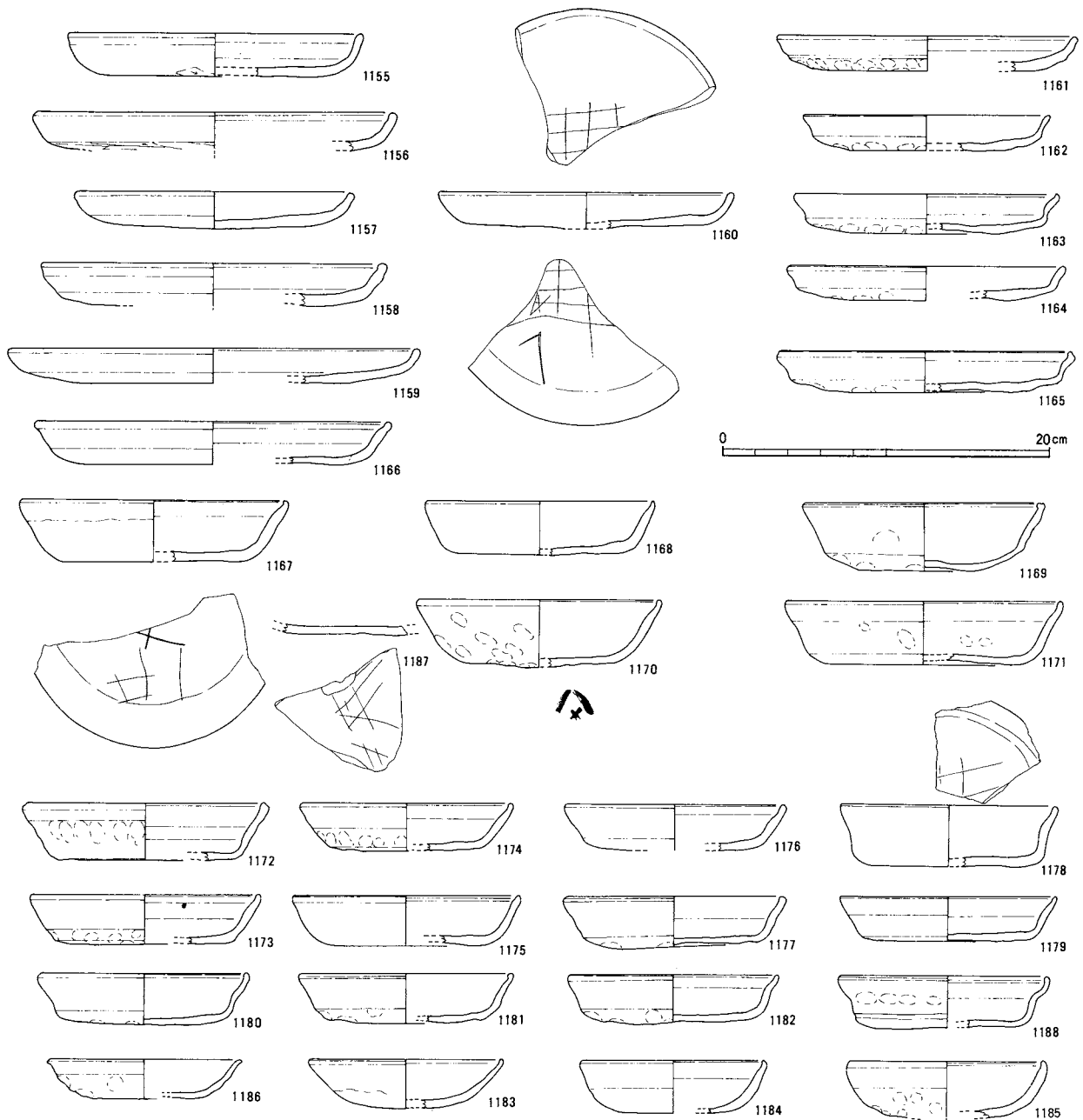


第131図 SD4出土遺物実測図① (1:4)

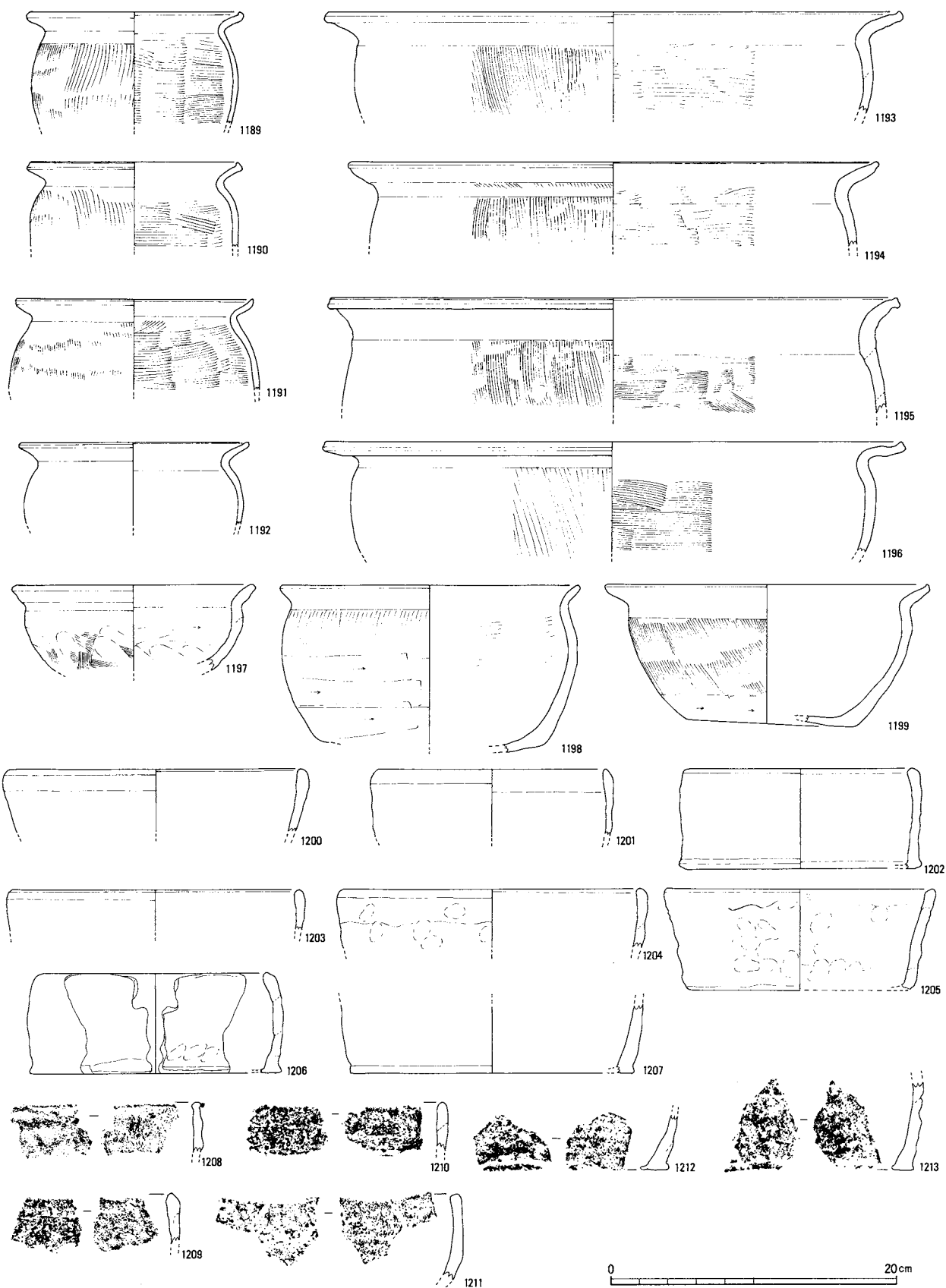
山皿、1272は口縁端部外反の山皿である。これらは第4型式に属するものであろう。1273～1276は口縁端部外反の山茶椀。1277～1282は貼り付け高台の山茶椀底部片である。1280の底部外面には「十」の墨書がみられる。これらは概ね第5型式に比定できるのではないか。1283は陶器壺あるいは甕の底部か。鎌倉時代のもと思われる。1284・1285は土錘である。S K 367出土遺物（第138図）

1286～1290は口縁部の断面形が弓状の土師器皿片。平安時代後期のものと思われる。1291～1300は口縁

部ヨコナデ、底部調整が粗雑な土師器小皿である。これらは平安時代末期に属すると考えられる。1301～1305はロクロ製土師器椀である。底部外面に糸切り痕が残る。1306～1311はロクロ製土師器皿。底部外面に糸切り痕が残る。1312はロクロ製土師器台付皿の高台部分で、土器内面に墨書がみられる。これらは概ね平安時代後期のものであろう。1313・1314は口縁部が肥厚し頸部屈曲が強い土師器甕口縁部片。これらは平安時代末期～鎌倉時代のもと考えられる。1315は口縁部が内弯し底部の調整が粗い薄手の



第132図 SD4出土遺物実測図②（1：4）



第133図 SD4出土遺物実測図③ (1:4)

土師器皿片である。鎌倉時代のものと考えられる。1316・1317は口縁部外反、高台が低い山皿である。1317の底部外面には「上」の墨書がみられる。これらは第4型式に比定できよう。1318は口縁部が外反する山茶碗口縁部片。1319・1320は口縁部から底部にかけて直線的な山茶碗。これらは第5型式に属するものであろう。1321～1324は低い貼り付け高台の山茶碗底部片である。1324は底部外面に墨書が見られるが判読できない。1325は山茶碗の底部片か。底部外面には線刻がみられる。判読はできない。これらは概ね第5～6型式の範疇であろう。1326は木製杭である。これら以外に、モモの種実遺体も出土した。

S K 223出土遺物 (第139図)

平安時代後期から鎌倉時代にかけての遺物が混在する。1327はロクロ製土師器碗底部片。底部外面に糸切り痕が残る。1328はロクロ製土師器皿の底部片。底部外面に糸切り痕が残る。これらは概ね平安時代後～末期のものであろう。1329～1334は口縁部が内

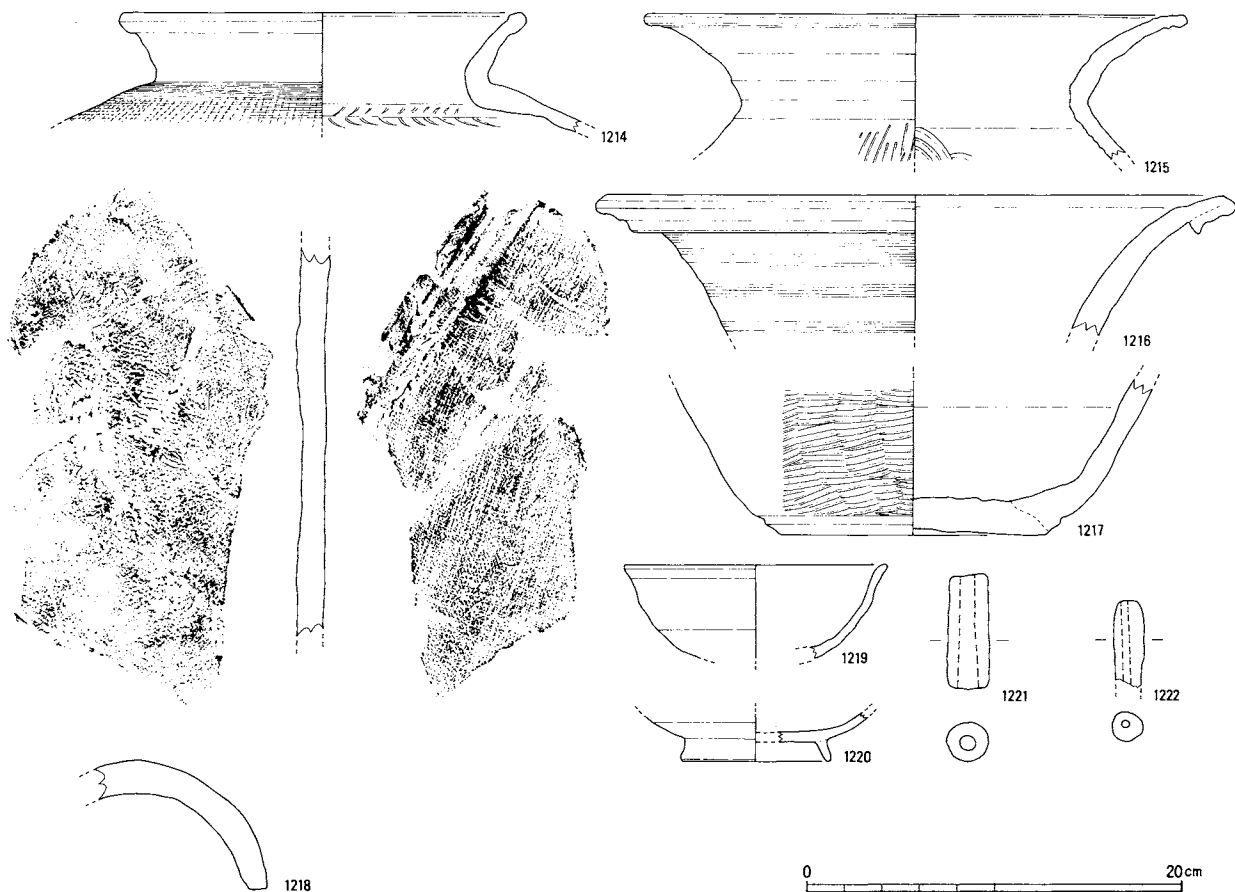
弯し底部調整が粗雑な薄手の土師器皿である。1335～1342は底部の調整が粗雑で薄手の土師器小皿。これらは鎌倉時代に属するものであろう。1343は低い貼り付け高台の山茶碗底部片である。第5～6型式に比定できるのではないか。

S K 407出土遺物 (第139図)

1344は底部が平坦で、口縁部が外反する土師器杯である。底部の調整粗い。平安時代前期のものか。1345～1347は口縁部が内弯し底部の調整が粗雑な薄手の土師器皿である。これらは鎌倉時代のものと思われる。

S K 418出土遺物 (第139図)

1348は底部が平坦で口縁部が直線的に立ち上がる土師器皿である。底部の調整粗雑である。平安時代前期のものか。1349は口縁部断面が弓状の土師器小皿である。平安時代末期のものと考えられる。1350は口縁部が外反する薄手の土師器小皿である。1351は南伊勢系の土師器鍋口縁部片である。これらは鎌倉時代のものと思われる。1352は低い貼り付け高台



第134図 SD4出土遺物実測図④ (1:4)

の山皿。第4型式に属するものであろう。1353は高台がわかりにくい山皿である。1354・1355は口縁端部外反、高台が低い山茶碗。1356は底部から口縁部にかけて直線的な山茶碗である。これらは概ね第5型式に属するものであろう。

S K 415出土遺物 (第139図)

1357は、口縁部が内弯し底部の調整が粗雑な薄手の土師器皿である。鎌倉時代のもと考えられる。1358は口縁端部外反がきつい山茶碗口縁部片。1359は高台の低い山茶碗底部片である。これらは概ね第5型式に比定できよう。

S E 46出土遺物 (第140～148図)

1360～1379は口縁部ヨコナデ、底部調整が粗雑な土師器小皿。1380～1382は口縁部内弯し頸部の屈曲が強い土師器甕。これらは平安時代末期に属するものであろう。1383はロクロ製土師器碗である。1384・1385は口縁部が外反し、低い貼り付け高台の山皿。第4型式に属するものであろう。1386は口縁部外反の山茶碗口縁部片、1387・1388は底部から口縁部にかけて直線的な山茶碗である。これらは概ね第5型式に属するものであろう。1389は底部外面に「上」の墨書がみられる山茶碗底部片。1390は黒色土師碗、平安時代後期のものか。1391はロクロ製土師器の底部を使用した加工円盤。1392は陶器底部を使用した加工円盤。1393は円形曲物である。土圧か何らかの力が加わって現状は楕円形である。箍は1段残り2列の樺皮綴じ、側板は1列の樺皮綴じで内面には縦平行線のケビキが施されている。箍と側板の間には4ヶ所に添木が挿入されている。1394は円形曲物。箍は2段残りそれぞれ2列の樺皮綴じで内面には縦平行線のケビキをいれている。側板は1列の樺皮綴じで内面には縦平行線のケビキをいれている。1395は円形曲物、土圧か何らかの力が加わって現状は楕円形を呈している。箍は2段残り、それぞれ2ヶ所の樺皮綴じである。側板は1列の樺皮綴じで内面には縦平行線のケビキをいれている。箍と側板の間3

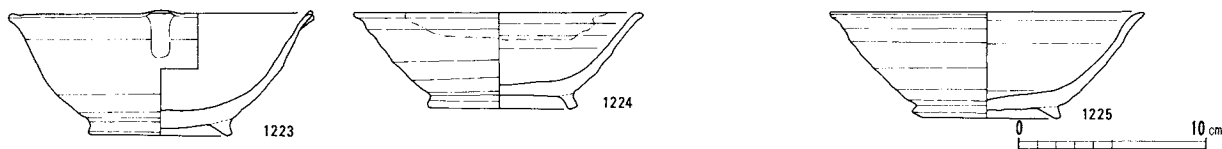
ヶ所添木を挿入している。1396～1433は井戸枠の縦板として埋設されていたもの。縦板の先端は腐食の度合いが激しく細くなっているものが多い。1397～1405は木の形状を利用して立体的に木取りされているもの。1406～1433は板状のものであるが、1409・1410・1412・1415などは板状であったのかどうか疑問ではある。1396は容器として使用されていた曲物の底部分であらう。井戸枠の縦板に転用されていた。1429・1431も転用の可能性がある。1434～1436は横位に埋設されていたものである。曲物を固定するために使われていたようだが、横棧とは考えにくい。これら以外に、モモの種実遺体が出土した。

S E 55出土遺物 (第149図)

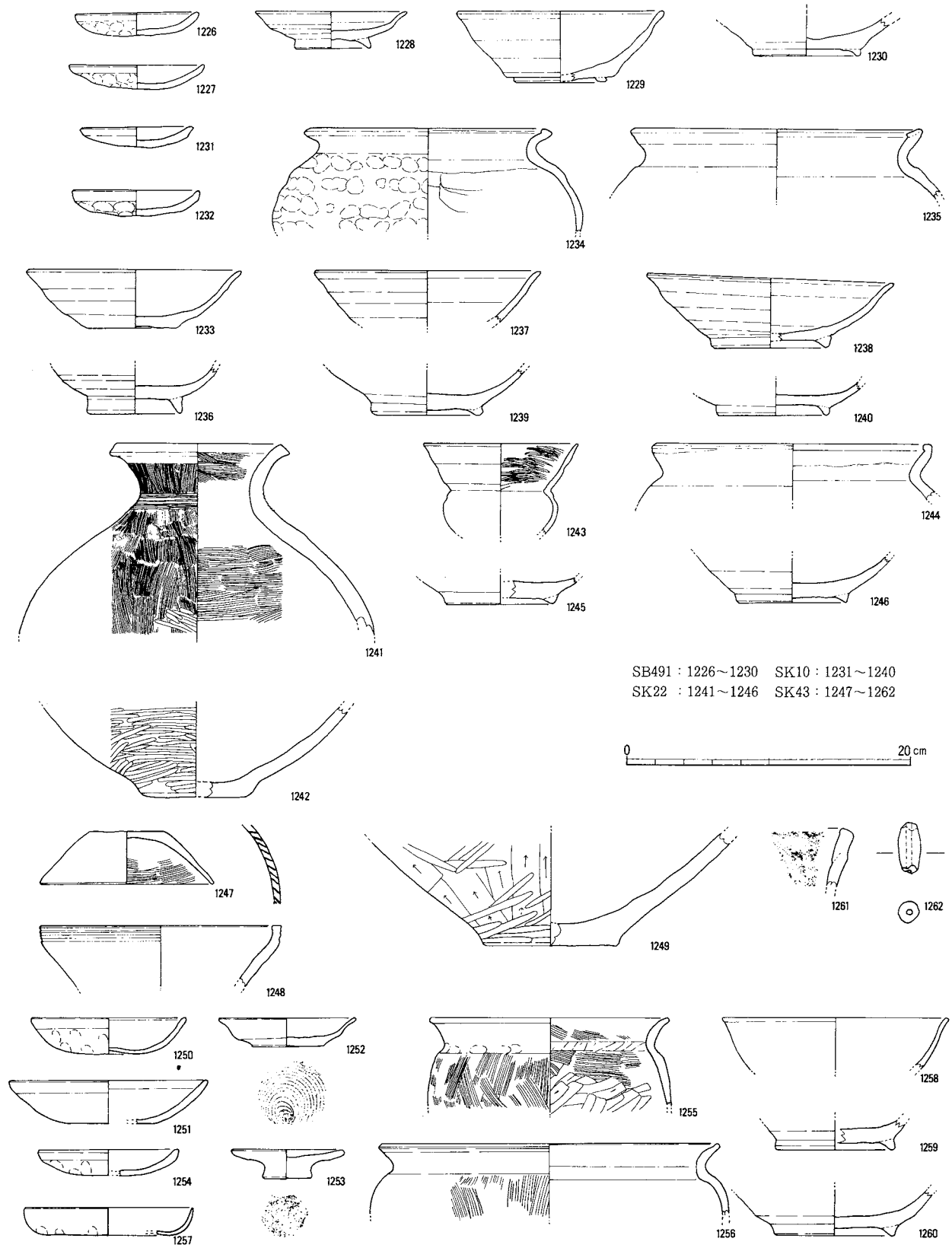
平安時代末期から鎌倉時代にかけての遺物が混在する。1437は底部平坦で口縁部断面が弓状の土師器小皿である。平安時代末期に属するものと考えられる。1438は山茶碗底部片である。概ね第4～5型式に比定できよう。1439・1440は円形曲物。1439は箍は1段残り、綴じ合わせ部分は欠失している。側板は1列の樺皮綴じで内面には縦平行線のケビキが入れられている。1440は2列の樺皮綴じの箍が2段残り、側板は1列の樺皮綴じで内面には縦平行線のケビキをいれている。

S E 207出土遺物 (第150図)

平安時代後期から鎌倉時代にかけての遺物が混在する。1441はロクロ製土師器皿の底部片。底部外面に糸切り痕が残る。平安時代後期のものといえよう。1442は口縁部が内弯し、頸部の屈曲がみられる土師器甕である。平安時代末期のもと考えられる。1443・1444は口縁部が内弯し底部の調整が粗雑な薄手の土師器皿である。これらは鎌倉時代のもと思われる。1445は口縁部外反し、高台が低い山茶碗。1446は山茶碗底部片である。これらは概ね第4～5型式に属するものであろう。1447は漆塗布の木製碗の底部片。底部内面に漆の塗布がみられる。1448は棒状木製品。1449は板状木製品。これらは、井戸枠とし



第135図 SX318・419出土遺物実測図(1:4) ※SX318:1223・1224, SX419:1225



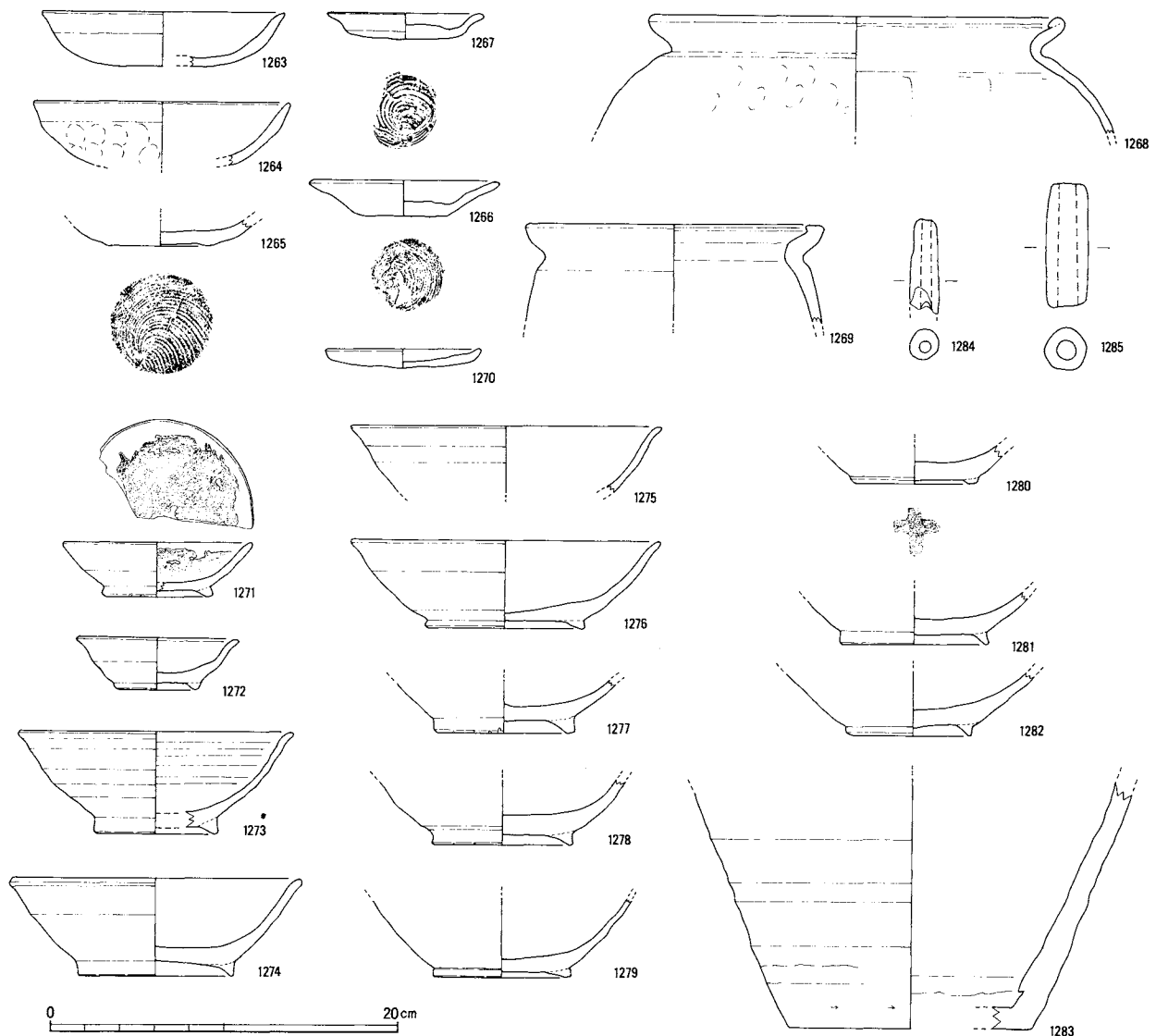
第136図 SB491, SK10・22・43出土遺物実測図(1:4)

て使用した可能性も否定はできない。1450は円形曲物である。箍は1段残り樺皮綴じされている。側板は2列の樺皮綴じで、内面には縦平行線のケビキが入れられている。箍と側板の間には1ヶ所添木が挿入されていた。1451は容器の円形曲物の底部分であろう。1452は斎串。圭頭を作り左右に1ヶ所切り込みがみられる。これら以外に、コナラ属、オニグルミやモモなどの種実遺体が出土した。

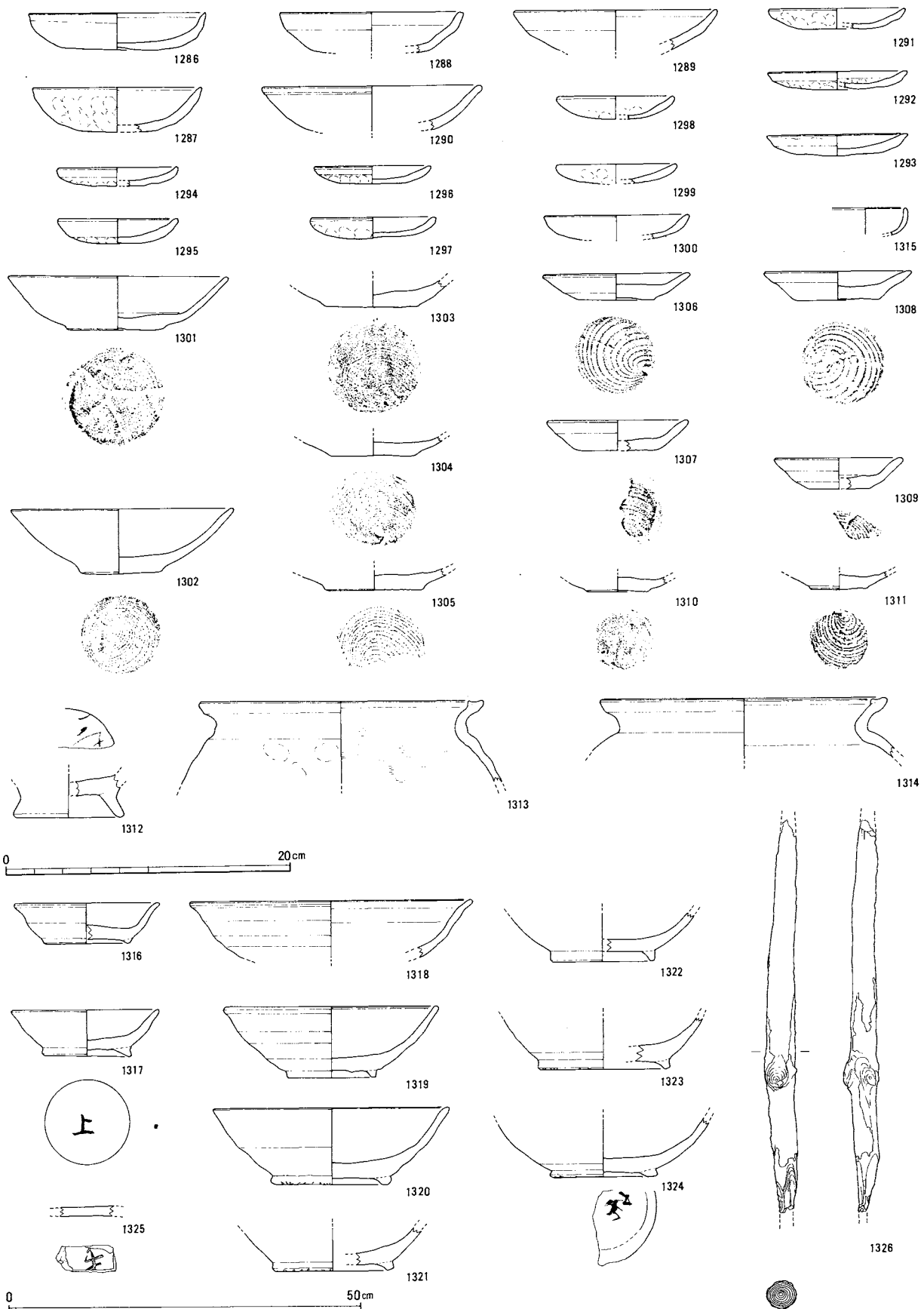
SE 221出土遺物 (第151図)

平安時代後期から鎌倉時代にかけての遺物が混在する。1453はロクロ製土師器皿の底部片。底部外面に糸切り痕が残る。これは平安時代後期のものといえよう。1454・1455は口縁部が内湾し、頸部の屈曲がみられる土師器甕である。平安時代末期のもの

考えられる。ここには掲載していないが口縁部内湾する薄手の土師器皿の細片が出土している。細片のため実測は割愛した。1456は山茶碗底部片である。これらは概ね第4～5型式に属するものであろう。1457～1461は板状木製品。井戸枠として使用した可能性も考えられるが出土状況からは判断に苦しむ。1462は円形曲物である。箍は1段残り2列の樺皮綴じである。側板は1列の樺皮綴じで、内面には縦平行線のケビキが入れられている。1463も円形曲物である。箍は残っていないが、側板に結合孔がみられるので本来は存在したことが推測できる。側板は1列の樺皮綴じで、内面には縦平行線のケビキが入れられている。これら以外に、モモの種実遺体が出土した。



第137図 SK220出土遺物実測図 (1:4)



第138図 SK367出土遺物実測図(1:4, 1326は1:8)

S E 224出土遺物 (第152図)

1464・1465は底部未調整の薄手の土師器小皿である。1466は口縁部が内弯し底部の調整が粗雑な薄手の土師器皿である。これらは鎌倉時代のものと思われる。1467は高台部分が低い山茶碗底部片である。第6型式に属するものであろう。1468は板状木製品。井戸枠として使用した可能性が考えられる。

S E 225出土遺物 (第152図)

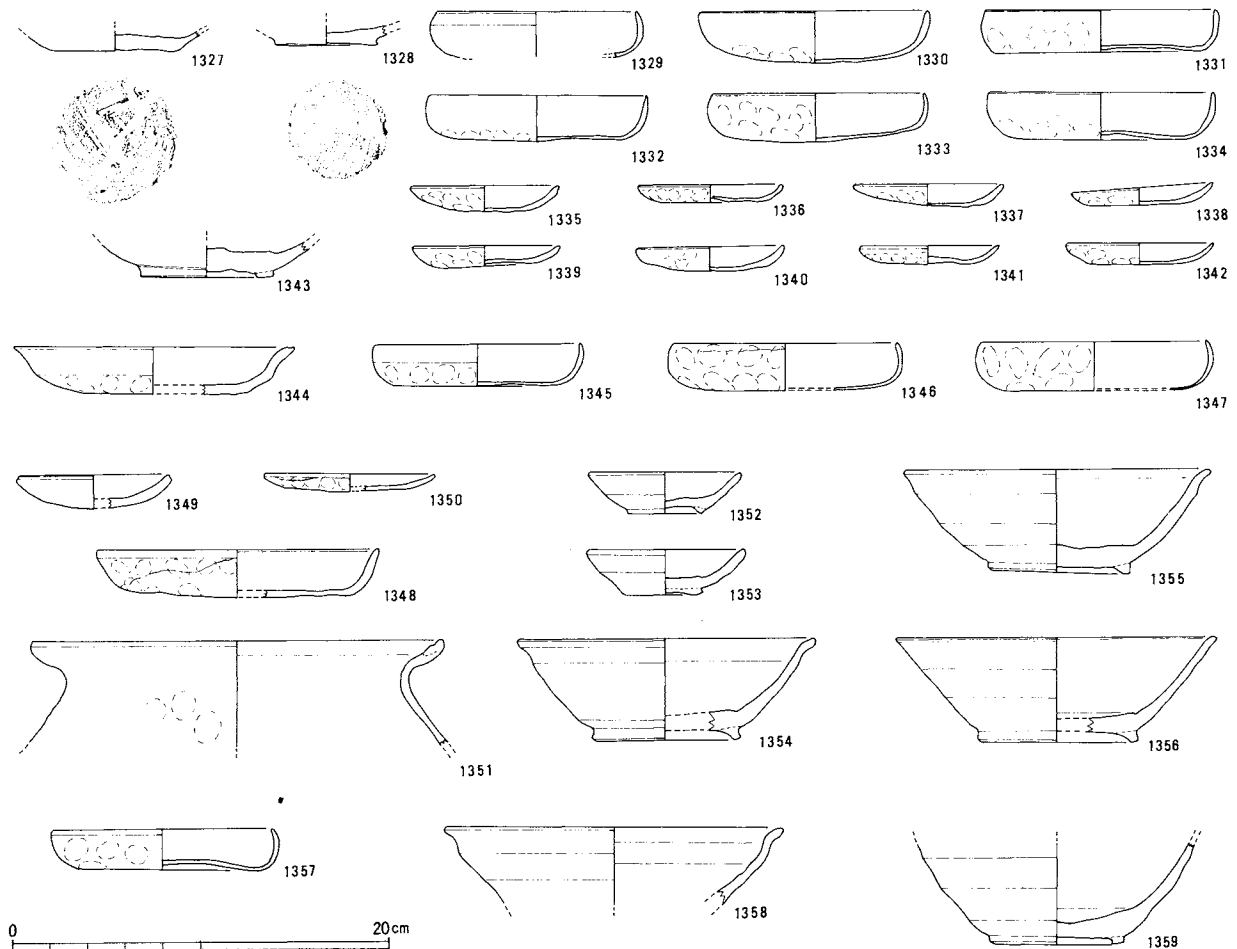
1469・1470は口縁部が内弯し底部の調整が粗雑な薄手の土師器皿である。これらは鎌倉時代のものと思われる。1471は底部から口縁部にかけて直線的な山茶碗口縁部片、底部に近い外面に「ドーマン」を略したものと考えられる「#」の墨書がみられるもの。第6型式に属するものと思われる。1472は円形曲物の一部分である。内面にはケビキが施されていないのがわかる。箍の一部分である可能性もある。

S E 226出土遺物 (第152図)

1473・1474は口縁部が内弯し底部の調整が粗雑な薄手の土師器皿である。1475は南伊勢系の土師器鍋である。これらは鎌倉時代のものと思われる。1476は底部から口縁部にかけて直線的な山茶碗である。1477は口縁部が少し外反する山茶碗で、底部外面には「お」の墨書がみられる。これらは第6型式に属するものか。1478は円形曲物。箍や側板綴じ合わせ部の樹皮も残っていない。側板だけのもので、内面には縦平行線のケビキが入れられている。また、下部には箍との結合孔が残る。1479は円形曲物の一部分である。樺皮綴じの痕が残る。箍である可能性もある。1480は中央部分が膨らんだ筒状の土錘である。

S E 231出土遺物 (第153図)

1481は底部の調整が粗く薄手の土師器小皿。1482は底部の調整が粗雑で口縁部断面が弓状の土師器皿



SK223 : 1327~1343 SK418 : 1348~1356
SK407 : 1344~1347 SK415 : 1357~1359

第139図 SK223・407・415・418出土遺物実測図(1:4)

である。1483は南伊勢系の土師器鍋である。これらは鎌倉時代のものといえよう。1484は口縁部が外反し、底部に墨書がみられる山茶碗。1485は口縁部から底部にかけて直線的な山茶碗口縁部片である。これらは概ね第6型式に属するものであろう。1486は円形曲物。側板の下部だけ残ったものと思われる。箍や側板綴じ合わせ部の樹皮も残っていない。側板内面には縦平行線のケビキがみられる。1487は円形曲物。側板は1列の樺皮綴じで、内面には縦平行線のケビキがみられる。側板の上下には箍を固定する結合孔がみられる。

SE 232出土遺物 (第154図)

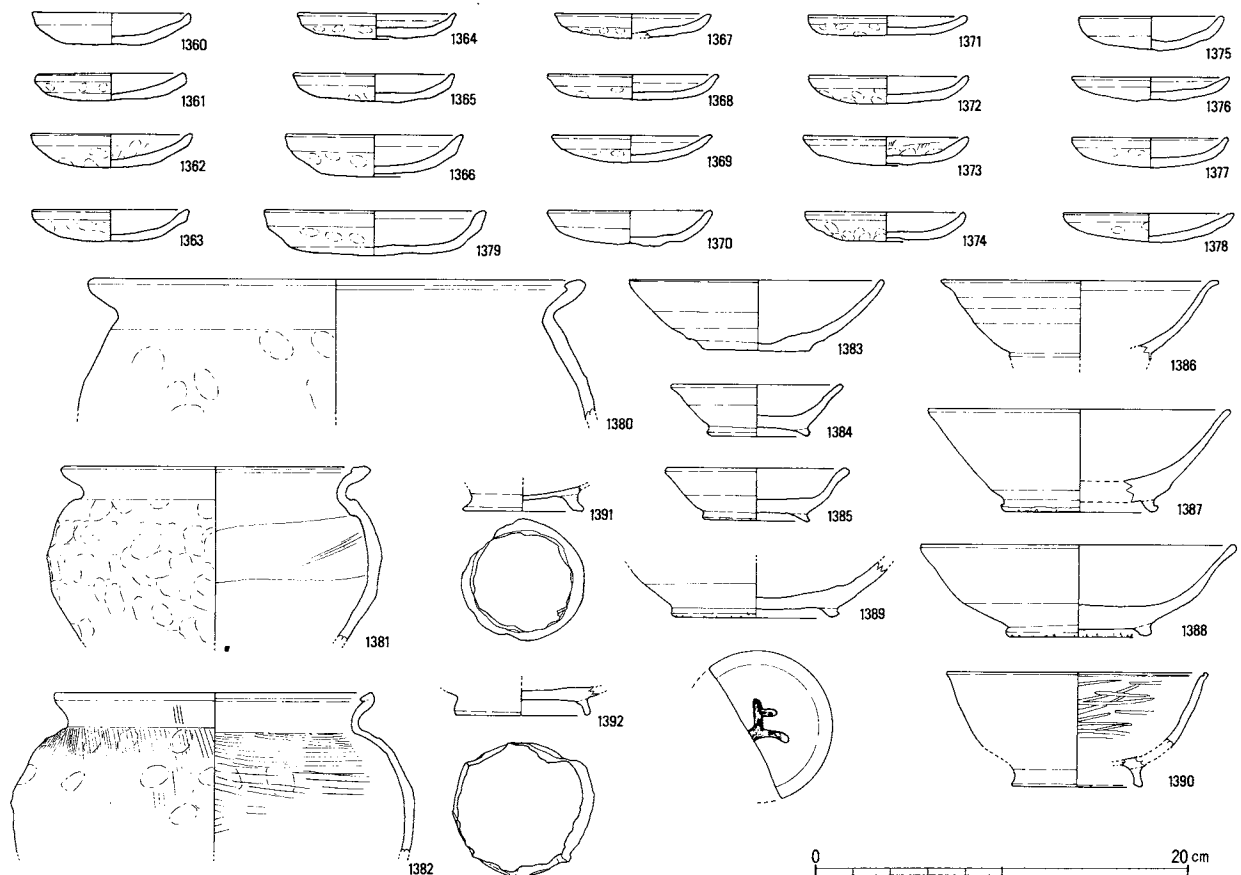
1488は口縁部が外反する土師器杯。平安時代後期のものか。1489は板状木製品。井戸枠の一部分か。判断に苦しむ。1490は円形曲物。箍は2列の樺皮綴じのものが1段残る。側板は1列の樺皮綴じで、内面には縦平行線と一部に斜格子のケビキがみられる。ここには掲載していないが山茶碗底部片がこれらの遺物とともに出土している。

SE 233出土遺物 (第154図)

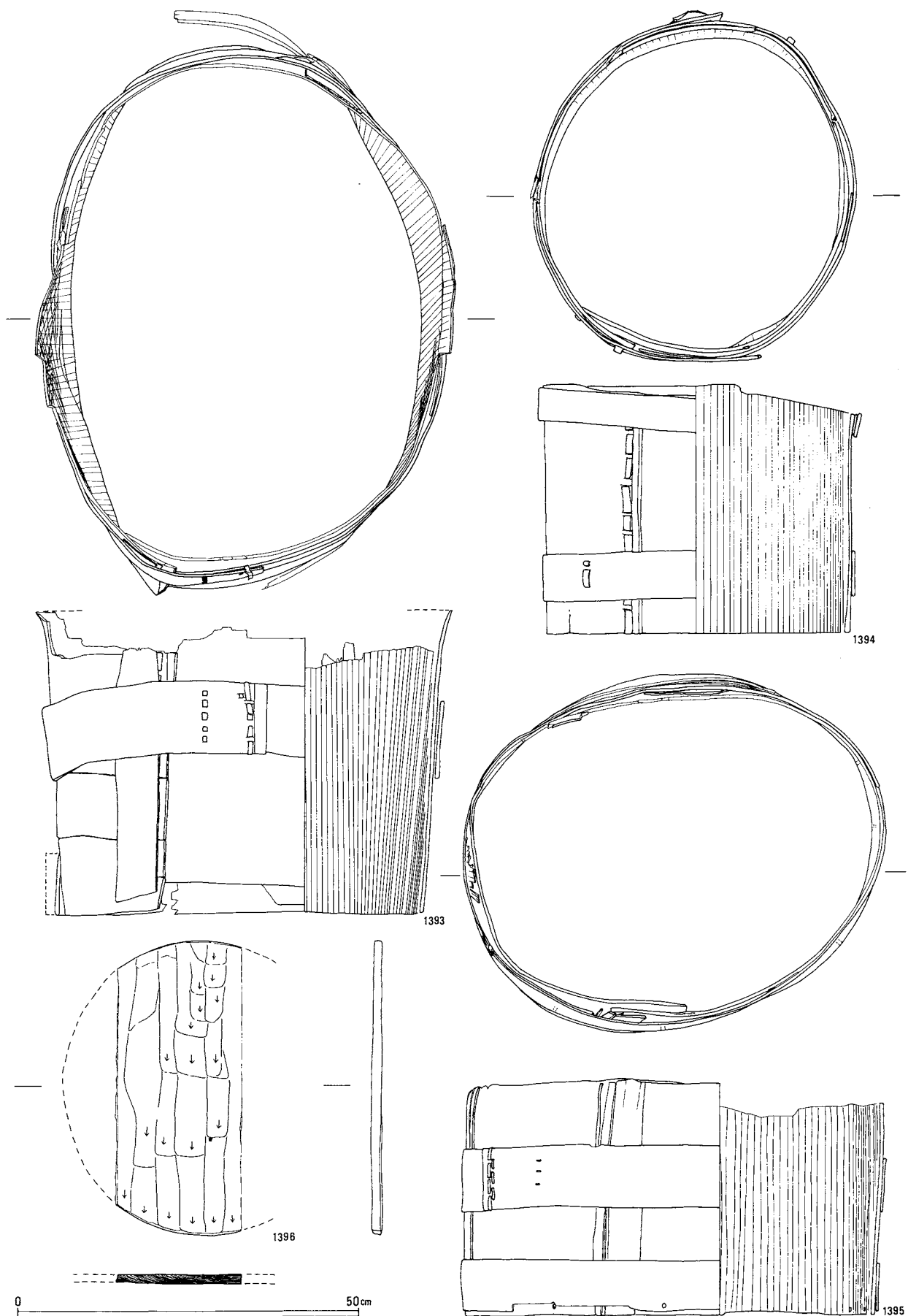
1491は口縁部が少し外反する山茶碗である。第5型式と思われる。1492は円形曲物。箍は一段で一部残る。側板は1列の樺皮綴じである。また、側板内面には縦平行線と一部に斜格子のケビキがみられる。1493は円形曲物。箍は1段残り、1列の樺皮綴じである。側板は1列の樺皮綴じで、内面には縦平行線のケビキがみられる。側板の上下には箍を固定する結合孔がみられる。

SE 368出土遺物 (第155図)

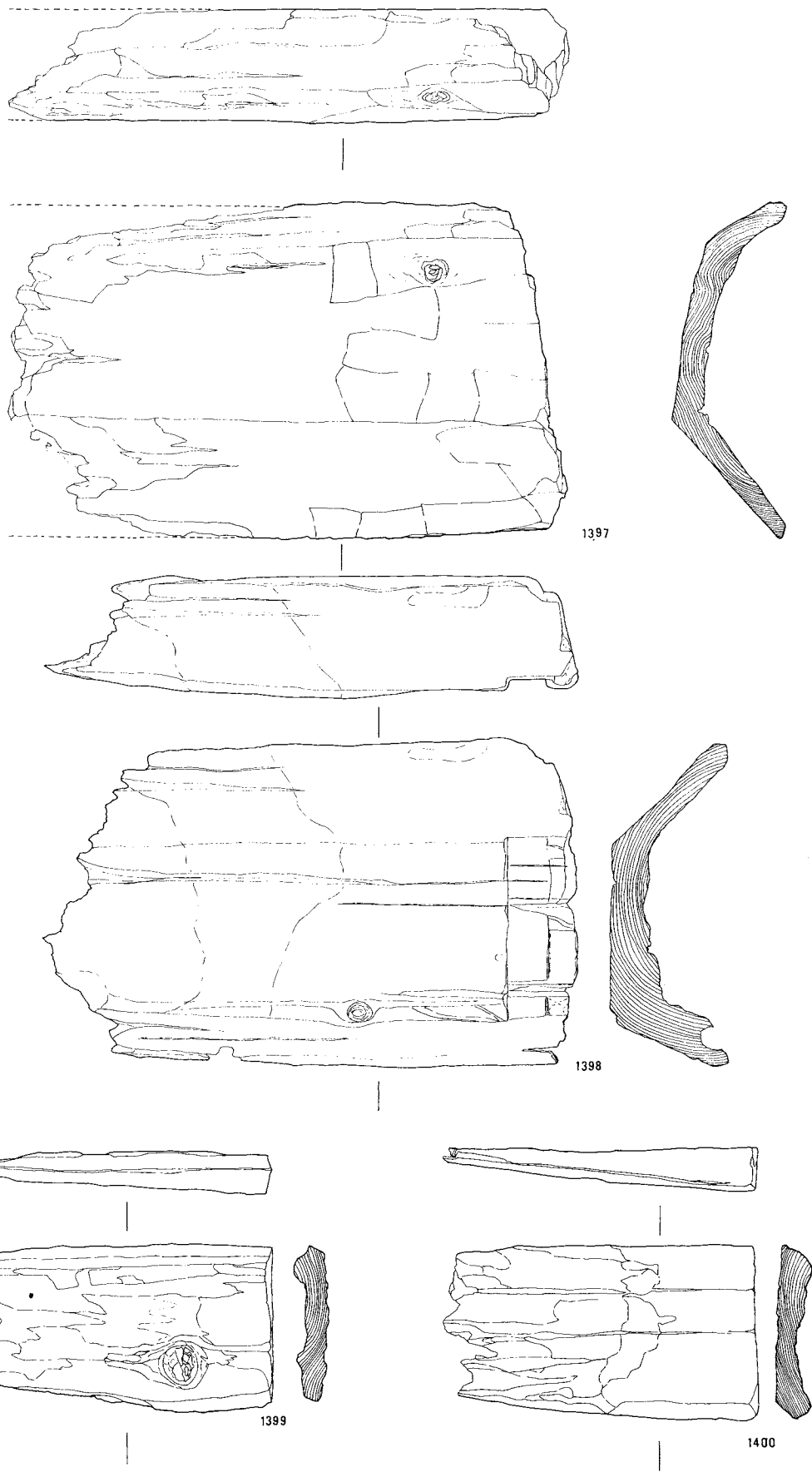
1494・1495は底部調整が粗雑で薄手の土師器小皿。1496・1497は口縁部断面が弓状になる薄手の土師器皿。1498・1499は口縁部内弯する薄手の土師器皿。1500～1503は南伊勢系の土師器鍋である。これらは鎌倉時代に属するものであろう。1504は口縁部外反する山茶碗口縁部片。1505は低い高台の山茶碗底部片である。これらは第5型式に属するものと考えられる。



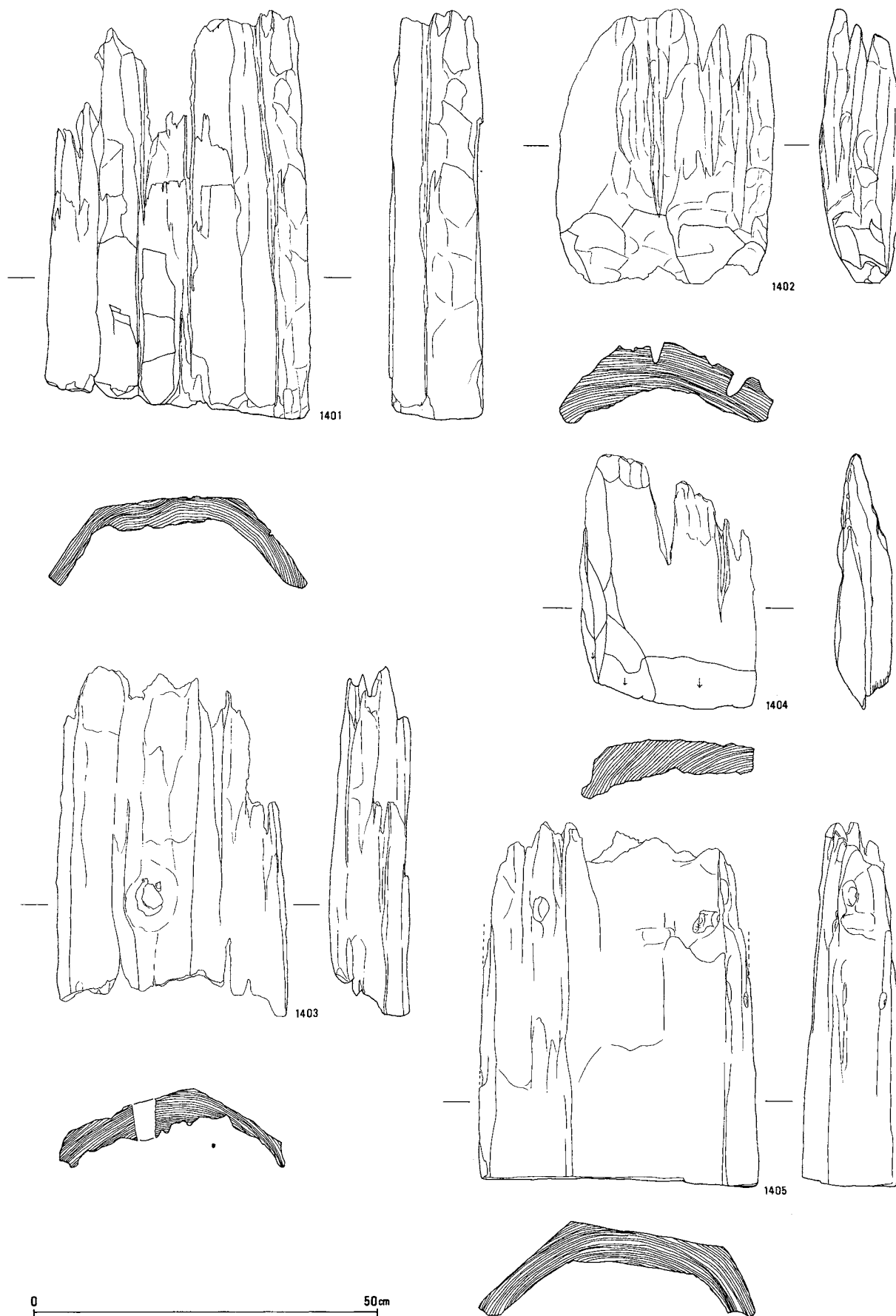
第140図 SE46出土遺物実測図① (1 : 4)



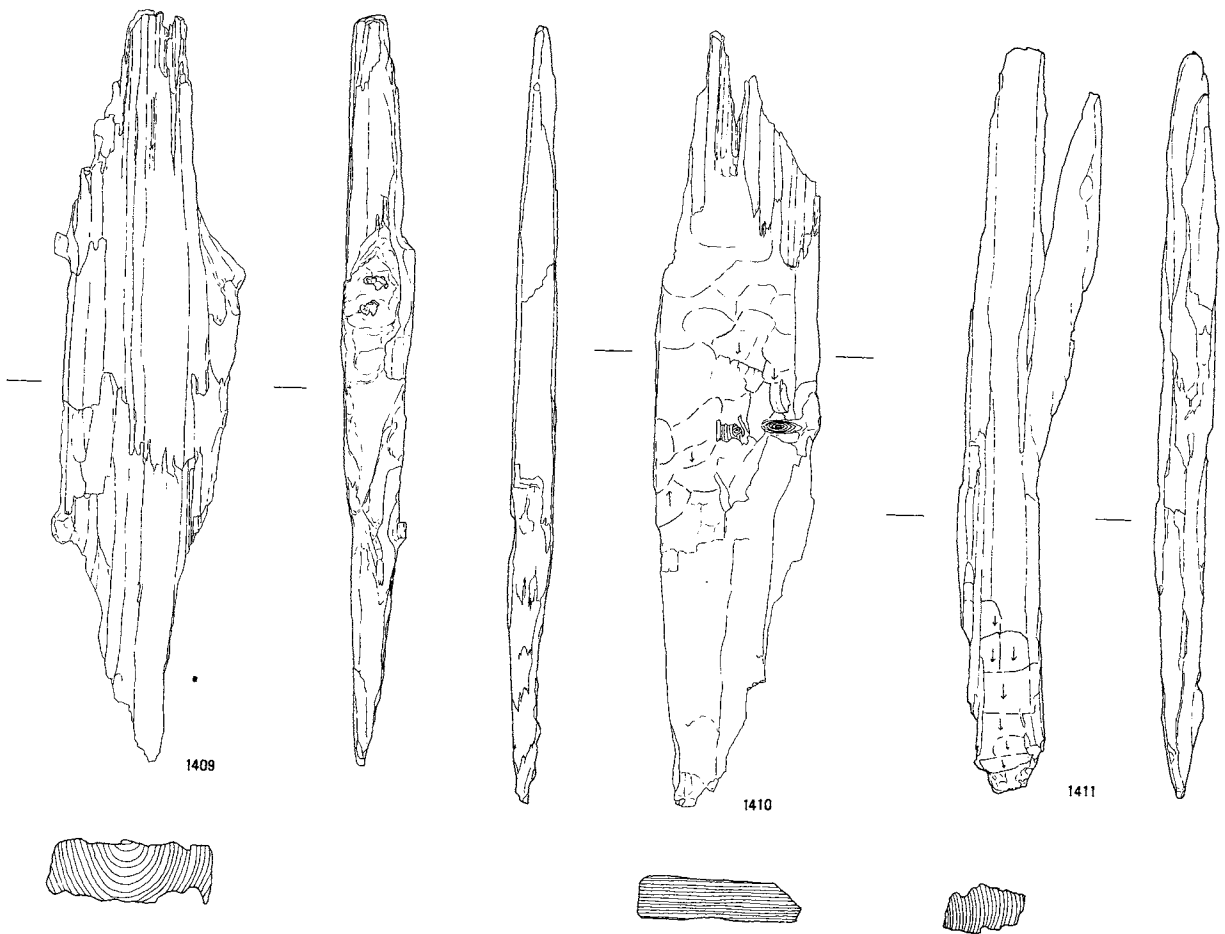
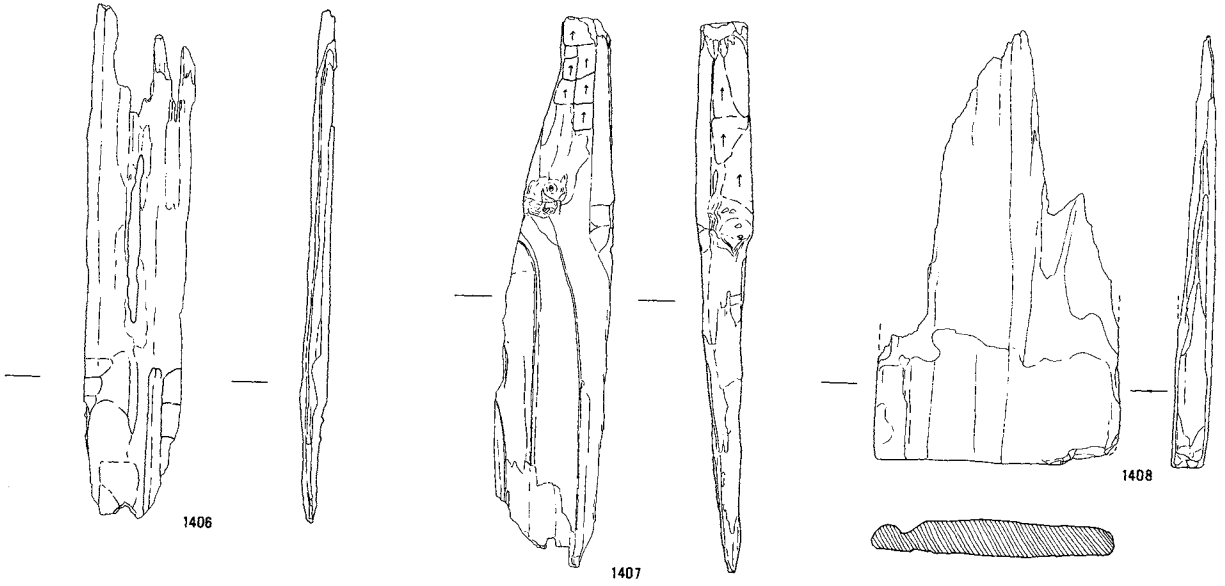
第141図 SE46出土遺物実測図② (1 : 8)



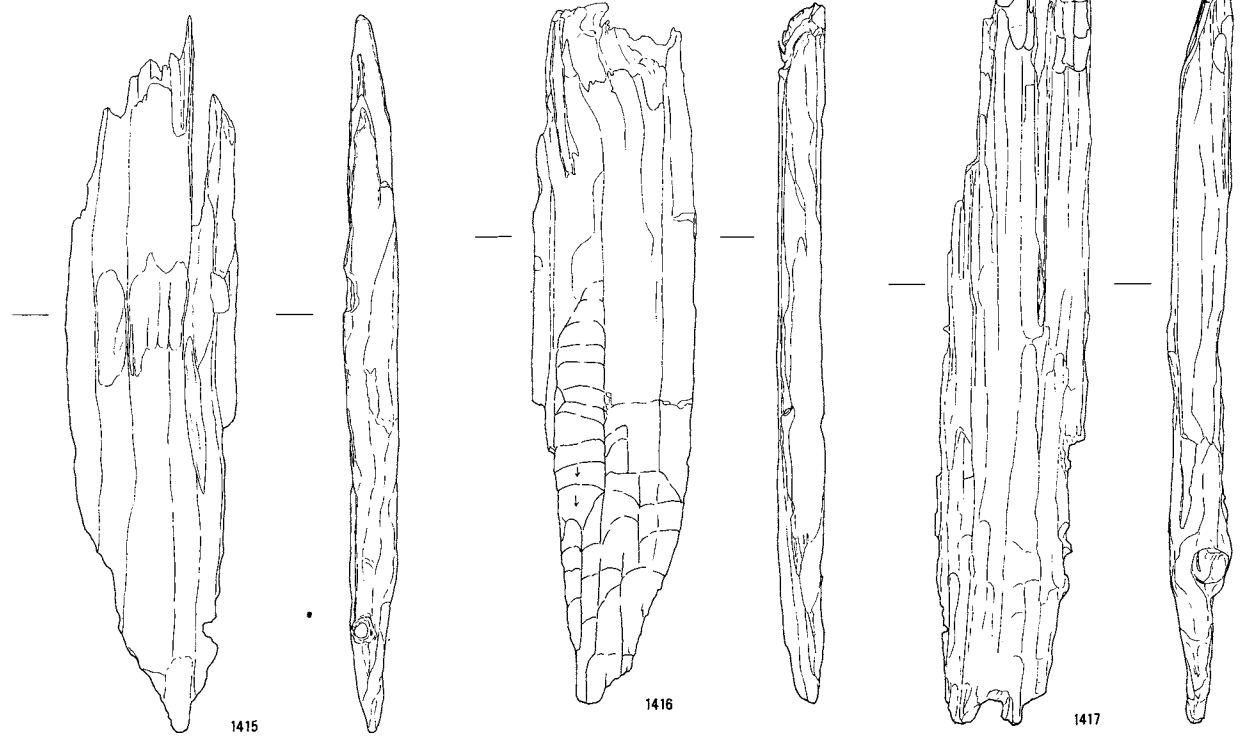
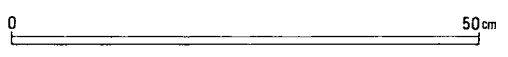
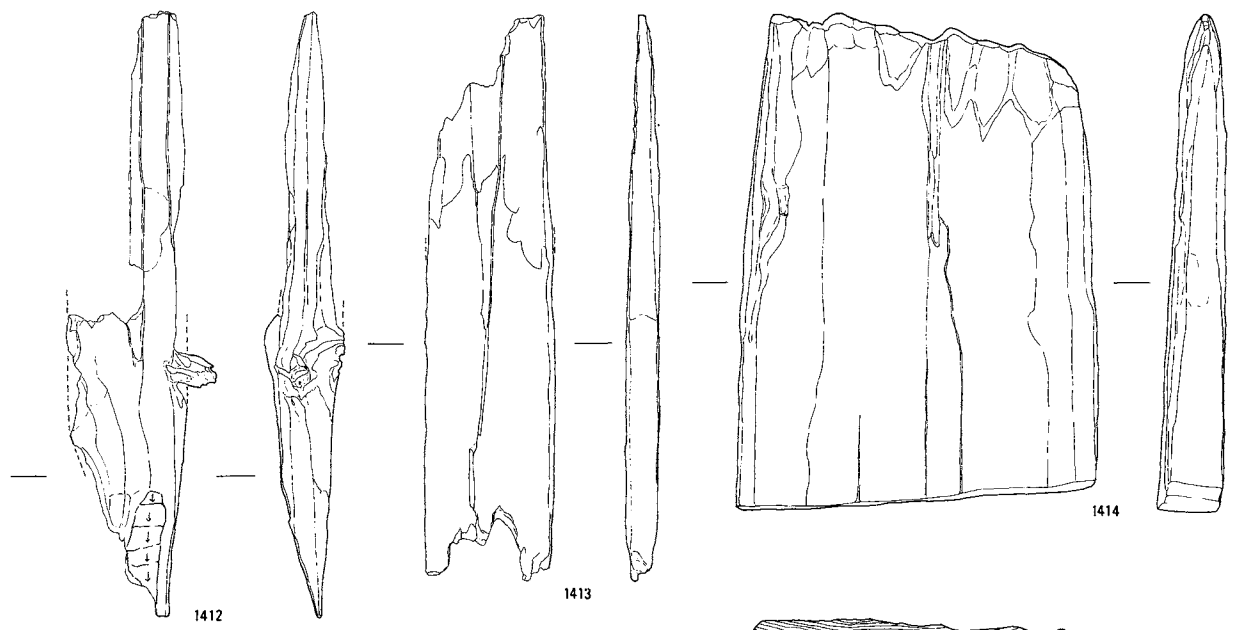
第142図 SE46出土遺物実測図③ (1 : 8)



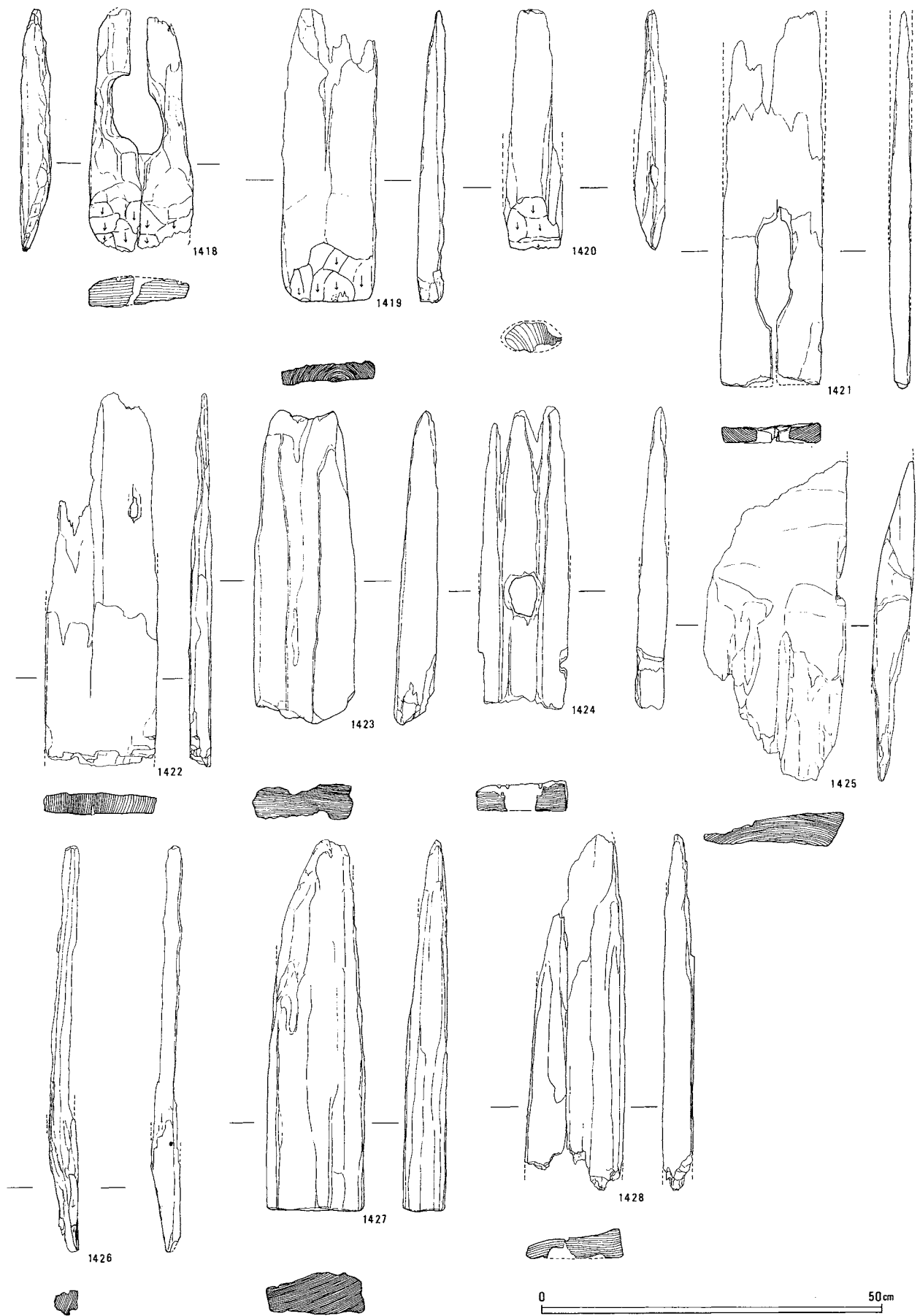
第143图 SE46出土遺物実測図④ (1 : 8)



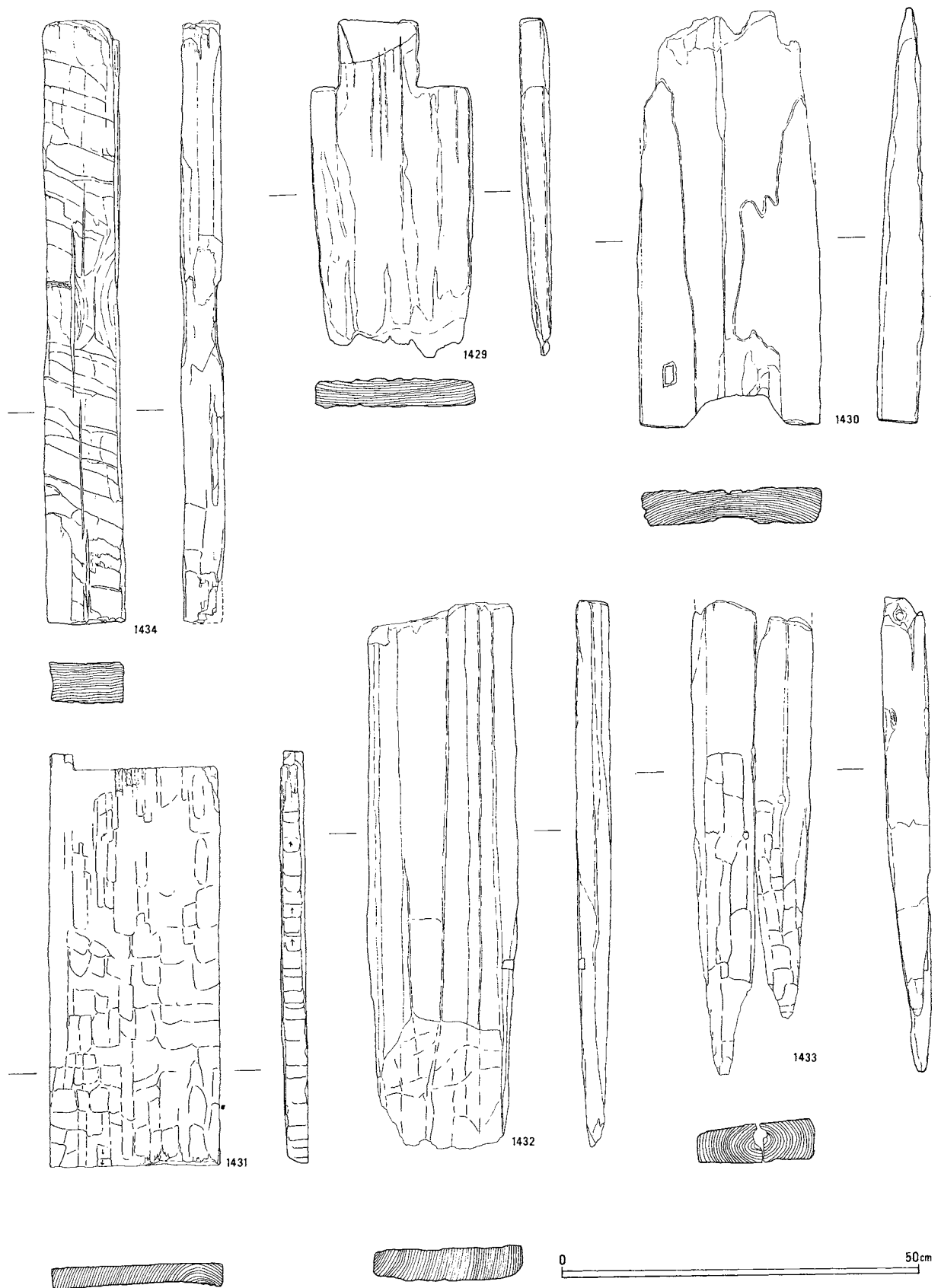
第144图 SE46出土遺物実測図⑤ (1 : 8)



第145图 SE46出土遺物実測図⑥ (1 : 8)



第146図 SE46出土遺物実測図⑦ (1 : 8)



第147图 SE46出土遺物実測図⑧ (1 : 8)

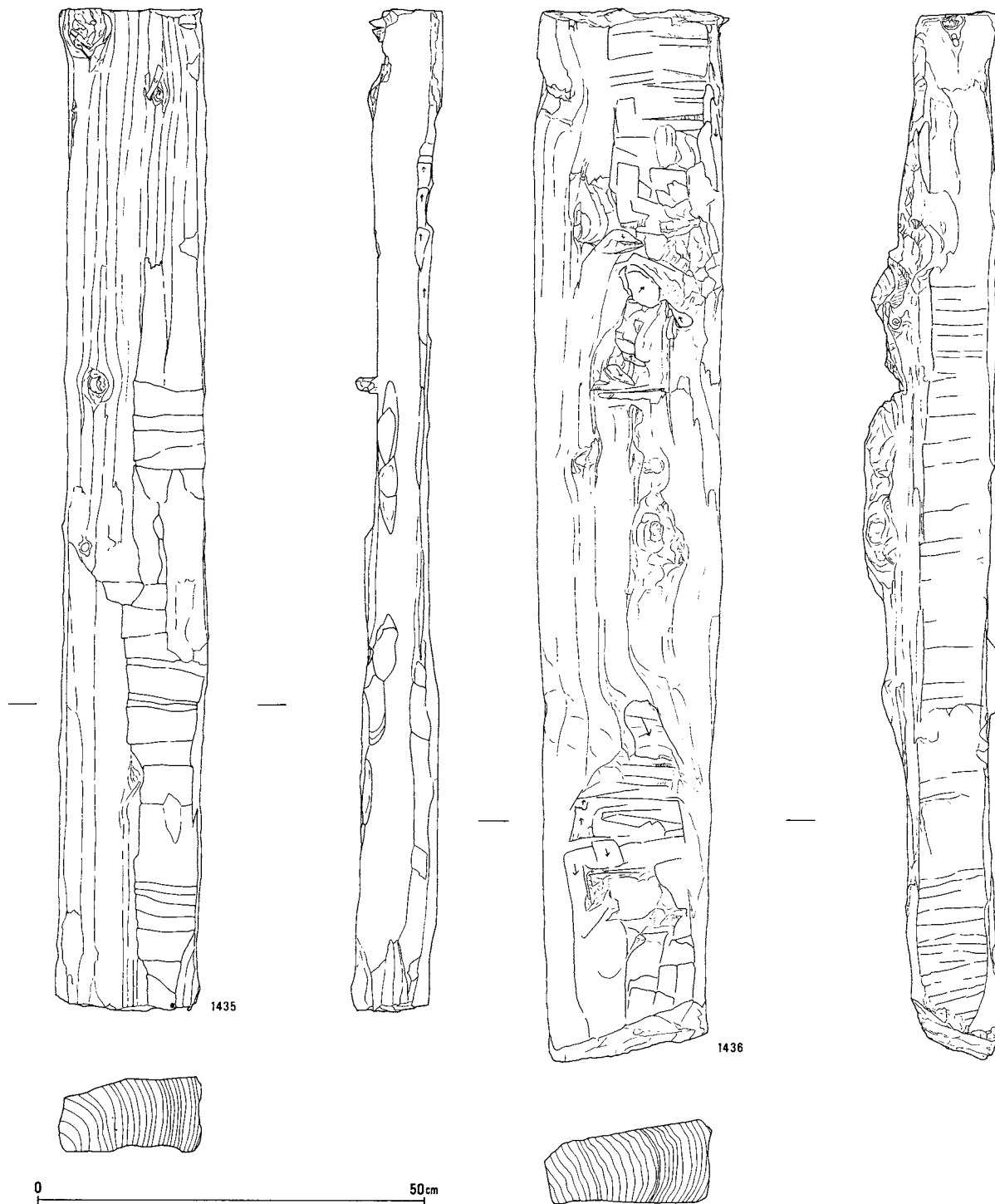
S E 208出土遺物 (第155図)

1506~1508は口縁部外反する山茶碗である。1509は低い高台の山茶碗底部片である。これらは第5型式に比定できよう。1510は弥生土器甕、弥生時代末期のものか。混入遺物である。1511・1512は円形曲物の一部分である。箍や綴じ合わせ部分は残っていない。

それぞれの側板内面には縦平行線のケビキがいられている。1511は下部に箍の結合孔とおもわれる孔列が残る。

S D 472出土遺物 (第155図)

弥生時代後期から鎌倉時代までの遺物が混在する。1513はミニチュア土器の蓋。弥生時代後期前半のもの



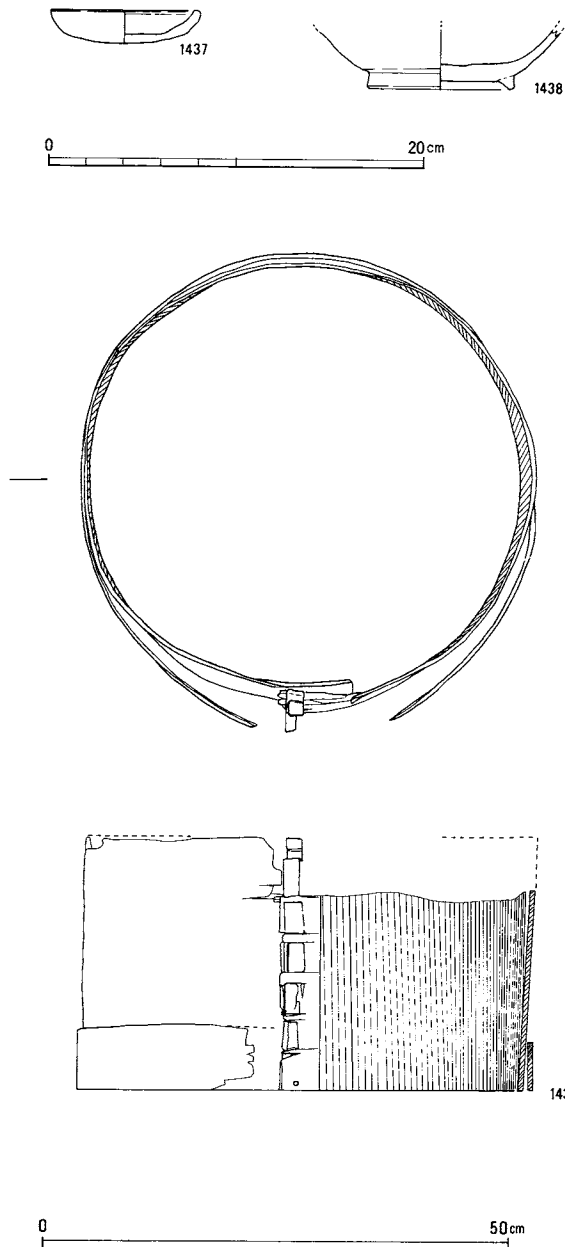
第148図 SE46出土遺物実測図⑨ (1:8)

のか。1514はロクロ製土師器台付皿。平安時代後期のものといえよう。1515は土師器皿。1516は口縁部内弯する土師器甕。これらは平安時代末期に属するものであろう。1517は口縁部外反する山茶碗である。1518・1519は山茶碗底部片である。これらは第5型式に比定できよう。

室町時代以降

S K 25出土遺物 (第156図)

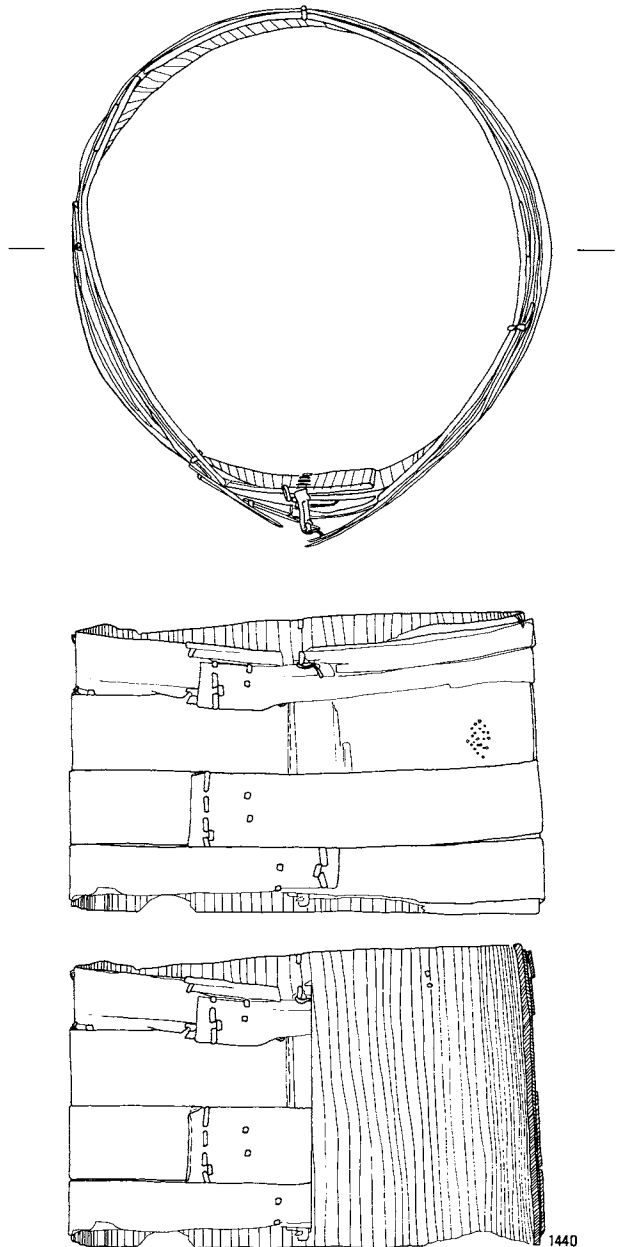
1520は口縁部外反する土師器杯である。平安時代前期のものか。1521は口縁部ヨコナデの土師器皿。



平安時代末期のものであろう。1522は底部の調整が粗い薄手の土師器皿。鎌倉時代のものか。1523は底部調整が粗雑で薄手の土師器小皿。1524～1527は口縁部が内弯する薄手の土師器皿。これらは室町時代に属するものであろう。1528・1529は陶器壺の底部か。これらも、室町時代のものであろう。1530は木製碗。内面に朱漆と黒漆の塗布がみられる。これら以外に、マツ属やモモの種実遺体が出土した。

S K 313出土遺物 (第156図)

1531～1533は底部に糸切り痕が残るロクロ製土師器皿である。平安時代後期のものであろう。1534・



第149図 SE55出土遺物実測図 (1 : 4, 1439・1440は1 : 8)

1535は口縁部内弯する土師器甕。1536は土師器椀である。これらは、平安時代末期のものといえよう。1537は山茶椀片。第6型式に属するものであろう。1538～1541は口縁部が内弯する器厚が薄い土師器皿。1542～1545は底部調整が粗雑で薄手の土師器小皿。これらは、室町時代のものであろう。1546は板状木製品。用途は不明である。これら以外に、ヒメビシの種実遺体が大量に出土した。

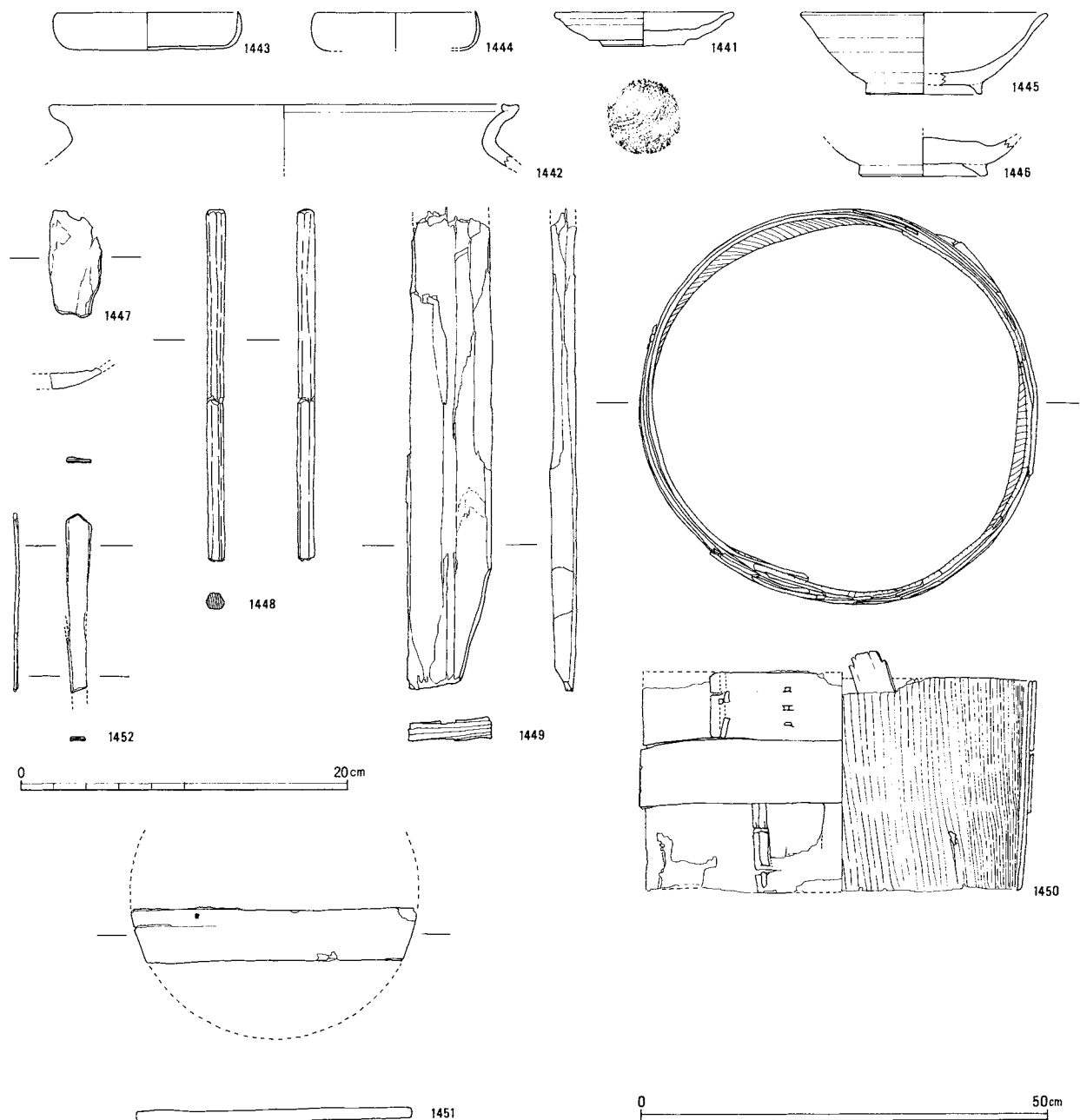
S K 423出土遺物（第156図）

1547は高台の低い山茶椀底部片である。これは第

5型式に比定できよう。1548は南伊勢系の土師器鍋である。鎌倉時代に属するものであろう。1549は南伊勢系の土師器鍋である。室町時代に属するものであろう。1550は陶器甕の底部片。室町時代のものか。1551は球形の土錘か。

S K 356出土遺物（第157図）

1552は土師器羽釜である。室町時代のものであろう。1553～1558は木製杭。先端を削って尖らせている。これら以外に、ヒメビシの種実遺体が出土した。



第150図 SE207出土遺物実測図（1：4、1450は1：8）

S D 204出土遺物 (第158図)

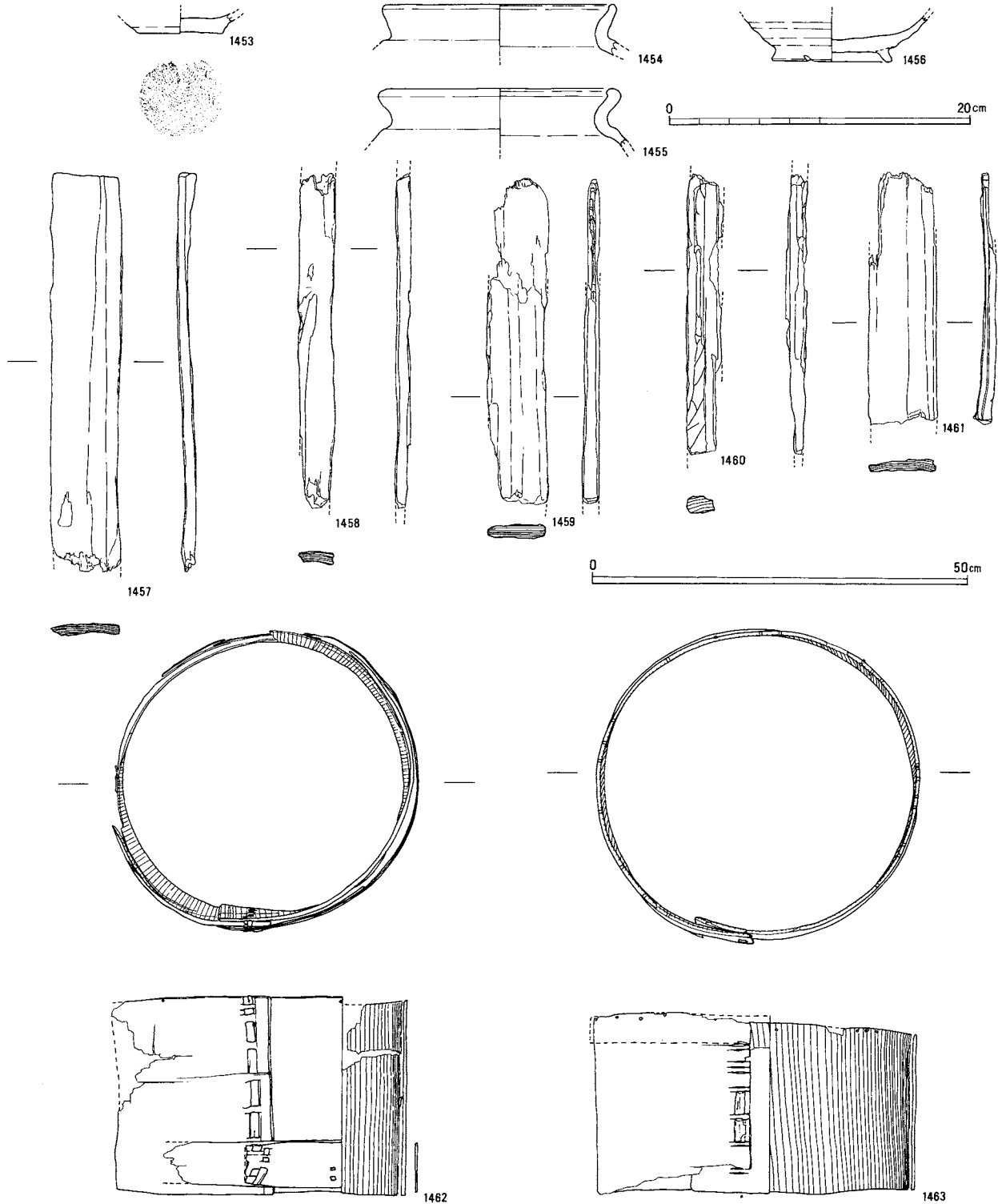
1559は口縁部が内弯する薄手の土師器皿。1560は陶器椀の底部片である。1561は土錘。これらは室町時代のもと考えられる。

S D 206出土遺物 (第158図)

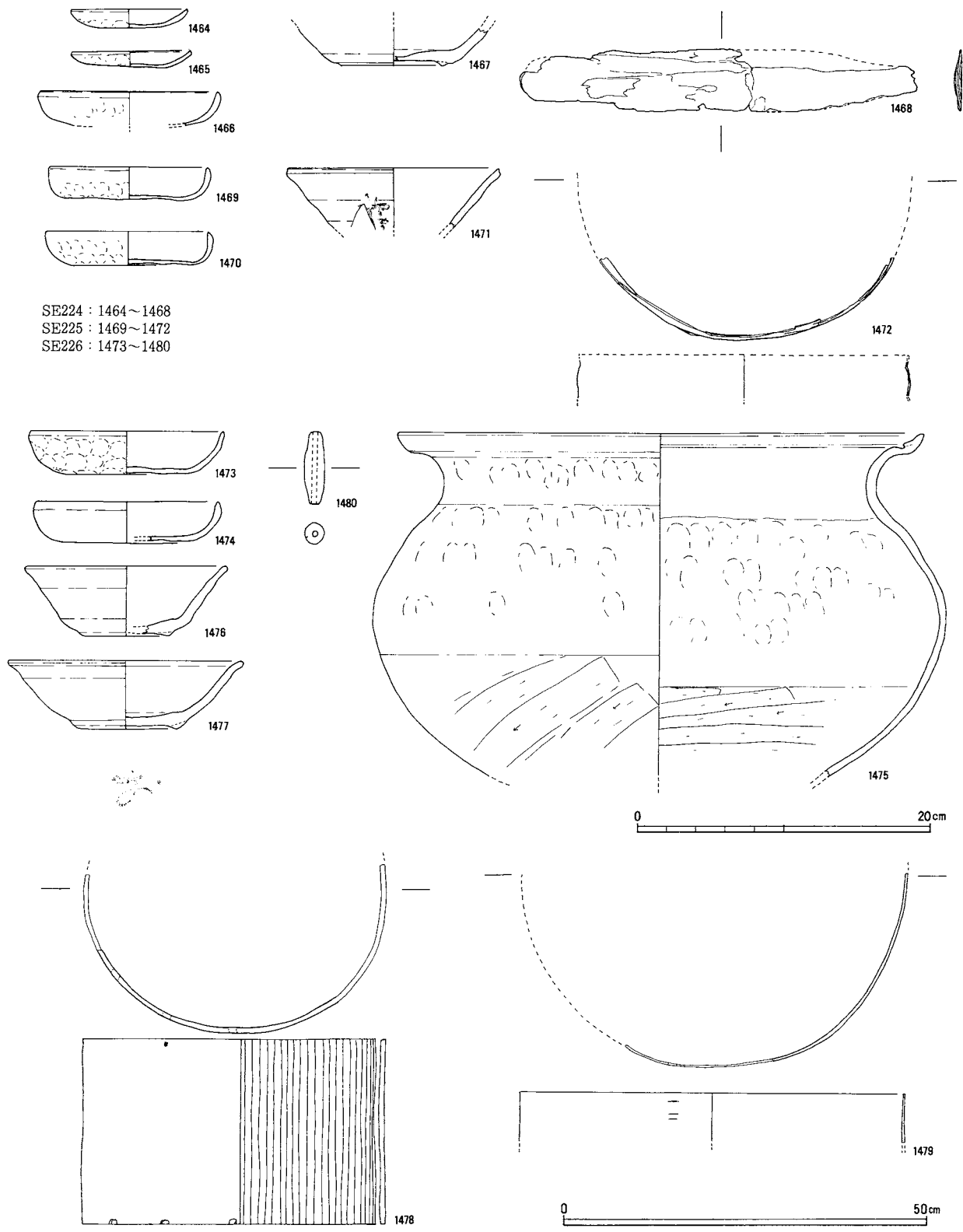
1562・1563は口縁部が内弯する薄手の土師器皿。これらは室町時代のもと考えられる。

S D 371出土遺物 (第158図)

1564～1573は底部調整が粗雑で薄手の土師器小皿。



第151図 SE221出土遺物実測図 (1 : 4, 1457～1463は1 : 8)



第152図 SE224・225・226出土遺物実測図（1：4，1468・1472・1478・1479は1：8）

1574～1588は口縁部が内弯する薄手の土師器皿。これらは室町時代のものと考えられる。1589は口縁部ヨコナデの土師器皿。1590～1592は南伊勢系の土師器鍋である。これらは鎌倉時代に属するものであろう。1593～1596は山茶碗口縁部片。1597～1605は高台の低い山茶碗底部片である。1601の底部外面には「よね」と墨書されている。これらは第5～6型の範疇であろう。松阪市朱中遺跡などでも同様の墨書が出土している。氏名ではなく計量カップ的なものと考えている。1606は陶器壺の口縁部片。室町時代のものか。これら以外に、マツ属やモモの種実遺体が多量に出土した。

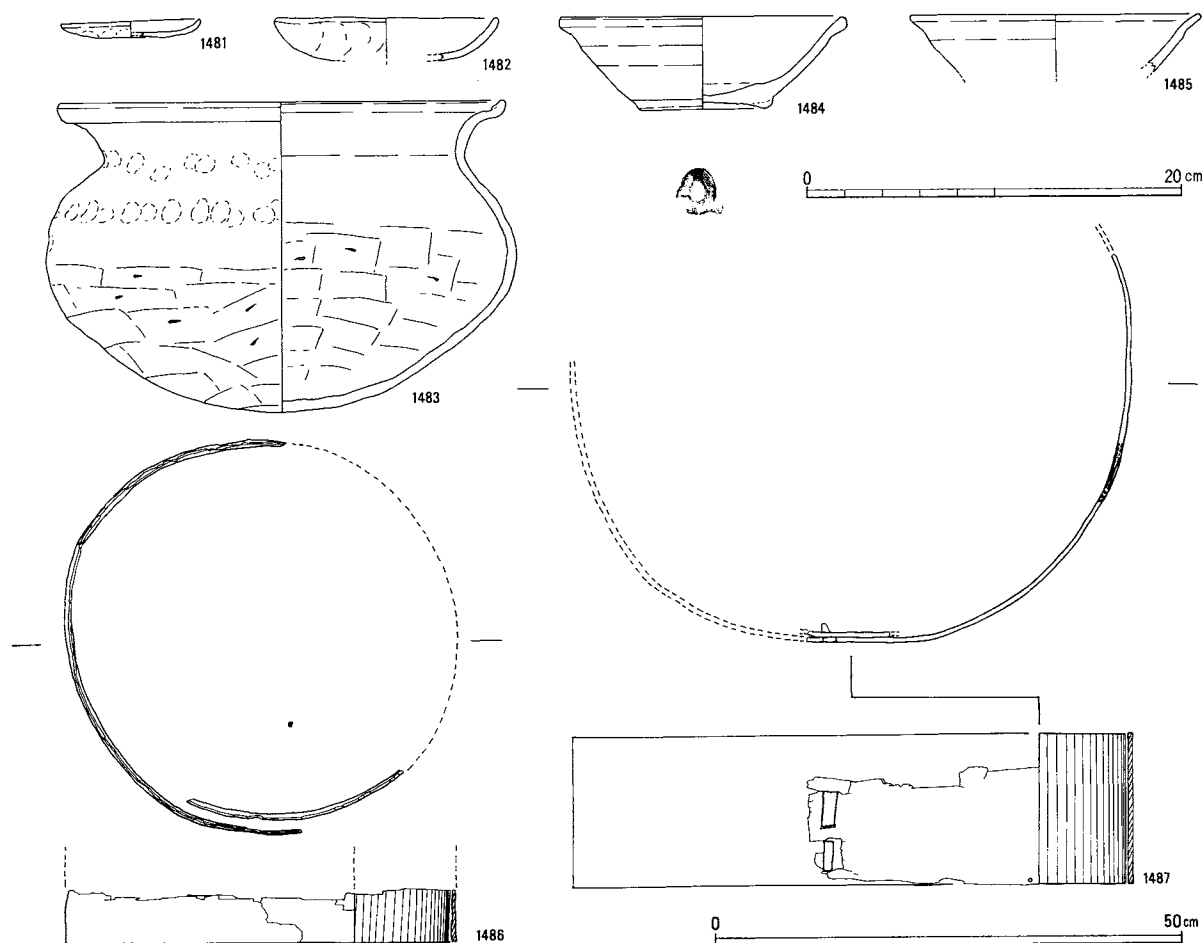
S Z 227出土遺物（第159図）

1607は山皿。第4型式に比定できよう。1608は山茶碗底部片。第5型式か。1609は底部調整が粗雑で薄手の土師器皿。1610は口縁部が内弯する薄手の土師器皿。これらは室町時代のものと考えられる。1611は土鍾。1612～1616は铸貨。北宋系のもので、

1612・1614は「元豊通寶」、1616は「元祐通寶」である。1617は木製杭。先端部分以外では腐食が激しくかなり細くなっている。これらに混じり人骨や馬骨が出土した。

S R 210出土遺物（第160～186図）

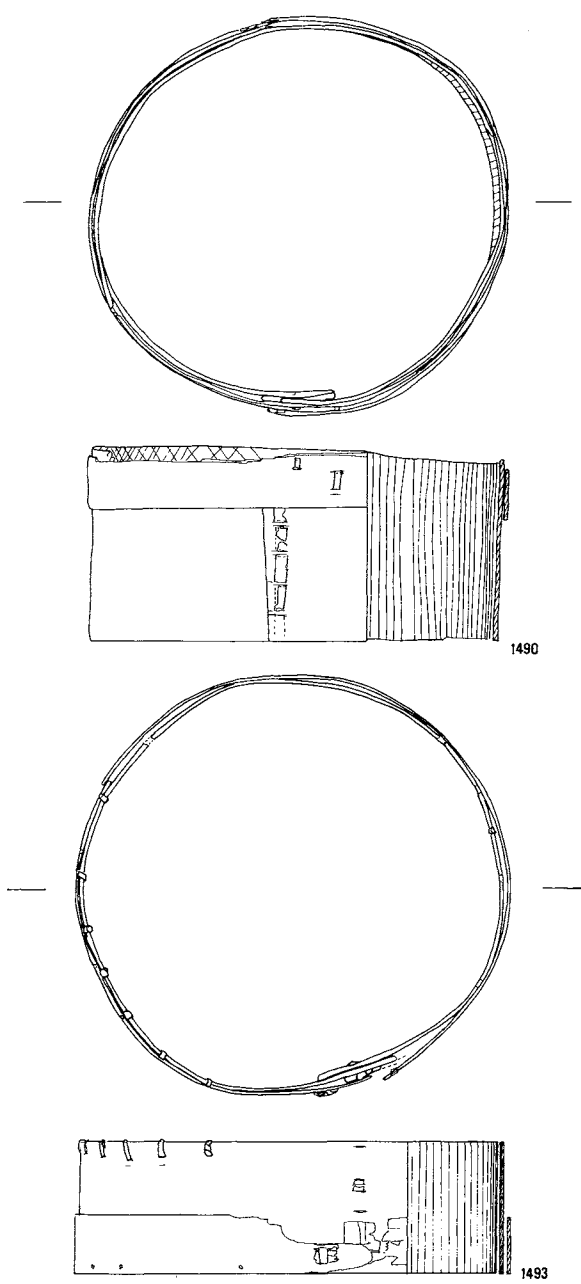
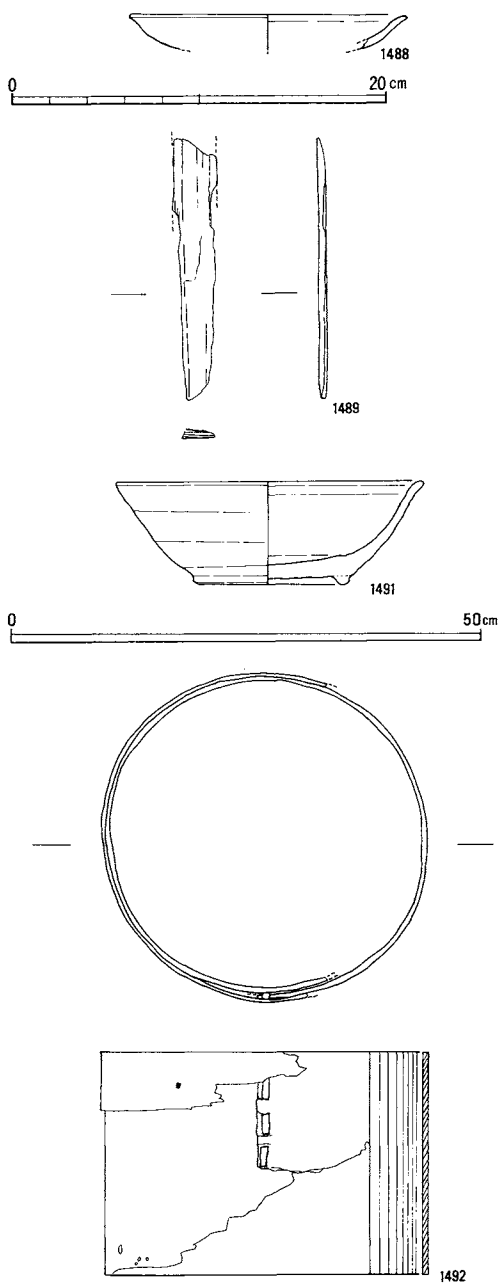
1618は底部が平坦で、口縁部が内弯気味の土師器皿である。口縁部内面には放射状暗文、底部内面には螺旋暗文が施されている。1619は底部が平坦で、口縁部が内弯気味の土師器皿である。口縁部内面には放射状暗文、底部内面には螺旋暗文が施されている。1620・1621は底部が平坦で、口縁部が外反する口縁部ヨコナデ、底部ケズリの土師器皿。1620は底部外面に「メ」の線刻がみられる。1622～1632は底部が平坦で、口縁部が外反し口縁端部が内弯する土師器杯である。調整は口縁部ヨコナデ、底部ケズリである。1622は底部に近い外面に「ドーマン」を省略したと考えられる線刻が施される。1627は土器内面に放射状暗文と螺旋暗文が施されている。1629は



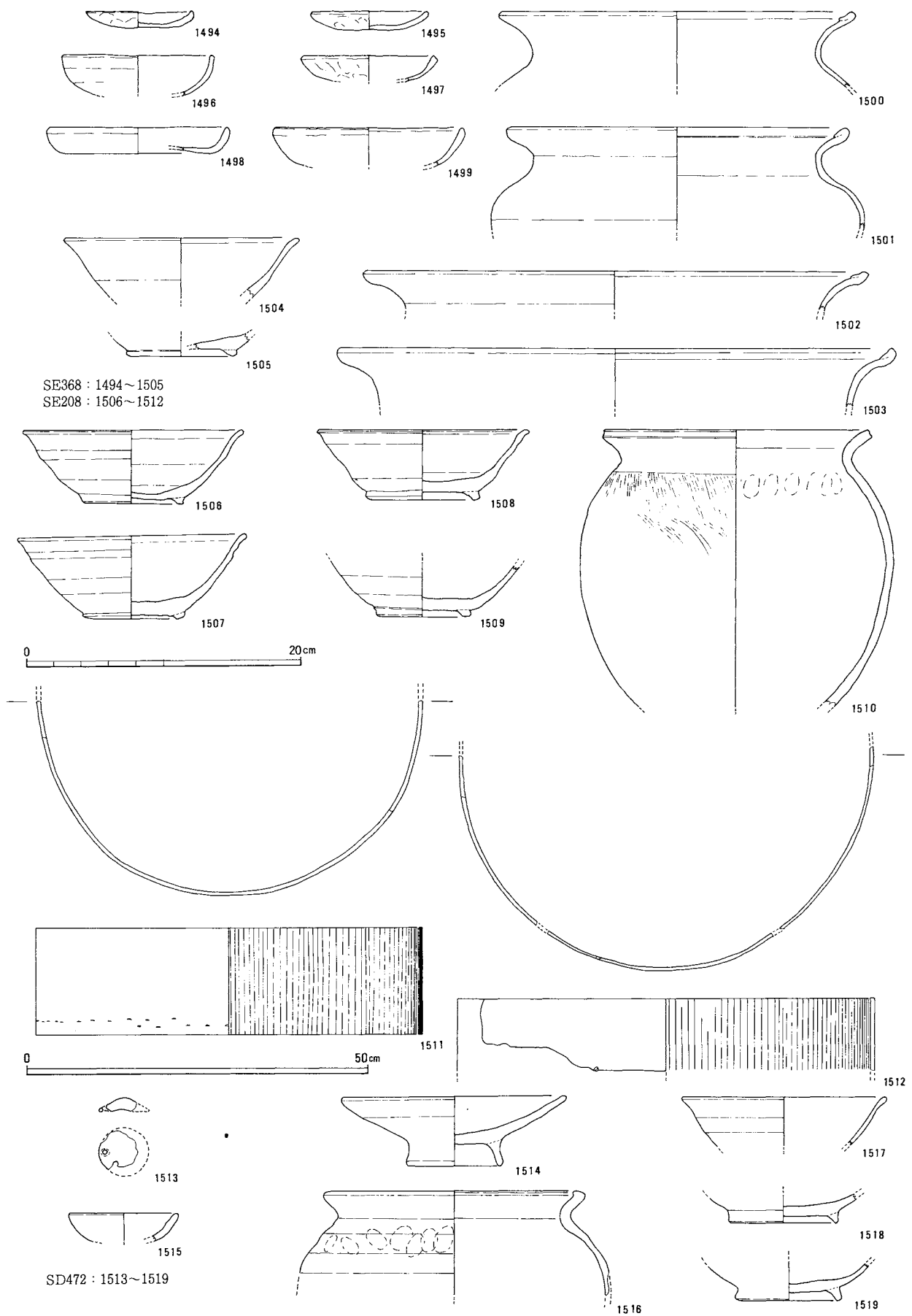
第153図 SE231出土遺物実測図（1：4，1486・1487は1：8）

土器内面が黒く、黒色土器の可能性もある。1633～1655は口縁部が内弯気味の土師器杯である。1633は口縁端部付近内面に漢字7～8文字、底部外面には「上」の墨書が施されている。1634は底部外面に「中」あるいは「宮」と考えられる墨書が施されている。1637の底部内面には「ナ」の線刻がみられる。1640は底部内面に「々」の線刻がみられる。1654は底部の外面に「X」の線刻が施されている。1656～1662は底部平坦で、口縁部外反し端部が内弯する土師器杯である。1656は底部内面に螺旋暗文、1658は

土器内面に放射状暗文、底部外面に「ドーマン」を省略したものと考えられる「井」の線刻、1659は底部内面には「井」、底部外面には「※」の線刻がみられる。これらも「九字」を表す「ドーマン」を省略したと考えられる。1660は底部内面には螺旋暗文、底部外面に「ドーマン」を表すと考えられる線刻が施されている。1663～1665は底部平坦で、口縁部外反し端部も外反する土師器杯である。1663は土器内面に放射状暗文と螺旋暗文、1664・1665は底部内面に螺旋暗文が施されている。1666～1670は底部平坦



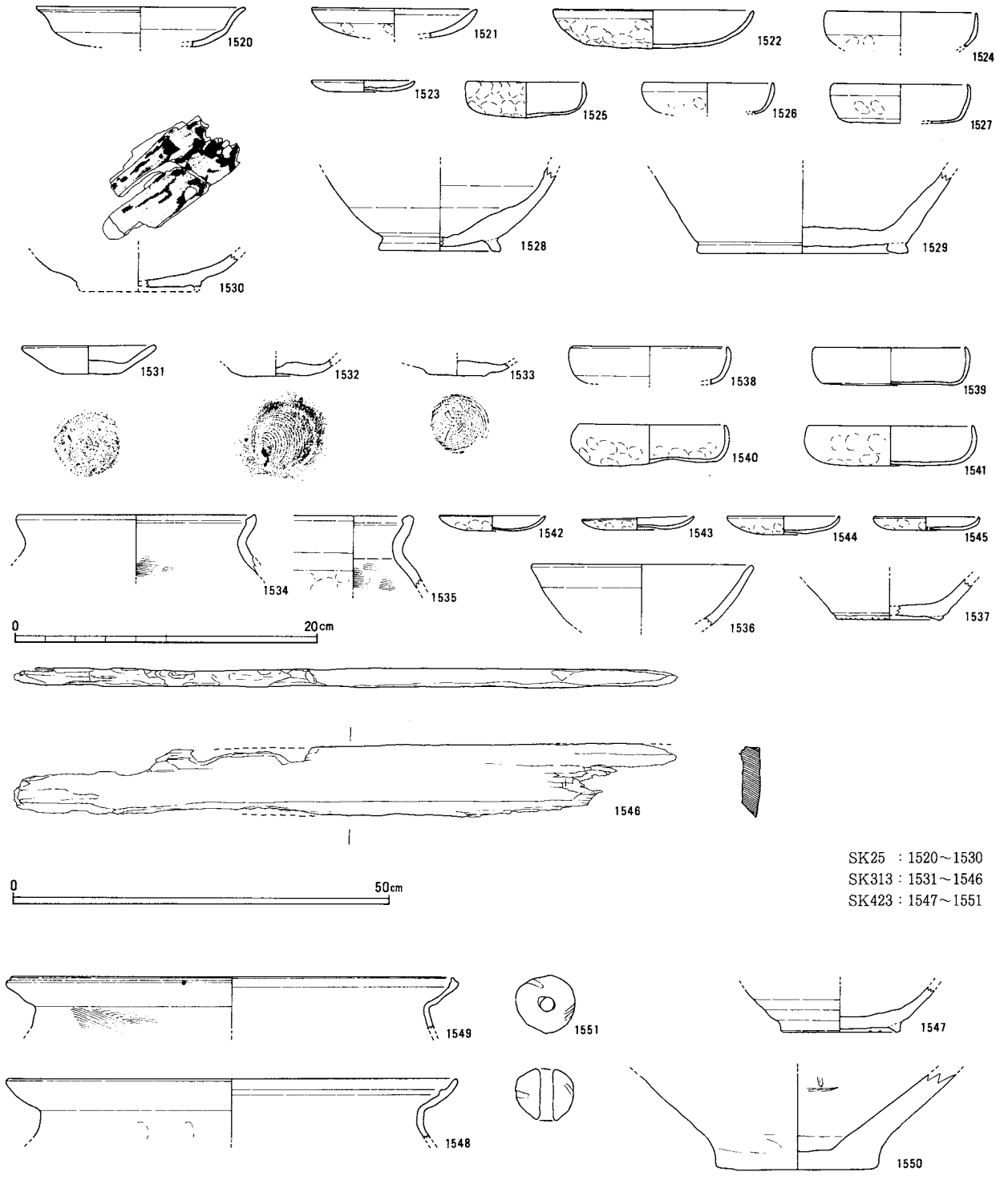
第154図 SE232・233出土遺物実測図（1：4、1489・1490・1492・1493は1：8）
※SE232：1488～1490 SE233：1491～1493



第155図 SE208・368, SD472出土遺物実測図 (1 : 4, 1511・1512は1 : 8)

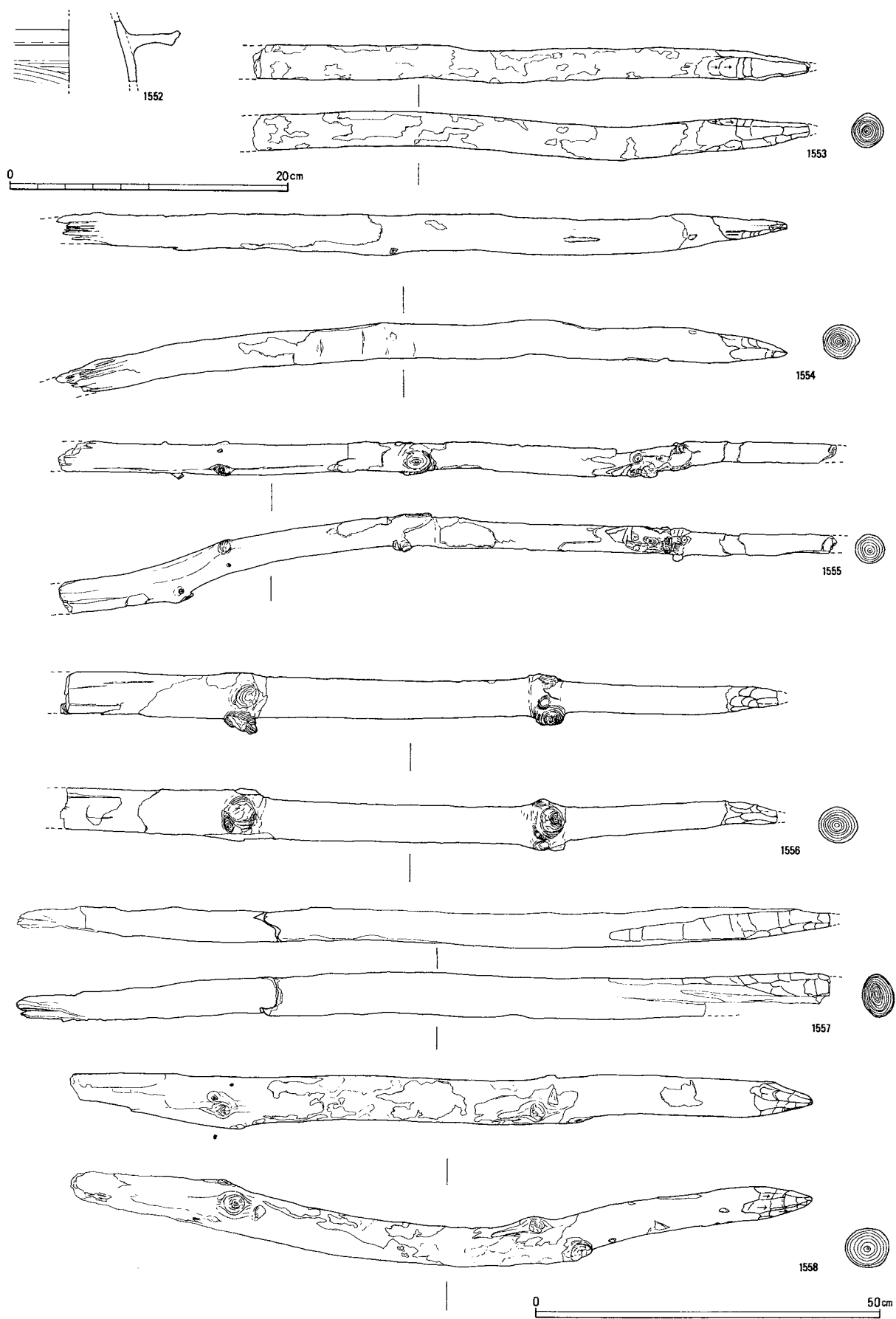
で、口縁部が直線的に外反する土師器杯。1667は底部内面には「キ」、底部外面には「ヌ」の線刻が施されている。これらは「ドーマン」を略しているものと思われる。1671～1673は口縁部が内弯気味で器厚が厚い土師器杯である。1671は内面には「マ」の線刻、1672は口縁部内面に放射状暗文が施されて

いる。1674～1696は土師器長胴甕である。1683は頸部が明確で、土器外面には底部に至るまで細かいハケメがみられる。1697～1709は口縁部外反し体部球形の土師器甕である。土器外面に底部に至るまで細かいハケメが施されるものもある。1697～1706は口縁部片である。1707は時代が遡る可能性がある。



SK25 : 1520～1530
 SK313 : 1531～1546
 SK423 : 1547～1551

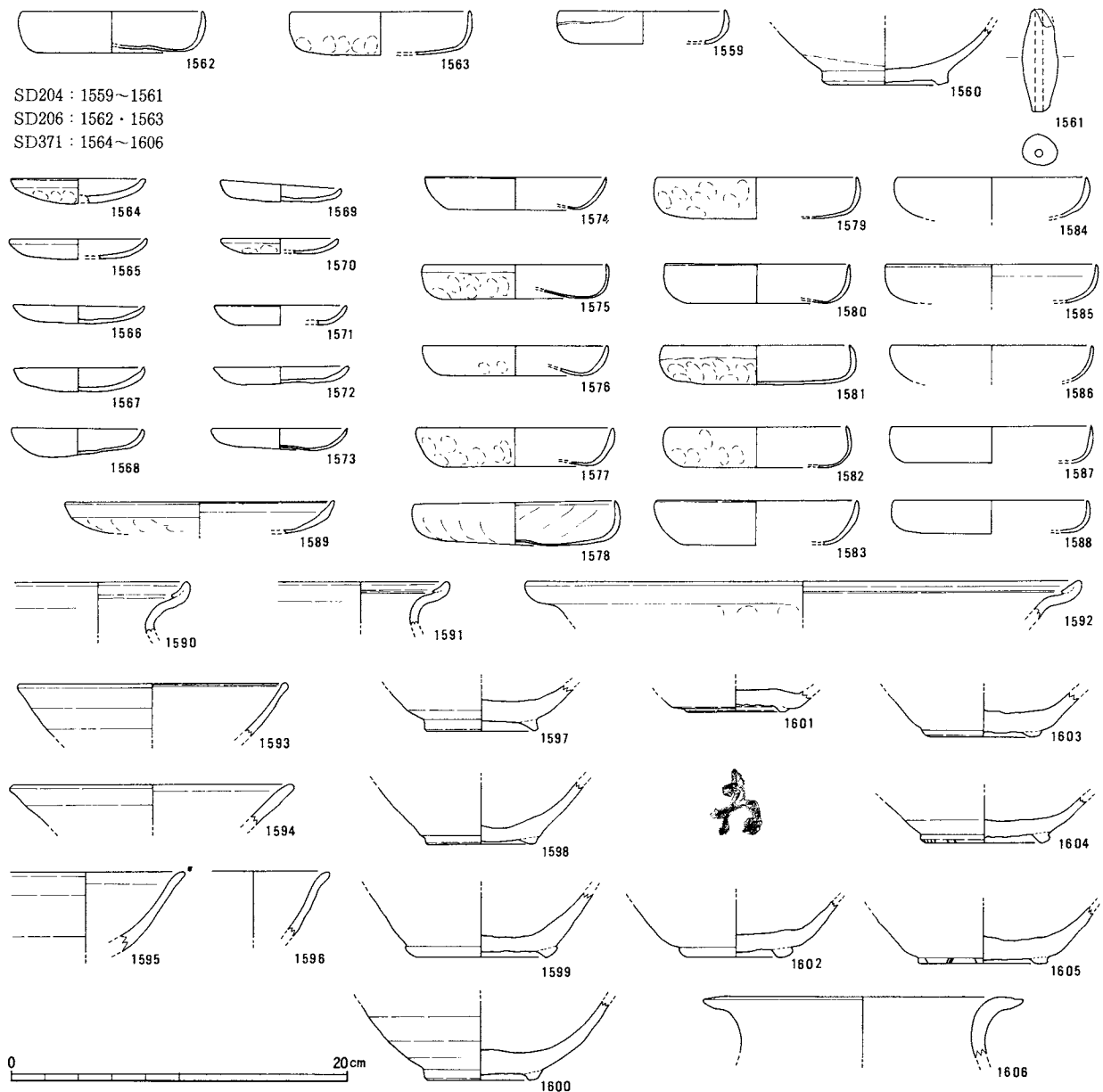
第156図 SK25・313・423出土遺物実測図（1：4，1546は1：8）



第157図 SK356出土遺物実測図（1：4，1553～1558は1：8）

1708は底部外面に「メ」の線刻が施されている底部片である。1710～1712は把手付の土師器鍋。1713～1719は、口径より体部径が大きくなるずんぐりとした土師器鍋である。体部には細かいハケメが施される。1720は口径が体部径より大きくなる偏平な土師器鍋である。1721～1728は土師器甑である。体部は細かいハケメが施されているものがほとんどである。1721・1727には把手が付く。1729～1731は移動式竈である。1731はまるで鍋を天地逆にしたような形状である。1732・1733は土師器高杯の杯部、内面に放射状暗文、螺旋暗文が施されている。1734は土師器高杯の脚部で、裾部で大きく開くものである。1735

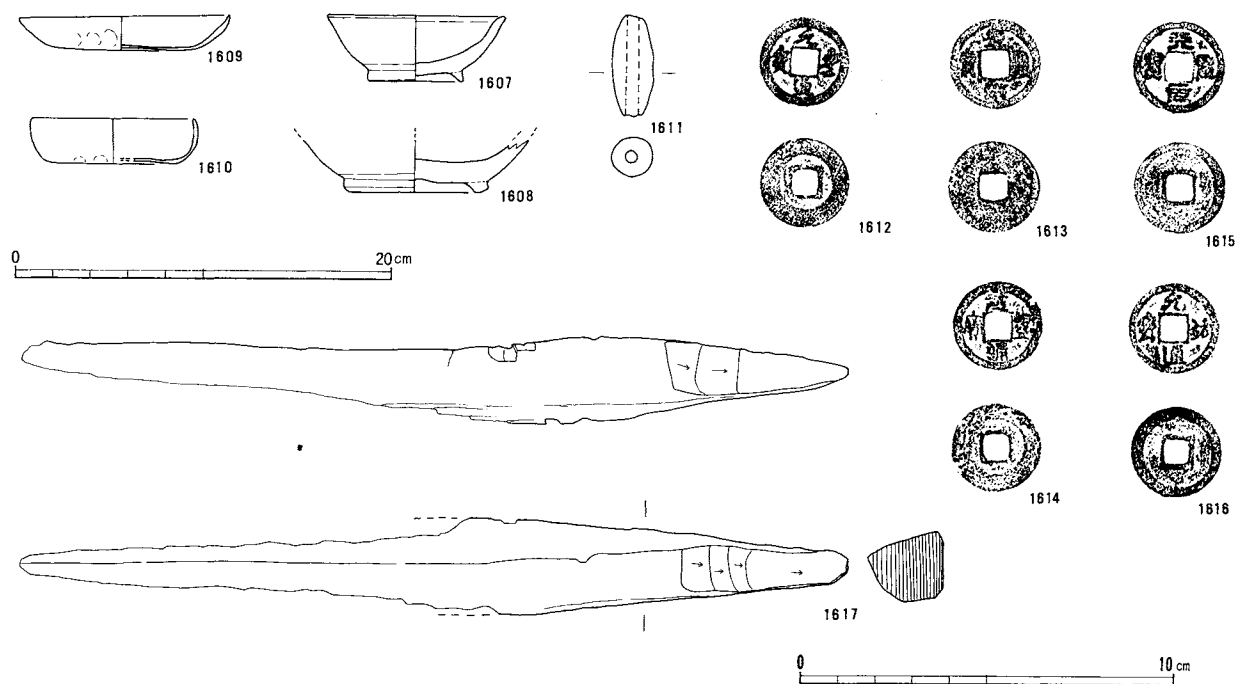
～1738は須恵器杯蓋。天井部にツマミが付く。1739～1748は底部平坦で口縁部が直線的に外反する須恵器杯である。1749～1753は須恵器壺。1749は口縁部が大きく外反する口縁部片。1750・1751は頸部周辺、1752は頸部から台付底部まで残る。1753は口縁端部が外反する大型品である。1754は口縁部がほぼ垂直に立ち上がる短頸壺である。1755は須恵器壺底部片。1756・1757は須恵器小型短頸壺。1756は底部外面に「十」の線刻がみられる。1758は須恵器小型壺底部と考えられる。1759は脚部が低い須恵器高杯である。1760は須恵器平瓶。把手と注口部分については欠失している。1761は須恵器甕体部片、1762は口縁部外



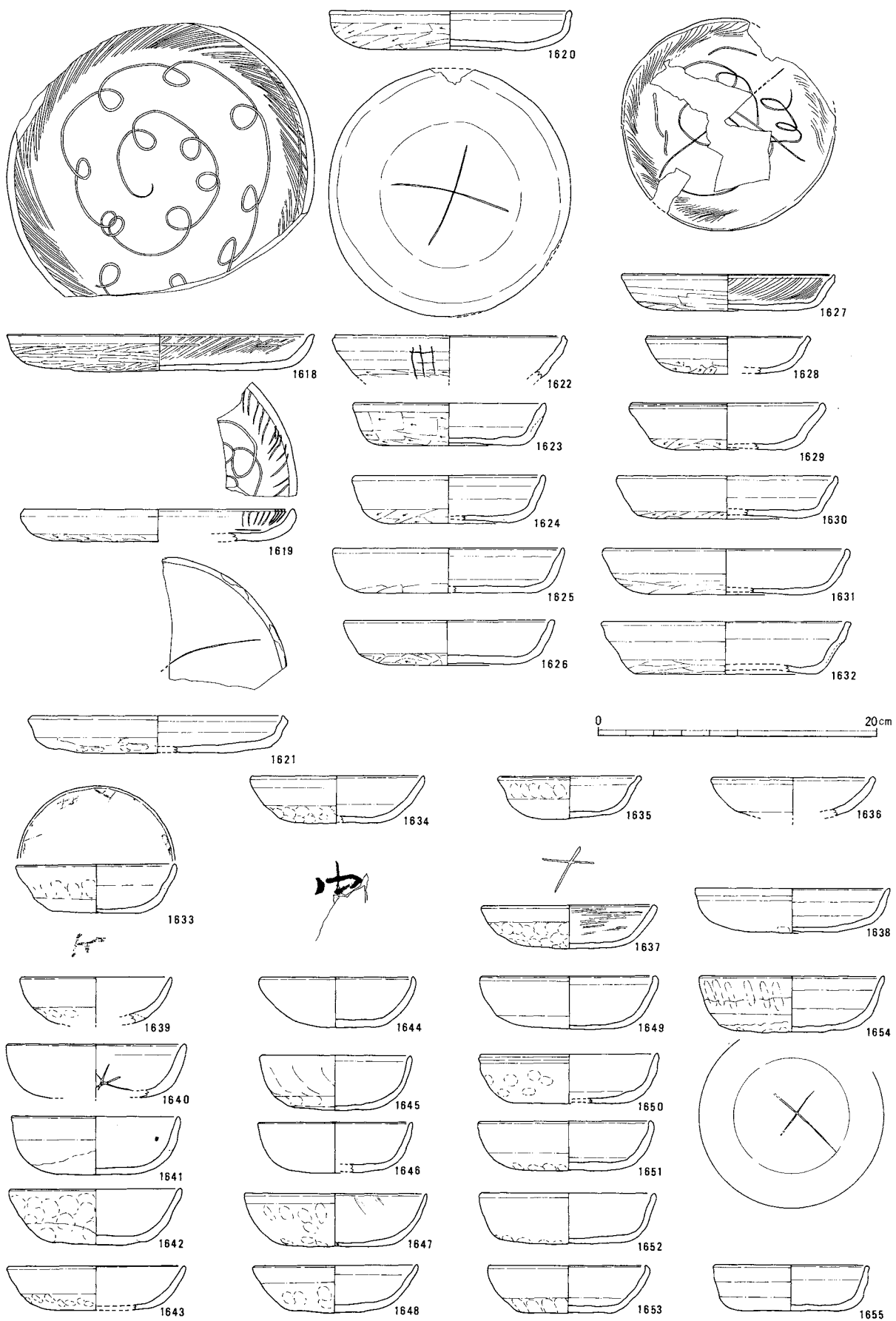
第158図 SD204・206・371出土遺物実測図(1:4)

反する須恵器甕である。口縁部外面には波状文、体部内面には青海波状文が施されている大型品である。1762までは奈良時代に属するものであろう。1763～1765は口縁部が内弯気味の土師器皿である。1764の口縁部内面に「ナ」の線刻がみられる。1766～1768は底部平坦で、口縁部が外反する土師器皿である。1767は底部外面に「ナ」、1768は底部外面に一部ではあるが「土」という墨書がみられる。1769・1770は底部と口縁部の境界がわかりにくい土師器皿で、浅いものである。1771は底部内面に放射状の線刻が施された土師器皿である。底部だけの残存である。1772は底部はほぼ平坦で、口縁部外反する土師器皿である。底部外面には修験者の護身呪法の「九字」を表すように線刻は9本を数える。志摩地方では「ドーマン」と呼称している。1773～1781は底部は、ほぼ平坦で口縁部外反し端部が内弯する土師器杯である。1775は「年」か、1776は「宮」、1781は「秋木」の墨書が底部外面にみられる。1777は土器内面に「ヤ」、底部外面に「一」の線刻を施す。1782～1790は底部の調整が粗く口縁部が外反する土師器杯である。1782は底部外面に「律」、1788は底部外面に判読できないが墨書がみられる。1791は底部が平坦で、直線的な口縁部が外反する土師器杯である。

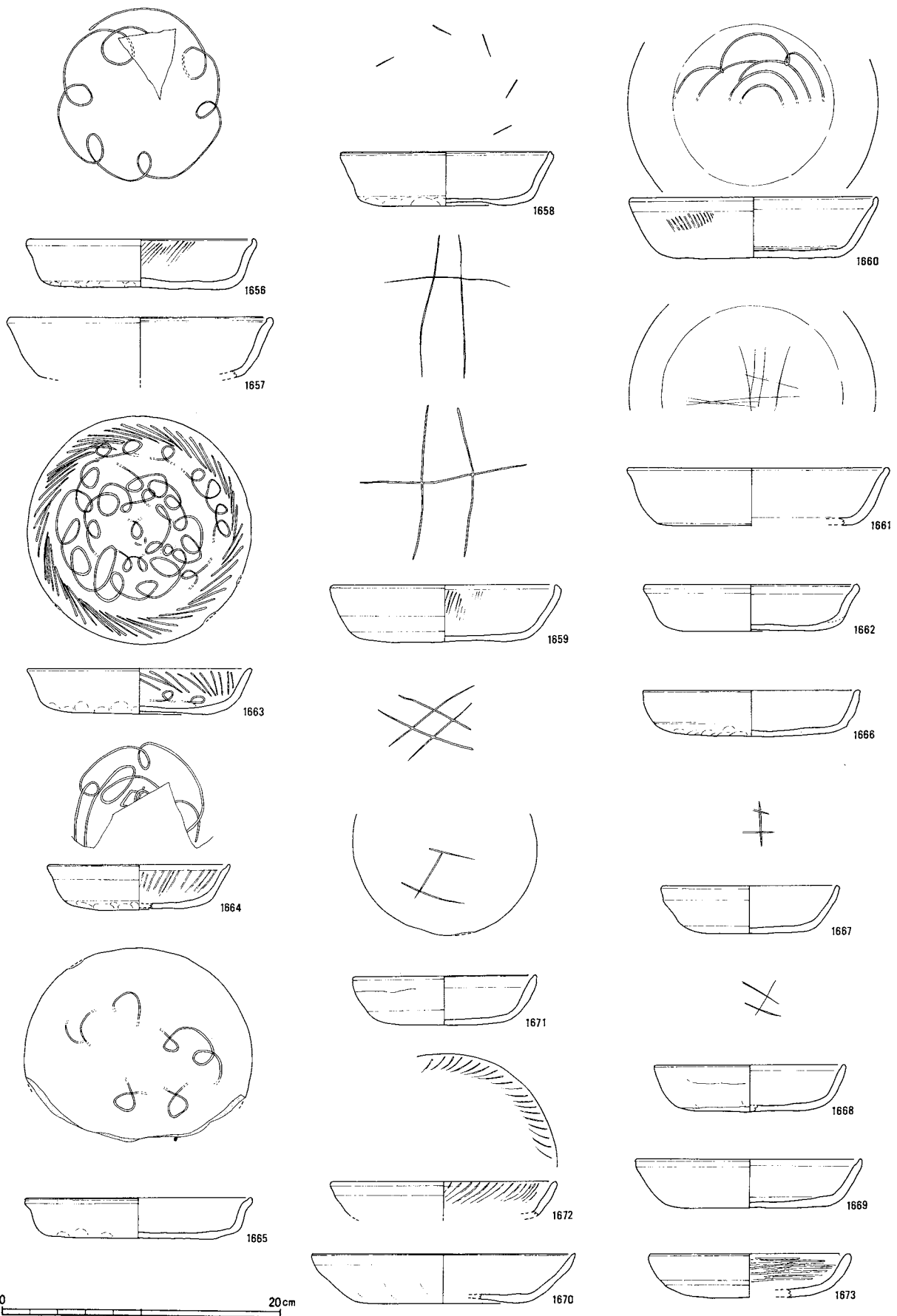
1792～1800は底部が平坦で直線的な口縁部が外反し、口縁端部が内弯する土師器杯である。1796は底部外面には墨書がみられる。墨書が完全に残っていないが、「林」であろうか。1800は底部内面に墨書がみられるが判読できない。1801は底部が丸みを帯び、口縁部外反する土師器杯である。底部外面には墨書「年」であろうか。1802は底部が丸みを帯び、口縁部外反する土師器杯である。底部外面には墨書「宮」の部首の部分がみられる。1803は1801・1802と同じ形状の土師器杯底部。底部外面にかな文字で4文字の墨書がみられる。「□□らる」と読めなくもない。平仮名としては県内最古級のもののか。1804～1818は底部が平坦で、口縁部断面が弓状になる土師器杯である。1805は底部内面に「ヤ」の線刻がみられる。1806は底部外面に「律」と考えられる墨書、1807・1810は底部外面に「竹」あるいは「千千」と考えられる墨書がみられる。1819～1823は体部球形の土師器甕。体部上半はハケメ、体部下半はケズリのものもみられる。1824は口縁部屈曲し体部にハケメが施された土師器長胴甕である。1825は土師器甕。体部にハケメがみられるが残存が良好でない。1826は内面を黒く燻した黒色土器碗である。1826までは平安時代前期に属するものと考えられる。1827は口縁部



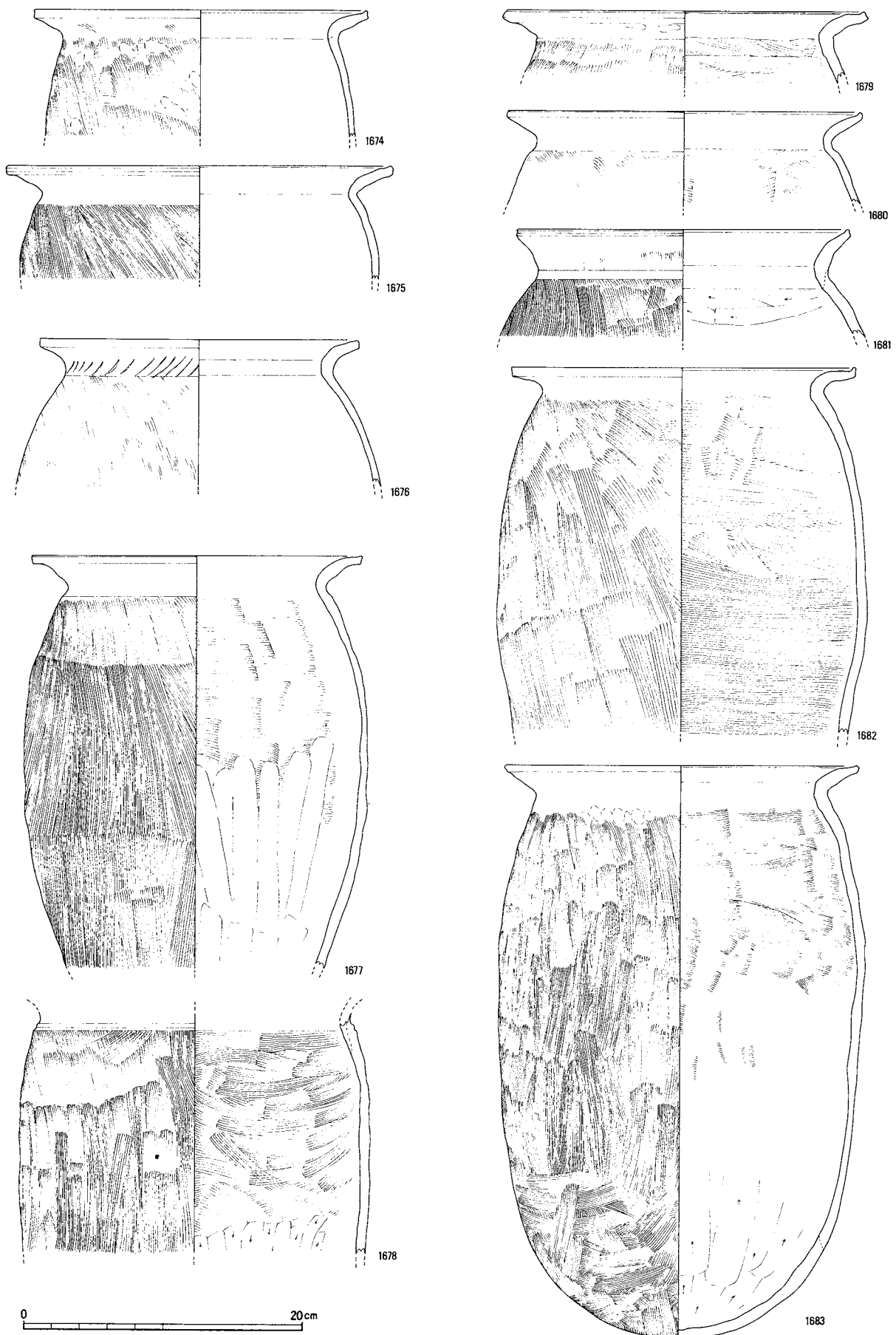
第159図 SZ227出土遺物実測図(1:4, 1612～1616は1:2)



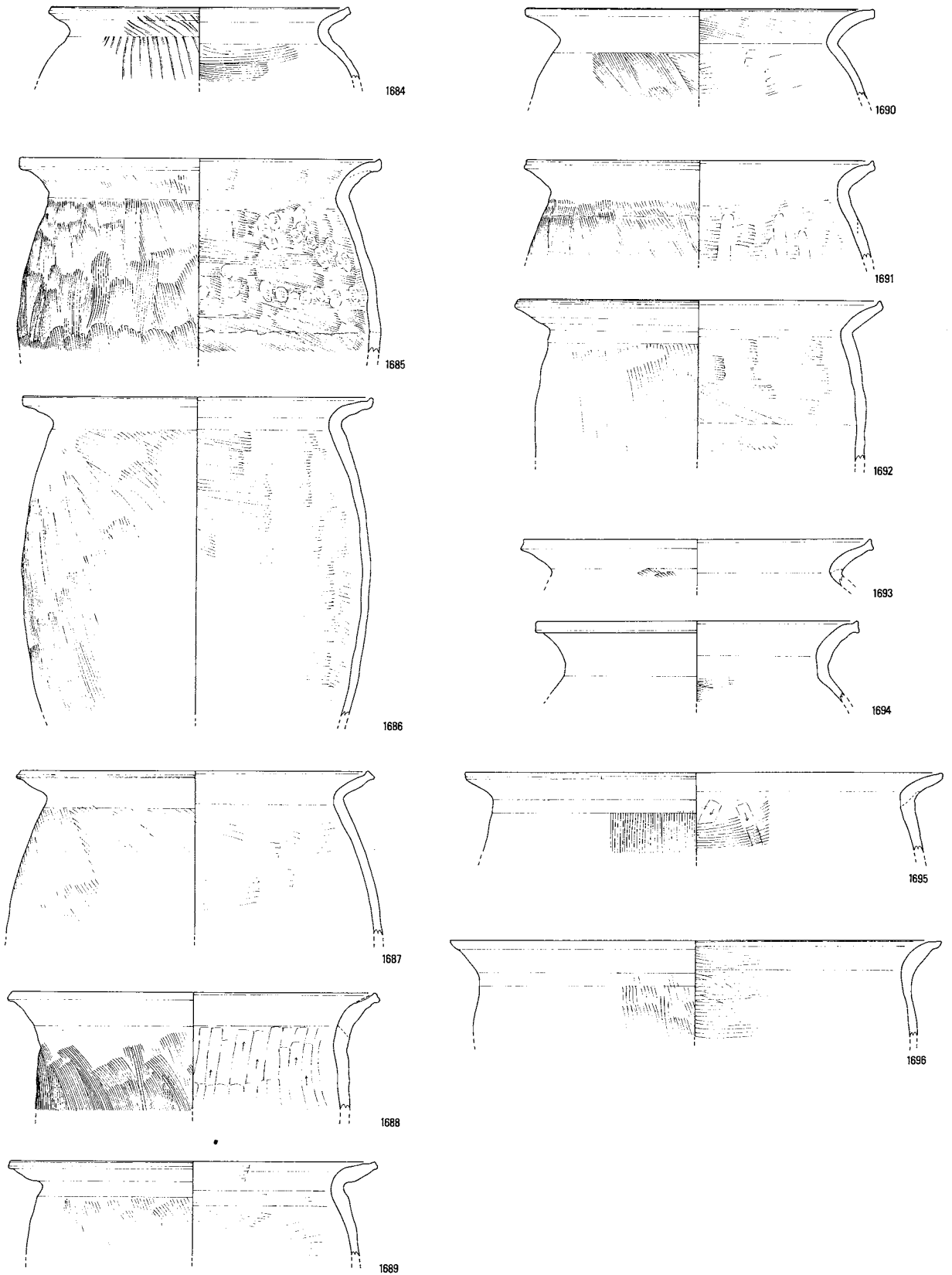
第160図 SR210出土遺物実測図① (1 : 4)



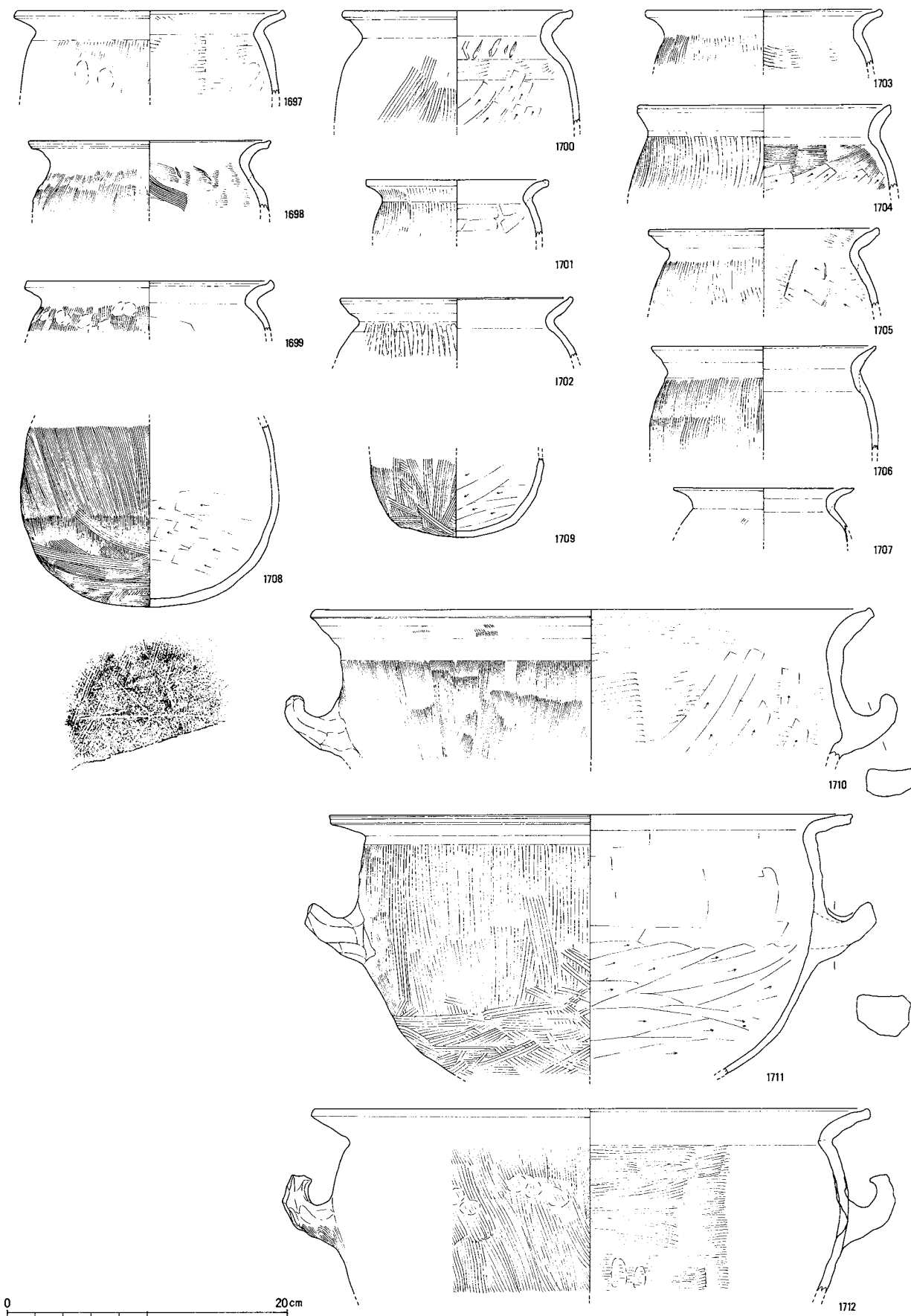
第161図 SR210出土遺物実測図②(1:4)



第162図 SR210出土遺物実測図③ (1 : 4)



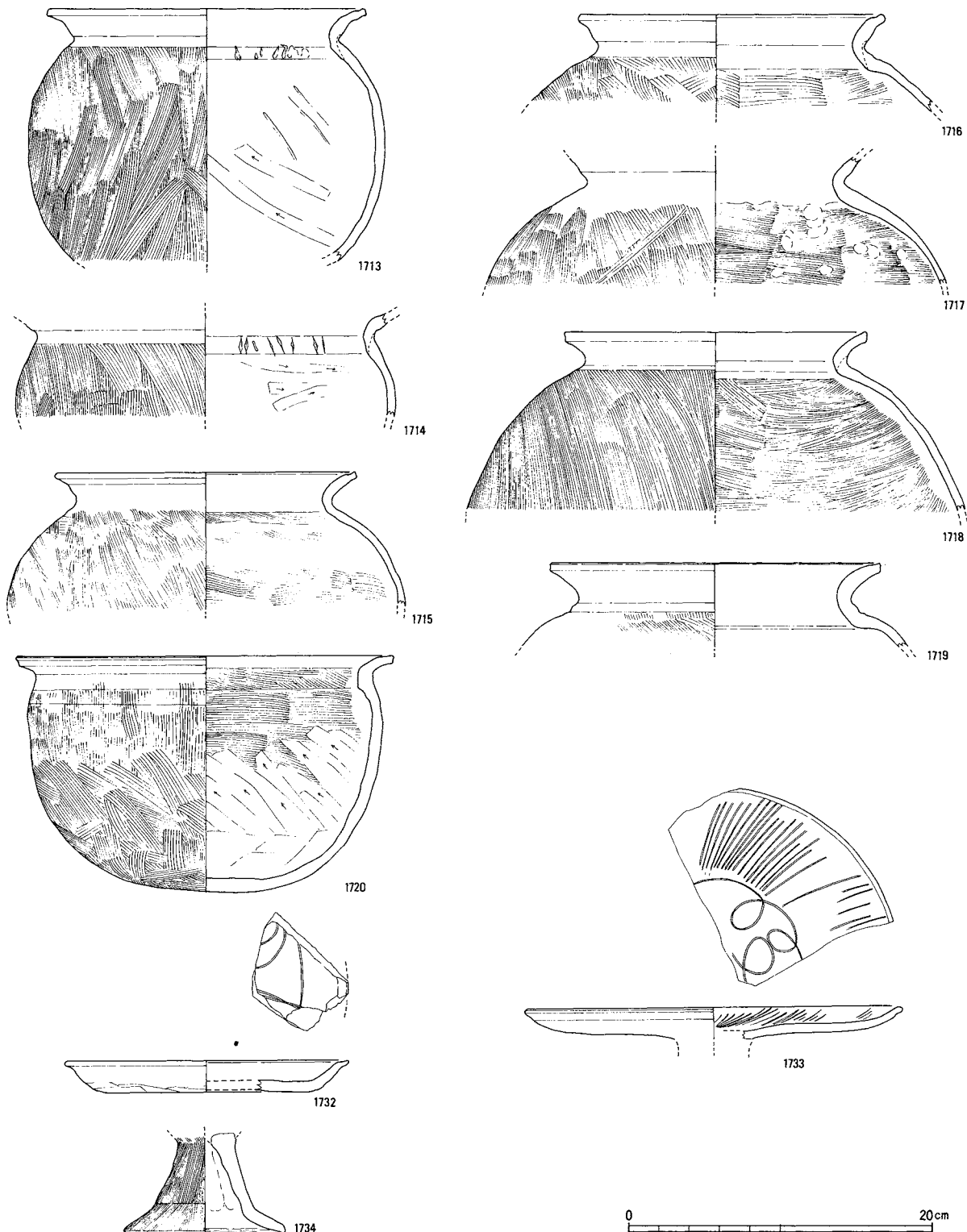
第163图 SR210出土遺物実測図④ (1 : 4)



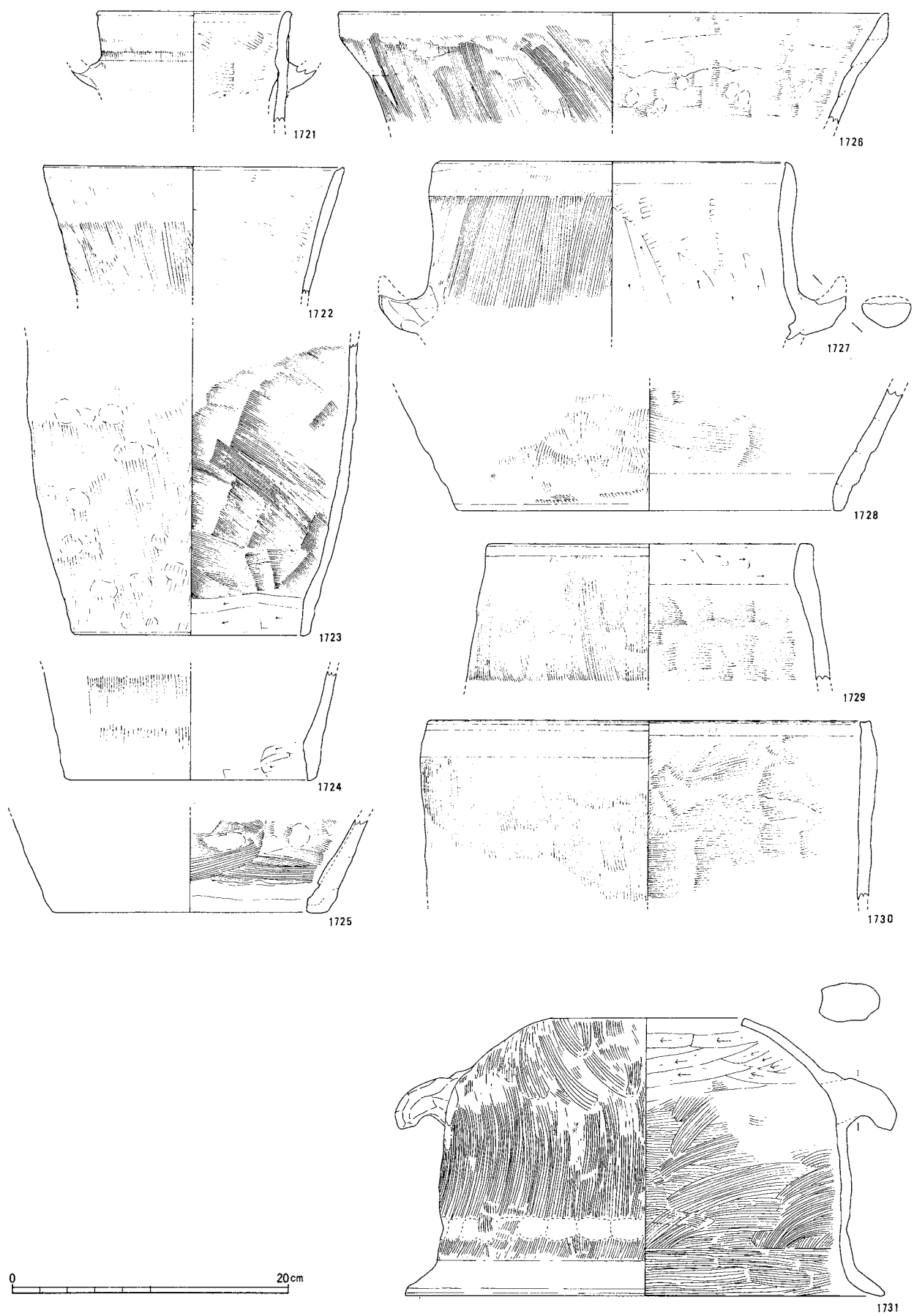
第164图 SR210出土遺物実測图⑤ (1:4)

ヨコナデの土師器小皿。1828～1830はロクロ製土師器皿で、底部外面には糸切り痕が残る。1831・1832はロクロ製土師器台付皿、底部外面には糸切り痕が残る。1833はロクロ製土師器椀底部で高台が残る。1834はロクロ製土師器椀、底部外面には糸切り痕が

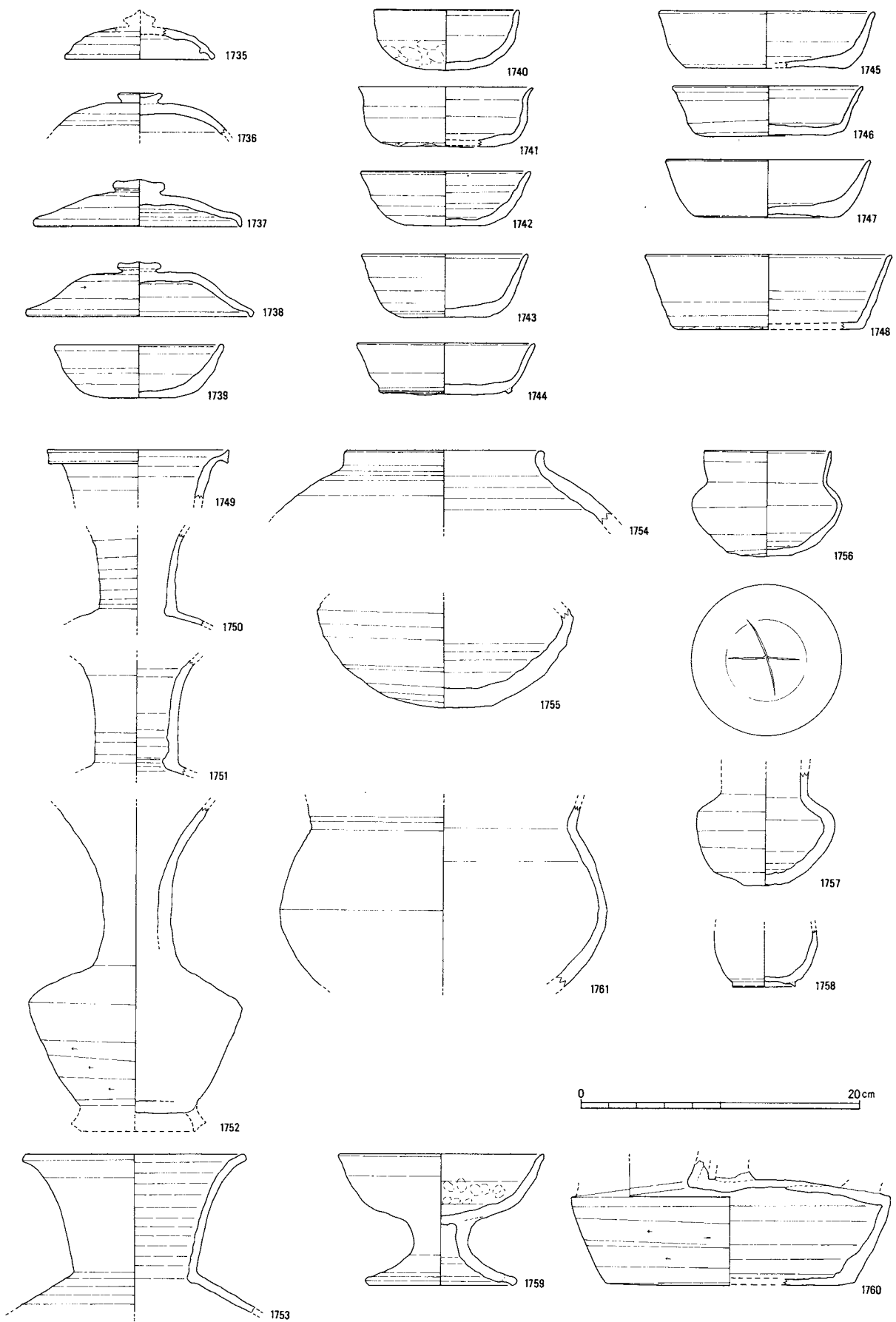
残る。1835は口縁部が外反する土師器甕。1835までは平安時代後期に属するものであろう。1836・1837は口縁部が屈曲し口縁端部が内弯する土師器甕である。これらは平安時代末期のものといえよう。1838は底部ナデの土師器甕底部片、平安時代のものか。



第165図 SR210出土遺物実測図⑥(1:4)



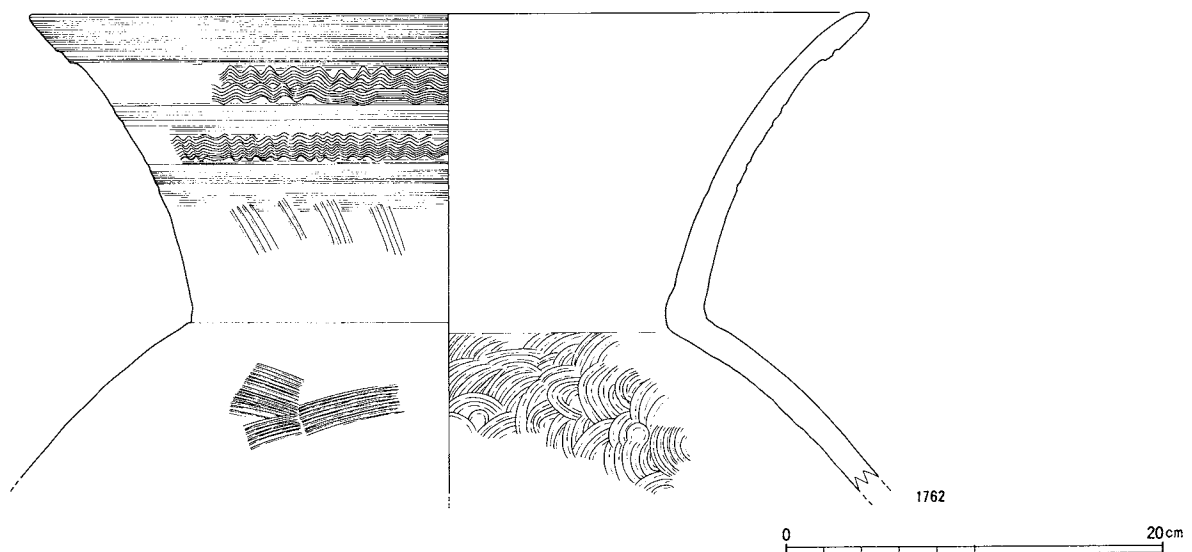
第166図 SR210出土遺物実測図⑦ (1 : 4)



第167图 SR210出土遺物実測図⑧ (1 : 4)

1839～1843はいわゆる「志摩式製塩土器」である。1839・1840は口縁部片、1841～1843は底部片である。平安時代のもと考えられる。1844～1855は底部の調整が粗く、口縁部断面が弓状の土師器小皿。1856～1861は、底部平坦で口縁部が内弯する土師器皿である。1862～1872は筒状の土錘、1873は球形の土錘。これらは鎌倉時代のもと考えられる。1874は緑釉陶器小椀か。平安時代のものか。1875～1877は口縁部がほぼ直線的に外反する山皿、1878・1879は高台の残る山皿底部である。これらは第4型式に属するものと思われる。1880～1882は口縁部が外反する山茶椀である。1883～1906は高台の残る山茶椀底部片である。1885の底部外面には「上」の墨書がみられる。これらは第5型式の範疇であろう。1907は瓦器椀の底部片である。1908～1910は陶器壺の底部片か。1911は陶器片口鉢か。1912・1913は陶器甕であろう。これらは鎌倉時代のもと思われる。1914～1919は円形曲物の底部分である。1915には「+」の墨痕か。非常に薄く判別しがたい。1920は木製皿。挽物皿である。高台はない。半分欠失している。1921は糸車的一部分。1922・1923は浮子と考えられる。1924は板状木製品で何かと繋ぐための結合孔に留具が挿入してある。1925・1926は穿孔がある板状木製品である。1927～1929は棒状木製品である。1930は杵の先端部分。1931～1934は板状木製品。1931は一部に穿孔がみられる。1935は棒状木製品。箸の可能

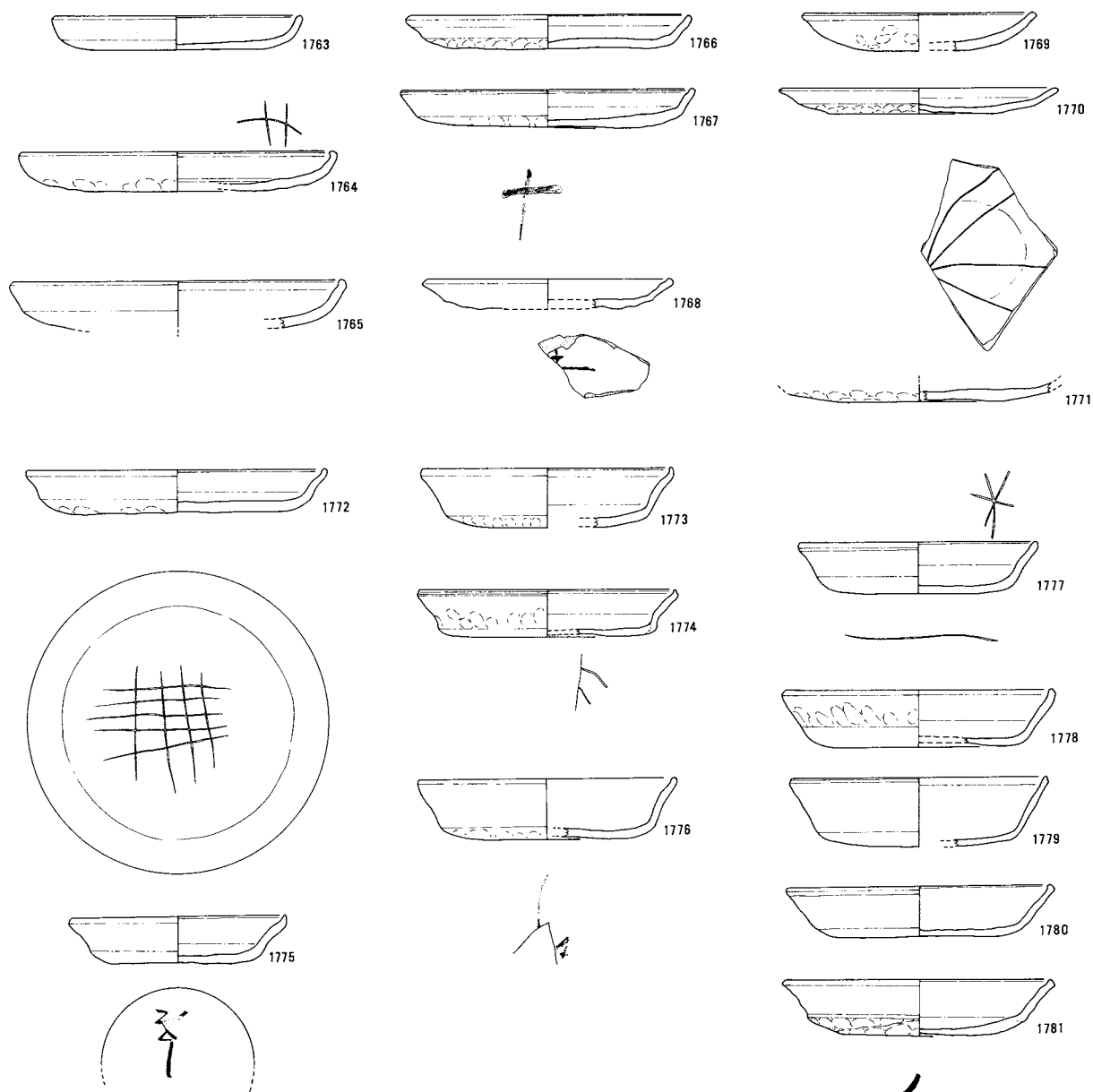
性も考えられる。1936～1938は木製杭。樹皮が一部に残存している。1939～2076は祭祀木製品の齋串である。細長い薄い板状のもので、両端を尖らせ左右の側面に切込みをいれるのが一般である。1939は板材の片側の先端を一側面から斜めに切り落としたものである。切込みはない。1940は板材の片側の先端を一側面から斜めに切り落としたもの。切込みは4ヶ所にみられ、全て複数の切込みがある。1941は板材の上端部は圭頭状になっている。下端部は剣先状になっていると考えられる。切込みが入らないものといえる。1942は板材の上端部は圭頭状になり下端部は剣先状になっている。側面には切込みをいれないもの。1943・1944は板材の上端部は圭頭状になり、下端部は剣先状になっている。側面を割り裂くように上端の木口から割れ目をいれたものである。1945・1946は上端部は圭頭状になり、下端部は剣先状になっている。側面の左右1ヶ所に切込みをいれたものである。切込み回数は1回。1947～1961は上端部は圭頭状で、下端部は剣先状になっている。側面の左右2ヶ所以上に切込みをいれたものである。1962～1975は上端部は圭頭状で、側面の左右2ヶ所以上に切込みをいれたものである。下端部は欠失しているものの剣先状になっていると思われる。1976～1991は下端部は剣先状になっている。側面の左右2ヶ所以上に切込みがある。上端部は欠失しているものの圭頭状になっていると思われる。1992～1994は上端部は



第168図 SR210出土遺物実測図⑨(1:4)

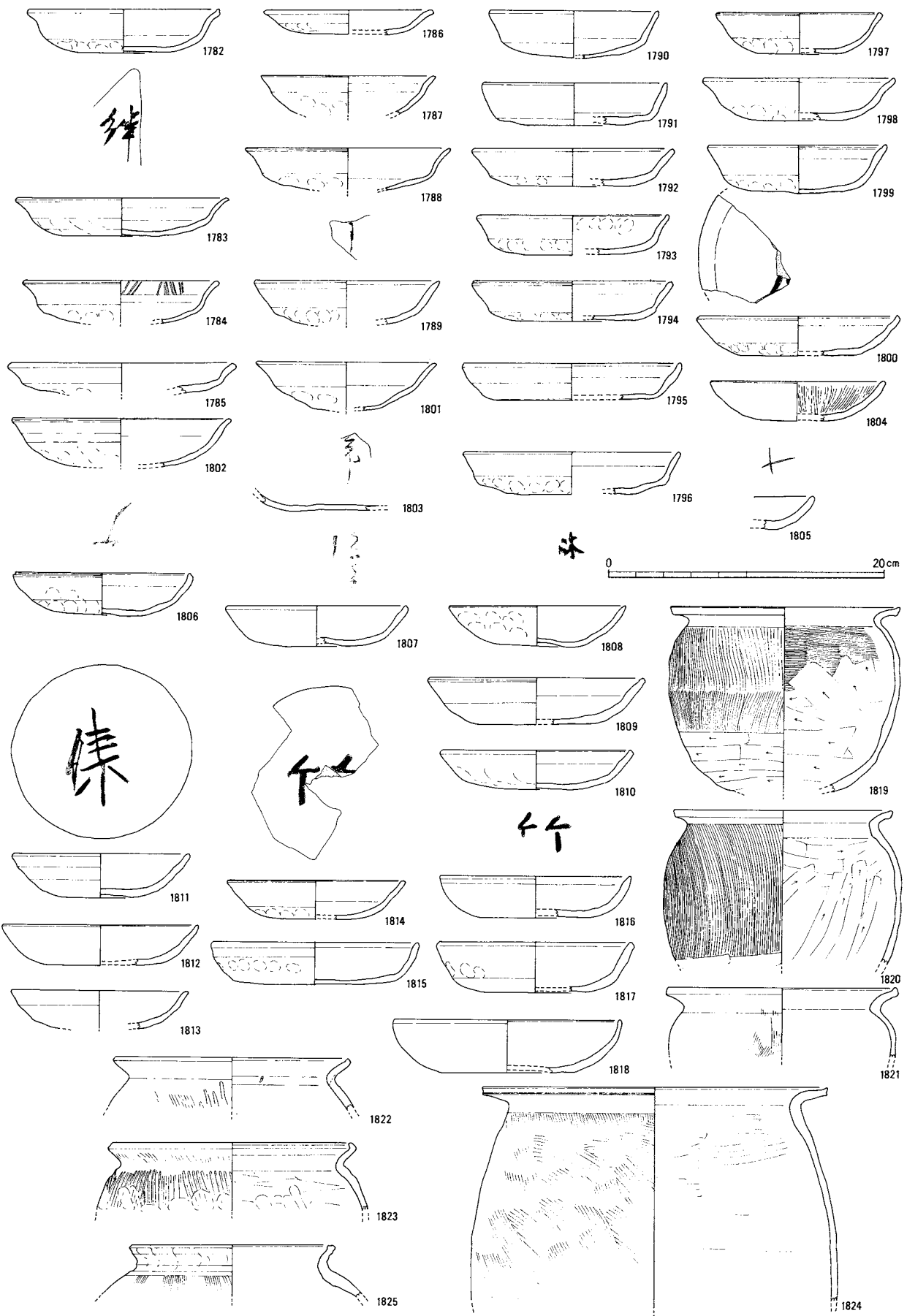
圭頭状で、下端部は剣先状になっている。側面の左右2ヶ所以上に切込みをいれたものである。1ヶ所の切込み回数が複数に及ぶものである。大型品になるものがほとんどである。1995～2003は上端部は圭頭状で、側面の左右2ヶ所以上に切込みをいれたものである。1ヶ所の切込み回数が複数に及ぶものである。下端部は欠失しているものの剣先状になるものと思われる。大型品になるものが多い。2004～2008は下端部は剣先状で、側面の左右2ヶ所以上に

切込みをいれたものである。1ヶ所の切込み回数が複数に及ぶものである。上端部は欠失しているものの圭頭状になっていると思われる。大型品になるものがほとんどである。2009～2025は上端部が圭頭状で、下端部は欠失してないものの剣先状になると考えられる。切込み部分が確認できないものである。2026～2076は下端部が剣先状になり、上端部が欠失しているものの圭頭状であると考えられるものである。切込み部分は確認できない。2077～2081は舟形

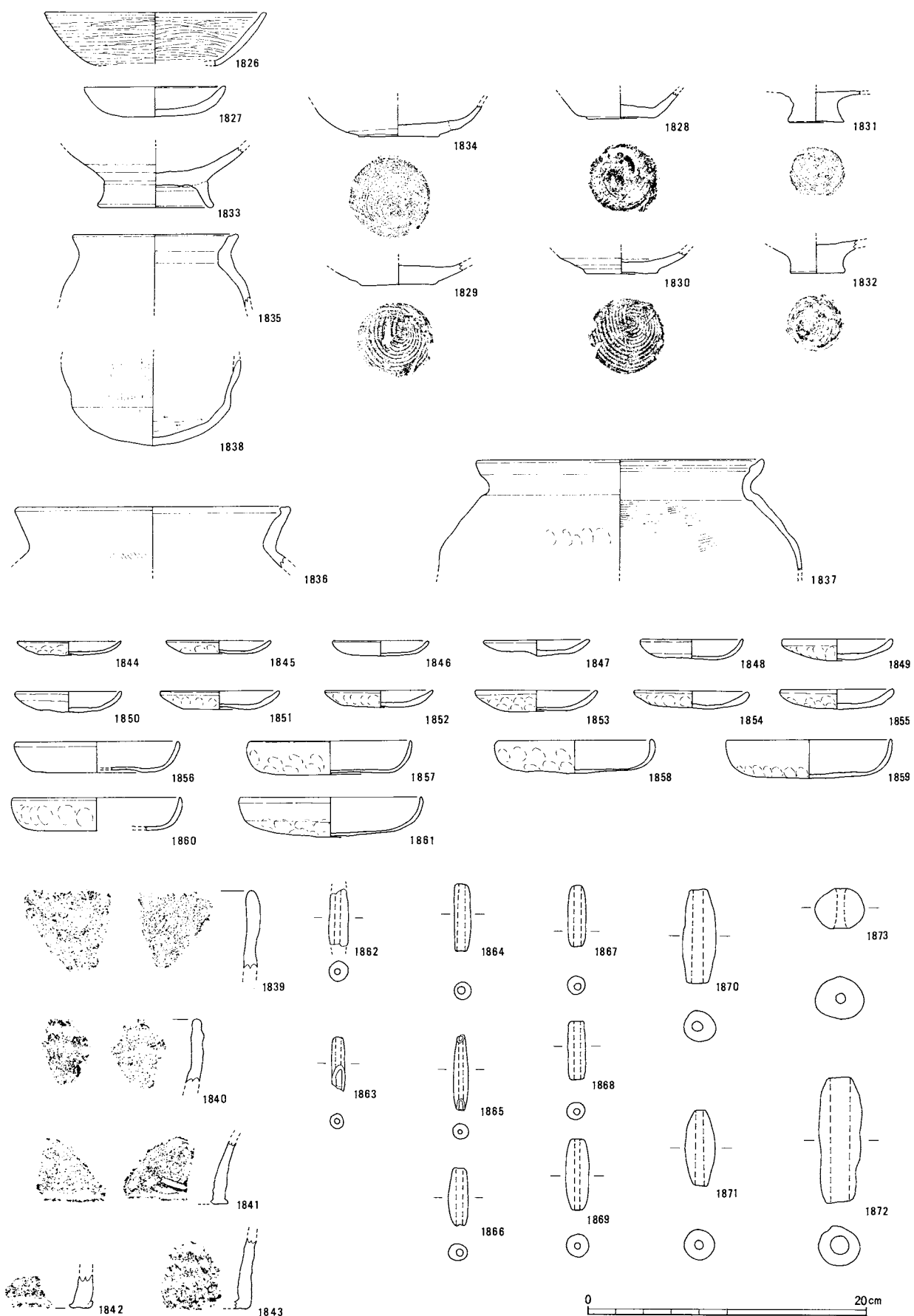


秋木

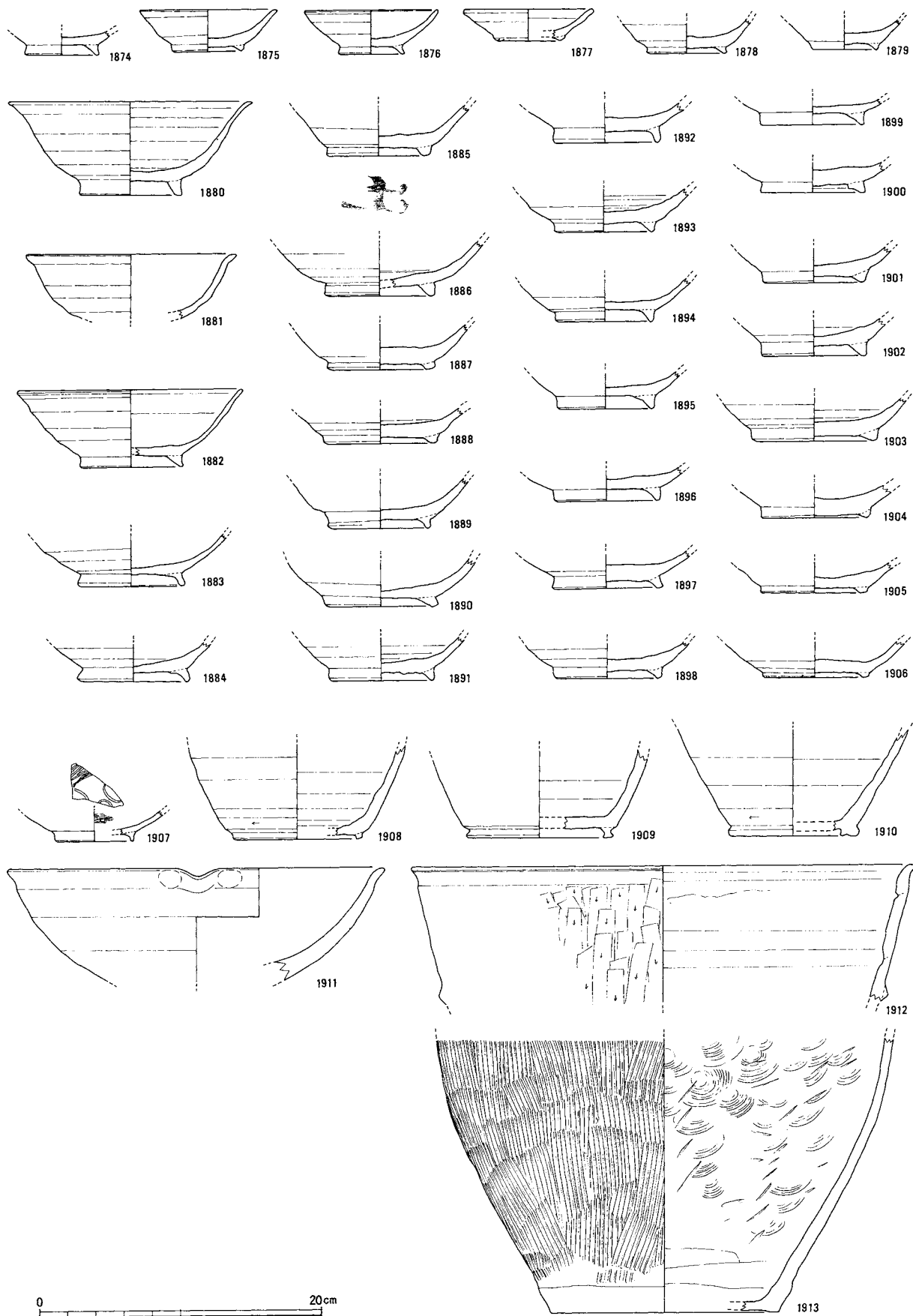
第169図 SR210出土遺物実測図⑩ (1:4)



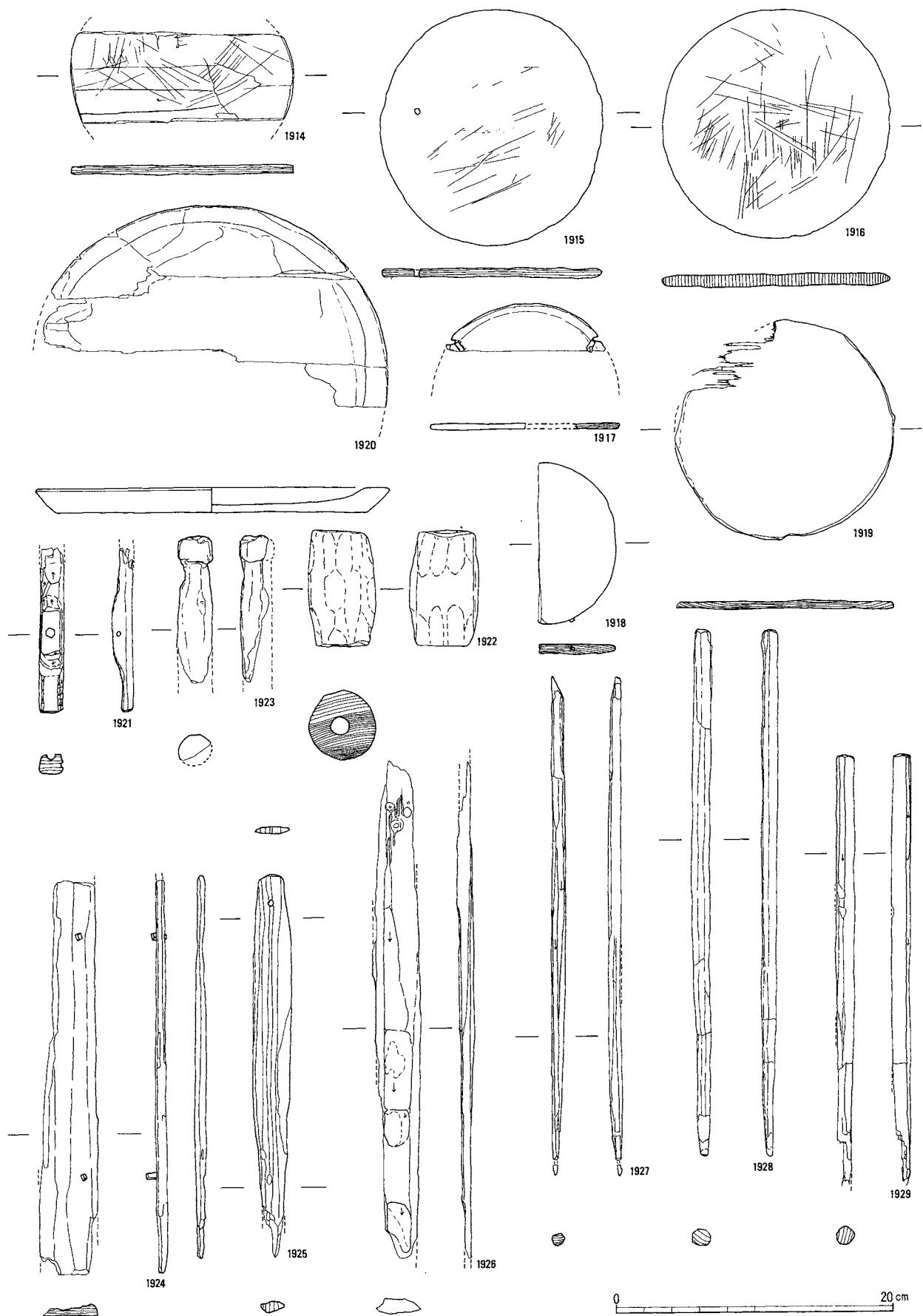
第170图 SR210出土遺物実測図① (1:4)



第171図 SR210出土遺物実測図⑫ (1:4)



第172图 SR210出土遺物実測図⑬ (1:4)

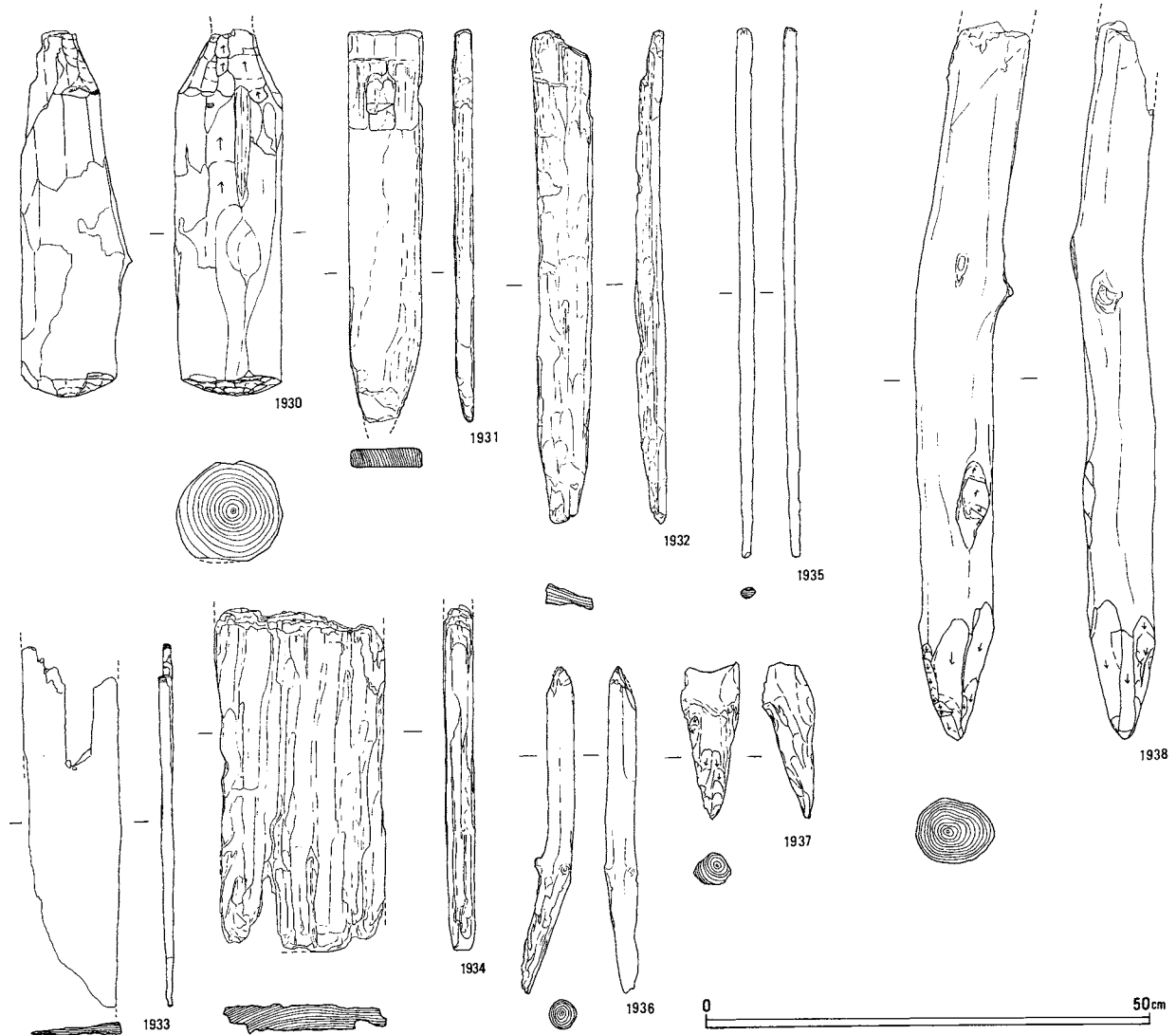


第173图 SR210出土遺物実測图⑭ (1 : 4)

木製品である。2077～2079のように船体部分をくり抜いているものと、2080・2081のようにくり抜いていないものに分けられる。2082は人形木製品である。頭部と胴体部は明確に分かれ、腕の表現もみられる。下端部は斎串と同様に剣先状である。松阪市杉垣内遺跡出土のものは、より人間に似せてあり顔の表情などが墨書により表現されているが、堀町遺跡出土のものはそのようなものではなく少し簡略化しているものと考えられる。静岡県神明原・元宮川遺跡においても同様の形態をした人形木製品の出土が確認されている。また、これら以外にも、モモ、コナラ属、オニグルミ、トチノキ、スモモ、エゴノキ属やクリなどの種実遺体が大量に出土した。

柱穴出土遺物（第187図）

2083～2088は弥生土器。弥生時代後期前半に属するものと考えられる。2083・2084は土器外面ミガキの壺、2085は、口縁端部が内弯し頸部に刺突が施された壺、2086は甕、2087は台付甕、2088は有段高杯杯部分である。2089～2104は平安時代のものと考えられる。2089・2090は底部平坦で口縁部外反する土師器杯、2091・2092は口縁部断面が弓状の土師器皿である。2093～2097は口縁部断面が弓状の土師器小皿である。2098～2100はロクロ製土師器台付皿である。2098は底部外面に糸切り痕が残る。2101は底部から口縁部にかけて直線的なロクロ製土師器椀である。2102は口縁端部が内弯する土師器甕。2103は土製支脚、2104・2105は製塩土器の小片。いわゆる

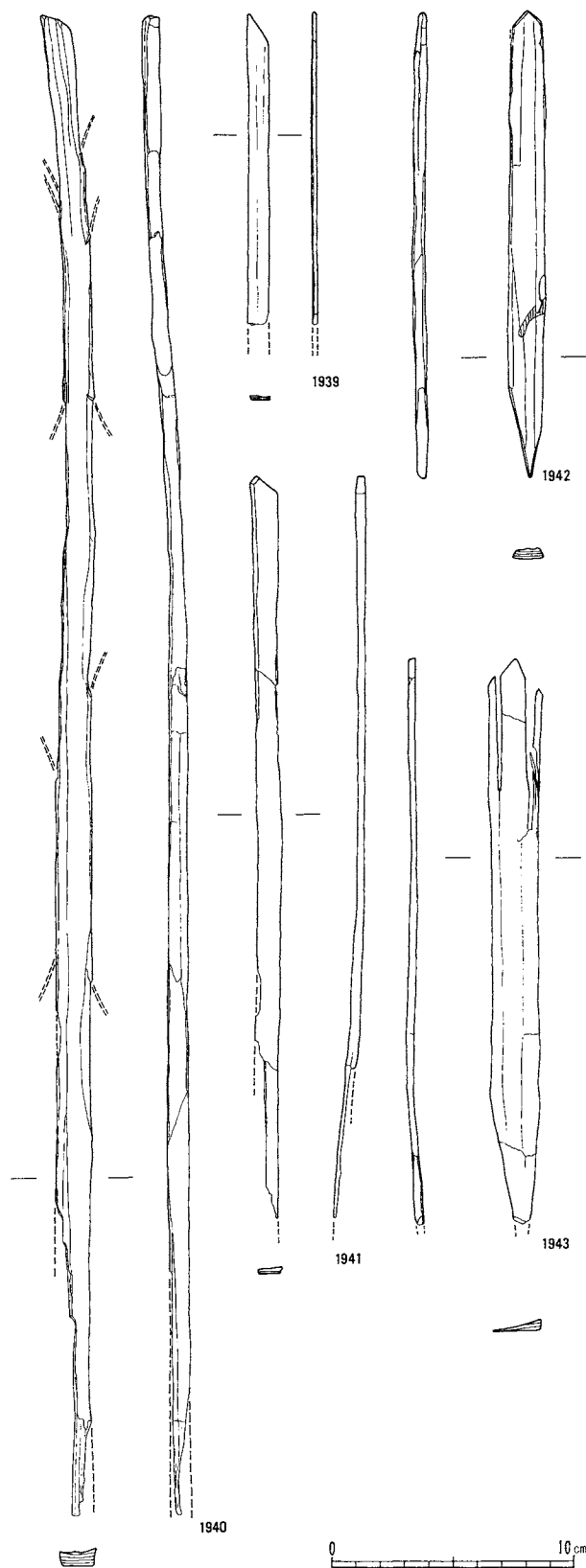


第174図 SR210出土遺物実測図⑮（1：8）

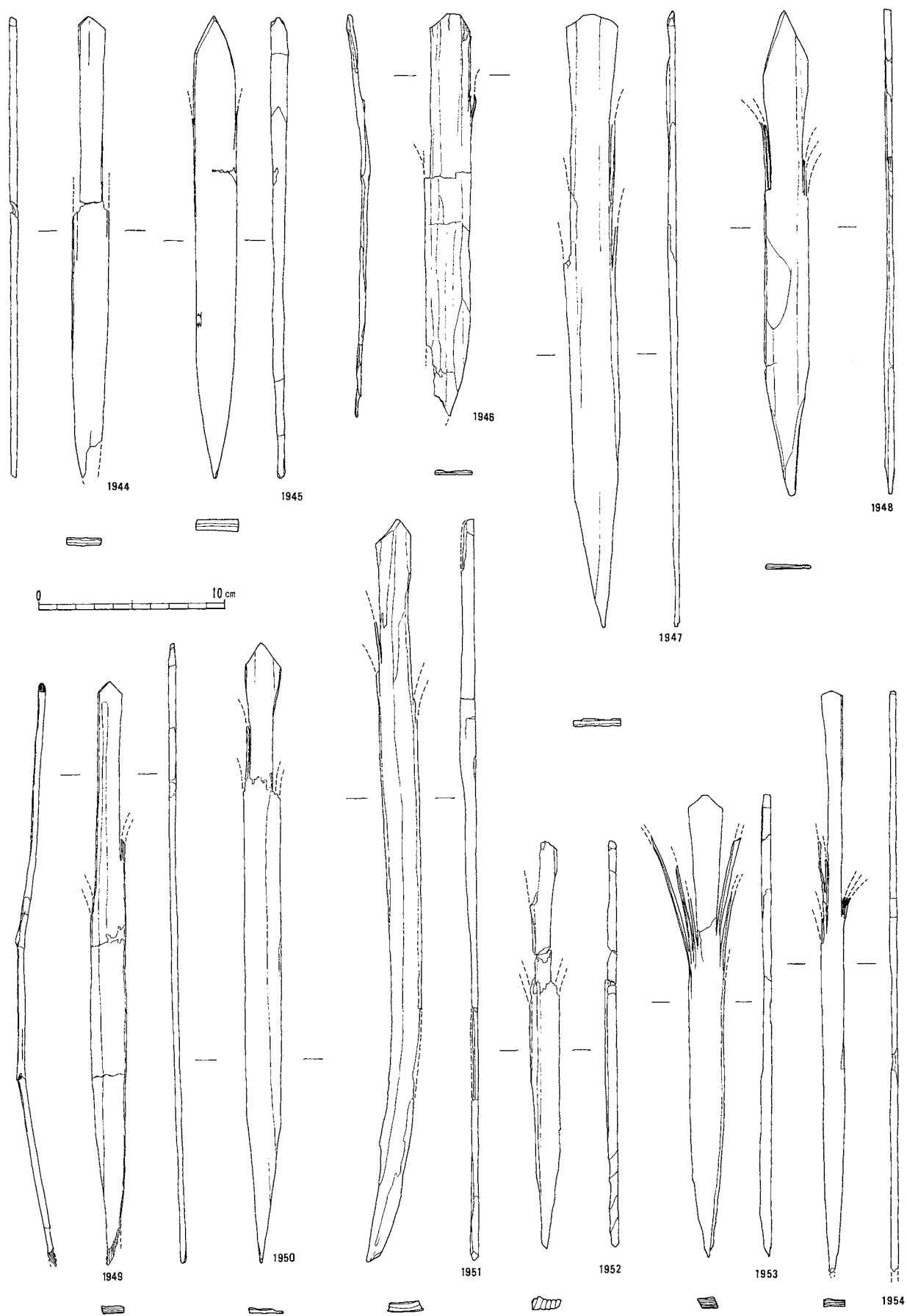
「志摩式製塩土器」である。2106～2108は底部調整が粗雑な薄手の土師器小皿。これらは鎌倉時代のものと思われる。2109は高台が残る山皿。第4型式に属するものと考えられる。2109～2111は口縁端部が外反する山茶椀。第4型式に属するものか。2112は口縁部が直線的な山茶椀である。第6型式に属するものと思われる。

包含層出土遺物（第188～190図）

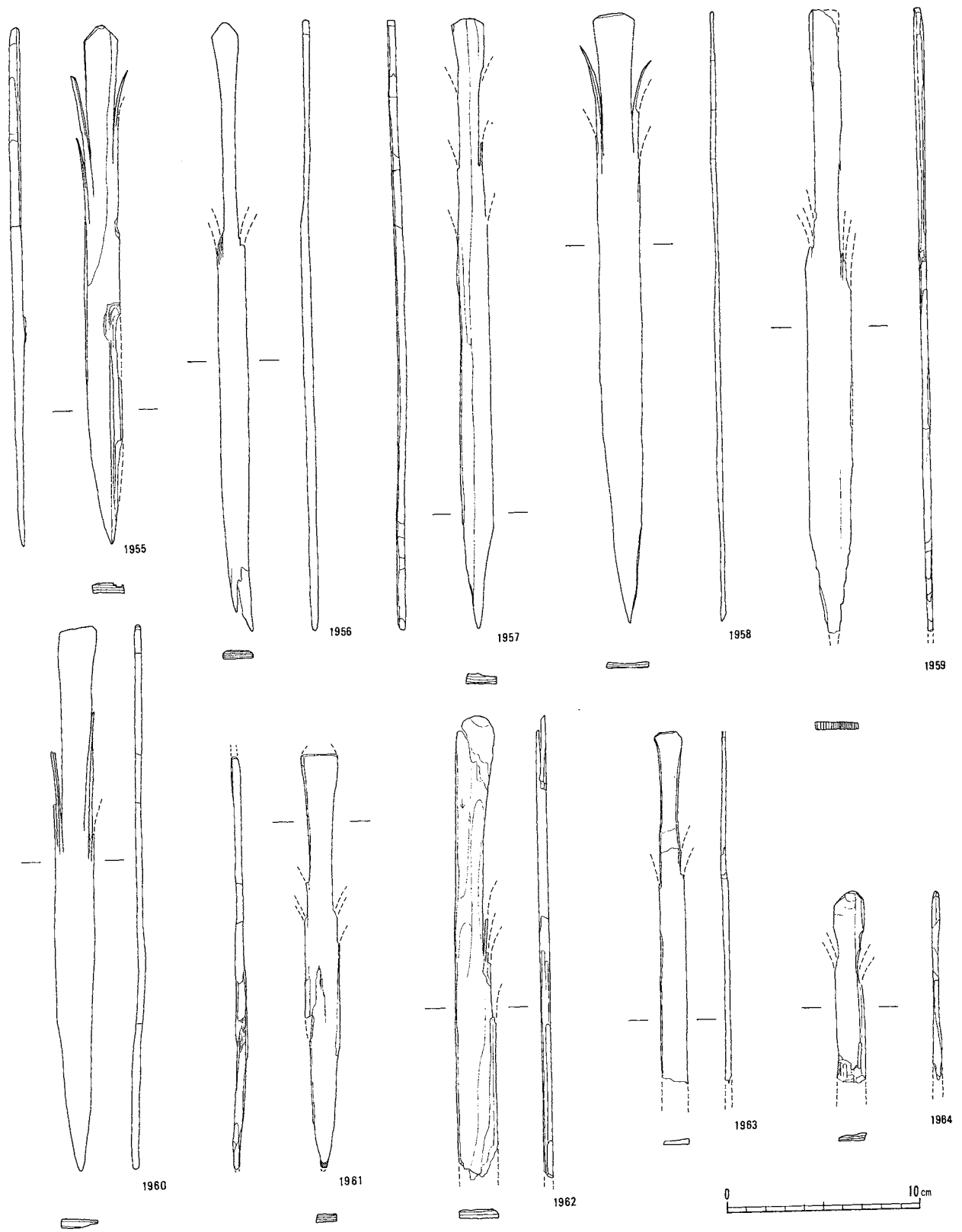
2113～2134は弥生時代後期前半に属するものであろう。2113は口縁部がほぼ垂直に立ち上がる弥生土器壺、2114は短い口縁部がほぼ垂直に立ち上がる弥生土器壺、2115～2117は口縁部が外反する弥生土器壺、2118は頸部に刺突文が巡る弥生土器甕、2119は口縁端部に刻みが施された弥生土器甕、2120は口縁部受け口状の台付甕である。2121は体部下半に穿孔がみられる弥生土器鉢、2122～2124は弥生土器鉢である。2125は壺あるいは甕の底部ではと思われる弥生土器鉢である。2126は椀といってもおかしくないが弥生土器鉢と考えたい。2127～2129はミニチュア土器壺、2130・2131はミニチュア土器甕、2132はミニチュア土器鉢である。2133は無茎三角鏃。石材はチャートである。2134は石包丁の一部分であろう。2135～2138は古墳時代のものと考えられる。2135は口縁部が垂直に立ち上がる古式土師器壺、2136は口縁部が受け口状の小型丸底壺、2137・2138は古式土師器高杯である。2139・2140は須恵器杯身である。これらは飛鳥～奈良時代のものか。2141～2171は平安時代に属するものと考えられる。2141～2143は底部平坦で口縁部が外反する土師器皿である。2141は底部内外面に「井」「彗」の線刻、2142は口縁部外面に「*」の線刻、2143は底部外面に全部残存していないが「ドーマン」を略したものと考えられる線刻が施されている。2144・2145は、口縁部外反し底部は丸みを帯びる土師器杯である。2146～2148は口縁部断面が弓状の土師器杯である。これらは平安時代前期のものと考えられる。2149・2150はロクロ製土師器台付皿、2151～2156は口縁部が直線的なロクロ製土師器皿である。底部外面には糸切り痕が残る。2157・2158は底部外面に糸切り痕が残るロクロ製土師器椀である。2159・2160は口縁部内弯気味の土師器椀である。これらは平安時代後期のものと思われ



第175図 SR210出土遺物実測図⑩（1：3）



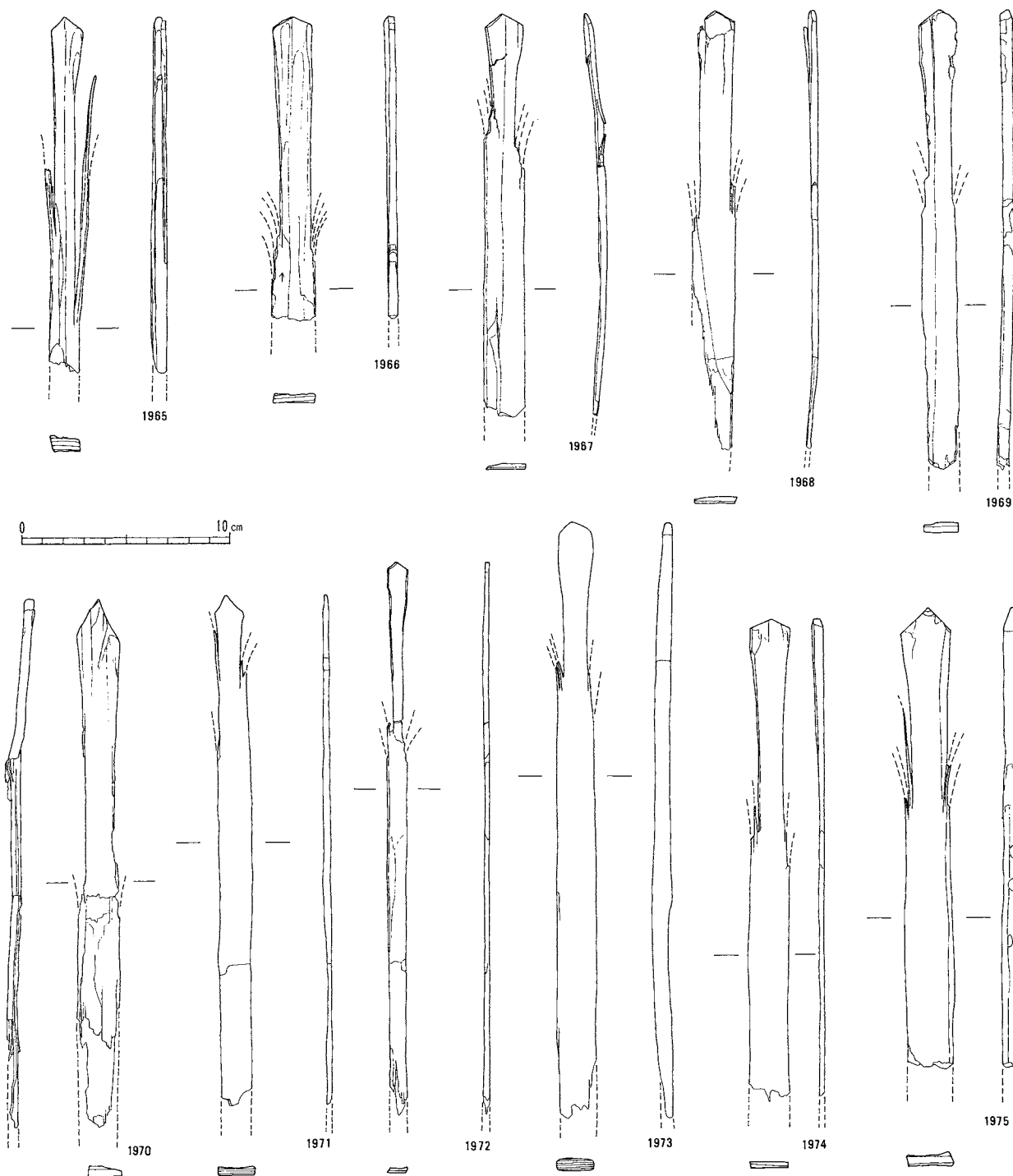
第176图 SR210出土遺物実測图⑰ (1 : 3)



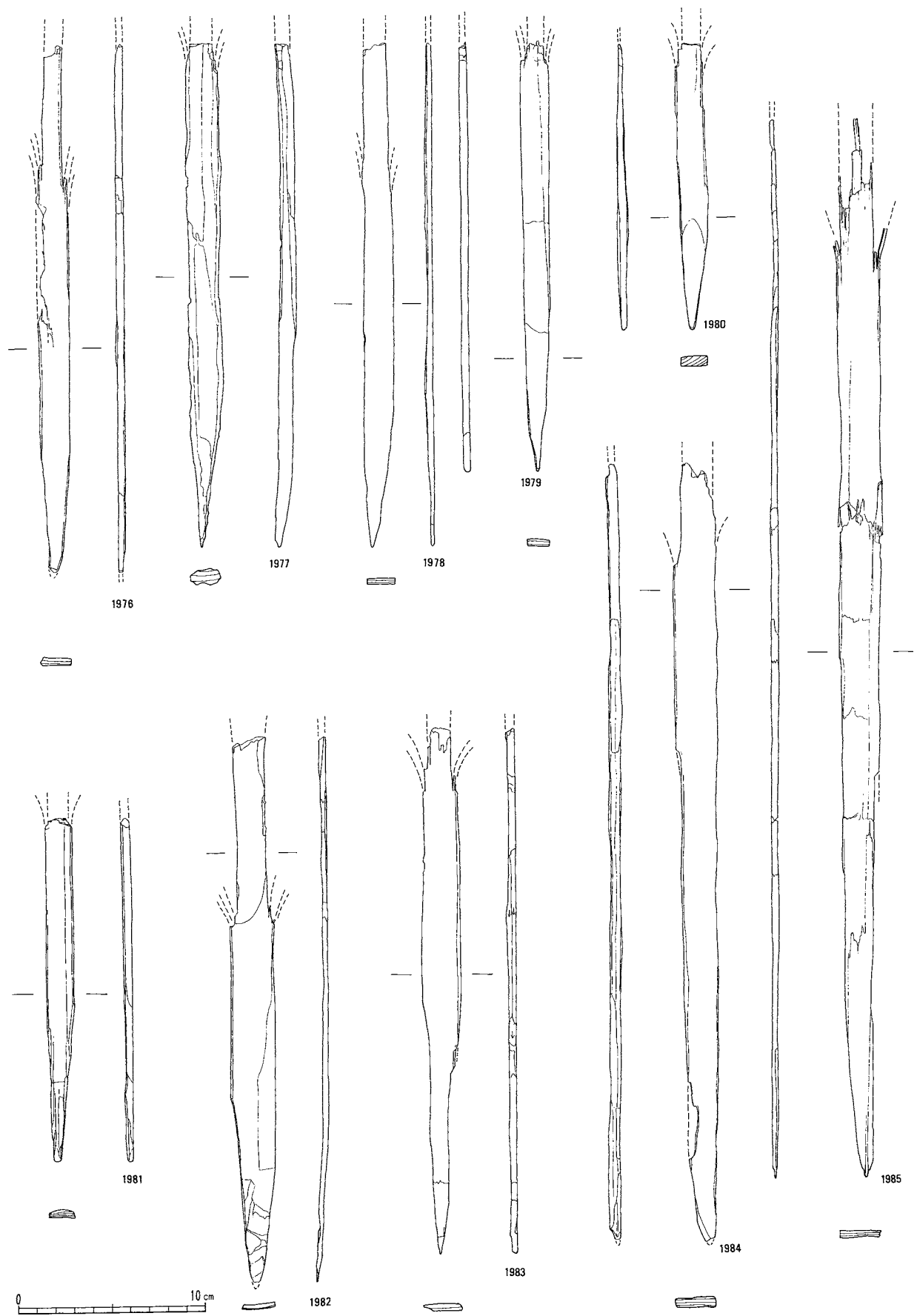
第177图 SR210出土遺物実測図⑬ (1 : 3)

る。2161・2162は口縁端部が内弯する土師器甕である。2163～2167は口縁部ヨコナデで底部調整が粗雑な土師器小皿である。2168・2169は口縁部断面が弓状で薄手の土師器皿である。2170・2171は底部から口縁部にかけて曲線的な口製土師器椀。これらは平安時代末期のものと考えられる。2172・2173は「志摩式製塩土器」である。口縁部から体部にか

て残存している。平安時代のものと思われる。2174・2175は高台が残る山皿。2176は底部外面に「ㄨ」の線刻がみられる山茶碗底部片。これらは第4型式と思われる。2177～2182は口縁端部が外反する山茶碗である。これらは第5型式と思われる。2183・2184は筒状の土錘。2185は鋳貨。「寛永通寶」である。江戸時代のものである。(小濱 学)



第178図 SR210出土遺物実測図⑱(1:3)



第179图 SR210出土遺物実測図②(1:3)

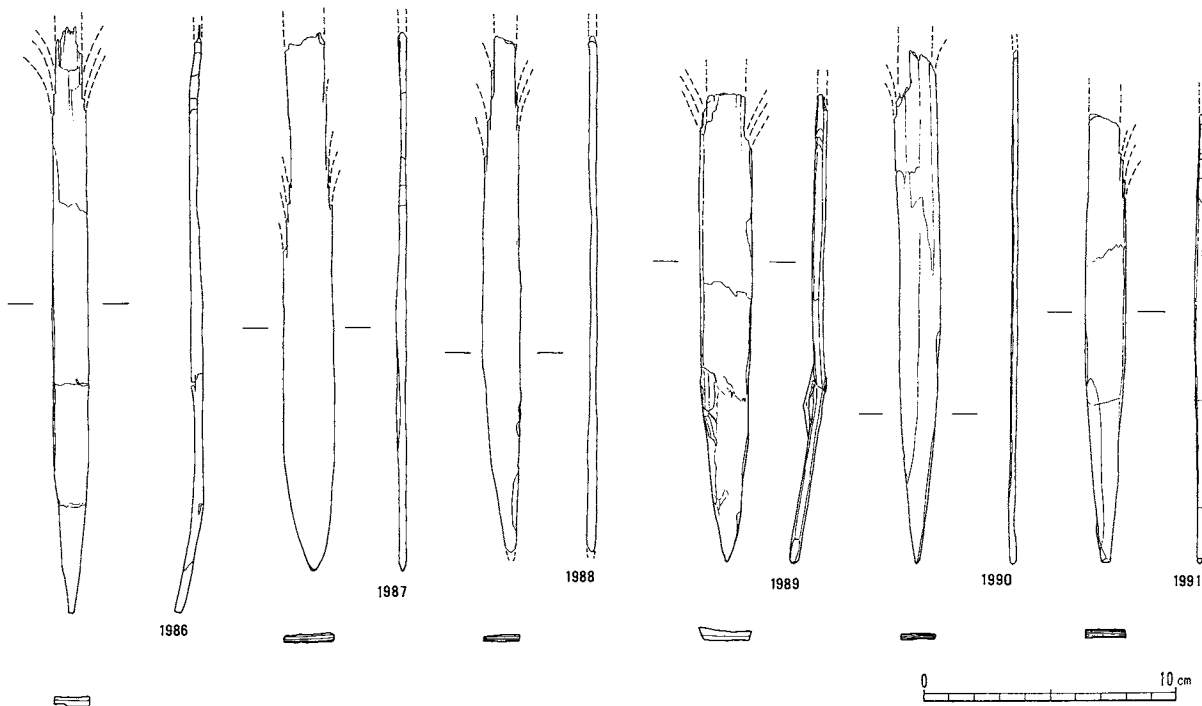
〔註〕

- ① 齋宮跡調査事務所「齋宮跡の土師器」『齋宮跡調査事務所年報』(1984年)。
- ② 前川嘉宏「VI. 調査のまとめ」『近畿自動車道(勢和～伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告 一第6分冊一 蚊山遺跡左郡地区』(三重県埋蔵文化財センター、1993年)。
- ③ 伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」『M i e h i s t o r y v o l . 1』(三重歴史文化研究会、1990年)。
- ④ 藤沢良祐「山茶碗と中世集落」『尾呂』(瀬戸市教育委員会、1990年)。
藤沢良祐「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要第3号』(三重県埋蔵文化財センター、1994年)。
- ⑤ 田辺昭三『陶器古窯址群I』(平安学園考古クラブ、1966年)。
大川勝宏「齋宮の黒色土器」『齋宮歴史博物館 研究紀要二』(齋宮歴史博物館、1993年)など。
- ⑥ 奈良国立文化財研究所「木器集成図録-近畿古代編-」(1985年)。
- ⑦ V 自然科学分析を参照。以後の植物遺体や動物遺体についてもVを参照されたい。
- ⑧ 三重県埋蔵文化財センター原田恵理子氏のご教示による。
- ⑨ 川崎志乃「水銀朱精製に関する予察」『研究紀要第9号』(三重県埋蔵文化財センター、2000年)。
- ⑩ 豊橋市教育委員会「高井遺跡」(1996年)
- ⑪ 三重県埋蔵文化財センター原田恵理子氏のご教示による。
- ⑫ 齋宮歴史博物館榎村寛之氏のご教示による。
- ⑬ V 自然科学分析を参照。
- ⑭ 山本雅靖「第Ⅲ部 10 三重県」『日本土器製塩研究』(青木書店、1994年)
- ⑮ 福田哲也ほか「IV. 阿形遺跡」『ヒタキ廃寺・打田遺跡・阿形遺跡ほか』(三重県埋蔵文化財センター、1992年)。
- ⑯ 野村史隆「伊勢・志摩海民の漁撈と信仰」『伊勢と熊野の海』(小学館、1992年)。

- ⑰ 宇野隆夫「井戸考」『史林 第65巻第5号』(1982年)。
- ⑱ 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所「草戸千軒町遺跡発掘調査報告書V」(1996年)。
- ⑲ ⑰に同じ。
- ⑳ 永井久美男ほか『中世の出土銭』(兵庫埋蔵銭調査会、1994年)。
- ㉑ 河瀬信幸ほか「IV 杉垣内遺跡」『昭和61年度農業基盤整備事業地域 埋蔵文化財発掘調査報告I』(三重県教育委員会、1989年)。
- ㉒ 栗野克己ほか『大谷川I』(〔財〕駿府博物館付属静岡県埋蔵文化財調査研究所、1984年)

〔参考文献〕

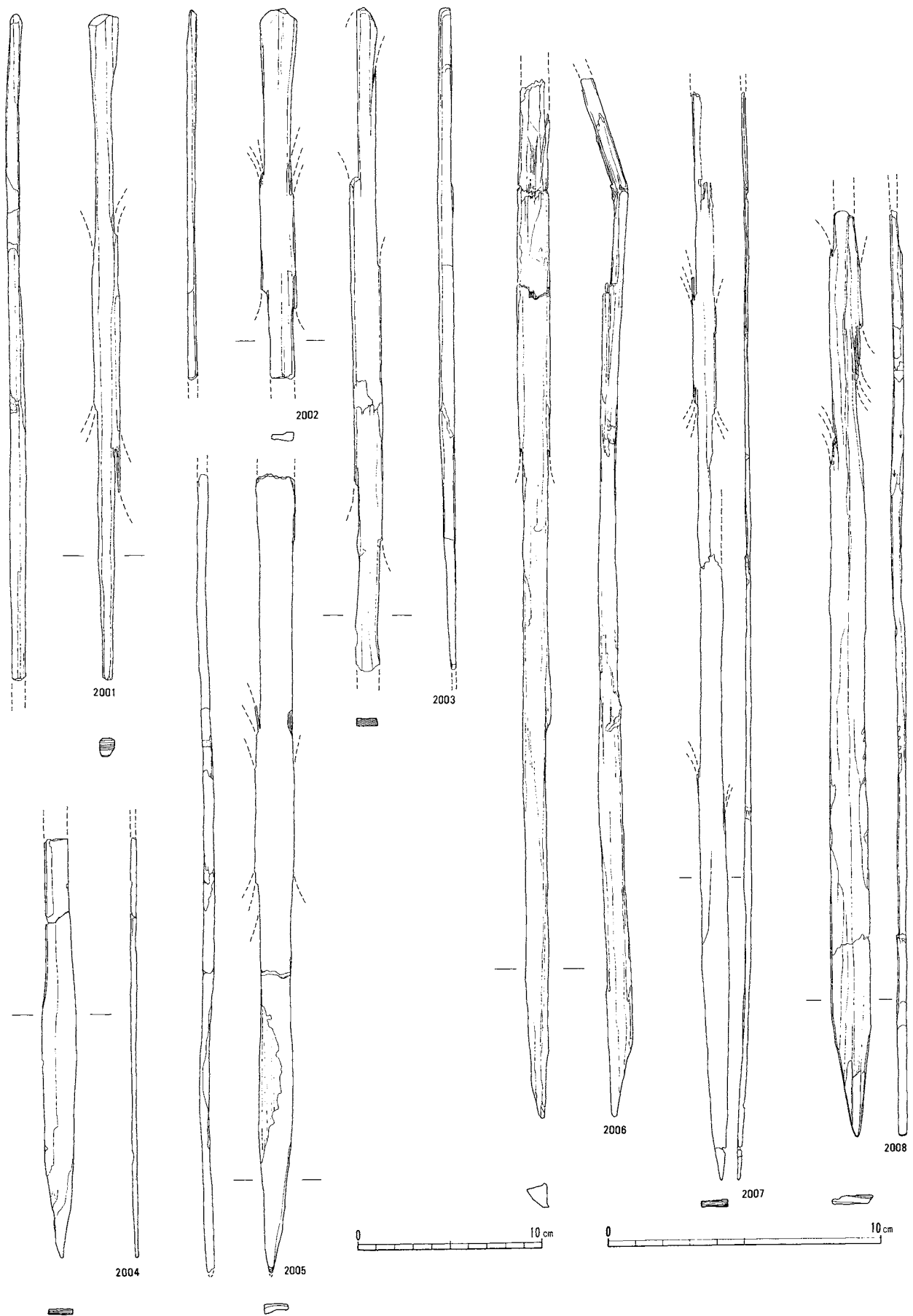
- ・ 赤塚次郎ほか『山中遺跡』(〔財〕愛知県埋蔵文化財センター、1992年)。
- ・ 森本六爾・小林行雄『弥生式土器聚成』(1939年)。
- ・ 寺沢薫・森岡秀人ほか『弥生土器の様式と編年-近畿編I-』(1989年)。
- ・ 寺沢薫・森岡秀人ほか『弥生土器の様式と編年-近畿編II-』(1990年)。
- ・ 東海考古学フォーラム『鍋と甕そのデザイン』(1996年)。
- ・ 三重県埋蔵文化財センター『一般国道42号松阪・多気バイパス 埋蔵文化財発掘調査概報V～VII』(1995～1998)。



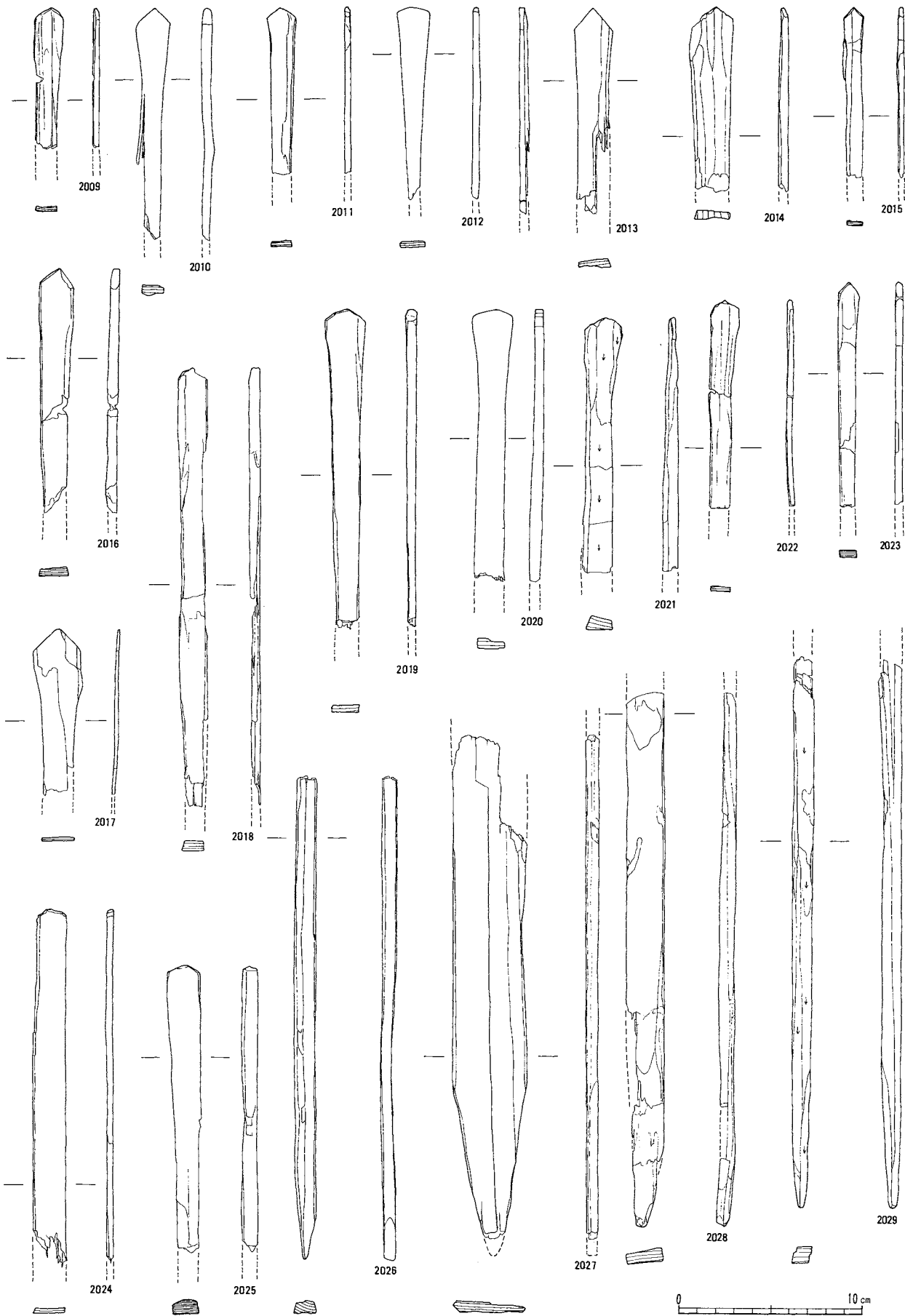
第180図 SR210出土遺物実測図②(1:3)



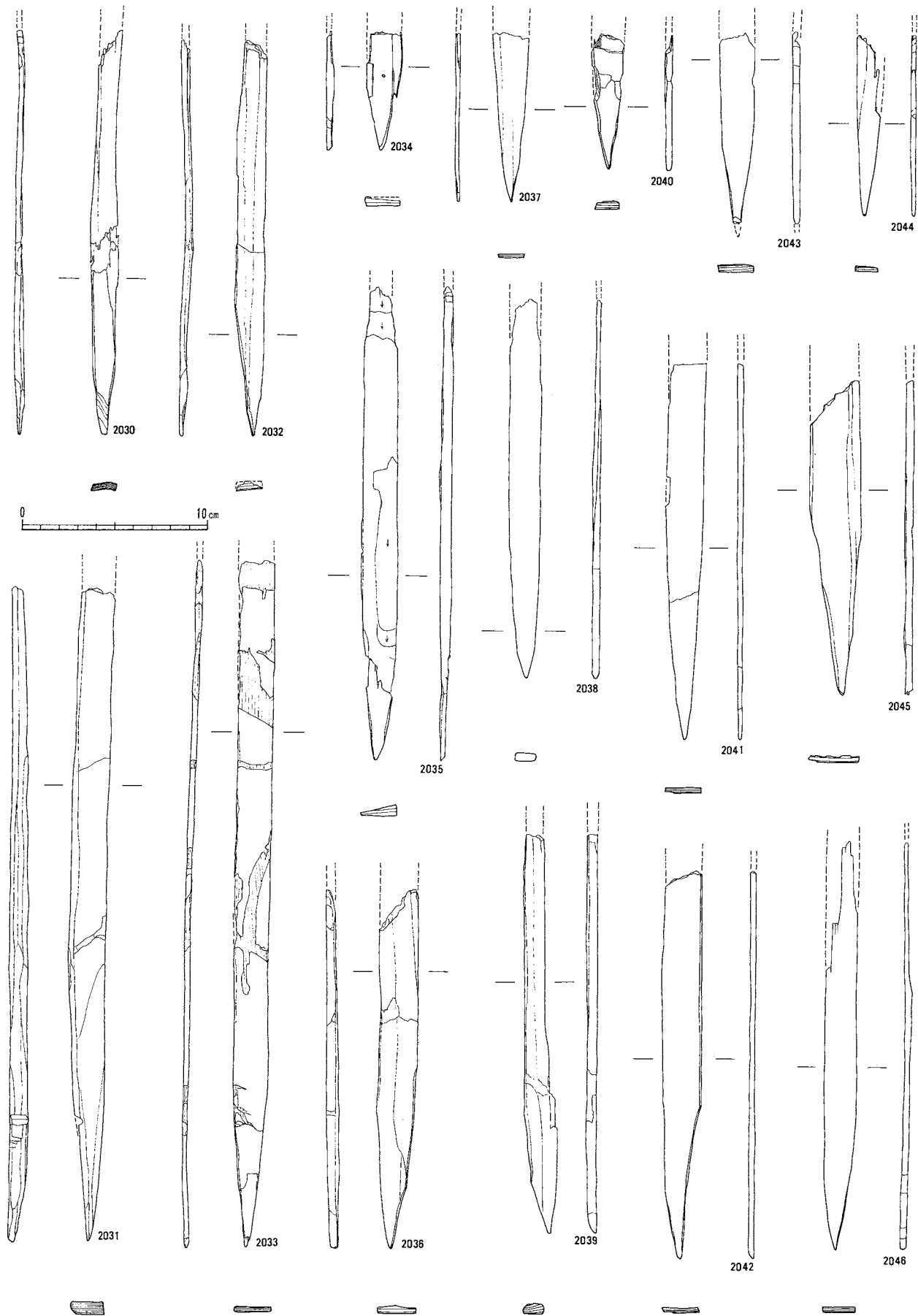
第181図 SR210出土遺物実測図② (1 : 3)



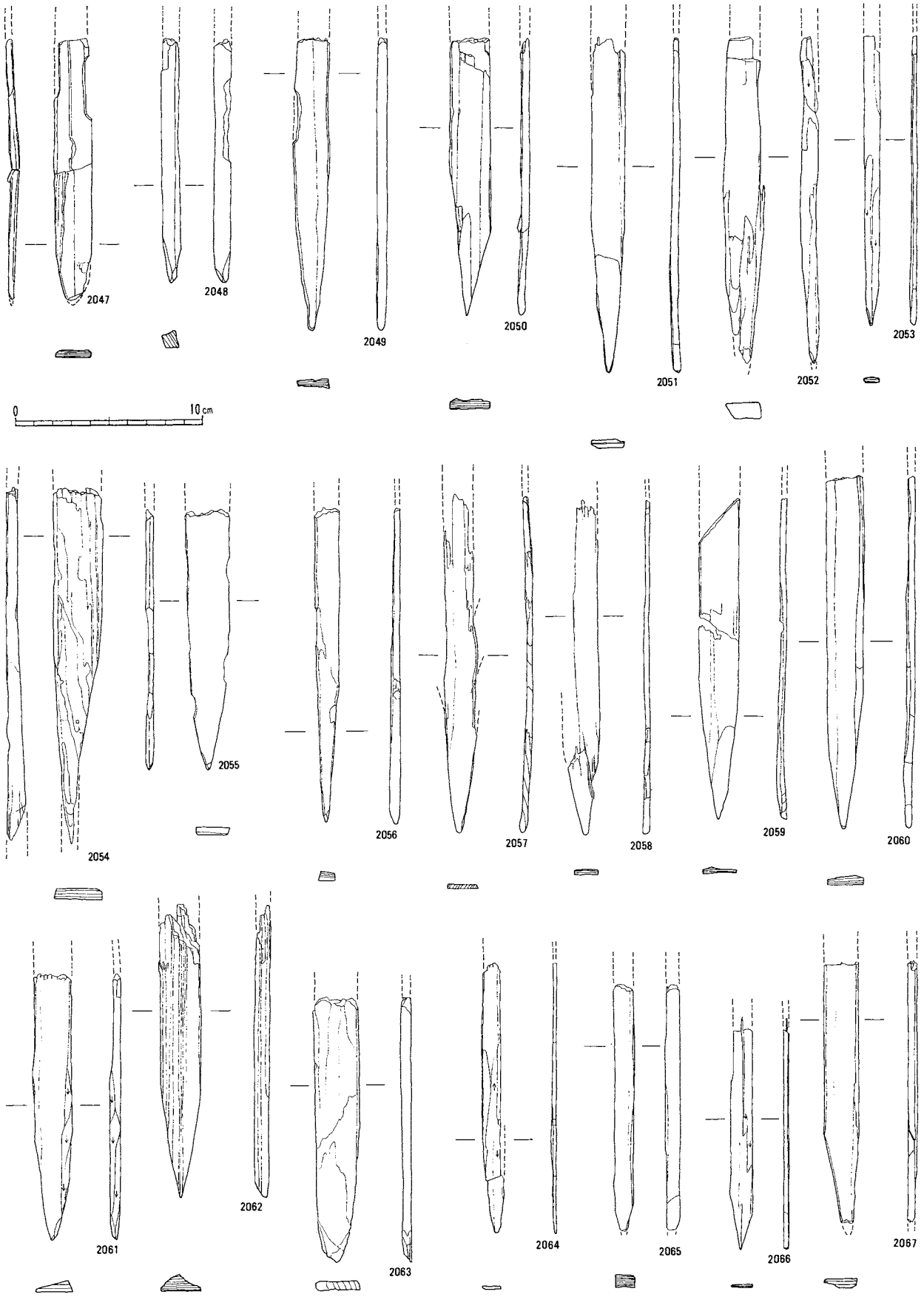
第182図 SR210出土遺物実測図㉓ (1 : 3, 2006~2008は1 : 4)



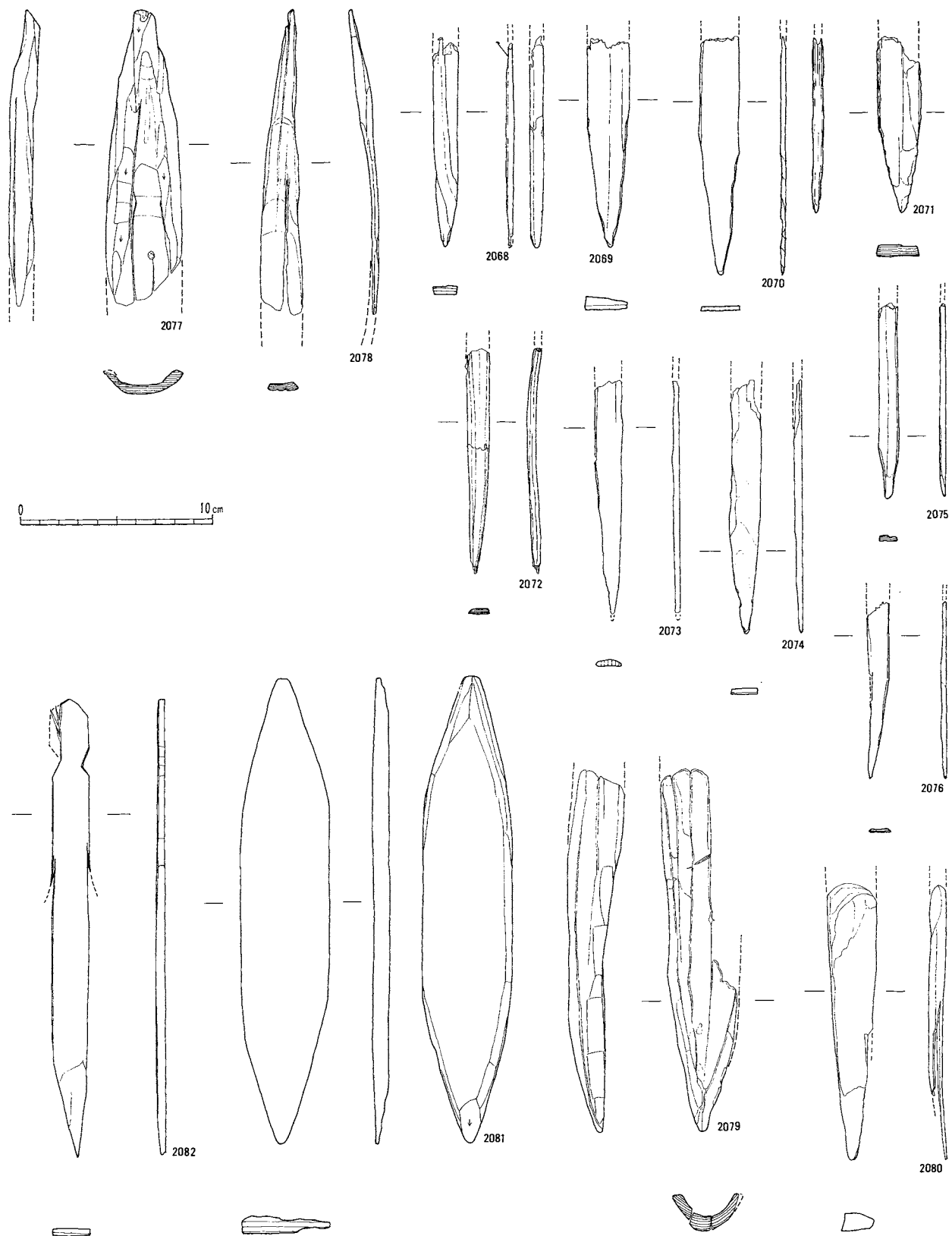
第183図 SR210出土遺物実測図②(1:3)



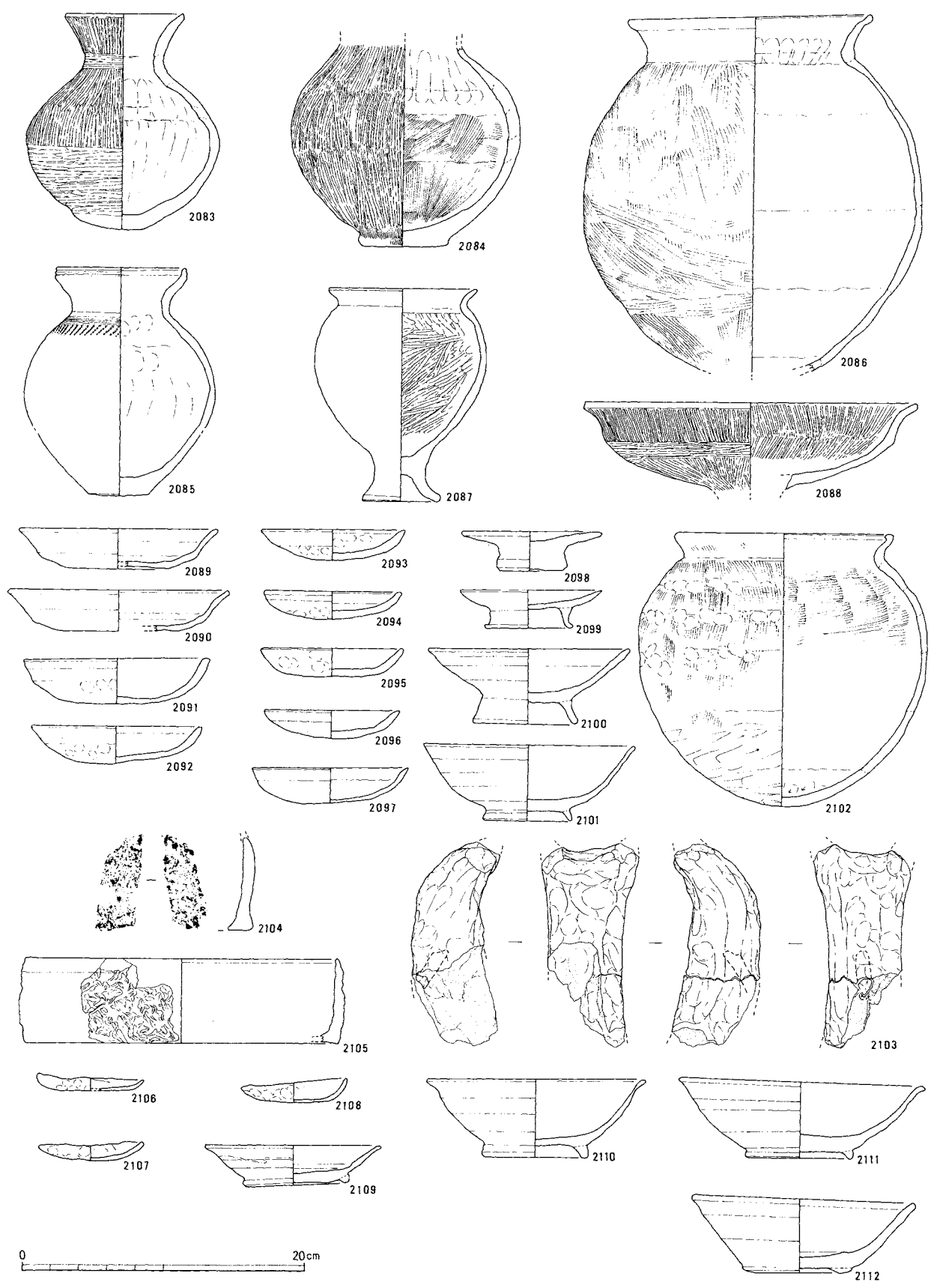
第184图 SR210出土遺物実測図㉔ (1 : 3)



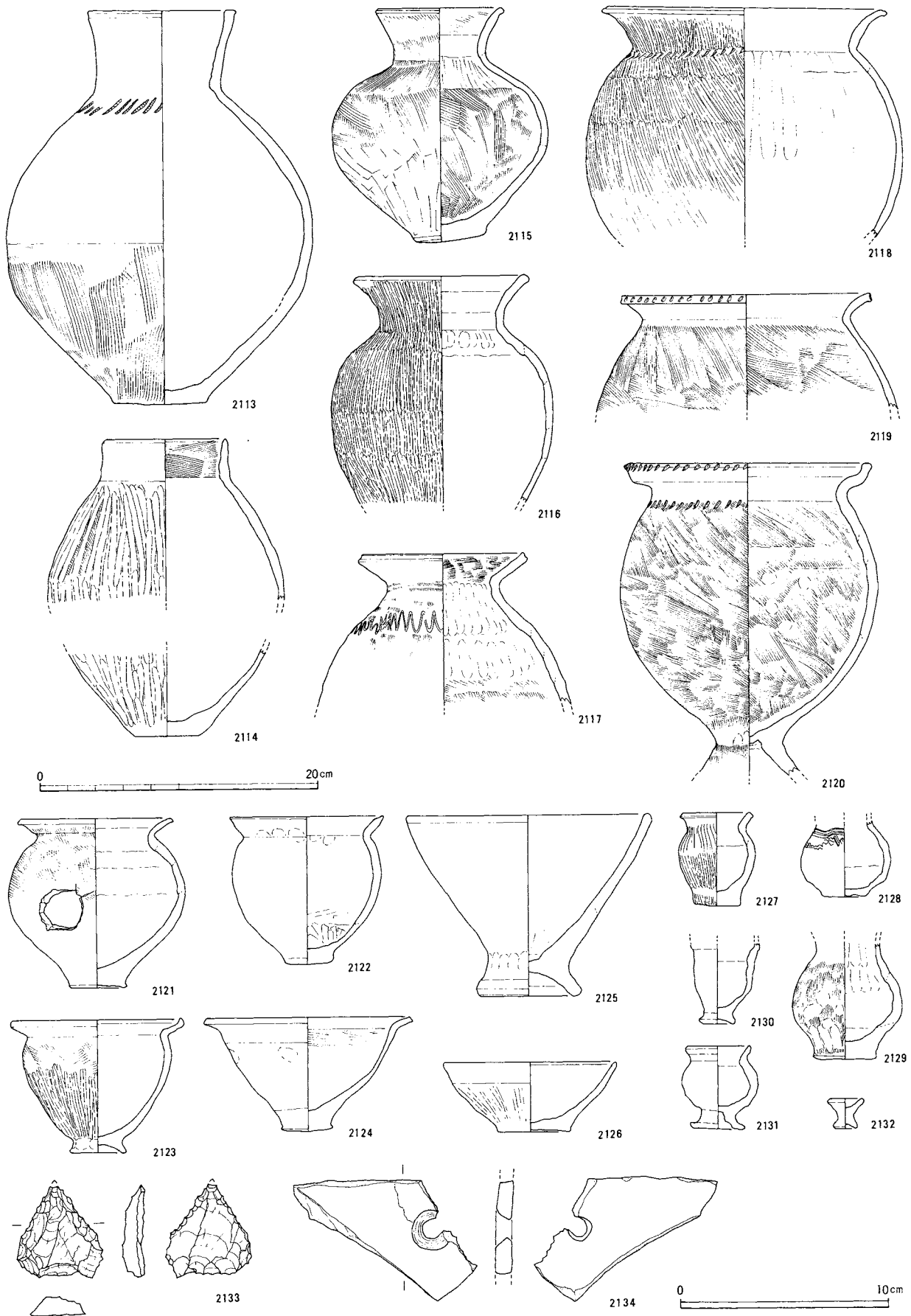
第185图 SR210出土遺物実測図② (1:3)



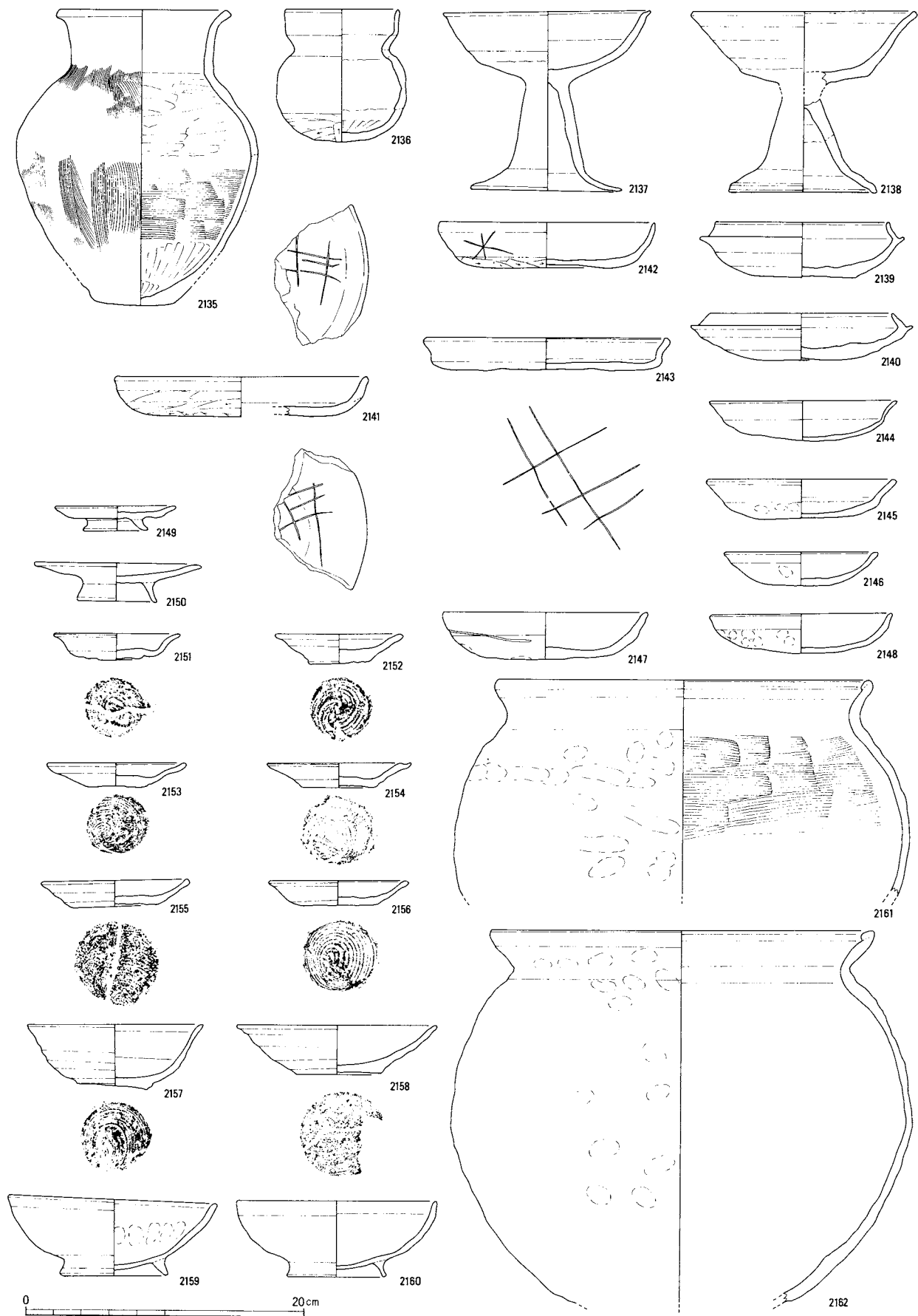
第186图 SR210出土遺物実測图② (1 : 3)



第187図 柱穴出土遺物実測図 (1 : 4)



第188図 包含層出土遺物実測図① (1:4, 2133・2134は2:3)



第189図 包含層出土遺物実測図② (1 : 4)

<遺物観察表凡例>

番号：文章と図版内の番号に対応する。

実測番号：遺物実測図の番号に対応する。

種類：弥生土器、土師器、須恵器などを記入している。

器種・分類：壺、甕、高杯、器台、皿などといった器種と本文で行った分類記号を記入している。

出土位置：出土した遺構、層位、地区、取り上げ番号などを記入している。

法量：基本的には、口縁、底径、器高の数値を記入しているが、それ以外のものについてはそれぞれの欄にどここの部位の数値が明記してある。なお、() 付の数値は復元値である。

調整技法の特徴：外面と内面の調整技法を遺物の上方から順次記入している。

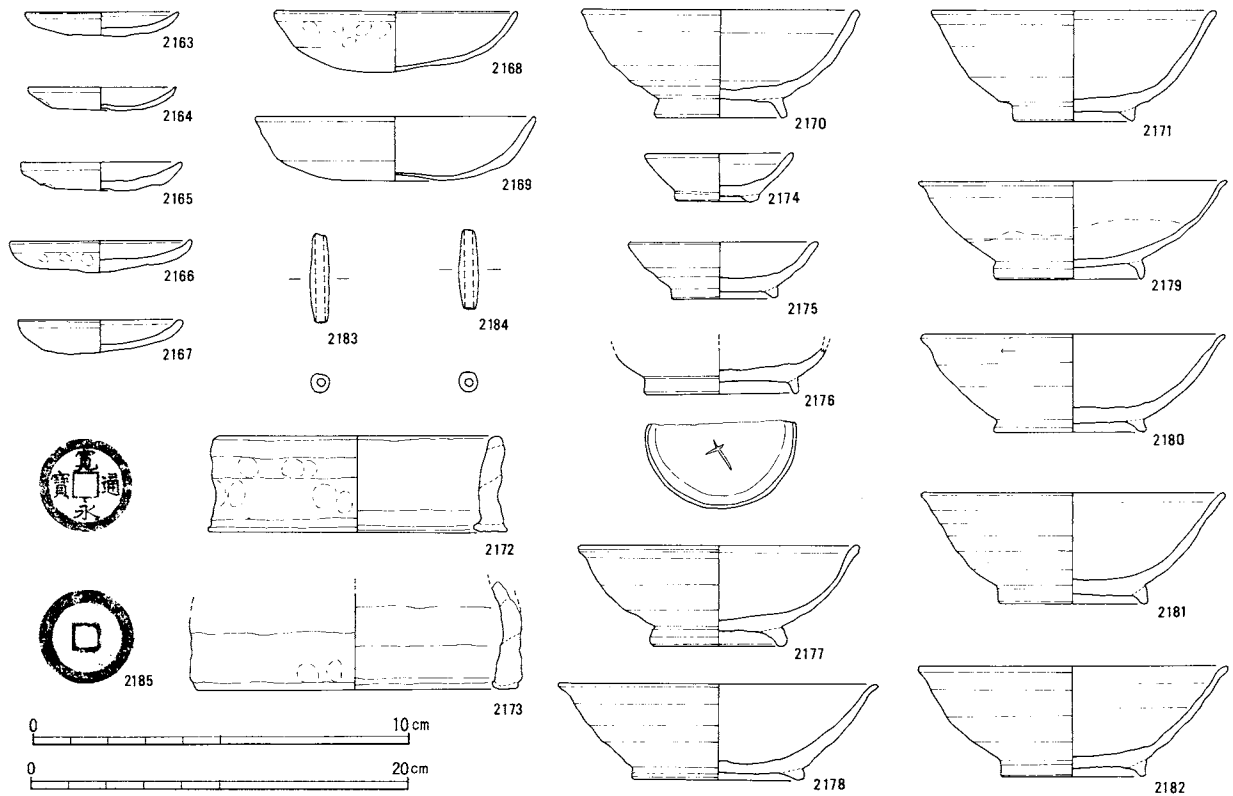
胎土：密、やや密、粗、やや粗の内から記入している。

焼成：良、並、不良の内から記入している。

色調：外面と内面をそれぞれ記入している。1色のみを表記の場合は内外面とも同一色ということになる。

残存：○分の○という表記で、残存部位によっては口縁1/3というように記入している。

備考：前述以外の情報を記入している。木製品の樹種や朱の付着など。



第190図 包含層出土遺物実測図③ (1 : 4, 2185は1 : 2)

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置		法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色 調	残存	備 考
						口径	底径	器高						
1	500-01	弥生土器	蓋	SB257	H60 Pit3	13.5			外:ヨコナデーナーハケメ5.6本/cm, 口縁部に凹線5本/1.3cm後ボタン状浮文3個3組内:ミガキナーナデ	やや密	並	にぶい橙5YR7/4	口縁3/4	
2	500-02	弥生土器	蓋	SB257	G60 Pit2		5.5		外:ハケメ4~5本/cmナーナデ内:ハケメ6本/cm	やや粗	並	橙5YR7/6	底部完形	
3	376-01	弥生土器	壺 C3	SK1	No.8-10-11-14		5.0		外:ミガキ内:ナデ	密	並	黄灰2.5Y5/1他	底部完形	
4	367-01	弥生土器	甕 B1	SK1	No.11	(17.4)			外:ヨコナデーナーハケメナーナデ, 刺突文2段, 横線文2段, 波状文1段内:ヨコナデーナーハケメ	密	良	外:黄灰2.5Y5/1内:灰白2.5Y8/1	1/2	外面全体に煤付着
5	368-01	弥生土器	高杯 A3a	SK1	No.7	(29.0)			外:ヨコナデーナーミガキ, 波状文1段, 衝刺突文内:ミガキ	密	良	赤10R5/8	杯部1/4	
6	376-02	弥生土器	器台 B1	SK1		(17.0)			外:ヨコナデーナーハケメ4本/0.6cm後ミガキ内:ハケメ3本/0.4cm後ミガキナーナデーハケメ6本/cm	やや粗	並	橙7.5YR6/6	口縁1/8	透孔5個2段交互に入る
7	301-04	弥生土器	蓋 A2	SK15	E7	(12.0)			外:内:調整不明, 衝刺突文	粗	並	淡黄2.5Y8/3	口縁1/5	
8	301-02	弥生土器	蓋 B1	SK15	No.114	(21.5)			外:ヨコナデーナーハケメ後ナデ, キザミ, 横線3本内:ヨコナデーナーハケメ	やや密	並	明褐色7.5YR7/2他	口縁1/5	
9	305-04	弥生土器	蓋 A2	SK15	No.112	(35.2)			外:ヨコナデーナーハケメ8本/cm, 衝刺突文内:ハケメ8本/cm後ヨコナデ, 衝刺羽状刺突列	やや粗	並	外:灰黄褐10YR5/2他内:黄灰10YR6/1	口縁1/8	
10	301-01	弥生土器	蓋 A1	SK15	No.115				外:ハケメ後ミガキ, 刺突文内:ヨコナデーナーハケメ8本/cm	やや粗	並	淡黄褐10YR8/3他	頸部1/3	
11	374-01	弥生土器	蓋 A	SK15	No.8-113-116-118				外:ハケメ後ミガキ内:ハケメ	やや密	良	黄褐2.5Y5/3他	体部片	
12	304-02	弥生土器	蓋 E2	SK15	No.6-8		5.0	体部径(23.0)	外:ハケメ4~5本/cm後ミガキナーナデ内:工具ナデ	やや粗	並	淡黄2.5Y8/3他	体部1/8 底部3/5	
13	373-02	弥生土器	蓋 E	SK15	No.10	(8.6)			外:ヨコナデーナーハケメ8本/cm内:ヨコナデーナーオサエ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁1/6	
14	362-01	弥生土器	蓋 E2	SK15	No.11	7.4	4.2	17.9	外:ヨコナデーナーハケメミガキ内:ハケメ	密	良	にぶい黄橙10YR6/4	完形	口縁端部に体部に黒斑あり
15	304-04	弥生土器	蓋	SK15		(7.5)			外:ナデ調整不明内:ナデ	粗	並	外:灰褐7.5YR5/2他内:黄灰2.5Y4/1	底部2/3	
16	304-03	弥生土器	蓋	SK15	No.9	(5.0)			外:オサエナーナデ内:ミガキ	密	良	橙5YR7/6他	底部1/3	
17	304-05	弥生土器	蓋	SK15		(8.0)			外:ケズリナーナデーナデ, ミガキ内:工具ナデ	やや粗	並	外:黄灰10YR5/1内:暗灰N3/0	底部1/4	
18	304-01	弥生土器	蓋	SK15	No.109	7.2			外:ミガキ内:ハケメ4~5本/cm	やや密	並	外:にぶい黄橙10YR7/3内:黄灰10YR5/1	底部2/3	
19	305-02	弥生土器	甕 A2	SK15		(14.0)			外:ヨコナデーナーハケメ7本/cmケズリ内:ヨコナデーナーハケメ7本/cm	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/4	口縁1/5	外面に煤付着 内面に炭化物付着
20	303-02	弥生土器	甕 A1	SK15	No.5	(18.0)			外:ヨコナデーナーハケメ8本/cm, 横線内:ヨコナデーナーハケメ後ナーナデ	やや粗	並	淡黄褐10YR8/4	口縁1/4	外面に煤付着 内面に黒斑あり
21	305-03	弥生土器	甕 A2	SK15		(18.2)			外:内:ヨコナデーナーナデ	粗	並	にぶい黄橙10YR6/3	口縁1/8	外面に煤付着
22	300-06	弥生土器	甕	SK15		(4.8)			外:内:ナデ	密	並	黄灰7.5YR4/1	底部小片	
23	303-03	弥生土器	甕	SK15	No.5	7.4			外:ハケメ8本/cmヨコナデーナーハケメ内:ナデ	やや粗	並	淡黄橙10YR8/4	底部完形	
24	300-04	弥生土器	甕	SK15		(7.5)			外:ハケメナーナデーナーナデーナーナデ内:ナデ	やや密	並	灰褐7.5YR5/2	底部1/3	
25	301-03	弥生土器	高杯 A1	SK15	No.13	(24.6)			外:内:ミガキ	密	並	にぶい橙5YR7/4他	口縁1/6	
26	300-02	弥生土器	高杯 B1	SK15	No.3-6	(9.8)			外:ヨコナデーナーミガキ, 4本衝刺横線文3段内:ミガキ 脚部内:ナデーナーハケメ後ヨコナデ	やや密	並	にぶい橙7.5YR7/4他	4/5	四方透孔(孔径φ1.2cm)包含層遺物と接合
27	300-01	弥生土器	高杯	SK15		9.5			外:ミガキ内:未調整 脚部内:オサエヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR7/3他	脚部のみ	
28	306-01	弥生土器	甕 E	SK15		(10.9)			外:ヨコナデーナーハケメ9本/cm内:ヨコナデーナーナデ	やや粗	並	黄灰2.5Y6/1他	口縁1/6	外面に煤付着
29	305-01	弥生土器	鉢 D3	SK15	No.101	(3.0)		体部径(14.3)	外:内:ヨコナデーナーミガキ	やや粗	並	外:にぶい橙7.5YR6/4内:にぶい黄橙10YR7/3	口縁1/8 体部1/4	外面に煤付着
30	306-02	弥生土器	ミチュウ土器 C2	SK15		(9.3)	(2.5)	(3.3)	外:オサエナーナデ内:ナデ	やや密	並	灰黄褐10YR6/2他	完形	
31	2097-01	木製品	板状木製品	SK15	No.120	最大長16.8	最大幅7.4	最大厚2.2	加工痕不明 板目取り				小片	樹種不明
32	2098-01	木製品	横斧	SK15	No.105	最大長34.5	最大幅5.0	最大柄20.5	一部削痕 木材そのまま使用				ほぼ完形	サカキ
33	353-06	弥生土器	甕 A2	SK29	No.1	(20.0)			外:内:ヨコナデーナーハケメ	やや密	並	外:黒褐10YR3/2内:にぶい黄橙10YR7/3	口縁1/4	外面に煤付着
34	353-04	弥生土器	甕	SK29	No.1	9.6			外:ミガキナーナデ内:ナデ	やや密	良	にぶい黄橙10YR7/4	脚部	
35	318-01	弥生土器	壺 C1	SK31	No.17	(18.2)			外:ナデ(ハケメ一部残る), 刺突文2段, 波状文2段内:ナデ	良	良	淡赤褐2.5YR7/4他	口縁1/4	
36	314-01	弥生土器	蓋 A1	SK31		(31.2)			外:ヨコナデ, 凹線3本内:調整不明	やや粗	良	淡黄橙10YR8/3	口縁1/7	浮文の貼付け痕あり 2個1単位
37	317-02	弥生土器	蓋 A2	SK31	No.54	(22.2)			外:ヨコナデーナーハケメ, 凹線内:ヨコナデーナーハケメ, 調整不明	粗	良	にぶい橙5YR6/4	口縁1/6	
38	317-03	弥生土器	蓋 A3	SK31	No.43	(26.6)			外:ナデ, 凹線2本内:ミガキ	粗	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁1/8	1.3cm大の赤色顔料
39	314-02	弥生土器	蓋 D2	SK31		(14.2)		頸部径(7.4)	外:ヨコナデーナーハケメ8本/cm後ヨコナデーナーハケメ6~7本/cm, キザミ, 沈線文2本内:ヨコナデーナーオサエ後ナデ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR6/3	口縁1/4	
40	366-02	弥生土器	蓋 D2	SK31	No.48	(10.7)			外:ヨコナデーナーハケメケズリ内:ヨコナデーナーオサエ後ナデ	粗	不良	にぶい黄橙10YR7/4	1/2	外面肩部に線刻
41	309-05	弥生土器	蓋 B2	SK31		(14.0)			外:調整不明内:調整不明, 羽状刺突列	粗	並	橙5YR6/6	口縁1/5	
42	310-02	弥生土器	蓋	SK31	No.52				外:ナデーナーミガキ内:ナデ	やや粗	並	灰黄褐10YR6/2	体部片	外面肩部に線刻
43	310-03	弥生土器	蓋	SK31					外:ナデ, 薄文内:ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/3	体部小片	

第16表 遺物観察表①

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
					口径	底径	器高							
44	309-06	弥生土器	壺	SK31				外:ハケメ、波状文2段 内:オサエ後ナデ	やや粗	並	外:にぶい黄橙10YR7/3 内:暗灰N3/0	底部小片		
45	307-01	弥生土器	壺 B2	SK31		8.1	体部径 26.0	外:ナデ後ミガキ(一部ケズリハケメ残る)→ヘラ切り、 麻状文、御描文、波状文5段 内:ハケメ4~5本/cm→オサエ後ナデ→ハケメ4~5本/cm	密	良	外:にぶい黄橙10YR7/3 内:灰白5Y7/1	底部完形	外面頸部に赤彩 外面に煤付着	
46	310-01	弥生土器	壺 B2	SK31	No.25		6.8	外:ミガキ→ナデ調整不明 内:ナデ	やや粗	並	橙7.5YR6/6	底部完形	外面に黒斑あり	
47	313-01	弥生土器	壺 B2	SK31	No.1・2・4・5	7.0~ 7.4		外:ハケメ→ミガキ→未調整、板圧痕 内:ケズリ→ナデ	やや粗	良	外:にぶい橙7.5YR7/4 内:にぶい黄橙10YR7/5	底部完形	外面に一部黒斑あり 底部に板圧痕あり	
48	315-01	弥生土器	壺 B2	SK31	No.40		6.6	外:ミガキ→ナデ→ミガキ 内:ナデ	粗	並	外:にぶい濁7.5YR5/3他 内:灰N4/0他	底部完形		
49	315-02	弥生土器	壺 C1	SK31	No.20	(8.4)	体部径 (31.0)	外:ハケメ8~10本/cm→ミガキ→ナデ未調整、 波状文8本8段後竹管文5段 内:オサエ、ナデ→ハケメ後ナデ未調整	やや粗	並	外:にぶい橙7.5YR7/3他 内:暗灰N3/0	底部1/2 体部1/2	竹管φ0.7cm	
50	316-01	弥生土器	壺 C1	SK31	No.51		7.5	外:ケズリ後ナデ→ハケメ→ナデ 内:ハケメ未調整	やや密	良	灰黄濁10YR5/2	底部完形		
51	366-01	弥生土器	壺 E2	SK31		4.0	5.5	15.7	外:ヨコナデ→ナデ→ミガキ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	オリブ黄5Y6/4	2/3	
52	364-01	弥生土器	壺 E1a	SK31		8.6	5.8	19.3	外:ヨコナデ→ミガキ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	浅黄橙10YR8/4	3/4	穿孔3ヶ所 2個2組か?
53	317-01	弥生土器	壺 F	SK31	No.34	(6.4)			外:ミガキ→ハケメ6本/cm後ミガキ→ナデ→ミガキ 内:ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR6/3	口縁1/4	
54	312-02	弥生土器	甕 A1	SK31	No.45	(19.2)			外:ヨコナデ→ハケメ11本/cm→棒状工具によるミガキ、 ケズリ 内:ヨコナデ→ハケメ7本/cm	やや密	良	にぶい黄橙10YR6/3	口縁~ 体部小片	外面全体に煤付着 内面に黒斑あり
55	375-01	弥生土器	甕 A3	SK31	No.41	(19.4)		体部径 (25.2)	外:ヨコナデ→ハケメ8~9本/cm→ケズリ 内:ヨコナデ→ハケメ→オサエ、ナデ→ケズリ	粗	並	外:灰白10YR8/2 内:にぶい黄橙10YR7/2他	1/4	外面に煤付着
56	365-01	弥生土器	甕 D1	SK31	No.47	16.4	9.8	(23.0)	外:ヨコナデ→ハケメ後ケズリ、調整不明→ナデ 内:ヨコナデ→ハケメ→ナデ 台部内:ナデ	粗	不良	外:オリブ黒5Y2/2 内:にぶい黄2.5Y6/4	口縁完形 体部1/2	
57	316-04	弥生土器	高杯	SK31	No.13				外:ナデ、御描横線文5本/1.6cm 内:ナデ	やや密	良	にぶい黄橙10YR6/4他	柱状部	
58	308-04	弥生土器	高杯	SK31	No.7				外:ミガキ 内:ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/4	柱状部	
59	316-03	弥生土器	高杯	SK31	No.33		10.0		外:ミガキ 内:調整不明 脚部内:ナデ	やや粗	良	灰白10YR7/1	台部 ほぼ完形	
60	369-01	土製品	銅鐸形 土製品	SK31		底長径 7.9	底短径 4.3	(10.0)	ウビオサエ、ウビナデ 裏面線文、流水文	やや粗	不良	灰5Y4/1	3/4	
61	311-01	石器	敲石	SK31	No.49	最大長 11.3	最大幅 7.3	最大厚 3.2	3ヶ所に敲打痕				完形	砂岩 重量085g
62	311-02	石器	不明 石製品	SK31	No.15	最大長 14.2	最大幅 4.3	最大厚 1.3	加工痕若干あり				完形	縞雲母石英結晶片岩 重量106.44g
63	2156-01	木製品	横斧	SK31		最大長 16.7	最大幅 4.8	最大厚 6.0	削痕全面にあり 板目取り 屨柄				斧台部分	サカキ
64	2094-01	木製品	横斧	SK31	No.61	最大長 27.2	最大幅 5.3	最大厚 12.5	削痕全面にあり 木材そのまま使用				完形	コナラ属コナラ亜属 クスギ節
65	2093-01	木製品	泥除け	SK31	No.42	最大長 25.0	最大幅 32.7	最大厚 5.0	片面に削痕全面にあり 板目取り				完形	φ0.4cm穴の穿孔4ヶ所 コナラ属アカガシ亜属
66	2095-01	木製品	板状 木製品	SK31	No.60	最大長 18.8	最大幅 12.5	最大厚 5.7	一部に切断面 追紐目取り				完形	コナラ属
67	2179-01	木製品	板状 木製品	SK31	No.32	最大長 38.2	最大幅 16.0	最大厚 7.1	一部に削痕あり 板目取り				完形	樹皮
68	346-01	弥生土器	壺	SK41					外:ナデ、麻状文5段 内:ナデ	やや粗	並	明濁灰7.5YR7/2	肩部小片	
69	344-05	弥生土器	壺	SK41		(6.8)			外:ハケメ後ナデ→ナデ 内:ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/3	底部1/4	外面に黒斑あり
70	345-03	弥生土器	壺	SK41		2.0			外:内:ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/3	底部完形	
71	344-01	弥生土器	壺 B3	SK41		7.7			外:ハケメ後ミガキ→ナデ 内:ハケメ6本/cm→ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/3	底部完形	外面底部に黒斑あり
72	377-01	弥生土器	甕 D1	SK53	H21	13.8	8.2	20.0	外:ヨコナデ→ナデ 内:ヨコナデ→ケズリ 台部内:ナデ	やや粗	良	黒7.5YR1.7/1他	完形	
73	371-01	弥生土器	壺 F	SK61	No.3	(11.8)			外:ヨコナデ後ミガキ 内:ヨコナデ→オサエ	やや粗	並	にぶい橙5YR7/4他	口縁1/3	
74	370-01	弥生土器	壺 G4	SK61	I9 No.1		7.9		外:ナデ→ハケメ9本/cm→ハケメ6本/cm→ナデ、 刺突文5個組2列 内:ナデ一部工具ナデ、ハケメ7本/cm 台部内:ハケメ9本/cm	やや粗	並	にぶい橙5YR6/3他	台部5/8	外面に煤付着
75	370-02	弥生土器	甕 A1	SK61	I9 No.5	(17.8)			外:ヨコナデ→ハケメ15本/cm 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	浅黄橙7.5YR8/3他	口縁1/8	
76	371-04	弥生土器	高杯 C2	SK61	No.4				外:ケズリ→ミガキ 内:ナデ	やや粗	並	灰白7.5YR8/2	1/3	
77	371-02	弥生土器		SK61	No.3		6.2		外:ナデ、ギザミ2個組6ヶ所 内:ナデ	やや粗	並	灰N4/6	底部完形	
78	035-03	弥生土器	壺 B3	SK302	B75	(15.3)			外:ナデ→ミガキ 内:ハケメ9本/cm	やや密	並	外:赤10R5/6 内:にぶい橙7.5YR7/3	口縁1/6	外面に赤彩
79	035-02	弥生土器	壺 B3	SK302	C75	(12.0)			外:内:ナデ→ハケメ6本/cm後ナデ	やや粗	並	淡黄橙7.5YR8/3	口縁1/4	
80	037-02	弥生土器	壺 E1a	SK302	C75	(9.7)			外:ヨコナデ→ハケメ9本/cm 内:ヨコナデ→ハケメ8本/cm後一部オサエ	やや粗	並	にぶい橙5YR6/3	口縁1/2	
81	035-01	弥生土器	壺 B3	SK302	C75	(5.2)			外:調整不明→ナデ 内:ナデ	やや粗	並	外:灰N4/0 内:灰白10YR8/2	底部片	
82	038-01	弥生土器	壺 B3	SK302	C75		6.0		外:ハケメ後ミガキ 内:ナデ→ハケメ7本/cm後一部ナデ	やや密	並	にぶい橙7.5YR7/3	底部完形	
83	036-02	弥生土器	壺 F2	SK302	C75		5.0		外:ナデ 内:ハケメ8本/cm以上	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/4他	底部完形	
84	035-04	弥生土器	甕 A2	SK302	C75	(15.6)			外:ハケメ12本/cm 内:ハケメ9本/cm→ナデ	やや粗	並	にぶい濁7.5YR5/3他	口縁1/5	
85	035-05	弥生土器	鉢 C1	SK302	C75	(12.0)			外:ハケメ7本/cm後ナデ 内:ハケメ→ナデ	やや粗	並	外:明赤濁2.5YR5/6 内:橙7.5YR6/6	口縁1/8	

第17表 遺物観察表②

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
					口径	底径	器高							
86	036-03	弥生土器	高杯 A3b	SK302	C75	(22.6)		外・内: ナデ→ミガキ	やや粗	並	外: 明赤褐5YR5/6 内: ぶい・橙5YR6/4	杯部片		
87	036-01	弥生土器	高杯	SK302	C75		(13.5)	外: 調整不明→ミガキ 内: ナデ	やや粗	並	ぶい・黄橙10YR7/3	底部3/8		
88	037-01	弥生土器	器台 A	SK302	C75	16.3	(15.2)	14.75	外: ナデ→ミガキ→ナデ 内: ナデ→オサエ→ハケメ5本/cm	やや粗	並	ぶい・橙5YR6/4	口縁完形 底部1/3	竹管文3個1組7ヶ所 2個組三方透孔
89	034-02	弥生土器	壺 A1	SK305	C68				外・内: ヨコナデ→ハケメ4本/cm	やや密	並	明褐灰7.5YR7/2	口縁小片	
90	028-03	弥生土器	壺 A1	SK305	C68	(19.0)			外: ヨコナデ→ハケメ5本/cm, 刺突文, 浮文2個 内: ヨコナデ, 刺突文	やや粗	並	灰黄2.5Y7/2他	口縁小片	外面に一部黒斑あり
91	006-01	弥生土器	壺 A2	SK305	C68 第3層 No.59・186・198	19.6			外: ヨコナデ→ハケメ8本/1.8cm, 口縁端部へラ状工具によるキザミ, 同一原体による櫛描文, 波状文が上から順にある 内: ヨコナデ→ハケメ→ユビオサエ→ナデ, へラ状工具による羽状刺突列	密	良	外: ぶい・橙7.5YR6/4 内: 黄灰2.5Y6/1他	口縁から 頸部完形	
92	017-02	弥生土器	壺 A2	SK305	C68				外: ミガキ, 頸部にキザミ隆帯 内: ヨコナデ→ユビオサエ→ナデ	密	不良	外: ぶい・黄橙10YR7/2 内: 灰黄2.5Y7/2	頸部から 肩部	
93	001-01	弥生土器	壺 A2	SK305	C68 No.57	(18.4)	(5.8)	30.6	外: ヨコナデ→工具ヨコナデ→ハケメ4本/cm→ミガキ, 口縁端部へラ状工具による凹線, 肩部から浅い櫛による横線文7本/1.5cm2段, 波状文2段 内: ナデ, 口縁へラ状工具による羽状刺突列	やや粗	良	赤褐2.5YR4/8	口縁部 1/3	口縁内面に浮文2個1組 3ヶ所 体部穿孔4ヶ所
94	017-01	弥生土器	壺 A2	SK305	C68 第2層 No.120・126				外: ヨコナデ→ハケメ10本/1.3cm, 頸部に櫛刺突文, 横線文4本2段, 波状文2段 内: ナデ→ユビナデ→ナデ	密	良	外: ぶい・橙7.5YR7/3 内: 黒褐7.5YR3/1	肩部	
95	026-02	弥生土器	壺 A2	SK305	C68 第3層				外: 調整不明, 櫛描横線文5本4段, 波状文3段 内: ヨコナデ→ユビオサエ→ナデ→ハケメ	やや密	良	外: 明褐灰7.5YR7/2 内: 灰白10YR8/1	小片	
96	026-03	弥生土器	壺 A2	SK305	C68 No.36				外: ハケメ, 櫛描横線文2段, 波状文2段 内: ナデ→ハケメ	やや密	良	橙5YR6/6	小片	
97	014-01	弥生土器	壺 B1	SK305	C68 No.3	19.5			外: ナデ, 口縁端部櫛状工具による刺突 内: ナデ, 口縁羽状刺突列	やや密	不良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 2/3	
98	027-02	弥生土器	壺 A3	SK305	C68 第3層 No.177	(15.0)			外: ヨコナデ→ハケメ6本/cm→ミガキ, 凹線2本 内: ヨコナデ→ナデ, 工具痕→ハケメ7~8本/cm後ナデ	やや密	並	明褐灰7.5YR7/2他	口縁1/3	外面に黒斑あり
99	013-02	弥生土器	壺 B2	SK305	C68 第3層 No.192・193	(4.8)			外: ミガキ→ハケメ後粗いミガキ→ナデ 内: ナデ→ユビオサエ→ハケメ7本/cm→ヨコナデ	密	並	外: 橙7.5YR7/6他 内: 灰黄2.5Y7/2	体部1/3 底部1/2	外面に黒斑あり
100	016-05	弥生土器	壺	SK305	C68 第2層 No.93	8.0			外: ハケメ10本/1.7cm→ヨコナデ→ナデ 内: ハケメ5本/1.6cm→ナデ	密	良	外: ぶい・橙7.5YR5/4 内: 黒7.5YR2/1	底部1/2	
101	013-01	弥生土器	壺	SK305	C68 No.2	(5.8)			外: ハケメ6~7本/cm後粗いミガキ, 工具痕→未調整 内: ハケメ5~6本/cm→工具ナデ, ユビナデ	やや密	並	外: ぶい・橙7.5YR6/3他 内: 明灰N3/0	体部1/2 底部1/2	外面に黒斑あり
102	023-01	弥生土器	壺	SK305	C68	6.8			外: ナデ→ヨコナデ→ナデ 内: ナデ	やや粗	不良	外: 灰白2.5Y8/2 内: 黄灰2.5Y6/1	底部完形	
103	016-01	弥生土器	壺 E2	SK305	C68 第3層 No.58・188	10.7			外: ヨコナデ→ミガキ→ナデ, 工具痕 内: ヨコナデ→ミガキ→ナデ	密	不良	ぶい・橙7.5YR7/3	口縁完形	
104	032-01	弥生土器	壺 E2	SK305	C68 No.10・13・15・16・20・26・37・40・41・94・95・97~102・104	(10.7)	6.3	(25.0)	外: ハケメ6本/cm→未調整, 肩部に刺突文 内: ハケメ→ナデ, オサエ→ハケメ4本/cm	やや粗	良	ぶい・橙5YR6/3他	口縁1/2 底部完形	内面に炭化物付着
105	008-01	弥生土器	壺 E1a	SK305	C68 No.206	10.6	3.7	23.5	外: ヨコナデ→ハケメ10本/1.1cm→ナデ, 肩部に櫛刺突文 内: ヨコナデ→ユビナデ→ハケメが一部残るナデ→工具痕	やや粗	良	ぶい・黄橙10YR6/3	口縁部 若干欠失	内面底部に工具痕
106	012-01	弥生土器	壺 B2	SK305	C68 No.210	6.2			外: ミガキ→ナデ, 頸部にキザミ隆帯と肩部に櫛刺突文 内: ナデ→櫛状工具によるナデ, 一部ユビナデ, ユビオサエ→ハケメ12本/cm	やや粗	良	ぶい・黄橙10YR7/2	口縁部 のみ欠失	体部外面に線刻 「曲線2条」
107	008-02	弥生土器	壺 E3	SK305	C68 No.205	10.0	4.1	21.0	外: ヨコナデ→ハケメ10本/cm→ヨコナデ→ミガキ一部ハケメ, 頸部に櫛刺突文 内: ヨコナデ→ユビナデ→ナデ→ハケメ5本/cm→ナデ	やや密	良	ぶい・黄橙10YR6/3	完形	外面に黒斑あり
108	007-02	弥生土器	壺 C3	SK305	C68 第3層 No.201	(4.4)	体部径 (19.4)		外: ヨコナデ→ハケメ11本/1.9cm→ハケメ後ミガキ→ナデ 内: 調整不明→ハケメ→ナデ→ユビナデ→ハケメ後ナデ	やや密	良	外: 明赤褐5YR5/6他 内: ぶい・橙7.5YR5/3	口縁部 僅かに欠失	体部に穿孔あり 底部に黒斑あり
109	021-02	弥生土器	壺 C3	SK305	C68 No.28A~D	4.0	残存高 11.2		外: ヨコナデ→調整不明→ナデ 内: ナデ→ユビナデ→ハケメ6本/cm→ナデ	やや粗	並	橙5YR6/8他	頸部以下 ほぼ完形	
110	002-01	弥生土器	壺 I	SK305	C68 第2層 No.86	9.2	4.8	15.4	外: ヨコナデ→ミガキ 内: ヨコナデ→ナデ	密	良	灰白10YR8/2	ほぼ完形	口縁に穿孔4ヶ所 外面に黒斑あり
111	019-01	弥生土器	壺	SK305	C68 No.209	5.2	残存高 12.2		外: ハケメ7本/cm後一部ナデ→ハケメ4本/cm→ナデ 内: 板ナデ→ハケメ後板ナデ→ナデ	やや粗	並	外: ぶい・橙7.5YR6/4他 内: ぶい・黄橙10YR6/3	体部以下 完形	
112	015-01	弥生土器	壺	SK305	C68				外: ミガキ→ヨコナデ後ミガキ 内: ハケメ4本/cm	やや粗	並	外: ぶい・黄橙10YR7/3 内: 暗緑灰10GY4/1	体部3/4 底部1/4	
113	031-01	弥生土器	壺	SK305	C68 No.60・61・63	5.0			外: ハケメ後ミガキ→オサエ→未調整 内: ハケメ7本/cm	やや密	並	灰黄褐10YR4/2	底部完形	
114	007-01	弥生土器	壺 H1	SK305	C68 No.25	2.8			外: 板ナデ→ハケメ6本/1.4cm→ナデ 内: ナデ→ユビナデ→ナデ	やや密	良	外: 淡橙5YR8/3他 内: 橙5YR6/6	頸部以下 完形	
115	024-02	弥生土器	壺 H3	SK305	C68	4.0			外: ユビオサエ→調整不明→ヨコナデ→ナデ 内: ユビオサエ→ハケメ後一部ユビオサエ	やや粗	不良	外: ぶい・橙7.5YR7/3 内: ぶい・橙7.5YR7/4	底部より 全体の 1/3	
116	006-02	弥生土器	壺 H2	SK305	C68 第2層 No.111	(7.2)	3.6	10.2	外: ヨコナデ→ハケメ7本/1.4cm後一部ナデ 内: ヨコナデ→ナデ→ユビオサエ→櫛状工具による ヨコナデ→ハケメ	密	良	明赤褐5YR5/6	口縁1/3 体部以下 完形	底部に穿孔
117	031-04	弥生土器	壺 H3	SK305	C68 No.22・39	3.5			外: ハケメ4本/cm→ナデ 内: ユビオサエ→ナデ→ハケメ	やや密	並	ぶい・橙5YR6/4	底部完形	
118	033-02	弥生土器	壺 C	SK305	C68 第3層 No.69・84~ 86・115・ 139・154・ 190	12.2	4.1	16.4	外: ヨコナデ→ハケメ12本/cm→ナデ 内: ヨコナデ→工具ナデ	粗	並	灰白10YR7/1他	口縁2/3 底部3/4	

第18表 遺物観察表③

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
					口径	底径	器高							
119	033-01	弥生土器	甕 C	SK305	C68 第2層 No.116~118・122・129-132~136-138・141-143・154・159・174	14.5	4.5	21.7	外:ヨコナデ→ハケメ11~12本/cm→ナデ 内:ヨコナデ→工具ナデ	粗	並	灰白10YR7/1他	7/8	
120	025-01	弥生土器	甕 A1	SK305	C68	(10.0)			外:内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	不良	黄灰2.5Y4/1	口縁1/6	
121	016-02	弥生土器	甕 A2	SK305	C68	(14.2)			外:ヨコナデ→調整不明 内:ヨコナデ→強いヨコナデ→ナデ	密	並	にぶい褐7.5YR6/3	口縁1/8	外面に煤付着
122	025-02	弥生土器	甕 A2	SK305	C68 第3層	(16.0)			外:ヨコナデ→ハケメ10本/cm 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	にぶい赤褐5YR5/4	口縁1/5	
123	025-03	弥生土器	甕 A2	SK305	C68 No.55	(17.0)			外:ヨコナデ→調整不明 内:ヨコナデ→ハケメ	粗	不良	外:にぶい褐7.5YR6/3 内:橙7.5YR6/6	口縁1/5	
124	027-03	弥生土器	甕 A2	SK305	C68 No.72	(17.5)			外:ハケメ後ヨコナデ→ハケメ8本/cm 内:ハケメ後ヨコナデ→ハケメ6~8本/cm	やや粗	並	にぶい黄橙10YR6/3	口縁1/6	
125	016-03	弥生土器	甕 A2	SK305	C68 第2層 No.137	(19.1)			外:ヨコナデ→板ナデ 内:ヨコナデ	密	良	にぶい褐7.5YR6/3	口縁1/5	外面に煤付着
126	031-03	弥生土器	甕 A2	SK305	C68 第2層 No.79-169	(14.2)			外:ヨコナデ→ハケメ7本/cm 内:ハケメ→ナデ→工具ナデ	やや粗	並	灰黄2.5Y7/2	口縁1/5	
127	029-01	弥生土器	甕 A2	SK305	C68 No.87~89・103-107・109-128・147-153・155	(18.7)			外:ヨコナデ→ケズリ 内:ヨコナデ、工具ナデ→オサエ→ケズリ→オサエ→工具ナデ、ケズリ	やや粗	並	橙5YR6/6	口縁1/4	
128	004-01	弥生土器	甕 A2	SK305	C68 第3層 No.195-197	(15.8)	5.7	24.0	外:ヨコナデ→ハケメ7本/cm→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ→ケズリ→ナデ	やや密	並	外:橙5YR6/6他 内:にぶい黄橙10YR6/4他	口縁1/3 底部1/2弱	
129	031-05	弥生土器	甕 B1	SK305	C68 第2層 No.170	(16.5)			外:ヨコナデ→ナデ、刺突文、横線文2段、波状文1段 内:ヨコナデ→ハケメ	やや密	並	にぶい褐7.5YR6/3他	口縁1/4	
130	034-01	弥生土器	甕 B1	SK305	C68 第2層 No.119	(15.6)			外:ヨコナデ→ハケメ7本/cm、刺突文、波状文5本/0.8cm2段、横線文5本/0.8cm1段 内:ヨコナデ→ハケメ7本/cm	やや密	並	灰褐7.5YR6/2他	口縁1/3	波状・横線文は同一原体
131	011-01	弥生土器	甕 B1	SK305	C68 第3層 No.181-202	(15.8)	4.8	27.2	外:ハケメ状工具によるナデ→ハケメ6本/cm、 櫛(ハケメと同一原体)齒刺突文2段 内:ヨコナデ→ハケメ6本/cm→ハケメ4本/cm→工具痕	やや粗	良	褐10YR4/4	口縁1/2 底部完形	
132	025-04	弥生土器	甕	SK305	C68	(20.0)			外:ヨコナデ、端部にキザミ 内:ヨコナデ	やや密	良	にぶい黄橙10YR7/2	口縁1/8	
133	023-04	弥生土器	甕 E	SK305	C68 No.46-56		3.8		外:ヨコナデ→ハケメ7本/0.5cm後ナデ→ハケメ後コビオサエ→ヨコナデ 内:ヨコナデ→工具ナデ	やや良	良	にぶい橙7.5YR7/4	底部片のみ完形	
134	017-04	弥生土器	甕	SK305	C68		6.0		外:ハケメ6本/1.1cm→コビナデ→工具ナデ 内:ハケメ	密	並	にぶい黄橙10YR7/3	底部完形	
135	023-03	弥生土器	甕	SK305	C68		5.2		外:ミガキ→ヨコナデ→ナデ 内:ハケメ10本/cm	やや密	良	明褐灰7.5YR7/2	底部完形	
136	016-06	弥生土器	甕	SK305	C68		6.2		外:ケズリ→ナデ 内:ケズリ	密	良	外:にぶい褐7.5YR5/4 内:褐灰10YR4/1	底部 ほぼ完形	
137	010-01	弥生土器	甕 D1	SK305	C68 No.4・8・19	(15.7)	7.2	17.5	外:ヨコナデ→ハケメ5本/cm→ヨコナデ 内:ヨコナデ→ナデ、工具痕 台部内:ヨコナデ	粗	良	外:青黒5PB2/1 内:にぶい黄橙10YR7/2	口縁1/2 台部完形	
138	030-01	弥生土器	甕 D1	SK305	C68 第2層 No.64・110	(15.6)		残存高 18.9	外:ヨコナデ→ハケメ10本/cm→ナデ 内:ヨコナデ→工具ナデ→ナデ	やや密	並	にぶい橙5YR6/4	1/3	
139	017-03	弥生土器	甕	SK305	C68	(10.0)			外:ナデ→ミガキ→ヨコナデ→ナデ 内:ナデ	密	良	外:褐灰5YR4/1他 内:にぶい褐7.5YR6/3他	台部	
140	023-02	弥生土器	甕	SK305	C68 No.44		8.6		外:ハケメ7本/cm→ヨコナデ→工具ナデ 内:ナデ	やや密	並	外:にぶい橙5YR6/4 内:にぶい橙7.5YR7/4	底部完形	
141	024-01	弥生土器	甕	SK305	C68 No.62		6.5		外:ハケメ7本/cm→ハケメ後ヨコナデ→工具ナデ後ナデ 内:ナデ	やや密	良	外:灰白7.5YR8/2 内:にぶい橙7.5YR6/4	底部完形	
142	005-01	弥生土器	高杯 A2a	SK305	C68 第3層 No.187		23.0		外:内:ヨコナデ→ミガキ	やや密	良	外:橙7.5YR7/6他 内:橙7.5YR6/6他	口縁4/5	
143	027-01	弥生土器	高杯 A2b	SK305	C68	(25.0)			外:内:ヨコナデ→ミガキ	やや密	並	にぶい褐7.5YR6/3	口縁1/6	外面に一部黒斑あり
144	020-02	弥生土器	高杯 B2	SK305	C68 第4層	(15.6)		残存高 7.3	外:ヨコナデ→ミガキ 内:ヨコナデ→ハケメ6本/cm	密	不良	外:橙2.5YR6/6 内:にぶい橙7.5YR7/4	口縁1/3	
145	029-02	弥生土器	高杯 B2	SK305	C68 第3層 No.200				外:ミガキ、櫛横線文10本/2.6cm、9本/1.8cm2段 内:工具ナデ 脚部内:工具ナデ→ミガキ	やや粗	並	にぶい褐7.5YR6/3	1/3	三方透孔
146	015-02	弥生土器	高杯 B2	SK305	C68 第3層 No.149			頸部径 3.6	外:ミガキ→ヨコナデ→ナデ 内:ヨコナデ→ハケメ後ナデ→ミガキ→ナデ	やや粗	並	外:明赤褐5YR5/8他 内:橙7.5YR6/6	杯部1/4 頸部	脚部に三方透孔?
147	009-02	弥生土器	高杯 B1	SK305	C68 No.207	10.5		(14.7)	外:ミガキ、櫛横線文3本/0.8cm3段、二枚目押圧文2段 内:ミガキ 脚部内:オサエ→ケズリ→ナデ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR7/3	杯部 ほぼ完形	三方透孔φ1.3cm
148	009-01	弥生土器	高杯 B2	SK305	C68 No.208	13.1	10.6	15.5	外:ヨコナデ→ハケメ10本/cm→ヨコナデ→ハケメ→ヨコナデ 内:ヨコナデ→ナデ→工具痕	粗	良	にぶい黄橙10YR7/2	ほぼ完形	三方透孔φ1.5cm
149	031-02	弥生土器	高杯 B2	SK305	C68 第2層 No.54・78・171-173	(10.7)	(10.7)	(11.4)	外:ミガキ、横線文 内:ミガキ 脚部内:ナデ	やや密	並	にぶい橙7.5YR6/4	口縁1/3 底部1/5	四方透孔
150	024-04	弥生土器	高杯	SK305	C68			(12.0)	外:ミガキ→ヨコナデ 内:ナデ	やや密	良	外:灰白10YR8/2 内:褐灰10YR4/1	底部1/5	透孔1ヶ所 内面に煤付着
151	020-01	弥生土器	高杯 C	SK305	C68	(15.2)		残存高 9.0	外:調整不明、横線3段 内:ヨコナデ→ナデ	粗	不良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁~ 柱状部 3/4	三方透孔
152	022-01	弥生土器	高杯 C	SK305	C68			残存高 11.2	外:ヨコナデ後ミガキ→ミガキ、横線3段 内:ハケメ後ミガキ 脚部内:ナデ	やや粗	並	外:橙7.5YR6/6他 内:にぶい褐7.5YR5/3他	杯部2/3 柱状部 ほぼ完形	三方透孔
153	026-01	弥生土器	高杯	SK305	C68				外:ナデ、沈線 内:未調整	やや粗	良	にぶい黄橙10YR7/2	脚部小片	

第19表 遺物観察表④

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置		法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
				口径	底径	器高	最大長	最大幅						
154	028-02	弥生土器	高杯	SK305	C68				外:ミガキ、櫛描横線文4本2段	やや粗	並	にぶい橙5YR7/4	脚部1/2	三方透孔?
155	018-01	弥生土器	高杯	SK305	C68 No.34				外:ミガキ、櫛描横線文3段 内:コヒナデ	密	並	外:にぶい橙5YR6/4 内:にぶい黄橙10YR6/3	脚部のみ	四方透孔 外面に黒斑あり
156	021-01	弥生土器	高杯	SK305	C68		(11.8)	残存高 10.0	外:ミガキ→ヨコナデ、櫛描横線3段 内:工具ナデ 脚部内:ナデ	粗	不良	明赤褐5YR5/8	杯部1/6 柱状部 ほぼ完形 裾部1/4	三方透孔
157	018-02	弥生土器	高杯	SK305	C68 No.30				外:ミガキ、工具痕 内:ナデ	密	不良	にぶい黄橙10YR8/2	脚部	
158	020-03	弥生土器	高杯	SK305	C68 第2層 No.92			頭部径 3.5 残存高 8.4	外:ミガキ 内:ナデ	密	良	外:橙7.5YR6/6 内:にぶい橙7.5YR6/4	脚部3/4	四方透孔
159	005-02	弥生土器	高杯	SK305	C68 No.48			14.2	外:ミガキ、櫛描横線文4本/0.9cm2段 内:ハケメ7本/cm→工具ナデ	粗	良	橙7.5YR6/6	脚部ほぼ完形	三方透孔
160	028-01	弥生土器	高杯	SK305	C68 No.38				外:ミガキ 内:ミガキ 脚部内:ハケメ8本/cm→ナデ	やや粗	並	灰褐5YR6/2他	脚部3/4	三方透孔φ1.4cm
161	019-02	弥生土器	高杯	SK305	C68 No.24		(12.7)	残存高 12.7	外:調整不明、沈線 内:ナデ	粗	不良	にぶい黄橙10YR7/2他	柱状部 ほぼ完形 裾部1/5	脚部上から八方透孔 五方透孔?
162	003-02	弥生土器	器台	SK305	C68 No.53			13.0	外:ハケメ5本/cm後ミガキ→ナデ 内:ナデ→ハケメ5本/cm後ミガキ	やや密	良	外:褐灰10YR4/1他 内:褐灰7.5YR5/1他	脚部1/2	四方透孔
163	003-01	弥生土器	鉢 E2a	SK305	C68 No.1	16.6	4.7	10.2	外:ミガキ 内:ハケメ4本/cm後ミガキ	密	並	外:にぶい橙5YR7/4他 内:にぶい橙5YR6/4他	ほぼ完形	
164	018-03	弥生土器	鉢 C1	SK305	C68 第2層 No.140		(3.8)		外:内:ナデ	密	良	にぶい褐7.5YR6/3他	体部1/3	
165	2115-01	木製品	杭	SK305	C68 No.203	最大長 57.1	最大幅 3.0	最大厚 2.3	加工痕不明 板目取り				ほぼ完形	ヒノキ
166	2245-01	木製品	脚付槽	SK305	No.204	最大長 77.0	最大幅 43.6	最大厚 9.2	加工痕不明 遺存状況悪い				3/4	樹種不明 脚3ヶ所残
167	158-05	弥生土器	壺 A3	SK310	D72 No.4	(16.2)			外:内ナデ→ハケメ、口縁部凹線3本	やや粗	並	灰黄2.5Y7/2他	口縁1/10	
168	158-06	弥生土器	壺 A3	SK310	D72				外:ハケメ後ナデ、口縁部竹管文、麻状文 内:ナデ、羽状刺突列	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/2	口縁小片	
169	159-02	弥生土器	甕	SK310	D72			8.0	外:ナデ→工具ナデ→ヨコナデ 内:工具ナデ→ヨコナデ	やや密	並	明褐灰7.5YR7/2	底部2/3	
170	159-04	弥生土器	高杯	SK310	D72 No.2				外:ミガキ、櫛描横線文3段 内:調整不明 脚部内:ナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/3	柱状部	三方透孔
171	183-02	弥生土器	高杯	SK310	D72 No.5				外:ミガキ、櫛描横線文2段 内:ナデ	やや粗	並	橙7.5YR6/6	柱状部	四方透孔
172	158-01	弥生土器	壺	SK317	F70	(6.5)			外:ミガキ→ナデ 内:ハケメ4本/cm→工具ナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/3	底部1/2	
173	278-01	石器	石鏃	SK317	F70	最大長 2.3	最大幅 2.1	最大厚 0.45	三角鏃				完形	サヌカイト 2.47g
174	170-03	弥生土器	壺	SK330	G79				外:ハケメ後ナデ、波状文6本、列点文 内:ハケメ	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/2他	体部小片	
175	171-01	弥生土器	壺 I3	SK330	G79 No.1	(7.0)	4.0~4.3	12.0	外:ヨコナデ→ナデ→ケズリ→オサエ、ナデ 内:ヨコナデ→オサエ→工具ナデ	やや密	並	にぶい橙7.5YR7/3他	口縁1/3 底部完形	
176	170-02	弥生土器	甕 A2	SK330	G79	(18.0)			外:ヨコナデ→ハケメ5本/cm→ミガキ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	明褐灰7.5YR7/1他	口縁1/9	
177	171-03	弥生土器	甕	SK330	G79	(8.0)			外:ナデ→オサエ→ナデ 内:ケズリ	粗	並	浅黄橙10YR8/3	底部1/4	
178	171-04	弥生土器	高杯	SK330	G79				外:ミガキ、横線文1段 内:ナデ	やや粗	並	灰白10YR7/1他	柱状部	透孔あり
179	171-02	弥生土器	高杯 D	SK330	G79 No.3				外:ケズリ後ミガキ 内:ナデ	やや密	並	にぶい橙7.5YR7/3	1/3	
180	161-01	弥生土器	壺 D1	SK343	I81	10.9			外:ヨコナデ→ミガキ、横線文4本2段、波状文5本→4本 内:ヨコナデ→ナデ、オサエ	やや粗	並	にぶい褐7.5YR5/4	口縁1/2	
181	160-02	弥生土器	壺 D1	SK343	I81	(7.2)			外:ナデ→ハケメ11本/cm、刺突、横線文6本1段、波状文6本→5本 内:ナデ→オサエ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/3他	口縁1/2	
182	160-01	弥生土器	壺 D2	SK343	I81	6.9			外:ヨコナデ→ミガキ→一部ケズリ 内:ヨコナデ→オサエ→ナデ	やや粗	並	淡黄2.5Y8/3	口縁完形	
183	162-01	弥生土器	甕 A1	SK343	I82	15.8			外:ヨコナデ→ハケメ5~6本/cm 内:ヨコナデ後ハケメ→ナデ、オサエ	やや粗	並	褐灰7.5YR5/1	口縁4/5	外面に煤付着
184	161-03	弥生土器	甕	SK343	I81	6.6			外:ミガキ→ナデ→ミガキ→ナデ 内:ミガキ	やや粗	良	にぶい橙5YR6/4他	台部3/4	
185	162-02	弥生土器	甕	SK343	I81	(10.3)			外:ナデ→ハケメ15本/1.7cm→ナデ→ハケメ6~10本/cm 内:ミガキ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/3他	台部 ほぼ完形	
186	158-02	弥生土器	壺	SK361	H45	4.6			外:ハケメ後ミガキ→未調整 内:ハケメ4本/cm	やや粗	並	暗灰黄2.5Y4/2他	底部完形	
187	158-04	弥生土器	甕 A2	SK361	H45	(17.3)			外:ヨコナデ→ハケメ7本/cm 内:ヨコナデ→ナデ→ハケメ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/4	口縁僅か	
188	159-05	弥生土器	高杯	SK361	H45				外:ミガキ、櫛描横線文3段 内:調整不明	やや密	並	浅黄橙10YR8/3	柱状部	
189	065-03	弥生土器	壺 A3	SK326	G75-76	(17.7)			外:内:ナデ、ハケメ残る、口縁部凹線3本	やや粗	並	褐灰10YR5/1	口縁1/6	
190	057-02	弥生土器	壺 A2	SK326	G75-76 No.78-139-141-143				外:ヨコナデ→ハケメ、キザミ隆帯、横線文3段、波状文2段 内:ヨコナデ→ナデ、オサエ	やや密	並	にぶい橙7.5YR7/4他	頸部片	
191	066-01	弥生土器	壺 B2	SK326	G75-76 No.32	(16.0)			外:ヨコナデ→ハケメ9本/cm 内:ヨコナデ→ハケメ15本/1.6cm→ナデ	やや粗	並	浅黄橙7.5YR8/3	口縁1/3	
192	066-03	弥生土器	壺 B2	SK326	G75-76 No.65	(13.7)			外:内:ヨコナデ、調整不明	やや密	並	にぶい橙7.5YR7/3	口縁1/3	
193	045-01	弥生土器	壺 B2	SK326	G75-76 No.139-140	6.0			外:ハケメ8~9本/cm→ミガキ、波状文、櫛描横線文6本/cm 内:ハケメ後ナデ→ナデ	密	良	外:にぶい橙7.5YR7/4 内:にぶい橙7.5YR7/3	体部片 ほぼ完形	
194	080-01	弥生土器	壺 B1	SK326	G75-76 No.147-160	13.2~13.5	(6.0)	30.0	外:ヨコナデ→ハケメ後ミガキ→ナデ 内:ヨコナデ→ハケメ→オサエ、ナデ→工具ナデ	やや密	並	褐灰10YR5/1	口縁完形 底部1/2	

第20表 遺物観察表⑤

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
					口径	底径	器高							
195	050-01	弥生土器	壺 B2	SK326	G75-76 No.40		6.3		外:調整不明→ミガキ→未調整 内:調整不明→ハケメ	やや粗	並	淡黄2.5YR/4他	底部完形	
196	053-01	弥生土器	壺 B1	SK326	G75-76 No.61・63・ 68・96	15.6	6.6	29.0	外:ヨコナデ→ハケメ→ミガキ→調整不明 内:ヨコナデ→ハケメ	やや粗	良	にぶい橙7.5YR7/4	体部片 ほぼ完形	体部に穿孔
197	067-03	弥生土器	壺 B3	SK326	G75-76 No.77		5.0		外:ハケメ7本/1.6cm→ナデ 内:ハケメ11本/2.2cm→工具ナデ	やや密	並	明褐色5YR7/2	体部片 ほぼ完形	
198	072-01	弥生土器	壺 B2	SK326	G75-76 No.93		5.6		外:ミガキ→ナデ 内:ユビオサエ→工具ナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR6/4	底部完形	内面に一部黒斑あり
199	059-03	弥生土器	壺	SK326	G75-76 No.104				外:ハケメミガキ、横線文3段、刺突文2段 内:ハケメ	やや粗	並	外:淡黄橙10YR8/3 内:黒10YR1.7/1	肩部小片	
200	059-04	弥生土器	壺	SK326	G75				外:ナデ、横線文2段、液状文1段 内:ナデ	やや密	並	外:黒7.5YR2/1 内:にぶい橙7.5YR7/3	肩部小片	
201	063-02	弥生土器	壺	SK326	G75				外:ナデ、一部ハケメ 内:ナデ	やや密	並	にぶい黄橙10YR7/3	肩部1/8	体部外面に線刻3条
202	060-02	弥生土器	壺	SK326	G76		(7.2)		外:ナデ 内:調整不明	粗	並	明褐7.5YR5/8	底部片	
203	044-02	弥生土器	壺	SK326	G75		6.6		外:内:ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4他	底部片	
204	065-04	弥生土器	壺 D2	SK326	G76	10.4			外:ヨコナデ→ハケメ5本/cm 内:ヨコナデ→ナデ、オサエ	やや粗	並	黒褐7.5YR3/1他	口縁2/3	
205	070-01	弥生土器	壺 D2	SK326	G75-76 No.151	11.5			外:ハケメ後ミガキ→ナデ 内:ミガキ→ナデ	やや密	並	にぶい橙5YR6/4	口縁3/4	
206	047-03	弥生土器	壺 D2	SK326	G75-76 No.184	10.0 ~10.4			外:ヨコナデ→ハケメ後ミガキ→ナデ 内:ヨコナデ→ハケメ6本/cm→ナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR6/4	口縁3/4	
207	068-01	弥生土器	壺 F	SK326	G76 No.60	11.0 ~11.5			外:ヨコナデ→ハケメ後ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	明褐色7.5YR7/2他	口縁部片	
208	066-02	弥生土器	壺 E1a	SK326	G75-76 No.86	(10.0)			外:ヨコナデ→ミガキ 内:ヨコナデ→オサエ→工具ナデ	やや粗	並	橙2.5YR6/6他	口縁1/3	
209	044-01	弥生土器	壺 E1a	SK326	G75		(5.0)		外:ハケメ→ナデ 内:ナデ→ハケメ	密	良	外:橙2.5YR6/8他 内:橙2.5YR6/6	1/3	
210	081-01	弥生土器	壺 D3	SK326	G75-76 No.7・11・ 15・94・100・ 165	(12.5)	(6.0)	(27.0)	外:ヨコナデ→ミガキ、一部ハケメ→ヨコナデ、液状文5本3段、 帯横線文5本1段 内:ヨコナデ→オサエ、ナデ→工具ナデ	やや密	並	にぶい橙5YR6/4他	口縁小片 底部1/3	外面に黒斑あり
211	061-03	弥生土器	壺 E2	SK326	G76	(10.2)	5.2		外:ヨコナデ→ナデ、一部ハケメ→ナデ→未調整、横線文1段 内:ヨコナデ→ハケメ13本/cm・7本/cm	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/3	底部完形	
212	061-02	弥生土器	壺 E1a	SK326	G75-76		5.4		外:ハケメ後ナデ→未調整 内:オサエ→ハケメ	やや粗	並	にぶい黄橙10YR6/3	底部完形	
213	077-02	弥生土器	壺 E2	SK326	G75-76		5.7		外:ハケメミガキ→ナデ 内:ナデ→工具	やや粗	並	にぶい橙7.5YR6/3	底部完形	
214	061-01	弥生土器	壺 E2	SK326	G76		5.1		外:ナデ→未調整 内:ハケメ9本/cm	やや粗	並	にぶい橙5YR6/4	底部完形	
215	056-01	弥生土器	壺 G1	SK326	G75-76 No.9・13・21	9.3	(10.0)	(23.5)	外:ヨコナデ→ミガキ→ヨコナデ→ナデ 内:ヨコナデ、一部ハケメ→オサエ、ナデ→ハケメ後ナデ→ 工具ナデ 台部内:ナデ	やや密	並	にぶい橙5YR7/4他	口縁3/4 台部小片	
216	046-05	弥生土器	壺 H2	SK326	G75-76	8.9	5.0	13.4	外:ヨコナデ→ハケメ後ミガキ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	灰白7.5YR8/1	口縁3/4 底部完形	外面に黒斑あり
217	073-02	弥生土器	壺 H1	SK326	G75-76 No.67	(9.5)	4.8 ~5.0	14.0	外:ヨコナデ→ハケメ5本/cm→ナデ 内:ヨコナデ→オサエ→ナデ→ハケメ5本/cm	やや粗	並	にぶい橙5YR7/4	口縁1/3 底部完形	外面に黒斑あり
218	048-02	弥生土器	壺 H1	SK326	G75-76 No.99	8.7	4.3	10.9	外:ナデ→ミガキ、一部クズリ→ナデ、オサエ→ナデ 内:ナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR7/4	口縁3/4 底部完形	
219	046-04	弥生土器	壺 H4	SK326	G75-76 No.25	8.5	5.1 ~5.4	12.9	外:ヨコナデ→ハケメ後ナデ→ナデ 内:ヨコナデ→オサエ、ナデ	やや密	並	灰白2.5YR/1	完形	外面に黒斑あり
220	077-01	弥生土器	壺 I	SK326	G75-76	11.1	5.2	12.8	外:内:ヨコナデ→ナデ、調整不明	やや粗	並	にぶい橙5YR6/4	ほぼ完形	口縁に穿孔2個紐2ヶ所
221	054-01	弥生土器	壺 A1	SK326	G75-76 No.19	(17.0)	(5.0)	(27.5)	外:ヨコナデ→ハケメ→ナデ 内:ヨコナデ→工具ナデ	やや粗	良	外:橙5YR6/8 内:にぶい橙7.5YR5/4	ほぼ完形	
222	055-01	弥生土器	壺 A1	SK326	G75-76 No.146・157	17.7			外:ヨコナデ→ハケメ13本/2cm 内:ヨコナデ→ハケメ→工具ナデ→ハケメ後ナデ	やや密	並	にぶい橙5YR7/4	口縁完形	
223	066-04	弥生土器	壺 A2	SK326	G75-76 No.28	(18.0)			外:ヨコナデ→調整不明 内:ヨコナデ→ハケメ後ナデ	やや密	並	にぶい橙7.5YR6/3他	口縁1/4	体部外面に線刻
224	049-01	弥生土器	壺 A1	SK326	G75-76 No.113・175	18.8	5.2	22.4	外:ヨコナデ→ハケメ6本/cm→ミガキ→ナデ 内:ヨコナデ→ハケメ5・6本/cm→工具ナデ	やや粗	並	灰黄褐10YR6/2	口縁3/4 底部完形	
225	064-01	弥生土器	壺 A2	SK326	G75	(14.3)			外:ヨコナデ→ハケメ7本/cm→ナデ 内:ヨコナデ→ハケメ後ナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR6/3	口縁1/3	
226	075-01	弥生土器	壺 A2	SK326	G75-76 No.90	15.3	5.1	19.0	外:ヨコナデ→ハケメ→未調整 内:ヨコナデ→ハケメ→ナデ	密	良	外:赤黒10R2/1他 内:淡黄橙7.5YR6/6	2/3	
227	064-02	弥生土器	壺 A1	SK326	G75-76	(15.5)			外:ヨコナデ→ハケメ4本/cm→ナデ 内:ヨコナデ→ハケメ4本/cm→オサエ、ナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/4	口縁1/8	外面に煤付着
228	047-04	弥生土器	壺 A1	SK326	G75-76 No.44	(12.6)			外:ヨコナデ→ハケメ5本/cm→ナデ 内:ヨコナデ→オサエ→ナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR6/3	口縁1/3	
229	068-02	弥生土器	壺 A1	SK326	G75-76 No.162	(14.0)			外:ヨコナデ→ハケメ5本/cm、口縁部に凹線、刺突文 内:ヨコナデ→ハケメ	やや粗	並	にぶい橙5YR6/3他	口縁1/3	
230	067-02	弥生土器	壺 A1	SK326	G75-76 No.116・148	14.0	4.0	16.0	外:ヨコナデ→ハケメ9本/1.5cm→オサエ、ナデ、頸部に 刺突文 内:ヨコナデ→工具ナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR6/4他	底部1/2	
231	046-03	弥生土器	壺 A1	SK326	G76	(12.0)	3.9 ~4.2	13.9	外:ヨコナデ→ハケメ後ナデ 内:ヨコナデ→工具ナデ	やや密	並	黒褐10YR3/2他	口縁1/4 底部完形	
232	073-01	弥生土器	壺 A1	SK326	G75-76 No.24・109	(13.3)	(5.7)	(16.6)	外:ヨコナデ→調整不明→ミガキ→ナデ 内:ヨコナデ→オサエ→ナデ	やや粗	並	灰褐7.5YR6/2他	1/2	
233	049-02	弥生土器	壺 A2	SK326	G75-76 No.59	(17.2)	5.2	20.2	外:ヨコナデ→ハケメ7本/cm→ナデ 内:ヨコナデ→ハケメ→工具ナデ→ナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR6/4	口縁1/2	底部に穿孔 (2.4~3.1cm)
234	048-01	弥生土器	壺 A3	SK326	G75-76 No.97・164	(21.4)			外:ナデ→ハケメ6本/cm→ハケメ5~6本/cm、 口縁部にキザミ 内:ハケメ5本/cm→ナデ→ハケメ11本/cm後一部クズリ →オサエ	やや粗	並	にぶい橙5YR7/4他	口縁1/5	
235	076-01	弥生土器	壺 A3	SK326	G75-76 No.38	(20.2)			外:ヨコナデ→調整不明 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	灰白10YR8/2	口縁1/4	

第21表 遺物観察表⑥

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
					口径	底径	器高						
236	063-01	弥生土器	甕 A1	SK326	G75	(28.4)		外:ナデ→ハケメ3本/cm→工具ナデ 内:ナデ→ハケメ4本/cm→工具ナデ	やや密	並	にぶい・橙7.5YR7/3	口縁1/6	
237	074-02	弥生土器	甕 B1	SK326	G75-76 No.127-132-152-171-172	16.0		外:ヨコナデ→ハケメ、刺突文2列、櫛描横線文3段、波状文1段 内:ヨコナデ→工具ナデ	やや粗	良	外:浅黄橙10YR8/4他 内:浅黄橙10YR8/3	2/3	
238	074-01	弥生土器	甕 B1	SK326	G75-76 No.167-168	15.0		外:ヨコナデ→ハケメ、刺突文、横線文3段、波状文1段 内:ヨコナデ→ハケメ→ナデ	やや粗	良	外:黒褐10YR3/1 内:浅黄橙10YR8/3	1/3	
239	062-02	弥生土器	甕 B2	SK326	G75-76	(13.7)		外:ヨコナデ→ハケメ6本/cm 内:ヨコナデ→ハケメ後ナデ	やや粗	並	にぶい・黄褐10YR5/3	口縁1/2	
240	078-01	弥生土器	甕 D1	SK326	G75-76 No.54	(18.6)	7.2 (24.5)	外:ヨコナデ→ケズリ後ハケメ7本/cm→ナデ 内:ヨコナデ→ハケメ7本/cm→工具痕、オサエ、ナデ 台部内:ハケメ	やや粗	並	灰白10YR8/2	口縁3/8 台部2/3	外面に煤付着
241	079-01	弥生土器	甕 D1	SK326	G75-76 No.71・75-137	(20.3)		外:ヨコナデ→ケズリ後ハケメ7本/cm 内:ヨコナデ→ナデ→ケズリ→ナデ 台部内:ナデ	やや粗	並	橙5YR6/6他	2/3	
242	051-01	弥生土器	甕 D1	SK326	G75-76 No.46	16.9		外:ヨコナデ→ハケメ6本/cm 内:ヨコナデ→ナデ後オサエ	やや粗	並	外:淡赤橙2.5YR7/3他 内:にぶい・黄橙10YR6/4	口縁1/2	
243	058-02	弥生土器	甕	SK326	G75-76 No.156	7.5		外:ハケメ→ヨコナデ→工具ナデ 内:調整不明	やや粗	明	明褐7.5YR5/6	台部完形	
244	048-03	弥生土器	甕	SK326	G75-76 No.41	6.5		外・内:ナデ、調整不明	やや粗	並	灰白10YR8/2	底部完形	
245	047-02	弥生土器	甕 E	SK326	G75-76 No.45	(13.5)		外・内:ナデ→ハケメ5本/cm	やや粗	並	褐灰7.5YR4/1	口縁1/3	
246	046-02	弥生土器	鉢 C1	SK326	G75-76 No.14・20-145	12.4	4.0 10.9	外:ヨコナデ→ミガキ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ→ミガキ	やや粗	並	灰褐5YR5/2	口縁7/8	
247	076-02	弥生土器	鉢 C2	SK326	G75-76 No.111	13.1	4.4 10.0	外:ヨコナデ→ハケメ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	にぶい・橙7.5YR6/4	口縁3/4 底部2/3	体部に穿孔
248	060-01	弥生土器	高杯 A1	SK326	G75	(24.2)		外:ハケメ後ヨコナデ→オサエ→ハケメ5~6本/cm 内:ハケメ5~6本/cm	やや粗	並	にぶい・橙7.5YR7/3	口縁1/8	
249	065-02	弥生土器	高杯 A3a	SK326	G75-76 No.112	(25.5)		外:ヨコナデ→ミガキ、波状文、櫛描横線文 内:ヨコナデ→ミガキ	やや粗	並	にぶい・橙5YR6/4	口縁1/5	
250	052-02	弥生土器	高杯 A3b	SK326	G75-76 No.149	22.2		外・内:ミガキ	やや粗	並	灰褐5YR5/2他	口縁ほぼ完形	外面に黒炭あり
251	057-01	弥生土器	高杯 A2a	SK326	G75-76 No.18	21.4		外:ヨコナデ→ミガキ後ヨコナデ→ハケメ→工具痕、ミガキ 内:ミガキ	やや粗	並	にぶい・橙5YR7/4他	口縁3/4	
252	047-01	弥生土器	高杯 A3b	SK326	G76	(22.0)		外・内:ヨコナデ→ミガキ(ハケメ)	やや密	並	にぶい・橙5YR6/4他	口縁1/4	内面に一部黒炭あり
253	067-01	弥生土器	高杯 A3b	SK326	G75-76 No.119	(21.0)		外・内:ミガキ	やや粗	並	にぶい・黄橙10YR7/2	口縁1/4	
254	065-01	弥生土器	高杯 A2b	SK326	G76	(23.9)		外・内:ナデ→ミガキ	やや粗	並	橙5YR6/6	口縁1/3	
255	046-01	弥生土器	高杯 A2a	SK326	G75	(24.0)		外・内:ヨコナデ→ミガキ	やや粗	並	にぶい・橙5YR7/4	口縁1/2	
256	052-01	弥生土器	高杯 A2b	SK326	G75-76 No.2	(28.0)		外・内:ヨコナデ→ミガキ	やや粗	並	にぶい・橙7.5YR7/4	口縁1/2	
257	059-01	弥生土器	高杯 A4b	SK326	G75-76 No.150	17.2	11.7 12.8	外:ヨコナデ→ミガキ→ナデ→ミガキ、横線文 内:ミガキ 脚部内:ヨコナデ	やや粗	並	外:にぶい・黄橙10YR7/3他 内:にぶい・黄橙10YR6/4	口縁2/3 底部ほぼ完形	四方透孔φ1.5cm
258	068-03	弥生土器	高杯	SK326	G75-76 No.138	13.5		外:ミガキ→ヨコナデ→ナデ、櫛描横線文4本4段 内:ミガキ→ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	にぶい・橙5YR7/4他	底部1/2	三方透孔φ1.2cm
259	069-01	弥生土器	高杯	SK326	G75-76 No.1	(14.4)		外:ミガキ、櫛描横線文4本 内:調整不明 脚部内:オサエ、ナデ→ヨコナデ	やや密	並	にぶい・橙7.5YR7/3他	脚部1/3	五角透孔φ1.1cm
260	068-04	弥生土器	高杯	SK326	G75-76 No.87			外:ミガキ、櫛描横線文3段 内:ミガキ 脚部内:ナデ	やや密	並	橙2.5YR6/6	柱状部	四方透孔φ1.2cm
261	069-02	弥生土器	高杯	SK326	G75-76 No.47			外:ミガキ、櫛描横線文5段、刺突文4段 内:ミガキ→ハケメ	やや密	並	橙5YR7/6	柱状部	
262	069-04	弥生土器	高杯	SK326	G75-76 No.33			外:ミガキ、櫛描横線文4段 内:調整不明	やや粗	並	にぶい・橙5YR6/3	柱状部	
263	069-03	弥生土器	高杯	SK326	G75-76 No.135			外:ミガキ→ナデ、櫛描横線文3段 内:ミガキ	やや密	並	橙5YR6/6	柱状部	四方透孔? (2個残)
264	045-02	弥生土器	高杯	SK326	G75			外:ミガキ 内:ナデ	密	良	橙5YR6/6	柱状部	三方透孔
265	070-03	弥生土器	高杯	SK326	G75-76 No.72	12.0		外:ハケメ後ミガキ、横線文3本 内:ハケメ→工具ナデ	やや密	並	灰黄褐10YR6/2他	脚部	四方透孔
266	070-02	弥生土器	高杯	SK326	G75-76 No.31	(14.5)		外:ハケメ後ミガキ 内:ナデ 脚部内:ハケメ6~7本/cm	やや粗	並	にぶい・橙5YR6/4	底部1/2	
267	058-06	弥生土器	高杯	SK326	G75-76			外:ナデ 内:ナデ、工具痕 脚部内:ヨコナデ	やや粗	並	にぶい・黄橙10YR6/4他	杯底部 →柱状部	
268	058-04	弥生土器	高杯	SK326	G75-76 No.161			外:ミガキ 内:調整不明 脚部内:ナデ	やや粗	並	橙7.5YR6/6	柱状部	三方透孔φ1.2cm
269	058-05	弥生土器	高杯	SK326	G75			外:ミガキ、櫛描横線文5段、刺突文4段 内:ナデ 脚部内:ヨコナデ	やや粗	並	外:橙7.5YR7/6 内:にぶい・橙7.5YR6/4	柱状部	三方透孔φ1.2cm
270	068-05	弥生土器	高杯	SK326	G75-76 No.74	(10.0)		外:ケズリ後ミガキ→ヨコナデ 内:ミガキ 脚部内:オサエ、ナデ→ヨコナデ	やや粗	並	褐灰10YR4/1	底部1/4	
271	071-03	弥生土器	器台 A	SK326	G75-76 No.16	14.0		外:ヨコナデ→ミガキ 内:調整不明、一部ハケメ	粗	並	浅黄橙7.5YR8/4	2/3	三方透孔
272	071-02	弥生土器	器台 A	SK326	G75-76 No.177	13.0		外:ハケメ後ミガキ→ナデ 内:調整不明	やや粗	並	にぶい・橙7.5YR7/3	脚部ほぼ完形	四方透孔
273	071-01	弥生土器	器台 A	SK326	G75-76 No.133	14.5		外:ハケメ後ミガキ→ナデ 内:ハケメ→ナデ→ハケメ	やや粗	並	にぶい・橙5YR6/4	脚部ほぼ完形	三方透孔
274	062-05	弥生土器	鉢 E2a	SK326	G75	(10.2)		外:ヨコナデ→ミガキ 内:ナデ	やや密	並	にぶい・橙2.5YR6/4他	口縁小片	赤彩
275	062-01	弥生土器	鉢 E2b	SK326	G75-76 No.42	(15.8)	5.6 9.4	外:ヨコナデ→ハケメ後ミガキ 内:ミガキ	やや密	並	にぶい・黄橙10YR7/4他	口縁1/6 底部完形	内面に朱あり 外面底部にも朱彩か
276	062-03	弥生土器	ミチュア 土器 B	SK326	G75-76	(7.0)		ナデ→ハケメ、調整不明	やや粗	並	にぶい・橙7.5YR6/4	口縁1/4	

第22表 遺物観察表⑦

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置		法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
						口径	底径	器高						
277	062-04	弥生土器	ミチュア土器 A1	SK326	G75-76		3.5		外:ミガキ→オサエ→ナデ 内:ナデ	やや粗	並	浅黄2.5Y7/3	底部完形	
278	044-03	弥生土器	ミチュア土器 A1	SK326	G76		(3.0)		外・内:ナデ	やや密	良	にぶい黄橙10YR7/3	1/2	
279	059-02	弥生土器	加工円盤	SK326	G75				底部を利用	やや粗	並	灰黄2.5Y7/2他	底部	裏底部か
280	039-04	弥生土器	壺 A2	SK340	I78		(13.0)		外・内:調整不明,口縁部にキザミ	粗	並	淡黄2.5Y8/3	口縁1/6	
281	039-05	弥生土器	壺 A2	SK340	I78		(16.0)		外・内:ヨコナデ→ミガキ,口縁部両面にキザミ	やや密	並	灰白10YR7/1	口縁小片	
282	039-03	弥生土器	壺 B3	SK340	I78		(13.0)		外・内:ヨコナデ→ハケメ	やや密	並	にぶい黄橙10YR7/2	口縁1/5	
283	042-01	弥生土器	壺 B3	SK340	I78		(10.6)	24.4	外:ナデ→ハケメ後ナデ→ハケメ後ミガキ→調整不明 内:ナデ→ハケメ後ミガキ→オサエ,ナデ→工具ナデ→ナデ	やや密	並	外:黒5Y2/1 内:黄灰2.5Y5/1	口縁1/2 底部完形	外面に黒斑あり
284	040-05	弥生土器	壺 B3	SK340	I78		4.2		外:ハケメ→ナデ 内:ナデ	やや密	並	にぶい橙5YR7/4他	底部完形	外面に黒斑あり
285	040-04	弥生土器	壺	SK340	I78 No.2		5.8		外:ナデ,工具痕→ハケメ12本/cm→ナデ 内:ハケメ10本/cm→ナデ	やや密	並	明褐7.5YR7/2	底部3/4	
286	039-02	弥生土器	甕 D1	SK340	I78		(20.0)		外・内:ヨコナデ→ハケメ6~7本/cm,口縁部にキザミ	やや密	並	褐灰10YR6/1	口縁1/4	
287	042-02	弥生土器	甕 D1	SK340	I78 No.3		16.6		外:ナデ 内:ハケメ→オサエ→ナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/4	口縁ほぼ完形	外面に煤付着
288	041-01	弥生土器	甕 D1	SK340	I78		(19)		外:ヨコナデ→ハケメ 内:ヨコナデ,一部オサエ,ナデ→ハケメ7本/cm	やや粗	並	にぶい褐7.5YR6/3	口縁1/4	
289	043-01	弥生土器	甕 D2	SK340	I78		(19.8)	7.6 (30.5)	外:ヨコナデ→調整不明→ハケメ11本/cm→ナデ 内:ハケメ10本/cm→ナデ→ハケメ 台部内:ハケメ	やや粗	並	外:明灰黄2.5Y5/2他 内:にぶい黄2.5Y6/3	口縁1/7 底部完形	
290	040-01	弥生土器	甕	SK340	I78		8.4		外:ハケメ→ハケメ後ナデ→ナデ 内:ナデ	やや密	並	明褐7.5YR7/2他	台部完形	
291	040-03	弥生土器	高杯	SK340	I78				外:ミガキ,櫛描横線文3本2段,刺突列2段 内:ミガキ 脚部内:ナデ	やや密	並	にぶい橙5YR7/4	杯底部 ~柱状部	四方透孔φ0.8cm
292	040-02	弥生土器	高杯	SK340	I78				外:ミガキ,櫛描横線文3本2段 内:ミガキ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/3	杯底部 ~柱状部	三方透孔
293	039-01	弥生土器	高杯 B1	SK340	I78 No.1		10.5 ~11.0		外:ミガキ,櫛描横線文5本/0.8cm3段 内:ミガキ	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/2他	口縁ほぼ完形	四方透孔φ1.3cm 外面に黒斑あり
294	040-07	弥生土器	ミチュア土器 A1	SK340	I78		(7.0)		外:ナデ 内:ナデ,一部オサエ	やや粗	並	灰黄褐10YR6/2他	口縁部片	
295	040-06	弥生土器	ミチュア土器	SK340	I78		3.7 ~4.1		外:ナデ→オサエ 内:オサエ	やや密	並	にぶい橙2.5Y6/3	底部完形	
296	168-03	弥生土器	壺 E1a	SK359	H45 No.11		(13.5)		外:一部ハケメ,横線文 内:一部ハケメ	やや粗	良	橙7.5YR7/6	口縁1/3	
297	169-03	弥生土器	壺 E1a	SK359	H45 No.24		7.2		外:ナデ→ハケメ後ミガキ 内:ミガキ	やや密	良	にぶい黄橙10YR6/4	口縁完形	
298	168-04	弥生土器	壺 E1a	SK359	H45 No.20		(9.0)		外:ヨコナデ→ミガキ 内:ヨコナデ→ハケメ	やや粗	良	橙5YR6/8	口縁3/4	
299	169-01	弥生土器	壺 E4	SK359	H45 No.16		(12.6)		外:ヨコナデ→ミガキ後ナデ,ハケメ 内:ミガキ→ナデ,オサエ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR6/4	口縁一部	
300	167-01	弥生土器	壺	SK359	H45 No.2-13				外:ハケメ10本/1.4cm後ミガキ→ミガキ,ナデ,波状文, 横線文5本 内:ナデ,オサエ→ハケメ5本/2.5cm	やや粗	良	橙7.5YR7/6	体部片	
301	163-02	弥生土器	壺	SK359	H45 No.40-42~ 44		4.8		外:ハケメ後ミガキ→ミガキ 内:ハケメ7本/cm	やや密	良	明赤褐5YR5/6	底部片	黒斑あり
302	165-02	弥生土器	壺 C3	SK359	H45 No.26		(4.5)		外:調整不明,ミガキ→ナデ 内:ナデ	やや密	並	にぶい黄橙10YR7/2	体部完形	
303	165-01	弥生土器	甕 A2	SK359	H45 No.4-5-30		(17.0)		外:ナデ→ハケメ9本/cm後ナデ 内:ナデ→ハケメ後ナデ,オサエ→工具痕	やや粗	並	灰褐5YR4/2	口縁1/2	
304	165-04	弥生土器	甕	SK359	H45 No.28		(8.8)		外:ヨコナデ→ナデ 内:ヨコナデ→オサエ	やや密	並	浅黄橙7.5YR8/4	口縁1/2	
305	168-02	弥生土器	甕	SK359	H45 No.18		8.8		外:ハケメ12本/1.8cm後ナデ→ヨコナデ→オサエ 台部内:ハケメ	やや密	良	にぶい黄橙10YR6/4	台部1/2	
306	166-02	弥生土器	高杯 A2a	SK359	H45 No.31		(24.3)		外・内:ミガキ→ハケメ後ミガキ	やや密	並	明褐7.5YR7/2	口縁1/5	
307	166-01	弥生土器	高杯 A2a	SK359	H45 No.32		(24.0)		外:ヨコナデ→工具ナデ→ミガキ,波状文12本 内:ヨコナデ→ミガキ	やや密	並	灰褐7.5YR5/2	口縁部片	
308	168-01	弥生土器	高杯	SK359	H45 No.3-6-25				外:ハケメ後ミガキ 内:ナデ→ケズリ→ミガキ	やや密	良	橙7.5YR7/6	柱状部	三方透孔
309	166-03	弥生土器	高杯	SK359	H45 No.33-37- 38-41		(10.7)	(9.5) (14.0)	外:ヨコナデ→ミガキ→ヨコナデ→ナデ,横線文3段, 刺突文2段 内:ヨコナデ→ミガキ	やや粗	並	橙7.5YR6/6	口縁部片	三方透孔
310	164-01	弥生土器	鉢 B	SK359	H45 No.1		15.6	7.0 22.9	外:ナデ→ハケメ13本/cm→ハケメ後ミガキ→ナデ 内:ハケメ→ナデ→ハケメ13本/cm	やや密	良	橙5YR6/6	ほぼ完形	黒斑あり 穿孔1ヶ所
311	163-01	弥生土器	鉢 C2	SK359	H45		(15.8)		外:ナデ→ハケメ10本/cm→調整不明 内:ハケメ6本/cm	やや密	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部 1/3	外面に煤付着
312	165-03	弥生土器	鉢 C1	SK359	H45 No.27		(13.0)	(3.5) (10.4)	外:ヨコナデ→工具ナデ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/4他	1/4	
313	167-03	弥生土器	ミチュア土器 A1	SK359	H45 No.10		3.8		外:ミガキ→ナデ 内:ハケメ8本/cm	密	良	橙7.5YR6/6	底部ほぼ完形	
314	176-02	弥生土器	壺 A1	SK372	E42 No.64		(15.6)		外:ヨコナデ→ハケメ6本/cm 内:ヨコナデ→ハケメ7~8本/cm	やや粗	並	淡黄2.5Y8/3他	口縁1/4	
315	176-01	弥生土器	壺 A1	SK372	E42 No.27		16.0		外:ナデ→ハケメ6本/cm後ミガキ 内:ナデ→ハケメ10本/cm後ミガキ	やや粗	並	にぶい橙5YR6/4他	口縁7/8	
316	174-01	弥生土器	壺 A2	SK372	E42 No.52		16.6		外:ヨコナデ→ハケメ,口縁部列点文 内:ヨコナデ→ハケメ,羽状刺突列	やや粗	良	淡黄2.5Y8/3	口頸部	
317	176-04	弥生土器	壺 A3	SK372	E42 No.19-29		(14.1)		外:ヨコナデ→ミガキ→ハケメ8本/cm後ミガキ 内:ヨコナデ→ナデ→ミガキ	やや粗	並	にぶい褐7.5YR6/3	口縁1/4	
318	172-02	弥生土器	壺 E1a	SK372	E42 No.53		11.5	4.6 16.0	外:ヨコナデ→ハケメ6本/cm→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ→工具ナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/3	口縁2/3 底部完形	
319	173-01	弥生土器	壺	SK372	E42 No.49		7.5		外:ミガキ,ナデ 内:調整不明,ハケメ	やや粗	良	外:浅黄橙7.5YR8/3 内:灰白2.5YR8/2	底部1/2	

第23表 遺物観察表⑧

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
					口径	底径	器高							
320	177-01	弥生土器	壺	SK372	E42 No.17-42		9.0	外:ミガキ→ハケミ10本/cm→未調整 内:ハケミ3本/cm→ナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR6/4	底部完形	外面に黒斑あり 底部外面に木葉痕	
321	179-03	弥生土器	甗	SK372	E42 No.31	(21.0)		外:内:ヨコナデ→ハケミ8本/cm以上	やや粗	並	外:にぶい橙5YR6/4 内:橙5YR6/6	口縁1/8		
322	172-01	弥生土器	甗 D1	SK372	D-E42 No.30	17.6	8.6	24.6	外:ナデ→ハケミ後ズリ→ハケミ8本/cm→ナデ 内:ハケミ8本/cm→オサエ→ハケミ後ナデ 台部内:ナデ	やや粗	並	濃黄橙10YR8/3	ほぼ完形	
323	180-01	弥生土器	甗	SK372	E42 No.26		9.0	外:ハケミ7本/cm→ナデ 内:ナデ	やや粗	並	橙2.5YR6/6他	台部5/8		
324	178-03	弥生土器	甗	SK372	E42 No.34		(7.3)	外:ミガキ→ナデ 内:ミガキ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/3	脚部1/4		
325	179-01	弥生土器	高杯 A2a	SK372	E42	(21.6)		外:内:調整不明	やや密	並	橙5YR6/8	口縁1/13		
326	180-04	弥生土器	高杯	SK372	E42 No.55			外:ミガキ 櫛描横線文4段 内:ケズリ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/4	柱状部	三方透孔	
327	178-01	弥生土器	高杯	SK372	E42 No.13・15・16・46・47	(14.0)		外:ミガキ→ハケミ後ミガキ→ナデ 内:ミガキ 脚部内:ナデ	やや粗	並	橙7.5YR6/6	裾部1/3	四方透孔φ1.1cm	
328	174-03	弥生土器	高杯	SK372	E42 No.28			外:ミガキ 横線文2段 内:ミガキ 脚部内:ナデ	やや粗	良	にぶい橙5YR7/4	柱状部		
329	180-03	弥生土器	高杯	SK372	E42 No.1			外:ミガキ 調整不明 横線文1段 内:ナデ	粗	並	にぶい橙7.5YR7/4他	柱状部		
330	174-04	弥生土器	高杯	SK372	E42 No.45			外:ミガキ 横線文5段 刺突文1段 内:ナデ	やや粗	良	明赤褐5YR5/6	柱状部		
331	175-01	弥生土器	高杯	SK372	E42 No.7			外:ナデ→ミガキ→ナデ 横線文4段 刺突文3段 内:ミガキ 脚部内:ナデ	やや粗	良	橙5YR6/8	柱状部	四方透孔?	
332	176-03	弥生土器	高杯	SK372	E42 No.10・12・38	(16)		外:ミガキ→ヨコナデ 内:ハケミ8本/cm後ナデ	やや粗	並	橙5YR7/6	底部1/2	透孔あり	
333	174-02	弥生土器	器台	SK372	E42 No.44	(16.8)		外:ハケミ後ミガキ→ヨコナデ 内:ミガキ ハケミ→ヨコナデ	やや粗	良	外:にぶい橙7.5YR5/3 内:黒褐10YR3/1	裾部	三方透孔	
334	180-02	弥生土器	鉢 C1	SK372	E42 No.2	(12.2)	4.2	10.5	外:調整不明 内:ハケミ10本/cm→調整不明	やや粗	並	橙5YR6/8	口縁5/8 底部ほぼ完形	
335	953-01	弥生土器	壺 C2	SK410	H-114 No.3	(16.5)	(7.2)	26.6	外:調整不明 一部ハケミ9本/cm、ミガキ 内:調整不明、工具ナデ、ハケミ9本/cm	やや粗	良	橙5YR6/6	口縁1/4 底部1/2	
336	956-03	弥生土器	壺 A3	SK410	H14	(13.8)			外:内:ナデ→ミガキ、口縁端部に凹線	やや密	並	にぶい橙5YR6/4	口縁1/5	
337	949-01	弥生土器	壺 A2	SK410	H-114 No.15・17				外:ハケミ7本/cm後ミガキ、横線文12本2段、波状文12本3段、口頸部下に隆帯 内:調整不明一部ハケミ7本/cm	やや密	並	橙7.5YR6/6	上部2/3	黒斑あり 内面に煤付着
338	951-02	弥生土器	壺 E2	SK410	H14 No.5	10.5	4.0	18.3	外:ナデ→ハケミ後ナデ→ハケミ後ミガキ 内:ナデ→ハケミ→ナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/4他	完形	体部に穿孔あり 外面に黒斑あり
339	952-02	弥生土器	甗 A1	SK410	H-114 No.15・29	(15.5)			外:ヨコナデ→調整不明、一部ハケミ 内:ヨコナデ→工具ナデ、ハケミ	やや粗	良	橙7.5YR6/6	口縁1/2	内面に煤付着
340	956-02	弥生土器	甗 A1	SK410	H-114	(17.0)			外:内:ヨコナデ→ハケミ6本/cm	やや粗	並	にぶい橙5YR6/4	口縁1/5	
341	952-01	弥生土器	甗 A3	SK410	H14 No.18				外:ヨコナデ→ハケミ12本/1.5cm 内:ハケミ→ナデ→工具ナデ後ハケミ5本/cm	やや粗	良	にぶい橙7.5YR5/4	体部片	外面に煤付着
342	954-01	弥生土器	甗 B1	SK410	H-114	(15.8)	4.3		外:ナデ→ハケミ→ナデ 刺突文2段、横線5本 内:ナデ→ハケミ→ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/2	口縁1/4 底部完形	
343	956-01	弥生土器	甗	SK410	H-114				外:ミガキ 内:ナデ→ハケミ7本/cm	やや粗	並	にぶい橙7.5YR5/4	体部片	
344	954-02	弥生土器	甗 D2	SK410	H-114		4.7		外:ミガキ→ナデ 内:ハケミ 台部内:工具ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/2	台部2/3	
345	955-03	弥生土器	甗	SK410	H-14 No.16・24		7.9		外:ハケミ3本/cm→一部ナデ→ヨコナデ→ナデ 内:調整不明、一部ハケミ	やや粗	並	にぶい橙5YR6/4	底部3/4	
346	955-02	弥生土器	甗	SK410	H-114		7.2		外:ハケミ8本/1.3cm→ヨコナデ→ナデ 内:ハケミ→ナデ	やや粗	並	橙5YR6/6	底部完形	
347	957-03	弥生土器	高杯	SK410	H14				外:ハケミ後ミガキ、横線文4段 内:調整不明	やや粗	並	にぶい橙5YR7/4	柱状部	三方透孔
348	955-01	弥生土器	高杯	SK410	H-114 No.4・12	(25.9)			外:内:ナデ→ミガキ	やや粗	並	にぶい橙5YR7/4	口縁1/5	
349	951-01	弥生土器	高杯 A3b	SK410	H14 No.16	(21.3)	(13.0)	(16.4)	外:ヨコナデ→ハケミ後ミガキ→ナデ→ミガキ 内:ミガキ 脚部内:ナデ→ハケミ8本/cm	やや密	並	にぶい黄橙10YR7/2他	口縁1/4 脚部1/5	三方透孔
350	950-01	弥生土器	鉢 G2	SK410	H14 No.20~23・26・28	17.5	4.0	15.2	外:ハケミ4本/cm 内:ハケミ後ナデ	やや密	並	にぶい橙7.5YR7/4他	3/4	口縁に把手2ヶ所 底部に穿孔φ1.5cm
351	964-02	弥生土器	壺 F3	SK420	M67-68	(13.8)			外:ヨコナデ→ハケミ 内:ナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR6/4他	口縁1/4	
352	963-01	弥生土器	壺 A2	SK420	M67-68 No.2・5・6・13	(29.0)			外:ヨコナデ→ハケミ後ミガキ、口縁端部に刺突文 内:ヨコナデ→ハケミ後ミガキ、波状文	やや粗	並	灰白10YR8/2	口縁1/2	
353	961-01	弥生土器	甗 A3	SK420	M67-68 No.17				外:ハケミ6本/cm 内:ハケミ5本/cm	やや粗	良	外:黒褐7.5YR3/2他 内:灰褐5YR5/2	体部	
354	963-02	弥生土器	甗	SK420	No.9・20		7.5		外:内:調整不明	粗	並	灰5Y4/1	台部3/4	
355	964-03	弥生土器	甗	SK420	M67-68	(5.0)			外:ナデ 内:ナデ、オサエ	やや密	並	外:にぶい橙5YR6/4 内:にぶい橙7.5YR6/4	底部3/8	
356	959-02	弥生土器	高杯 A3b	SK420	No.18	25.0			外:内:ヨコナデ→ミガキ	やや粗	良	浅黄橙7.5YR8/3	杯部	
357	962-05	弥生土器	高杯	SK420	No.1				外:ミガキ、横線文4段 内:コヒオサエ→ハケミ	やや粗	並	にぶい橙5YR6/4	柱状部	
358	964-01	弥生土器	高杯 B1	SK420	No.19	(13.0)			外:ヨコナデ→ハケミ後ミガキ、調整不明 内:ミガキ	やや粗	並	外:にぶい赤褐5YR5/4 内:にぶい黄橙10YR7/4	口縁1/5	
359	962-03	弥生土器	高杯	SK420	No.15	(12.0)			外:ハケミ後ミガキ 内:ミガキ 脚部内:ナデ	やや粗	並	外:にぶい橙7.5YR7/4 内:橙5YR7/4	底部3/8	四方透孔
360	962-02	弥生土器	高杯	SK420	M67-68 No.7				外:ミガキ 内:ミガキ 脚部内:ナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR7/4	杯底部 ~柱状部	四方透孔

第24表 遺物観察表⑨

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置		法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
						口径	底径	器高						
361	962-04	弥生土器	高杯	SK420	No.8				外:ハケメ後ミガキ 内:ミガキ 脚部内:ナデ	やや粗	並	橙7.5YR7/6	柱状部	四方透孔
362	964-04	弥生土器	高杯	SK420	M67-68		(10.0)		外:ハケメ8本/cm→ヨコナデ 内:ミガキ 脚部内:ハケメ	やや密	並	橙5YR6/6	脚部1/4	三方透孔
363	959-01	弥生土器	鉢 A2	SK420	M67-68 No.11	22.4	7.7	16.1	外:ヨコナデ→ハケメ7本/cm 内:ハケメ5本/cm→ミガキ 台部内:ナデ	やや密	良	にぶい黄橙10YR7/4	3/4	
364	960-01	弥生土器	鉢 A1	SK420	No.3	31.2			外:ヨコナデ→ハケメ後ナデ 内:ヨコナデ→工具ナデ	粗	良	明赤褐5YR5/6他	口縁 ~体部	
365	962-01	弥生土器	鉢 C3	SK420	No.16	(17.5)	4.1	(9.8)	外:ヨコナデ→ハケメ後ミガキ→オサエ→ナデ, 刺突文 内:ヨコナデ→ミガキ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/3	底部完形	
366	968-04	弥生土器	壺 B2	SK421	L66 No.12	(11.2)	(5.2)	24.1	外:ヨコナデ→ハケメ6~7本/cm→ミガキ→ナデ, 横線文6本/ 1.2cm3段, 刺突文6個/1.2cm1段, 波状文6本/1.2cm3段 内:ヨコナデ→ハケメ5本/cm	粗	並	にぶい橙7.5YR7/4他	口縁1/5 体部完形 底部2/5	
367	965-03	弥生土器	壺 C2	SK421	L66 No.3	(12.8)			外:ヨコナデ→ハケメ7本/cm, 横線文 内:ヨコナデ→ハケメ10本/cm	やや密	並	にぶい橙7.5YR7/4	口縁1/4	
368	968-02	弥生土器	壺 A2	SK421	L66	(11.5)			外・内:ヨコナデ	やや粗	並	褐灰5YR4/1他	口縁1/4	
369	969-01	弥生土器	壺 B3	SK421	L66 No.18~24				外:ハケメ9本/cm後ミガキ 内:ナデ→ハケメ~10本/cm	やや粗	並	にぶい橙5YR7/4他	体部	
370	966-01	弥生土器	壺 A1	SK421	L66 No.6	(29.8)			外:ヨコナデ→ハケメ→調整不明, 口縁端部に竹管文大2段・ 小1段 内:ハケメ8本/cm, ハの字状刺突文	粗	並	にぶい橙7.5YR7/4	口縁1/4	
371	966-03	弥生土器	壺	SK421	L66 No.30				外:ハケメ後ナデ, 横線文, 波状文 内:調整不明	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/3	肩部小片	
372	966-04	弥生土器	壺	SK421	L66 No.14		(8.0)		外:オサエ, ナデ 内:工具ナデ	やや密	並	にぶい黄橙10YR7/2他	底部小片	底部外面に木葉痕
373	968-01	弥生土器	甕 B1	SK421	L66				外:ヨコナデ, キザミ 内:ヨコナデ	粗	並	淡黄2.5YR8/3	口縁小片	外面に煤付着
374	967-03	弥生土器	甕 A2	SK421	L66 No.27	(14.8)			外:ヨコナデ→ハケメ11本/cm後一部ナデ 内:ヨコナデ→工具ナデ	やや密	並	灰褐7.5YR6/2	口縁1/4	外面に煤付着
375	967-04	弥生土器	甕 A1	SK421	L66 No.10	(15.0)			外:ヨコナデ→調整不明, ハケメ, 刺突文 内:ヨコナデ→ハケメ5本/cm→ナデ	粗	並	にぶい橙5YR6/3他	口縁1/5	
376	969-03	弥生土器	甕	SK421	L66		4.2		外:ハケメ5本/cm→オサエ, ナデ→ナデ 内:ナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/3	底部完形	
377	966-02	弥生土器	甕	SK421	L66 No.5		8.5		外:ナデ, 工具ナデ 内:調整不明	やや粗	並	灰褐7.5YR6/2	台部完形	
378	966-05	弥生土器	甕	SK421	L66 No.16		(9.0)		外:工具ナデ→ヨコナデ 内:調整不明	やや粗	並	灰白10YR7/1	脚部3/4	
379	969-05	弥生土器	高杯 A2a	SK421	L66	(25.0)			外・内:ヨコナデ→ミガキ	やや粗	並	にぶい橙5YR7/4他	口縁1/8	
380	968-03	弥生土器	高杯	SK421	L66				外:ミガキ, 櫛歯横線文3本/0.6cm4段, 刺突文3段 内:ミガキ 脚部内:ナデ	粗	並	にぶい橙7.5YR6/4	柱状部	
381	965-05	弥生土器	高杯	SK421	L66 No.8				外:ミガキ, 櫛歯横線文 内:ナデ	粗	並	褐灰10YR5/1	柱状部	
382	965-04	弥生土器	高杯	SK421	L66 No.9				外:ハケメ後ミガキ 内:ミガキ	やや密	並	にぶい橙5YR6/4他	杯底部 ~柱状部	
383	967-01	弥生土器	鉢 C2	SK421	L66 No.11	12.7	5.0	10.5	外:ヨコナデ→ハケメ11本/cm→ナデ→オサエ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ→工具ナデ	やや密	並	灰白7.5YR8/2他	口縁3/4 底部完形	外面に黒斑あり
384	958-02	弥生土器	甕 A2	SK434	J61 No.4	(15.8)			外:ヨコナデ→ハケメ10本/cm 内:ヨコナデ→ハケメ→ナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR6/4	口縁1/4	
385	958-06	弥生土器	甕 A1	SK434	J61 No.2	(16.1)			外:ヨコナデ→ミガキ 内:ヨコナデ→ケズリ	やや粗	並	にぶい橙5YR6/4他	口縁1/4	
386	958-01	弥生土器	高杯 A3a	SK434	J61 No.3・5	(22.2)			外:ヨコナデ→ミガキ, 波状文5本 内:ミガキ, 調整不明	やや粗	並	橙7.5YR7/6	口縁1/3	
387	958-03	弥生土器	高杯	SK434	I-J61 No.1	(12.7)			外:ミガキ→ナデ 内:ミガキ 脚部内:ナデ	やや粗	並	橙5YR6/6他	杯底部 ~脚部	四方透孔φ1.1cm
388	971-01	弥生土器	壺 A3	SK426	K61 No.26	12.5	6.4	20.9	外:ヨコナデ→ハケメ6本/cm後一部工具ナデ, オサエ→ナデ 内:ヨコナデ→オサエ→ハケメ	やや密	並	にぶい黄橙10YR7/2他	ほぼ完形	外面に黒斑あり
389	970-01	弥生土器	壺 B1	SK426	K61 No.1-13・16		3.6		外:ナデ→ハケメ13本/cm→ハケメ7本/cm一部ミガキ→ナデ 内:ナデ→オサエ→ハケメ	やや密	並	にぶい橙5YR7/4他	頸部 ~体部	
390	978-02	弥生土器	壺 A1	SK426	K61 No.17	(22.8)			外・内:ナデ, 調整不明 口縁端部に竹管文	やや粗	並	明褐灰7.5YR7/2	口縁1/10	
391	976-02	弥生土器	壺 F2	SK426	K61	(9.4)			外:ヨコナデ→ハケメ13本/1.2cm後ナデ 内:ヨコナデ→ケズリ→ナデ, オサエ	粗	良	にぶい黄橙10YR6/4	口縁部片	
392	976-01	弥生土器	壺 E1a	SK426	K61 No.33・38	7.8			外:ヨコナデ→ハケメ14本/cm, 調整不明 内:ヨコナデ→ナデ, オサエ→ハケメ14本/cm	やや粗	良	灰黄2.5Y6/2	口縁ほぼ 完形	
393	972-01	弥生土器	壺 E1a	SK426	K61 No.28~30・ 36	9.9	5.3	22.7	外:ヨコナデ→ハケメ後ヨコナデ→ハケメ7本/cm→ナデ, 頸部に刺突文 内:ヨコナデ→ナデ→ハケメ	やや粗	並	明褐灰7.5YR7/2	口縁1/2 底部完形	
394	971-02	弥生土器	壺 E1a	SK426	K61 No.27	6.3			外:ハケメ後ナデ→ハケメ8本/cm→ナデ, 頸部に刺突文 (半周にだけ38個) 内:ナデ→調整不明	やや密	並	にぶい黄橙10YR7/2	頸部以下 完形	外面に黒斑あり
395	973-01	弥生土器	壺 B1	SK426	K61 No.34		5.7		外:ミガキ→ナデ 内:ナデ→工具ナデ	やや密	並	にぶい橙7.5YR7/4	底部完形	
396	975-04	弥生土器	甕	SK426	K61 No.1・2	(16.7)			外:ヨコナデ→ナデ 内:ヨコナデ→ハケメ13本/cm	やや粗	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部	
397	978-01	弥生土器	甕 A3	SK426	K61 No.2~5・ 24・25	(16.6)			外:ヨコナデ→ハケメ14本/2.1cm 内:ヨコナデ→ハケメ8本/cm→ケズリ	やや粗	良	にぶい橙5YR6/3他	口縁1/3	外面に煤付着
398	972-02	弥生土器	甕 A2	SK426		13.2	5.4	16.7	外:ナデ→ハケメ4本/cm→ケズリ→ナデ 内:ナデ→ハケメ→ナデ	やや粗	並	灰黄褐10YR5/2	口縁3/4 底部完形	
399	977-02	弥生土器	甕	SK426	K61 No.10・11		(10.6)		外:工具ナデ→ナデ 内:調整不明	やや粗	並	灰白7.5YR8/1他	台部1/2	
400	976-04	弥生土器	甕	SK426	K61		(8.4)		外:ハケメ後ナデ→ヨコナデ→工具ナデ, オサエ 内:ナデ	やや粗	良	にぶい黄褐10YR5/3	底部小片	内面に煤付着
401	978-04	弥生土器	甕	SK426	K61 No.32		8.3		外:ハケメ9本/cm→ナデ 内:調整不明	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/2	台部3/4	外面に黒斑あり

第25表 遺物観察表⑩

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置			法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
				K61 No.	口径	底径	器高	口径	底径						
402	975-03	弥生土器	高杯 A3a	SK426	K61 No.23	(16.4)			外:ヨコナデ→ミガキ→ヨコナデ→ミガキ 内:ミガキ、調整不明	やや粗	良	にぶい黄橙10YR6/4	杯部		
403	978-03	弥生土器	高杯	SK426	K61 No.20		(11.2)		外:ミガキ→ハケメ後ミガキ 内:調整不明 脚部内:ナデ→ハケメ10本/cm→ナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/4	台部3/8	三方透孔φ1.3cm	
404	974-01	弥生土器	高杯	SK426	K61				外:ミガキ、横線文2段 内:ミガキ 脚部内:ナデ、オサエ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR6/4	杯底部 →柱状部		
405	977-03	弥生土器	高杯	SK426	K61 No.14				外:ミガキ、横線文4本4段、刺突文3段 内:ミガキ 脚部内:ナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR7/4	柱状部	三方透孔φ1.2cm	
406	976-03	弥生土器	高杯	SK426	K61		(9.0)		外:ミガキ→ヨコナデ、横線文7本2段 内:ナデ、オサエ→ヨコナデ	やや粗	良	明赤褐5YR5/6	底部1/3	四方透孔	
407	973-02	弥生土器	器台 B2	SK426	K61 No.9	11.9	10.5	11.5	外:ナデ→ミガキ→ハケメ→ミガキ→ナデ、口縁部竹管文、横線文3段 内:ナデ→ミガキ→オサエ→ナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR7/4	ほぼ完形	柱状部に5方透孔2段	
408	975-01	弥生土器	鉢	SK426	K61	(10.8)			外:ヨコナデ→ナデ、刺突文2段、横線文3本1段 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	にぶい褐7.5YR5/4	口縁部片	外面に煤付着	
409	974-04	弥生土器	鉢	SK426	K61		4.8		外:ハケメ13本/cm→ナデ、オサエ 内:ナデ、オサエ→ハケメ5本/cm	やや粗	良	橙5YR6/6	底部ほぼ完形		
410	977-05	弥生土器	鉢 F	SK426	K61 No.6~8	(10.3)	(5.6)	10.8	外:ナデ→ハケメ9本/cm→ナデ 内:ナデ	やや粗	並	橙2.5YR6/6他 灰N4/0	口縁1/3 台部1/4		
411	977-04	弥生土器	鉢 F	SK426	No.2の中	9.8			外:ナデ→ミガキ→ナデ 内:ナデ	やや粗	並	灰褐5YR5/2他	口縁3/4	体部外面に縦に5条の粗光状線刻	
412	974-02	弥生土器	ミチュア土器 A1	SK426	K61 No.15				外:ナデ、オサエ 内:ナデ、オサエ→工具ナデ	やや密	良	にぶい黄橙10YR6/3	口縁欠失		
413	974-03	弥生土器	紡錘車	SK426	K61	最大長 2.1	最大幅 3.4	穴径 0.4	ミガキ、ナデ	やや密	良	にぶい褐7.5YR5/4	完形	重量23.97g	
414	086-01	弥生土器	壺 A2	SE327	G77	(17.6)			外:ナデ→ハケメ後ナデ 内:ナデ→一部ミガキ	やや密	並	にぶい橙7.5YR7/3	口縁1/3		
415	087-01	弥生土器	壺 A3	SE327	G76	15.4			外:内:調整不明、一部ミガキ	やや粗	並	にぶい黄橙10YR6/4	口縁小片		
416	090-04	弥生土器	壺 A3	SE327	G75	(14.0)			外:ヨコナデ→ハケメ8本/cm 内:調整不明	やや密	並	橙7.5YR7/6	口縁1/2		
417	094-04	弥生土器	壺 C2	SE327	G77 No.16	(14.0)			外:ヨコナデ→ハケメ7本/0.5cm 内:ヨコナデ→ナデ	粗	並	にぶい橙5YR6/4他	口縁1/3		
418	093-02	弥生土器	壺 E1a	SE327	G77 No.14・33・44・114	(10.1)			外:ヨコナデ→ハケメ5本/cm→ミガキ 内:ヨコナデ→ハケメ4本/cm→オサエ→ハケメ5本/cm→ナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR7/4他	口縁1/2		
419	093-01	弥生土器	壺 E1a	SE327	G77 No.82	10.8	3.5	22.0	外:ヨコナデ→ミガキ→ナデ 内:ヨコナデ→ケズリ→ナデ→工具ナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/3他	完形		
420	087-03	弥生土器	壺 C2	SE327	G76	(13.8)			外:ヨコナデ→ハケメ9本/cm 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁1/2		
421	086-03	弥生土器	壺 E1a	SE327	G76	(10.5)			外:ヨコナデ→ミガキ、頸部に刺突文 内:ヨコナデ→ナデ→オサエ→ハケメ5本/cm	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/4	口縁1/2		
422	088-01	弥生土器	壺 F3	SE327	G77				外:ハケメ5本/cm、横線文1段、波状文1段 内:オサエ→ハケメ後ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	1/2	包含層遺物と接合	
423	097-01	弥生土器	壺 C1	SE327	G77 No.128	15.2	8.4	32.5	外:ヨコナデ→ハケメ後ナデ、波状文1段 内:ハケメ→オサエ→ハケメ→ナデ	やや粗	良	橙5YR7/6	ほぼ完形		
424	082-03	弥生土器	壺 H3	SE327	G77 No.89・91・126	9.2	3.5	14.3	外:ミガキ→オサエ 内:ヨコナデ	やや粗	良	橙5YR6/6	口縁完形		
425	101-01	弥生土器	壺 E2	SE327	G77 No.26	(9.0)	4.5	(17.0)	外:ミガキ→ケズリ 内:ミガキ→調整不明	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/3	口縁小片 底部完形	外面に黒斑あり	
426	092-03	弥生土器	ミチュア土器 A2	SE327	G77	(6.0)			外:ヨコナデ→ミガキ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	浅黄橙7.5YR8/3	口縁1/5	穿孔12個φ0.5cm	
427	104-02	弥生土器	壺	SE327	G77 No.117・124		5.1		外:ハケメ10本/1.7cm、工具痕→ナデ、オサエ 内:ハケメ後ナデ	やや粗	良	灰黄褐10YR4/2	底部1/2		
428	102-03	弥生土器	壺 G2	SE327	G77 No.68・69	(11.5)			外:ミガキ→ヨコナデ→ナデ→ハケメ→ヨコナデ、口縁部横線文8本/cm2段、柱状部部帯横線文4本/0.6cm3段 内:オサエ、ナデ→ハケメ 脚部内:ハケメ→ナデ	やや密	並	にぶい橙5YR6/4他	底部1/4	三方透孔φ1.1cm 包含層遺物と接合	
429	085-01	弥生土器	甕 A2	SE327	G77 No.13	(19.0)			外:ヨコナデ→調整不明、一部ハケメ13本/cm→7本/cm 内:ヨコナデ→ナデ	粗	並	外:淡黄橙10YR8/3 内:橙7.5YR7/6	口縁1/2	外面に煤付着 包含層遺物と接合	
430	103-01	弥生土器	甕 A2	SE327	G77 No.40・43	(14.2)			外:内:ヨコナデ→ハケメ8本/1.4cm	やや粗	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁1/3		
431	096-01	弥生土器	甕 A1	SE327	G77 No.88・90・92~97	19.3			外:ヨコナデ→ハケメ7本/cm→ケズリ 内:ヨコナデ→ハケメ→ナデ→ハケメ7本/cm	やや粗	並	灰褐5YR4/2他	口縁3/4	外面に煤付着	
432	098-01	弥生土器	甕 A2	SE327	G77 No.18	(16.4)			外:ヨコナデ→ハケメ5本/cm 内:ヨコナデ→ナデ→ハケメ5本/cm	やや粗	良	橙7.5YR6/8	口縁1/4		
433	090-01	弥生土器	甕 A3	SE327	G77	(22.0)			外:ヨコナデ→ハケメ5本/cm、口縁部と頸部に刺突文 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	にぶい橙5YR7/4	口縁1/6		
434	105-02	弥生土器	甕 A1	SE327	G77 No.58	12.5			外:ヨコナデ→ハケメ13本/1.8cm 内:ヨコナデ→ナデ、工具痕	やや密	不良	橙7.5YR6/8	口縁2/3	外面に煤付着	
435	098-05	弥生土器	甕 A2	SE327	G77	(12.0)			外:ヨコナデ→調整不明 内:ヨコナデ→ケズリ	粗	並	にぶい橙5YR6/3他	口縁1/5		
436	101-03	弥生土器	甕 A3	SE327	G77 No.127・128	13.0			外:ヨコナデ→ハケメ6本/cm 内:ヨコナデ→ナデ→ケズリ	やや粗	並	にぶい橙5YR7/3	口縁7/8	外面に煤付着	
437	103-02	弥生土器	甕 A2	SE327	G77 No.98・100~112	11.8	(4.6)	12.6	外:ヨコナデ→ハケメ10本/1.2cm→ナデ、工具痕 内:ヨコナデ→ハケメ、オサエ→ナデ	やや粗	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁3/4 底部1/2		
438	091-02	弥生土器	甕 B2	SE327	G77	(13.0)			外:ヨコナデ→ハケメ6本/cm、刺突文、横線文 内:ヨコナデ→ハケメ5本/cm	やや粗	並	浅黄橙10YR8/3他	口縁小片		
439	086-02	弥生土器	甕	SE327	G77		8.9		外:ハケメ6本/cm→ヨコナデ→ナデ 内:ハケメ6本/cm→ナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR7/4他	底部完形		
440	087-02	弥生土器	甕	SE327	G76		8.4		外:ヨコナデ→ハケメ5本/cm→ヨコナデ→ナデ 内:調整不明	密	良	にぶい黄橙10YR6/3	底部1/2		
441	099-04	弥生土器	甕	SE327	G77 No.15	(9.0)			外:ナデ→ハケメ7本/cm→ナデ 内:ナデ	粗	並	外:にぶい褐7.5YR5/3 内:灰褐7.5YR4/2	底部1/3		
442	088-04	弥生土器	甕	SE327	G77	(7.4)			外:ナデ→ミガキ→ヨコナデ 内:ナデ	密	良	橙5YR6/6	底部1/3		

第26表 遺物観察表①

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置		法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
						口径	底径	器高						
443	091-05	弥生土器	甕	SE327	G77		4.5		外:ハケメ5本/cm→オサエ、ナデ 内:ハケメ4~5本/cm→オサエ	やや粗	並	褐灰5YR5/1他	底部完形	
444	086-04	弥生土器	甕	SE327	G77		6.7		外:ハケメ→ナデ 内:ハケメ4本/cm後→ナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/4	底部完形	
445	095-01	弥生土器	高杯 A2a	SE327	G77 No.7~9-79-80	(29.0)	18.0	26.5	外:ナデ→ミガキ→ヨコナデ→ヨコナデ、横線文、柱状部に 樹描横線文4段 内:ミガキ 脚部内:ナデ→ヨコナデ	やや粗	並	灰白10YR8/2	口縁1/4 底部 ほぼ完形	三方透孔 包含層遺物と接合
446	083-01	弥生土器	高杯 A2a	SE327	G77	(25.7)			外・内:ヨコナデ→ミガキ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR6/4	口縁1/2	包含層遺物と接合
447	089-02	弥生土器	高杯 A2b	SE327	G76	(23.0)			外・内:ヨコナデ→ミガキ	やや密	良	にぶい橙7.5YR6/4	杯部1/4	
448	104-01	弥生土器	高杯 A4a	SE327	G77 No.49-50	(18.6)			外・内:ヨコナデ→ミガキ	やや粗	良	橙7.5YR6/6	口縁 一部残	
449	082-01	弥生土器	高杯	SE327	G77	(16.6)			外:ヨコナデ→ミガキ→ナデ、横線文3本4段 内:ヨコナデ→ミガキ	密	良	にぶい褐7.5YR5/4	口縁1/4	
450	100-01	弥生土器	高杯	SE327	G77 No.19			基部径 (4.4)	外:ミガキ、樹描横線文3本/0.6cm4段 内:調整不明 脚部内:ナデ	やや密	並	にぶい橙7.5YR7/4他	基部径 1/2	
451	089-01	弥生土器	高杯	SE327	G76				外:ハケメ7本/cm後ミガキ→ナデ 内:調整不明	やや粗	良	にぶい褐7.5YR5/4	脚部1/2	四方透孔
452	102-02	弥生土器	高杯	SE327	G77 No.25				外:ミガキ→ヨコナデ、樹描横線文3段7本/1.7cm・8本/2.2cm・ 7本/2.3cm 内:調整不明 脚部内:工具オサエ→ケズリ→オサエ→ ハケメ→ナデ	やや密	並	灰白7.5YR8/2他	脚部	四方透孔φ1.1cm
453	101-02	弥生土器	高杯	SE327	G77 No.28		15.4~ 15.8		外:ミガキ→ヨコナデ、樹描横線文5・6本3段 内:ケズリ→調整不明 脚部内:ハケメ10本/cm→ナデ	やや粗	並	橙5YR6/6	脚部 ほぼ完形	三方透孔φ1.4cm
454	094-02	弥生土器	高杯 B2	SE327	G77 No.67		13.5		外:ミガキ→調整不明、樹描横線文3段、刺突文2段 内:ナデ	やや粗	並	にぶい褐7.5YR6/3他	口縁2/3	三方透孔
455	084-03	弥生土器	高杯 B2	SE327	G77 No.1		11.6		外・内:ヨコナデ→ミガキ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/4	口縁3/4	
456	102-01	弥生土器	高杯 B2	SE327	G77 No.57		(11.0)		外:ミガキ→ヨコナデ、樹描横線文6本2段 内:ハケメ→ミガキ 脚部内:ハケメ→ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR6/3	底部1/4	四方透孔φ1.3cm 内面に黒斑あり
457	088-03	弥生土器	高杯	SE327	G76		(10.2)		外:ミガキ→ヨコナデ、横線文4段、刺突文2段 内:ナデ	やや密	良	にぶい橙7.5YR6/4	脚部1/4	四方透孔
458	087-04	弥生土器	高杯	SE327	G75		9.9		外:ミガキ→ヨコナデ、横線文3本5段、刺突文4段 内:ナデ	やや密	良	浅黄橙10YR8/3	底部1/2	四方透孔
459	092-01	弥生土器	高杯	SE327	G77 Sec2		10.0		外:ミガキ→ヨコナデ 内:ミガキ 脚部内:ケズリ	やや粗	並	にぶい橙5YR6/4	脚部完形	四方透孔φ1.4cm
460	094-01	弥生土器	器台 C2	SE327	G77 No.23	16.6	(14.0)	(17.5)	外:ミガキ→ナデ 内:ミガキ→ケズリ→ナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR7/4	口縁3/4 脚部1/4	四方透孔φ1.4cm3段 計12ヶ所 外面に黒斑あり
461	100-03	弥生土器	器台 A	SE327	G77 No.78				外:ハケメ6~7本/cm 内:ナデ	粗	並	橙5YR6/6	柱状部	透孔4~5個(推定)
462	089-04	弥生土器	鉢	SE327	G77				外:ミガキ 内:ナデ	やや密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁小片	両面に赤彩
463	088-02	弥生土器	鉢 E3	SE327	G77	(6.6)	(2.6)	(3.75)	外:ヨコナデ→ナデ 内:ヨコナデ→ハケメ18本/cm	やや密	良	にぶい黄橙10YR6/3	1/2	
464	083-02	弥生土器	鉢 D2	SE327	G77	(14.8)			外:ヨコナデ→ナデ、一部ハケメ、刺突文2段、横線文5本1段 内:ヨコナデ	粗	良	にぶい黄橙10YR6/3	口縁1/4	
465	105-01	弥生土器	鉢 D2	SE327	G77 No.24	(14.8)	4.0	9.0	外:ヨコナデ→ハケメ10本/1.3cm→ナデ、刺突文3段 内:ヨコナデ→ミガキ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR6/4	口縁1/3 底部完形	
466	098-02	弥生土器	鉢 D3	SE327	G77			頸部径 (8.2)	外:ヨコナデ→ミガキ→ケズリ、刺突文2段 内:ヨコナデ→オサエ	密	並	にぶい橙7.5YR7/4他	頸部1/4	外面に煤付層 内面に炭化物付着
467	099-03	弥生土器	鉢	SE327	G77 No.27		4.0		外:ハケメ→オサエ→ナデ 内:ナデ	粗	並	灰白7.5Y8/1	底部完形	
468	156-01	弥生土器	袋状土製品	SE327	G77 No.123				外:粗いミガキ 内:調整不明	密	良	橙7.5YR7/6他	完形	
469	116-03	弥生土器	壺 C1	SD303	N73 No.39		11.8		外:ヨコナデ→ハケメ6本/cm、刺突文1段 内:工具ナデ→ハケメ→ナデ	やや密	並	外:浅黄橙10YR8/3 内:淡黄2.5Y8/3	口縁完形	
470	140-04	弥生土器	壺 A2	SD303	No.153	(16.0)			外:ヨコナデ→オサエ→ハケメ7~8本/cm→ヨコナデ、端部に 竹管4個1組6ヶ所、樹描横線文1段 内:ヨコナデ→ハケメ6本/cm→オサエ	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/3他	口縁1/3	
471	138-01	弥生土器	壺 A3	SD303	N75・O76	16.6~ 17.0			外・内:ヨコナデ→ハケメ後ミガキ	やや密	並	明褐灰7.5YR7/1	口縁 ほぼ完形	内面に黒斑あり
472	993-01	弥生土器	壺 A2	SD303	I57		14.0		外:ヨコナデ→ハケメ4本/cm→ミガキ、口縁端部に沈線、刺突 文1段、樹描横線文4本/0.9cm1段、波状文2段 内:ヨコナデ→ハケメ4本/cm→オサエ→調整不明	密	良	橙5YR6/8	口縁完形	内面に黒斑あり
473	125-01	弥生土器	壺 C2	SD303	N73 No.47		15.2		外:ハケメ6本/cm→ハケメ後ナデ→ハケメ、口縁端部に縄文、 棒状隆帯5本4列、横線文5本1段、波状文、縄文 内:ミガキ→ナデ	やや粗	良	橙7.5YR7/6	口縁完形	
474	132-01	弥生土器	壺 A2	SD303	A68				外:工具ナデ→ハケメ後ミガキ、頸部にキザミ隆帯、横線文4 段、波状文3段 内:工具ナデ→オサエ→工具ナデ→ハケメ4~6/cm	やや粗	並	淡赤橙2.5YR7/4他	1/8	
475	127-04	弥生土器	壺	SD303	N72 No.22				外:調整不明、刺突文、波状文 内:ナデ	やや粗	並	橙7.5YR6/8	肩部小片	
476	109-01	弥生土器	壺	SD303	N74				外・内:ナデ	やや密	並	浅黄橙7.5YR8/3他	肩部小片	体部外面に線刻6条
477	142-03	弥生土器	壺	SD303	N75 No.48				外:ミガキ、タテ波状文4段 内:ナデ、オサエ	ほぼ密	並	外:褐灰10YR6/2他 内:灰黄褐10YR6/1	体部小片	
478	106-01	弥生土器	壺 C2	SD303	N73 No.59-60- 64-77-74- 83-87		5.3		外:ハケメ5~6本/cm後ミガキ→ナデ、波状文2段、横線2本 内:オサエ→ハケメ5本/cm	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/3他	底部完形	
479	122-02	弥生土器	壺 B2	SD303	N73 No.51		6.0		外:ハケメ後ミガキ 内:工具痕→ナデ	やや粗	並	にぶい褐7.5YR5/4	底部 ほぼ完形	
480	115-01	弥生土器	壺	SD303	N72 No.5-8		7.0		外:ミガキ→ナデ 内:ナデ	やや粗	並	橙7.5YR7/6他	底部 ほぼ完形	
481	545-02	弥生土器	壺 C2	SD303	H57		4.0		外:調整不明 内:ハケメ8本/cm	やや粗	良	外:明赤褐5YR5/6他 内:黒7.5YR2/1他	体部 ~底部	

第27表 遺物観察表⑫

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
					口径	底径	器高							
482	544-01	弥生土器	壺	SD303	F57		6.8	外:ミガキ→ナデ 内:ハケム10本/2.2cm	やや粗	良	橙5YR6/6	底部完形		
483	111-01	弥生土器	壺 F4	SD303	N74 No.98-99	10.1		外:ナデ 内:ハケム7本/cm→ナデ	密	並	にぶい褐7.5YR6/3他	口縁3/4		
484	148-01	弥生土器	壺 B3	SD303	N75 No.151	9.1	5.4	19.5	外:ナデ→ハケム後ミガキ→ナデ 内:ナデ→ミガキ→ナデ→ハケム後ナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR6/4	口縁1/2 底部完形	底部外面に黒斑あり
485	143-01	弥生土器	壺 B3	SD303	O75 No.182~ 184-187~ 193-203	10.7~ 11.5	5.2~ 5.8	22.8	外:ヨコナデ→ハケム11~13本/cm→ミガキ→ナデ 内:ヨコナデ→オサエ→ハケム10~12本/cm→一部ケズリ	やや粗	並	にぶい橙5YR6/4他	口縁1/2 底部完形	体部に穿孔あり
486	999-01	弥生土器	壺 B3	SD303	J57		5.6		外:ハケム9本/1.4cm後工具1.6cmナデ→工具ナデ→ナデ 内:オサエ→ナデ	やや粗	並	外:にぶい褐7.5YR6/3 内:灰黄褐2.5Y7/2他	体部2/3 底部完形	外面に煤付着
487	110-02	弥生土器	壺 B3	SD303	N72 No.18・19・ 29-48				外:ハケム10本/cm→ミガキ、刺突文 内:ナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR6/4他	体部片	外面に煤付着
488	547-01	弥生土器	壺 B1	SD303	G57		(5.0)		外:ナデ→調整不明 内:ナデ、オサエ、工具痕	やや密	並	外:にぶい橙5YR6/4他 内:にぶい黄橙10YR7/3他	底部1/6	
489	110-01	弥生土器	壺	SD303	N73		4.7		外:ケズリ 内:ハケム5~6本/cm	やや粗	並	灰白10YR8/2他	底部完形	
490	135-01	弥生土器	壺 E2	SD303	N75	7.9	(4.4)	(16.6)	外:ヨコナデ→ハケム12本/1.9cm→ナデ、オサエ 内:ヨコナデ→ハケム→オサエ、ナデ→ハケム	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/4	口縁 一部欠失	内面に煤付着
491	995-01	弥生土器	壺 E2	SD303	I57	7.7	3.2	19.0	外:ヨコナデ→ミガキ 内:ヨコナデ→ナデ、工具痕→ハケム6本/cm	やや粗	並	外:橙7.5YR7/6他 内:浅黄褐2.5Y8/3他	ほぼ完形	外面に煤付着
492	116-02	弥生土器	壺 F1a	SD303	N73 No.42	11.0			外:ヨコナデ→ハケム後ヨコナデ→ハケム6本/cm 内:ヨコナデ→ナデ、オサエ	やや密	並	灰黄褐10YR6/2	口縁 ほぼ完形	
493	128-03	弥生土器	壺 F1a	SD303	N73 No.61	9.0			外:ミガキ→一部ハケム、横線文4本1段 内:ナデ、オサエ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/4	口縁2/3	
494	107-02	弥生土器	壺 E2	SD303	N74	(7.85)	4.1	15.6	外:ヨコナデ→ハケム10本/cm→ミガキ→ナデ、 横線文3段、波状文2段 内:ヨコナデ→ミガキ→オサエ→ハケム	やや粗	並	浅黄橙7.5YR8/3他	口縁1/2 底部4/5	
495	144-01	弥生土器	壺 E2	SD303	N74 No.166	(8.7)	4.6	(14.7)	外:ヨコナデ→ハケム8~9本/cm→ミガキ→ナデ 内:ヨコナデ→オサエ→ハケム8-9本/cm	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/3	口縁1/4 底部完形	体部に穿孔あり
496	148-02	弥生土器	壺 F2	SD303	No.156	(9.8)	6.6	(19.1)	外:調整不明→ナデ→ミガキ 内:調整不明→ハケム7本/cm→ナデ	やや密	並	浅黄橙10YR8/3	口縁1/4 底部完形	
497	117-01	弥生土器	壺 F2	SD303	N73-74 No.52		5.0		外:ハケム後ミガキ→未調整 内:ナデ→ハケム	やや密	並	外:にぶい橙7.5YR6/4他 内:にぶい黄橙10YR7/3	底部完形	
498	109-02	弥生土器	壺 F1a	SD303	N73-74 No.103・ 104・106・ 111~113	9.7			外:ナデ→ミガキ→調整不明、頸部に横線文 内:ナデ→ミガキ→ナデ→ハケム→ナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR7/4	口縁 ほぼ完形	
499	145-02	弥生土器	壺 F1a	SD303	O76	7.5			外:ナデ→ミガキ→ハケム 内:ナデ→オサエ→工具ナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/4他	口縁3/4	
500	142-02	弥生土器	壺 E3	SD303	O75 No.173~ 175		4.3		外:ミガキ→未調整、横線文3段、刺突文3段 内:ナデ、オサエ→工具痕	密	並	外:にぶい褐7.5YR6/3 内:灰黄褐10YR5/2	底部完形	
501	139-01	弥生土器	壺 E3	SD303	N74 No.220		3.6	体部径 14.6	外:ハケム8本/cm後ミガキ→未調整 内:オサエ、ナデ→工具ナデ	やや密	並	外:にぶい黄橙10YR7/2他 内:褐灰10YR4/1他	頸部以下 完形	
502	111-04	弥生土器	壺 G3	SD303	N73 No.118・121		(8.8)		外:ハケム後ミガキ→ナデ 内:ハケム5本/cm・10本/cm 台部にハケム	やや粗	並	外:にぶい橙5YR7/4 内:暗灰N3/0	底部1/2	六方透孔
503	150-01	弥生土器	甕 A3	SD303	N74 No.141・ 142・145・ 163・165	(17.1)			外:ヨコナデ→ハケム5本/cm、口縁端部キザミ、体部上刺突文 内:ハケム9本/2cm	やや良	良	にぶい黄橙10YR6/4	底部以外 ほぼ完形	外面に煤付着
504	141-04	弥生土器	甕 A3	SD303	N75 No.144・168	(14.4)			外:ヨコナデ後ハケム→ハケム5本/cm→調整不明、口縁端部 キザミ、体部上刺突文 内:ヨコナデ→オサエ、ナデ	やや密	並	外:黒褐5YR3/1 内:にぶい褐7.5YR6/3他	口縁2/3	
505	137-01	弥生土器	甕 A3	SD303	N74 No.126	19.5			外:ハケム後ヨコナデ→ハケム12本/1.5cm 内:ハケム後ヨコナデ→ハケム9本/cm→ナデ	やや密	並	にぶい橙7.5YR7/3	口縁2/3	
506	114-01	弥生土器	甕 A3	SD303	No.7	(20.5)			外:ヨコナデ→ハケム10本/1.4cm後ナデ 内:ヨコナデ→ハケム7本/cm後ナデ	やや粗	並	明褐灰7.5YR7/2他	口縁1/2	
507	151-01	弥生土器	甕 A1	SD303	O76 No.195・ 196・199~ 203	21.4			外:ヨコナデ→ハケム7本/cm 内:ヨコナデ→ハケム7本/cm→ハケム後ケズリ	やや良	良	橙5YR6/6	口縁3/4 体部 ほぼ完形	外面全体に煤付着
508	146-01	弥生土器	甕 A1	SD303	O76 No.205	(19.5)			外:ヨコナデ→ハケム15本/2cm 内:ヨコナデ→オサエ、ナデ→ハケム8本/cm	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/4他	口縁1/4	
509	123-01	弥生土器	甕 A1	SD303	N73 No.34・35・ 45・46・49・ 115	21.4	体部径 (23.8)		外:ヨコナデ→ハケム7本/cm→ケズリ 内:ヨコナデ→オサエ→ハケム7本/cm→ケズリ	やや粗	並	橙5YR7/6他	口縁 ~体部 ほぼ完形	外面に煤付着
510	147-01	弥生土器	甕 A1	SD303	N74 No.139-140		6.0		外:ハケム7本/cm→ナデ 内:ハケム5~6本/cm→ナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR6/4他	底部完形	外面に黒斑あり
511	124-01	弥生土器	甕 A3	SD303	N73-74 No.71・102・ 119-121	(30.0)			外:ヨコナデ→ハケム5~6本/cm、波状文4本/0.7cm 内:ヨコナデ→オサエ→ナデ	やや粗	並	外:にぶい橙5YR6/4他 内:灰褐7.5YR5/2	口縁1/4	外面に一部煤付着
512	118-03	弥生土器	甕 A1	SD303	N72 No.17	14.3~ 15.0			外:ヨコナデ→ナデ→一部ミガキ 内:ヨコナデ→オサエ、ナデ	やや粗	並	褐灰5YR5/1	口縁8/9	歪み大 外面に煤付着
513	118-02	弥生土器	甕 A1	SD303	N72 No.11・26・ 114	(20.0)			外:ヨコナデ→ハケム7本/cm 内:ヨコナデ→ケズリ	やや密	並	にぶい褐7.5YR6/3他	口縁1/2	外面に煤付着
514	127-03	弥生土器	甕 A1	SD303	N72 No.28	(16.0)			外:ナデ→ハケム8本/1.1cm 内:ハケム後ナデ→ハケム8本/1.1cm→一部ナデ	やや粗	並	灰褐7.5YR5/2	口縁1/4	
515	140-01	弥生土器	甕 A1	SD303	N75・ O75~77 No.194	(18.0)	体部径 (19.0)		外:ヨコナデ→ハケム7~8本/cm 内:ヨコナデ→ハケム→ヨコナデ→ケズリ	粗	並	にぶい橙5YR6/4他	口縁1/8 体部1/2	外面に煤付着
516	548-01	弥生土器	甕 A2	SD303	D58 E57	17.4			外:ヨコナデ→ハケム後ナデ→ハケム5本/cm 内:ヨコナデ→ハケム6~7本/cm→ケズリ	やや粗	並	外:にぶい橙5YR6/4他 内:にぶい橙7.5YR6/4他	口縁5/8	外面に煤付着 内面に炭化物付着

第28表 遺物観察表⑬

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置		法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
						口径	底径	器高						
517	994-01	弥生土器	甕 A1	SD303	I57	(16.0)	4.5	(20.0)	外:ヨコナデ→ハケメ10本/cm→未調整 内:ヨコナデ→ハケメ8本/cm・工具痕→未調整	やや粗	並	にぶい・橙7.5YR7/4	口縁1/4 底部1/2 底部完形	両面に煤付着
518	513-01	弥生土器	甕 A1	SD303	H57	19.8	6.0	26.3	外:ヨコナデ→ハケメ5~6本/cm→ナデ, 工具痕 内:ヨコナデ→ハケメ→ケズリ→ハケメ5本/cm	密	並	外:にぶい・赤褐5YR4/4他 内:灰褐5YR4/2他	ほぼ完形	外面に煤付着
519	140-03	弥生土器	甕 A1	SD303	N74 No.129	13.0			外:ヨコナデ→ハケメ6本/cm 内:ヨコナデ→ナデ	粗	並	にぶい・褐7.5YR6/3他	口縁2/3	外面に煤付着
520	145-01	弥生土器	甕 A1	SD303	O76 No.206・207	13.7			外:ヨコナデ→工具ナデ・工具痕→ハケメ 内:ヨコナデ→ケズリ	やや粗	並	にぶい・橙7.5YR7/4他	口縁5/6	
521	999-02	弥生土器	甕 A2	SD303	I-J57	13.9	5.6	(16.8)	外:ヨコナデ→ハケメ9本/1.2cm後ナデ→ナデ・工具痕 →ケズリ 内:ハケメ→ハケメ後ケズリ→ナデ	密	良	外:にぶい・褐7.5YR5/4他 内:黒褐7.5YR3/1	口縁3/4 底部3/4	外面に炭化物付着
522	116-04	弥生土器	甕 A1	SD303	N73 No.33	12.8			外:ヨコナデ→調整不明, ハケメ 内:ヨコナデ→ハケメ→工具ナデ	やや密	並	にぶい・赤褐5YR5/4	口縁 ほぼ完形	外面に煤付着
523	127-01	弥生土器	甕 A1	SD303	N73-74 No.65・68・73	14.0	5.0	15.0	外:ヨコナデ→ハケメ5本/cm 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	にぶい・橙7.5YR7/3	口縁3/4	
524	137-02	弥生土器	甕 A2	SD303	N74 No.222	(13.5)	(3.4)	(8.4)	外:調整不明→ハケメ6本/cm→ナデ 内:ハケメ6本/cm→ナデ→ケズリ	やや粗	並	にぶい・橙7.5YR7/3他	口縁小片 底部1/2	外面に煤付着
525	141-02	弥生土器	甕 A2	SD303	N74 No.124	14.8			外:ヨコナデ→ナデ→板ナデ 内:ヨコナデ→工具痕→ナデ, オサエ	密	並	外:にぶい・黄橙10YR6/3 内:にぶい・橙7.5YR6/4	口縁7/8	外面に煤付着
526	993-02	弥生土器	甕	SD303	I57	12.3			外:ヨコナデ→ハケメ5本/cm 内:ヨコナデ→オサエ	密	良	明赤褐5YR5/8	口縁1/2	
527	118-04	弥生土器	甕	SD303	N74 No.89		6.4		外:ハケメ10本/0.6cm→ヨコナデ→ナデ 内:ナデ	やや粗	並	明褐灰7.5YR7/2他	底部 ほぼ完形	
528	141-03	弥生土器	甕 A2	SD303	N74 No.223		5.2		外:調整不明→ナデ後ミガキ→オサエ 内:ナデ	密	並	にぶい・橙5YR7/4他	底部5/8	外面に煤付着
529	138-02	弥生土器	甕 A2	SD303	O76-77 No.211・213	(14.5)			外:ヨコナデ→タタキ 内:ヨコナデ後ハケメ7本/1.2cm→ナデ	やや粗	並	にぶい・橙5YR6/3	口縁1/3	外面に煤付着
530	998-01	弥生土器	甕 A2	SD303	I57	(15.0)			外:ヨコナデ→ハケメ6本/1.3cm後ヨコナデ→タタキ6本/1.9cm 内:ヨコナデ→ハケメ7本/1.5cm後ヨコナデ→ハケメ→ハケメ 後ケズリ	やや密	良	外:灰褐5YR4/2 内:黒褐5YR2/1	底部のみ 欠失	外面に煤付着
531	135-03	弥生土器	甕 F	SD303	O75 No.177	(14.8)			外:ハケメ15本/1.2cm 内:ハケメ15本/1.2cm→10本/2.0cm	やや密	良	にぶい・黄橙10YR6/4	口縁 一部	
532	141-01	弥生土器	甕 F	SD303	N74 No.138・162	11.8	3.9	9.7	外:内:ハケメ5本/cm→工具ナデ	やや密	並	にぶい・橙5YR6/4	完形	
533	130-02	弥生土器	甕 F	SD303	N74 No.E	10.4	3.6	12.5	外:調整不明一部ハケメ→ナデ 内:ハケメ	やや粗	並	にぶい・赤褐5YR5/3	口縁1/2 底部2/3	
534	542-02	弥生土器	甕 F	SD303	G57		(4.5)		外:ハケメ7本/cm→ナデ, オサエ 内:ハケメ3本/0.8cm後ナデ→オサエ	やや粗	良	灰黄褐10YR6/2	底部1/2	外面に煤付着
535	140-02	弥生土器	甕 B1	SD303	N74 No.134	(18.0)			外:ヨコナデ→ハケメ10本/0.6cm, 刺突文 内:ヨコナデ→ハケメ10本/0.8cm→ナデ	やや粗	並	にぶい・黄橙10YR6/3他	口縁1/3	外面に煤付着
536	108-04	弥生土器	甕 A2	SD303	N74	(17.0)			外:ヨコナデ→ナデ, ケズリ? 内:ヨコナデ→ナデ?	やや粗	並	橙7.5YR6/6	口縁1/4	
537	107-01	弥生土器	甕 D2	SD303	N73 No.36	(13.3)	7.8	(20.7)	外:ヨコナデ→ハケメ19~20本/2.9cm→ナデ 内:ヨコナデ→ハケメ7本/cm→ナデ 台部内:ナデ	やや粗	並	浅黄橙10YR8/3	台部完形	外面に煤付着
538	139-03	弥生土器	甕 D1	SD303	N74・75 No.128	(12.2)	5.6	13.3	外:ヨコナデ→ハケメ8本/cm→ケズリ→ナデ 内:ヨコナデ→ハケメ→オサエ→ナデ 台部内:ナデ	粗	並	外:にぶい・赤褐5YR5/4他 内:橙5YR6/6	口縁1/4 底部2/3 底部完形	外面に煤付着
539	111-02	弥生土器	甕	SD303	N74 No.94		(9.9)		外:ハケメ8本/cm→ヨコナデ→ナデ 内:ハケメ	やや粗	並	橙5YR6/6他	台部1/4	
540	153-04	弥生土器	甕	SD303	No.209		7.6		外:ハケメ後ナデ, オサエ→ヨコナデ→ナデ, オサエ 内:調整不明	粗	良	にぶい・褐7.5YR5/4	台部 ほぼ完形	
541	135-04	弥生土器	甕	SD303	O75		9.8		外:ナデ, オサエ→ハケメ10本/1.6cm→ナデ, オサエ 内:ナデ, 工具痕	やや粗	良	にぶい・黄橙10YR6/4	台部	
542	108-02	弥生土器	甕	SD303	N73・74		8.5		外:ナデ→ハケメ→ヨコナデ→ナデ 内:ナデ	粗	並	にぶい・褐7.5YR6/3他	台部3/4	
543	108-03	弥生土器	鉢 C2	SD303	N73	(8.6)			外:ヨコナデ→ナデ→ハケメ9本/cm 内:ヨコナデ→工具ナデ	やや粗	並	灰黄褐10YR5/2	口縁1/4	
544	542-04	弥生土器	鉢 C2	SD303	F57	11.6	(5.0)	9.8	外:ヨコナデ→ハケメ7本/cm後ヨコナデ→ハケメ→ナデ, オサエ 内:ハケメ後ヨコナデ→ナデ, オサエ→ハケメ9本/1.7cm	やや粗	良	にぶい・黄橙10YR7/4	ほぼ完形	外面に煤付着 底部外面に木炭痕
545	119-02	弥生土器	鉢 C2	SD303	N73 No.43・44	10.5	4.4	10.0	外:ヨコナデ→タタキ→ハケメ5本/cm→ナデ 内:ヨコナデ→オサエ→ナデ	やや密	並	にぶい・橙7.5YR7/3他	完形	外面に黒斑あり
546	113-03	弥生土器	鉢 D1	SD303	N74 No.92	(11.5)			外:ナデ→ハケメ, 刺突文2段, 横線文2段 内:ナデ→調整不明	粗	並	にぶい・黄橙10YR7/4	口縁3/8	
547	116-01	弥生土器	鉢 C3	SD303	N73 No.37	(15.8)	4.6	11.15	外:ヨコナデ→ハケメ6本/cm→ナデ, オサエ→未調整 内:ヨコナデ→ナデ→工具ナデ	やや粗	並	にぶい・橙7.5YR7/4	口縁1/3 底部完形	
548	544-02	弥生土器	鉢 B	SD303	E57	(14.0)	4.4	15.0	外:調整不明→ナデ, オサエ→ハケメ11本/1.1cm 内:調整不明→ナデ, オサエ→ハケメ11本/1.1cm	やや粗	良	にぶい・橙7.5YR6/4	口縁一部 底部完形	
549	514-01	弥生土器	鉢 G1	SD303	H57	13.6	2.5	11.0	外:ハケメ8本/1.8cm後ケズリ→ユビオサエ 内:ハケメ後ユビオサエ	やや粗	良	外:にぶい・橙7.5YR6/4他 内:にぶい・赤褐5YR5/4他	完形	両面に黒斑あり 底部に穿孔あり 外面φ2.4cm 内面φ1.4~2.0cm
550	515-01	弥生土器	鉢 C4	SD303	H57	12.6	(5.7)	(13.0)	外:ナデ→ケズリ→ハケメ6本/cm 内:ナデ→ケズリ→ハケメ4本/cm	やや粗	並	にぶい・橙7.5YR7/4他	底部以外 完形	口縁端部に注口
551	119-03	弥生土器	鉢 E3	SD303	N73・74 No.81	(14.0)	5.0	(6.65)	外:オサエ, ナデ→ハケメ6本/cm→オサエ→ナデ 内:ハケメ8本/1.9cm	やや密	並	にぶい・橙7.5YR6/4	口縁1/5 底部完形	
552	126-01	弥生土器	鉢 A1	SD303	No.15	(50.6)			外:ヨコナデ→ハケメ6本/cm, 刺突文2段 内:ヨコナデ→ハケメ6本/cm				口縁1/8	
553	122-01	弥生土器	高杯 A1	SD303	N74 No.109	25.5			外:ヨコナデ→ケズリ, 端部に沈線1本 内:ヨコナデ→ハケメ後ケズリ	やや粗	並	浅黄橙10YR8/4	口縁 ほぼ完形	
554	121-01	弥生土器	高杯 A3a	SD303	N73・74 No.57	(27.2)			外:ヨコナデ→ハケメ後ミガキ, 波状文, 帯横線文 内:ミガキ	やや粗	良	橙5YR6/6	口縁1/2	
555	115-02	弥生土器	高杯 A3a	SD303	N73・74 No.79・80・82	(20.5)			外:ヨコナデ→ミガキ, 横線文4本2段 内:ミガキ 脚部内:ナデ	やや粗	並	にぶい・黄橙10YR7/2他	口縁1/2	
556	136-02	弥生土器	高杯 A2a	SD303	N75 No.147	(23.0)			外:ヨコナデ→ミガキ→ナデ→ミガキ 内:ヨコナデ→ナデ→ミガキ	粗	良	にぶい・橙7.5YR6/4	口縁1/4	

第29表 遺物観察表⑭

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調査技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
					口径	底径	器高							
557	149-01	弥生土器	高杯 A2b	SD303	O76-77 No.208・ 212・215	26.1			外:ナデ→ミガキ、横線文5段 内:ミガキ 脚部内:ヨコナデ	やや粗	並	にぶい褐7.5YR5/4他	口縁3/4	四方透孔
558	155-01	弥生土器	高杯 A3a	SD303	O77 No.217	24.0	(17.5)	(19.4)	外:ヨコナデ→ミガキ→ハケメ後ミガキ→ヨコナデ、 横線文6本6段 内:ハケメ後ミガキ 脚部内:ナデ→ハケメ→ヨコナデ	やや密	並	橙7.5YR6/6	口縁4/5 脚部1/4	三方透孔
559	129-02	弥生土器	高杯	SD303	N73 No.69				外:ミガキ→ナデ、横線文3段 内:調整不明 脚部内:ナデ→一部ハケメ	やや粗	並	明赤褐2.5YR5/6他	柱状部	外面に朱彩
560	542-01	弥生土器	高杯	SD303	E58				外:調整不明一部ミガキ、横線文5本4段 内:ナデ→ハケメ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR7/3	柱状部	四方透孔
561	136-01	弥生土器	高杯	SD303	O76 No.197				外:ハケメミガキ、櫛描横線文3段 内:調整不明 脚部内:ナデ、オサエ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR6/4	柱状部	四方透孔
562	138-03	弥生土器	高杯	SD303	O77		(15.0)		外:ミガキ→ヨコナデ、櫛描横線文3段 内:調整不明 脚部内:ナデ→ヨコナデ	やや密	並	にぶい橙7.5YR7/4	脚部小片	五角透孔φ1.3cm
563	128-01	弥生土器	高杯	SD303	N73・74 No.67		(17.0)		外:ミガキ→ナデ、櫛描横線文5本4段 内:調整不明 脚部内:ナデ	やや密	並	にぶい黄橙10YR7/3	脚部1/2	四方透孔
564	143-02	弥生土器	高杯	SD303	N74 No.136		(14.7)		外:ミガキ→ナデ、横線文4本5段 内:ミガキ 脚部内:ナズリ→ナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/4	脚部1/3	五角透孔φ1.2cm
565	121-02	弥生土器	高杯	SD303	N73・74 No.56・86		15.2		外:ハケメミガキ、櫛描横線文3段 内:ナデ	やや粗	良	にぶい橙7.5YR7/4	底部2/3	三方透孔
566	129-01	弥生土器	高杯	SD303	N73 No.63		14.5		外:ミガキ→ハケメ、横線文3段 内:ミガキ 脚部内:ナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/3他	脚部3/4	五角透孔
567	133-03	弥生土器	高杯	SD303	A68		9.2		外:ミガキ→ヨコナデ 内:ナデ	やや粗	並	灰白10YR8/1他	脚部5/8	
568	134-02	弥生土器	高杯	SD303	O75 No.172				外:ヨコナデ→ミガキ→ナデ→ヨコナデ 内:ミガキ 脚部内:ナデ、オサエ→ヨコナデ	やや密	良	にぶい橙7.5YR7/4	杯底部 ~柱状部	
569	136-03	弥生土器	高杯	SD303	N75 No.149				外:ハケメ後ミガキ 内:ミガキ 脚部内:ナデ	やや粗	良	橙7.5YR7/6	柱状部	四方透孔
570	543-02	弥生土器	高杯	SD303	G57		16.7		外:ミガキ→ヨコナデ 内:ハケメ後ナデ	やや密	良	にぶい橙7.5YR6/4	裾部ほぼ 完形	三方透孔
571	996-01	弥生土器	高杯	SD303	J57		(14.0)		外:ミガキ→ヨコナデ 内:未調整→ナデ	やや密	良	外:橙7.5YR6/6 内:にぶい褐7.5YR6/3	脚部3/4	三方透孔 両面に黒斑あり 内面に煤付着
572	139-02	弥生土器	高杯	SD303	No.155		(18.2)		外:ミガキ→ヨコナデ 内:オサエ→ヨコナデ	やや密	並	にぶい橙7.5YR7/4他	脚部1/3	五角透孔?(三方確認)
573	117-02	弥生土器	高杯	SD303	N72 No.1~3		(17.6)		外:ハケメ本/cm後ミガキ→ヨコナデ 内:ナデ→ハケメ→ヨコナデ	やや密	並	橙7.5YR6/6他	底部1/5	四方透孔
574	120-02	弥生土器	高杯 B1	SD303	N73 No.54	(13.8)			外:ヨコナデ→ハケメ後ミガキ 内:ヨコナデ→工具ナデ	やや粗	良	外:黒7.5YR2/1 内:にぶい橙7.5YR6/4	口縁1/8 杯1/4	外面に煤付着
575	139-04	弥生土器	高杯 B2	SD303	N74 No.146	11.0			外:ヨコナデ→ミガキ 内:ヨコナデ→ハケメ→ミガキ 脚部内:ハケメ→ナデ	やや密	並	灰黄褐10YR6/2他	口縁1/10	透孔1ヶ所確認
576	134-01	弥生土器	高杯 B1	SD303	N74・O75 No.180				外:ミガキ→ハケメ10本/1.3cm→ミガキ 内:ハケメ→ナデ 脚部内:ハケメ10本/1.3cm	やや密	良	橙7.5YR6/6	1/3	三方透孔 杯部両面に煤付着
577	996-02	弥生土器	高杯 B2	SD303	J57	12.3	(12.0)	(15.7)	外:ヨコナデ→ハケメ後ミガキ→ハケメ10本/cm、工具痕 内:ヨコナデ→ハケメ後ミガキ 脚部内:ナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/4	裾部欠失 以外ほぼ 完形	三方透孔? 外面に黒斑あり
578	144-02	弥生土器	高杯 B1	SD303	N・O75 No.170・176	10.7			外:ヨコナデ→ハケメ後ミガキ→ミガキ 内:ヨコナデ→ハケメ11本/cm 脚部内:ハケメ9本/cm→ナデ	やや粗	並	橙5YR6/6	口縁5/6	脚部に貫通しない孔1ヶ所
579	152-02	弥生土器	高杯	SD303	O77 No.214 ・216		9.8		外:ミガキ、横線文14本 内:調整不明 脚部内:ナデ、オサエ→ハケメ13本/1.3cm	密	良	にぶい褐7.5YR5/4	脚部2/3	四方透孔
580	152-03	弥生土器	高杯	SD303	O76 No.204		(9.5)		外:ミガキ、横線文6本 内:調整不明 脚部内:ナデ、オサエ、工具痕→ヨコナデ	やや密	良	橙7.5YR6/6	脚部	五角透孔
581	152-01	弥生土器	高杯	SD303	N74・75 No.137				外:ミガキ一部ハケメ、横線文3本3段、12本1段、刺突文3段 内:調整不明 脚部内:ナデ、オサエ→ヨコナデ	やや密	良	橙7.5YR6/6	柱状部	三方透孔
582	108-01	弥生土器	高杯	SD303	N73・74	10.2			外:ミガキ→ヨコナデ、横線文3段 内:ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/4	底部3/4	三方透孔
583	130-01	弥生土器	高杯 C	SD303	N74 No.A	(17.0)			外:ナデ→ミガキ	やや密	並	黒褐7.5YR3/2他	口縁1/4	
584	109-03	弥生土器	器台 C1	SD303	N74 No.101	(21.4)	(15.7)	(17.3)	外:ナデ→ハケメ後ミガキ→ミガキ→ヨコナデ、口縁端部に 波状文1段、横線文4段 内:ミガキ→オサエ、ナデ→ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR6/4	口縁1/4 底部1/3	柱状部に三方透孔2段
585	997-01	弥生土器	器台 C1	SD303	K57	16.5	13.5	15.2	外:ヨコナデ→ミガキ→ヨコナデ、櫛描横線文7本/1.2cm4段 内:ヨコナデ→ナデ→未調整→オサエ→ナデ	やや粗	良	浅黄橙10YR8/3	完形	柱状部に四方透孔2段
586	106-02	弥生土器	ミチュア 土器 A1	SD303	N73 No.55		3.5		外:オサエ、ナデ→ハケメ本/cm→ナデ 内:ナデ、オサエ	やや粗	並	灰白2.5Y8/1他	底部完形	
587	136-04	弥生土器	ミチュア 土器 C3	SD303	O75 No.181	7.6	3.0	2.7	外:ヨコナデ→ミガキ、波状文4本、横線文4本 内:ヨコナデ→ミガキ	やや密	良	にぶい黄橙10YR6/4	ほぼ完形	
588	355-01	弥生土器	壺	SD12	G8	12.3	5.35	19.55	外:ハケメ→ハケメ後ミガキ→調整不明 内:ハケメ後ヨコナデ→ナデ→ハケメ	密	良	外:にぶい褐7.5YR6/3 内:にぶい褐7.5YR5/3	完形	
589	170-01	弥生土器	壺 B1	SD329	G87		5.3		外:ミガキ→ナズリ→ナデ、工具痕2ヶ所 内:ハケメ→ナデ、オサエ→ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/2他	底部完形	外面に煤付着
590	181-02	弥生土器	壺 C3	SD336	H80	(11.5)			外:ヨコナデ→ハケメ26本/cm、頸部に刺突文 内:ヨコナデ→ナデ→オサエ	やや粗	並	橙7.5YR7/6他	口縁 ~肩部	
591	181-01	弥生土器	甕 A3	SD336	H・H80	(13.0)			外:ヨコナデ→調整不明一部ミガキ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	橙7.5YR6/6他	口縁1/4	
592	181-03	弥生土器	甕 A2	SD336	H81	(15.5)			外:ヨコナデ→ハケメ 内:ヨコナデ→ハケメ→ナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/4	口縁 ~体部	
593	131-01	弥生土器	壺 A3	SZ399	N74	(23.9)			外:ナデ→ハケメ、頸部に刺突文 内:ナデ→ハケメ	やや密	並	浅黄橙7.5YR8/3	口縁1/10	
594	130-04	弥生土器	壺 D2	SZ399	N74 No.F				外:内:ナデ	やや密	並	浅黄橙10YR8/3	体部小片	体部外面に線刻亀甲
595	130-03	弥生土器	ミチュア 土器 C1	SZ399	N74	5.0	2.4	4.6	外:ヨコナデ→ハケメ5本/cm→ナデ 内:ヨコナデ→ハケメ後ミガキ	やや密	並	にぶい橙7.5YR6/3他	完形	
596	375-03	弥生土器	壺 F1	SK8	No.7・8	(13.4)			外:ヨコナデ→ミガキ 内:ヨコナデ→オサエ、ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/4他	口頸部 ~肩部	

第30表 遺物観察表(15)

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置		法量 (c m)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
						口径	底径	器高						
597	375-02	弥生土器	高杯	SK8	No.15				外:ミガキ 内:ミガキ 脚部内:ナデーヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR6/4	柱状部	
598	2178-01	木製品	農具?	SK8	No.3	最大長 39.2	最大幅 10.95	最大厚 2.9	加工痕不明瞭 遺存状況悪し 追柱目取り				破片	コナラ属
599	2177-01	木製品	農具?	SK8	No.9	最大長 26.7	最大幅 10.1	最大厚 1.6	加工痕不明瞭 遺存状況悪し 追柱目取り				小片	ツブラジイ
600	2185-02	木製品	杵	SK8	No.4	最大長 14.9	最大径 8.9		加工痕不明瞭 木材そのまま使用				先端部分	樹種不明
601	2185-01	木製品	杖状木製品	SK8	No.13	最大長 48.4	最大幅 4.0		加工痕不明瞭 木材そのまま使用				1/3?	樹種不明
602	2092-01	木製品	杖状木製品	SK8		最大長 19.9	最大径 4.1		加工痕不明瞭 木材そのまま使用				小片	樹種不明
603	2091-02	木製品	杖状木製品	SK8		最大長 35.7	最大径 2.8		加工痕不明瞭 木材そのまま使用				小片	樹種不明
604	2091-01	木製品	腸物形	SK8		最大長 30.0	最大幅 2.3	最大厚 2.0	先端部分に削痕 追柱目取り				ほぼ完形	コナラ属コナラ亜属 クスギ節
605	2220-02	木製品	結菌堅櫛	SK8		最大縦 3.3	最大横 3.8	最大厚 0.3	表面に黒漆塗布 歯部は残存せず				櫛部 一部欠失	樹種不明
606	159-01	弥生土器	高杯	SK398	N74				外:ミガキ 内:ミガキ 脚部内:工具ナデーナデ	やや密	並	灰白10YR8/1	底部1/4	三方透孔
607	944-06	土師器	杯	SB489	I11 Fit2				外:内:調整不明	やや粗	並	外:橙5YR7/6他 内:淡黄橙5YR8/4	底部1/4	
608	945-04	土師器	甕	SB492	I13 Fit1	15.7	体部径 15.5		外:ヨコナデーハケ5~6本/cm, 指圧痕→調整不明 内:ヨコナデーハケ6~9本/cm	やや密	並	外:浅黄橙10YR8/3他 内:灰白10YR8/2他	口縁2/3 体部1/4	
609	354-01	弥生土器	甕	SK27		16.2			外:ヨコナデーナデ 頸部にキザミ 内:ヨコナデーハケ4本/cm, ユビオサエ	やや密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁3/4	
610	387-02	土師器	甕	SK27	No.1	(16.0)			外:ヨコナデーナデ, ユビオサエ 内:ヨコナデー	やや密	並	外:にぶい橙7.5YR7/4 内:浅黄橙7.5YR8/6他	口縁1/2	
611	387-03	土師器	甕	SK27	J17				外:ヨコナデーハケ5本/cm 内:ヨコナデーハケ8本/cm	密	並	外:浅黄橙7.5YR8/3 内:淡黄2.5Y8/3	口縁~ 肩部小片	
612	387-04	土師器	瓶	SK27	No.4	(22.4)			外:内:ヨコナデーハケ7本/cm	密	良	外:浅黄橙7.5YR8/4 内:灰褐7.5YR6/2	口縁1/8	
613	387-01	土師器	鉢	SK27	J17	(16.0)			外:内:ヨコナデーナデ	密	良	外:浅黄橙7.5YR8/4 内:黒褐10YR3/1	口縁1/8	
614	381-04	土師器	杯	SK51	H19	(12.0)			外:ヨコナデーナデ 内:ヨコナデー	密	並	にぶい黄橙10YR7/3	口縁1/4	煤付着
615	383-01	土師器	皿	SK51	H20	21.4	13.6	2.35	外:ヨコナデーナデ, オサエ, 工具痕→ケズリ 内:ヨコナデーナデ, オサエ→ケズリ	密	良	橙5YR6/8	3/4	底部外面に線刻「J」
616	381-01	土師器	皿	SK51	H19-20	22.0	12.4	2.8	外:ヨコナデーナデ後オサエ 内:ヨコナデーナデ	密	良	橙5YR7/6	3/5	底部外面に線刻「三条J」
617	381-05	土師器	甕	SK51		(12.0)			外:ヨコナデーハケ8本/1.6cm 内:ヨコナデーナデ, 工具痕	密	良	外:にぶい橙2.5YR6/3 内:灰白10YR8/2	口縁1/3	
618	381-02	土師器	甕	SK51	H19	(21.0)			外:ヨコナデーハケ21本/2cm 内:ヨコナデーナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁1/8	
619	381-07	須恵器	杯	SK51	H20	11.5	5.0	5.3	調整不明	密	不良	灰白N8/0他	ほぼ完形	
620	381-03	須恵器	杯	SK51		13.7	8.0	4.05	外:ロクロナデーヘラ切刃 内:ロクロナデー	密	良	黄灰2.5Y6/1	底部3/5	
621	381-06	須恵器	台付杯	SK51	H19				外:ロクロナデー貼付け高台 内:ロクロナデー	密	良	黄灰2.5Y5/1	小片	
622	196-02	土師器	杯	SK396	F-G44 No.17	(10.8)			外:内:ナデ, オサエ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁1/2	
623	196-01	土師器	甕	SK396	F-G44 No.3-5~9- 12~15	(14.8)	丸底	(20.4)	外:ヨコナデーハケ9本/cm 内:ヨコナデーハケ5本/cm→工具ナデーナデ, オサエ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR6/4	口縁小片	外面に煤付着
624	198-01	土師器	甕	SK396	F-G44 No.2-5-11- 18-19-21- 24-25-29- 30	16.3	体部径 16.6	17.0	外:ヨコナデーハケ7~10本/cm 内:ヨコナデー板ナデーハケ4~5/cm後ケズリ→ナデ, オサエ	やや密	並	にぶい黄橙10YR7/3	ほぼ完形	外面に煤付着 底部外面に線刻「J」
625	197-01	土師器	甕	SK396	F-G44 No.4-16		丸底		外:ハケ9本/cm 内:ケズリ	やや密	良	浅黄2.5Y7/3	1/3	底部外面に線刻「J」
626	197-02	土師器	甕	SK396	F-G44 No.27		丸底		外:ハケ14本/1.8cm 内:ケズリ, オサエ	やや粗	良	灰白2.5Y8/2	1/3	底部外面に線刻「J」
627	197-03	土師器	甕	SK396	F-G44 No.1-22		丸底		外:ハケ6本/cm 内:ハケ後ケズリ	粗	良	淡黄2.5Y8/3	1/3	底部外面に線刻「J」
628	933-03	土師器	甕	SK446	K50	(20.0)			外:内:ヨコナデーハケ5本/cm	やや粗	良	橙5YR6/8	口縁1/4	
629	939-01	土師器	甕	SK446	K50	(19.9)			外:ヨコナデーハケ6本/cm 内:ヨコナデーナデーケズリ	やや粗	並	浅黄橙10YR8/3	口縁1/8	
630	939-02	土師器	甕	SK446	K50 No.2				外:ヨコナデーハケ4本/cm 内:ヨコナデーハケ5本/cm	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/3	1/4	
631	939-05	土師器	高杯	SK446	K50				外:ナデ 内:ナデ 脚部内:工具ナデーヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙10YR8/3	脚部2/3	
632	932-04	須恵器	杯蓋	SK446	K50	12.8		4.5	外:ロクロナデー→ロクロナデー 内:ロクロナデー	密	良	灰白N8/0他	1/4	
633	932-05	須恵器	杯蓋	SK446	K50	14.8		4.5	外:ロクロナデー→ロクロナデー 内:ロクロナデー	やや粗	不良	灰白2.5Y8/2	1/2	
634	939-03	須恵器	杯蓋	SK446	K50 No.3	(15.0)		(4.9)	外:ロクロナデー→ロクロナデー 内:ロクロナデー	やや粗	不良	灰白5Y7/1他	口縁1/5	
635	939-04	須恵器	杯蓋	SK446	K50				外:ロクロナデー→ロクロナデー 内:ロクロナデー	やや粗	並	灰白N7/0	天井部 完形	
636	933-05	須恵器	杯身	SK446	K50	10.6		3.8	外:ロクロナデーヘラ切刃 内:ロクロナデー	やや粗	良	外:灰N5/0 内:明紫灰5P7/1他	1/2	
637	933-04	須恵器	杯身	SK446	K50	10.8		4.7	外:ロクロナデー→ロクロナデー 内:ロクロナデー	密	良	外:黒2.5GY2/1他 内:灰白N8/0他	2/3	
638	2198-01	木製品	不明	SK446	K50 No.1	最大長 42.1	最大幅 8.6	最大厚 2.1						中央に穿孔 樹種不明

第31表 遺物観察表⑬

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
					口径	底径	器高							
639	344-03	土師器	皿	SE37		(18.6)	(16.3)	(2.5)	外:ヨコナデ→オサエ、ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	にぶい、橙5YR7/4	口縁1/8	
640	378-02	土師器	壺	SE37	No.26	(14.4)			外:ヨコナデ 内:ヨコナデ→ハケメ9本/1.2cm	やや密	並	淡黄2.5Y8/3	口縁1/4	
641	361-02	土師器	壺	SE37		15.8	体部径 18.0	19.5	外:ヨコナデ→ハケメ5本/cm 内:ヨコナデ→ハケメ5~7本/cm→ケズリ→工具ナデ	やや粗	並	外:にぶい、橙7.5YR7/4他 内:黒褐7.5YR3/1他	口縁2/3 体部3/4	外面に煤付着
642	2173-01	木製品	井戸枠 縦板	SE37	No.14	最大長 35.6	最大幅 4.5		杭状 先端を数回削る 木材そのまま使用				ほぼ完形	針葉樹
643	2172-04	木製品	井戸枠 縦板	SE37	No.12	最大長 39.5	最大幅 5.0		杭状 先端を数回削る 木材そのまま使用				ほぼ完形	針葉樹
644	2171-02	木製品	井戸枠 縦板	SE37	No.21	最大長 62.2	最大幅 5.1	最大厚 3.9	杭状 先端を数回削る 追柱目取り				ほぼ完形	針葉樹
645	2171-01	木製品	井戸枠 縦板	SE37	No.23	最大長 56.5	最大幅 5.0	最大厚 4.1	杭状 先端を数回削る 板目取り				ほぼ完形	針葉樹
646	2172-02	木製品	井戸枠 縦板	SE37	No.13	最大長 55.3	最大幅 4.5	最大厚 4.5	杭状 先端を数回削る 追柱目取り				ほぼ完形	針葉樹
647	2175-02	木製品	井戸枠 縦板	SE37	No.2	最大長 51.4	最大幅 3.4	最大厚 2.6	杭状 先端を数回削る 板目取り				ほぼ完形	針葉樹
648	2172-03	木製品	井戸枠 縦板	SE37	No.10	最大長 47.3	最大幅 4.5	最大厚 4.7	杭状 先端を数回削る 板目取り				ほぼ完形	針葉樹
649	2172-01	木製品	井戸枠 縦板	SE37	No.24	最大長 40.3	最大幅 8.1	最大厚 2.7	板状 加工痕不明瞭 板目取り				ほぼ完形	針葉樹
650	2186-02	木製品	井戸枠 縦板	SE37	No.6	最大長 42.0	最大幅 13.9	最大厚 3.2	板状 先端の一方で削痕 板目取り				ほぼ完形	針葉樹
651	2186-03	木製品	井戸枠 縦板	SE37	No.16	最大長 33.1	最大幅 11.0	最大厚 2.8	板状 先端の一方で削痕 板目取り				ほぼ完形	針葉樹
652	2188-02	木製品	井戸枠 縦板	SE37	No.8	最大長 35.5	最大幅 11.3	最大厚 3.1	板状 先端の一方で削痕 板目取り				ほぼ完形	針葉樹
653	2188-03	木製品	井戸枠 縦板	SE37	No.20	最大長 33.0	最大幅 4.3	最大厚 4.0	板状 先端の一方で削痕 板目取り				ほぼ完形	針葉樹
654	2187-01	木製品	井戸枠 縦板	SE37	No.9	最大長 38.0	最大幅 13.5	最大厚 2.9	板状 全面に削痕 先端腐食 一方の先端すぼむ 追柱目取り				ほぼ完形	針葉樹
655	2188-01	木製品	井戸枠 縦板	SE37	No.3	最大長 39.5	最大幅 21.4	最大厚 3.5	板状 一部に削痕 先端腐食 一方の先端すぼむ 板目取り				ほぼ完形	針葉樹
656	2175-01	木製品	井戸枠 縦板	SE37	No.15	最大長 33.4	最大幅 32.7	最大厚 3.9	板状 加工痕不明瞭 板目取り				ほぼ完形	針葉樹
657	2174-01	木製品	井戸枠 縦板	SE37	No.5	最大長 51.5	最大幅 32.7	最大厚 3.2	板状 一部に削痕 先端腐食 追柱目取り				ほぼ完形	針葉樹
658	660-01	土師器	壺	SE230	E36 No.4	15.1			外:ヨコナデ→ハケメ6~7/cm 内:ヨコナデ→ハケメ→板ナデ	やや密	並	灰白10YR8/2他	口縁2/3	
659	659-01	土師器	壺	SE230	E36 No.7・12	(13.8)			外・内:ヨコナデ→ハケメ5本/cm	やや密	並	灰白2.5Y8/2他	口縁1/6	
660	658-01	土師器	壺	SE230	E36 No.3・5・6・7・9	(15.2)	丸底	(17.3)	外:ヨコナデ→ハケメ7本/cm 内:ヨコナデ→ハケメ7~8本/cm後ケズリ	やや粗	並	明褐色7.5YR7/1他	口縁1/2	
661	657-01	土師器	壺	SE230	E36 No.3・5・7・9	13.7~ 14.0	丸底	17.1	外:ヨコナデ→ハケメ7本/cm 内:ヨコナデ→ハケメ7本/cm後ケズリ	やや粗	並	灰白2.5Y8/1他	口縁5/6	
662	658-02	土師器	壺	SE230	E36 No.3・5・7		丸底		外:ハケメ6~7本/cm 内:ハケメ6~7本/cm→ケズリ	やや密	並	淡黄5YR8/3他	1/2	
663	661-01	土師器	壺	SE230	E36 No.2・4		丸底		外:ハケメ6本/cm 内:ハケメ後ナデ	やや密	並	外:にぶい、橙7.5YR8/4 内:浅黄橙10YR8/3	1/3	外面に煤付着 体部外面に線刻「一」
664	661-02	土師器	壺	SE230	E36 No.5・7・12		丸底		外:ハケメ7~8本/cm 内:ハケメ7~8/cm→ナデ	やや密	並	外:にぶい、橙5YR6/4 内:灰黄2.5Y7/2他	1/2	体部外面に線刻「×」
665	660-02	土師器	壺	SE230	E36 No.1		丸底		外:ハケメ5本/cm 内:ナデ	やや密	並	浅黄橙10YR8/3他	1/3	底部外面に線刻「=」
666	659-02	土師器	壺	SE230	E36 No.2・5		丸底		外:ハケメ6~7本/cm 内:ケズリ後ナデ	やや粗	並	浅黄橙7.5YR8/3他	1/3	底部外面に線刻「×」
667	657-02	土師器	壺	SE230	E36		丸底		外:ハケメ8~10本/cm 内:ハケメ後ケズリ	やや密	並	にぶい、橙5YR7/4	1/3	底部に線刻「数条」
668	660-03	土師器	壺	SE230	E36 No.1・5		丸底		外:ハケメ7~9本/cm 内:ハケメ8本/cm→ナデ	やや粗	並	外:淡黄5YR8/4 内:黄灰2.5Y6/1	1/3	底部に線刻「ドーマン」
669	186-01	土師器	杯	SE362	J46 No.3	12.0		3.4	外・内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	外:にぶい、橙5YR7/4他 内:橙5YR6/6他	完形	内面に暗文 底部外面に墨書「西」
670	184-06	土師器	杯	SE362	J46	(13.2)			外・内:ヨコナデ→ナデ	密	並	橙5YR7/8	口縁1/8	
671	186-03	土師器	皿	SE362	J46 No.6				外・内:ナデ	やや密	並	外:にぶい、黄橙10YR7/3 内:にぶい、黄橙10YR7/4	底部小片	外面に線刻「×」 煤付着
672	185-02	土師器	壺	SE362	J46	(15.0)			外:ヨコナデ→ハケメ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	橙5YR7/6	口縁3/16	
673	185-04	土師器	壺	SE362	J46				外:ヨコナデ→ハケメ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	橙2.5YR7/6	口縁小片	
674	185-01	土師器	壺	SE362	J46	(24.2)			外・内:ヨコナデ→ハケメ	やや密	並	浅黄橙7.5YR8/3他	口縁部	
675	185-03	土師器	壺	SE362	J46				外:ヨコナデ→ハケメ8本/3cm 内:ヨコナデ→ハケメ 調整不明	やや粗	並	灰白10YR8/2他	体部片	
676	186-02	土師器	壺	SE362	J46 No.1		9.6		外:ハケメ3本/cm以上→ナデ 内:ハケメ5本/cm以上→ハケメ後ケズリ	密	並	にぶい、褐7.5YR5/3	底部1/3	外面に煤付着
677	234-02	土師器	壺	SE370	F43 No.26	(15.0)			外:ヨコナデ→ハケメ7本/cm 内:ヨコナデ→ハケメ6本/cm	やや密	並	浅黄橙10YR8/3	口縁 ~肩部	
678	236-02	土師器	壺	SE370	F43	(17.2)			外:ヨコナデ→ハケメ8本/cm 内:ヨコナデ→ハケメ5本/cm	密	良	にぶい、黄橙10YR7/3	口縁 一部	
679	234-01	土師器	壺	SE370	F43 No.15	13.5			外:ヨコナデ→ハケメ6本/cm→オサエ 内:ヨコナデ→ハケメ5本/cm後ナデ	やや密	並	淡黄2.5Y8/3	口縁 ~体部	
680	234-03	土師器	壺	SE370	F43	(14.0)			外:ヨコナデ→ハケメ4~5本/cm 内:ヨコナデ→ハケメ5本/cm	やや密	並	にぶい、橙7.5YR6/4	口縁 ~体部	
681	234-04	土師器	壺	SE370	F43 No.14・15		丸底		外:ハケメ7本/cm 内:ナデ	やや密	並	浅黄橙7.5YR8/4	底部	
682	235-02	土師器	壺	SE370	F43 No.2・3・5~ 7・11		丸底		外:ハケメ7本/cm 内:ハケメ→ケズリ	やや密	並	浅黄橙10YR8/3	体部 ~底部	底部外面に線刻「一」

第32表 遺物観察表①

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
					口径	底径	器高							
683	235-01	土師器	甕	SE370	F43 No.4・8・9・12・13		丸底	外:ハケメ8本/cm 内:工具ナデ	やや密	並	淡赤橙2.5YR7/4他	底部	底部外面に線刻「J」	
684	2199-01	木製品	井戸杵縦板	SE370	F43 No.28	最大長 32.0	最大幅 29.5	最大厚 3.1	板状 加工痕不明瞭 板目取り				ほぼ完形? 針葉樹	
685	2208-01	木製品	井戸杵縦板	SE370	No.31	最大長 32.1	最大幅 15.8	最大厚 4.9	板状 加工痕不明瞭 板目取り				ほぼ完形? 針葉樹	
686	2209-01	木製品	井戸杵縦板	SE370	No.30	最大長 29.8	最大幅 23.3	最大厚 4.0	板状 加工痕不明瞭 追紐目取り				ほぼ完形? 針葉樹	
687	2200-02	木製品	井戸杵縦板	SE370	F43 No.33	最大長 27.5	最大幅 14.5	最大厚 4.2	板状 加工痕不明瞭 板目取り				ほぼ完形? 針葉樹	
688	2208-02	木製品	井戸杵縦板	SE370	No.29	最大長 26.0	最大幅 31.1	最大厚 5.0	板状 加工痕不明瞭 板目取り				ほぼ完形? 針葉樹	
689	2209-02	木製品	井戸杵縦板	SE370	F43 No.36	最大長 32.0	最大幅 23.85	最大厚 4.2	板状 加工痕不明瞭 追紐目取り				ほぼ完形? 針葉樹	
690	2199-02	木製品	井戸杵縦板	SE370	F43 No.32	最大長 33.0	最大幅 32.0	最大厚 3.9	板状 加工痕不明瞭 板目取り				ほぼ完形? 針葉樹	
691	2200-01	木製品	井戸杵縦板	SE370	F43 No.35	最大長 33.0	最大幅 15.0	最大厚 4.6	板状 加工痕不明瞭 追紐目取り				ほぼ完形? 針葉樹	
692	247-01	土師器	皿	SB393	M87 Pit10	(17.2)	(11.2)	(2.1)	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ミガキ	やや粗	並	橙5YR7/6他	口縁1/4	
693	246-04	土師器	甕	SB393	M87 Pit10				丸底 外:ハケメ3本/cm→ケズリ 内:ナデ→ケズリ後ナデ	やや密	並	にぶい黄橙5YR7/4他	1/3	外面に煤付着
694	944-01	土師器	杯	SB488	I13 Pit4	(14.0)			外:ヨコナデ→オサエ、ナデ 内:ヨコナデ	やや密	並	にぶい黄橙5YR6/4他	口縁1/4	
695	944-03	土師器	杯	SB488	I13 Pit4	(13.8)			外:ヨコナデ→オサエ、ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	並	外:にぶい黄橙7.5YR7/3他 内:灰白7.5YR6/2	口縁1/6	
696	944-02	土師器	杯	SB488	J12 Pit3	(15.6)			外:ヨコナデ→オサエ、ナデ 内:ヨコナデ	やや密	並	外:灰白10YR8/2他 内:浅黄橙10YR8/3他	口縁1/8	
697	948-01	土師器	長胴甕	SB488	H13 Pit2	(24.0)			外:ヨコナデ→ハケメ2本/cm 内:ヨコナデ→工具ナデ	やや密	並	にぶい黄橙10YR7/4	口縁1/3 胴体部1/2	
698	361-01	土師器	甕	SB36	H12 Pit1 No.9	16.5	体部径 (16.3)		外:ヨコナデ→ハケメ6本/1.5cm 内:ヨコナデ→ハケメ6本/cm→ケズリ	やや密	並	にぶい黄橙5YR7/3他	口縁4/5	外面に線刻「×」 煤付着
699	345-04	ロクロ土師器	碗	SB36	H12 Pit1 No.1		(12.0)		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→ナデ 内:ロクロナデ	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/2	高台1/4	
700	405-02	土師器	皿	SB35	H14 Pit4	(15.6)		(2.1)	外:ヨコナデ→コビオサエ 内:ヨコナデ	やや密	良	淡橙5YR8/3	口縁1/8	
701	405-05	土師器	皿	SB35	G13 Pit1				外:コビオサエ 内:ナデ	密	良	橙5YR6/6	底部小片	外面に墨書「中朔月」
702	345-01	土師器	甕	SB35	H14 No.1	14.6			外:ヨコナデ→ハケメ5本/cm→オサエ 内:ヨコナデ→ハケメ5本/cm	やや粗	並	灰白10YR8/2	口縁1/2	
703	345-02	土師器	甕	SB35	H14 No.1	(14.6)			外:ヨコナデ→ハケメ4本/cm後オサエ 内:ヨコナデ→ハケメ9本/cm	やや粗	並	にぶい黄橙5YR7/4	口縁1/16	
704	404-06	土師器	杯	SB63	J21 Pit10	(13.6)	(8.4)	(2.5)	外:ヨコナデ→ナデ 内:ヨコナデ	密	良	外:橙5YR6/6 内:橙7.5YR7/6	口縁1/5	
705	404-04	土師器	皿	SB65	P17 Pit3	9.6	3.6	2.25	外:ヨコナデ→ナデ、コビオサエ 内:ヨコナデ	やや密	良	灰白10YR8/2	4/5	
706	404-03	緑釉陶器	碗	SB65	P17 Pit3		7.4		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	不良	浅黄橙7.5YR8/3	底部完形	内面に三叉トレン痕
707	249-03	土師器	皿	SB383	G83 Pit1	(9.7)		(2.15)	外:ヨコナデ→オサエ、ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	灰白10YR8/2	口縁1/6	
708	249-04	土師器	皿	SB384	H85 Pit2	(11.3)		(2.5)	外:ヨコナデ→ナデ、オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	灰白10YR8/2	口縁1/2	
709	248-02	土師器	碗	SB376	K75 Pit1	(14.8)			外:ミガキ→ケズリ 内:ミガキ	粗	良	橙7.5YR7/6	口縁1/4	
710	248-04	土師器	皿	SB378	M75 Pit1	(13.8)			外:内:ヨコナデ→ナデ	粗	良	にぶい黄橙10YR6/3	口縁小片	
711	248-01	土師器	甕	SB378	L76 Pit1	(18.8)			外:ヨコナデ→ナデ、オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	粗	良	にぶい黄橙10YR6/4	口縁1/6	
712	246-03	土師器	皿	SB391	M86 Pit1	10.2		2.5	外:オサエ、ナデ 内:ナデ	やや粗	並	灰白2.5Y7/1	口縁5/6	
713	246-05	ロクロ土師器	皿	SB391	M88 Pit2	(9.6)	(2.2)	(1.8)	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	並	浅黄橙7.5YR8/3	口縁1/3	
714	246-01	土師器	皿	SB392	L87 Pit4	13.7~ 14.1		3.4	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	灰白7.5YR8/2	口縁完形	
715	246-02	土師器	皿	SB392	L86 Pit4	(14.6)		(4.0)	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	灰白10YR8/2他	口縁1/2	
716	248-03	土師器	杯	SB394	K86 Pit1	(13.8)			外:ヨコナデ→ナデ、オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	粗	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁1/4	
717	404-01	陶器	山茶碗	SB18	F9 Pit9	(16.6)	(7.6)	(5.6)	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白7.5Y7/1	1/6	
718	404-05	土師器	皿	SB60	I24 Pit4	(11.4)	(6.1)	(1.6)	外:ヨコナデ→ナデ、オサエ 内:ヨコナデ	やや密	並	灰白2.5Y8/1	1/3	
719	405-04	土師器	皿	SB60	J24	(17.7)			外:ヨコナデ→ナデ 内:ヨコナデ→コビナデ	やや密	良	褐灰7.5YR6/1	口縁1/12	全体に煤付着
720	405-03	陶器	山茶碗	SB60	J24	(16.6)			外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	1/6	両面に自然釉
721	404-02	陶器	山茶碗	SB60	K23		(7.6)		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白2.5Y7/1	台部1/2	両面に自然釉 内面滑らか
722	247-03	陶器	山茶碗	SB381	J80 Pit4	(13.2)			外:内:ロクロナデ	やや密	良	灰白5Y8/1	口縁1/8	
723	247-04	陶器	山茶碗	SB381	J81 Pit1 No.1	(18.0)	(8.7)	(5.7)	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白N8/6	口縁1/4	輪花1ヶ所確認
724	249-01	土師器	杯	SB385	N86 Pit16	(12.7)		(2.2)	外:ヨコナデ→ナデ、オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁1/8	
725	249-05	土師器	杯	SB385	N86 Pit16				外:調整不明 内:ナデ	やや密	良	にぶい黄橙10YR7/4	底部小片	外面に線刻「田」?

第33表 遺物観察表⑩

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
					口径	底径	器高							
726	248-06	ロクロ土師器	皿	SB385	N85 Pit12		5.0	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	良	橙2.5YR7/6	底部 ほぼ完形		
727	249-02	土師器	甕	SB385	N86 Pit2	(19.2)		外:ヨコナデ→ハケ×4本/cm後ヨコナデ 内:ヨコナデ→ハケ	やや粗	良	灰白10YR8/2	口縁小片		
728	248-05	黒色土器	椀	SB385	O85 Pit1		6.8	外:ロクロナデ→貼付け高台後ナデ 内:ロクロナデ	密	良	黒5Y2/1	上部 ほぼ完形	底部外面に「線刻×」 内面滑らか	
729	249-09	土師器	杯	SB386	M85 Pit1	(13.5)		外:ヨコナデ→ナデ,オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	灰白10YR8/2	口縁1/8		
730	250-01	陶器	山茶椀	SB386	M85 Pit1	(15.8)		外・内:ロクロナデ	密	良	灰白5Y7/1	口縁小片	自然釉	
731	249-07	土製品	土鍾	SB386	M86 Pit3	最大長 3.9	最大幅 1.7	穴径 0.5	外・内:ナデ	やや密	良	灰黄褐10YR5/2	完形	重量11.27g
732	249-06	土製品	土鍾	SB386	M86 Pit3	最大長 4.7	最大幅 2.3	穴径 0.6	外・内:ナデ	やや粗	良	灰黄褐10YR5/2	完形	重量12.25g
733	249-08	土師器	皿	SB387	M86 Pit10	(10.9)			外・内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR6/3	口縁1/5	
734	250-04	土師器	杯	SB387	M86 Pit6	(12.9)		(2.5)	外:ヨコナデ→ナデ,オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁1/6	
735	250-03	土師器	甕	SB387	O85 Pit2	(18.0)			外:ヨコナデ→ハケ×5本/cm 内:ヨコナデ→ハケ×8本/cm	やや密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁小片	外面に煤付着
736	250-02	陶器	山茶椀	SB387	O85 Pit2	(14.6)			外・内:ロクロナデ	密	良	灰白10YR7/1	口縁小片	
737	247-02	土師器	杯	SB390	M86 Pit2	(13.9)		(2.5)	外:ヨコナデ→オサエ,ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	灰白2.5Y8/2	口縁1/6	
738	247-05	陶器	山茶椀	SB390	N85 Pit5			(8.5)	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白2.5Y8/1	上部1/8	
739	945-06	黒色土器	椀	SB490	I15 Pit3	(15.0)			外・内:ヨコナデ→ミガキ	密	並	外:灰白10YR8/2 内:黒2.5Y2/1	口縁1/8	
740	979-01	土師器	皿	SB490	I15 Pit1 No.3	10.7		2.3	外:ヨコナデ→未調整 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	灰白2.5Y7/2	完形	全体に黒斑あり
741	979-02	陶器	山皿	SB490	I15 Pit1 No.2	10.6	5.3	3.3	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白N8/0	口縁3/4 高台完形	自然釉 内面に重ね焼き痕
742	979-03	緑釉陶器	小壺	SB490	I15 Pit1 No.1		4.2	残存高 6.3	外・内:ロクロナデ	密	良	灰白5Y8/1	ほぼ完形	
743	350-05	土師器	皿	SK24	J15	(17.7)		(2.1)	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	並	橙5YR7/6他	口縁少量	
744	351-04	土師器	甕	SK24	J15	(12.5)			外:ヨコナデ→ハケ×6本/cm 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	にぶい橙2.5YR6/4他	口縁1/4	
745	372-01	弥生土器	壺 B1	SK42	P19		6.0	体部径 24.0	外:ミガキ→ナデ→未調整 内:オサエ→ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/4	底部完形	
746	360-01	弥生土器	壺 E1a	SK42	P19		5.6	体部径 17.8	外:ハケ×6本/cm→ナデ 内:ナデ→オサエ,ナデ→ハケ×5本/0.9cm	やや密	並	外:にぶい橙7.5YR7/他 内:にぶい黄橙10YR4/1他	底部完形 体部5/6	
747	360-02	弥生土器	甕 A2	SK42	P19	13.8	6.0	19.9	外:ヨコナデ→ハケ×8本/cm→ケズリ→ナデ→未調整 内:ヨコナデ→板ナデ,オサエ→ナデ	やや密	並	にぶい橙7.5YR7/3他	口縁3/4 底部完形	内面に炭化物付着
748	321-02	土師器	小皿	SK6		(10.2)			外:ナデ,オサエ 内:ナデ	やや粗	並	灰白2.5Y8/2	口縁1/2	
749	384-01	土師器	小皿	SK6		(10.0)		(2.05)	外・内:ヨコナデ→ナデ	密	不良	外:淡黄2.5Y8/3 内:浅黄橙10YR8/3他	1/4	外面に煤付着
750	320-02	土師器	杯	SK6	No.13	14.6	7.6	3.8	外:ヨコナデ→オサエ後ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	にぶい黄2.5Y6/3	ほぼ完形	
751	319-02	土師器	杯	SK6	H9 No.4	16.0		4.0	外:ヨコナデ→オサエ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/4	口縁1/2	
752	320-01	土師器	杯	SK6	H9 No.9	15.4		4.1	外:ヨコナデ→オサエ後ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/3	口縁1/2	
753	319-01	土師器	杯	SK6	H9 No.8	15.4			外:ヨコナデ→オサエ後ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/2	完形	
754	319-03	ロクロ土師器	椀	SK6		(16.6)	(6.6)	(4.3)	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	並	にぶい黄橙10YR7/3	1/4	
755	322-03	ロクロ土師器	椀	SK6	H9 No.5	15.0	6.0	4.0	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白10YR8/2他	1/3	
756	319-04	ロクロ土師器	椀	SK6	H9 No.1	16.4	6.9	5.5	外:ロクロナデ→高台貼付け後ヨコナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	灰白10YR8/2	口縁3/4	内面に煤付着
757	321-04	ロクロ土師器	皿	SK6		9.8	4.4	1.5	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	浅黄橙7.5YR8/4	完形	
758	321-01	ロクロ土師器	皿	SK6	H9 No.7	9.2	4.2	2.2	外:ロクロナデ→ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	灰白2.5Y8/2	1/2	
759	321-03	ロクロ土師器	皿	SK6		10.3	4.7	2.0	外:ロクロナデ→ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	並	灰白2.5Y8/2	口縁2/3	灯明皿 端部に油煙
760	321-07	ロクロ土師器	皿	SK6	H9 No.7	10.6	5.2	2.3	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	灰白2.5Y8/2他	完形	
761	322-02	ロクロ土師器	台付皿	SK6		(11.4)	(6.2)	(2.9)	外:ロクロナデ→高台貼付け後ヨコナデ→未調整 内:ロクロナデ	やや密	並	にぶい黄橙10YR7/2	1/2	底部外面に墨痕
762	384-05	ロクロ土師器	台付皿	SK6			5.6		外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	良	外:黒褐0YR3/1他 内:灰白10YR8/1	底部完形	転用現? 内面に墨付着
763	322-04	土師器	甕	SK6		16.6			外・内:ヨコナデ→未調整	やや粗	並	灰褐7.5YR5/2	口縁1/3	外面に煤付着
764	322-01	陶器	山茶椀	SK6	H9 No.14	15.8	8.3	5.3	外:ロクロナデ→高台貼付け後ヨコナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	並	黄灰2.5Y6/1	1/2	
765	384-03	陶器	山茶椀	SK6			8.0		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白N8/0	底部 ほぼ完形	底部内面滑らか 外面に自然釉
766	384-02	陶器	山茶椀	SK6	No.12		(7.6)		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白N8/0	底部1/2	内面に自然釉?
767	322-05	須恵器	甕	SK6		(26.4)			外・内:ロクロナデ	密	良	灰白10Y7/1他	口縁部片	
768	384-04	ロクロ土師器	加工円盤	SK6			7.4		外・内:ロクロナデ	密	並	外:灰黄褐10YR6/2他 内:暗灰N3/0	底部2/3	中心に穿孔あり
769	2220-01	木製品	留針	SK6		最大長 8.8	最大幅 1.1	最大厚 0.85	調整不明瞭 板目取り				完形	針葉樹

第34表 遺物観察表⑬

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
					口径	底径	器高							
770	2211-01	木製品	斎串 CV	SK6	No.16	最大長 60.0	最大幅 1.7	最大厚 1.1	切込み2ヶ所 板目取り			1/2	針葉樹	
771	393-06	土師器	杯	SK45	D20・21	(12.2)	(4.9)	(3.95)	外:ヨコナデ→ユビオサエ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	外:にぶい・橙7.5YR7/3 内:淡黄2.5Y8/3	体部1/6	
772	342-03	土師器	皿	SK45	No.19	14.4		3.2	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	灰白10YR8/2	ほぼ完形	外面に炭化物付着
773	342-04	土師器	皿	SK45	No.40	14.7		2.9	外:ヨコナデ→オサエ、ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	浅黄橙7.5YR8/3	口縁1/2	
774	391-08	土師器	皿	SK45	D20	(15.8)	(7.0)	(3.15)	外・内:ヨコナデ→ナデ	並	良	灰白10YR8/1	1/5	
775	390-04	土師器	皿	SK45		(15.4)	(7.8)	(2.8)	外:ヨコナデ→ユビオサエ 内:ヨコナデ→ナデ	粗	並	灰白10YR8/2	口縁1/4	煤付着 底部外面に黒斑あり
776	342-05	瓦器	椀	SK45	E20	(14.1)	(5.25)	(5.8)	外:ヨコナデ→オサエ、ナデ、ミガキ→高台貼付け後ナデ 内:ヨコナデ→ミガキ→ナデ	密	良	灰白7.5Y8/1他	口縁小片 高台1/4	底部内面に暗文
777	392-01	ロクロ土師器	皿	SK45	E20	(8.7)	(4.2)	(1.7)	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	並	浅黄橙7.5YR8/3	口縁1/4 底部完形	
778	349-01	ロクロ土師器	皿	SK45	No.22	8.9	4.7	2.1	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白7.5YR8/2他	ほぼ完形	
779	348-06	ロクロ土師器	皿	SK45		8.2	3.5	1.6	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白10YR8/2	ほぼ完形	
780	349-02	ロクロ土師器	皿	SK45	No.25	8.8	5.1	1.9	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白7.5YR8/2	ほぼ完形	
781	348-08	ロクロ土師器	皿	SK45	No.29	8.2	4.2	1.6	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白10YR8/2	口縁3/4 底部完形	
782	348-09	ロクロ土師器	小皿	SK45	No.20	8.9		1.4	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ、工具痕	密	良	灰白10YR8/2	口縁3/4	
783	348-07	ロクロ土師器	小皿	SK45	No.77	8.8	5.3	1.9	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白7.5YR8/2	口縁1/2 底部 ほぼ完形	
784	396-03	土師器	小皿	SK45	No.59	(8.4)		(2.2)	外・内:ヨコナデ→ナデ	密	並	外:灰白10YR8/1 内:灰白10YR8/2	口縁1/2	口縁歪み大
785	394-06	土師器	小皿	SK45	No.40	(9.6)		(1.4)	外・内:ヨコナデ→ナデ	密	良	外:灰白10YR8/2他 内:浅黄橙10YR8/3他	口縁1/4	
786	395-01	土師器	小皿	SK45	No.44	(8.6)		(1.7)	外・内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	外:浅黄橙7.5YR8/3 内:灰白10YR8/1	口縁1/4	
787	394-02	土師器	小皿	SK45	No.4	(8.9)		(1.65)	外・内:ヨコナデ→ナデ、オサエ	やや密	良	灰白2.5Y8/2	口縁1/2	
788	394-09	土師器	小皿	SK45	No.42	(9.1)		(1.7)	外・内:ヨコナデ→ナデ	密	良	外:灰白10YR7/1 内:灰白10YR8/2	口縁1/4	
789	394-03	土師器	小皿	SK45	No.10	(8.8)		(1.65)	外:ヨコナデ→ナデ、オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	外:褐灰10YR4/1他 内:黄灰2.5Y6/1	口縁1/2	
790	395-02	土師器	小皿	SK45	No.44	(8.6)		(1.8)	外・内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	外:灰白2.5Y7/1他 内:褐灰10YR6/1他	口縁1/4	
791	347-09	土師器	小皿	SK45	No.66	8.2		1.1	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁完形	
792	347-02	土師器	小皿	SK45	No.50	8.1		1.4	外・内:ヨコナデ→オサエ後ナデ	密	良	灰白10YR8/1	ほぼ完形	
793	393-04	土師器	小皿	SK45	E20	(8.5)	(3.2)	(1.3)	外・内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	灰白10YR8/1	1/4	
794	389-08	土師器	小皿	SK45		8.8		1.3	外:ヨコナデ→ユビオサエ、未調整 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	灰白2.5Y8/1	1/2	歪み大
795	348-04	土師器	小皿	SK45	No.60	8.9		1.6	外:ヨコナデ→オサエ後ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	灰白10YR7/1他	口縁5/6	
796	394-07	土師器	小皿	SK45	No.30	(8.8)		(1.3)	外・内:ヨコナデ→ナデ	密	良	外:灰白10YR8/1他 内:灰白10YR7/1他	口縁1/2	
797	390-01	土師器	小皿	SK45		(9.5)		(1.55)	外:ヨコナデ→ユビオサエ 内:ヨコナデ→ナデ	並	良	灰白10YR8/2	1/3	
798	391-06	土師器	小皿	SK45	No.72	8.3	2.2	1.45	外:ヨコナデ→ユビオサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	灰白2.5Y8/2	2/3	
799	389-01	土師器	小皿	SK45	E20	(7.3)	(1.8)	(1.3)	外:ヨコナデ→ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	灰白10YR8/1	1/3	
800	393-02	土師器	小皿	SK45	E20	(7.6)	(2.0)	(1.1)	外・内:ヨコナデ→ナデ	密	良	灰白7.5YR8/2	1/4	
801	391-04	土師器	小皿	SK45	No.63	(8.4)		(1.4)	外:ヨコナデ→ユビオサエ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	並	良	浅黄橙7.5YR8/3	1/4	
802	391-02	土師器	小皿	SK45	No.52	8.4		1.5	外:ヨコナデ→ユビオサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	灰白5YR8/1他	口縁4/5	
803	348-03	土師器	小皿	SK45	No.56	8.4		1.5	外・内:ヨコナデ→オサエ後ナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁5/6	
804	394-08	土師器	小皿	SK45	No.40	(9.0)		(1.35)	外・内:ヨコナデ→ナデ	密	良	外:灰白7.5YR8/2 内:灰白10YR8/2	口縁1/4	
805	347-04	土師器	小皿	SK45	No.50	8.8		1.5	外:ヨコナデ→オサエ後ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	灰白7.5YR8/2	口縁 ほぼ完形	
806	389-07	土師器	小皿	SK45		8.4		1.0	外:ヨコナデ→ユビオサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	にぶい・橙7.5YR7/3	1/2	歪み大
807	394-05	土師器	小皿	SK45	No.23	(8.3)		(1.3)	外:ヨコナデ→ナデ、オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁1/2	
808	394-04	土師器	小皿	SK45	No.2	(9.5)		(1.25)	外・内:ヨコナデ→ナデ	やや密	不良	外:灰白2.5Y8/2 内:褐灰10YR4/1	口縁1/2	
809	347-03	土師器	小皿	SK45	No.70	8.2		1.5	外:ヨコナデ→オサエ後ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁1/2	
810	390-02	土師器	小皿	SK45		8.4		1.65	外:強いヨコナデ→ユビオサエ、未調整 内:ヨコナデ→ナデ	粗	良	灰白2.5Y8/2	3/5	
811	393-01	土師器	小皿	SK45	E20	(7.8)	(2.0)	(1.3)	外:ヨコナデ→未調整、工具痕 内:ヨコナデ	やや粗	並	灰白10YR8/1	2/3	
812	390-03	土師器	小皿	SK45		(8.1)		(1.0)	外:ヨコナデ→未調整 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	灰白2.5Y8/2他	1/2	

第35表 遺物観察表②

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			修整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
					口径	底径	器高						
813	393-05	土師器	小皿	SK45 E20	(8.4)	(5.0)	(1.2)	外:ヨコナデーユピオサエ 内:ヨコナデーナデ	やや粗	良	にぶい・橙7.5YR7/4	1/3	
814	389-05	土師器	小皿	SK45 E21	(7.6)	(3.0)	(1.05)	外:ヨコナデー未調整 内:ヨコナデーナデ	密	不良	灰白10YR8/2	1/4	
815	392-06	土師器	小皿	SK45 E20	(9.4)	(3.0)	(1.4)	外・内:ヨコナデーナデ	やや粗	並	淡黄2.5Y8/3	1/4	
816	347-07	土師器	小皿	SK45 No.43	8.4		1.4	外:ヨコナデーオサエ 内:ヨコナデーオサエ後ナデ	密	良	灰白10YR8/1	口縁 ほぼ完形	
817	394-01	土師器	小皿	SK45 No.34	(8.4)		(1.4)	外:ヨコナデーナデ・オサエ 内:ヨコナデーナデ	やや密	良	外:灰白2.5Y8/2 内:淡黄2.5Y8/3	口縁1/2	
818	347-08	土師器	小皿	SK45 No.50	8.5		1.6	外:ヨコナデーオサエ 内:ヨコナデーオサエ後ナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁完形	
819	347-06	土師器	小皿	SK45 No.13	8.2		1.8	外:ヨコナデーオサエ 内:ヨコナデーオサエ後ナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁 ほぼ完形	
820	393-03	土師器	小皿	SK45 E20	(8.0)	(1.0)	(1.25)	外:強いヨコナデーユピオサエ 内:強いヨコナデーナデ	密	並	灰白10YR8/1	1/2	外面に黒斑あり
821	348-02	土師器	小皿	SK45 No.61	8.9		1.4	外・内:ヨコナデーオサエ後ナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁2/3	
822	392-07	土師器	小皿	SK45 E20	(9.0)	(4.6)	(1.3)	外・内:強いヨコナデーナデ	やや粗	良	灰白2.5Y8/2	口縁1/2	
823	347-05	土師器	小皿	SK45 E20・21	7.6		1.1	外・内:ヨコナデーオサエ後ナデ	密	良	灰白7.5YR8/2	口縁1/2	
824	348-05	土師器	小皿	SK45 No.19	8.0		1.1	外:ヨコナデーオサエ 内:ヨコナデーナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁 ほぼ完形	
825	391-05	土師器	小皿	SK45 No.68	(8.4)	(3.2)	(1.4)	外:強いヨコナデーユピオサエ 内:強いヨコナデーナデ	やや粗	不良	外:灰白10YR8/2 内:灰白2.5Y8/2	1/4	
826	392-05	土師器	小皿	SK45 E20	(8.4)	(6.3)	(1.05)	外・内:強いヨコナデーナデ	密	良	灰白7.5YR8/2	1/3	
827	391-03	土師器	小皿	SK45 No.63	(8.7)	(3.6)	(1.15)	外:ヨコナデーユピオサエ 内:ヨコナデーナデ	やや密	良	灰白10YR8/1	口縁1/2	
828	347-01	土師器	小皿	SK45 No.12	8.9		1.5	外・内:ヨコナデーオサエ後ナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁1/2	
829	391-07	土師器	小皿	SK45 No.78	(7.9)	(3.0)	(1.45)	外・内:ヨコナデーナデ	密	良	外:黄灰2.5Y6/1 内:灰白10YR8/1	1/4	
830	391-01	土師器	甕	SK45 No.65	(23.0)			外:ヨコナデーハケメ17本/1.6cm 内:ヨコナデー工具ナデ	並	良	灰白5Y8/1	口縁1/4	
831	343-01	土師器	甕	SK45 No.19	(19.7)	体部 (25.6)		外:ヨコナデーオサエ・ナデーケズリ 内:ヨコナデー工具ナデーケズリ	やや粗	並	にぶい・黄橙10YR7/3他	口縁1/5 体部1/6	外面に煤付着
832	349-03	陶器	山皿	SK45 No.50	9.5		3.0	外:ロクロナデー高台貼付け後ナデー糸切の痕 内:ロクロナデー	粗	良	灰白2.5Y8/1	ほぼ完形 高台1/2	高台に粗粒痕
833	348-01	陶器	山茶碗	SK45 No.1	(15.6)	5.5	(5.0)	外:ロクロナデー高台貼付け後ナデー 内:ロクロナデー	密	良	灰白2.5Y7/1	口縁1/4 高台1/2	輪花1ヶ所 歪み大
834	395-04	陶器	山茶碗	SK45 No.37	(16.6)			外・内:ロクロナデー	密	良	灰白2.5Y7/1他	口縁1/4	
835	395-05	陶器	山茶碗	SK45 No.9	(17.4)			外:ロクロナデー糸切の痕 内:ロクロナデー	密	良	外:灰白5Y7/1他 内:灰白2.5Y7/1	口縁1/6	
836	392-03	陶器	山茶碗	SK45 E20	(18.8)			外・内:ロクロナデー	密	良	灰5Y6/1	口縁1/12	
837	392-04	陶器	山茶碗	SK45 E20	(18.0)			外・内:ロクロナデー	密	良	灰白2.5Y7/1	口縁1/8	
838	342-01	陶器	山茶碗	SK45 No.2	(16.7)	(7.6)	(4.9)	外:ロクロナデー高台貼付け後ナデー糸切の痕 内:ロクロナデー	やや粗	良	灰白7.5Y8/1	口縁1/4 高台1/4	自然釉付着 重ね焼き痕
839	342-02	陶器	山茶碗	SK45 No.46	(17.0)	(8.4)	(5.25)	外:ロクロナデー高台貼付け後ナデー糸切の痕 内:ロクロナデー	やや密	良	灰白5Y8/1	口縁1/2 高台1/5	
840	396-02	陶器	山茶碗	SK45 No.49		8.0		外:ロクロナデー高台貼付け後ナデー糸切の痕 内:ロクロナデー	密	良	灰白2.5Y7/1他	底部完形	底部内面滑らか
841	396-01	陶器	山茶碗	SK45 No.48		7.6		外:ロクロナデー高台貼付け後ナデー糸切の痕 内:ロクロナデー	密	良	灰白2.5Y7/1	底部完形	高台に粗粒痕
842	343-02	瓦	平瓦	SK45 E21				凹面:布目痕。板ナデー気味のハケメ 凸面:タタキ痕。縄目 側面:へら切の	やや密	良	にぶい・橙5YR7/4	1/4	
843	393-07	土製品	製塩土器	SK45 D21				外:ナデーユピオサエ 内:ナデー	密	良	橙7.5YR7/6	小片	
844	349-05	土製品	土鐘	SK45 E21	最大長 3.5	最大幅 1.1	穴径 0.5	外:ナデー	密	良	灰白2.5Y8/2	一部欠失	重量3.84g
845	341-04	土製品	土鐘	SK45 E21	最大長 4.7	最大幅 1.4	穴径 0.5	外:ナデー	やや密	良	にぶい・橙2.5YR6/4	完形	重量6.75g
846	349-04	土製品	土鐘	SK45 No.69	最大長 6.52	最大幅 3.71	穴径 1.12	外:ナデー	やや粗	良	灰白2.5Y8/1他	一部欠失	重量8.80g
847	2210-02	木製品	杭	SK45	最大長 46.4	最大径 3.6		先端尖る 樹皮一部残 木材そのまま使用				1/2?	シキミ
848	2210-01	木製品	板状木製品	SK45 No.16	最大長 44.6	最大幅 3.6	最大厚 1.8	一部に削痕あり 板目取り				1/2?	樹種不明
849	379-02	古式土師器	高杯	SK48 H19	(16.4)			外:ヨコナデーナデ 内:ヨコナデーユピオサエ	密	不良	外:灰白10YR8/1 内:黄灰2.5Y6/1	口縁1/4	
850	379-03	土師器	甕	SK48 H19	(31.6)			外:ヨコナデーハケメ10本/1.8cm 内:ヨコナデー	やや密	良	淡黄橙7.5YR8/3	口縁1/4	内面に煤付着
851	379-04	陶器	山茶碗	SK48 H19		(7.2)		外:ロクロナデー高台貼付け後ナデー 内:ロクロナデー	密	良	灰白2.5Y8/1	底部1/3	
852	633-03	土師器	小皿	SK215 J30・31	(8.8)		(1.0)	外:ヨコナデーオサエ・ナデー 内:ヨコナデーナデ	やや粗	良	にぶい・黄橙10YR7/3	1/2	
853	634-05	土師器	小皿	SK215 J31	9.4		2.0	外:ヨコナデー調整不明一部オサエ 内:ヨコナデーナデ	粗	良	灰白2.5Y8/2	ほぼ完形	灯明皿
854	635-03	土師器	小皿	SK215 J31	9.8		1.9	外:ヨコナデーナデ・オサエ 内:ヨコナデーナデ	粗	良	にぶい・橙7.5YR7/4	ほぼ完形	
855	635-01	土師器	小皿	SK215 J31	9.6		2.3	外:ヨコナデーナデ・オサエ 内:ヨコナデーナデ	やや粗	良	淡黄橙10YR8/4	ほぼ完形	

第36表 遺物観察表②

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置		法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
						口径	底径	器高						
856	632-02	土師器	杯	SK215	J31	14.5		4.6	外:ヨコナデ→ナデ,オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/3	ほぼ完形	外面に煤付着
857	632-03	土師器	杯	SK215	J30・31	15.0		3.6	外:ヨコナデ→ナデ,オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	浅黄橙7.5YR8/3	ほぼ完形	
858	636-04	土師器	杯	SK215		(14.0)	(9.5)	(2.2)	外:内:ナデ,オサエ	粗	並	浅黄橙10YR8/3	口縁1/8	
859	635-04	ロクロ土師器	皿	SK215	J31	10.2	4.4	1.9	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	黄灰2.5Y5/1	ほぼ完形	
860	634-06	ロクロ土師器	皿	SK215	J31	10.4	5.0	1.7	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	良	浅黄橙10YR8/3	口縁1/2	
861	635-02	ロクロ土師器	皿	SK215	J31	9.7	3.6	2.05	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	良	浅黄橙7.5YR8/6	口縁3/4	
862	637-04	ロクロ土師器	皿	SK215	J31	(9.7)	(4.7)	(2.0)	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	浅黄橙7.5YR8/4他	1/4	
863	638-02	ロクロ土師器	皿	SK215	J31	(10.5)	3.7	(1.8)	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白7.5YR8/2他	口縁3/8 底部ほぼ完形	
864	638-01	ロクロ土師器	皿	SK215	J31	(10.0)	4.0	(2.0)	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	灰白10YR8/2	口縁3/8 底部ほぼ完形	
865	637-03	ロクロ土師器	皿	SK215	J31	(10.0)	4.5	(2.2)	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	並	淡黄2.5Y8/3	口縁3/16 底部ほぼ完形	
866	633-04	ロクロ土師器	皿	SK215	J31	(9.5)	(6.0)	(1.8)	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁一部 底部完形	
867	636-03	ロクロ土師器	台付皿	SK215	J31	(8.8)	(5.0)	(2.9)	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ 内:ロクロナデ	やや粗	並	外:浅黄橙7.5YR8/3他 内:明黄灰7.5YR7/2他	口縁僅か 底部1/2	
868	637-02	ロクロ土師器	台付皿	SK215	J31		(8.0)		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ 内:ロクロナデ	粗	並	浅黄橙7.5YR8/3他	底部小片	
869	636-02	ロクロ土師器	台付皿	SK215	J31		(10.3)		外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	灰白2.5Y8/2	底部1/5	
870	634-02	ロクロ土師器	椀	SK215	J31	(14.7)	(5.0)	(4.5)	調整不明 底部糸切刃痕	やや粗	良	灰白10YR8/2	口縁1/4	
871	634-04	ロクロ土師器	椀	SK215	J31	(16.8)	7.0	(4.7)	外:ロクロナデ→高台貼付け糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁一部	
872	632-04	ロクロ土師器	椀	SK215	J31	(14.8)	5.8	(5.3)	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	良	灰白10YR8/2	口縁1/3 底部完形	
873	638-04	土師器	甕	SK215	J31	(18.0)			外:ヨコナデ→ナデ,工具痕 内:ヨコナデ→ナデ,オサエ	粗	並	灰白10YR8/2他	口縁1/8	
874	634-01	陶器	山茶椀	SK215	J31	(16.8)	7.0	(6.2)	外:ロクロナデ→高台貼付け糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰黄2.5Y7/2	口縁一部 底部完形	
875	632-01	陶器	山茶椀	SK215	J31	15.2	7.0	5.7	外:ロクロナデ→高台貼付け糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白2.5Y7/1	口縁1/2	輪花3ヶ所確認
876	636-01	陶器	山茶椀	SK215	J31	(17.6)	(7.5)	(5.5)	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	外:にぶい黄橙10YR7/3 内:灰白2.5Y8/1他	口縁5/16	高台に粗粒痕 自然釉
877	637-01	陶器	山茶椀	SK215	J31		7.8		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	並	灰白2.5Y8/1他	底部完形	高台に粗粒痕
878	634-03	陶器	山皿	SK215	J30	(10.2)	4.8	2.7	外:ロクロナデ→高台貼付け糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白5Y7/1	口縁一部 底部ほぼ完形	内面に自然釉
879	633-01	陶器	山皿	SK215	J31	10.8	5.0	2.6	外:ロクロナデ→高台貼付け糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白2.5Y7/1	ほぼ完形	内面に自然釉
880	202-01	土師器	皿	SK341	L73	11.0	6.1	2.25	外:ヨコナデ→オサエ,ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	灰白10YR8/2	完形	
881	202-02	土師器	皿	SK341	M73	10.4	4.9	2.4	外:内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	浅黄2.5Y7/3	口縁3/4	
882	202-04	土師器	皿	SK341	M73	(11.0)			外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ	やや密	並	灰白10YR8/2	口縁小片	
883	202-05	土師器	皿	SK341	L73・74	(12.8)	(4.8)	(1.9)	外:ヨコナデ→オサエ,ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	浅黄橙7.5YR8/3他	口縁小片	
884	202-03	土師器	皿	SK341	L73	(13.0)			外:内:ナデ	やや密	並	にぶい黄橙10YR7/2	口縁1/4	
885	209-02	土師器	皿	SK341	L73	(15.2)			外:ヨコナデ→オサエ,ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	灰白10YR8/2	口縁1/8	
886	202-06	ロクロ土師器	台付皿	SK341	M73		7.7		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白10YR8/2	台部7/8	
887	208-07	ロクロ土師器	台付皿	SK341	L73		5.4		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→オサエ,ナデ 内:ロクロナデ	やや密	並	浅黄橙10YR8/3	高台 ほぼ完形	
888	202-08	土師器	甕	SK341	L73				外:ヨコナデ→ナデ 内:ヨコナデ→ハケメ	やや密	並	にぶい橙5YR7/4	口縁~ 肩部小片	
889	202-07	土師器	甕	SK341	L73・74				外:ヨコナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	灰白2.5YR8/2	口縁小片	
890	209-01	土師器	甕	SK341	L73	(15.8)			外:ヨコナデ→ハケメ4本/1.6cm 内:ヨコナデ→ハケメ7本/0.7cm	やや粗	並	にぶい濁7.5YR6/3	口縁1/7	外面に煤付着
891	203-03	陶器	山茶椀	SK341	M74	(16.0)			外:内:ロクロナデ	やや密	並	灰白5Y8/1	口縁1/8	
892	203-02	陶器	山茶椀	SK341	L73	(14.0)			外:内:ロクロナデ	やや密	並	灰白7.5Y7/1	口縁1/7	自然釉
893	203-01	陶器	山茶椀	SK341	M73		7.6		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白5Y7/1	底部完形	底部外面に墨書「上」
894	208-01	陶器	山茶椀	SK341	L73		8.4		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白5Y8/2	高台2/3	
895	208-05	陶器	山皿	SK341	L73	13.4	7.4	2.3	外:ロクロナデ→ロクロケズリ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白N8/0	1/4	内面に自然釉
896	204-01	瓦	平瓦	SK341	L73				凹面:布目痕 凸面:縄目痕 側面:ケズリ	やや密	並	灰白10YR8/2	1/6	
897	204-02	瓦	平瓦	SK341	L・M73				凹面:布目痕 側面:ケズリ	やや密	並	にぶい橙5YR6/4	1/6	

第37表 遺物観察表②

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置		法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
				口徑	底徑	器高	口徑	底徑						
898	199-03	弥生土器	壺	SK324	F75		5.2		外:ミガキ 内:ナデ	やや粗	並	外:灰白7.5YR8/2他 内:明褐灰7.5YR7/1	底部片	
899	200-01	弥生土器	高杯 A3a	SK324	F75	(20.1)			外:ナデ→ミガキ→ナデ→ミガキ 内:ナデ→ミガキ	やや密	並	にぶい・黄橙10YR7/2	口縁1/5	
900	200-04	弥生土器	高杯	SK324	F75				外:ハケメ12~13本/cm→ミガキ	やや粗	並	にぶい・橙5YR7/4	柱状部	四方透孔
901	201-01	弥生土器	器台	SK324	F75		(15.0)		外:ミガキ→ナデ 御描線10本・5本 内:ハケメ→ケズリ→ナデ	やや粗	並	にぶい・橙5YR7/4	台部1/3	四方透孔2段φ1.5cm
902	200-02	ロクロ土師器	皿	SK324	F75		4.2		外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	灰白10YR8/1	底部完形	
903	200-03	ロクロ土師器	加工円盤	SK324	F75				外:糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	灰白2.5YR/2	底部片	
904	199-02	陶器	山茶碗	SK324	F75	(14.2)			外・内:ロクロナデ	やや粗	良	灰白2.5YR/1	口縁1/7	
905	199-01	陶器	山茶碗	SK324	F75	16.8	8.3	4.9	外:ロクロナデ→高台貼付け→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白2.5YR/1	口縁3/4	
906	935-02	ロクロ土師器	皿	SK450	J-K49		4.5		外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白10YR8/2	底部 ほぼ完形	
907	936-06	土師器	小皿	SK450	J-K49	(9.2)			外:ヨコナデ→ナデ 内:ヨコナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁小片	
908	936-05	土師器	小皿	SK450	J-K49	(9.8)		(1.9)	外・内:ヨコナデ→ナデ,オサエ	粗	良	にぶい・黄橙10YR7/3	口縁1/2	
909	936-04	土師器	小皿	SK450	J-K49	(8.7)		(1.6)	外・内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	にぶい・黄橙10YR7/2	口縁小片	
910	936-03	土師器	小皿	SK450	J-K49	9.8		2.0	外・内:ナデ,コヒオサエ	やや粗	良	にぶい・黄橙10YR7/3	口縁 一部欠失	
911	936-02	陶器	山茶碗	SK450	J-K49		7.3		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白2.5YR/1	高台完形	内面に自然釉付着 高台に粉粒痕 底部焼き鈍れあり
912	935-03	土製品	土錘	SK450	J49	最大長 5.2	最大幅 1.55	穴径 0.4	ナデ,一部ミガキ	やや密	良	にぶい・黄橙10YR7/3	完形	重量10.47g
913	399-01	土師器	皿	SE47		(17.6)	(8.4)	(4.05)	外:ヨコナデ→ケズリ 内:ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁1/6	
914	398-05	土師器	皿	SE47		(17.8)	(10.4)	(2.6)	外:ヨコナデ→ケズリ 内:ヨコナデ	密	良	外:橙2.5YR7/6 内:浅黄橙10YR8/3	1/4	
915	398-02	土師器	皿	SE47		(16.9)	(9.9)	(3.0)	外:ヨコナデ→ケズリ 内:ヨコナデ	密	良	にぶい・橙5YR6/6	1/4	
916	400-03	土師器	皿	SE47	H19	(17.0)	(11.0)	(2.5)	外・内:ヨコナデ→ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁1/4	底部外面に線刻「一マン」
917	397-05	土師器	杯	SE47	H19	(11.6)	(3.8)	(3.2)	外:ヨコナデ→ユビオサエ→ナデ 内:ヨコナデ	密	不良	灰白10YR8/2	口縁1/4	
918	400-02	土師器	杯	SE47	G・H19	(14.6)			外・内:ヨコナデ→ナデ	密	良	橙7.5YR7/6他	口縁1/4	
919	399-04	土師器	皿	SE47					外:ケズリ 内:ナデ	密	良	にぶい・橙5YR7/4	小片	底部内面に線刻 「3本交差」
920	399-03	土師器	皿	SE47	H19	(12.8)			外・内:ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁1/6	底部内面に線刻「三条」
921	397-02	土師器	壺	SE47		(15.5)			外:ヨコナデ→ハケメ9本/1.5cm・15本/1.4cm 内:ヨコナデ→ハケメ12本/1.3cm→ケズリ	やや密	良	外:淡赤橙2.5YR7/3 内:にぶい・黄橙10YR7/2	口縁1/4	内面に煤付着
922	397-01	土師器	壺	SE47	H19	(17.8)			外:ヨコナデ→ユビオサエ→ハケメ8本/1.5cm後軽クヨコナデ 内:ヨコナデ→ハケメ4本/1.4cm後ヨコナデ	密	良	外:にぶい・橙7.5YR7/3 内:にぶい・橙7.5YR7/4	口縁1/4	
923	397-03	土師器	壺	SE47	H19	(21.8)			外:ヨコナデ→ハケメ11本/1.8cm後一部ユビオサエ 内:ヨコナデ→ハケメ6本/cm→ケズリ,工具痕	やや密	良	にぶい・橙7.5YR7/3	口縁1/8	
924	398-06	土師器	高杯	SE47	H19	(21.6)	(8.5)	(1.9)	外:ヨコナデ→ユビオサエ後ミガキ 内:ヨコナデ	密	良	橙5YR6/8	口縁1/6	
925	399-05	土製品	製塩土器	SE47	H19				ナデ	密	良	橙2.5YR6/6	口縁小片	
926	2144-01	木製品	井戸枠 縦板	SE47	No.4	最大長 60.2	最大幅 31.5	最大厚 5.6	板状 ほぼ全面に削痕 切断面明瞭 追目取り				ほぼ完形	スギ
927	2144-02	木製品	井戸枠 縦板	SE47	No.5	最大長 65.0	最大幅 38.9	最大厚 4.9	板状 一部に削痕 切断面明瞭 板目取り				ほぼ完形	スギ
928	2146-01	木製品	井戸枠 縦板	SE47	No.1	最大長 103.4	最大幅 38.9	最大厚 4.6	板状 一部に削痕 切断面明瞭 板目取り				ほぼ完形	スギ
929	2145-01	木製品	井戸枠 縦板	SE47	No.2	最大長 96.2	最大幅 37.8	最大厚 3.8	板状 ほぼ全面に削痕 切断面明瞭 追目取り				ほぼ完形	針葉樹
930	2152-01	木製品	井戸枠 縦板	SE47	No.3	最大長 66.5	最大幅 50.2	最大厚 5.7	板状 加工痕不明瞭 切断面明瞭 追目取り				ほぼ完形	スギ 931と合体
931	2150-01	木製品	井戸枠 縦板	SE47	No.3	最大長 62.0	最大幅 17.0	最大厚 4.7	板状 加工痕不明瞭 切断面明瞭 板目取り				ほぼ完形	針葉樹 930と合体
932	2125-01	木製品	井戸枠 横板	SE47	No.13	最大長 77.9	最大幅 8.4	最大厚 4.0	板状 加工痕不明瞭 切断面明瞭 板目取り				ほぼ完形	スギ
933	2125-02	木製品	井戸枠 横板	SE47	No.12	最大長 77.7	最大幅 8.0	最大厚 2.7	板状 加工痕不明瞭 切断面明瞭 板目取り				ほぼ完形	ヒノキ属
934	2126-02	木製品	井戸枠 横板	SE47	No.11	最大長 96.0	最大幅 9.7	最大厚 3.4	板状 一部に削痕 切断面明瞭 板目取り				完形	スギ
935	2126-01	木製品	井戸枠 横板	SE47	No.10	最大長 95.6	最大幅 10.8	最大厚 3.7	板状 加工痕不明瞭 切断面明瞭 板目取り				完形	スギ
936	233-01	土師器	皿	SE353	N87 No.2	14.1		1.8	外:ヨコナデ→オサエ,ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	淡橙5YR8/3	口縁1/2	底部外面に墨書「大吉」
937	233-03	土師器	杯	SE353	N87	(14.0)			外・内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	褐灰7.5YR6/1	口縁小片	
938	233-02	土師器	杯	SE353	N87	(17.0)			外・内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	にぶい・橙5YR7/4	口縁1/8	
939	230-08	土師器	杯	SE353	N87				外:ナデ,オサエ 内:ナデ	やや密	並	にぶい・橙5YR7/4	底部小片	底部両面に線刻 外面「数条」内面「一」
940	232-03	土師器	壺	SE353	N87	(18.0)			外・内:ヨコナデ→ハケメ5本/cm	やや粗	並	灰白10YR8/2	口縁1/7	
941	232-02	土師器	壺	SE353	N87	(24.0)			外:ヨコナデ→ハケメ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	淡黄橙7.5YR8/3他	口縁1/7	

第38表 遺物観察表②

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
					口径	底径	器高							
942	232-01	土師器	甕	SE353	N87	(30.2)			外:ヨコナデーハケメ5本/cm 内:ヨコナデー工具ナデ	やや密	並	灰白7.5YR8/2他	口縁1/4	
943	231-08	土製品	製塩土器	SE353	N87	(16.0)			外・内:ナデ	粗	並	にぶい橙5YR7/4	口縁1/8	
944	228-01	土製品	製塩土器	SE353	N87	(15.0)			外・内:ナデ,オサエ	粗	並	橙5YR6/6	口縁1/3	
945	228-04	土製品	製塩土器	SE353	N87	(14.5)			外・内:ナデ,オサエ	やや粗	並	にぶい橙5YR6/4他	口縁1/6	
946	228-02	土製品	製塩土器	SE353	N87	(16.5)			外・内:ナデ,オサエ	粗	並	にぶい橙5YR7/4	口縁1/3	
947	231-04	土製品	製塩土器	SE353	N87	(16.0)	(6.0)		外:ヨコナデーナデ 内:ナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/3	口縁小片	
948	233-04	土製品	製塩土器	SE353	N87	(21.0)	(23.0)	(5.5)	外・内:オサエ,ナデー未調整	やや粗	並	橙2.5YR6/6	底部1/6	
949	228-05	土製品	製塩土器	SE353	N87				外:ナデ 内:調整不明	粗	並	にぶい橙7.5YR7/4	小片	
950	229-02	土製品	製塩土器	SE353	N87				外・内:ナデ	粗	並	橙2.5YR6/6	小片	
951	228-06	土製品	製塩土器	SE353	N87				外:ナデ,オサエ 内:工具痕	やや粗	並	橙5YR7/6	小片	
952	231-05	土製品	製塩土器	SE353	N87				外・内:ナデ	粗	並	にぶい橙5YR6/4	小片	
953	229-01	土製品	製塩土器	SE353	N87				外:ナデ,オサエ 内:調整不明	やや粗	並	にぶい橙5YR7/4	小片	
954	230-03	土製品	製塩土器	SE353	N87				外・内:ナデ,オサエ	やや粗	並	橙2.5YR6/6	小片	
955	229-08	土製品	製塩土器	SE353	N87	(15.2)			外・内:ナデ	やや粗	並	橙5YR7/6	小片	底部に粉殻痕
956	229-06	土製品	製塩土器	SE353	N87	(18.0)			外・内:ナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR7/4他	小片	
957	229-07	土製品	製塩土器	SE353	N87	(16.5)			外・内:ナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR7/4	小片	
958	230-06	土製品	製塩土器	SE353	N87				外・内:ナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR6/4	小片	
959	231-01	土製品	製塩土器	SE353	N87				外:オサエ,ナデー調整不明 内:ナデ	やや粗	並	橙5YR6/6	底部小片	
960	230-04	土製品	製塩土器	SE353	N87				外・内:ナデ,オサエ	やや粗	並	にぶい橙5YR7/4	小片	
961	230-05	土製品	製塩土器	SE353	N87				外・内:ナデ,オサエ	やや粗	並	橙5YR6/6	小片	
962	2134-03	木製品	井戸枠横板	SE353	N87 No.キ	最大長 65.7	最大幅 8.5	最大厚 2.7	板状 加工痕不明瞭 柱目取り				ほぼ完形	針葉樹
963	2134-01	木製品	井戸枠横板	SE353	No.コ	最大長 66.1	最大幅 8.0	最大厚 3.1	板状 加工痕不明瞭 柱目取り				ほぼ完形	針葉樹
964	2134-02	木製品	井戸枠横板	SE353	N87 No.7	最大長 66.7	最大幅 7.4	最大厚 2.7	板状 加工痕不明瞭 柱目取り				ほぼ完形	針葉樹
965	2207-01	木製品	井戸枠横板	SE353	N87 No.カ	最大長 52.2	最大幅 6.3	最大厚 1.1	板状 加工痕不明瞭 柱目取り				小片	針葉樹
966	2205-01	木製品	井戸枠縦板	SE353	N87 No.エ	最大長 27.8	最大幅 41.5	最大厚 5.3	板状 加工痕不明瞭 追柱目取り				ほぼ完形	針葉樹
967	2204-01	木製品	井戸枠縦板	SE353	N87 No.イ	最大長 31.5	最大幅 43.6	最大厚 3.6	板状 加工痕不明瞭 追柱目取り				ほぼ完形	針葉樹
968	2229-01	木製品	曲物	SE353	N87 No.サ	最大径 43.1	最大高 14.0	最大厚 0.2	板状 加工痕不明瞭 内面縦平行と斜めのケビキ				側板のみ	針葉樹
969	210-04	土師器	杯	SE363	K47 No.5-6	(12.8)		(3.5)	外・内:ヨコナデーナデ	やや密	並	にぶい橙7.5YR7/3他	2/3	底部内面に線刻「ドマン」
970	210-07	土師器	杯	SE363	K47	(14.0)			外・内:ヨコナデーナデ	やや密	並	にぶい橙5YR7/3	口縁小片	
971	210-05	土師器	杯	SE363	K47 No.8	(11.7)			外・内:ヨコナデーナデ	やや密	並	灰褐7.5YR6/2	口縁1/4	底部内面に線刻「ドマン」
972	210-03	土師器	杯	SE363	K47 No.1-2	(12.8)			外・内:ヨコナデーナデ	やや密	並	橙5YR7/6	口縁1/4	
973	214-05	土師器	甕	SE363	K47	(18.0)			外:ヨコナデーハケメ 内:ヨコナデーナデ	やや粗	良	浅黄橙7.5YR8/3	口縁1/6	
974	210-06	土師器	甕	SE363	K47 No.4	(18.0)			外:ヨコナデーハケメ7本/cm 内:ヨコナデー工具ナデ	やや密	並	浅黄橙7.5YR8/3	口縁小片	
975	214-04	土師器	甕	SE363	K46・47	(16.0)			外:ヨコナデーハケメ 内:ヨコナデーハケメ→ナデ	やや密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁1/5	
976	214-07	土師器	甕	SE363	K47	(17.0)			外:ヨコナデーナデ 内:ヨコナデーハケメ	やや密	良	橙5YR7/6	口縁1/6	
977	210-01	土師器	甕	SE363	K47 No.7	(24.3)			外:ヨコナデーハケメ 内:ヨコナデーハケメ,調整不明	やや密	並	灰白10YR8/2	口縁1/3	
978	2191-01	木製品	井戸枠縦板	SE363 木	K46 No.5	最大長 42.0	最大幅 11.3	最大厚 1.5	表面腐食 加工痕不明瞭 板目取り				小片	針葉樹
979	2140-01	木製品	井戸枠縦板	SE363 木	K47 No.3	最大長 12.3	最大幅 12.9	最大厚 3.0	表面腐食 加工痕不明瞭 板目取り				小片	針葉樹
980	2225-01	木製品	井戸枠横板	SE363 木	K47 No.2	最大長 56.8	最大幅 12.1	最大厚 2.5	表面腐食 加工痕不明瞭 板目取り				小片	針葉樹
981	2224-01	木製品	井戸枠横板	SE363 木	K46 No.7	最大長 97.2	最大幅 13.3	最大厚 3.0	表面腐食 加工痕不明瞭 板目取り				ほぼ完形	針葉樹
982	2227-02	木製品	井戸枠横板	SE363 木	K46 No.8	最大長 98.9	最大幅 15.9	最大厚 4.3	表面腐食 加工痕不明瞭 板目取り				ほぼ完形	針葉樹
983	2224-02	木製品	井戸枠横板	SE363 木	K46 No.6	最大長 94.9	最大幅 9.4	最大厚 2.6	表面腐食 加工痕不明瞭 板目取り				ほぼ完形	針葉樹
984	986-03	土師器	杯	SE451	J48 No.4	12.4		3.1	外:ヨコナデー未調整 内:ヨコナデーナデ	やや粗	良	外:橙5YR6/6 内:にぶい黄橙10YR7/4	口縁4/5 底部2/3	肩部に黒斑あり 底部内面に線刻「放射状」
985	985-01	土師器	杯	SE451	J48	(12.0)			外:ヨコナデー未調整 内:ヨコナデーナデ	密	良	外:橙5YR7/8 内:浅黄橙7.5YR8/4	1/3	
986	987-03	土師器	杯	SE451	J48 No.9	12.0		3.4	外:ヨコナデー→コビオサエ後ヨコナデー未調整 内:ヨコナデーナデ	密	良	外:橙5YR7/8 内:浅黄橙7.5YR8/6	1/2	

第39表 遺物観察表(24)

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置		法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
						口径	底径	器高						
987	985-04	土師器	杯	SE451	J47-48	(14.0)		(3.5)	外:ヨコナデ→未調整 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	淡黄2.5Y8/3	口縁1/4	
988	986-02	土師器	杯	SE451	J48	13.0		2.4	外:ヨコナデ→未調整 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	橙5YR7/8他	3/4	
989	987-01	土師器	杯	SE451	J48 No.1	15.0		3.4	外:ヨコナデ→ナデ→未調整 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	橙5YR7/8	3/4	
990	985-02	土師器	杯	SE451	J48 No.19	(13.0)		(2.3)	外:ヨコナデ→未調整 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/6	口縁1/4	全体煤付着
991	986-01	土師器	杯	SE451	J48 No.6	(13.0)		(2.8)	外:ヨコナデ→未調整 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	外:橙5YR7/8 内:橙5YR6/8	1/3	
992	987-02	土師器	杯	SE451	J48 No.18	13.4		3.0	外:ヨコナデ→未調整 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	橙5YR7/6	ほぼ完形	
993	985-03	土師器	杯	SE451	J48 No.14	(15.0)		(3.2)	外:ヨコナデ→未調整 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	外:橙5YR6/8 内:橙5YR7/6	口縁1/4	
994	987-04	土師器	杯	SE451	J48 No.5	(16.0)		(3.4)	外:ヨコナデ→ナデ→未調整 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	橙5YR7/6	1/4	底部内面に黒斑あり
995	984-01	土師器	皿	SE451	J48 No.7	(19.0)		(2.1)	外:ヨコナデ→未調整 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	外:橙5YR7/8 内:浅黄橙7.5YR	口縁1/16	
996	984-04	土師器	甕	SE451	J48	(18.0)			外:ヨコナデ→ハケメ5本/cm 内:ヨコナデ→ハケメ6本/cm	密	良	外:灰白7.5YR8/2 内:灰白10YR8/2	口縁1/16	外面に煤付着
997	981-01	土師器	甕	SE451	J48 No.16	15.8		15.4	外:ヨコナデ→コピオサエ後ハケメ3本/cm・6本/cm 内:ヨコナデ→ナデ→コピオサエ後ハケメ→コピオサエ	密	良	灰白10YR8/2	4/5	底部外面に縞刻一
998	983-02	土師器	甕	SE451	J48	18.0			外:ヨコナデ→未調整 内:ヨコナデ→ナデ→ハケメ4本/cm	やや粗	不良	淡黄2.5Y8/3	口縁1/2	外面に黒斑あり
999	984-03	土師器	甕	SE451	J48	(18.0)			外:ヨコナデ→ハケメ5本/cm後一部ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4他	口縁1/8	
1000	982-01	土師器	鍋	SE451	J48	(30.0)			外:ヨコナデ→未調整 内:ヨコナデ→ハケメ8本/cm	やや粗	良	外:橙5YR7/6 内:浅黄橙7.5YR8/3	口縁1/3	内面に炭化物付着
1001	983-01	土師器	鍋	SE451	J48	(21.0)			外:ヨコナデ→ハケメ 内:ヨコナデ→ハケメ10本/cm	密	良	浅黄橙7.5YR8/6	1/6	内面に黒斑あり
1002	980-01	土師器	鍋	SE451	J48 No.22	25.0		16.6	外:ヨコナデ→コピオサエ後ハケメ→ケズリ→ナデ 内:ヨコナデ→コピオサエ後ハケメ	やや粗	良	浅黄橙7.5YR8/6	ほぼ完形	把手2ヶ所 胴部～底部に煤付着
1003	378-06	土師器	皿	SE54		(12.8)			外:内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	灰白2.5Y8/2	口縁1/5	
1004	378-05	土師器	皿	SE54		8.8		1.4	外:ヨコナデ→ナデ,コピオサエ 内:ヨコナデ	やや密	並	灰白2.5Y8/2	ほぼ完形	
1005	378-10	ロクロ土師器	皿	SE54	H21		5.0		外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	並	灰白2.5Y8/2	底部 ほぼ完形	
1006	378-09	ロクロ土師器	椀	SE54	H21		6.8		外:ロクロナデ→高台貼付け→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	並	灰白2.5Y8/2	底部 ほぼ完形	
1007	378-01	土師器	甕	SE54	H21	(17.0)			外:ヨコナデ→コピオサエ→ナデ 内:ヨコナデ→工具ナデ	密	良	灰白2.5YR8/1	口縁1/4	内面に煤付着
1008	378-07	陶器	山茶碗	SE54	H21		(7.0)		外:ロクロナデ→高台貼付け→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白N8/0	底部1/2	底部内面滑らか 口縁端部に輪花
1009	363-01	陶器	山茶碗	SE54		16.3	8.0	5.8	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰5Y6/1他	ほぼ完形	輪花4ヶ所
1010	2100-01	木製品	井戸枠 縦板	SE54	No.6	最大長 55.5	最大幅 29.9	最大厚 3.5	板状 加工痕不明瞭 切断面明瞭 板目取り				ほぼ完形	スギ
1011	2169-02	木製品	井戸枠 縦板	SE54	No.11	最大長 46.1	最大幅 30.1	最大厚 3.3	板状 加工痕不明瞭 切断面明瞭 板目取り				ほぼ完形	スギ
1012	2169-01	木製品	井戸枠 縦板	SE54	No.7	最大長 45.8	最大幅 30.2	最大厚 4.8	板状 加工痕不明瞭 切断面明瞭 板目取り				ほぼ完形	針葉樹
1013	2122-02	木製品	井戸枠 縦板	SE54	No.12	最大長 61.4	最大幅 21.8	最大厚 5.2	板状 加工痕不明瞭 切断面明瞭 板目取り				ほぼ完形	スギ
1014	2116-02	木製品	井戸枠 横板	SE54	No.14	最大長 85.6	最大幅 15.3	最大厚 4.2	板状 加工痕不明瞭 切断面明瞭 板目取り 転用? 納穴2ヶ所				完形	スギ
1015	2107-02	木製品	井戸枠 横板	SE54	No.2	最大長 88.5	最大幅 14.8	最大厚 5.0	板状 加工痕不明瞭 切断面明瞭 板目取り 転用? 納穴2ヶ所				完形	スギ
1016	2102-01	木製品	井戸枠 横板	SE54	No.15	最大長 115.8	最大幅 15.2	最大厚 4.9	板状 取り残された部分あり 加工痕不明瞭 板目取り 転用?				ほぼ完形	針葉樹
1017	2107-01	木製品	井戸枠 横板	SE54	No.3	最大長 95.0	最大幅 15.8	最大厚 5.0	板状 一部削痕あり 切断面明瞭 板目取り				ほぼ完形	スギ
1018	2122-01	木製品	井戸枠 横板	SE54	No.16	最大長 92.8	最大幅 17.3	最大厚 4.7	板状 加工痕不明瞭 板目取り				ほぼ完形	針葉樹
1019	2116-01	木製品	井戸枠 横板	SE54	No.4	最大長 101.5	最大幅 16.9	最大厚 4.5	板状 加工痕不明瞭 板目取り				ほぼ完形	スギ
1020	2121-02	木製品	井戸枠 横板	SE54	No.8	最大長 60.2	最大幅 4.9	最大厚 1.6	板状 加工痕不明瞭 板目取り				ほぼ完形	スギ
1021	2111-01	木製品	曲物	SE54		最大径 42.8	最大高 25.3	最大厚 0.5	薄皮綴じ 内面縦平行のケビキ				側板のみ	スギ
1022	654-07	土師器	皿	SE217	K21	(11.0)			外:ヨコナデ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	灰白7.5YR8/2他	口縁1/5	
1023	654-09	土師器	皿	SE217	K21	(10.0)		(2.1)	外:ヨコナデ→オサエ後ナデ 内:ヨコナデ→オサエ,ナデ	やや粗	並	浅黄橙10YR8/3	口縁1/10	
1024	654-02	土師器	皿	SE217	K21 No.11	10.7		2.5	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→オサエ,ナデ	やや密	並	明褐灰7.5YR7/2他	完形	
1025	654-03	土師器	皿	SE217	K21 No.10	11.3		2.3	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	灰白2.5Y7/1	口縁2/3	底部に穿孔φ0.2cm2個
1026	654-01	土師器	杯	SE217	K21	15.0~ 15.3		4.9	外:ヨコナデ→オサエ後ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	浅黄橙10YR8/2	口縁7/8	
1027	654-06	土師器	甕	SE217	K21	(17.0)			外:ヨコナデ→オサエ,ナデ 内:ヨコナデ→ハケメ5~6本/cm	やや粗	並	明褐灰7.5YR7/2他	口縁小片	
1028	654-05	土師器	甕	SE217		(20.5)			外:ヨコナデ→一部オサエ 内:ヨコナデ	やや粗	並	明褐灰5YR7/2他	口縁1/10	
1029	654-10	陶器	山茶碗	SE217	K21		7.2		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白2.5Y8/1	底部3/4	底部内面滑らか
1030	2232-01	木製品	井戸枠 横板	SE217	K21 No.8	最大長 113.6	最大幅 20.4	最大厚 5.5	加工痕不明瞭 追征目取り				ほぼ完形	スギ
1031	2128-01	木製品	井戸枠 横板	SE217	K21 No.9	最大長 115.8	最大幅 14.5	最大厚 4.8	加工痕不明瞭 追征目取り				ほぼ完形	スギ

第40表 遺物観察表②

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
					口径	底径	器高							
1032	2123-01	木製品	井戸枠横板	SE217	K21 No.7	最大長 105.7	最大幅 14.1	最大厚 5.1	加工痕不明瞭 追柱目取り 両端に切り取り部分あり			ほぼ完形	スギ	
1033	2124-01	木製品	井戸枠横板	SE217	K21 No.6	最大長 97.9	最大幅 13.2	最大厚 3.8	加工痕不明瞭 追柱目取り 両端に切り取り部分あり			ほぼ完形	スギ	
1034	2240-01	木製品	曲物	SE217	K21 No.12	最大径 47.0	最大高 32.2	最大厚 0.7	加工痕不明瞭 樺皮綴し 箍3段 添木1ヶ所挿入 内面縦方向のケビキ			ほぼ完形	スギ	
1035	653-02	ロクロ土師器	皿	SE218	J19		(6.0)		外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	灰褐7.5YR6/2	底部完形	
1036	652-06	土師器	小皿	SE218	J19	(8.0)		(1.2)	外:ヨコナデ→ナデ, オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/2	2/3	
1037	652-05	土師器	小皿	SE218	J19	(8.0)		(1.2)	外:内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	灰白2.5Y8/2	口縁1/3	
1038	652-07	土師器	小皿	SE218	J19	(8.0)		(1.6)	外:ナデ, 一部オサエ 内:ナデ	やや粗	並	灰黄2.5Y7/2他	1/2	
1039	518-01	土師器	甕	SE218	J19	(19.2)			外:ヨコナデ→コヒオサエ 内:ヨコナデ	密	良	外:淡赤橙2.5YR7/2 内:淡橙5YR8/3	1/4	
1040	516-04	陶器	山茶碗	SE218	J19 No.2	16.3	7.7	5.7	外:ロクロナデ→高台貼付け後ヨコナデ 内:ロクロナデ	密	良	外:灰白5Y7/1 内:青灰5PB6/1他	完形	輪花3ヶ所 ロクロ右回転
1041	516-02	陶器	山茶碗	SE218	J19	(16.4)	7.2	6.5	外:ロクロナデ→高台貼付け後ヨコナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	外:明青灰5PB7/1 内:青灰5PB6/1	1/4	輪花1ヶ所
1042	517-04	陶器	山茶碗	SE218	J19	(16.2)	(8.2)	5.8	外:ロクロナデ→高台貼付け後ヨコナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	良	外:明青灰5PB7/1 内:灰白2.5Y7/1	1/3	輪花1ヶ所 ロクロ左回転
1043	516-06	陶器	山茶碗	SE218	J19 No.18	(16.3)	8.8	5.3	外:ロクロナデ→高台貼付け後ヨコナデ 内:ロクロナデ	密	良	外:明黄褐10YR7/6 内:褐灰10YR6/1	1/3	
1044	516-05	陶器	山茶碗	SE218	J19 No.11	(16.3)	8.2	6.2	外:ロクロナデ→高台貼付け後ヨコナデ 内:ロクロナデ	密	良	外:黄灰2.5Y6/1 内:青灰5PB6/1	1/2	自然釉付着
1045	517-01	陶器	山茶碗	SE218	J19	(16.8)	(8.0)	5.8	外:ロクロナデ→高台貼付け後ヨコナデ 内:ロクロナデ	やや密	良	外:灰白10YR7/1 内:灰白5Y7/1	1/4	歪み大 内面に煤付着
1046	2221-01	木製品	杓子形木器	SE218	J19	最大長 26.9	最大幅 (7.6)	最大厚 0.65	加工痕不明瞭 柱目取り			2/3	樹種不明	
1047	2068-01	木製品	糸車	SE218	J19	最大長 20.5	最大幅 2.0	最大厚 1.5	加工痕不明瞭 板目あり			1/4	樹種不明	
1048	2243-01	木製品	井戸枠	SE218	J19 No.12	最大長 42.2	最大幅 63.4	最大厚 5.6	加工痕不明瞭 板目取り 木の曲線を利用?			ほぼ完形	クスノキ	
1049	2231-01	木製品	井戸枠	SE218	J19 No.1	最大長 31.3	最大幅 70.1	最大厚 2.0	加工痕不明瞭 板目取り 木の曲線を利用?			ほぼ完形	クスノキ	
1050	2234-01	木製品	曲物	SE218	J19 No.31	最大径 48.0	最大高 20.6	最大厚 0.6	加工痕不明瞭 樺皮綴し 内面縦平行のケビキ 箍2段			ほぼ完形	スギ	
1051	2233-01	木製品	曲物	SE218	J19 No.30	最大径 49.0	最大高 23.6	最大厚 0.6	加工痕不明瞭 樺皮綴し 内面縦平行のケビキ 箍1段			ほぼ完形	スギ	
1052	2143-01	木製品	井戸枠添板	SE218	J19 No.24	最大長 63.8	最大幅 4.5	最大厚 2.5	板状 加工痕不明瞭 板目取り			ほぼ完形	スギ	
1053	2089-02	木製品	井戸枠添板	SE218	J19 No.23	最大長 53.6	最大幅 7.2	最大厚 3.1	板状 加工痕不明瞭 板目取り			ほぼ完形	スギ	
1054	2088-01	木製品	井戸枠添板	SE218	J19 No.34	最大長 27.0	最大幅 5.0	最大厚 1.8	板状 加工痕不明瞭 板目取り			ほぼ完形	針葉樹	
1055	2089-01	木製品	井戸枠添板	SE218	J19 No.25	最大長 47.3	最大幅 5.9	最大厚 2.3	板状 加工痕不明瞭 板目取り			ほぼ完形	スギ	
1056	223-05	土師器	皿	SE323	F77-78 No.30	9.3		1.7	外:内:ヨコナデ→ナデ, オサエ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR7/2	完形	
1057	221-05	土師器	皿	SE323	F77-78	(8.6)			外:内:ナデ	やや粗	並	灰白10YR8/2	口縁1/4	
1058	222-01	ロクロ土師器	皿	SE323	F77	(8.8)	(4.0)	(2.35)	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	灰白10YR8/2	1/2	
1059	222-02	ロクロ土師器	皿	SE323	F77-78		4.2		外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	灰白2.5Y7/1他	底部完形	
1060	223-03	ロクロ土師器	皿	SE323	F77-78 No.7		6.0		外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	にぶい黄橙10YR7/2	底部完形	
1061	221-01	土師器	甕	SE323	F77	(22.0)			外:内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	灰黄褐10YR5/2他	口縁1/9	
1062	225-03	土師器	甕	SE323	F78	(17.6)			外:ヨコナデ→ナデ, オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁小片	
1063	225-01	土師器	甕	SE323	F78	(20.0)			外:内:ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR6/3	口縁小片	
1064	220-01	須恵器	短頸壺	SE323	F78	6.6			外:内:ロクロナデ	やや密	並	灰白2.5Y8/1	口縁完形	
1065	223-06	陶器	山茶碗	SE323	F77	(20.0)			外:内:ロクロナデ	密	良	灰白10YR7/1	口縁小片 内面に自然釉	
1066	223-04	陶器	山茶碗	SE323	F77-78 No.1		(7.3)		外:ロクロナデ→高台貼付け後糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	良	黄灰2.5Y6/1	底部1/2 輪花?	
1067	224-03	陶器	山茶碗	SE323	F78		(6.7)		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	底部1/2 底部内面滑らか	
1068	223-02	陶器	山茶碗	SE323	F77-78 No.31		6.8		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白2.5Y7/1	底部1/2 内面に自然釉 底部内面滑らか	
1069	224-06	陶器	山茶碗	SE323	F78	(8.0)			外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白2.5Y7/1	底部片 底部内面滑らか	
1070	220-04	陶器	山茶碗	SE323	F77-78		(6.4)		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	並	灰白7.5Y7/1	底部1/2 底部内面滑らか	
1071	224-01	陶器	山茶碗	SE323	F78		6.8		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白10YR7/1	底部 ほぼ完形	
1072	220-05	陶器	山茶碗	SE323	F77		(7.0)		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白7.5Y7/1	底部1/2	
1073	223-01	陶器	山皿	SE323	F77-78 No.18	11.2	6.0	3.4	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	ほぼ完形	
1074	220-02	陶器	山皿	SE323	F77	(11.0)	5.0	3.3	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白7.5Y7/1	口縁1/2 底部完形	
1075	220-03	陶器	山皿	SE323	F77-78	(10.3)	5.1	2.5	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白7.5Y7/1	口縁1/2 底部完形 自然釉	

第41表 遺物観察表②

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
					口径	底径	器高							
1076	222-05	木製品	土錘	SE323	F77-78 No.13	最大長 3.25	最大幅 1.3	穴径 0.5	外:ナデ	やや密	並	灰白10YR8/1	1/2	重量3.52g
1077	2226-01	木製品	井戸枠横棧	SE323	F77-78 No.42	最大長 73.7	最大幅 7.2	最大厚 5.6	棒状 加工痕不明瞭 板目取り					ほぼ完形 針葉樹
1078	2223-02	木製品	井戸枠横棧	SE323	F77-78 No.43	最大長 78.5	最大幅 6.7	最大厚 6.5	棒状 加工痕不明瞭 板目取り					ほぼ完形 針葉樹
1079	2193-01	木製品	井戸枠横板	SE323	F77-78 No.41	最大長 79.0	最大幅 12.5	最大厚 3.2	板状 加工痕不明瞭 柱目取り					ほぼ完形 針葉樹
1080	2190-01	木製品	井戸枠横板	SE323	F77-78 No.19	最大長 104.5	最大幅 15.3	最大厚 2.9	板状 加工痕不明瞭 板目取り					ほぼ完形 針葉樹
1081	2227-01	木製品	井戸枠横板	SE323	F77-78 No.20	最大長 101.3	最大幅 20.0	最大厚 3.1	板状 加工痕不明瞭 板目取り 納穴2ヶ所					ほぼ完形 針葉樹
1082	2223-01	木製品	井戸枠横板	SE323	F77-78 No.44	最大長 104.1	最大幅 19.1	最大厚 2.5	板状 加工痕不明瞭 板目取り 納穴2ヶ所					ほぼ完形 針葉樹
1083	2192-01	木製品	井戸枠縦板	SE323	F77-78 No.36	最大長 37.5	最大幅 13.75	最大厚 1.4	板状 加工痕不明瞭 板目取り					小片 針葉樹
1084	2195-01	木製品	井戸枠縦板	SE323	F77-78 No.33	最大長 30.0	最大幅 12.2	最大厚 2.4	板状 加工痕不明瞭 板目取り					小片 針葉樹
1085	2194-01	木製品	井戸枠縦板	SE323	F77-78 No.32	最大長 32.7	最大幅 10.0	最大厚 2.4	板状 加工痕不明瞭 板目取り					小片 針葉樹
1086	2196-01	木製品	井戸枠縦板	SE323	F77-78 No.34	最大長 32.9	最大幅 14.3	最大厚 2.2	板状 加工痕不明瞭 板目取り					小片 針葉樹
1087	2197-01	木製品	井戸枠縦板	SE323	F77-78 No.37	最大長 37.6	最大幅 13.0	最大厚 2.2	板状 加工痕不明瞭 板目取り					小片 針葉樹
1088	2226-02	木製品	井戸枠縦板	SE323	F77-78 No.38	最大長 54.5	最大幅 10.6	最大厚 1.8	板状 加工痕不明瞭 板目取り					小片 針葉樹
1089	2225-02	木製品	井戸枠縦板	SE323	F77-78 No.35	最大長 56.0	最大幅 11.8	最大厚 2.2	板状 加工痕不明瞭 板目取り					小片 針葉樹
1090	2241-01	木製品	曲物	SE323	F77-78 No.54	最大径 41.4	最大高 25.5	最大厚 0.5	加工痕不明瞭 内面縦平行のケビキ 籾2段					ほぼ完形 針葉樹
1091	226-05	土師器	杯	SE337	H80	(10.0)		2.3~3.0	外:ヨコナデ→オサエ内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	淡黄2.5Y8/3	口縁1/4	
1092	226-06	土師器	皿	SE337	H80	(13.5)			外:ヨコナデ→オサエ内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	灰白10YR8/2	口縁1/5	
1093	226-04	土師器	皿	SE337	H80	10.3		2.0	外:ヨコナデ→オサエ内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	外:灰白2.5Y8/2内:にぶい黄橙10YR7/2	ほぼ完形	
1094	226-03	土師器	皿	SE337	H80	(10.9)		(2.0)	外:ヨコナデ→オサエ内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	灰黄2.5Y7/2他	口縁1/2	
1095	227-04	ロクロ土師器	台付皿	SE337	H80	9.7	5.1	2.8	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切の痕内:ロクロナデ	密	並	浅黄橙10YR8/3	口縁2/3高台5/6	
1096	226-02	陶器	山茶碗	SE337	H80 No.1	(15.2)	7.8	6.7	外:ロクロナデ内:ロクロナデ→ナデ	密	良	灰白N8/0	口縁1/4高台2/3	
1097	226-01	陶器	山茶碗	SE337	H80	(14.5)	7.5	5.15	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切の痕内:ロクロナデ	やや密	良	灰白7.5Y7/1	口縁1/2高台完形	
1098	2222-01	木製品	井戸枠横板	SE337	No.2	最大長 65.6	最大幅 14.5	最大厚 1.5	板状 加工痕不明瞭 板目取り					破片 針葉樹
1099	2191-02	木製品	井戸枠横板	SE337	H80 No.7	最大長 50.2	最大幅 18.8	最大厚 1.4	板状 加工痕不明瞭 板目取り					破片 針葉樹
1100	2238-01	木製品	曲物	SE337	H80 No.14	最大径 46.2	最大高 19.1	最大厚 0.5	加工痕不明瞭 椀皮綴じ 内面縦平行のケビキ					側板のみ 針葉樹
1101	2228-01	木製品	曲物	SE337	H80 No.13	最大径 71.1	最大高 34.2	最大厚 0.9	加工痕不明瞭 椀皮綴じ 内面縦平行のケビキ					側板のみ 針葉樹
1102	2096-01	木製品	横筋	SE337	H80 No.10	最大長 3.4	最大幅 6.0	最大厚 0.9	挽磨				1/3	樹種不明
1103	2136-01	木製品	杭	SE337	H80 No.8	最大長 31.7	最大径 3.5		先端尖る 樹皮の痕跡あり 木をそのまま使用					小片 樹種不明
1104	216-04	土師器	皿	SE345	184 No.33	10.1~10.4		3.5	外:ヨコナデ→オサエ後ナデ内:ヨコナデ→工具ナデ	やや密	並	灰白2.5Y8/1他	ほぼ完形	内面に煤付着?
1105	215-03	ロクロ土師器	皿	SE345	H83 No.10		5.4		外:ロクロナデ→糸切の痕内:ロクロナデ	やや粗	並	浅黄橙7.5YR8/3	底部1/2	
1106	215-04	ロクロ土師器	皿	SE345	H83 No.27		4.4		外:ロクロナデ→糸切の痕内:ロクロナデ	やや密	不	灰白	底部完形	
1107	216-03	ロクロ土師器	碗	SE345	H83	(14.0)			外:内:ロクロナデ	やや密	並	灰白2.5Y8/2他	口縁1/6	
1108	216-06	ロクロ土師器	碗	SE345	184 No.35		6.4		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切の痕内:ロクロナデ	やや密	不	にぶい黄橙10YR7/2	底部完形	
1109	215-01	土師器	瓊	SE345	H83 No.3~6・8・13・16・17	(27.8)			外:ヨコナデ→オサエ、ナデ内:ヨコナデ→ハケメ5本/2cm→工具ナデ→ケズリ	やや粗	並	灰白10YR8/2	口縁1/3	外面に煤付着
1110	216-07	陶器	山茶碗	SE345	H83 No.1		(7.3)		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切の痕内:ロクロナデ	やや密	良	灰白2.5Y8/1	底部1/2	
1111	216-05	陶器	山茶碗	SE345	184 No.34		6.5		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切の痕内:ロクロナデ	やや密	良	灰白2.5Y8/1	底部完形	内面に自然釉
1112	2142-01	木製品	井戸枠縦板	SE345	No.26	最大長 36.6	最大幅 7.7	最大厚 1.6	板状 加工痕不明瞭 柱目取り					小片 針葉樹
1113	2203-02	木製品	井戸枠縦板	SE345	184 No.37	最大長 17.2	最大幅 13.1	最大厚 3.1	板状 加工痕不明瞭 柱目取り					小片 針葉樹
1114	2203-01	木製品	井戸枠横棧	SE345	H83 No.39	最大長 56.8	最大幅 4.7	最大厚 1.3	板状 加工痕不明瞭 柱目取り					小片 針葉樹
1115	2239-01	木製品	曲物	SE345	H83 No.45	最大径 45.0	最大高 25.5	最大厚 0.5	加工痕不明瞭 内面縦平行のケビキ					側板のみ 針葉樹
1116	2237-01	木製品	曲物	SE345	H83 No.44	最大径 52.9	最大高 26.2	最大厚 0.7	加工痕不明瞭 内面縦平行のケビキ				2/3	針葉樹
1117	213-04	土師器	皿	SE357	N90 No.4	9.5		2.2	外:内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	灰白5Y8/2	完形	
1118	213-03	土師器	皿	SE357	N90 No.1	9.2		2.1	外:ヨコナデ→ナデ、オサエ内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	灰白5Y8/1	完形	
1119	213-01	ロクロ土師器	皿	SE357	N90 No.5	9.6	4.3	1.7	外:ヨコナデ→ロクロナデ→糸切の痕内:ヨコナデ→ロクロナデ	密	良	灰白5Y8/2	完形	

第42表 遺物観察表(2)

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置		量量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
						口径	底径	器高						
1120	213-02	ロクロ土師器	皿	SE357	N90 No.2	10.2	4.8	2.0	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	良	灰白2.5Y8/2	完形	
1121	213-05	ロクロ土師器	皿	SE357	N90 No.7	9.1	3.9	2.2	外:ヨコナデ→ロクロナデ→糸切刃痕 内:ヨコナデ→ロクロナデ	やや密	良	灰黄褐10YR4/2他	完形	
1122	213-06	ロクロ土師器	台付皿	SE357	N90	9.2	4.8	2.8	外:ロクロナデ→貼付け高台 内:ロクロナデ	やや粗	良	淡黄5Y8/3他	完形	
1123	214-06	土師器	甕	SE357	N89	(14.8)			外:内:ヨコナデ	やや粗	良	外:にぶい橙5YR7/3 内:褐灰5YR4/1	口縁1/8	
1124	213-07	陶器	山茶碗	SE357	N89		5.6		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰5Y6/1	底部完形	
1125	214-02	陶器	山茶碗	SE357	N89		7.0		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰5Y6/1	底部1/4	
1126	2096-03	木製品	横櫛	SE357	N90 No.3	最大長 7.6	最大幅 5.0	最大厚 1.0	挽櫛				1/2	樹種不明
1127	2134-04	木製品	井戸杵横棧?	SE357	N89 No.ウ	最大長 67.1	最大幅 6.6	最大厚 3.6	板状 加工痕不明瞭 柱目取り				小片	針葉樹
1128	2206-01	木製品	井戸杵横棧?	SE357	N90 No.6	最大長 57.9	最大幅 8.3	最大厚 2.4	板状 加工痕不明瞭 柱目取り				小片	針葉樹
1129	2230-01	木製品	曲物	SE357	No.10	最大径 62.0	最大高 35.4	最大厚 0.6	加工痕不明瞭 内面縦平行のケビキ				側板のみ	針葉樹
1130	211-03	土師器	杯	SE358	D41-42	(11.6)			外:内:ナデ、調整不明	やや密	良	明赤褐5YR5/6	口縁小片	
1131	212-01	土師器	甕	SE358	D41-42	(35.0)			外:内:ヨコナデ、調整不明	やや粗	良	浅黄橙10YR8/3	口縁小片	
1132	212-02	土師器	甕	SE358	D41-42	(29.0)			外:ヨコナデ→ハケメ 内:ヨコナデ	やや粗	良	浅黄橙7.5YR8/4	口縁小片	
1133	212-03	土師器	瓶	SE358	D41-42		(17.0)		外:内:工具ナデ	粗	良	にぶい黄橙10YR7/4	底部小片	
1134	212-05	陶器		SE358	D41-42		(16.0)		外:ロクロナデ 内:ナデ	やや密	良	灰白10YR7/1	底部小片	内面に自然釉
1135	212-04	土製品	製塩土器	SE358	D41-42				外:内:ナデ	粗	良	にぶい黄橙10YR7/4	底部小片	
1136	211-05	土製品	土鐘	SE358	D41-42	最大長 5.6	最大幅 2.3	穴径 0.8	外:ナデ	やや密	良	浅黄橙10YR8/3	ほぼ完形	重量27.58g
1137	2141-01	木製品	井戸杵縦板?	SE358	D43 No.10	最大長 14.8	最大幅 22.3	最大厚 3.15	加工痕不明瞭 板目取り				小片	針葉樹
1138	2160-01	木製品	井戸杵縦板?	SE358	D43 No.12	最大長 63.3	最大幅 18.0	最大厚 3.8	加工痕不明瞭 板目取り				1/3?	針葉樹
1139	2096-02	木製品	横櫛	SE358	D43 No.13	最大長 6.5	最大幅 4.2	最大厚 4.8	挽櫛				1/3	樹種不明
1140	356-01	弥生土器	壺 C2	SD21	L16		5.1		外:ハケメ6本/cm→ナデ 内:ハケメ4本/cm	密	良	外:褐7.5YR4/3 内:明赤褐5YR5/6	底部完形	底部に木葉痕
1141	350-02	須恵器	杯	SD21	J12	(13.7)	(11.7)	(3.45)	外:内:ロクロナデ?	密	良	灰白N8/0他	底部1/4	
1142	351-03	土師器	甕	SD21	J12	(21.3)	体部径 (21.2)		外:ヨコナデ→ハケメ5本/cm後ナデ→コビオサエ 内:ヨコナデ→ハケメ14本/cm	密	並	浅黄橙7.5YR8/6他	口縁1/5	
1143	353-01	土師器	皿	SD28	L17	(18.0)		(2.7)	外:内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	橙5YR6/6	口縁1/4	内面に暗文か
1144	354-02	土製品	製塩土器	SD28	J19	(15.0)			外:オサエ、ナデ→未調整 内:オサエ、ナデ→ハケメ	やや密	並	にぶい橙7.5YR7/4	底部小片	
1145	344-04	土師器	杯	SD39	N14	(14.6)		(2.5)	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	灰白7.5YR8/2	口縁3/8	
1146	330-02	土師器	長胴甕	SD4	J17	(20.0)			外:ヨコナデ→ハケメ5本/cm 内:ヨコナデ→ハケメ8本/cm	やや粗	並	浅黄橙7.5YR8/3他	口縁1/4	
1147	327-03	土師器	長胴甕	SD4	J18	(24.4)			外:ヨコナデ→ハケメ6本/cm 内:ヨコナデ→ハケメ7本/cm	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/4	口縁1/5	
1148	325-05	土師器	高杯	SD4	I・J19	(15.7)		残存高 (3.6)	外:ヨコナデ→ケズリ後ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	にぶい橙5YR7/4他	杯部	
1149	327-01	土師器	高杯	SD4	I23	(19.2)			外:ヨコナデ→ミガキ 内:ヨコナデ→ナデ	密	並	浅黄橙10YR8/4	口縁1/3	
1150	413-01	土製品	甕	SD4	J19				外:ハケメ5本/cm後ナデ 内:ハケメ13本/cm	やや粗	不良	外:灰白2.5Y8/1 内:にぶい橙7.5YR7/4	小片	甕中央のひさしの一部
1151	330-03	須恵器	杯	SD4	J20	(12.7)	(10.2)	(3.8)	外:ロクロナデ→ナデ→ロクロケズリ 内:ロクロナデ	密	良	灰白7.5Y7/1	口縁1/3	
1152	330-06	須恵器	台付皿	SD4	H24	(23.1)	(14.3)	(4.5)	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ 内:ロクロナデ	密	並	灰白2.5Y8/1	1/4	
1153	329-03	須恵器	長頸壺	SD4	J19	(10.8)			外:内:ロクロナデ	密	良	灰白7.5Y7/1他	1/2	自然釉
1154	331-02	須恵器	長頸壺	SD4	J20		8.7		外:ロクロナデ→ケズリ→高台貼付け後ヨコナデ→未調整 内:ロクロナデ→未調整	やや密	並	赤灰10R6/1他	高台 ほぼ完形	
1155	408-02	土師器	皿	SD4	I22	(18.0)		(2.6)	外:ヨコナデ→ケズリ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	橙5YR7/6	口縁1/8	
1156	412-02	土師器	皿	SD4	J19	(22.0)			外:ヨコナデ→ケズリ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	外:にぶい橙5YR7/4 内:橙5YR7/6	口縁1/6	
1157	327-02	土師器	皿	SD4	J17	17.3	10.0	2.3	外:内:ヨコナデ→ナデ	密	並	橙7.5YR7/6	口縁1/2	
1158	411-05	土師器	皿	SD4		(21.8)			外:ヨコナデ→ナデ、オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/3	口縁1/8	
1159	411-01	土師器	皿	SD4	H23	(25.0)	(15.4)	(2.1)	外:内:ナデ	密	良	外:橙2.5YR6/6 内:橙5YR7/6	口縁1/6	外面に黒斑あり
1160	357-04	土師器	皿	SD4	J19	(18.0)		(2.2)	外:ヨコナデ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	橙5YR7/6	1/3	底部両面に線刻「トーマ」
1161	411-07	土師器	皿	SD4	I19	(18.1)	(11.1)	(2.1)	外:ヨコナデ→コビオサエ 内:ヨコナデ	密	良	にぶい橙5YR7/4	口縁1/6	
1162	359-02	土師器	皿	SD4		(15.0)		(2.2)	外:ヨコナデ→オサエ後ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	並	にぶい橙7.5YR7/3他	1/3	
1163	357-03	土師器	皿	SD4	I19	(16.2)		(2.4)	外:ヨコナデ→オサエ後ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	橙5YR7/6	口縁1/4	
1164	407-02	土師器	皿	SD4	I19	(16.8)	(9.9)	(2.1)	外:ヨコナデ→ナデ、コビオサエ 内:ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁1/8	

第43表 遺物観察表②

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置		法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
						口径	底径	器高						
1165	326-02	土師器	皿	SD4	J17	17.9		2.5	外:ヨコナデ→オサエ後ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	淡橙5YR8/4他	1/2	
1166	411-02	土師器	皿	SD4	H23	(21.7)	(15.0)	(2.6)	外・内:ヨコナデ→ナデ	密	良	橙5YR7/6	口縁1/6	
1167	358-01	土師器	杯	SD4	J19	(16.7)		(3.7)	外:ヨコナデ→ミガキ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	にぶい橙5YR7/4他	口縁1/3	底部外面に線刻「ドマン」
1168	359-04	土師器	杯	SD4	J18	(13.8)		(3.25)	外・内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	浅黄橙7.5YR8/3	口縁1/5	
1169	326-01	土師器	杯	SD4	J15	(14.4)		(4.2)	外:ヨコナデ→オサエ後ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	不良	浅黄橙10YR8/3	口縁1/2	
1170	358-04	土師器	杯	SD4		(15.0)		(4.1)	外:ヨコナデ→オサエ後ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	橙5YR7/6	口縁1/5	底部外面に墨書「?」
1171	408-01	土師器	杯	SD4	J20	(17.0)		(3.9)	外・内:ヨコナデ→ナデ, ユビオサエ・工具痕	密	良	橙5YR7/6	口縁1/6	
1172	407-01	土師器	杯	SD4	I21	(14.6)	(7.3)	(3.5)	外:ヨコナデ→ユビオサエ→ナデ 内:ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁1/5	
1173	411-03	土師器	杯	SD4	I19	(14.0)	(6.4)	(3.1)	外:ヨコナデ→ナデ, ユビオサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	不良	外:灰白10YR8/2 内:橙5YR7/6	口縁1/6	
1174	412-04	土師器	杯	SD4	I19	(12.8)	(5.4)	(2.9)	外:ヨコナデ→ユビオサエ→ナデ 内:ヨコナデ	密	良	淡黄2.5Y8/3	底部1/5	全面に煤付着
1175	412-03	土師器	杯	SD4	J19	(13.8)	(13.8)	(3.1)	外・内:ヨコナデ→ナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	口縁1/5	
1176	408-03	土師器	杯	SD4	J20	(13.4)			外・内:ヨコナデ	密	良	外:浅黄橙7.5YR8/5 内:浅黄橙7.5YR8/4	口縁1/6	
1177	325-01	土師器	杯	SD4		13.3		3.1	外:ヨコナデ→オサエ後ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	にぶい橙5YR7/4他	4/5	
1178	357-02	土師器	杯	SD4	J18	(13.4)		(3.7)	外・内:ヨコナデ→ナデ	密	並	浅黄橙7.5YR8/6他	口縁1/12	底部内面に線刻「ドマン」
1179	408-01	土師器	杯	SD4	J20	(13.2)		(2.7)	外・内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	橙5YR7/6	口縁1/4	
1180	325-07	土師器	杯	SD4		(12.6)		(3.1)	外:ヨコナデ→オサエ後ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	外:にぶい橙5YR7/4 内:にぶい橙7.5YR7/3	口縁1/4	
1181	325-04	土師器	杯	SD4	J15	(12.8)		(3.0)	外:ヨコナデ→オサエ後ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3他	口縁1/3	
1182	325-02	土師器	杯	SD4	J17	12.7		3.0	外:ヨコナデ→オサエ後ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	橙5YR7/6他	ほぼ完形	
1183	357-01	土師器	杯	SD4	I19	(11.9)			外・内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	浅黄橙7.5YR8/3他	口縁1/4	
1184	411-04	土師器	杯	SD4	H24	(11.2)			外:ヨコナデ→ナデ 内:ヨコナデ	密	不良	浅黄橙10YR8/3他	口縁1/4	
1185	411-06	土師器	杯	SD4	K16	(12.0)			外:ヨコナデ→ナデ, ユビオサエ 内:ヨコナデ	密	不良	淡黄2.5Y8/3	口縁1/4	煤付着
1186	325-03	土師器	杯	SD4	I14	(11.7)		(2.3)	外:ヨコナデ→オサエ後ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁1/3	
1187	358-01A	土師器	杯	SD4	J19				外:オサエ→ナデ 内:ナデ	やや密	並	にぶい橙5YR7/4他	底部小片	底部外面に線刻「ドマン」
1188	325-06	土師器	杯	SD4	J17	(12.6)		(3.1)	外:ヨコナデ→ユビオサエ→未調整 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/3他	1/2	
1189	410-02	土師器	瓿	SD4	J17・18	(14.9)			外:ヨコナデ→ハケメ4本/cm 内:ヨコナデ→ハケメ6本/cm・8本/cm	密	並	外:浅黄橙7.5YR8/3他 内:淡橙5YR8/3	口縁1/3	
1190	327-04	土師器	瓿	SD4	J18	(15.2)			外:ヨコナデ→ハケメ5本/cm 内:ヨコナデ→ハケメ6本/cm	やや粗	並	灰白10YR8/2	口縁1/8	
1191	410-03	土師器	瓿	SD4	J17・18	(16.7)			外:ヨコナデ→ハケメ6本/cm 内:ヨコナデ→7本/cm	密	不良	外:灰白2.5Y8/2 内:灰白7.5Y8/1	口縁1/4	
1192	409-03	土師器	瓿	SD4	J20	(16.0)			外・内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	外:淡赤橙2.5YR7/4他 内:灰黄橙10YR5/2他	口縁1/3	
1193	412-01	土師器	鍋	SD4	J18	(40.4)			外:ヨコナデ→ハケメ9本/2.1cm 内:ヨコナデ→ハケメ6本/1.5cm	やや粗	良	外:灰白2.5Y8/2 内:灰白7.5YR8/2	口縁1/12	
1194	406-01	土師器	鍋	SD4	I21	(37.0)			外・内:ヨコナデ→ハケメ8本/1.5cm	密	不良	外:灰白7.5YR8/2 内:灰白5YR8/2	口縁1/4	
1195	413-02	土師器	鍋	SD4	J19	(39.8)			外:ヨコナデ→ハケメ10本/1.7cm 内:ヨコナデ→ハケメ15本/1.5cm	やや粗	不良	灰白10YR8/2	口縁1/12	
1196	328-01	土師器	鍋	SD4	I17・18	(40.1)			外:ヨコナデ→ハケメ3本/cm 内:ヨコナデ→ハケメ10本/cm	やや粗	並	浅黄橙7.5YR8/4	口縁1/8	
1197	407-03	土師器	鍋	SD4	I19	(16.7)			外:ヨコナデ→ハケメ9本/0.9cm後ユビオサエ・ナデ 内:ヨコナデ→工具ナデ	やや密	良	浅黄橙7.5YR8/3	口縁1/5	
1198	327-05	土師器	鍋	SD4	J18	(21.2)			外:ヨコナデ→ハケメ→ケズリ 内:ヨコナデ→ハケメ	やや粗	並	浅黄橙7.5YR8/4	口縁1/12	
1199	328-02	土師器	鍋	SD4	J18	(22.8)			外:ヨコナデ→ハケメ10本/cm→ケズリ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/4	口縁1/2	
1200	409-01	土製品	製塩土器	SD4	J18	(20.5)			外・内:ナデ, オサエ	粗	並	浅黄橙7.5YR8/6	口縁1/8	
1201	408-07	土製品	製塩土器	SD4	J18	(16.0)			外・内:ナデ, オサエ	粗	並	外:浅黄橙7.5YR8/6 内:浅黄橙7.5YR8/6	口縁1/4	
1202	408-05	土製品	製塩土器	SD4	J18	(16.0)	(17.0)	(7.0)	外・内:オサエ, ナデ	粗	並	外:橙2.5Y7/8 内:橙5YR7/6	口縁1/6	
1203	410-01	土製品	製塩土器	SD4	I18	(20.4)			外・内:ナデ, オサエ	粗	並	外:橙7.5YR7/6 内:浅黄橙7.5YR8/6	口縁1/8	
1204	407-04	土製品	製塩土器	SD4	I19	(20.9)			外:ユビナデ, オサエ 内:ナデ	密	良	にぶい橙5YR7/4	口縁1/6	
1205	358-02	土製品	製塩土器	SD4	J17	(18.8)			外・内:ヨコナデ→オサエ後ナデ	やや粗	並	淡橙5YR8/3他	小片	
1206	358-03	土製品	製塩土器	SD4	J17	(16.0)			外・内:ヨコナデ→ナデ→ヨコナデ	やや密	並	にぶい橙5YR7/4	小片	
1207	408-06	土製品	製塩土器	SD4	J18		(20.0)		外・内:ナデ	粗	並	外:にぶい橙10YR8/4 内:淡赤橙2.5YR7/4	底部1/8	
1208	412-05	土製品	製塩土器	SD4	J17				外:ナデ→ユビオサエ 内:ナデ	密	良	外:にぶい橙5YR7/4 内:にぶい橙7.5YR6/4	口縁小片	
1209	407-06	土製品	製塩土器	SD4	I19				外・内:ナデ	密	良	橙5YR7/6	口縁小片	

第44表 遺物観察表②

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
					口径	底径	器高							
1210	407-05	土製品	製塩土器	SD4	I19			外・内: ナデ	密	良	にぶい橙5YR7/4	小片		
1211	409-02	土製品	製塩土器	SD4	J18			外・内: ナデ, オサエ	粗	並	橙5YR7/6	口縁小片		
1212	407-08	土製品	製塩土器	SD4	I19			外・内: ナデ	密	良	にぶい橙5YR7/4	底部小片		
1213	407-07	土製品	製塩土器	SD4	I19			外: ユビオサエ→ナデ 内: ナデ	密	良	外: にぶい橙2.5YR6/4 内: にぶい橙5YR7/4	底部小片		
1214	330-01	須恵器	甕	SD4	I21	(21.1)		外: ロクロナデ→カキメ 内: ロクロナデ→タタキ	密	良	灰白7.5Y7/1	口縁部片		
1215	329-02	須恵器	甕	SD4	I22	(28.6)		外: ロクロナデ→タタキ 内: ロクロナデ→タタキ	密	良	灰白7/0他	口縁部片		
1216	329-01	須恵器	甕	SD4	I18	(33.0)		外: ヨコナデ→ロクロナデ 内: ヨコナデ→ロクロナデ	密	良	灰白N7/0	口縁部片		
1217	406-02	陶器	甕	SD4	I21	(13.8)		外: タタキ6本/2.2cm→ナデ一部ユビオサエ 内: ロクロナデ→未調整	密	良	黄灰2.5Y6/1	底部1/3	自然釉	
1218	359-01	瓦	丸瓦	SD4	J13			凹面: 布目痕 凸面: 構目圧痕	密	並	にぶい黄橙10YR7/3他	1/3?		
1219	331-01	陶器	山茶碗	SD4	J18	(14.0)		外・内: ロクロナデ	密	並	灰白5Y7/1	口縁1/8		
1220	330-04	陶器	山茶碗	SD4	I19		8.0	外: ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→系切刃痕 内: ロクロナデ	密	並	灰白10Y7/1	底部片		
1221	330-05	土製品	土鏝	SD4	I22	最大長6.2 最大幅2.3	六径1.1	外: オサエ, ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/2	ほぼ完形	重量31.60g	
1222	412-06	土製品	土鏝	SD4	H24	最大長6.2 最大幅1.7	六径0.35	外: オサエ, ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	先端一部欠失	重量12.46g	
1223	157-02	陶器	山茶碗	SX318	E77 No.2	16.2	7.4	6.5	外: ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→系切刃痕 内: ロクロナデ	密	良	灰白7.5Y7/1	2/3	輪花4ヶ所 口縁左回転
1224	157-01	陶器	山茶碗	SX318	E77 No.1	15.3	8.0	5.0	外: ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→系切刃痕 内: ロクロナデ	密	良	灰白N7/1	ほぼ完形	
1225	990-03	陶器	山茶碗	SX419	H16・17	16.8	7.2	5.6	外: ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→系切刃痕 内: ロクロナデ	密	良	灰白N8/0	完形	高台に砂痕
1226	944-05	土師器	小皿	SB491	J16 Pit6	8.6		1.6	外: ヨコナデ→オサエ 内: ヨコナデ→ナデ	粗	並	淡黄2.5Y8/3	ほぼ完形	
1227	944-04	土師器	小皿	SB491	J17 Pit1	9.4		1.7	外: ヨコナデ→オサエ 内: ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	淡黄橙7.5YR8/3	口縁2/3	
1228	945-03	陶器	山皿	SB491	J16 Pit6	(10.5)	5.2	2.6	外: ロクロナデ→高台貼付け後ロクロナデ 内: ロクロナデ	密	良	灰白N7/0	口縁1/3 高台完形	内面に重ね焼き痕
1229	945-01	陶器	山茶碗	SB491	J16 Pit6	(14.3)	(6.4)	(4.9)	外: ロクロナデ→高台貼付け後ナデ 内: ロクロナデ	やや密	良	灰白7.5Y7/1他	口縁1/3	
1230	945-02	陶器	山茶碗	SB491	J16 Pit6	(7.5)			外: ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→系切刃痕 内: ロクロナデ	やや密	良	灰白N7/0	高台1/2	高台に粗粒痕
1231	388-04	土師器	小皿	SK10		(7.7)		(1.4)	外: ヨコナデ→未調整 内: ヨコナデ→ナデ	やや密	並	灰白10YR8/2	1/4	歪み大
1232	323-03	土師器	小皿	SK10		(9.0)		(1.8)	外: ヨコナデ→オサエ 内: ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	灰白5YR8/2他	口縁2/5	
1233	323-01	ロクロ土師器	碗	SK10	G8 No.1	14.8	6.4	4.0	外: ロクロナデ→系切刃痕 内: ロクロナデ	やや粗	並	にぶい橙7.5YR7/3他	口縁2/3 底部完形	
1234	323-05	土師器	甕	SK10	G8 No.3	(16.5)	体部径(22.0)		外: ヨコナデ→オサエ 内: ヨコナデ→ナデ	粗	並	灰白2.5Y8/2他	1/6	
1235	388-03	土師器	甕	SK10		(20.0)			外: ヨコナデ→コビナデ 内: ヨコナデ→ナデ	密	良	灰白10YR8/1他	口縁1/7	内面に煤付着
1236	388-02	陶器	山茶碗	SK10	G8		6.2		外: ロクロナデ→貼付け高台→系切刃痕 内: ロクロナデ	密	良	外: 灰白2.5Y7/1他 内: 灰白10Y8/1	底部完形	両面に自然釉
1237	388-05	陶器	山茶碗	SK10	G8	(15.8)			外・内: ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	口縁1/8	両面に自然釉
1238	388-01	陶器	山茶碗	SK10		(17.2)	(7.8)	(4.85)	外: ロクロナデ→貼付け高台→系切刃痕 内: ロクロナデ	密	良	灰白N8/0	1/3	内面に自然釉
1239	323-04	陶器	山茶碗	SK10	G8 No.1		7.9		外: ロクロナデ→高台貼付け後ナデ 内: ロクロナデ	やや密	並	灰白10Y8/1	高台5/6	
1240	323-02	陶器	山茶碗	SK10	G8 No.3		7.9		外: ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→系切刃痕 内: ロクロナデ	やや密	良	灰白10Y7/1他	底部3/4	
1241	352-01	弥生土器	壺 C3	SK22	I12・13	(11.6)		頸部径8.8	外: ヨコナデ→ハケメ10~14本/cm, 横線3本/cm 内: ヨコナデ→ハケメ10本/cm→ナデ→ハケメ6~7本/cm	粗	並	淡黄橙10YR8/4他	口縁1/4 頸部1/2	
1242	352-02	弥生土器	壺	SK22	I12・13		6.4		外: ミガキ→ナデ 内: ナデ	粗	並	外: 淡赤橙2.5Y7/4他 内: 淡橙5YR8/4	底部	外面に黒斑あり
1243	385-04	古式土師器	小型丸底壺	SK22		(10.9)			外: ナデ, 調整不明一部ミガキ 内: ミガキ→ナデ	密	良	にぶい橙5YR7/4	頸部1/4	
1244	351-01	土師器	甕	SK22	J12	(19.0)			外・内: ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	明褐灰7.5YR7/2	口縁1/3	両面に煤付着
1245	385-03	陶器	山茶碗	SK22	J12		(7.6)		外: ロクロナデ→高台貼付け後ナデ 内: ロクロナデ	密	良	灰白N8/0	底部1/2	
1246	350-01	陶器	山茶碗	SK22	J12		7.6		外: ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→系切刃痕 内: ロクロナデ	密	良	灰白N8/0	底部3/5	内面に自然釉
1247	341-01	弥生土器	壺	SK43	G18	(12.2)	5.3	(3.7)	外: ナデ 内: ハケメ6~7本/cm→ナデ	やや密	良	褐灰10YR5/1他	底部3/4	
1248	339-04	弥生土器	壺 C1	SK43	G17	(17.0)			外: ナデ, 刺突文, 横線3本 内: 調整不明	やや密	良	灰白7.5YR8/2	口縁1/9	外面に黒斑あり
1249	338-01	弥生土器	壺	SK43	G17		(9.7)		外: ケズリ後ミガキ→ナデ 内: 調整不明	やや密	良	にぶい橙5YR7/4他	底部3/8	
1250	338-02	土師器	杯	SK43	G18	(10.9)		(2.55)	外: ヨコナデ→オサエ 内: ヨコナデ→ナデ	やや密	良	灰白10YR8/1	口縁1/3	
1251	338-03	土師器	杯	SK43	G18	(14.0)		(3.05)	外: ヨコナデ→オサエ 内: ヨコナデ→ナデ	密	良	外: 灰白2.5Y8/1 内: 淡橙5YR8/4	口縁1/4	
1252	338-05	ロクロ土師器	皿	SK43	H18	(9.7)	5.0	(2.05)	外: ロクロナデ→系切刃痕 内: ロクロナデ	やや密	良	淡黄橙7.5YR8/3他	口縁1/4 底部完形	
1253	339-05	ロクロ土師器	台付皿	SK43	G18	(7.9)	3.4	(2.0)	外: ロクロナデ→系切刃痕 内: ロクロナデ	やや密	良	灰白10YR8/2	口縁1/6	
1254	339-02	土師器	皿	SK43	G17	(9.9)		(1.8)	外: ヨコナデ→オサエ 内: ヨコナデ→ナデ	やや密	良	灰白2.5Y8/2	小片	

第45表 遺物観察表③

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色 調	残存	備 考	
					口径	底径	器高							
1255	380-04	土師器	甕	SK43	H18	(16.7)			外:ヨコナデ→ハケメ9本/1.2cm 内:ヨコナデ→ハケメ12本/1.2cm後ケズリ1cm	密	良	にぶい・橙5YR7/3	口縁1/4	
1256	380-05	土師器	甕	SK43	G18	(23.7)			外:ヨコナデ→ハケメ7本/1.1cm 内:ヨコナデ→工具ナデ	密	並	外:灰白7.5YR8/2 内:淡橙5YR8/3	口縁1/8	
1257	339-03	土師器	皿	SK43	G18	(12.0)	(8.2)	(1.95)	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	灰白2.5Y8/2	口縁1/9	
1258	379-06	陶器	山茶椀	SK43	G18	(15.8)			外・内:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	口縁1/12	
1259	379-05	陶器	山茶椀	SK43	G17		(8.0)		外:ロクロナデ→貼付け高台→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白N6/0	底部1/2	内面に自然釉
1260	380-08	陶器	山茶椀	SK43	G18		(8.0)		外:ロクロナデ→貼付け高台→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	底部1/4	
1261	379-07	土製品	製塩土器	SK43	G18				外:ユビオサエ→ナデ 内:ナデ	密	良	にぶい・橙5YR7/4	口縁小片	
1262	341-05	土製品	土鍾	SK43	G18	最大長 3.6	最大幅 1.6	穴径 0.4	外:ナデ	やや密	良	赤10R4/6他	ほぼ完形	重量6.73g
1263	644-06	土師器	杯	SK220	K19	(14.0)			外:ヨコナデ→ナデ・オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	浅黄橙10YR8/3	口縁小片	
1264	644-07	土師器	杯	SK220	K20	(15.0)			外:ヨコナデ→オサエ・ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	浅黄橙10YR8/3他	口縁1/5	
1265	644-04	ロクロ土師器	椀	SK220	K19		5.4		外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白2.5Y8/2	底部	
1266	644-03	ロクロ土師器	皿	SK220	K19	10.4	4.2	2.1	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白2.5Y7/1	底部完形	
1267	644-05	ロクロ土師器	皿	SK220	K20	8.6		1.5	外:ロクロナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	浅黄橙7.5YR8/3	口縁一部 底部3/4	
1268	641-02	土師器	甕	SK220	K19	(24.0)			外:ヨコナデ→オサエ・ナデ 内:ヨコナデ→工具ナデ	やや密	並	灰白10YR8/2	口縁1/12	外面に煤付着
1269	645-04	土師器	甕	SK220	K20	(16.8)			外・内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	灰白10YR7/1	口縁1/8	
1270	644-07	土師器	小皿	SK220	L19	(8.8)		1.1	外:ヨコナデ→オサエ・ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	灰白10YR8/2	口縁1/4	
1271	642-05	陶器	山皿	SK220	K20	(11.0)	(6.4)	(3.1)	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白2.5Y8/1	口縁1/3	内面に漆 高台に工具痕
1272	644-02	陶器	山皿	SK220	L19	9.2	4.5	3.0	外:ロクロナデ→貼付け高台→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白2.5Y7/1	口縁1/2 底部完形	内面やや滑らか
1273	645-01	陶器	山茶椀	SK220	K19	(15.7)	(6.8)	(5.9)	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白7.5Y7/1	口縁1/6 底部1/8	
1274	643-01	陶器	山茶椀	SK220	K20	(16.6)	7.6 ~8.6	(5.6)	外:ロクロナデ→貼付け高台→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	良	灰白2.5Y7/1	口縁1/3 底部1/2	底部内面に墨痕 転用硯か 重ね焼き痕あり
1275	644-01	陶器	山茶椀	SK220	L19	(17.8)			外・内:ロクロナデ	やや密	良	灰白5Y7/1	口縁小片	
1276	643-02	陶器	山茶椀	SK220	L19	(17.8)	(8.8)	(5.0)	外:ロクロナデ→貼付け高台→糸切刃痕 内:ロクロナデ	密	良	灰5Y6/1	口縁1/4	底部内面に墨痕 滑らか
1277	642-02	陶器	山茶椀	SK220	L19		8.1		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白N7/0	高台3/4	底部内面黒く滑らか 高台に粗粒痕
1278	642-01	陶器	山茶椀	SK220	K19		(8.2)		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白N7/0	高台1/2	
1279	645-02	陶器	山茶椀	SK220	K19		7.6		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	灰白10YR7/1	底部1/2	
1280	642-06	陶器	山茶椀	SK220	L19		7.3		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白2.5Y8/1	高台3/4	底部外面に墨書「十」 内面に自然釉
1281	642-03	陶器	山茶椀	SK220	K19		8.6		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白5Y8/1	高台1/2	底部内面滑らか 重ね焼き痕
1282	643-03	陶器	山茶椀	SK220	L19		6.5		外:ロクロナデ→貼付け高台→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白2.5Y7/1	底部	内面滑らか
1283	641-01	陶器	壺or甕	SK220	K19		(14.0)		外:ロクロナデ→ロクロクズリ→未調整 内:ロクロナデ	やや密	良	灰赤2.5YR5/2他	高台1/6	
1284	641-05	土製品	土鍾	SK220	L19	最大長 5.4	最大幅 1.7	穴径 0.6	外:オサエ・ナデ	やや密	並	灰5Y5/1	ほぼ完形	重量11.1g
1285	641-04	土製品	土鍾	SK220	L20	最大長 7.1	最大幅 2.4	穴径 1.1	外:オサエ・ナデ	やや密	並	灰白2.5Y7/1	ほぼ完形	重量40.1g
1286	187-05	土師器	皿	SK367	E44	(12.5)		(2.6)	外・内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	にぶい・黄橙10YR7/3	1/3	
1287	190-02	土師器	皿	SK367	F44	(11.8)			外:ナデ→オサエ 内:ナデ	やや密	並	にぶい・黄橙10YR7/2	口縁1/4	
1288	190-09	土師器	皿	SK367	F44	(12.9)			外:ヨコナデ→オサエ・ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	にぶい・黄橙10YR7/3	小片	
1289	192-04	土師器	皿	SK367	F44	(14.2)			外・内:ナデ	やや粗	並	灰白10YR8/1	口縁1/4	
1290	192-05	土師器	皿	SK367	F44・45	(15.3)			外・内:ナデ	やや粗	並	浅黄橙7.5YR8/4他	口縁1/10	
1291	192-07	土師器	皿	SK367	F44	(9.5)		(1.4)	外:ヨコナデ→オサエ 内:ナデ	やや粗	並	灰白2.5Y8/2	口縁1/8	
1292	193-01	土師器	皿	SK367	F44	(9.8)		(1.25)	外:ヨコナデ→オサエ・ナデ 内:ヨコナデ→オサエ	やや密	良	灰白10YR8/1	口縁1/4	
1293	193-03	土師器	皿	SK367	E・F44	(10.0)		(1.5)	外・内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	灰白10YR8/2他	口縁1/7	
1294	193-06	土師器	皿	SK367	F44	(8.5)		(1.3)	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	灰白10YR8/1	口縁1/4	
1295	190-04	土師器	皿	SK367	E・F44	(8.3)		(1.7)	外:ヨコナデ→オサエ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	浅黄橙10YR8/3	口縁1/4	
1296	190-05	土師器	皿	SK367	E・F44	(8.0)		(1.3)	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	浅黄橙10YR8/4	口縁1/2	
1297	192-06	土師器	皿	SK367	F44	8.5		1.5	外:ナデ→オサエ 内:ナデ	やや粗	並	灰白10YR8/2	口縁2/3	外面に黒斑あり
1298	193-02	土師器	皿	SK367	F44	(8.5)			外・内:ヨコナデ→オサエ・ナデ	やや密	並	浅黄橙7.5YR8/3他	口縁1/3	灯明皿 強部に油煙

第46表 遺物観察表③

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置		法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
				口徑	底径	器高	口径	底径						
1299	193-04	土師器	皿	SK367	E・F44	(8.5)			外:ヨコナデーオサエ 内:ナデ	やや密	並	浅黄橙7.5YR8/3他	口縁1/5	
1300	193-05	土師器	皿	SK367	E・F44	(10.2)			外:ヨコナデーオサエ,ナデ 内:ヨコナデーナデ	やや粗	並	灰白10YR8/3	口縁1/3	
1301	188-02	ロクロ土師器	椀	SK367	F44	15.5	6.5	3.8	外:ロクロナデー系切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	浅黄橙7.5YR8/3	1/2	
1302	187-06	ロクロ土師器	椀	SK367	F44	(15.5)	5.5~5.8	(4.6)	外:ロクロナデー系切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	浅黄橙10YR8/3	4/5	内面に炭化物付着
1303	195-01	ロクロ土師器	椀	SK367	F44		6.5		外:ロクロナデー系切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白10YR8/1	底部完形	
1304	195-03	ロクロ土師器	椀	SK367	E44		5.3~5.8		外:ロクロナデー系切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	灰白10YR8/1	底部完形	
1305	191-02	ロクロ土師器	椀	SK367	E44		(6.4)		外:ロクロナデー系切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	浅黄橙7.5YR8/3	底部1/2	
1306	191-01	ロクロ土師器	皿	SK367	F44	10.0	5.4	1.9	外:ヨコナデーロクロナデー系切刃痕 内:ヨコナデーロクロナデ	やや密	並	にぶい橙7.5YR7/4	口縁2/3 底部完形	
1307	195-06	ロクロ土師器	皿	SK367	E・F44	(10.0)		(2.1)	外:ロクロナデー系切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	並	浅黄橙7.5YR8/3	口縁1/4	
1308	188-03	ロクロ土師器	皿	SK367	F44	10.0	6.0	2.0	外:ロクロナデー系切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	並	橙7.5YR7/6	ほぼ完形	
1309	191-05	ロクロ土師器	皿	SK367	E・F44	(9.0)	(4.5)	(2.2)	外:ヨコナデーロクロナデー系切刃痕 内:ヨコナデーロクロナデ	やや粗	並	浅黄橙10YR8/3	口縁1/8	
1310	195-04	ロクロ土師器	皿	SK367	F44		4.3		外:ロクロナデー系切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白10YR8/2	底部完形	
1311	191-04	ロクロ土師器	皿	SK367	F44		4.0		外:ロクロナデー系切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白2.5Y8/2	底部完形	
1312	188-01	ロクロ土師器	台付皿	SK367	F44		(7.5)		外:ヨコナデーナデ 内:ナデ	やや粗	並	灰白10YR8/2他	底部1/2	底部内面に墨書「三〇」
1313	189-02	土師器	甕	SK367	E・F44	(19.9)			外:ヨコナデーナデ,オサエ 内:ヨコナデーハケメ	やや粗	並	灰白10YR8/2	口縁1/12	
1314	189-01	土師器	甕	SK367	E・F44	(19.8)			外・内:ナデ	やや粗	並	灰白10YR8/2	口縁1/10	
1315	190-08	土師器	皿	SK367	F44				外・内:ナデ	やや密	並	灰白10YR8/2	小片	
1316	189-06	陶器	山皿	SK367	E・F44	(10.0)	(5.7)	(2.85)	外:ロクロナデー高台貼付け後ナデー系切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	灰白5Y7/1	口縁1/4 高台1/2	
1317	187-02	陶器	山皿	SK367	F44	(10.3)	6.0	(3.2)	外:ロクロナデー高台貼付け後ナデ 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白N8/0	1/3	内面に自然釉 底部外面に墨書「上」
1318	190-01	陶器	山茶椀	SK367	F44	(20.0)			外・内:ロクロナデ	やや粗	並	灰白7.5Y7/1	口縁1/11	
1319	189-03	陶器	山茶椀	SK367	F44	(14.8)	(6.3)	(5.0)	外:ロクロナデー高台貼付け後ナデー系切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白5Y8/1	高台1/3	
1320	187-01	陶器	山茶椀	SK367	E・F44	16.5	7.8	5.4	外:ロクロナデー高台貼付け後ナデー系切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	良	灰白2.5Y8/1	ほぼ完形	高台に粉殻痕
1321	194-03	陶器	山茶椀	SK367	F44		(8.6)		外:ロクロナデー高台貼付け後ナデー系切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白2.5Y8/1	底部1/3	高台に粉殻痕
1322	194-02	陶器	山茶椀	SK367	F44		(7.3)		外:ロクロナデー高台貼付け後ナデー系切刃痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y8/1	高台1/3	内面に自然釉
1323	192-02	陶器	山茶椀	SK367	F44		(8.7)		外:ロクロナデー高台貼付け後ナデー系切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	良	灰白2.5Y8/1	高台1/3	高台に粉殻痕
1324	192-01	陶器	山茶椀	SK367	F44		(6.7)		外:ロクロナデー高台貼付け後ナデー系切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白2.5Y8/1	高台1/3	高台に粉殻痕 底部外面に墨書「？」 内面に自然釉
1325	187-07	陶器	山茶椀	SK367	F44				外・内:ロクロナデ?	密	良	灰白2.5Y8/1	底部小片	外面に線刻「？」
1326	2201-01	木製品	椀	SK367	F44	最大長 55.7	最大径 5.0		先端尖る 樹皮残 木材そのまま使用				1/2	樹種不明
1327	628-08	ロクロ土師器	椀	SK223	J40 No.19		5.0		外:ロクロナデー系切刃痕 内:ロクロナデーナデ	やや密	並	灰白10YR8/2	底部完形	
1328	630-06	ロクロ土師器	皿	SK223	J40 No.13		5.4		外:ロクロナデー系切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白2.5Y8/2	台部完形	
1329	633-02	土師器	皿	SK223	J40 No.7	(10.6)			外:ヨコナデーナデ,オサエ 内:ヨコナデーナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁1/2	
1330	631-01	土師器	皿	SK223	J40 No.2	12.1	2.8		外:オサエ,ナデ 内:ナデ	やや密	並	灰白2.5Y8/2	口縁3/4	
1331	630-04	土師器	皿	SK223	J40 No.5	12.2	2.3		外:オサエ 内:ナデ	やや密	並	灰白10YR8/2	口縁 ほぼ完形	
1332	628-04	土師器	皿	SK223	J40	11.5	2.5		外:ナデーオサエ,ナデ 内:ナデ	やや密	並	灰白7.5YR8/2	口縁 ほぼ完形	
1333	631-04	土師器	皿	SK223	J40 No.1	10.8~11.8	2.6		外:オサエ 内:ナデ	やや密	並	灰白10YR8/1	口縁 ほぼ完形	
1334	630-01	土師器	皿	SK223	J40 No.8	(12.0)	(2.5)		外:オサエ 内:ナデ	やや密	並	灰白10YR8/1他	口縁1/2	
1335	631-02	土師器	小皿	SK223	J40 No.4	7.6	1.4		外:オサエ 内:ナデ	やや密	並	灰白2.5Y8/2	口縁完形	
1336	628-07	土師器	小皿	SK223	J40	7.6	0.95		外:オサエ,ナデ 内:ナデ	やや粗	並	灰白10YR8/2	口縁3/4	
1337	631-05	土師器	小皿	SK223	J40 No.3	7.9	1.2		外:オサエ,ナデ 内:ナデ	やや密	並	灰白10YR8/1	口縁 一部欠失	
1338	630-03	土師器	小皿	SK223	J40 No.12	7.5	1.1		外:オサエ 内:ナデ	やや密	並	灰白10YR8/1	口縁3/4	
1339	631-03	土師器	小皿	SK223	J40 No.17	7.7	1.2		外:オサエ 内:ナデ	やや粗	並	灰白2.5Y8/2	口縁 ほぼ完形	
1340	628-06	土師器	小皿	SK223	J40 No.15	7.6	1.4		外:ナデーオサエ,ナデ 内:ナデ	やや密	並	灰白10YR8/2	口縁完形	
1341	628-05	土師器	小皿	SK223	J40 No.18	7.2	1.0		外:ナデーオサエ,ナデ 内:ナデ	やや密	並	灰白10YR8/1	口縁完形	
1342	630-02	土師器	小皿	SK223	J40 No.10	7.8	1.1		外:オサエ 内:ナデ	やや粗	並	灰白2.5Y8/2	口縁 一部欠失	

第47表 遺物観察表③

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色 調	残存	備 考
					口径	底径	器高						
1343	628-02	陶器	山茶碗	SK223	J40 No.20		6.8	外:ロコナデー高台貼付け後ナデー糸切り痕 内:ロコナデー	やや密	並	灰黄2.5Y7/2	底部完形	
1344	989-02	土師器	杯	SK407	J18	(15.0)		(2.5) 外:ヨコナデー未調整 内:ヨコナデーナデ	やや粗	良	灰白2.5Y8/2	口縁1/4	
1345	989-01	土師器	皿	SK407	J17-18 No.1	11.0		2.0 外:ヨコナデー未調整 内:ヨコナデーナデ	密	良	淡黄2.5Y8/3	口縁1/2	
1346	988-02	土師器	皿	SK407	J17-18	(12.0)		(2.5) 外:未調整 内:ナデ	密	良	灰白2.5Y8/2	口縁1/4	
1347	988-03	土師器	皿	SK407	J17-18 No.5				密	良	灰白2.5Y8/1	口縁1/4	
1348	991-04	土師器	皿	SK418	E13	15.0		2.6 外:ヨコナデー未調整 内:ヨコナデーナデ	密	良	浅黄橙7.5YR6/3	1/2	
1349	992-03	土師器	小皿	SK418	E13	(8.0)		(1.8) 外:ヨコナデー未調整 内:ヨコナデーナデ	密	良	灰白10YR8/1	1/4	
1350	992-04	土師器	小皿	SK418	E13	(9.0)		(1.8) 外:ヨコナデー未調整 内:ヨコナデーナデ	密	良	浅黄橙7.5YR6/3	1/4	内面に黒斑あり
1351	992-05	土師器	鍋	SK418	E13	(22.0)			密	良	外:灰白7.5YR8/2 内:明褐灰7.5YR7/2	口縁1/6	
1352	992-01	陶器	山皿	SK418	F13	(8.2)	(3.9)	(2.2) 外:ロコナデー貼付け高台→糸切り痕 内:ロコナデー	密	良	灰白N8/0	1/3	
1353	992-02	陶器	山皿	SK418	F13	8.2	3.6	2.4 外・内:ロコナデー未調整	密	良	灰白N8/0	4/5	底部内面滑らか 高台粗粒痕
1354	991-02	陶器	山茶碗	SK418	F13	16.0	7.3	5.4 外:ロコナデー貼付け高台→糸切り痕 内:ロコナデー	密	良	灰白N8/0	1/2	内面に炭化物付着 高台に砂痕
1355	991-01	陶器	山茶碗	SK418	F13	16.2	7.0	5.4 外:ロコナデー高台貼付け後ナデー糸切り痕 内:ロコナデー	密	良	灰白N8/0	完形	内面に自然釉 高台に黒斑あり
1356	991-03	陶器	山茶碗	SK418	F13	(17.0)	(7.8)	(5.6) 外:ロコナデー貼付け高台→糸切り痕 内:ロコナデー	密	良	灰白N8/0	1/3	外面端部に炭化物付着
1357	990-01	土師器	皿	SK415	F9-10	11.8		1.9 外:ヨコナデー未調整 内:ヨコナデーナデ	密	良	灰白N8/1	3/4	
1358	990-04	陶器	山茶碗	SK415	F9	(18.0)			密	良	灰白N8/0	口縁1/4	
1359	990-02	陶器	山茶碗	SK415			6.0		やや粗	良	灰白N8/0	高台完形	高台に粗粒痕
1360	335-07	土師器	小皿	SE46		9.4		1.65 外:ヨコナデーオサエ 内:ヨコナデーオサエ、ナデ	密	良	外:灰白2.5Y8/2 内:淡黄2.5Y8/3	ほぼ完形	
1361	402-06	土師器	小皿	SE46		7.8		1.4 外:ヨコナデーナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデーナデ	やや粗	良	灰白10YR8/2	口縁3/4	
1362	333-01	土師器	小皿	SE46		8.6~ 9.0		1.8 外・内:ヨコナデーオサエ後ナデ	やや粗	並	浅黄橙10YR6/3他	口縁4/5	
1363	335-06	土師器	小皿	SE46		8.45		1.65 外・内:ヨコナデーオサエ	密	良	外:浅黄橙7.5YR8/3 内:淡黄5YR6/3	口縁4/5	
1364	401-06	土師器	小皿	SE46		(8.4)		(1.3) 外:ヨコナデーナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデーナデ	やや粗	並	にぶい橙5YR7/4	口縁1/4	
1365	335-05	土師器	小皿	SE46		8.6		1.45 外:ヨコナデーナデ 内:ヨコナデーナデ	密	良	外:にぶい橙5YR7/4 内:浅黄橙7.5YR8/3	口縁2/3	
1366	402-08	土師器	小皿	SE46	E21-22	9.4		2.2 外:ヨコナデーナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデーナデ	密	並	外:黒褐10YR3/1他 内:灰白10YR8/2他	2/3	
1367	401-05	土師器	小皿	SE46		(8.4)		(1.2) 外:ヨコナデーナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデーナデ	密	良	灰白10YR8/2他	口縁1/2	
1368	402-01	土師器	小皿	SE46		(9.0)		(1.3) 外:ヨコナデーナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデーナデ	密	良	外:灰白2.5Y8/2他 内:灰白10YR8/2他	口縁1/2	
1369	401-01	土師器	小皿	SE46		(8.6)		(1.4) 外:ヨコナデーナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデーナデ	やや密	良	灰白10YR8/2	口縁1/2	
1370	335-04	土師器	小皿	SE46		8.8		1.8 外:ヨコナデーナデ 内:ヨコナデーナデ	密	良	外:淡橙5YR6/4 内:浅黄橙7.5YR8/4	ほぼ完形	
1371	402-03	土師器	小皿	SE46		8.5		1.05 外:ヨコナデーナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデーナデ	密	良	外:淡橙5YR6/3他 内:浅黄橙7.5YR8/3他	口縁1/2	
1372	333-02	土師器	小皿	SE46		8.3~ 8.6		1.5 外・内:ヨコナデーナデ	やや密	並	灰白2.5Y8/2他	口縁1/2	
1373	335-02	土師器	小皿	SE46		8.8		1.5 外:ヨコナデーナデ 内:ナデーハケム後ナデ、オサエ	密	良	外:淡橙5YR6/3 内:淡黄5YR6/4	完形	
1374	335-01	土師器	小皿	SE46		8.5		1.55 外:ヨコナデーオサエ 内:ヨコナデーナデ	密	良	外:浅黄橙10YR8/3 内:灰白10YR8/2	完形	
1375	335-03	土師器	小皿	SE46		7.8		1.75 外・内:ヨコナデーオサエ	密	良	外:浅黄橙10YR8/3 内:灰白10YR8/2	完形	
1376	401-08	土師器	小皿	SE46		(8.4)		(1.2) 外:ヨコナデーナデ、ユビナデ 内:ヨコナデーナデ	密	良	外:にぶい橙7.5YR7/4 内:浅黄橙7.5YR8/4	口縁1/4	
1377	401-03	土師器	小皿	SE46		(8.4)		1.55 外:ヨコナデーナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデーナデ	やや密	良	外:灰白10YR8/2 内:灰白2.5Y8/2	口縁1/4	
1378	402-05	土師器	小皿	SE46		9.1		1.5 外:ヨコナデーナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデーナデ	密	良	外:灰白2.5Y8/2 内:淡黄2.5Y8/3	口縁1/2	
1379	402-07	土師器	小皿	SE46		(11.8)		(2.4) 外:ヨコナデーナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデーナデ	密	良	外:灰黄橙10YR4/2他 内:灰白10YR8/2	口縁1/4	
1380	337-01	土師器	瓿	SE46		(26.6)			密	良	外:暗赤灰5R3/1 内:暗紫灰5P3/1	口縁1/8	両面に煤付着
1381	337-02	土師器	瓿	SE46		(16.5)			密	良	外:にぶい黄橙10YR7/3 内:灰白10YR8/2	口縁1/18	外面に煤付着
1382	333-05	土師器	瓿	SE46		(17.0)			やや密	並	にぶい黄橙10YR7/2他	口縁1/4	外面に煤付着
1383	336-02	ロクロ土師器	碗	SE46		(13.7)	5.8	(3.75) 外:ロコナデー糸切り痕 内:ロコナデー	密	良	外:灰白7.5YR8/1 内:灰白10YR8/2	口縁2/9	
1384	335-10	陶器	山皿	SE46		9.2	5.0	2.7 外:ロコナデー高台貼付け後ナデー糸切り痕 内:ロコナデー	密	良	外:灰白10YR7/1 内:灰白7.5Y7/1	口縁1/2	高台に粗粒痕 内面に自然釉
1385	336-01	陶器	山皿	SE46		(9.85)	5.3	(2.8) 外:ロコナデー貼付け高台→糸切り痕 内:ロコナデー	密	良	外:明紫灰5RP7/1 内:灰白2.5Y7/1	口縁1/3	高台に粗粒痕
1386	402-09	陶器	山茶碗	SE46		(14.8)			密	良	外:灰5Y6/1 内:灰白5Y7/1	口縁1/4	口縁に自然釉
1387	332-04	陶器	山茶碗	SE46		(16.1)	(8.2)	(5.4) 外:ロコナデー高台貼付け後ヨコナデー 内:ロコナデー	密	良	灰白10YR7/1	1/4	高台に粗粒痕

第48表 遺物観察表③

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考		
					口径	底径	器高								
1388	336-04	陶器	山茶碗	SE46		16.9	7.45	4.9	外:ロクロナデ→貼付け高台→糸切り痕 内:ロクロナデ	密	良	外:灰黄2.5Y7/2 内:灰白10YR7/1	口縁1/2 底部完形	高台に粗段痕 内面に自然釉	
1389	336-03	陶器	山茶碗	SE46			8.1		外:ロクロナデ→貼付け高台→糸切り痕 内:ロクロナデ	密	良	外:黄灰2.5Y6/1 内:灰白N8/0	底部3/5	高台に粗段痕 底部外面に墨書「上」	
1390	334-05	黒色土器	椀	SE46		(13.8)	(6.9)	(6.0)	外:ミガキ→貼付け高台→ロコナデ 内:ミガキ	密	良	外:にぶい 橙7.5YR7/4 内:暗灰N3/0	口縁1/4		
1391	403-04	ロクロ土師器	加工円盤	SE46			6.4		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y7/2	底部完形		
1392	403-05	陶器	加工円盤	SE46	E21-22		7.2		外・内:ロクロナデ	密	良	外:灰黄褐10YR4/2他 内:褐灰7.5YR4/1	底部完形		
1393	2113-01	木製品	曲物	SE46	No.59	最大径 89.7	最大高 44.5	最大厚 0.8	樺皮綴し 添木4ヶ所挿入 内面縦平行のケビキ 籬1段					上部欠失	針葉樹
1394	2112-01	木製品	曲物	SE46	No.62	最大径 47.3	最大高 36.6	最大厚 0.8	樺皮綴し 内面縦平行のケビキ 籬1段					ほぼ完形	スギ
1395	2114-01	木製品	曲物	SE46	No.60	最大径 62.3	最大高 34.6	最大厚 0.7	樺皮綴し 添木2ヶ所挿入 内面縦平行のケビキ 籬2段					ほぼ完形	針葉樹
1396	2180-02	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.58	最大径 43.0		最大厚 1.6	一部削痕 板目取り					1/3	井戸枠に転用 針葉樹
1397	2153-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.21	最大径 69.7	最大幅 43.0	最大厚 14.5	加工痕不明瞭 板目取り 木の曲線を利用? 節残る					ほぼ完形	スギ
1398	2135-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.23	最大径 69.0	最大幅 41.2	最大厚 15.3	加工痕不明瞭 板目取り 木の曲線を利用? 節残る					ほぼ完形	スギ
1399	2148-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.30	最大径 40.3	最大幅 21.7	最大厚 5.0	加工痕不明瞭 板目取り 木の曲線を利用? 節残る					ほぼ完形	スギ
1400	2149-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.30	最大径 40.2	最大幅 22.0	最大厚 5.6	加工痕不明瞭 板目取り 木の曲線を利用?					ほぼ完形	スギ
1401	2151-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.40	最大径 58.5	最大幅 38.0	最大厚 13.6	加工痕不明瞭 板目取り 木の曲線を利用?					ほぼ完形	スギ
1402	2162-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.36	最大径 39.5	最大幅 31.4	最大厚 11.4	一部削痕 板目取り 木の曲線を利用?					ほぼ完形	スギ
1403	2127-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.18	最大径 50.3	最大幅 33.5	最大厚 11.6	一部削痕 板目取り 木の曲線を利用? 節残る					ほぼ完形	スギ
1404	2157-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.25	最大径 35.0	最大幅 25.3	最大厚 8.3	一部削痕 板目取り 木の曲線を利用?					ほぼ完形	スギ
1405	2163-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.27	最大径 52.2	最大幅 40.5	最大厚 14.7	加工痕不明瞭 板目取り 木の曲線を利用?					ほぼ完形	スギ
1406	2130-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.50	最大径 55.0	最大幅 10.2	最大厚 2.8	板状 加工痕不明瞭 板目取り					ほぼ完形	針葉樹
1407	2131-02	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.48	最大径 58.7	最大幅 11.8	最大厚 6.1	板状 加工痕不明瞭 追目取り					ほぼ完形	針葉樹
1408	2183-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.6	最大径 46.1	最大幅 26.2	最大厚 3.8	板状 加工痕不明瞭 追目取り					ほぼ完形	針葉樹
1409	2105-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.54	最大径 80.3	最大幅 20.6	最大厚 7.6	板状 加工痕不明瞭 板目取り					ほぼ完形	スギ
1410	2104-02	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.53	最大径 83.0	最大幅 17.8	最大厚 4.5	板状 加工痕不明瞭 板目取り					ほぼ完形	スギ
1411	2132-02	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.52	最大径 79.7	最大幅 12.5	最大厚 6.0	板状 一部削痕 追目取り					ほぼ完形	スギ
1412	2167-02	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.47	最大径 64.5	最大幅 14.5	最大厚 8.5	板状 加工痕不明瞭 追目取り					ほぼ完形	針葉樹
1413	2167-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.2	最大径 60.1	最大幅 14.9	最大厚 3.6	板状 加工痕不明瞭 板目取り					ほぼ完形	針葉樹
1414	2158-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.45	最大径 53.2	最大幅 38.5	最大厚 5.9	板状 加工痕不明瞭 板目取り					ほぼ完形	スギ
1415	2120-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.42	最大径 76.6	最大幅 18.3	最大厚 5.9	板状 加工痕不明瞭 板目取り					ほぼ完形	スギ
1416	2132-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.51	最大径 75.0	最大幅 16.6	最大厚 6.1	板状 一部削痕 追目取り					ほぼ完形	針葉樹
1417	2108-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.47	最大径 81.0	最大幅 15.0	最大厚 6.5	板状 一部削痕 追目取り					ほぼ完形	針葉樹
1418	2159-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.35	最大径 35.7	最大幅 15.3	最大厚 4.6	板状 一部削痕 板目取り 穿孔あり					ほぼ完形	針葉樹
1419	2164-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.17	最大径 42.7	最大幅 14.0	最大厚 3.8	板状 一部削痕 板目取り					ほぼ完形	スギ
1420	2181-02	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.24	最大径 35.1	最大幅 8.6	最大厚 4.4	板状 一部削痕 追目取り					ほぼ完形	針葉樹
1421	2180-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.1	最大径 54.5	最大幅 14.5	最大厚 3.1	板状 加工痕不明瞭 板目取り 穿孔あり					ほぼ完形	針葉樹
1422	2186-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.8	最大径 54.8	最大幅 16.4	最大厚 3.2	板状 加工痕不明瞭 追目取り					ほぼ完形	スギ
1423	2165-02	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.34	最大径 45.0	最大幅 15.0	最大厚 5.9	板状 加工痕不明瞭 板目取り					ほぼ完形	スギ
1424	2181-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.24	最大径 44.2	最大幅 13.1	最大厚 4.5	板状 加工痕不明瞭 板目取り 穿孔あり					ほぼ完形	針葉樹
1425	2106-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.26	最大径 46.7	最大幅 20.7	最大厚 5.3	板状 加工痕不明瞭 板目取り					ほぼ完形	スギ
1426	2168-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.38	最大径 59.4	最大幅 4.0	最大厚 4.3	板状 加工痕不明瞭 板目取り					ほぼ完形	針葉樹
1427	2161-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.32	最大径 54.4	最大幅 14.4	最大厚 6.4	板状 加工痕不明瞭 板目取り					ほぼ完形	スギ
1428	2183-02	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.4	最大径 52.0	最大幅 14.5	最大厚 4.5	板状 加工痕不明瞭 板目取り					ほぼ完形	スギ
1429	2119-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.31	最大径 47.3	最大幅 22.8	最大厚 4.1	板状 一部削痕 板目取り					ほぼ完形	針葉樹
1430	2166-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.11	最大径 59.3	最大幅 25.5	最大厚 6.2	板状 加工痕不明瞭 板目取り 穿孔?					ほぼ完形	スギ
1431	2117-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.57	最大径 57.8	最大幅 23.8	最大厚 3.5	板状 一部削痕 追目取り					ほぼ完形	針葉樹
1432	2118-01	木製品	井戸枠縦板	SE46	No.29	最大径 76.5	最大幅 21.4	最大厚 4.9	板状 一部削痕 追目取り					ほぼ完形	スギ

第49表 遺物観察表③④

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
					口径	底径	器高							
1433	2131-01	木製品	井戸枠 縦板	SE46	No.46	最大長 66.6	最大幅 17.1	最大厚 6.4	板状 加工痕不明瞭 板目取り			ほぼ完形	ヒノキ属	
1434	2104-01	木製品	井戸枠	SE46	No.61	最大長 84.7	最大幅 10.9	最大厚 5.9	一部削痕 板目取り			ほぼ完形	針葉樹	
1435	2099-01	木製品	井戸枠	SE46	No.56	最大長 139.6	最大幅 18.5	最大厚 10.4	一部削痕 追証目取り			完形	スギ	
1436	2147-01	木製品	井戸枠	SE46	No.55	最大長 135.0	最大幅 24.2	最大厚 16.3	一部削痕 追証目取り			ほぼ完形	スギ	
1437	378-04	土師器	小皿	SE55		7.7		1.8	外・内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	灰白2.5Y8/1他	完形	灯明皿 内面に油煙
1438	378-03	陶器	山茶碗	SE55	H22		7.4		外:ロクロナデ→貼付け高台→糸切り痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	底部3/5	転用碗? 底部内面黒く滑らか
1439	2109-01	木製品	曲物	SE55	上	最大径 49.0	最大高 27.0	最大厚 0.6	樺皮綴じ 内面縦平行のケビキ 籬1段				上部欠失 ほぼ完形	スギ
1440	2110-01	木製品	曲物	SE55	下	最大径 51.0	最大高 32.1	最大厚 0.6	樺皮綴じ 内面縦平行のケビキ 籬2段 添木1ヶ所挿入				ほぼ完形	スギ
1441	639-04	ロクロ土師器	皿	SE207	G26	11.0	5.0	2.1	外:ロクロナデ→ナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白10YR7/2	1/3	
1442	639-05	土師器	甕	SE207	G25	(29.0)			外・内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	淡黄2.5Y8/3	口縁1/10	
1443	640-01	土師器	皿	SE207	G26	11.2		2.3	外:オサエ 内:ナデ	やや粗	不良	灰白7.5Y8/1	3/4	
1444	640-04	土師器	皿	SE207	G26	(9.8)			外:オサエ→ナデ 内:工具ナデ	やや密	良	灰白5Y8/2	口縁1/4	
1445	639-02	陶器	山茶碗	SE207	G26	(15.2)	(7.0)	(5.0)	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白7.5Y7/1	1/3	
1446	639-03	陶器	山茶碗	SE207	I27		7.6		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	やや密	良	明紫灰5P7/1	底部	底部内面に墨痕
1447	2221-02	木製品	碗	SE207	G26	最大長 6.6	最大幅 3.2	最大厚 0.9	内面に黒漆塗布 高台部の痕あり				底部小片	樹種不明
1448	2058-03	木製品	棒状 木製品	SE207	G25	最大長 21.5	最大幅 1.1	最大厚 1.0	加工痕不明瞭				ほぼ完形	樹種不明
1449	2069-01	木製品	板状 木製品	SE207	G25	最大長 29.5	最大幅 5.1	最大厚 1.5	板状 板目取り				ほぼ完形	樹種不明
1450	2235-01	木製品	曲物	SE207	F26 G26	最大径 49.0	最大高 27.1	最大厚 0.6	加工痕不明瞭 樺皮綴じ 内面縦平行のケビキ				ほぼ完形	スギ
1451	2069-02	木製品	曲物	SE207		最大径 (17.6)		最大厚 0.8	加工痕不明瞭 板目取り				底1/2	針葉樹
1452	2032-02	木製品	畜串 C	SE207	G25	最大長 11.0	最大幅 1.5	最大厚 0.25	上端部圭頭状 切込み左右1ヶ所 板目取り				1/4	針葉樹
1453	653-01	ロクロ土師器	皿	SE221	J18		(5.5)		外:ロクロナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	灰白2.5Y8/2	底部完形	
1454	652-03	土師器	甕	SE221	J18	(15.5)			外:ヨコナデ→ナデ 内:ヨコナデ→ハケ×10本/cm	やや粗	並	灰白10YR8/2	口縁部片	
1455	652-02	土師器	甕	SE221	J18	(16.0)			外:ヨコナデ→オサエ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	淡黄2.5Y8/3他	口縁部片	外面に煤付着
1456	652-01	陶器	山茶碗	SE221	J18 No.5		(8.0)		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	底部片	高台に粉痕
1457	2085-01	木製品	板状 木製品	SE221	J18 No.10	最大長 53.2	最大幅 9.6	最大厚 2.4	板状 加工痕不明瞭 板目取り				小片	針葉樹
1458	2084-01	木製品	板状 木製品	SE221	J18 No.9	最大長 44.6	最大幅 4.9	最大厚 1.9	板状 加工痕不明瞭 板目取り				小片	針葉樹
1459	2081-01	木製品	板状 木製品	SE221	J18 No.1	最大長 43.6	最大幅 8.0	最大厚 2.2	板状 加工痕不明瞭 板目取り				小片	針葉樹
1460	2058-02	木製品	板状 木製品	SE221	J18 No.11	最大長 18.4	最大幅 2.25	最大厚 1.45	板状 加工痕不明瞭 板目取り				小片	針葉樹
1461	2082-01	木製品	板状 木製品	SE221	J18 No.2	最大長 33.7	最大幅 9.1	最大厚 2.1	板状 加工痕不明瞭 板目取り				小片	針葉樹
1462	2236-01	木製品	曲物	SE221	J18 No.13	最大径 40.5	最大高 26.5	最大厚 0.6	加工痕不明瞭 樺皮綴じ 内面縦平行のケビキ 籬1段				ほぼ完形	スギ
1463	2244-01	木製品	曲物	SE221	J18 No.15	最大径 43.4	最大高 24.0	最大厚 0.5	加工痕不明瞭 樺皮綴じの痕 内面縦平行のケビキ 籬2段				倒板のみ	スギ
1464	662-03	土師器	小皿	SE224	J39 No.7	7.9		1.3	外:ナデ→オサエ、ナデ 内:ナデ	やや密	並	にぶい橙7.5YR7/4	完形	
1465	662-04	土師器	小皿	SE224	J39 No.9	(8.0)		(1.2)	外:ナデ→オサエ、ナデ 内:ナデ	やや密	並	淡黄橙10YR8/4	口縁1/2	
1466	662-02	土師器	皿	SE224	J39	(12.2)			外:ナデ→オサエ、ナデ 内:ナデ	やや密	並	にぶい黄橙10YR7/2	口縁1/2	
1467	662-01	陶器	山茶碗	SE224	J39 No.1		(7.0)		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	灰白5Y8/1	底部1/2	
1468	2071-01	木製品	板状 木製品	SE224	J39 No.1・2	最大長 54.7	最大幅 8.5	最大厚 1.0	加工痕不明瞭 板目取り				小片?	樹種不明
1469	648-01	土師器	皿	SE225	E・F39 No.2	11.0~ 11.3		2.3	外:ナデ→オサエ、ナデ 内:ナデ	やや密	並	灰白10YR8/2	完形	
1470	648-02	土師器	皿	SE225	E・F39 No.1	11.0~ 11.5		2.3	外:ナデ→オサエ、ナデ 内:ナデ・工具痕	やや密	良	灰白2.5Y8/2	ほぼ完形	
1471	648-05	陶器	山茶碗	SE225	E・F39	(14.5)			外・内:ロクロナデ	やや密	並	灰白2.5Y8/1	口縁1/3	外面に墨書「トーマン」
1472	2070-01	木製品	曲物	SE225		最大径 (46.0)	最大高 4.6	最大厚 0.3	加工痕不明瞭 籬の可能性あり				1/4	スギ
1473	505-02	土師器	皿	SE226	J43 No.3	13.1		3.0	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	にぶい橙7.5YR7/3他	ほぼ完形	端部に煤付着
1474	655-05	土師器	皿	SE226	J43	(12.3)		(2.85)	外:ヨコナデ→オサエ、ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	淡黄橙10YR8/3	口縁のみ	
1475	569-01	土師器	鍋	SE226	J43	(36.0)			外・内:ヨコナデ→ナデ、オサエ→ケズリ	やや粗	並	外:灰濁7.5YR5/2他 内:淡黄橙10YR8/3他	口縁1/4	外面に煤付着
1476	655-04	陶器	山茶碗	SE226	J43	13.6	5.5	4.8	外:ロクロナデ→貼付け高台→糸切り痕 内:ロクロナデ	やや粗	良	灰白2.5Y7/1	口縁片	
1477	504-04	陶器	山茶碗	SE226	J43 No.1・4	16.2	6.4	4.7	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白N7/0他	口縁2/3 底部完形	底部外面に墨書「お」

第50表 遺物観察表③

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
					口径	底径	器高							
1478	2076-01	木製品	曲物	SE226	J43	最大径41.5	最大高25.5	最大厚0.6	加工痕不明瞭 内面に縦平行のケビキ 蓋を留める切込みあり			側板のみ	スギ	
1479	2073-01	木製品	曲物	SE226	J43	最大径(53.0)	最大高6.9	最大厚0.4	加工痕あり 蓋の可能性あり			1/3	スギ	
1480	656-01	土製品	土埴	SE226	J43	最大長5.0	最大幅1.3	穴径0.3	ナデ	密	良	灰白10YR8/2	ほぼ完形	重量8.15g
1481	650-05	土師器	皿	SE231	E37	7.3		1.0	外:ナデ→オサエ,ナデ 内:ナデ	やや密	並	にぶい黄7.5YR6/3	口縁1/2	
1482	649-04	土師器	皿	SE231	E37	(12.0)			外:ナデ→オサエ,ナデ 内:ナデ	やや密	並	浅黄橙7.5YR8/3	口縁1/3	
1483	553-01	土師器	鍋	SE231	D・E37 No.2	23.8		16.4	外:ヨコナデ→ナデ後コピオサエ→ナデ・調整不明 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	不良	にぶい黄橙10YR7/3	ほぼ完形	外面炭化物付着
1484	504-03	陶器	山茶碗	SE231	D・E37 No.1	15.2	6.5	4.95	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	粗	良	灰白N7/0他	完形	底部外面に墨書「？」
1485	648-06	陶器	山茶碗	SE231	E37	(15.5)			外:内:ロクロナデ	やや密	良	灰白5Y7/1	口縁1/4	
1486	2079-01	木製品	曲物	SE231	D・E37 No.9・10	最大径41.8	最大高5.5	最大厚0.5	加工痕不明瞭 内面縦方向のケビキ				小片	スギ
1487	2075-01	木製品	曲物	SE231	D・E37 No.1	最大径(60.0)	最大高16.0	最大厚0.5	加工痕不明瞭 内面縦方向のケビキ 椀皮綴じ				ほぼ完形	スギ
1488	649-05	土師器	杯	SE232	J・K37	(15.0)			外:内:ヨコナデ	やや密	並	にぶい橙7.5YR7/4	口縁1/5	
1489	2087-01	木製品	板状木製品	SE232	J・K37	最大長28.1	最大幅4.7	最大厚1.0	井戸枠か 板目取り				破片	針葉樹
1490	2242-01	木製品	曲物	SE232	J・K37	最大径45.0	最大高20.7	最大厚0.6	加工痕不明瞭 内面縦平行と斜めのケビキ 蓋1段				1/3	スギ
1491	570-01	陶器	山茶碗	SE233	K38 No.4	16.3~16.5	8.3	5.5	外:ロクロナデ→貼付け高台→糸切り痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白N8/0	ほぼ完形	底部内面滑らか
1492	2077-01	木製品	曲物	SE233	K38 No.3	最大径34.9	最大高23.8	最大厚0.6	加工痕不明瞭 椀皮綴じ 内面縦平行のケビキ 蓋1段一部残				ほぼ完形	針葉樹
1493	2078-01	木製品	曲物	SE233	K38 No.1・2	最大径46.6	最大高14.0	最大厚0.5	加工痕不明瞭 椀皮綴じ 内面縦平行のケビキ 蓋1段				ほぼ完形	針葉樹
1494	217-02	土師器	小皿	SE368	H44	7.8~8.0		1.2	外:ヨコナデ→ナデ,オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁2/3	
1495	217-03	土師器	小皿	SE368	H44	8.4~8.8		1.3	外:ヨコナデ→ナデ,オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	黄灰2.5Y5/1	2/3	
1496	219-02	土師器	皿	SE368	G44	(10.6)			外:ヨコナデ→オサエ,ナデ 内:ヨコナデ	やや密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁1/5	
1497	219-01	土師器	皿	SE368	G44	(9.4)			外:ヨコナデ→オサエ,ナデ 内:ヨコナデ	密	良	浅黄2.5Y7/3	口縁1/3	
1498	219-03	土師器	皿	SE368	H44	(13.0)			外:内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁1/4	
1499	219-05	土師器	皿	SE368	H44	(14.0)			外:内:ヨコナデ→ナデ	密	良	灰白10YR8/1	口縁1/2	
1500	219-04	土師器	鍋	SE368	H44	(25.4)			外:内:ナデ	やや密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁小片	外面に煤付着
1501	217-01	土師器	鍋	SE368	G・H44	(24.4)			外:内:ヨコナデ	やや密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁1/5	外面に煤付着
1502	218-03	土師器	鍋	SE368	H44	(39.4)			外:内:ナデ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁小片	
1503	218-04	土師器	鍋	SE368	H44	(41.0)			外:内:ナデ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR7/2	口縁小片	外面に煤付着
1504	217-04	陶器	山茶碗	SE368	H44	(16.8)			外:内:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	口縁1/6	
1505	217-05	陶器	山茶碗	SE368	H44		(7.2)		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ 内:ロクロナデ	やや密	良	黄灰2.5Y6/1	底部1/6	
1506	504-02	陶器	山茶碗	SE208	E26 No.7	16.2	7.1	5.35	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白N8/0他	完形	自然釉
1507	516-01	陶器	山茶碗	SE208	E26	(16.8)	(7.4)	(6.2)	外:ロクロナデ→高台貼付け後ヨコナデ 内:ロクロナデ	やや密	良	外:明紫灰5P7/1 内:灰白2.5Y7/1	1/3	
1508	517-02	陶器	山茶碗	SE208	E26 No.8	(15.6)	8.4	5.1	外:ロクロナデ→高台貼付け後ヨコナデ 内:ロクロナデ	やや密	並	外:灰白2.5Y7/1 内:灰5Y6/1	1/5	底部内面滑らか 自然釉
1509	628-01	陶器	山茶碗	SE208	E26		6.3		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白7.5Y7/1	底部完形	
1510	629-01	弥生土器	甕	SE208	E26 No.1~6・11	(19.1)			外:ヨコナデ→ハケメ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	灰黄褐10YR6/2	口縁1/2	
1511	2074-01	木製品	曲物	SE208	E26 No.10	最大径56.6	最大高15.5	最大厚0.6	加工痕不明瞭 椀皮綴じ 内面縦平行のケビキ				1/2	スギ?
1512	2072-01	木製品	曲物	SE208	E26 No.9	最大径(61.0)	最大高10.6	最大厚0.6	加工痕不明瞭 椀皮綴じ 内面縦平行のケビキ				1/2	スギ
1513	938-06	弥生土器	ミチュア土器 蓋	SD472	H47	最大長2.6	最大幅2.7	穴径0.4	調整不明、一部ミガキ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	ほぼ完形	
1514	938-02	ロクロ土師器	台付皿	SD472	G47	16.2	6.8	5.1	外:ロクロナデ→貼付け高台 内:ロクロナデ	やや粗	並	灰白10YR8/2	ほぼ完形	
1515	938-05	土師器	皿	SD472	H47	(7.8)			外:内:ナデ	やや密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁1/5	
1516	937-01	土師器	甕	SD472	H47	17.6			外:内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	浅黄橙10YR8/3	口縁3/4	外面に煤付着
1517	938-03	陶器	山茶碗	SD472	H47	(14.7)			外:内:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	口縁1/7	外面に一部自然釉
1518	938-04	陶器	山茶碗	SD472	H47		(7.6)		外:ロクロナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	底部1/2	
1519	938-01	陶器	山茶碗	SD472	H47		7.1		外:ロクロナデ→高台貼付け→糸切り痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	底部完形	底部内面滑らか
1520	386-03	土師器	杯	SK25	H16	(14.0)			外:内:ヨコナデ→ナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁1/6	
1521	386-02	土師器	皿	SK25	H16	(11.0)			外:内:ヨコナデ→ナデ	密	並	灰白10YR8/2	口縁1/4	

第51表 遺物観察表③

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置		法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
						口径	底径	器高						
1522	350-04	土師器	皿	SK25	H16	13.2		2.6	外:ヨコナデ→オサエ、ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	灰白10YR8/2他	口縁3/5	
1523	353-02	土師器	小皿	SK25	H16	(7.0)		(0.6)	外:未調整 内:ナデ	密	並	淡黄2.5Y8/3	口縁1/3	
1524	386-05	土師器	皿	SK25	H16	(9.9)			外・内:ナデ	密	並	灰白2.5Y8/1	口縁1/4	
1525	350-03	土師器	皿	SK25	H16	7.7		2.35	外:オサエ、ナデ 内:ナデ	やや密	並	灰白2.5Y8/1	口縁7/8	
1526	386-06	土師器	皿	SK25	H16	8.6			外・内:ナデ	密	並	灰白10YR8/2	口縁3/4	
1527	386-04	土師器	皿	SK25	H16	(9.0)			外・内:ナデ	密	並	灰白2.5Y8/2	口縁1/4	
1528	385-06	陶器	壺	SK25	H16		(8.1)		外:ロクロスリ→貼付け高台→ロクロナデ 内:ロクロナデ	密	良	外:灰N6/0 内:灰白N7/0	底部1/2	内面に焼き結れ
1529	386-01	陶器	壺	SK25	H16		(13.8)		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→ロクロナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰白N8/0	底部1/2	自然釉付着 高台に工具痕・煤付着
1530	2220-03	木製品	椀	SK25		最大長 10.6	(7.8)		高台残る 内面に朱塗残存				底部片	トネリコ属 内面朱漆と黒漆の塗布
1531	206-05	ロクロ土師器	皿	SK313	E75-76	8.5	4.0	1.9	外:ロクロナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	灰白10YR8/2	1/3	
1532	207-05	ロクロ土師器	皿	SK313	D75		4.0		外:ロクロナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ→ナデ	やや密	並	灰白10YR8/2	底部完形	
1533	206-04	ロクロ土師器	皿	SK313	E75		1.8		外:ロクロナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白10YR8/2	底部完形	
1534	205-10	土師器	甕	SK313	E75	(16.0)			外:ヨコナデ→ナデ 内:ヨコナデ→ハケ×8本/cm	やや粗	並	灰白2.5Y8/1	口縁1/6	
1535	207-04	土師器	甕	SK313	D75				外:ヨコナデ→オサエ、ナデ 内:ヨコナデ→ハケ×9本/cm	やや粗	並	明褐灰7.5YR7/2	小片	
1536	205-09	土師器	椀	SK313	E75	(14.5)			外・内:ヨコナデ	やや密	並	灰白10YR8/2	口縁1/3	
1537	206-03	陶器	山茶椀	SK313	D76		7.0		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白5Y7/1	底部1/3	高台に粉殻痕
1538	207-02	土師器	皿	SK313	E75-76	(10.3)			外:ヨコナデ→オサエ、ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	並	灰白10YR8/2	口縁1/6	
1539	205-03	土師器	皿	SK313	E75-76	(10.0)	(2.5)		外・内:ナデ	やや密	並	灰白2.5Y8/1	2/3	
1540	205-01	土師器	皿	SK313		10.0		2.5	外・内:ナデ、オサエ	やや密	並	灰白10YR8/1	2/3	
1541	205-02	土師器	皿	SK313	C74	(11.0)	(2.6)		外・内:ナデ、オサエ	やや密	並	淡黄2.5Y8/3	2/3	
1542	205-05	土師器	小皿	SK313	E75-76	7.0	1.0		外・内:ナデ、オサエ	やや密	並	灰白10YR8/1	ほぼ完形	
1543	205-07	土師器	小皿	SK313	E75-76	7.5	0.8		外・内:ナデ、オサエ	やや密	並	灰白2.5Y8/2	ほぼ完形	
1544	205-04	土師器	小皿	SK313		6.5	1.2		外・内:ナデ、オサエ	やや密	並	灰白2.5Y8/2	ほぼ完形	
1545	205-06	土師器	小皿	SK313	E75-76	(7.0)		(0.85)	外・内:ナデ、オサエ	やや密	並	灰白10YR8/2	1/2	
1546	2154-01	木製品	板状木製品	SK313		最大長 83.9	最大幅 9.6	最大厚 2.7	表面腐食激しい				1/2?	樹種不明
1547	934-01	陶器	山茶椀	SK423	H67		(7.5)		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白N8/1	高台1/2	内面に自然釉 高台に粉殻痕
1548	934-04	土師器	鍋	SK423	H67	(30.0)			外・内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	灰白2.5Y8/2	口縁小片	
1549	934-03	土師器	鍋	SK423	H67	(30.0)			外:ヨコナデ→ハケ× 内:ヨコナデ	やや密	良	灰白2.5Y8/2	口縁小片	
1550	934-02	陶器	甕	SK423	H67		(11.0)		外:ナデ→工具ナデ 内:工具ナデ	粗	良	灰褐7.5YR4/2	底部1/3	
1551	935-04	木製品	土鏝	SK423	G66	最大長 3.3	最大幅 3.9	穴径 0.9	ナデ・工具痕	やや粗	良	淡黄2.5Y7/4	完形	重量50.52g
1552	209-05	土師器	羽釜	SK356					外:ヨコナデ→ハケ×3本/0.6cm 内:ナデ	やや粗	並	灰白2.5Y8/2	小片	
1553	2137-01	木製品	杭	SK356	N88 No.6	最大長 80.6	最大幅 5.1	最大厚 5.9	先端尖る 木材そのまま使用 樹皮の痕が残る				ほぼ完形	樹種不明
1554	2138-01	木製品	杭	SK356	N88 No.2	最大長 105.8	最大幅 5.0	最大厚 5.2	先端尖る 木材そのまま使用 樹皮の痕が残る				ほぼ完形	樹種不明
1555	2139-01	木製品	杭	SK356	N88 No.7	最大長 113.0	最大幅 4.4	最大厚 6.0	先端尖る 木材そのまま使用 樹皮の痕が残る				ほぼ完形	樹種不明
1556	2138-02	木製品	杭	SK356	N88 No.4	最大長 104.0	最大幅 8.9	最大厚 7.5	先端尖る 木材そのまま使用 樹皮の痕が残る				ほぼ完形	樹種不明
1557	2137-02	木製品	杭	SK356	N88 No.5	最大長 118.4	最大幅 6.0	最大厚 6.0	先端尖る 木材そのまま使用 樹皮の痕が残る				ほぼ完形	樹種不明
1558	2154-02	木製品	杭	SK356	N88 No.1	最大長 107.4	最大幅 7.4	最大厚 7.5	先端尖る 木材そのまま使用 樹皮の痕が残る				ほぼ完形	樹種不明
1559	650-04	土師器	皿	SD204	G27	(10.0)			外・内:ナデ	やや密	並	灰白10YR8/2	口縁1/6	
1560	650-07	釉陶器	椀	SD204	G27		6.7		外:ロクロナデ→ケズリ出し高台 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白10Y8/1	高台完形	
1561	650-08	木製品	土鏝	SD204	F27	最大長 6.1	最大幅 2.1	穴径 0.5	ナデ、オサエ	やや密	並	ぶい橙7.5YR7/4	ほぼ完形	重量19.425g
1562	650-02	土師器	皿	SD206	G25	(10.8)		(2.4)	外:ヨコナデ→オサエ、ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	灰白10YR8/2	口縁1/2	
1563	650-03	土師器	皿	SD206	G25	(10.8)		(2.6)	外:ヨコナデ→オサエ、ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	灰白10YR8/1	口縁1/3	
1564	241-07	土師器	小皿	SD371	D42	(7.9)		(1.5)	外:ナデ→オサエ 内:ナデ	やや粗	並	褐灰7.5YR5/1	口縁1/3	
1565	241-08	土師器	小皿	SD371	D42	(8.0)		(1.2)	外・内:ナデ	やや粗	並	灰白10YR8/2	口縁1/8	
1566	242-05	土師器	小皿	SD371	F-C44	7.8		1.5	外・内:ナデ	やや密	良	淡黄2.5Y8/3	ほぼ完形	

第52表 遺物観察表㉔

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置		法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
						口径	底径	器高						
1567	242-04	土師器	小皿	SD371	F・G44	7.8		1.4	外・内:ナデ	密	良	淡黄2.5Y8/3	ほぼ完形	
1568	242-03	土師器	小皿	SD371	F・G44	7.8		1.6	外・内:ナデ	やや密	良	浅黄橙10YR8/3	ほぼ完形	
1569	243-09	土師器	小皿	SD371	G44	7.2		1.1	外:ナデ→オサエ 内:ナデ	やや粗	良	淡黄2.5Y8/3	完形	
1570	241-09	土師器	小皿	SD371	F43	(6.8)		(0.9)	外:ナデ→オサエ 内:ナデ	やや粗	並	灰白10YR8/2	口縁1/3	
1571	242-08	土師器	小皿	SD371	F・G44	7.9			外:ナデ後オサエ→ナデ 内:ナデ	やや密	良	淡黄2.5Y8/3	口縁1/3	
1572	242-09	土師器	小皿	SD371	F・G44	8.0		1.0	外:ナデ後オサエ 内:ナデ	やや密	良	灰白2.5Y8/2	ほぼ完形	
1573	241-04	土師器	小皿	SD371	E・F43	8.1		1.3	外:オサエ 内:ナデ	やや密	並	灰白10YR8/2	完形	
1574	237-07	土師器	皿	SD371	F44	(10.8)		(1.9)	外・内:ナデ	密	並	灰白10YR8/2他	口縁2/3	
1575	240-03	土師器	皿	SD371	E・F43	(10.9)		(2.0)	外:ナデ→オサエ 内:ナデ	やや密	並	灰白10YR8/2	口縁1/3	
1576	241-06	土師器	皿	SD371	E43・44 F43・44	(11.0)		(1.75)	外:オサエ 内:ナデ	やや密	並	灰白2.5Y8/2	口縁1/8	
1577	240-02	土師器	皿	SD371	E43・44 F43・44	11.6		2.3	外:オサエ 内:ナデ	やや粗	並	灰白10YR8/2	口縁1/2	
1578	237-01	土師器	皿	SD371	F44	12.0		2.5	外:ナデ後オサエ→ナデ,オサエ 内:ナデ後オサエ	密	並	灰白2.5Y8/2	完形	
1579	240-04	土師器	皿	SD371	E43・44 F43・44	(11.9)		(2.5)	外:オサエ 内:ナデ	やや密	並	灰白10YR7/1	口縁1/4	
1580	237-05	土師器	皿	SD371	F44	(11.0)		(2.3)	外:ナデ後オサエ 内:ナデ	密	並	灰白5Y8/2	口縁1/4	
1581	240-01	土師器	皿	SD371	E43	11.2~ 11.5		2.3	外:ナデ→オサエ 内:ナデ	やや粗	並	灰白2.5Y8/2	完形	
1582	240-05	土師器	皿	SD371	F44	10.7		2.4	外:ナデ→オサエ 内:ナデ	やや密	並	灰白2.5Y8/2	口縁1/2	
1583	244-01	土師器	皿	SD371	G44	(12.0)			外・内:ナデ	密	並	淡黄2.5Y8/3	口縁1/4	
1584	242-06	土師器	皿	SD371	F・G44	(11.3)			外・内:ナデ	密	良	灰白2.5Y8/2	口縁1/3	
1585	237-02	土師器	皿	SD371	F44	(12.6)			外:ナデ後オサエ 内:ナデ後オサエ→ナデ	密	並	灰白10YR8/2	口縁1/5	
1586	240-08	土師器	皿	SD371	E43・44 F43・44	(12.0)			外・内:ナデ	やや密	並	淡黄5Y8/3	口縁1/6	
1587	240-07	土師器	皿	SD371	E43・44 F43・44	(11.9)		(2.15)	外・内:ナデ	やや密	並	灰白2.5Y8/2	口縁1/6	
1588	242-G7	土師器	皿	SD371	F・G44	(11.6)			外・内:ナデ	やや密	良	淡黄2.5Y8/3	口縁1/4	
1589	237-08	土師器	皿	SD371	F44	(16.0)			外:ヨコナデ→ナデ,オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	並	灰白10YR8/2	口縁1/20	
1590	244-05	土師器	鍋	SD371	G44				外・内:ヨコナデ	粗	並	にぶい,橙7.5YR7/3他	小片	
1591	244-06	土師器	鍋	SD371	G44				外・内:ヨコナデ	粗	並	にぶい,橙5YR7/3他	小片	
1592	238-01	土師器	鍋	SD371	F44	(33.2)			外・内:ヨコナデ	やや粗	並	外:灰白10YR8/2 内:にぶい,黄橙10YR7/3	口縁1/19	外面に煤付着
1593	238-02	陶器	山茶碗	SD371	E43・44 F43・44	(16.0)			外・内:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y8/1	口縁1/8	
1594	244-08	陶器	山茶碗	SD371	G44	(16.6)			外・内:ロクロナデ	やや密	良	灰白N7/0	口縁1/8	
1595	244-07	陶器	山茶碗	SD371	G44				外・内:ロクロナデ	やや密	良	灰白N8/0	小片	
1596	242-02	陶器	山茶碗	SD371	G44				外・内:ロクロナデ	やや粗	良	灰白2.5Y7/1他	小片	
1597	245-08	陶器	山茶碗	SD371	G44		6.8		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	良	灰白N8/0	高台3/4	
1598	245-02	陶器	山茶碗	SD371	G44		(6.6)		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白7.5Y7/1	高台1/3	高台に粗粒痕
1599	243-03	陶器	山茶碗	SD371	G44		(8.0)		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰白5Y8/1	底部完形	
1600	245-03	陶器	山茶碗	SD371	G44		6.8		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白N8/0他	高台完形	
1601	239-01	陶器	山茶碗	SD371	E43・44 F43・44		(5.4)		外:ロクロナデ→貼付け高台→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	灰白5Y8/1	底部完形	高台に粗粒痕 底部外面に墨書「よね」
1602	243-07	陶器	山茶碗	SD371	F44		6.0		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	底部1/2	底部内面滑らか 高台粗粒痕
1603	245-01	陶器	山茶碗	SD371	G44		6.8		外:ロクロナデ→高台貼付け後ヨコナデ 内:ロクロナデ	やや粗	良	灰白7.5Y7/1	高台完形	
1604	238-03	陶器	山茶碗	SD371	E43・44 F43・44		6.8		外:ロクロナデ→貼付け高台 内:ロクロナデ	密	良	灰白10YR7/1	高台5/6	高台に粗粒痕
1605	243-01	陶器	山茶碗	SD371	G44		7.8		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白10YR7/1	底部完形	高台に粗粒痕
1606	242-01	陶器	蓋	SD371	G44	(16.0)			外・内:ロクロナデ	やや粗	良	外:灰白10YR7/1他 内:灰褐7.5YR6/2	小片	
1607	649-02	陶器	山皿	S2227	H38	(9.5)	(5.0)	(3.5)	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白2.5Y8/1	1/4	外面に自然釉
1608	649-01	陶器	山茶碗	S2227	H・I38 No.10		7.7		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕,工具痕 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白2.5Y8/1	底部2/3	底部内面滑らか
1609	648-03	土師器	皿	S2227	H・I38 No.1	10.9~ 11.3		2.2	外:ナデ→オサエ,ナデ 内:ナデ	やや密	良	灰白2.5Y8/2	ほぼ完形	
1610	648-04	土師器	皿	S2227	H・I38 No.2・3	(9.0)		(2.4)	外:ナデ→オサエ 内:ナデ	やや密	良	灰白2.5Y8/2	1/2	
1611	649-06	土製品	土錘	S2227	H・I38	最大長 5.4	最大幅 2.2	穴径 0.7	中央膨らむ	やや密	並	灰白7.5YR8/2他	完形	重量18.65g 黒変あり

第53表 遺物観察表(38)

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置		法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
						口径	底径	器高						
1612	651-05	金属製品	鍔貨	SZ227	H-138	直径2.41		穴径0.7	元通貫				完形	重量3.07g
1613	651-03	金属製品	鍔貨	SZ227	H-138	直径2.47		穴径0.7	不明				完形	重量2.60g
1614	651-01	金属製品	鍔貨	SZ227	H-138	直径2.41		穴径0.7	元通貫				完形	重量2.26g
1615	651-04	金属製品	鍔貨	SZ227	H-138	直径2.48		穴径0.7	不明				完形	重量2.97g
1616	651-02	金属製品	鍔貨	SZ227	H-138	直径2.44		穴径0.65	元通貫				完形	重量3.08g
1617	2080-01	木製品	枕	SZ227	H-138	最大長44.5	最大幅4.9	最大厚4.5	先端尖る 腐食激しい 板目取り				1/4?	樹種不明
1618	568-01	土師器	皿	SR210	H22 第5層	22.0		2.7	外:ヨコナデ→オサエ後一部ケズリ 内:ヨコナデ	やや密	並	にぶい・橙5YR7/4他	口縁1/2	内面に明文
1619	558-04	土師器	皿	SR210	G20 第5層	(19.4)	(11.0)	(2.3)	外:ヨコナデ→ケズリ→コビオサエ 内:ヨコナデ	密	不良	にぶい・橙7.5YR7/4	口縁1/6	内面に暗文
1620	536-01	土師器	皿	SR210	I22 第5層	17.2	10.2	2.8	外:ヨコナデ→ケズリ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	橙5YR6/6	ほぼ完形	底部外面に線刻「×」
1621	538-02	土師器	皿	SR210	I25 第5層	(18.0)		(2.6)	外:ヨコナデ→ケズリ→オサエ、ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	外:淡黄2.5Y8/3 内:にぶい・褐7.5YR5/3	1/4	内面に線刻「一」
1622	526-06	土師器	杯	SR210	I25 第5層	(16.6)			外:ヨコナデ→ケズリ 内:ナデ	密	良	外:黒7.5YR1.7/1 内:明褐7.5YR5/6	口縁1/4	外面に線刻「ト」+「マ」格子
1623	533-06	土師器	杯	SR210	H23 第5層	(13.7)	(8.2)	(3.0)	外:ヨコナデ→ケズリ 内:ヨコナデ→ナデ、コビオサエ	密	不良	にぶい・橙5YR6/4	口縁1/4	
1624	533-05	土師器	杯	SR210	H23 第5層	(13.8)	(8.3)	(3.4)	外:ヨコナデ→ケズリ→ナデ 内:ヨコナデ	密	良	外:にぶい・黄橙10YR7/3 内:浅黄橙10YR8/4	1/4	内面に煤付着
1625	538-03	土師器	杯	SR210	I26 第5層	(13.0)		(3.2)	外:ヨコナデ→ナデ→ケズリ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	外:浅黄橙10YR8/3 内:浅黄橙7.5YR8/4	1/3	
1626	568-02	土師器	杯	SR210	J23	15.3~15.6		3.2	外:ヨコナデ→ケズリ 内:ヨコナデ	やや密	並	にぶい・橙7.5YR7/3	完形	
1627	562-04	土師器	杯	SR210	F18 第5層	(15.2)	(7.6)	(2.6)	外:ヨコナデ→ケズリ 内:ヨコナデ	密	良	にぶい・橙5YR6/4	口縁1/4	内面に暗文・線刻「×」
1628	549-06	土師器	杯	SR210	I26 第5層	(12.0)			外:ヨコナデ→ナデ→ケズリ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	外:黒N2/0 内:にぶい・橙5YR7/4	口縁1/6	
1629	534-02	土師器	杯	SR210	I22 第5層	(13.9)		(3.3)	外:ヨコナデ→ケズリ 内:ヨコナデ	密	良	灰黄褐10YR6/2	口縁1/4	内面に煤付着
1630	533-07	土師器	杯	SR210	H23 第5層	(15.6)	(10.6)	(3.05)	外:ヨコナデ→ケズリ 内:ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	1/4	
1631	560-04	土師器	杯	SR210	F17 第5層	(17.6)	(11.0)	(3.3)	外:ヨコナデ→ケズリ 内:ヨコナデ	密	良	にぶい・橙5YR7/4	口縁1/8	灯明皿 外面に油煙のような煤付着
1632	561-01	土師器	杯	SR210	F17 第5層	(17.5)	(12.1)	(3.75)	外:ヨコナデ→ケズリ 内:ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	底部1/4	
1633	567-03	土師器	杯	SR210	J26 第3層	11.3		3.5	外:ヨコナデ→オサエ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	にぶい・橙7.5YR7/3	ほぼ完形	灯明皿 両面に墨書 外面「上」 内面「下口上田」
1634	584-02	土師器	杯	SR210	J26 第4層	(12.4)		(3.4)	外:ヨコナデ→オサエ、ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	にぶい・黄橙10YR7/2他	口縁1/3	底部外面に墨書 「宮Jof中」
1635	567-04	土師器	杯	SR210	K27 第4層	10.1		3.1	外・内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	にぶい・黄橙10YR7/2	ほぼ完形	内面に煤付着 灯明皿
1636	549-05	土師器	杯	SR210	H21 第5層	(12.0)			外・内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	外:灰黄褐10YR5/2 内:黒10YR1.7/1	口縁1/6	
1637	584-01	土師器	杯	SR210	J25 第4層	12.4		3.1	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ミカキ	粗	並	灰黄2.5Y7/2	ほぼ完形	底部内面に線刻「×」
1638	538-01	土師器	杯	SR210	I25 第5層	14.0		3.2	外:ヨコナデ→ロクロナデ→ナデ、オサエ 内:ヨコナデ→ロクロナデ	密	良	外:明褐灰7.5YR7/2 内:褐灰7.5YR4/1	1/2	
1639	561-02	土師器	杯	SR210	F17 第5層	(10.9)			外:ヨコナデ→コビオサエ 内:ヨコナデ	密	不良	灰白2.5Y8/2	口縁1/4	
1640	613-04	土師器	杯	SR210	H18 第2層	(12.8)			外・内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	にぶい・黄橙10YR7/3	口縁1/8	内面に線刻「交差」
1641	505-01	土師器	杯	SR210	H23 第5層	12.1		4.2	外:ヨコナデ→オサエ、ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	にぶい・黄橙10YR6/3他	口縁3/5	
1642	502-01	土師器	杯	SR210	I24 第5層	12.5		4.0	外:オサエ 内:ナデ	密	良	にぶい・黄橙10YR7/2	口縁5/8	
1643	526-03	土師器	杯	SR210	I23 第5層	(12.6)		(3.2)	外:ヨコナデ→コビオサエ 内:ヨコナデ	やや密	並	外:にぶい・橙7.5YR7/3 内:にぶい・橙7.5YR7/4	口縁1/4	
1644	507-03	土師器	杯	SR210	J28 第5層	11.4		3.5	外・内:ヨコナデ→ナデ	密	良	外:黒褐2.5Y3/1 内:灰黄2.5Y6/2	ほぼ完形	
1645	556-02	土師器	杯	SR210	K23 第5層	(10.7)		(4.0)	外:ヨコナデ→コビナデ 内:ヨコナデ	やや密	並	灰黄2.5Y7/2	口縁1/6	
1646	581-05	土師器	杯	SR210	G18 第4層	(11.0)		(3.7)	外:ヨコナデ→ナデ→ナデ後オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	並	灰黄2.5Y7/2	口縁1/4	
1647	530-01	土師器	杯	SR210	I24 第5層	(13.0)			外:ヨコナデ→工具痕→ナデ後コビオサエ 内:ヨコナデ→ロクロナデ	やや密	不良	灰白10YR8/2	口縁1/6	
1648	571-03	土師器	杯	SR210	K27 第4層	12.0		3.5	外:ヨコナデ→ナデ、オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	明褐灰7.5YR7/1他	ほぼ完形	灯明皿 端部に油煙
1649	567-02	土師器	杯	SR210	K27 第4層	12.4		3.85	外・内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	にぶい・黄2.5Y6/3他	完形	灯明皿
1650	559-04	土師器	杯	SR210	G20 第5層	(12.7)	(6.0)	(3.55)	外:ナデ→コビオサエ 内:ナデ	やや密	良	外:灰白2.5Y7/1 内:にぶい・褐7.5YR5/3	1/3	
1651	507-01	土師器	杯	SR210	J26 第5層	12.5		3.5	外:ヨコナデ→オサエ、ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	並	黄灰2.5Y4/1	口縁9/10	
1652	555-02	土師器	杯	SR210	J21 第5層	12.5		3.65	外:ヨコナデ→未調整 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	にぶい・黄橙10YR7/3	ほぼ完形	
1653	507-02	土師器	杯	SR210	J27 第5層	12.0		3.4	外:ヨコナデ→オサエ、ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	並	暗灰黄2.5Y5/2	口縁3/4	
1654	506-01	土師器	杯	SR210	F18 第5層	13.5		4.0	外:ヨコナデ後オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	外:浅黄2.5Y7/3 内:明黄褐2.5Y7/6	ほぼ完形	底部外面に線刻「×」
1655	525-04	土師器	杯	SR210	I24 第5層	11.0		3.25	外・内:ヨコナデ→ナデ	やや密	不良	灰白2.5Y7/1	1/2	

第54表 遺物観察表③

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置		法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
						口径	底径	器高						
1656	511-01	土師器	杯	SR210	J26 第5層	16.7		3.65	外:ヨコナデーオサエ 内:ヨコナデーナデ	密	並	灰褐7.5YR4/2他	4/5	内面に暗文
1657	579-02	土師器	杯	SR210	H18 第4層	(19.0)			外・内:ヨコナデーナデ	密	並	にぶい橙7.5YR6/3	口縁1/3	
1658	587-01	土師器	杯	SR210	J28 第4層 K28 第3層	15.0	8.8	4.0	外:ヨコナデーオサエ 内:ヨコナデーナデ	やや密	並	橙7.5YR7/6他		底部外面に線刻「トマン3本」 内面に工具痕か
1659	509-02	土師器	杯	SR210	K29 第5層	16.8		4.1	外:ヨコナデーオサエ、ナデ 内:ヨコナデーナデ	密	並	にぶい橙5YR6/3他	口縁9/10	内面に暗文 底部両面に線刻「トマン3本」 外面「トマン格子」 内面「トマン3本」
1660	506-05	土師器	杯	SR210	F19 第5層	(18.0)	(13.0)	(4.4)	外:ヨコナデーハケメーナデーユビオサエ 内:ヨコナデーナデ	密	良	外:にぶい橙7.5YR6/4 内:灰褐7.5YR4/2	小片	底部内面に螺旋暗文 底部外面に線刻「トマン」
1661	549-02	土師器	杯	SR210	H18 第5層	(18.0)			外:ヨコナデーナデーケズリ 内:ヨコナデーナデ	密	並	にぶい橙7.5YR7/3	口縁1/12	
1662	559-05	土師器	杯	SR210	G20 第5層	15.2	9.8	3.35	外:ヨコナデーケズリ・調整不明 内:ヨコナデー	密	良	にぶい橙5YR7/4	1/2	
1663	501-01	土師器	杯	SR210	F18 第4層	16.8		3.3	外・内:ヨコナデーナデ	密	良	にぶい橙10YR7/3		ほぼ完形 内面に暗文
1664	575-03	土師器	杯	SR210	I24 第4層	13.1		3.3	外:ナデーオサエ 内:ナデーミガキ	やや密	並	にぶい橙5YR7/4	口縁1/2	内面に暗文
1665	501-02	土師器	杯	SR210	I25 第5層	16.5		3.0	外・内:ヨコナデーナデ	密	良	にぶい橙5YR7/4	口縁1/2	内面に螺旋状の暗文
1666	587-02	土師器	杯	SR210	J-126 第4層	(15.6)		(3.3)	外:ヨコナデーオサエ、ナデー部ケズリ 内:ヨコナデーナデ	やや密	並	淡橙5YR8/3他	口縁1/3	
1667	591-02	土師器	杯	SR210	J23 第3層	(12.6)		(3.4)	外:ヨコナデーナデ、オサエ 内:ヨコナデーナデ	やや密	良	黒褐2.5Y3/1	口縁1/4	底部両面に線刻「トマン3本」
1668	598-04	土師器	杯	SR210	H19 第3層	(13.5)		(3.4)	外・内:ヨコナデーナデ	やや密	並	にぶい黄橙10YR7/2	口縁1/4	
1669	555-03	土師器	杯	SR210	J21 第5層	16.3		3.45	外・内:ナデ	やや密	良	外:橙5YR6/6 内:にぶい黄橙10YR7/4	1/2	
1670	581-07	土師器	杯	SR210	I25 第4層	(19.0)		(3.6)	外:ヨコナデーナデ後オサエ 内:ヨコナデーナデ	密	並	外:にぶい黄橙10YR7/2 内:にぶい橙7.5YR6/4	小片	
1671	502-02	土師器	杯	SR210	H20 第5層	13.4		3.6	外・内:ヨコナデーナデ	粗	良	浅黄橙10YR8/3		ほぼ完形 底部内面に線刻「3本交差」
1672	560-03	土師器	杯	SR210	F17 第5層	(16.2)			外・内:ヨコナデー	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	口縁1/4	内面に暗文
1673	574-05	土師器	杯	SR210	G17 第4層	(14.2)		(3.1)	外:ナデ 内:ミガキ	やや密	並	橙2.5YR7/6他	口縁1/4	
1674	557-01	土師器	長胴甕	SR210	J28 第5層	(24.0)			外:ヨコナデーハケメ11本/1.6cm後オサエ、ナデ 内:ヨコナデー	密	並	明褐灰7.5YR7/2	口縁1/3	
1675	559-01	土師器	長胴甕	SR210	F19 第5層		頸部径(27.6)		外:ヨコナデーハケメ12本/1.5cm 内:ヨコナデー	密	不良	灰黄2.5Y7/2	頸部1/6	
1676	540-01	土師器	長胴甕	SR210	I26 第5層	(23.0)			外:ヨコナデー工具痕→ハケメ・調整不明 内:ヨコナデーナデ	やや密	並	にぶい黄橙10YR7/2	口縁1/3	
1677	563-01	土師器	長胴甕	SR210	I26 第5層	(23.8)			外:ヨコナデーハケメ7本/cm 内:ヨコナデーハケメ7本/cm→ハケメ後工具ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁1/4	両面に煤付着
1678	527-01	土師器	長胴甕	SR210	I24 第5層				外:ヨコナデーハケメ9本/1.2cm 内:ナデーハケメ8本/cm→ケズリ	密	良	外:黄灰2.5Y4/1 内:黒褐10YR2/3	1/3	内面に煤付着
1679	524-05	土師器	長胴甕	SR210	I24 第5層	(25.6)			外:ヨコナデーユビオサエ→ハケメ10本/1.7cm 内:ヨコナデーハケメ	やや密	並	にぶい黄橙10YR7/2	口縁1/6	
1680	610-01	土師器	長胴甕	SR210	H21 No.3	(25.5)			外:ヨコナデーハケメ6~8本/cm 内:ヨコナデーハケメ6本/cm	やや粗	並	淡黄2.5Y8/3	口縁1/6	
1681	528-02	土師器	長胴甕	SR210	I25 第5層	(24.0)			外:ヨコナデーハケメ後ヨコナデーハケメ8本/cm 内:ヨコナデーケズリ	やや密	並	外:にぶい黄橙10YR7/3 内:灰白2.5Y8/2	口縁1/4	外面に煤付着
1682	588-01	土師器	長胴甕	SR210	F・G19 第4層	(25.0)			外・内:ヨコナデーハケメ5本/cm	やや粗	良	外:黄灰2.5Y4/1 内:灰黄褐10YR6/2	1/3	
1683	519-01	土師器	長胴甕	SR210	F16	25.2			外:ヨコナデーユビオサエ→ハケメ 内:ヨコナデーハケメケズリ	密	不良	灰白10YR8/1	4/5	外面に煤付着
1684	583-02	土師器	長胴甕	SR210	H23・I24 第4層	(20.6)			外:ヨコナデーハケメ3本/2cm後一部ヨコナデー 内:ヨコナデーハケメ45本/cm	密	並	褐灰10YR6/1他	口縁1/6	
1685	535-01	土師器	長胴甕	SR210	I22 第5層	(24.8)			外:ヨコナデーハケメ15本/2.5cm 内:ヨコナデーハケメ後ヨコナデーハケメ後一部オサエ	密	良	外:にぶい黄橙10YR5/3 内:橙5YR6/6他	口縁1/3	
1686	608-01	土師器	長胴甕	SR210	F17・19 第3層	(24.0)			外・内:ヨコナデーハケメ4本/cm	やや密	並	灰黄褐10YR6/2	口縁1/4	両面に煤付着
1687	598-01	土師器	長胴甕	SR210	I24 第3層	(24.0)			外:ヨコナデーハケメ4本/cm 内:ヨコナデーハケメ2~3本/cm	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/3他	口縁1/6	
1688	539-02	土師器	長胴甕	SR210	I26 第5層	(22.0)			外:ヨコナデーハケメ11本/1.4cm一部ナデ 内:ヨコナデーケズリ	やや密	不良	明褐灰7.5YR7/2	口縁1/6	
1689	612-01	土師器	長胴甕	SR210	H21	(25.1)			外・内:ヨコナデーハケメ6本/cm	やや密	並	にぶい黄橙10YR7/2	口縁1/4	
1690	609-05	土師器	長胴甕	SR210	H21	(24.0)			外:ヨコナデーハケメ7本/cm 内:ヨコナデーハケメ8本/cm	やや粗	並	にぶい黄橙10YR7/2他	口縁1/8	
1691	557-06	土師器	長胴甕	SR210	J21 第5層	(23.9)			外:ヨコナデーハケメ13本/2.5cm 内:ヨコナデーハケメ11本/2.8cm後コピナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/2	口縁1/4	内面に黒斑あり
1692	596-01	土師器	長胴甕	SR210	F19 第3層	25.0			外:ヨコナデーハケメ4~5本/cm 内:ヨコナデーハケメ4~7本/cm	やや粗	並	灰白7.5YR8/2他	口縁3/4	
1693	541-03	土師器	長胴甕	SR210	I25 第5層	(24.0)			外:ヨコナデーハケメ後ナデ・調整不明 内:ヨコナデーナデ	やや粗	並	浅黄橙10YR8/3	口縁1/6	
1694	559-03	土師器	長胴甕	SR210	G18 第5層	(22.2)			外:ヨコナデー 内:ヨコナデーハケメ10本/1.4cm	やや密	並	にぶい黄橙10YR7/2	口縁1/8	
1695	529-02	土師器	長胴甕	SR210	I25 第5層	(34.0)			外:ヨコナデーハケメ7本/cm 内:ヨコナデーハケメ7本/cm後ケズリ	やや密	並	にぶい黄橙10YR7/2	口縁1/6	外面に煤付着
1696	550-01	土師器	長胴甕	SR210	H22 第5層	(34.0)			外:ヨコナデーハケメ5本/1.1cm後ナデーハケメ 内:ハケメ5本/1.1cm	やや粗	並	外:灰白2.5Y7/1 内:灰黄2.5Y6/2	口縁1/16	
1697	580-03	土師器	甕	SR210	G17 第4層	(19.0)			外:ヨコナデーハケメ 内:ヨコナデーハケメ3本/cm一部ナデ	やや粗	並	淡黄2.5Y8/3	口縁1/4	
1698	559-02	土師器	甕	SR210	G18 第5層	(17.2)			外:ヨコナデーハケメ11本/1.4cm 内:ヨコナデーハケメ9本/1.4cm、工具痕	やや粗	並	灰黄2.5Y7/2	口縁1/2	

第55表 遺物観察表④

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
					口径	底径	器高						
1699	556-01	土師器	甕	SR210 J28 第5層	(17.3)			外:ヨコナデ→ハケメ10本/1.3cm後コピオサエ 内:ヨコナデ→工具痕	やや密	良	灰黄褐10YR6/2	口縁1/6	
1700	522-02	土師器	甕	SR210 G19 第5層	(16.4)			外:ナデ→ハケメ5本/cm後ナデ 内:ヨコナデ→工具痕→ハケメ5本/1.4cm→ケズリ	やや密	不良	外:灰黄7.5Y7/2 内:灰白2.5Y7/1	口縁1/2	
1701	541-04	土師器	甕	SR210 I25 第5層	(13.0)			外:ヨコナデ→ハケメ 内:ヨコナデ→ケズリ	粗	並	外:灰白10YR8/2 内:灰白5YR8/2	口縁1/2	両面に煤付着
1702	583-01	土師器	甕	SR210 I25 第4層	(16.6)			外:ヨコナデ→ミガキ後ヨコナデ→ミガキ 内:ヨコナデ	やや密	並	外:灰白10YR8/1 内:灰白黄橙10YR7/2	口縁1/4	
1703	558-06	土師器	甕	SR210 G18 第5層	(16.8)			外:内:ヨコナデ→ハケメ	密	不良	外:淡赤橙2.5YR7/4他 内:明褐灰7.5YR7/2	口縁1/4	
1704	541-02	土師器	甕	SR210 I25 第5層	(18.0)			外:ヨコナデ→ハケメ5本/1.5cm 内:ヨコナデ→ハケメ13本/0.9cm後ケズリ	やや密	良	外:浅黄橙10YR8/3 内:灰白黄橙10YR7/3	口縁1/6	
1705	560-01	土師器	甕	SR210 F17 第5層	(16.3)			外:ヨコナデ→ハケメ7本/1.8cm 内:ヨコナデ→ハケメ→ケズリ	密	良	灰白黄橙10YR7/2	口縁1/4	
1706	522-01	土師器	甕	SR210 G19 第5層	(16.0)			外:ヨコナデ→ハケメ7本/1.2cm 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	不良	外:灰白10YR7/1 内:黄灰2.5Y4/1	口縁1/4	内面に煤付着
1707	531-01	土師器	甕	SR210 I23 第5層	(13.0)			外:ヨコナデ→調整不明 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	外:灰褐7.5YR4/2 内:淡橙5YR8/3	口縁1/3	
1708	564-01	土師器	甕	SR210 H22 第5層		丸底		外:ハケメ7本/cm 内:ナデ→ケズリ、ナデ	やや粗	良	灰白黄橙10YR7/3	底部	底部外面に線刻放射状
1709	578-03	土師器	甕	SR210 F-G19 第4-5層		丸底		外:ハケメ5本/0.8cm 内:ケズリ	やや粗	並	灰白黄橙5YR7/4他	底部	
1710	602-01	土師器	把手付鍋	SR210 H19 第4層	(40.0)			外:ハケメ後ヨコナデ→ハケメ10本/cm 内:ハケメ3本/cm→ハケメ後ケズリ	密	良	灰白10YR8/2他	口縁1/8	把手2ヶ所
1711	512-01	土師器	把手付鍋	SR210 J26 第5層	(37.5)	体部径 (33.5)		外:ヨコナデ→ハケメ4本/cm→ハケメ4~5本/cm 内:ヨコナデ→ハケメ風ナデ→ケズリ	やや粗	並	灰白2.5Y7/1他	口縁1/4 体部1/4	把手2ヶ所
1712	555-01	土師器	把手付鍋	SR210 J23 第5層	(39.8)			外:ヨコナデ→ハケメ12本/2.2cm 内:ヨコナデ→ハケメ	やや密	不良	外:灰黄2.5Y7/2 内:浅黄2.5Y7/3	口縁1/8	把手2ヶ所
1713	520-01	土師器	鍋	SR210 G17 第5層	(21.0)			外:ヨコナデ→ハケメ8本/1.2cm 内:ヨコナデ→工具痕→ナデ後ケズリ	やや密	不良	外:灰白10YR8/1 内:浅黄橙10YR8/3	口縁1/2	
1714	521-01	土師器	鍋	SR210 G17 第5層	(24.7)			外:ヨコナデ→ハケメ8本/1.2cm 内:ヨコナデ→工具痕→ナデ後ケズリ	やや密	不良	外:灰黄褐10YR4/2 内:灰褐7.5YR4/2	口縁1/4	
1715	554-01	土師器	鍋	SR210 G17-18 第5層	19.8			外:ヨコナデ→ハケメ8本/1.1cm後軽ケズリ 内:ヨコナデ→ハケメ8本/cm後一部ナデ	やや粗	不良	外:灰白2.5Y7/1 内:灰白黄橙10YR7/3	頸部4/5	
1716	521-02	土師器	鍋	SR210 G19 第5層	(20.0)			外:内:ヨコナデ→ハケメ6本/1.1cm	やや密	良	灰白2.5Y7/1	口縁1/5	
1717	537-01	土師器	鍋	SR210 H21 第5層				外:ヨコナデ→ハケメ15本/2.5cm 内:ヨコナデ→ハケメ一部コピオサエ	やや密	不良	灰黄褐10YR6/2	頸部1/4	両面に煤付着
1718	528-01	土師器	鍋	SR210 I24 第5層	(20.0)			外:ヨコナデ→ハケメ7本/1.2cm 内:ヨコナデ→ハケメ8本/1.2cm	粗	不良	灰白黄橙10YR7/3	口縁1/4	
1719	610-02	土師器	鍋	SR210 H21	(22.0)			外:ヨコナデ→ハケメ5本/cm 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	灰白黄橙5YR7/4他	口縁1/3	
1720	510-02	土師器	鍋	SR210 J28 第6層	24.6	丸底	15.5	外:ヨコナデ→ハケメ7本/cm 内:ヨコナデ→ハケメ7本/cm→ケズリ→ナデ	やや密	並	灰白黄橙10YR7/2他	ほぼ完成	外面に煤付着 内面に炭化物付着
1721	551-02	土師器	甕	SR210 K24 第5層	14.0			外:ヨコナデ→ハケメ9本/1.2cm後ナデ→工具ナデ 内:ヨコナデ→ハケメ6本/1.7cm後ナデ→ハケメ→ナデ一部ケズリ	やや密	良	外:橙5YR7/6 内:浅黄橙7.5YR8/4	口縁1/2	把手2ヶ所
1722	535-02	土師器	甕	SR210 I21 第5層	(22.0)			外:ヨコナデ→ハケメ後ヨコナデ→ハケメ14本/3cm 内:ヨコナデ→ハケメ後ヨコナデ	密	並	灰白黄橙10YR6/3	口縁1/6	
1723	572-01	土師器	甕	SR210 G18 第4-5層	(16.4)			外:ハケメ5本/cm一部オサエ 内:ハケメ18~20/cm→ケズリ	やや粗	並	灰白2.5Y8/2	底部1/2	
1724	593-02	土師器	甕	SR210 F19 第3層	(17.6)			外:ハケメ5本/cm 内:工具ナデ→ケズリ	やや密	良	灰白黄橙10YR7/2	底部1/5	
1725	524-01	土師器	甕	SR210 I23 第5層	(20.0)			外:コピナデ 内:ハケメ15本/2.1cm一部オサエ→ケズリ	密	並	外:灰白5Y8/1 内:灰白2.5Y8/1	底部1/4	内面に煤付着
1726	532-01	土師器	甕	SR210 I22 第5層	(40.0)			外:ヨコナデ→一部コピオサエ→ハケメ6本/0.9cm 8本/0.9cm 内:ヨコナデ→ハケメ後ナデ→ハケメ後一部コピオサエ	やや密	不良	灰白10YR8/2他	口縁1/4	
1727	586-01	土師器	甕	SR210 G19-I20 第4層	(26.5)			外:ヨコナデ→ハケメ15本/2.4cm→ナデ 内:ヨコナデ→ハケメ7本/2.1cm→ケズリ	やや密	並	灰白10YR8/1	口縁1/4	把手2ヶ所
1728	582-02	土師器	甕	SR210 F19-G17 第4層	(28.0)			外:ハケメ6本/cm 内:ハケメ7~8本/cm→ナデ	やや密	並	灰白黄橙7.5YR7/3	底部1/15	内面に煤付着
1729	614-01	土師器	甕	SR210 F19 第2層	(23.4)			外:ハケメ6本/cm→ヨコナデ 内:ハケメ6本/cm→ケズリ	やや密	良	灰白黄橙10YR7/4	底部1/4	内面に煤付着
1730	607-02	土師器	甕	SR210 F19-G18 第3層	(32.0)			外:内:ヨコナデ→ハケメ5本/cm	やや密	並	灰白黄橙7.5YR7/3	底部1/4	内面に煤付着
1731	552-01	土師器	甕	SR210 J22 第5層	(35.0)	(20.2)		外:ハケメ9本/cm→ヨコナデ 内:ケズリ→ケズリ8本/1.2cm	やや密	良	外:灰白2.5YR8/1 内:褐灰7.5YR4/1	1/3	差込み把手
1732	556-03	土師器	高杯	SR210 J26 第5層	(18.6)	(13.6)	(2.1)	外:ヨコナデ→ケズリ→工具痕 内:ヨコナデ	密	良	灰白黄橙7.5YR6/3	底部1/8	内面に暗文
1733	566-01	土師器	高杯	SR210 I23 第5層	(24.8)			外:ナデ→ケズリ後ナデ 内:ナデ	やや密	並	灰白黄橙7.5YR6/6	口縁1/6	内面に暗文
1734	571-02	土師器	高杯	SR210 I20 第4層		10.5		外:ハケメ10本/cm→ヨコナデ→オサエ	やや密	並	灰白黄橙7.5YR7/6	脚部	
1735	506-03	須恵器	杯蓋	SR210 G19 第5層	(11.0)			外:内:ロクロケズリ→ロクロナデ	密	良	灰白N7/0	口縁1/4	
1736	614-03	須恵器	杯蓋	SR210 F19 第2層		つまみ径 2.9		外:貼付け後ナデ→ロクロナデ→ロクロケズリ 内:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1		上部のみ
1737	506-02	須恵器	杯蓋	SR210 G18 第5層	15.0	つまみ径 3.8	3.5	外:貼付け後ナデ→ロクロケズリ→ロクロナデ 内:ロクロナデ	やや密	良	外:灰白2.5Y8/1 内:灰白5Y8/2	口縁1/2	
1738	506-04	須恵器	杯蓋	SR210 F19 第4層	16.5	つまみ径 3.0	2.9	外:貼付け後ナデ→ロクロケズリ→ロクロナデ 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白黄橙10YR7/4	口縁1/2	
1739	576-02	須恵器	杯	SR210 F19 第4層	(12.0)		(3.8)	外:内:ロクロナデ→ロクロケズリ→ロクロナデ	密	並	灰白5Y7/1他	口縁1/4	
1740	584-04	須恵器	杯	SR210 I26 第4層	(10.2)		(4.4)	外:ロクロナデ→オサエ、ナデ 内:ロクロナデ→ナデ	やや密	良	明青灰5B7/1他	口縁1/2	
1741	534-06	須恵器	杯	SR210 I20 第5層	(12.4)	(7.1)	(4.25)	外:ロクロナデ→ケズリ 内:ロクロナデ	密	良	外:灰N5/0 内:暗灰N3/0	底部1/5	
1742	581-02	須恵器	杯	SR210 H19 第4層	(12.0)	(6.0)	(3.9)	外:ロクロナデ→ナデ一部工具使用 内:ロクロナデ	密	並	外:灰白2.5Y7/1 内:灰7.5Y6/1	1/5	

第56表 遺物観察表④

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (c m)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
					口径	底径	器高							
1743	612-03	須恵器	杯	SR210	I25 第2層	(10.0)	(6.7)	(4.55)	外:ロクロナデ→未調整 内:ロクロナデ	やや粗	良	灰白N7/0	口縁小片 底部1/2	
1744	579-01	須恵器	杯	SR210	G18 第4層	(12.6)	9.0	3.8	外:ロクロナデ→貼付け高台→ナデ 内:ロクロナデ→ナデ	やや密	並	緑灰10CY6/1	口縁1/3 底部完形	
1745	581-03	須恵器	杯	SR210	G20 第4層	(15.4)	(11.2)	(4.1)	外:ロクロナデ→ロクケズリ 内:ロクロナデ	やや密	並	外:黄灰2.5Y5/1 内:紫灰5RP6/1	1/15	
1746	504-01	須恵器	杯	SR210	J28 第5層	(13.6)	8.6	(3.6)	外:ロクロナデ→ロクケズリ 内:ロクロナデ	密	良	灰白N7/0	口縁1/3 底部3/4	
1747	609-02	須恵器	杯	SR210	I20 第3層	(14.5)	(14.5)	(4.1)	外:ロクロナデ→未調整 内:ロクロナデ→糸切羽未調整	やや密	良	灰N6/0	1/4	
1748	532-03	須恵器	杯	SR210	I26 第5層	(16.6)	(13.0)	(5.35)	外:ロクロナデ→ケズリ→ヘラ切り 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白N8/0	体部1/5	
1749	620-02	須恵器	壺	SR210	H23 第1層	(13.0)			外・内:ロクロナデ	密	良	外:灰褐7.5YR5/2 内:褐灰10YR5/1	口縁1/3	
1750	590-04	須恵器	壺	SR210	H24 第3層				外・内:ロクロナデ	やや密	良	灰5Y5/1	頸部のみ	
1751	600-02	須恵器	壺	SR210	H24 第3層				外・内:ロクロナデ	やや密	並	灰5Y6/1	頸部のみ	両面に自然釉
1752	510-01	須恵器	壺	SR210	H22 第5層		体部径 15.5		外:ロクロナデ→ロクケズリ→ナデ 内:ロクロナデ	やや粗	良	黄灰5PB6/1	体部完形	
1753	565-01	須恵器	壺	SR210	G22	(15.8)			外・内:ロクロナデ	密	良	灰褐7.5Y7/1	口縁1/3	
1754	627-04	須恵器	短頸壺	SR210	G19	(14.0)			外・内:ロクロナデ	やや密	良	外:灰白N8/0他 内:明赤灰2.5YR7/他	口縁小片	
1755	578-04	須恵器	壺	SR210	F18 第4層				外:ロクロナデ→ロクケズリ 内:ロクロナデ→部分タタキ	やや粗	並	灰白N7/0他	底部片	
1756	508-01	須恵器	小型短頸壺	SR210	F19 第5層	9.0	胴部径 11.0	7.5	外:ロクロナデ→ロクケズリ 内:ロクロナデ	やや密	良	灰N6/0	口縁1/2 胴部4/5	自然釉付著 底部外面に緑刻「×」
1757	523-02	須恵器	小型短頸壺	SR210	G19 第5層		胴部径 10.0		外:ロクロナデ→ロクケズリ→未調整 内:ロクロナデ→未調整	やや密	良	灰オリーブ5Y5/2	口縁欠失	
1758	604-05	須恵器	小型壺	SR210	H-K23 第3層		4.5		外:ロクロナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	密	並	外:灰5Y5/1 内:灰5Y6/1	底部7/8	
1759	536-02	須恵器	高杯	SR210	H23 第5層	(14.8)	(10.3)	(9.4)	外:ロクロナデ→ナデ 内:ロクロナデ→ナデ、ヨビオサエ	密	良	灰白2.5Y7/1他	口縁1/6 底部1/4	
1760	562-01	須恵器	平瓶	SR210	F19 第4-5層		最大径 23.0		外:ロクケズリ 内:ロクロナデ	密	良	灰白N8/0	底部3/4	自然釉付著
1761	537-02	須恵器	壺	SR210	H23 第5層		体部径 (23.8)		外・内:ロクロナデ	密	不良	外:明赤褐5YR5/6 内:褐灰5YR5/1	体部1/4	
1762	597-01	須恵器	壺	SR210	H24 第3層	(44.8)			外:ロクロナデ→タタキ、カキ×9本/cm、波状文11~13本 1段・9~10本1段、沈線2本2組 内:ロクロナデ→青海波状文	密	良	灰N6/0	口縁1/4	
1763	591-06	土師器	皿	SR210	F19 第3層	(14.6)	(10.0)	(2.0)	外・内:ヨコナデ→ナデ	密	良	にぶい・黄橙10YR7/3	口縁1/4	
1764	609-04	土師器	皿	SR210	H21 No.3	(19.0)			外:ヨコナデ→ナデ、オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	にぶい・橙5YR7/4他	1/3	内面に緑刻「トーマン3本」
1765	579-04	土師器	皿	SR210	G19 第4層	(19.6)			外:ヨコナデ→ケズリ後ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	にぶい・橙7.5YR6/4	口縁1/6	
1766	585-01	土師器	皿	SR210	I26 第4層	16.6	2.1		外:ヨコナデ→オサエ、ナデ、工具痕 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	黄橙7.5YR7/8	口縁 11/12	
1767	566-02	土師器	皿	SR210	F19 第3層	17.2	2.3		外:ヨコナデ→オサエ、ナデ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	にぶい・橙7.5YR7/3	ほぼ完形	底部外面に墨書「十」
1768	591-03	土師器	皿	SR210	J24 第3層	(14.5)			外:ヨコナデ→オサエ、ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	にぶい・橙7.5YR7/4	小片	底部外面に墨書「？」
1769	523-01	土師器	皿	SR210	G19 第5層	(14.0)			外:ヨコナデ→ナデ後ヨビオサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	不良	淡黄2.5Y8/3	口縁1/4	
1770	568-03	土師器	皿	SR210	J25 第3層	17.0	1.5		外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	濁黄橙7.5YR8/4	口縁3/4	
1771	557-02	土師器	皿	SR210	J28 第5層				外:ヨビオサエ→未調整 内:ナデ	密	良	濁黄橙10YR8/3	底部片	底部内面に緑刻放射状
1772	508-02	土師器	皿	SR210	H20 第4層	18.0	2.5		外:ヨコナデ→ヨビオサエ、未調整 内:ヨコナデ→ナデ	密	並	灰白10YR8/2他	口縁3/5	底部外面に緑刻「トーマン3本」
1773	604-02	土師器	杯	SR210	H24 第3層	(14.9)	(3.5)		外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	並	にぶい・橙5YR6/3	口縁1/4	
1774	558-01	土師器	杯	SR210	J25 第5層	(15.3)	(10.0)	(2.8)	外:ヨコナデ→ヨビオサエ、未調整 内:ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁1/4	底部外面に緑刻数条
1775	507-04	土師器	杯	SR210	I24 第4層	13.0	2.9		外:ヨコナデ→ナデ、オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	淡黄2.5Y8/3	口縁2/3	底部外面に墨書「年」
1776	587-03	土師器	杯	SR210	J20・24 第4層	15.5	3.6		外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	灰白7.5YR8/2	口縁1/2	底部外面に墨書「宮」
1777	566-03	土師器	杯	SR210	J25 第5層	(14.0)	(3.1)		外・内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	にぶい・黄橙10YR6/4	口縁1/3	底部外面に緑刻 外面「一」 内面放射状
1778	526-01	土師器	杯	SR210	I24 第5層	(16.0)	(3.4)		外:ヨコナデ→ヨビオサエ→ナデ 内:ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁1/6	
1779	574-04	土師器	杯	SR210	I23 第4層	(15.0)	(4.1)		外・内:ナデ	やや密	並	橙5YR6/6	小片	
1780	590-06	土師器	杯	SR210	H24 第3層	(15.2)	(3.0)		外・内:ヨコナデ→オサエ、ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁1/2	
1781	509-01	土師器	杯	SR210	J26 第4層	16.0	3.3		外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	にぶい・褐7.5YR6/3他	口縁2/3	底部外面に墨書「秋木」
1782	575-01	土師器	杯	SR210	I24 第4層	(13.9)	(3.2)		外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ	やや密	並	橙5YR7/6	口縁1/8	底部外面に墨書「律」
1783	601-02	土師器	杯	SR210	K23 第3層	(15.4)	(2.8)		外:ヨコナデ→ナデ後オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	外:淡黄2.5Y8/3 内:にぶい・黄橙10YR7/3	口縁1/5	
1784	598-03	土師器	杯	SR210	G18 第3層	(14.0)			外:ヨコナデ→オサエ、ナデ 内:ヨコナデ→ミガキ→ナデ	やや密	並	にぶい・橙7.5YR7/3	口縁1/4	
1785	595-02	土師器	杯	SR210	J24 第3層	(16.0)			外:ヨコナデ→調整不明 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	にぶい・黄橙10YR7/3	口縁1/6	
1786	533-01	土師器	杯	SR210	H24 第5層	(12.1)	(1.8)		外:ヨコナデ→ナデ後ヨビオサエ 内:ヨコナデ	密	良	にぶい・橙7.5YR7/3	口縁1/4	

第57表 遺物観察表④

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (c.m.)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
					口径	底径	器高						
1787	573-03	土師器	杯	SR210	I23 第4層	(16.0)	(3.5)	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	灰褐7.5YR6/2	口縁1/8	
1788	619-01	土師器	杯	SR210	J30 第2層	(14.8)		外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	灰白7.5YR8/2他	口縁1/8	底部外面に墨書「?」
1789	604-01	土師器	杯	SR210	H24 第3層	(13.4)	(3.3)	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	並	にぶい 橙7.5YR7/4	口縁3/8	
1790	610-03	土師器	杯	SR210	F17 第3層	(12.0)		外:ヨコナデ→ナデ	密	並	橙7.5YR7/6	1/4	
1791	571-04	土師器	杯	SR210	J26 第4層	(13.5)	(3.1)	外:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	明褐灰7.5YR7/2	1/3	
1792	604-06	土師器	杯	SR210	L29 第3層	(14.5)	(2.7)	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	並	にぶい 橙5YR7/4他	口縁1/5	内面に煤付着
1793	605-05	土師器	杯	SR210	K30 第3層	(13.8)	(2.9)	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ,オサエ	やや密	並	にぶい 橙7.5YR7/4他	口縁1/5	内面に煤付着
1794	613-01	土師器	杯	SR210	I25 第2層	(14.4)	(2.9)	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙7.5YR8/3他	口縁1/4	
1795	558-05	土師器	杯	SR210	G20 第5層	(15.8)	(7.0)	外:ヨコナデ→ナデ後オサエ 内:ヨコナデ	やや密	良	外:橙5YR6/8 内:褐10YR4/4	口縁1/5	
1796	605-06	土師器	杯	SR210	H24 第3層	(15.6)	(3.0)	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	並	にぶい 橙7.5YR7/3他	口縁1/4	底部外面に墨書「林」
1797	598-05	土師器	杯	SR210	H24 第3層	(11.6)	(3.0)	外:ヨコナデ→オサエ,ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	にぶい 黄橙10YR7/2	口縁1/3	
1798	598-02	土師器	杯	SR210	H23 第3層	(13.9)	(3.1)	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	にぶい 黄橙10YR7/4	口縁1/3	
1799	571-01	土師器	杯	SR210	H23 第4層	13.0	3.5	外:ヨコナデ→ナデ,オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	にぶい 橙5YR7/4	4/5	
1800	540-02	土師器	杯	SR210	I25 第5層	(15.0)	(2.9)	外:ヨコナデ→ナデ後オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	にぶい 橙5YR6/4	口縁1/6	底部内面に墨書「?」
1801	619-05	土師器	杯	SR210	J29 第2層	(13.0)		外:ヨコナデ→ナデ,オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	灰白7.5YR8/2	口縁1/4	底部外面に墨書「年」 灯明皿 頸部に油煙
1802	603-01	土師器	杯	SR210	K27-30 L29 第3層	(16.0)		外:ヨコナデ→ナデ後オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	浅黄橙7.5YR8/3他	口縁1/3	底部外面に墨書「宮」
1803	603-02	土師器	杯	SR210	K27 第3層			外:ナデ後オサエ 内:ナデ	やや密	良	浅黄橙7.5YR8/3他	底部小片	底部外面に墨書「□□らるかな文字」
1804	533-03	土師器	杯	SR210	I24 第5層	(12.6)	(2.9)	外:ヨコナデ 内:ミガキ	密	良	外:にぶい 橙5YR6/4他 内:にぶい 赤褐5YR4/4	口縁1/4	
1805	561-05	土師器	杯	SR210	G20 第5層			外:内:ヨコナデ	やや密	良	灰白2.5Y8/2	小片	内面に線刻「×」
1806	503-01	土師器	杯	SR210	H20 第3層	13.2	3.1	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	にぶい 黄橙10YR7/2	完形	底部外面に墨書「律」
1807	578-02	土師器	杯	SR210	F17 第4層	(13.0)	(3.0)	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	外:にぶい 橙7.5YR7/4 内:浅黄橙10YR8/4	口縁1/8	底部外面に墨書「千千か竹」
1808	574-03	土師器	杯	SR210	I24 第4層	12.8	3.0	外:ヨコナデ→オサエ 内:にぶい 橙5YR6/4	やや密	並	外:にぶい 橙5YR7/3 内:にぶい 橙5YR6/4	口縁1/2	内面に暗文
1809	532-04	土師器	杯	SR210	I24 第5層	(15.6)	(6.0)	外:内:ヨコナデ	密	良	にぶい 橙7.5YR7/4	体部1/6	
1810	601-03	土師器	杯	SR210	I21 第3層	13.8	2.9	外:ヨコナデ→ナデ後オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	外:にぶい 黄橙10YR7/2 内:灰白10YR8/2他	口縁1/2	底部外面に墨書「千千か竹」
1811	615-04	土師器	杯	SR210	J28 第2層	(12.8)	(3.2)	外:ヨコナデ→ナデ,オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	橙5YR7/6	1/2	
1812	581-06	土師器	杯	SR210	H23 第4層	(14.2)	(2.9)	外:ヨコナデ→ナデ後オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	並	にぶい 黄橙10YR6/3他	口縁1/6	
1813	549-03	土師器	杯	SR210	I25 第5層	(13.0)		外:内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	にぶい 黄橙10YR6/3	口縁1/4	
1814	599-03	土師器	杯	SR210	H23 第3層	(12.7)	(2.85)	外:ヨコナデ→オサエ,ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	並	明褐灰7.5YR7/2	口縁1/4	
1815	559-06	土師器	杯	SR210	G18 第5層	15.0	6.8	外:ヨコナデ→コピオサエ→ナデ 内:ヨコナデ	やや密	良	外:淡橙5YR8/3 内:淡赤褐2.5YR7/4他	1/2	
1816	531-02	土師器	杯	SR210	I22 第5層	14.0	3.0	外:ヨコナデ→ナデ未調整 内:ヨコナデ→ナデ	粗	不良	外:にぶい 黄橙10YR7/3 内:にぶい 橙7.5YR7/4	1/2	
1817	524-02	土師器	杯	SR210	I24 第5層	(14.0)	(3.6)	外:ヨコナデ→コピオサエ→ナデ 内:ヨコナデ	やや密	不良	明褐灰7.5YR7/2	1/3	
1818	524-03	土師器	杯	SR210	I24 第5層	(16.4)	(3.85)	外:内:ヨコナデ	密	良	にぶい 黄橙10YR7/3	体部1/4	外面に煤付着
1819	564-02	土師器	甕	SR210	J28 第5層	(16.6)		外:ヨコナデ→ハケメ5本/cm→ケズリ 内:ヨコナデ→ハケメ12本/cm→ケズリ	やや密	良	灰黄褐10YR6/2	口縁1/3	
1820	529-01	土師器	甕	SR210	I25 第5層	16.0		外:ヨコナデ→ハケメ7本/1.6cm→ケズリ 内:ヨコナデ→ケズリ	やや密	良	外:黒5Y2/1 内:にぶい 褐7.5YR5/3	口縁3/5	外面に煤付着
1821	551-01	土師器	甕	SR210	K29 第5層	(17.0)		外:ヨコナデ→ハケメ後一部ナデ調整不明 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	灰白10YR8/1	口縁1/4	
1822	540-03	土師器	甕	SR210	I25 第5層	(17.0)		外:ヨコナデ→ハケメ8本/1.5cm 内:ヨコナデ,工具痕	やや密	不良	にぶい 黄橙10YR7/3	口縁1/6	
1823	554-03	土師器	甕	SR210	K29 第5層	(17.4)		外:ヨコナデ→ハケメ6本/2.5cm後コピオサエ 内:ヨコナデ→工具ナデ後コピオサエ	やや密	良	外:灰黄褐10YR5/2 内:黒10YR1.7/1	口縁1/6	
1824	607-01	土師器	長胴甕	SR210	F18-19 第3層	(25.2)		外:ヨコナデ→ハケメ7本/cm→4本/cm 内:ヨコナデ→ハケメ→工具ナデ→ナデ	やや密	並	にぶい 黄橙10YR6/3	口縁1/3	外面に黒斑あり
1825	627-01	土師器	甕	SR210	I25	(14.5)		外:ヨコナデ→オサエ→ハケメ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	灰白2.5Y8/2	口縁1/4	
1826	589-03	黒色土器	椀	SR210	I24-K23 第3層	(16.0)		外:内:ミガキ	やや密	良	黒N2/0他	口縁1/5	
1827	595-04	土師器	小皿	SR210	J22 第3層	(11.1)	(2.1)	外:内:ヨコナデ,オサエ	やや粗	良	灰白10YR8/2	口縁1/3	
1828	624-09	ロクロ土師器	皿	SR210	J23 第1層	5.0		外:ナデ→糸切の痕 内:ナデ	やや粗	良	外:灰白7.5YR8/2 内:暗赤灰10R3/1	底部完形	内面に煤付着
1829	599-05	ロクロ土師器	皿	SR210	H19 第3層	5.5		外:ロクロナデ→糸切の痕 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白2.5Y8/3	底部完形	
1830	622-03	ロクロ土師器	皿	SR210	J22	5.0		外:ロクロナデ→糸切の痕 内:ロクロナデ	やや粗	良	にぶい 黄橙10YR7/2	底部ほぼ完形	
1831	619-02	ロクロ土師器	台付皿	SR210	H19 第1層	4.0		外:ロクロナデ→糸切の痕 内:ロクロナデ	やや密	並	灰白2.5Y8/2	台部3/4	

第58表 遺物観察表④

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置		法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
				口徑	底徑	器高	口径	底径						
1832	591-05	ロクロ土師器	台付皿	SR210	G20 第3層		3.8		外:ロクロナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白10YR8/2	底部完形	
1833	620-04	ロクロ土師器	椀	SR210	H23 第1層		(7.7)		外:ロクロナデ→貼付け高台→糸切り痕 内:ロクロナデ	やや粗	良	灰白10YR8/1	高台1/4	
1834	606-04	ロクロ土師器	椀	SR210	I18 第3層		5.8		外:ロクロナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	外:灰白10YR8/2他 内:黒褐10YR3/1	底部完形	
1835	610-04	土師器	甕	SR210	K28 第2層	(11.6)			外:内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	椀7.5YR7/3	口縁1/3	内面に炭化物付着
1836	623-03	土師器	甕	SR210	J24	(19.6)			外:ヨコナデ→ハケメ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	淡黄2.5Y8/3	口縁1/6	
1837	617-02	土師器	甕	SR210	J27 第2層	(20.4)			外:ヨコナデ→ナデ, オサエ 内:ヨコナデ→ハケメ7~8本/cm	やや粗	並	灰白10YR8/1他	口縁1/6	
1838	609-01	土師器	甕	SR210	F19 第3層				外:ハケメ5本/cm→ナデ 内:ケズリ後ナデ	やや密	並	にぶい褐7.5YR5/3他	底部のみ	
1839	575-04	土製品	製塩土器	SR210	I24 第4層				外:内:ナデ	粗	並	にぶい椀5YR6/4	口縁小片	
1840	600-03	土製品	製塩土器	SR210	I25 第3層				外:内:ナデ	粗	並	明赤褐5YR5/8	口縁小片	
1841	600-04	土製品	製塩土器	SR210	I24 第3層				外:内:ナデ	粗	並	明赤褐5YR5/8	底部小片	
1842	533-08	土製品	製塩土器	SR210	H23 第5層				外:内:ナデ	密	良	外:にぶい椀7.5YR7/4 内:にぶい椀5YR6/4	底部小片	
1843	539-03	土製品	製塩土器	SR210	I25 第5層				外:内:ナデ	粗	並	外:にぶい椀7.5YR7/4 内:椀2.5YR6/6	底部小片	
1844	619-03	土師器	小皿	SR210	J29 第2層	(7.4)		(1.0)	外:オサエ 内:ナデ	やや密	並	灰白10YR8/2	口縁1/3	
1845	619-04	土師器	小皿	SR210	K29 第2層	(7.4)		(0.9)	外:オサエ 内:ナデ	やや密	並	灰白7.5YR8/1	口縁1/3	
1846	625-01	土師器	小皿	SR210	K28 第1層	6.8		1.1	外:内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	灰白10YR8/1	1/3	
1847	624-10	土師器	小皿	SR210	J28 第1層	7.4		1.2	外:内:オサエ, ナデ	密	良	灰白2.5Y8/2	3/4	
1848	616-04	土師器	小皿	SR210	K29 第2層	7.2		1.3	外:ヨコナデ→ナデ, オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	浅黄椀10YR8/3	完形	歪み大
1849	604-03	土師器	小皿	SR210	K29 第3層	(8.0)		(1.5)	外:オサエ 内:ナデ	密	並	灰白2.5Y8/2	口縁1/4	
1850	616-03	土師器	小皿	SR210	K29 第2層	7.5		1.45	外:ヨコナデ→オサエ, ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	浅黄椀10YR8/3	完形	
1851	591-04	土師器	小皿	SR210	J27 第3層	8.4		1.3	外:ヨコナデ→オサエ, ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや密	良	灰白2.5Y8/2	ほぼ完形	
1852	604-04	土師器	小皿	SR210	K29 第3層	7.7		1.2	外:オサエ 内:ナデ	密	並	灰白2.5Y8/2	口縁3/4	
1853	584-05	土師器	小皿	SR210	I27 第4層	8.7		1.6	外:ナデ→オサエ, ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	淡椀5YR8/3他	ほぼ完形	
1854	606-03	土師器	小皿	SR210	K29 第3層	8.0		1.3	外:オサエ 内:ナデ	密	並	灰白2.5Y8/2他	口縁3/4	
1855	557-03	土師器	小皿	SR210	J28 第5層	8.0		1.4	外:ナデ→コヒオサエ 内:ナデ	やや密	並	灰白2.5Y7/1他	3/4	
1856	616-02	土師器	皿	SR210	K29 第2層	(11.7)		(2.2)	外:内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	浅黄椀10YR8/3	口縁1/2	
1857	618-04	土師器	皿	SR210	J29 第2層	11.6		2.4	外:オサエ 内:ナデ	やや密	並	灰白10YR8/2	口縁5/6	
1858	618-05	土師器	皿	SR210	K29 第2層	(11.0)		(2.35)	外:オサエ 内:ナデ	やや密	並	灰白10YR8/3	口縁1/2	
1859	589-04	土師器	皿	SR210	I27 第3層	(12.0)		(2.7)	外:ナデ→オサエ, ナデ 内:ナデ	やや粗	良	灰白2.5Y8/2	3/4	
1860	605-02	土師器	皿	SR210	L29 第3層	(12.2)		(2.4)	外:オサエ 内:ナデ	密	並	灰白10YR8/2	口縁1/4	
1861	567-01	土師器	皿	SR210	K28 第3層	13.0		2.9	外:ヨコナデ→オサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	並	灰白10YR8/2	完形	
1862	612-06	土製品	土鐘	SR210	K23 第2層	最大長4.2 最大幅1.4	穴径0.45		外:オサエ, ナデ	やや密	並	淡黄2.5Y8/3	ほぼ完形	重量7.5g
1863	625-04	土製品	土鐘	SR210	I21 第1層	最大長3.8 最大幅1.0	穴径0.45		外:オサエ, ナデ	密	良	椀5YR7/6	1/2	重量2.4g
1864	625-03	土製品	土鐘	SR210	H23 第1層	最大長4.8 最大幅1.2	穴径0.5		外:オサエ, ナデ	密	良	浅黄椀10YR8/4	完形	重量5.9g
1865	550-04	土製品	土鐘	SR210	I26 第5層	最大長5.55 最大幅1.2	穴径0.25		外:オサエ, ナデ	密	良	灰白2.5Y8/2	上下欠失	重量4.45g
1866	612-07	土製品	土鐘	SR210	G19 第2層	最大長4.1 最大幅1.4	穴径0.5		外:オサエ, ナデ	やや密	並	灰白10YR8/1他	ほぼ完形	重量5.8g
1867	617-04	土製品	土鐘	SR210	H23 第1層	最大長4.4 最大幅1.3	穴径0.5		外:オサエ, ナデ	やや密	並	褐灰10YR5/1	ほぼ完形	重量6.026g
1868	605-04	土製品	土鐘	SR210	H19 第3層	最大長4.2 最大幅1.3	穴径0.45		外:オサエ, ナデ	やや密	並	明褐灰7.5YR7/1他	完形	重量7.1g
1869	565-02	土製品	土鐘	SR210	I26 第1層	最大長5.1 最大幅1.7	穴径0.45		外:オサエ, ナデ	やや密	良	にぶい黄椀10YR7/3	完形	重量14.60g
1870	625-02	土製品	土鐘	SR210	I26	最大長6.7 最大幅2.4	穴径0.7		外:オサエ, ナデ	密	良	灰白2.5Y8/2	完形	重量34.7g
1871	565-04	土製品	土鐘	SR210	I26 第1層	最大長5.55 最大幅2.2	穴径0.6		外:オサエ, ナデ	密	良	にぶい椀7.5YR7/4	完形	重量21.39g
1872	580-04	土製品	土鐘	SR210	H23 第4層	最大長9.2 最大幅3.2	穴径1.5		外:オサエ, ナデ	やや密	並	にぶい椀7.5YR7/3	完形	重量67.07g
1873	565-03	土製品	土鐘	SR210	K27 第5層	最大長2.85 最大幅3.5	穴径0.55		外:オサエ, ナデ	密	良	灰黄2.5Y6/2	完形	重量26.80g
1874	564-03	陶器	緑釉小椀	SR210	G21 第2層		5.0		外:内:ナデ	やや密	良	椀7.5YR7/6	底部	釉:オリーブ灰10Y4/2
1875	584-03	陶器	山皿	SR210	I27 第4層	9.6	5.2	3.0	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白N8/0	ほぼ完形	
1876	626-07	陶器	山皿	SR210	G20	(9.5)	4.4	(3.1)	外:ロクロナデ→貼付け高台 内:ロクロナデ	密	良	灰白10Y8/1	底部完形	自然釉

第59表 遺物観察表(4)

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置		法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
						口径	底径	器高						
1877	581-04	陶器	山皿	SR210	J26 第4層	(9.0)	(4.4)	(2.3)	外:ロコナデ→貼付け高台 内:ロコナデ	やや粗	並	灰白2.5Y8/1	口縁1/4	高台に粉殻痕
1878	620-03	陶器	山皿	SR210	G21 第1層			5.2	外:ロコナデ→貼付け高台→糸切刃痕 内:ロコナデ	やや密	良	灰白2.5Y8/1	底部完形	内面に自然釉
1879	624-07	陶器	山皿	SR210	I26			(4.3)	外:ロコナデ→高台貼付け後ナデ 内:ロコナデ	やや粗	良	灰白7.5Y8/1	底部	
1880	621-01	陶器	山茶碗	SR210	H23 第1層	(17.0)	(7.0)	(6.6)	外:ロコナデ→貼付け高台→糸切刃痕 内:ロコナデ	密	良	灰黄2.5Y7/2他	底部1/2	内面に自然釉
1881	623-02	陶器	山茶碗	SR210	I26	(15.0)			外:内:ロコナデ	やや粗	良	灰白7.5Y8/1	口縁1/5	
1882	626-06	陶器	山茶碗	SR210	I22	(15.8)	(7.0)	(5.5)	外:ロコナデ→貼付け高台 内:ロコナデ	密	良	灰白2.5Y8/1	1/3	
1883	612-02	陶器	山茶碗	SR210	G21 第2層			7.3	外:ロコナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロコナデ	密	良	灰白2.5Y8/1他	高台1/2	底部内面滑らか 自然釉
1884	594-04	陶器	山茶碗	SR210	G20 第3層			7.4	外:ロコナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロコナデ	やや密	良	灰白10YR7/1	底部 ほぼ完形	底部内面滑らか
1885	558-02	陶器	山茶碗	SR210	J28 第5層			6.6	外:ロコナデ→貼付け高台 内:ロコナデ	やや密	良	灰白N8/0	底部完形	底部外面に墨書「上」 底部内面滑らか
1886	581-01	陶器	山茶碗	SR210	I26 第4層			(7.0)	外:ロコナデ→貼付け高台 内:ロコナデ	密	並	灰白2.5Y8/1	底部1/2	底部内面滑らか 自然釉
1887	626-05	陶器	山茶碗	SR210	I19			6.5	外:ロコナデ→高台貼付け後ナデ 内:ロコナデ	密	良	外:灰白2.5Y8/1 内:灰5Y6/1	底部2/3	内面に炭化物付着
1888	583-03	陶器	山茶碗	SR210	J28 第3層			7.4	外:ロコナデ→高台貼付け後ロコナデ 内:ロコナデ	やや密	良	灰白2.5Y7/1	底部	
1889	556-05	陶器	山茶碗	SR210	J27 第5層			6.7	外:ロコナデ→貼付け高台 内:ロコナデ	やや密	良	灰5Y6/1	底部 ほぼ完形	底部内面滑らか
1890	558-07	陶器	山茶碗	SR210	J28 第5層			7.7	外:ロコナデ→貼付け高台→糸切刃痕 内:ロコナデ	やや密	良	灰白2.5Y7/1	底部完形	底部内面滑らか 墨付着・転用痕
1891	626-02	陶器	山茶碗	SR210	I20			7.3	外:ロコナデ→貼付け高台→糸切刃痕 内:ロコナデ	密	良	灰白2.5Y8/1	底部1/2	内面に自然釉
1892	605-03	陶器	山茶碗	SR210	I20 第3層			7.5	外:ロコナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロコナデ	密	並	灰白5Y8/1	高台 ほぼ完形	
1893	626-01	陶器	山茶碗	SR210	J27			6.6	外:ロコナデ→貼付け高台→糸切刃痕 内:ロコナデ	やや密	良	外:灰白N7/0他 内:灰白2.5Y8/1	底部完形	
1894	612-04	陶器	山茶碗	SR210	G21 第2層			6.6	外:ロコナデ→高台貼付け後ナデ→糸切刃痕 内:ロコナデ	やや密	良	灰白5Y8/1	高台完形	底部内面滑らか 墨付着
1895	624-03	陶器	山茶碗	SR210	H23 第1層			6.4	外:ロコナデ→高台貼付け後ナデ 内:ロコナデ	やや粗	良	灰白10Y8/1	底部1/2	底部内面滑らか
1896	614-05	陶器	山茶碗	SR210	F19 第2層			(7.0)	外:ロコナデ→貼付け高台→糸切刃痕 内:ロコナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	底部完形	底部内面滑らか
1897	620-05	陶器	山茶碗	SR210	G21 第1層			7.2	外:ロコナデ→貼付け高台→糸切刃痕 内:ロコナデ	やや密	良	灰白2.5Y8/1	底部1/2	底部内面滑らか
1898	626-04	陶器	山茶碗	SR210	I22			7.0	外:ロコナデ→貼付け高台→糸切刃痕 内:ロコナデ	やや密	良	灰白7.5Y8/1	底部4/5	内面に煤付着
1899	614-02	陶器	山茶碗	SR210	F18 第2層			(7.3)	外:ロコナデ→高台貼付け後ロコナデ→糸切刃痕 内:ロコナデ	密	良	灰黄2.5Y7/2	底部	
1900	624-02	陶器	山茶碗	SR210	I27			7.4	外:ロコナデ→高台貼付け後ナデ 内:ロコナデ	密	良	灰白5Y8/1他	底部片	底部内面滑らか 転用痕
1901	558-03	陶器	山茶碗	SR210	J28 第5層			6.8	外:ロコナデ→貼付け高台→糸切刃痕 内:ロコナデ	密	良	灰白5Y6/1他	底部完形	底部内面に自然釉 滑らか 転用痕
1902	621-04	陶器	山茶碗	SR210	I27 第1層			7.2	外:ロコナデ→貼付け高台→糸切刃痕 内:ロコナデ	やや密	良	灰白2.5Y8/1	高台 ほぼ完形	
1903	622-02	陶器	山茶碗	SR210	I27 第1層			(8.2)	外:ロコナデ→貼付け高台 内:ロコナデ	やや密	良	灰白2.5Y7/1	底部1/2	内面に煤付着
1904	616-01	陶器	山茶碗	SR210	K29 第2層			7.2	外:ロコナデ→貼付け高台→糸切刃痕 内:ロコナデ	やや密	良	灰白2.5Y8/1	底部	
1905	557-05	陶器	山茶碗	SR210	J27 第5層			7.2	外:ロコナデ→貼付け高台→糸切刃痕 内:ロコナデ	やや密	良	灰白5Y7/1	底部	高台に粉殻痕
1906	626-03	陶器	山茶碗	SR210	I22			(7.1)	外:ロコナデ→貼付け高台→糸切刃痕 内:ロコナデ	やや密	良	灰白N8/0	底部3/4	高台に粉殻痕
1907	613-02	瓦器	椀	SR210	H19 第2層			(5.4)	外:オサエ→高台貼付け後ナデ 内:ミカキ→ナデ	密	良	灰白10Y8/1	高台1/4	内面底部に暗文
1908	594-02	陶器	壺	SR210	G21 第3層			(8.4)	外:ロコナデ→ロコナデ→高台貼付け後ロコナデ 内:ロコナデ	粗	良	灰N5/0	底部小片	
1909	614-04	陶器	壺	SR210	F19 第2層			(9.2)	外:ロコナデ→高台貼付け後ナデ 内:ロコナデ	密	良	灰白5Y7/1	底部一部	
1910	576-05	陶器	壺	SR210	F19 第4層			(9.0)	外:ロコナデ→ロコナデ→ロコナデ 内:ロコナデ	やや密	並	灰白2.5Y8/1	底部1/5	外面に自然釉
1911	623-01	陶器	片口鉢	SR210	K28 第1層	(26.6)			外:内:ロコナデ	やや密	良	浅黄5Y7/3	口縁1/7	
1912	582-01	陶器	瓿	SR210	H19	(35.8)			外:ヨコナデ→ケズリ 内:ヨコナデ	やや密	良	オリーブ灰2.5GY6/1	口縁1/12	
1913	613-03	陶器	瓿	SR210	H25 第2層			(16.4)	外:タキ→ナデ→ケズリ 内:タキ後ナデ→ナデ	やや密	良	灰5Y6/1他	底部1/7	
1914	2064-01	木製品	曲物	SR210	J23	最大径 16.0	最大厚 0.7		表面に使用痕? 板目取り				底の一部	針葉樹
1915	2003-01	木製品	曲物	SR210	I23 第4層	最大径 16.0	最大厚 0.6		表面に使用痕? 板目取り				底	針葉樹 墨書「十」 φ 0.4cmの穴
1916	2003-02	木製品	曲物	SR210	K27 第4層	最大径 16.2	最大厚 0.9		表面に使用痕? 板目取り				底	針葉樹
1917	2066-02	木製品	曲物	SR210	K25 第4層	最大径 (13.6)	最大厚 0.4		表面に使用痕? 板目取り				1/4	針葉樹
1918	2032-06	木製品	曲物	SR210	J26 第3層	最大径 11.5	最大幅 5.5	最大厚 0.8	表面に使用痕? 板目取り				底	針葉樹
1919	2065-02	木製品	曲物	SR210	H18 第4層	最大径 15.8	最大厚 0.6		表面に使用痕? 板目取り				底	針葉樹

第60表 遺物観察表④

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置		法量 (c m)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
						口径	底径	器高						
1920	2066-01	木製品	換物皿	SR210	F18 第4層	最大径(25.4)		最大厚1.75	加工痕不明瞭			2/3	樹種不明	
1921	2048-02	木製品	糸車	SR210	F19 第4層	最大径11.9	最大幅1.75	最大厚1.45	加工痕不明瞭 板目取り			小片	樹種不明	
1922	2065-01	木製品	浮子	SR210	H21 第5層	最大径8.4	最大径4.9	穴径1.4	加工痕不明瞭			小片	樹種不明	
1923	2219-04	木製品	浮子	SR210	H21 第4層	最大径10.55	最大幅2.5	最大厚2.1	加工痕不明瞭 板目取り			小片	樹種不明	
1924	2051-02	木製品	板状木製品	SR210	K26	最大径28.1	最大幅4.15	最大厚0.8	加工痕不明瞭 結合孔あり 板目取り			?	樹種不明	
1925	2013-08	木製品	板状木製品	SR210	H21 第5層	最大径27.1	最大幅2.7	最大厚0.7	加工痕不明瞭 穿孔あり 板目取り			?	樹種不明	
1926	2217-02	木製品	板状木製品	SR210	G17 第4層	最大径35.5	最大幅3.3	最大厚1.0	一部削痕 穿孔あり 板目取り			?	樹種不明	
1927	2047-02	木製品	棒状木製品	SR210	K25 第5層	最大径35.8	最大幅1.0	最大厚0.9	加工痕不明瞭 板目取り			?	樹種不明	
1928	2212-03	木製品	棒状木製品	SR210	J24 第5層	最大径37.6	最大幅1.4	最大厚1.5	加工痕不明瞭 板目取り			?	樹種不明	
1929	2047-01	木製品	棒状木製品	SR210	K25 第5層	最大径30.8	最大幅1.3	最大厚1.3	加工痕不明瞭 板目取り			?	樹種不明	
1930	2063-01	木製品	件	SR210	J23 第5層	最大径41.3	最大径12.5		一部削痕 木材そのまま使用			先端部分	樹種不明	
1931	2059-01	木製品	板状木製品	SR210	K26 第5層	最大径44.3	最大幅8.4	最大厚2.2	加工痕不明瞭 穿孔あり 板目取り			?	樹種不明	
1932	2061-02	木製品	板状木製品	SR210	J27 第4層	最大径55.4	最大幅6.5	最大厚2.3	加工痕不明瞭 板目取り			?	樹種不明	
1933	2067-01	木製品	板状木製品	SR210	I24 第4層	最大径40.8	最大幅10.8	最大厚1.4	加工痕不明瞭 板目取り			?	樹種不明	
1934	2060-01	木製品	板状木製品	SR210	K26 第5層	最大径38.9	最大幅19.3	最大厚3.2	加工痕不明瞭 板目取り			?	樹種不明	
1935	2061-01	木製品	棒状木製品	SR210	J27 第5層	最大径59.7	最大幅1.7	最大厚1.5	加工痕不明瞭 板目取り			?	樹種不明	
1936	2062-02	木製品	杭	SR210	H21 第4層	最大径36.8	最大径3.5		先端尖る 木材そのまま使用			1/2	樹種不明	
1937	2062-01	木製品	杭	SR210	F19 第4層	最大径17.6	最大径6.7		先端尖る 木材そのまま使用			先端部分	樹種不明	
1938	2143-02	木製品	杭	SR210	J22	最大径80.7	最大径8.7		先端尖る 木材そのまま使用			ほぼ完形	樹種不明	
1939	2054-03	木製品	斎串 A I	SR210	G18 第4層	最大径12.9	最大幅0.85	最大厚0.25	一方の先端斜め 板目取り			1/2	針葉樹	
1940	2031-01	木製品	斎串 A V	SR210	G20 第5層	最大径62.2	最大幅1.5	最大厚0.8	一方の先端斜め 切込み左右に4ヶ所 板目取り			ほぼ完形	針葉樹	
1941	2051-03	木製品	斎串 C I	SR210	K26 第5層	最大径30.7	最大幅1.0	最大厚0.4	上部部圭頭状 切込みなし 下部部刺先状 板目取り			ほぼ完形	針葉樹	
1942	2020-11	木製品	斎串 C I	SR210	K26 第5層	最大径19.2	最大幅1.6	最大厚0.5	上部部圭頭状 切込みなし 下部部刺先状 板目取り			完形	針葉樹	
1943	2013-07	木製品	斎串 C II	SR210	I23 第5層	最大径23.0	最大幅2.0	最大厚0.3	先端から割込む 上部部圭頭状 下部部刺先状 板目取り			完形	針葉樹	
1944	2014-29	木製品	斎串 C II	SR210	G19 第4層	最大径24.4	最大幅2.0	最大厚0.4	先端から割込む 上部部圭頭状 下部部刺先状 板目取り			完形	針葉樹	
1945	2001-02	木製品	斎串 C III	SR210	K23 第4層	最大径24.8	最大幅2.2	最大厚0.9	上部部圭頭状 切込み左右1ヶ所 下部部刺先状 板目取り			ほぼ完形	針葉樹	
1946	2016-10	木製品	斎串 C III	SR210	K26 第5層	最大径21.7	最大幅2.5	最大厚0.3	上部部圭頭状 切込み左右1ヶ所 下部部刺先状 板目取り			ほぼ完形	針葉樹	
1947	2217-01	木製品	斎串 C IV	SR210	I22 第5層 No.9	最大径32.9	最大幅2.8	最大厚0.5	上部部圭頭状 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る 下部部刺先状 板目取り			ほぼ完形	針葉樹	
1948	2215-02	木製品	斎串 C IV	SR210	I26 第5層	最大径26.2	最大幅2.4	最大厚0.5	上部部圭頭状 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る 下部部刺先状 板目取り			ほぼ完形	針葉樹	
1949	2020-13	木製品	斎串 C IV	SR210	K28 第5層	最大径31.5	最大幅1.9	最大厚0.4	上部部圭頭状 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る 下部部刺先状 板目取り			ほぼ完形	針葉樹	
1950	2042-01	木製品	斎串 C IV	SR210	I22 第5層	最大径33.5	最大幅1.9	最大厚0.4	上部部圭頭状 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る 下部部刺先状 板目取り			ほぼ完形	針葉樹	
1951	2212-02	木製品	斎串 C IV	SR210	I20 第4層	最大径60.6	最大幅1.9	最大厚0.4	上部部圭頭状 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る 下部部刺先状 板目取り			ほぼ完形	針葉樹	
1952	2057-02	木製品	斎串 C IV	SR210	J22 第3層	最大径21.9	最大幅1.5	最大厚0.7	上部部圭頭状 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る 下部部刺先状 板目取り			ほぼ完形	針葉樹	
1953	2009-23	木製品	斎串 C IV	SR210	I20 第4層	最大径25.0	最大幅1.9	最大厚0.6	上部部圭頭状 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る 下部部刺先状 板目取り			ほぼ完形	針葉樹	
1954	2219-03	木製品	斎串 C IV	SR210	G17 第4層	最大径31.4	最大幅1.25	最大厚0.4	上部部圭頭状 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る 下部部刺先状 板目取り			ほぼ完形	針葉樹	
1955	2010-24	木製品	斎串 C IV	SR210	I20 第4層	最大径27.0	最大幅1.8	最大厚0.6	上部部圭頭状 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る 下部部刺先状 板目取り			ほぼ完形	針葉樹	
1956	2005-01	木製品	斎串 C IV	SR210	J22 第5層	最大径31.7	最大幅1.6	最大厚0.5	上部部圭頭状 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る 下部部刺先状 板目取り			ほぼ完形	針葉樹	
1957	2012-06	木製品	斎串 C IV	SR210	I23 第5層	最大径31.8	最大幅1.7	最大厚0.5	上部部圭頭状 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る 下部部刺先状 板目取り			ほぼ完形	針葉樹	
1958	2006-01	木製品	斎串 C IV	SR210	J22 第5層	最大径31.7	最大幅2.2	最大厚0.3	上部部圭頭状 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る 下部部刺先状 板目取り			ほぼ完形	針葉樹	
1959	2216-02	木製品	斎串 C IV	SR210	G17 第4層	最大径32.5	最大幅2.3	最大厚0.5	上部部圭頭状 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る 下部部刺先状 板目取り			ほぼ完形	針葉樹	
1960	2004-03	木製品	斎串 C IV	SR210	J23 第5層	最大径28.3	最大幅2.0	最大厚0.5	上部部圭頭状 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る 下部部刺先状 板目取り			ほぼ完形	針葉樹	
1961	2020-12	木製品	斎串 C IV	SR210	K28 第5層	最大径21.5	最大幅1.8	最大厚0.4	上部部圭頭状 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る 下部部刺先状 板目取り			ほぼ完形	針葉樹	
1962	2054-01	木製品	斎串 C IV	SR210	G18 第4層	最大径24.2	最大幅2.1	最大厚0.5	上部部圭頭状 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る 板目取り			1/2	針葉樹	
1963	2033-01	木製品	斎串 C IV	SR210	K25 第5層	最大径18.4	最大幅1.4	最大厚0.3	上部部圭頭状 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る 板目取り			1/2	針葉樹	

第61表 遺物観察表④

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
					口径	底径	器高						
1964	2041-02	木製品	斎串 CIV	SR210	I22 第5層	最大長 9.9	最大幅 1.5	最大厚 0.4	上部部圭頭状 板目取り	切込み左右2ヶ所以上で複数回入る		1/3	針葉樹
1965	2054-06	木製品	斎串 CIV	SR210	I23	最大長 17.2	最大幅 1.6	最大厚 0.8	上部部圭頭状 板目取り	切込み左右2ヶ所以上で複数回入る		1/3	針葉樹
1966	2055-03	木製品	斎串 CIV	SR210	K26 第5層	最大長 14.6	最大幅 2.1	最大厚 0.5	上部部圭頭状 板目取り	切込み左右2ヶ所以上で複数回入る		1/3	針葉樹
1967	2033-02	木製品	斎串 CIV	SR210	K25 第5層	最大長 19.5	最大幅 1.9	最大厚 0.4	上部部圭頭状 板目取り	切込み左右2ヶ所以上で複数回入る		1/3	針葉樹
1968	2017-02	木製品	斎串 CIV	SR210	I22	最大長 21.2	最大幅 2.1	最大厚 0.3	上部部圭頭状 板目取り	切込み左右2ヶ所以上で複数回入る		1/3	針葉樹
1969	2034-01	木製品	斎串 CIV	SR210	K29 第5層	最大長 22.2	最大幅 1.7	最大厚 0.5	上部部圭頭状 板目取り	切込み左右2ヶ所以上で複数回入る		1/3	針葉樹
1970	2014-32	木製品	斎串 CIV	SR210	K28 第5層	最大長 25.1	最大幅 2.0	最大厚 0.5	上部部圭頭状 板目取り	切込み左右2ヶ所以上で複数回入る		1/3	針葉樹
1971	2006-02	木製品	斎串 CIV	SR210	J22 第5層	最大長 24.7	最大幅 1.6	最大厚 0.3	上部部圭頭状 板目取り	切込み左右2ヶ所以上で複数回入る		1/3	針葉樹
1972	2058-01	木製品	斎串 CIV	SR210	K28 第5層	最大長 26.7	最大幅 0.95	最大厚 0.4	上部部圭頭状 板目取り	切込み左右2ヶ所以上で複数回入る		1/2	針葉樹
1973	2005-02	木製品	斎串 CIV	SR210	J22 第5層	最大長 28.8	最大幅 1.9	最大厚 1.0	上部部圭頭状 板目取り	切込み左右2ヶ所以上で複数回入る		1/2	針葉樹
1974	2034-02	木製品	斎串 CIV	SR210	H21 第5層	最大長 23.0	最大幅 2.0	最大厚 0.35	上部部圭頭状 板目取り	切込み左右2ヶ所以上で複数回入る		1/3	針葉樹
1975	2213-02	木製品	斎串 CIV	SR210	G17 第4層	最大長 22.2	最大幅 2.4	最大厚 0.8	上部部圭頭状 板目取り	切込み左右2ヶ所以上で複数回入る		1/3	針葉樹
1976	2216-01	木製品	斎串 CIV	SR210	G17 第4層	最大長 28.2	最大幅 1.7	最大厚 0.45	下部部剣先状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上		1/3	針葉樹
1977	2022-22	木製品	斎串 CIV	SR210	I22 第5層	最大長 27.0	最大幅 1.9	最大厚 0.9	下部部剣先状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上		1/3	針葉樹
1978	2219-02	木製品	斎串 CIV	SR210	H24 第5層	最大長 27.0	最大幅 1.6	最大厚 0.45	下部部剣先状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上		1/3	針葉樹
1979	2042-02	木製品	斎串 CIV	SR210	I22 第5層	最大長 23.1	最大幅 1.55	最大厚 0.4	下部部剣先状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上		1/3	針葉樹
1980	2032-05	木製品	斎串 CIV	SR210	J26 第5層	最大長 15.3	最大幅 1.5	最大厚 0.6	下部部剣先状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上		1/3	針葉樹
1981	2027-02	木製品	斎串 CIV	SR210	K26 第5層	最大長 18.4	最大幅 1.4	最大厚 0.4	下部部剣先状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上		1/3	針葉樹
1982	2010-25	木製品	斎串 CIV	SR210	H22 第5層	最大長 29.2	最大幅 2.3	最大厚 0.3	下部部剣先状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上		1/3	針葉樹
1983	2050-03	木製品	斎串 CIV	SR210	H21 第5層	最大長 28.2	最大幅 2.1	最大厚 0.4	下部部剣先状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上		1/3	針葉樹
1984	2024-19	木製品	斎串 CIV	SR210	K27 第5層	最大長 41.6	最大幅 2.2	最大厚 0.6	下部部剣先状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上		1/2	針葉樹
1985	2018-01	木製品	斎串 CIV	SR210	H22 第5層	最大長 56.8	最大幅 2.3	最大厚 0.4	下部部剣先状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上		1/2	針葉樹
1986	2051-01	木製品	斎串 CIV	SR210	H21 第5層	最大長 23.3	最大幅 1.4	最大厚 0.45	下部部剣先状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上		1/3	針葉樹
1987	2218-04	木製品	斎串 CIV	SR210	H21 第4層	最大長 21.4	最大幅 2.0	最大厚 0.4	下部部剣先状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上		1/3	針葉樹
1988	2218-02	木製品	斎串 CIV	SR210	H21 第4層	最大長 20.3	最大幅 1.5	最大厚 0.4	下部部剣先状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上		1/3	針葉樹
1989	2017-01	木製品	斎串 CIV	SR210	I22	最大長 18.6	最大幅 2.1	最大厚 0.4	下部部剣先状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上		1/3	針葉樹
1990	2027-04	木製品	斎串 CIV	SR210	K26 第5層	最大長 20.4	最大幅 1.6	最大厚 0.3	下部部剣先状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上		1/3	針葉樹
1991	2027-01	木製品	斎串 CIV	SR210	K26 第5層	最大長 17.8	最大幅 1.6	最大厚 0.3	下部部剣先状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上		1/3	針葉樹
1992	2019-01	木製品	斎串 CIV	SR210	H22 第5層	最大長 57.7	最大幅 3.6	最大厚 0.8	上部部圭頭状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上あり1ヶ所に複数回入る 下部部剣先状 板目取り		完形	針葉樹
1993	2212-01	木製品	斎串 CIV	SR210	I22 第5層	最大長 60.6	最大幅 1.9	最大厚 0.4	上部部圭頭状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上あり1ヶ所に複数回入る 下部部剣先状 板目取り		完形	針葉樹
1994	2044-01	木製品	斎串 CIV	SR210	J21 第5層	最大長 62.7	最大幅 1.7	最大厚 0.7	上部部圭頭状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上あり1ヶ所に複数回入る 下部部剣先状 板目取り		完形	針葉樹
1995	2026-21	木製品	斎串 CIV	SR210	K25 第5層	最大長 41.4	最大幅 2.3	最大厚 0.3	上部部圭頭状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上あり1ヶ所に複数回入る		1/2	針葉樹
1996	2022-34	木製品	斎串 CIV	SR210	G17 第4層	最大長 32.2	最大幅 2.5	最大厚 0.4	上部部圭頭状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上あり1ヶ所に複数回入る		1/2	針葉樹
1997	2017-03	木製品	斎串 CIV	SR210	I22	最大長 41.5	最大幅 1.6	最大厚 0.4	上部部圭頭状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上あり1ヶ所に複数回入る		1/2	針葉樹
1998	2034-03	木製品	斎串 CIV	SR210	G16 第4層	最大長 23.9	最大幅 2.6	最大厚 0.3	上部部圭頭状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上あり1ヶ所に複数回入る		1/3	針葉樹
1999	2022-33	木製品	斎串 CIV	SR210	K27 第5層	最大長 28.8	最大幅 2.0	最大厚 0.4	上部部圭頭状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上あり1ヶ所に複数回入る		1/3	針葉樹
2000	2009-28	木製品	斎串 CIV	SR210	G18 第5層	最大長 25.2	最大幅 2.5	最大厚 0.6	上部部圭頭状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上あり1ヶ所に複数回入る		1/3	針葉樹
2001	2028-20	木製品	斎串 CIV	SR210	K27 第5層	最大長 36.2	最大幅 1.5	最大厚 0.6	上部部圭頭状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上あり1ヶ所に複数回入る		1/2	針葉樹
2002	2015-02	木製品	斎串 CIV	SR210	I22 第5層	最大長 20.0	最大幅 1.9	最大厚 0.5	上部部圭頭状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上あり1ヶ所に複数回入る		1/4	針葉樹
2003	2039-02	木製品	斎串 CIV	SR210	I23 第5層	最大長 36.1	最大幅 1.5	最大厚 0.7	上部部圭頭状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上あり1ヶ所に複数回入る		1/2	針葉樹
2004	2009-36	木製品	斎串 CIV	SR210	G17 第4層	最大長 22.8	最大幅 1.9	最大厚 0.3	下部部剣先状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上あり1ヶ所に複数回入る		1/3	針葉樹
2005	2021-15	木製品	斎串 CIV	SR210	I22 第5層	最大長 43.5	最大幅 2.0	最大厚 0.55	下部部剣先状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上あり1ヶ所に複数回入る		1/2	針葉樹
2006	2015-01	木製品	斎串 CIV	SR210	I22 第5層	最大長 56.5	最大幅 1.8	最大厚 1.2	下部部剣先状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上あり1ヶ所に複数回入る		2/3	針葉樹
2007	2030-01	木製品	斎串 CIV	SR210	G20 第5層	最大長 79.2	最大幅 1.9	最大厚 0.5	下部部剣先状 板目取り	切込み側面左右2ヶ所以上あり1ヶ所に複数回入る		2/3	針葉樹

第62表 遺物観察表④

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置			法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色 調	残存	備 考
							口径	底径	器高						
2008	2045-01	木製品	甗串 CV	SR210	I23 第5層	最大長 67.3	最大幅 2.9	最大厚 0.7	下部部刺先状 切込み側面左右2ヶ所以上あり1ヶ所に複数 回入る				2/3	針葉樹	
2009	2055-01	木製品	甗串 C	SR210	I23	最大長 7.5	最大幅 1.6	最大厚 0.4	上部部圭頭状 切込み不明 板目取り					圭頭部分 針葉樹	
2010	2004-04	木製品	甗串 C	SR210	J23 第5層	最大長 12.6	最大幅 2.0	最大厚 0.5	上部部圭頭状 切込み不明 板目取り					圭頭部分 針葉樹	
2011	2215-04	木製品	甗串 C	SR210	G17 第4層	最大長 9.0	最大幅 1.6	最大厚 0.35	上部部圭頭状 切込み不明 板目取り					圭頭部分 針葉樹	
2012	2005-03	木製品	甗串 C	SR210	J22 第5層	最大長 10.4	最大幅 1.9	最大厚 0.4	上部部圭頭状 切込み不明 板目取り					圭頭部分 針葉樹	
2013	2038-01	木製品	甗串 C	SR210	K27 第5層	最大長 11.2	最大幅 2.1	最大厚 0.45	上部部圭頭状 切込み不明 板目取り					圭頭部分 針葉樹	
2014	2057-03	木製品	甗串 C	SR210	G19 第4層	最大長 10.0	最大幅 2.3	最大厚 0.5	上部部圭頭状 切込み不明 柱目取り					圭頭部分 針葉樹	
2015	2214-03	木製品	甗串 C	SR210	K27 第4層	最大長 9.2	最大幅 1.1	最大厚 0.4	上部部圭頭状 切込み不明 柱目取り					圭頭部分 針葉樹	
2016	2214-01	木製品	甗串 C	SR210	G18 第5層	最大長 13.5	最大幅 1.9	最大厚 0.6	上部部圭頭状 切込み不明 板目取り					圭頭部分 針葉樹	
2017	2002-04	木製品	甗串 C	SR210	J24 第5層	最大長 9.0	最大幅 2.5	最大厚 0.2	上部部圭頭状 切込み不明 板目取り					圭頭部分 針葉樹	
2018	2040-01	木製品	甗串 C	SR210	H20 第5層	最大長 23.9	最大幅 1.6	最大厚 0.6	上部部圭頭状 切込み不明 板目取り					圭頭部分 針葉樹	
2019	2215-03	木製品	甗串 C	SR210	J23 第5層	最大長 17.0	最大幅 2.2	最大厚 0.55	上部部圭頭状 切込み不明 板目取り					圭頭部分 針葉樹	
2020	2004-02	木製品	甗串 C	SR210	K23 第4層	最大長 14.7	最大幅 2.3	最大厚 0.6	上部部圭頭状 切込み不明 板目取り					圭頭部分 針葉樹	
2021	2046-02	木製品	甗串 C	SR210	H21 第4層	最大長 13.85	最大幅 1.6	最大厚 0.8	上部部圭頭状 切込み不明 板目取り					圭頭部分 針葉樹	
2022	2042-04	木製品	甗串 C	SR210	K27 第5層	最大長 11.2	最大幅 1.5	最大厚 0.3	上部部圭頭状 切込み不明 板目取り					圭頭部分 針葉樹	
2023	2055-04	木製品	甗串 C	SR210	K26 第5層	最大長 12.2	最大幅 1.1	最大厚 0.4	上部部圭頭状 切込み不明 板目取り					圭頭部分 針葉樹	
2024	2033-03	木製品	甗串 C	SR210	I22 第5層	最大長 19.4	最大幅 1.7	最大厚 0.35	上部部圭頭状 切込み不明 板目取り					圭頭部分 針葉樹	
2025	2218-03	木製品	甗串 C	SR210	K24 第4層	最大長 15.7	最大幅 1.8	最大厚 0.9	上部部圭頭状 切込み不明 板目取り					圭頭部分 針葉樹	
2026	2027-03	木製品	甗串 C	SR210	K26 第5層	最大長 26.4	最大幅 1.2	最大厚 0.65	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	
2027	2215-01	木製品	甗串 C	SR210	I24 第5層	最大長 27.5	最大幅 4.1	最大厚 0.7	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	
2028	2032-03	木製品	甗串 C	SR210	H21 第5層	最大長 29.2	最大幅 2.1	最大厚 0.7	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	
2029	2049-03	木製品	甗串 C	SR210	I22 第5層	最大長 30.0	最大幅 1.15	最大厚 1.1	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	
2030	2042-03	木製品	甗串 C	SR210	I22 第5層	最大長 21.9	最大幅 1.5	最大厚 0.4	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	
2031	2012-03	木製品	甗串 C	SR210	J23 第5層	最大長 35.5	最大幅 1.9	最大厚 0.9	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				1/2	針葉樹	
2032	2032-01	木製品	甗串 C	SR210	I24 第5層	最大長 21.5	最大幅 1.6	最大厚 0.45	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	
2033	2021-16	木製品	甗串 C	SR210	H19 第3層	最大長 37.3	最大幅 2.0	最大厚 0.3	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				1/2	針葉樹	
2034	2036-03	木製品	甗串 C	SR210	I24 第4層	最大長 6.4	最大幅 1.9	最大厚 0.4	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	
2035	2048-01	木製品	甗串 C	SR210	G20 第5層	最大長 25.7	最大幅 2.0	最大厚 0.7	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	
2036	2035-01	木製品	甗串 C	SR210	H22 第5層	最大長 19.5	最大幅 2.1	最大厚 0.5	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	
2037	2039-03	木製品	甗串 C	SR210	H21 第5層	最大長 9.1	最大幅 1.9	最大厚 0.2	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	
2038	2011-38	木製品	甗串 C	SR210	G17 第4層	最大長 20.6	最大幅 1.7	最大厚 0.4	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	
2039	2213-03	木製品	甗串 C	SR210	H24 第5層	最大長 21.6	最大幅 1.7	最大厚 0.6	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	
2040	2036-04	木製品	甗串 C	SR210	J28 第4層	最大長 7.3	最大幅 1.6	最大厚 0.4	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	
2041	2001-01	木製品	甗串 C	SR210	J24 第4層	最大長 20.4	最大幅 2.1	最大厚 0.4	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	
2042	2214-04	木製品	甗串 C	SR210	I22 第5層	最大長 21.2	最大幅 2.2	最大厚 0.3	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	
2043	2007-02	木製品	甗串 C	SR210	I25 第5層	最大長 10.4	最大幅 1.9	最大厚 0.4	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	
2044	2056-03	木製品	甗串 C	SR210	K26 第5層	最大長 9.8	最大幅 1.25	最大厚 0.3	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	
2045	2214-05	木製品	甗串 C	SR210	H22 第5層	最大長 17.3	最大幅 2.9	最大厚 0.5	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	
2046	2001-03	木製品	甗串 C	SR210	J24 第5層	最大長 22.2	最大幅 1.8	最大厚 0.4	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	
2047	2016-04	木製品	甗串 C	SR210	H23 第5層	最大長 13.9	最大幅 2.1	最大厚 0.4	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	
2048	2056-02	木製品	甗串 C	SR210	K26 第5層	最大長 12.9	最大幅 1.0	最大厚 0.9	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	
2049	2036-02	木製品	甗串 C	SR210	J28 第4層	最大長 15.6	最大幅 1.8	最大厚 0.5	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	
2050	2002-03	木製品	甗串 C	SR210	H22	最大長 14.8	最大幅 2.1	最大厚 0.5	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	
2051	2002-02	木製品	甗串 C	SR210	J24 第4層	最大長 17.9	最大幅 1.8	最大厚 0.45	下部部刺先状 切込み不明 板目取り					下部部分 針葉樹	

第63表 遺物観察表④

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置		法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色 調	残存	備 考
						口径	底径	器高						
2052	2050-01	木製品	沓串 C	SR210	G20 第5層	最大長 17.4	最大幅 2.2	最大厚 0.9	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2053	2054-02	木製品	沓串 C	SR210	G18 第4層	最大長 15.5	最大幅 0.85	最大厚 0.3	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2054	2041-01	木製品	沓串 C	SR210	I22 第5層	最大長 19.2	最大幅 2.7	最大厚 0.8	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2055	2037-02	木製品	沓串 C	SR210	I24 第4層	最大長 14.0	最大幅 2.4	最大厚 0.45	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2056	2033-04	木製品	沓串 C	SR210	G16 第4層	最大長 17.0	最大幅 1.3	最大厚 0.5	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2057	2039-01	木製品	沓串 C	SR210	I23 第5層	最大長 18.2	最大幅 1.6	最大厚 0.4	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2058	2040-03	木製品	沓串 C	SR210	J24 第5層	最大長 18.0	最大幅 1.5	最大厚 0.25	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2059	2032-04	木製品	沓串 C	SR210	I26 第5層	最大長 17.2	最大幅 2.1	最大厚 0.3	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2060	2001-04	木製品	沓串 C	SR210	J24 第5層	最大長 18.9	最大幅 2.0	最大厚 0.5	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2061	2053-03	木製品	沓串 C	SR210	I23	最大長 14.2	最大幅 2.0	最大厚 0.6	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2062	2002-01	木製品	沓串 C	SR210	J24 第5層	最大長 15.7	最大幅 2.15	最大厚 0.8	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2063	2057-05	木製品	沓串 C	SR210	G19 第4層	最大長 14.0	最大幅 2.4	最大厚 0.55	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2064	2055-02	木製品	沓串 C	SR210	I22	最大長 14.4	最大幅 1.0	最大厚 0.3	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2065	2218-05	木製品	沓串 C	SR210	H21 第4層	最大長 13.3	最大幅 1.1	最大厚 0.7	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2066	2047-03	木製品	沓串 C	SR210	K25 第5層	最大長 11.7	最大幅 1.15	最大厚 0.25	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2067	2038-03	木製品	沓串 C	SR210	K27 第5層	最大長 13.9	最大幅 1.8	最大厚 0.5	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2068	2041-03	木製品	沓串 C	SR210	I22 第5層	最大長 10.8	最大幅 1.3	最大厚 0.45	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2069	2040-02	木製品	沓串 C	SR210	J24 第5層	最大長 11.1	最大幅 2.2	最大厚 0.7	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2070	2038-02	木製品	沓串 C	SR210	K27 第5層	最大長 12.4	最大幅 2.0	最大厚 0.25	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2071	2034-04	木製品	沓串 C	SR210	H24 第5層	最大長 9.2	最大幅 2.2	最大厚 0.6	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2072	2035-02	木製品	沓串 C	SR210	H22 第5層	最大長 11.8	最大幅 1.1	最大厚 0.3	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2073	2007-01	木製品	沓串 C	SR210	J28 第5層	最大長 12.1	最大幅 1.4	最大厚 0.3	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2074	2057-04	木製品	沓串 C	SR210	G18 第4層	最大長 13.3	最大幅 1.65	最大厚 0.45	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2075	2036-03	木製品	沓串 C	SR210	J28 第4層	最大長 10.3	最大幅 0.95	最大厚 0.3	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2076	2215-05	木製品	沓串 C	SR210	H23 第5層	最大長 9.2	最大幅 1.2	最大厚 0.3	下部部刺先状 切込み不明 板目取り				下部部分	針葉樹
2077	2043-01	木製品	舟形	SR210	I23 第5層	最大長 15.3	最大幅 4.0	最大厚 1.3	削痕一部あり 遺存状況悪し 板目取り				1/2	針葉樹
2078	2054-04	木製品	舟形	SR210	I23	最大長 15.9	最大幅 2.2	最大厚 0.8	加工痕不明瞭 遺存状況悪し 板目取り				1/4	針葉樹
2079	2043-02	木製品	舟形	SR210	H22 第5層	最大長 18.9	最大幅 3.4	最大厚 2.6	加工痕不明瞭 遺存状況悪し 板目取り				1/2	針葉樹
2080	2057-01	木製品	舟形	SR210	F19 第5層	最大長 14.4	最大幅 2.5	最大厚 0.85	加工痕不明瞭 遺存状況悪し 板目取り				1/4	針葉樹
2081	2004-01	木製品	舟形	SR210	J27 第5層	最大長 24.4	最大幅 4.6	最大厚 0.8	加工痕不明瞭 遺存状況悪し 板目取り				完形	針葉樹
2082	2008-01	木製品	人形	SR210	I22 第5層	最大長 23.8	最大幅 1.9	最大厚 0.5	頭部と肩部に切込み 手の表現の切込み 下部部刺先状板目取り				完形	針葉樹
2083	502-03	弥生土器	壺 C3	柱穴	G31 Pit1	(8.5)	体部径 13.6	(15.3)	外:ヨコナデ→ミガキ→ナデ 沈線4~5本 内:ヨコナデ→オサエ→強いナデ	やや粗	良	にぶい 橙5YR7/4他	口縁小片 体部完形	
2084	427-02	弥生土器	壺 C3	柱穴	G20 Pit1		6.0		外:ハケメ15本/1.5cm後粗いミガキ→ナデ 内:コビナデ→ハケメ→ナデ	やや密	良	外:橙5YR6/6 内:にぶい 橙5YR6/4他	底部完形 体部3/5	
2085	946-01	弥生土器	壺 B2	柱穴	I-J65 Pit1 No.4~6	(9.5)	4.2	16.2	外:調整不明 横線文、刺突列 内:調整不明→ナデ	やや密	並	灰白7.5YR8/2	口縁小片 底部完形	
2086	427-01	弥生土器	甕 A2	柱穴	F17 Pit10	(17.2)			外:ヨコナデ→ハケメ8本/2cm 内:ヨコナデ→コビオサエ→工具ナデ	密	良	にぶい 黄橙10YR7/4	口縁1/4 全体に煤付着	
2087	269-01	弥生土器	甕 D1	柱穴	K74 Pit3	(10.4)	5.4	(15.0)	外:ヨコナデ→ナデ→ヨコナデ 内:ヨコナデ→ミガキ→ナデ 台部内:ナデ	やや粗	不良	外:にぶい 橙5YR6/4他 内:褐灰10YR4/1他	口縁1/4 台部完形	
2088	947-01	弥生土器	高杯 A2b	柱穴	I-J65 Pit1 No.1・2・7・8	23.8			外:ヨコナデ→ミガキ→ハケメ後ミガキ 内:ヨコナデ→ミガキ	やや粗	並	にぶい 橙5YR6/4他	口縁2/3 外面に一部黒斑あり	
2089	669-05	土師器	杯	柱穴	J38 Pit16	13.9	6.9	2.85	外・内:ヨコナデ→ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	1/3 灯明皿 口縁に油煙	
2090	669-04	土師器	杯	柱穴	J37 Pit3	(15.8)	(7.9)	(2.8)	外・内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	にぶい 橙7.5YR7/3	口縁1/4 灯明皿 内面に一部油煙	
2091	267-04	土師器	皿	柱穴	O85 Pit6	13.0		3.2	外:ヨコナデ→ナデ、コビオサエ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	灰白7.5YR8/2他	ほぼ完形	
2092	267-03	土師器	皿	柱穴	O85 Pit6	11.5~ 12.1		2.65	外:ヨコナデ→ナデ、コビオサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	灰白2.5Y8/2他	完形	
2093	267-02	土師器	小皿	柱穴	O85 Pit6	10.2		1.2	外・内:ヨコナデ→ナデ、コビオサエ	密	良	外:淡黄2.5Y8/3 内:灰白2.5Y8/2	完形	
2094	426-03	土師器	小皿	柱穴	J20 Pit1	9.5		2.0	外:ヨコナデ→コビオサエ、ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	並	灰白10YR8/2	1/2	
2095	943-01	土師器	小皿	柱穴	H16 Pit2	(10.0)			外・内:ナデ	やや粗	並	褐灰10YR6/1他	口縁1/4	

第64表 遺物観察表④

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
					口径	底径	器高							
2096	267-01	土師器	小皿	柱穴	M84 Pit2	9.5		1.95	外:ヨコナデ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ、ユビオサエ	密	良	外:灰白10YR8/2 内:灰白2.5Y8/2	完形	
2097	268-01	土師器	小皿	柱穴	G85 Pit3	9.8~11.1		2.5	外:内:ヨコナデ→ナデ	密	良	外:浅黄橙7.5YR8/3 内:灰白7.5YR8/2	口縁3/4	
2098	267-06	ロクロ土師器	台付皿	柱穴	N84 Pit1	(9.8)	5.0	2.8	外:ロクロナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	密	不良	浅黄橙7.5YR8/3	底部ほぼ完形	
2099	268-04	ロクロ土師器	台付皿	柱穴	L87 Pit3	(10.0)	6.2	(2.7)	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→ユビオサエ→ナデ 内:ロクロナデ	密	不良	灰白2.5Y8/2	口縁1/8 台部完形	
2100	268-06	ロクロ土師器	台付皿	柱穴	L77 Pit1	14.4	7.5	5.3	外:ロクロナデ→貼付け高台→糸切り痕 内:ロクロナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/3他	口縁3/4 台部完形	
2101	267-05	ロクロ土師器	椀	柱穴	E78 Pit1	13.1	6.2	5.3	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	密	不良	外:灰白2.5Y8/2他 内:灰黄2.5Y7/2他	口縁3/4	
2102	425-01	土師器	甕	柱穴	E23 Pit4	15.1		19.5	外:ヨコナデ→ハケメ12本/2.1cm後ユビナデ、オサエ→ケズリ2cm幅 内:ヨコナデ→ハケメ→ナデ→ケズリ	やや密	良	灰白10YR8/2	口縁・底部完形 胴体部1/2	外面に炭化物付着
2103	670-01	土製品	土製支脚	柱穴	J43 Pit102	最大長14.3	最大幅6.8	最大厚5.3	手捏ねて全体に指圧痕多数あり、不定方向にナデ	粗	良	灰白2.5Y8/1他	2/3	
2104	426-04	土製品	製塩土器	柱穴	P16 Pit2				外:ナデ→ユビオサエ→ナデ 内:ナデ	密	良	明赤褐5YR5/6	小片	
2105	269-03	土製品	製塩土器	柱穴	L-M85 Pit1	(22.2)		(5.95)	外:内:ナデ	やや密	並	外:浅黄橙10YR8/3他 内:橙5YR7/6	底部1/12	外面に粉殻痕
2106	671-04	土師器	小皿	柱穴	J40 Pit4	7.4		0.95	外:ユビナデ、オサエ 内:工具ナデ	やや粗	並	灰白10YR8/2	ほぼ完形	
2107	671-03	土師器	小皿	柱穴	J40 Pit4	7.4		1.2	外:ユビナデ、オサエ 内:工具ナデ	やや粗	並	灰白10YR8/2	完形	
2108	671-02	土師器	小皿	柱穴	F39 Pit1	7.4		1.45	外:ユビナデ、オサエ 内:工具ナデ	密	良	外:灰白10YR8/2 内:浅黄橙7.5YR8/4	ほぼ完形	
2109	268-02	陶器	山皿	柱穴	L-M85 Pit1	12.5	7.5	2.8	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	密	不良	外:灰白N8/0他	口縁1/2 底部完形	底部内面滑らか
2110	268-05	陶器	山茶椀	柱穴	H81 Pit2	(15.6)	7.2	(5.5)	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白N7/0	口縁1/2 底部完形	底部内面滑らか 自然釉
2111	426-01	陶器	山茶椀	柱穴	I19 Pit9	17.2	7.2	5.4	外:ロクロナデ→貼付け高台→糸切り痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白5Y7/1	1/2	底部内面に自然釉 重ね焼き痕あり
2112	669-06	陶器	山茶椀	柱穴	J43 Pit3	(15.5)	6.0	(6.2)	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切り後ナデ 内:ロクロナデ	やや密	良	黄灰2.5Y6/1	口縁1/4 底部完形	内面に煤付着
2113	274-02	弥生土器	壺 E2	包含層	E78	10.6	(6.5)	28.4	外:ヨコナデ→ナデ→ハケメ5本/cm→ナデ、頸部に櫛による 刺突7~8本 内:ヨコナデ	密	良	外:浅黄橙10YR8/3他 内:褐灰10YR4/1他	口縁1/2	
2114	265-01	弥生土器	壺 E1b	包含層	B-C78	(8.6)	(4.6)	(21.4)	外:ヨコナデ→ミガキ→ナデ 内:ナデ→ハケメ10本/cm→ヨコナデ→ハケメ後ナデ	密	良	外:褐灰7.5YR4/1 内:灰白7.5YR8/2	口縁・底部ほぼ完形 胴体部1/3	
2115	419-01	弥生土器	壺	包含層	E7	8.8	5.0	16.8	外:ハケメ後ヨコナデ→ハケメケズリ1.4cm幅→ナデ 内:ハケメ後ヨコナデ→ヨコナデ→ハケメ12本/cm→ナデ	密	良	外:橙5YR6/6 内:にぶい橙7.5YR7/4	口縁と 底部完形	
2116	264-02	弥生土器	壺 E1a	包含層	F79	12.0			外:ヨコナデ→ミガキ 内:ヨコナデ→ユビナデ→工具ナデ	やや粗	良	外:灰黄褐10YR5/2他 内:にぶい橙7.5YR6/3	口縁2/3	
2117	262-01	弥生土器	壺 D1	包含層	D69 No.1-2	11.6			外:ヨコナデ→ハケメ10本/7mm後ナデ、液状文 内:ヨコナデ→ハケメ10本/7mm→ユビナデ→ハケメ4本/7mm	やや粗	良	外:にぶい橙7.5YR7/3 内:褐灰10YR4/1	口縁2/3	
2118	254-01	弥生土器	甕 A3	包含層	F79	19.8			外:ヨコナデ→ミガキ、頸部に刺突文 内:ヨコナデ→工具ナデ後ユビナデ	やや粗	不良	にぶい橙7.5YR7/3	口縁3/5	
2119	417-04	弥生土器	甕 A2	包含層	P15 トレンチ	(18.0)			外:ヨコナデ→ハケメ9本/cm、口縁端部キザミ 内:ヨコナデ→ハケメ8本/cm→ハケメ後ナデ	やや密	不良	外:褐灰10YR4/1 内:淡黄2.5Y8/3	口縁～ 体部1/3	外面に煤付着
2120	255-01	弥生土器	甕 E	包含層	F79	(18.0)			外:ヨコナデ→ハケメ12本/1.3cm→ナデ、刺突列2段 内:ヨコナデ→ハケメ12本/1.3cm	粗	良	橙5YR6/6	口縁1/2	
2121	665-05	弥生土器	鉢 C2	包含層	G58	(11.0)	(4.2)	(12.2)	外:ヨコナデ→ハケメ6本/cm→ナデ 内:ヨコナデ→工具ナデ	密	並	浅黄橙7.5YR8/3他	口縁1/4 頸～底部1/2	外面に穿孔
2122	665-04	弥生土器	鉢 C1	包含層	G58	(11.0)	3.3	(10.6)	外:ヨコナデ→ユビオサエ→ナデ 内:ヨコナデ→工具ナデ→ケズリ	密	良	外:橙5YR6/6他 内:にぶい黄橙10YR6/4他	2/3	
2123	418-02	弥生土器	鉢 C1	包含層	N17	(12.2)	4.0	(9.6)	外:ヨコナデ→ハケメ後ミガキ→ユビオサエ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ、工具痕	粗	並	外:褐灰7.5YR4/1 内:にぶい橙7.5YR6/4	口縁～ 体部1/8 底部完形	
2124	264-01	弥生土器	鉢 C3	包含層	B-C75	(15.2)	3.4	8.15	外:ヨコナデ→ナデ、ユビオサエ→ナデ 内:ヨコナデ→ハケメ4本/5mm→ハケメ後ナデ	粗	並	外:褐灰7.5YR4/1 内:にぶい橙7.5YR7/3	1/2	
2125	262-03	弥生土器	鉢 E1	包含層	D69 No.1	17.5	6.4	14.05	外:ヨコナデ→ミガキ→ユビナデ→ヨコナデ→調整不明 内:ヨコナデ→ミガキ	粗	良	橙5YR6/6	底部完形	
2126	417-01	弥生土器	鉢 E3	包含層	東側表土	(12.5)	5.1	(5.0)	外:ヨコナデ→ミガキ→ヨコナデ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ→調整不明	粗	並	にぶい橙7.5YR7/3	口縁1/3 底部ほぼ完形	
2127	275-05	弥生土器	ミチュア土器 A1	包含層	E69 トレンチ	(4.7)	3.1	(6.75)	外:ヨコナデ→ナデ→ハケメ4本/cm→ハケメ後ミガキ 内:ヨコナデ→ナデ	密	並	橙7.5YR7/6	口縁1/4 底部完形	
2128	275-06	弥生土器	ミチュア土器 A1	包含層	N72 トレンチ		2.9		外:ナデ、歯描横線文、液状文 内:ナデ	密	並	浅黄橙7.5YR8/4	体部3/4 底部完形	
2129	421-04	弥生土器	ミチュア土器 A1	包含層	H24		3.7		外:ナデ→ハケメ8本/0.9cm→ナデ 内:ユビナデ→ナデ	やや密	良	灰黄2.5Y6/2他	頸部から 下完形	
2130	252-09	弥生土器	ミチュア土器 B	包含層	J79		2.5		外:内:調整不明	やや粗	並	外:にぶい橙7.5YR6/4他 内:橙7.5YR6/6他	底部ほぼ完形	
2131	252-08	弥生土器	ミチュア土器 B	包含層	J81	(4.5)	3.9	(5.9)	外:内:ナデ	やや粗	並	灰褐7.5YR5/2他	口縁1/4 底部2/3	
2132	276-04	弥生土器	ミチュア土器 C2	包含層	N73	(2.3)	1.4	(2.1)	外:内:ナデ	粗	良	橙7.5YR6/6	底部完形	
2133	430-01	石器	石鏃	包含層	H8	最大長2.5	最大幅2.3	最大厚0.5	無茎三角鏃				完形	チャート 重量2.69g
2134	430-02	石器	石包丁	包含層	J18	最大長3.3	最大幅4.95	最大厚0.5					小片	石墨千枚岩? 重量7.02g
2135	424-01	古式土師器	壺	包含層	E7	12.0	5.9	21.25	外:ヨコナデ→ハケメ8本/cm後ナデ 内:ヨコナデ→ナデ→ハケメ後ケズリ→ハケメ8~12本/cm→ケズリ	やや粗	良	淡黄2.5Y8/3	1/2	外面に黒斑あり

第65表 遺物観察表⑤

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置	法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
					口径	底径	器高						
2136	419-02	古式土師器	小型丸底蓋	包含層 F25	8.0		9.55	外:ヨコナデ→ナデ→ケズリ 内:ヨコナデ→工具ナデ	密	良	外:にぶい黄橙10YR7/3 内:暗灰N3/0	1/2	
2137	429-03	古式土師器	高杯	包含層 O15	14.9	10.8	12.8	外:ヨコナデ→ナデ→ヨコナデ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ 脚部内:ユビナデ→ヨコナデ	やや粗	並	外:橙5YR6/6 内:橙5YR7/6	杯部1/2 裾部5/6	
2138	429-01	古式土師器	高杯	包含層 O15	16.1	10.6	12.95	外:ヨコナデ→ナデ→ヨコナデ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ 脚部内:ナデ→ヨコナデ	密	良	橙5YR7/6	脚部以外 ほぼ完形	
2139	275-03	須恵器	杯身	包含層 F73	12.6		3.9	外:ロクロナデ→ヘラ切り、未調整 内:ロクロナデ	密	並	灰白N8/1他	口縁2/3	
2140	252-01	須恵器	杯身	包含層 G85	13.2	5.0	3.4	外:ロクロナデ→ロクロケズリ 内:ロクロナデ	密	良	外:灰N6/0 内:灰白7/0	口縁1/2	
2141	422-02	土師器	皿	包含層 H26	(18.2)	(10.0)	(2.85)	外:ヨコナデ→ケズリ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	外:にぶい橙5YR6/4 内:にぶい橙7.5YR7/3	口縁1/6	底部両面に線刻「ドマン格子」
2142	668-01	土師器	皿	包含層 排土中	15.6	8.0	3.3	外:ヨコナデ→ケズリ 内:ヨコナデ→ナデ	密	不良	外:暗赤褐5YR3/4 内:にぶい橙5YR6/4	3/4	底部外面に線刻「放射状」
2143	415-01	土師器	皿	包含層 L18	(17.2)	(12.0)	(2.25)	外・内:ヨコナデ→ナデ	密	良	橙5YR7/6他	口縁1/2	外面に線刻「ドマン格子」
2144	415-02	土師器	杯	包含層 L19	13.4		2.85	外・内:ヨコナデ→ナデ	密	並	外:淡橙5YR8/3 内:浅黄橙7.5YR8/3	ほぼ完形	
2145	662-02	土師器	杯	包含層 I25	(13.3)		(2.8)	外:ヨコナデ→ユビオサエ→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	外:浅黄橙10YR8/3 内:にぶい黄橙10YR7/3	口縁1/2	
2146	251-02	土師器	杯	包含層 M84	(11.0)		(2.4)	外・内:ヨコナデ→ナデ、オサエ	密	不良	外:にぶい黄橙10YR7/2 内:灰白10YR8/2	口縁1/2	
2147	256-01	土師器	杯	包含層 F76	14.9		3.5	外:ヨコナデ→ナデ一部ユビオサエ、工具痕 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	暗灰黄10YR5/2他	3/4	
2148	276-02	土師器	杯	包含層 表土掘削	(13.0)		(2.8)	外:ヨコナデ→ユビオサエ、ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	不良	灰白10YR8/2	口縁1/3	
2149	665-02	ロクロ土師器	台付皿	包含層 J31	(8.15)	4.55	(1.8)	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切り後ナデ? 内:ロクロナデ	密	良	淡黄2.5Y8/3	1/3	
2150	252-06	ロクロ土師器	台付皿	包含層 F76	(11.5)	5.6	(2.8)	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→ロクロナデ 内:ロクロナデ	やや粗	不良	外:灰白10YR8/2 内:淡黄2.5Y8/3	口縁1/4 高台完形	
2151	664-08	ロクロ土師器	皿	包含層 J24	9.0	3.0	1.9	外:ロクロナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	密	良	外:浅黄橙7.5YR8/3 内:浅黄橙7.5YR8/4	1/2	口縁に歪み
2152	419-03	ロクロ土師器	皿	包含層 G8	(8.8)	4.5	2.1	外:ロクロナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	1/2	
2153	251-04	ロクロ土師器	皿	包含層 F76	9.5	4.2	1.7	外:ロクロナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白10YR8/2他	ほぼ完形	
2154	275-04	ロクロ土師器	皿	包含層 O85	10.4	5.0	1.75	外:ロクロナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	密	並	外:灰白7.5YR8/1 内:灰白7.5YR8/2	完形	
2155	264-04	ロクロ土師器	皿	包含層 E75	10.3	6.0	1.95	外:ロクロナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	やや粗	並	淡黄2.5Y8/4	ほぼ完形	
2156	263-02	ロクロ土師器	皿	包含層 D74	9.8	5.1	1.8	外:ロクロナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	やや粗	良	浅黄橙7.5YR8/4	ほぼ完形	
2157	417-02	ロクロ土師器	椀	包含層 J25	12.7	4.8	4.65	外:ロクロナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	粗	不良	灰白7.5YR8/2他	3/4	歪み大
2158	423-03	ロクロ土師器	椀	包含層 D21	(14.4)	6.1	(3.55)	外:ロクロナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白7.5YR8/2	1/2	
2159	254-03	土師器	椀	包含層 F86	(14.9)	7.4	(5.5)	外:ヨコナデ→ナデ、ユビオサエ→高台貼付け後ヨコナデ 内:ヨコナデ→ユビナデ→ナデ	粗	不良	にぶい橙5YR7/3	底部完形	
2160	418-01	土師器	椀	包含層 J25	(14.4)	6.8	(5.4)	外:ヨコナデ→ナデ→貼付け高台→ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	並	灰白5Y8/2	口縁～ 体部1/2 高台完形	
2161	270-01	土師器	瓿	包含層 F75・76	26.8			外:ヨコナデ→ユビナデ、オサエ 内:ヨコナデ→ハケ×10本/1.7cm→ハケ×後ナデ	粗	不良	淡黄2.5Y8/3	口縁完形	外面に煤付着
2162	258-01	土師器	甕	包含層 F76	(29.6)			外:ヨコナデ→ナデ、オサエ 内:ヨコナデ→工具ナデ→ナデ	やや粗	並	外:灰褐7.5YR6/2他 内:にぶい褐7.5YR5/3他	口縁1/2	
2163	664-06	土師器	小皿	包含層 J28	8.1		1.2	外・内:ヨコナデ→ナデ	密	良	淡黄2.5Y8/3	1/2	
2164	667-02	土師器	小皿	包含層	7.9		1.25	外:ヨコナデ→ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	完形	
2165	667-01	土師器	小皿	包含層 K18	9.6		1.5	外:ヨコナデ→ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデ→ナデ	粗	並	浅黄橙7.5YR8/3	3/4	
2166	251-01	土師器	小皿	包含層 F75	9.6		1.65	外:ヨコナデ→ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデ→ナデ(工具痕)	密	良	灰白2.5Y8/2	ほぼ完形	
2167	663-01	土師器	小皿	包含層 試験No.17	8.7		1.7	外:ヨコナデ→オサエ、ナデ 内:ヨコナデ→ナデ	密	良	灰白2.5Y8/2	完形	
2168	251-03	土師器	皿	包含層 M84	(12.8)		(2.65)	外:ヨコナデ→工具ナデ→ナデ後ユビオサエ 内:ナデ	やや粗	不良	浅黄橙7.5YR8/3他	口縁1/2	
2169	275-01	土師器	皿	包含層 L75	(14.8)		(3.45)	外・内:ヨコナデ→ナデ	密	不良	浅黄橙10YR8/3	口縁1/2	外面に煤付着
2170	272-02	ロクロ土師器	椀	包含層	(14.5)	6.6	(5.7)	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	やや粗	不良	外:浅黄橙7.5YR8/3 内:褐灰10YR6/1	口縁1/8 底部完形	外面に自然釉
2171	251-05	ロクロ土師器	椀	包含層 F75	(15.2)	(6.4)	(5.85)	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	やや粗	不良	外:浅黄橙10YR8/3 内:灰白2.5Y8/2他	口縁1/8 高台完形	内面に炭化物
2172	272-05	土製品	製塩土器	包含層 N87	(14.8)	(15.6)	(5.1)	外:ナデ→ユビオサエ→ナデ 内:ナデ→ヨコナデ	密	良	外:にぶい橙2.5YR6/4 内:橙5YR7/6	1/10	
2173	272-04	土製品	製塩土器	包含層 N87		(16.4)		外・内:ナデ、ユビオサエ	やや粗	良	にぶい橙7.5YR7/4	底部1/6	外面に煤付着
2174	665-01	陶器	山皿	包含層 L19	7.7	4.4	2.25	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切り後ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰白N8/0	5/6	
2175	664-07	陶器	山皿	包含層 J24	(10.0)	(5.5)	(3.0)	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	密	良	外:灰白10YR8/1 内:灰白2.5Y8/1	1/2	内面に自然釉
2176	251-06	陶器	山茶碗	包含層 J80		8.1		外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白5Y7/1	高台1/2	底部外面に線刻「×」
2177	272-01	陶器	山茶碗	包含層 N85	(14.8)	6.6	(5.4)	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白5Y7/1	口縁1/3 底部完形	外面に自然釉 内面に重ね焼き痕
2178	665-03	陶器	山茶碗	包含層 J31	(17.0)	(9.2)	(5.0)	外:ロクロナデ→高台貼付け後ナデ→糸切り痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白N8/0	1/2	内面に自然釉付着

第66表 遺物観察表⑤

番号	実測番号	種類	器種分類	出土位置		法量 (cm)			調整技法の特徴	胎土	焼成	色 調	残存	備 考
						口径	底径	器高						
2179	417-03	陶器	山茶碗	包含層	J22	16.4	7.7	5.25	外:ロクロナデー貼付け高台一糸切り痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白10Y7/1	3/4	自然釉
2180	256-02	陶器	山茶碗	包含層	F75・76	16.3	8.0	5.2	外:ロクロナデー貼付け高台一糸切り痕 内:ロクロナデ	密	良	灰白7.5Y7/1	5/6	内面に重ね焼き痕 端部に自然釉
2181	260-01	陶器	山茶碗	包含層	E76	(17.1)	(7.8)	(5.9)	外:ロクロナデー高台貼付け後ナデー糸切り痕 内:ロクロナデ	密	良	外:灰白2.5Y3/1他 内:灰白2.5Y7/1他	口縁1/4 底部1/2	内面に煤付着
2182	275-02	陶器	山茶碗	包含層		16.4	7.5	5.85	外:ロクロナデー高台貼付け後ナデー糸切り痕 内:ロクロナデ	密	並	灰白2.5Y8/1他	口縁3/4	底部内面滑らか
2183	265-03	土製品	土鉢	包含層	E76	最大長 4.75	最大幅 1.0	穴径 0.5	外:ナデ	やや密	良	灰白5Y8/2他	完形	重量3.86g
2184	265-02	土製品	土鉢	包含層	E76	最大長 4.25	最大幅 1.0	穴径 0.5	外:ナデ	やや密	良	淡黄2.5Y8/3	完形	重量3.68g
2185	931-03	金属製品	銅貨	包含層		直径 2.55		穴径 0.6	寛永通寶			オリーブ黒10Y3/1	完形	重量3.47g

第67表 遺物観察表⑤

V 自然科学分析

1 堀町遺跡（第1次）における自然科学分析

はじめに

堀町遺跡は、櫛田川左岸の櫛田川低地に位置する。櫛田川低地は、櫛田川の形成した扇状地性氾濫源ならびに河口三角洲からなり、河口付近では自然堤防・旧河道が交錯している（水越，1975）。本遺跡では、発掘調査により弥生時代から室町時代までの遺構・遺物が検出されている。

本報告では、出土した木製品や種実遺体の種類を明らかにし、過去の植物利用に関する資料を得る。また、出土した獣骨や昆虫化石の種類を明らかにし、土坑の性格推定や古環境に関する資料を得る。なお、獣骨については金子浩昌氏、昆虫化石については藤山家徳先生にご協力頂いた。その成果を、それぞれ署名原稿として3、4、に掲げた。

1 木製品の樹種

(1) 試料

試料は、弥生時代から室町時代の板材・井戸枠など82点（試料番号1～82）で、試料番号82は炭化材である。各試料の詳細については、樹種同定結果と共に第68表に記した。

(2) 方法

剃刀の刃を用いて、試料の木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製する。切片は、ガム・クロラル（抱水クロラル・アラビアゴム粉末・グリセリン・蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の観察を行い、その特徴から種類を同定する。

炭化材は、木口・柾目・板目の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

(3) 結果

樹種同定結果を第68表に示す。試料の中には、保存状態が良好でないために樹種の同定にいたらない

ものがあつた。それらの試料については、観察できた範囲で木材組織の特徴などを記し、組織の観察が全く行えなかった場合には不明とした。また、試料番号11,13,55,76,79,81は樹皮であつた。針葉樹2種類（スギ・ヒノキ属）と広葉樹12種類（ハンノキ属・コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属アカガシ亜属・ツブラジイ・シイノキ属・ヤマグワ・シキミ・クスノキ科・サカキ・ウツギ属・タイミンタチバナ・トネリコ属）に同定された。各種類の解剖学的特徴などを以下に記す。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don) スギ科スギ属

早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか、分野壁孔はスギ型で2～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・ヒノキ属 (*Chamaecyparis* sp.) ヒノキ科

早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか、分野壁孔はヒノキ型で1～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・ハンノキ属 (*Alnus* sp.) カバノキ科

散孔材で、管孔は放射方向に2～4個が複合または単独、横断面では楕円形、管壁は薄い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は密に対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1～30細胞高のもの集合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris* sp.) ブナ科

環孔材で孔圏部は1～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射

組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。柔組織は周囲状および短接線状。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* sp.) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高のものと複合放射組織とがある。柔組織は短接線状および散在状。

・ツブラジイ (*Castanopsis cuspidata* (Thunberg) Schottky) ブナ科シイノキ属

環孔材～放射孔材で孔圏部は3～4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと集合～複合放射組織とがある。柔組織は周囲状、散在状および短接線状。

・シイノキ属 (*Castanopsis* sp.) ブナ科

環孔材～放射孔材で孔圏部は3～4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、道管内壁の壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高。柔組織は周囲状、散在状および短接線状。

上記のツブラジイまたはスタジイ (*C. cuspidata* var. *sieboldii* (Makino) Nakai) と考えられるが、確定には至らなかった。

・ヤマグワ (*Morus australis* Poir.) クワ科クワ属

環孔材で孔圏部は1～5列、晩材部へ向かって管径を漸減させ、のち塊状に複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は密に交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅱ～Ⅲ型、1～6細胞幅、1～50細胞高で、しばしば結晶を含む。

・シキミ (*Illicium anisatum* L.) シキミ科シキミ属

散孔材で管壁厚は中庸～薄く、横断面では多角形、単独または2～4個が複合し、道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅱ～Ⅰ型、1～2細胞幅、1～20細胞高。

・クスノキ科 (*Lauraceae* sp.)

散孔材で管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独または2～3個が放射方向に複合する。道管は単穿孔または階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1～3細胞幅、1～20細胞高。柔組織は周囲状および散在状。柔細胞には油細胞が認められる。

以上の特徴から、クスノキ・タブノキ属を除くクスノキ科と考えられるが、種類の同定には至らなかった。

・サカキ (*Cleyera japonica* Thunberg pro parte emend. Sieb. et Zucc.) ツバキ科サカキ属

散孔材で管壁は薄く、横断面では多角形、単独または2～3個が複合し、道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、単列、1～20細胞高。

・ウツギ属 (*Deutzia* sp.) ユキノシタ科

散孔材で管壁は薄く、横断面では多角形、単独であるがまれに複合する。道管は階段穿孔を有し、段数は20～30。放射組織は大型の異性で、1～4細胞幅、鞘細胞が認められる。

・タイミンタチバナ (*Myrsine seguinii* Lev.)

ヤブコウジ科ツルマンリョウ属

散孔材で、道管は単独もしくは2個が放射方向または接線方向に複合し、道管の分布密度は高くない。道管は単穿孔を有し、壁孔は密に交互状に配列する。放射組織は大型の異性で、1～8細胞幅。

・トネリコ属 (*Fraxinus* sp.) モクセイ科

環孔材で孔圏部は2～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管壁は厚く、横断面では円形～楕円形、単独または2個が複合、複合部はさらに厚くなる。道管は単穿孔を有し、壁孔は小型で密に交互状に配列する。放射組織は同性(～異性Ⅲ型)、1～3細胞幅、1～40細胞高であるが、20細胞高前後のものが多い。

(4) 考察

出土した木製品の時代・時期は、弥生時代後期、弥生時代末期、平安時代、鎌倉時代、室町時代である。このうち、鎌倉時代の試料が最も多い。

各時代の用途別樹種構成を第69表に示す。用途が明確な木製品は、斧柄、井戸杵、曲物、漆器で、他

番 号	遺構番号	取り上げ番号	時代・時期	用途など	樹 種
1	SK6	No.	平安時代末期	材	ヤマグワ
2	SK6	No.17	平安時代末期	板	コナラ属アカガシ亜属
3	SK8	No.3	弥生時代末期	板	コナラ属
4	SK8	No.	弥生時代末期	材	ウツギ属
5	SK8	No.9	弥生時代末期	材	ツブラジイ
6	SK8	No.	弥生時代末期	棒状製品	ハンノキ属
7	SK10	No.	鎌倉時代	材 (一部炭化)	クスノキ科
8	SK15	No.106	弥生時代後期	皮	不明
9	SK25	No.	室町時代 (戦国期)	漆器	トネリコ属
10	SK31	No.	弥生時代後期	斧柄	サカキ
11	SK31	No.	弥生時代後期	皮	樹皮
12	SK31	No.	弥生時代後期	材 (一部炭化)	ツブラジイ
13	SK31	No.32	弥生時代後期	板	樹皮
14	SK31	No.35	弥生時代後期	棒状製品	シノキ属
15	SK31	No.37	弥生時代後期	材	コナラ属アカガシ亜属
16	SK31	No.55	弥生時代後期	材	シノキ属
17	SK31	No.60	弥生時代後期	材	コナラ属
18	SK31	No.61	弥生時代後期	斧柄	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
19	SK43	No.	鎌倉時代	底 棒状製品	ヒノキ属
20	SK45	No.	平安時代末期	棒状製品	シギミ
21	SK15	No.104	弥生時代後期	木製品	コナラ属アカガシ亜属
22	SE46	No.4	鎌倉時代	井戸枠	スギ
23	SE46	No.8	鎌倉時代	井戸枠	スギ
24	SE46	No.11	鎌倉時代	井戸枠	スギ
25	SE46	No.15	鎌倉時代	井戸枠	スギ
26	SE46	No.17	鎌倉時代	井戸枠	スギ
27	SE46	No.18	鎌倉時代	井戸枠	スギ
28	SE46	No.21	鎌倉時代	井戸枠	スギ
29	SE46	No.23	鎌倉時代	井戸枠	スギ
30	SE46	No.25	鎌倉時代	井戸枠	スギ
31	SE46	No.26	鎌倉時代	井戸枠	スギ
32	SE46	No.27	鎌倉時代	井戸枠	スギ
33	SE46	No.29	鎌倉時代	井戸枠	スギ
34	SE46	No.30	鎌倉時代	井戸枠	スギ
35	SE46	No.31	鎌倉時代	井戸枠	スギ
36	SE46	No.32	鎌倉時代	井戸枠	スギ
37	SE46	No.33	鎌倉時代	井戸枠	スギ
38	SE46	No.34	鎌倉時代	井戸枠	スギ
39	SE46	No.36	鎌倉時代	井戸枠	スギ
40	SE46	No.39	鎌倉時代	井戸枠	スギ
41	SE46	No.40	鎌倉時代	井戸枠	スギ
42	SE46	No.42	鎌倉時代	井戸枠	針葉樹
43	SE46	No.45	鎌倉時代	井戸枠	スギ
44	SE46	No.46	鎌倉時代	井戸枠	ヒノキ属
45	SE46	No.47	鎌倉時代	井戸枠	針葉樹
46	SE46	No.48	鎌倉時代	井戸枠	針葉樹
47	SE46	No.52	鎌倉時代	井戸枠	スギ
48	SE46	No.53	鎌倉時代	井戸枠	スギ
49	SE46	No.54	鎌倉時代	井戸枠	スギ
50	SE46	No.55	鎌倉時代	井戸枠	スギ
51	SE46	No.56	鎌倉時代	井戸枠	スギ
52	SE46	No.57	鎌倉時代	井戸枠	スギ
53	SE46	No.59	鎌倉時代	曲物	スギ
54	SE46	No.61	鎌倉時代	井戸枠	スギ
55	SE46	No.62	鎌倉時代	曲物 (樺皮)	樹皮
56	SE46	No.62	鎌倉時代	曲物	スギ
57	SE47	No.1	平安時代前期	材	スギ
58	SE47	No.3	平安時代前期	井戸枠	スギ
59	SE47	No.4	平安時代前期	井戸枠	スギ
60	SE47	No.5	平安時代前期	井戸枠	スギ
61	SE47	No.10	平安時代前期	井戸枠	スギ
62	SE47	No.11	平安時代前期	井戸枠	スギ
63	SE47	No.12	平安時代前期	井戸枠	ヒノキ属
64	SE47	No.13	平安時代前期	井戸枠	スギ
65	SE54	No.2	平安時代末期	井戸枠	スギ
66	SE54	No.3	平安時代末期	井戸枠	スギ
67	SE54	No.4	平安時代末期	井戸枠	スギ
68	SE54	No.6	平安時代末期	井戸枠	スギ
69	SE54	No.8	平安時代末期	井戸枠	スギ
70	SE54	No.9	平安時代末期	井戸枠	スギ
71	SE54	No.11	平安時代末期	井戸枠	スギ
72	SE54	No.12	平安時代末期	井戸枠	スギ
73	SE54	No.13	平安時代末期	井戸枠	ツブラジイ
74	SE54	No.14	平安時代末期	井戸枠	スギ
75	SK15	No.105	弥生時代後期	斧柄	サカキ
76	SE54	No.	平安時代末期	曲物 (樺皮)	樹皮
77	SE54	No.	平安時代末期	曲物	スギ
78	SE55	No.1	鎌倉時代	曲物	スギ
79	SE55	No.1	鎌倉時代	曲物 (樺皮)	樹皮
80	SE55	No.2	鎌倉時代	曲物	スギ
81	SE55	No.2	鎌倉時代	曲物 (樺皮)	樹皮
82	SK61	No.2	弥生時代後期	板	タイミンタチバナ

第68表 樹種同定結果①

は用途の詳細が不明である。斧柄は、弥生時代後期の3点があり、1点がクヌギ節に、2点がサカキにそれぞれ同定された。農・工具の柄については、これまでも多くの遺跡で樹種が明らかにされている(島地・伊東, 1988)。その結果を見ると、斧柄ではサカキが最も多く使用されている。また、サカキ以外にも多くの樹種が確認されているが、基本的には緻密で粘りのある木材が多い。今回の結果はいずれも確認例が比較的多い種類であり、これまでの結果と調和的である。ところで、島地・伊東(1988)によれば鋏・鋤の柄にはアカガシ亜属が多く認められ、斧柄とは用材選択が異なるということである。このことは、使用する用途に合わせて柄の材質も変えていたことを示唆する。

井戸枠は多くがスギであり、他にはヒノキ属、種類不明の針葉樹、ツブラジイが少数確認された。井戸枠の樹種としては、これまでの調査でもヒノキ属やスギが多く確認されており(島地・伊東, 1988)、今回の結果も調和的である。これらの種類が多く使用されている背景には、耐水性・耐朽性・加工性などがあったと考えられるが、詳細は不明である。本地域周辺でこれまで行ってきた調査結果からは、スギ材が周辺で比較的手が容易であったことが推定される。

曲物は全てスギであり、「樺皮」は樹皮であった。曲物には、これまでの調査結果ではヒノキ属が最も多くスギが次にくる(島地・伊東, 1988)。これら

の種類が多い背景には、井戸枠と同様に耐水性や加工性を考慮した用材選択があったと考えられる。ヒノキ属とスギについては、使用者の階級等による用材の違いがあったことも考えられるが、現時点で詳細は明らかではない。しかし本地域の場合、スギが容易に入手できることが選択の背景にあったと考えられる。曲物の樺皮については、調査を行った例が少ない。しかし、当社がこれまで調査してきた試料では、多くの場合樹皮が使用されている。このことから樹皮の使用が一般的であったことが推定される。

室町時代の漆器はトネリコ属であった。トネリコ属は漆器木地として現在でも一般的な木材であり、薄手物に適するとされる(橋本, 1979)。遺跡からの出土例は、愛知県清洲城下町遺跡など認められる(鈴木, 1992)。これらのことを考慮すれば、本地域でも漆器木地として古くからトネリコ属が利用されていたことが推定される。清洲城下町の例では散孔材のブナ属やトチノキが多く、環孔材のケヤキやトネリコ属は少ない(パリオ・サーヴェイ株式会社, 1990; 鈴木, 1992)。また、時期によって樹種構成が異なる可能性が指摘されている(鈴木, 1992)。本地域では、漆器の樹種に関する資料が蓄積段階にあるので、清洲城下町遺跡で認められた変化が本地域でも認められるのかは今後の課題である。

その他の木材を見ると、時代・時期に関わらず多くが広葉樹材である。その樹種はアカガシ亜属やツブラジイを含むシイノキ属など、現在の暖温帯に分

樹種	時代 時期 製品名	弥生時代									平安時代						鎌倉				室町		合 計
		後期					末期				前期		末期										
		皮	材	棒 状 製品	斧 柄	木 製品	板	板	材	棒 状 製品	材	井 戸 枠	井 戸 枠	曲 物	樺 皮	材	板	井 戸 枠	曲 物	樺 皮	棒 状 製品	漆 器	
スギ										1	6	9	1				28	4					49
ヒノキ属 針葉樹									1		1						1	3		1			3
ハンノキ属 クヌギ節				1																			1
アカガシ亜属			1		1											1							3
コナラ属			1					1															2
ツブラジイ			1						1														3
シイノキ属			1	1								1											2
ヤマグワ															1								1
シキミ																					1		1
クスノキ科															1								1
サカキ					2																		2
ウツギ属													1										1
タイミンタチバナ																							1
トネリコ属																						1	1
樹皮		1												1						3			6
不明		1																					1
合計		2	4	1	3	1	2	1	2	1	7	10	1	1	2	1	32	4	3	2	1		82

第69表 時代別・用途別樹種構成

布の中心がある種類が多い。このことから当時の遺跡周辺には、これらの広葉樹を中心とした植生が見られたと推定される。また、ハンノキ属やトネリコ属は、河川沿い等を中心に生育していたことが推定される。この植生は、基本的に現在の周辺地域における植生とも一致しており、遺跡周辺の植生環境はほぼ現在と同様であったと推定される。

2 種実遺体の種類

(1) 試料

試料は、弥生時代から室町時代の遺構から検出された種実遺体は12点（試料番号1～12）である。各試料の詳細は、同定結果と共に第70表に記した。

(2) 方法

双眼実体顕微鏡下で、その形態的特徴から種類を同定する。

(3) 結果

結果を第70表に示す。12点の試料はいずれも木本類で、針葉樹1種類（マツ属）と広葉樹3種類（ムクノキ・モモ・エゴノキ属）が同定された。以下に検出された種類の形態的特徴について記す。

・マツ属 (*Pinus* sp.) マツ科

球果が検出された。円錐状卵形で、大きなもので5 cm程度。柄はほとんどない。種鱗は長楕円形の矩形を呈し、先端部は肥厚する。先端部の肥厚は、不規則な4～5角形である。今回検出された個体は肥厚部が比較的薄く、中央に短い突起があることからアカマツ (*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.) の可能性が高い。

・ムクノキ (*Aphananthe aspera* (Thunb.) Planchon) ニレ科ムクノキ属

種子が検出された。黒色で大きさは7 mm程度。いびつな楕円形で、明瞭な「へそ」が存在する。表面は薄くて堅く、ややざらつく。

・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

核（内果皮）が検出された。褐色～黒褐色で、大きさは小さなもので2 cm、大きなもので3 cm程度。核の形は楕円形で、大きなものほど扁平である。基部は丸く大きな臍点がありへこんでおり、先端部は大型のものほど尖る傾向にある。一方の側面にのみ、縫合線が顕著に見られる。表面は、不規則な線状のくぼみがあり、全体としてあらいしわ状に見える。

・エゴノキ属 (*Styrax* sp.) エゴノキ科

核が検出された。灰黒色。側面観は楕円形、上面観は円形。長さ1 cm程度。下端に大きな「へそ」があり、表面に3本の浅い溝がある。核は厚く硬い。

(4) 考察

今回検出されたもののうち、マツ属、ムクノキ、エゴノキ属は、周辺植生に由来するものと考えられ、遺跡付近に生育していたものと考えられる。また、モモは弥生時代、鎌倉時代、室町時代の各遺構から検出されており、古来から栽培して利用されていたと推測される。今回のモモの形態を見る限りでは、新しい時代になるにつれて、核が大型、扁平になる傾向が窺える。奈良県の布留遺跡では、時代が新しくなると、小型のものに混じって大型で扁平な個体が検出されるようになることが指摘されている（金原ほか, 1992）。しかし、同じ布留遺跡でも、弥生時代から大型の核が検出されることから、時代を追っての大型化については慎重な意見もある（南木, 1991）。モモは出土する時代、個数、地点とも多いだけに、今後検出されるものを含めて整理、検討が必要になるであろう。

(パリーノ・サーヴェイ株式会社)

3 昆虫化石の種類

(1) 試料

平安時代末の土坑（SK6）より出土した2個体と、弥生時代後期の土坑（SK31）より出土した1個体の計3個体である。

(2) 結果

①SK6 941201(平安時代末)

番号	遺構	時代・時期	種類
1	SK 6	平安時代末期	ムクノキ
2	SK 8	弥生時代末期	エゴノキ属
3	SK15	弥生時代後期	モモ
4	SK25	室町時代	マツ属
5	SK25	室町時代	モモ
6	SK31	弥生時代後期	モモ
7	SK31-I	弥生時代後期	モモ
8	SK31-IV	弥生時代後期	モモ
9	SE46	鎌倉時代	モモ
10	SE47	平安時代前期	モモ
11	SE47	平安時代前期	モモ
12	SE54	平安時代末期	モモ

第70表 種実同定結果①

ゴミムシの上翅2個

(大きい方) オオゴミムシ *Lestecus magnus*
(Motschulsky)

大きさ、外側の間室の孔点などからオオゴミムシと判断される。北海道から、朝鮮、台湾、中国に分布する。

(小さい方) アオゴミムシ *Chlaenius pallipes*
Gebler

上翅の間室のしわなどからアオゴミムシ類と判断される。近似種が多いが、アオゴミムシと思われる。北海道～九州、朝鮮、中国北部、シベリアにすむ。

②SK31 950120 (弥生時代後期)

コガネムシ類の左上翅、前胸背板右半分

上翅の条線やしわなどからコガネムシ *Mimela splendens* Gyllengal とと思われる。分布は、北海道から九州、朝鮮、中国、台湾、インドネシア半島と広い。

(3) まとめ

今回調査した3個体は、いずれも現在の山野農村付近でみつかるといった種であった。ゴミムシ類は石下、枯れ草の下などで発見され、コガネムシ類は樹木上にいて、灯火に飛来する。本結果からみる限り、いずれの時代の試料でも現在との気候の差は認められない。(藤山家徳)

4 平安時代土坑SK6より出土した獣骨の種類

(1) 試料

平安時代末の土坑(SK6)より出土した獣骨3点である。いずれも破損が著しく細片化したものも多かったため、パリノ・サーヴェイ株式会社にてバインダー処理を行い、接合した。その結果、顎骨・四肢骨各1点と、小片1点の計3点に復元すること

ができた。

(2) 結果

小片1点は、種類・部位とも不明であったが、他の2点はウシであった。観察所見を以下に記す。

ウシ *Bos taurus* 下顎骨と脛骨が検出されている。下顎骨：左側、近心部、下顎角部などを破損して失われているが、ほぼ全体の形状をうかがえる標本である。近心部の破損は古いようであるが、他の部分はほとんど破損することなく埋存していたのではないと思われる。

骨体の舌側中央部に切痕かと思われる傷がみられる。解体時に付いた傷ではないかと考えている。歯は3本を残すのみであるが、これも埋存時には他の歯もあったのではなかろうか。歯槽内がきれいだからである。

歯：残っている歯はP4・M1・M3であって、咬耗は進み咬面上には小さな半月状のエナメル質の褶壁を一部みるのみである。

P4:20.4 ×12.4, M1:21.0 ×14.3, M3:37.6 ×15.0mm(歯冠長×歯冠幅) M1～M3:78.0mm

脛骨：左側、遠・近位両骨端を欠損する。最小径37.7mm。

(3) まとめ

今回調査したウシは、日本の在来牛のなかでは小型の口之島牛に匹敵するような体躯であったと推定される。

本試料の土坑内での埋存状況は明らかでないが、今回の試料が土坑内の獣骨の全てであったとすれば、何らかの儀礼的な意味をもって土坑内に埋葬されたものであったとも考えられる。(金子浩昌)

2 堀町遺跡から出土した木製品の樹種

はじめに

堀町遺跡では、第1次調査の際にも弥生時代から室町時代に至る各時代の遺構から出土した木製品等の樹種同定が実施されており、井戸枠にはスギが多く利用され、斧の柄にクヌギ節やサカキなどが利用されたことが判っている。これらの結果は、これまでに周辺地域で行われてきた樹種同定結果とも調和

的であり、古くからそれぞれの用途に応じた樹種の選択が行われていたことを示唆する。今後、類例の蓄積が望まれる。

本報告では、堀町遺跡第2次調査区の平安時代～鎌倉時代の井戸から出土した曲物、井戸枠、縦板の樹種を明らかにし、用材選択に関する資料を得る。

1 試料

試料は、平安時代～鎌倉時代に属すると考えられる8基の井戸から出土した曲物、井戸枠、縦板で、合計21点（試料番号1～21）である。各試料の詳細は、樹種同定結果と共に第71表に記した。

2 方法

試料は、剃刀の刃を用いて、木口（横断面）・柁目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の切片を作成する。切片は、ガム・クロラール（抱水クロラール・アラビアゴム粉末・グリセリン・蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとした。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

3 結果

樹種同定結果を第71表に示す。試料は針葉樹2種類（スギ・ヒノキ属）と広葉樹1種類（クスノキ）に同定された。各種類の解剖学的特徴などを以下に記す。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don)
スギ科

早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか、分野壁孔はスギ型で2～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・ヒノキ属 (*Chamaecyparis* sp.) ヒノキ科

早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部に限って認められ、樹脂細胞の水平壁はじゅず状に肥厚しているものが多い。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか、分野壁孔はヒノキ型で1～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・クスノキ (*Cinnamomum camphora* (L.) Presl)
クスノキ科クスノキ属

散孔材で、道管は散孔材としては比較的大きい。道管の管壁は薄く、横断面では楕円形、単独まれに2～3個が放射方向に複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性Ⅲ型、1～3細胞幅、1～20細胞高。柔組織は周囲状～翼状。柔細胞はしばしば大型の油細胞となる。

番号	地区	遺構番号	取り上げ番号	時代・時期	用途	樹種
1	F26	SE207		鎌倉時代	曲物	スギ
2	E26	SE208	No. 9	鎌倉時代	曲物	スギ
3	J19	SE218	No.23	平安時代末期	縦板	スギ
4	J19	SE218	No.24	平安時代末期	縦板	スギ
5	J19	SE218	No.25	平安時代末期	縦板	スギ
6	K21	SE217	No. 6	平安時代末期	井戸枠	スギ
7	K21	SE217	No. 7	平安時代末期	井戸枠	スギ
8	K21	SE217	No. 8	平安時代末期	井戸枠	スギ
9	K21	SE217	No. 9	平安時代末期	井戸枠	スギ
10	K21	SE217	No.12	平安時代末期	曲物	スギ
11	J19	SE218	No. 1	平安時代末期	井戸枠	クスノキ
12	J19	SE218	No.12	平安時代末期	井戸枠	クスノキ
13	J19	SE218	No.31	平安時代末期	曲物	スギ
14	J19	SE218	No.30	平安時代末期	曲物	スギ
15	J18	SE221	No.12	鎌倉時代	曲物	スギ
16	J18	SE221	No.13	鎌倉時代	曲物	スギ
17	E40	SE225		鎌倉時代	曲物	スギ
18	J43	SE226		鎌倉時代	曲物	スギ
19	E37	SE231	No. 1	鎌倉時代	曲物	ヒノキ属
20	E37	SE231	No. 2	鎌倉時代	曲物	スギ
21	K37	SE232		鎌倉時代	曲物	スギ

第71表 樹種同定結果②

4 考察

平安時代・鎌倉時代の井戸枠、曲物、縦板ともにスギが多く、S E231 から出土した曲物1点がヒノキ属に、S E218 の井戸枠2点がクスノキにそれぞれ同定された。井戸枠や曲物にスギが多い結果は、堀町遺跡第1次の結果でも得られている。同様の結果は、本地域周辺の多くの遺跡でも確認されており、同様の用材選択が本地域で広く行われていたことが推定される。これまで各地で行われてきた結果では、井戸枠や曲物にはスギとともにヒノキ属が多く確認されている。材質面から見れば、ヒノキ属のほうが耐水性に優れており、スギよりはヒノキ属の方が適

材といえる。縦板は、本地域で出土した板材など板状の加工を施す製品にスギが多い結果と調和的である。本地域でこのようにスギが多く用いられている背景には、周辺地域でスギの入手が容易であったことなどが推定される。

S E218 の井戸枠で確認されたクスノキは、広葉樹材の中でも比較的耐水性・耐朽性に優れた材質を有しており、近畿地方から出土した井戸枠でスギやヒノキ属と共に比較的多く確認されている種類である(島地・伊東, 1988)。これらの結果から、井戸枠には耐水性を重視した用材選択が行われていたことが推定される。(パリーノ・サーヴェイ株式会社)

3 堀町遺跡出土動植物遺体の種類について

はじめに

堀町遺跡の発掘調査では、弥生時代から室町時代に至る各時代の遺構・遺物が検出されている。このうち、第1次調査区、第2次調査区から出土した木製品や構築材などについては、これまでに樹種同定が行われており、スギが多い結果が得られている。

今回は、第1～3次調査区から出土した種実遺体および木製品の種類を明らかにし、植物質食糧や用材等に関する資料を得る。また、出土した獣骨についても種類も明らかにする。なお、骨の同定については、早稲田大学の金子浩昌先生にご協力を得た。

1 種実遺体の種類

(1) 試料

試料は、旧河道や井戸などから検出された種実遺体137点である。基本的に容器1点に1個体が収納されていたが、破片が複数入っているものもあり、またまれに2種類入っているものが存在した。分析試料の詳細は、同定結果とともに第72・73表に示す。

(2) 方法

試料を水洗したあと、双眼実体顕微鏡で観察し、その形態的特徴から種類を同定する。種類毎にケースに入れ、ホウ酸・ホウ砂水溶液中に保存する。

(3) 結果

結果を第72・73表に示す。以下に、検出された種類の形態的特徴を記す。

・マツ属 (*Pinus* sp.) マツ科

球果は、円錐状卵形で、大きさは6cm程度。柄はほとんどない。種鱗は長楕円状の矩形を呈し、先端部は肥厚する。先端部の肥厚は、不規則な4～5角形である。

種子は、大きさ4mm程度。亜三角形で褐色。種皮は厚くて堅く、表面はざらつく。

・カヤ (*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.) イチイ科カヤ属

種子が検出された。楕円形で大きさは1.5cm程度。褐色で、種皮は薄くて堅い。表面は筋状の模様がある。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) クルミ科クルミ属

核が検出された。褐灰色。大きさは3cm程度。側面の両側に縫合線が発達する。広卵形で、基部は丸くなっているが、先端部はやや尖る。表面は荒いしわ状となり、縦方向に溝が走っている。

・コナラ属 (*Quercus* sp.) ブナ科

果実が検出された。大きさ1.5cm程度。黒褐色で、楕円形。基部には座についていた部分が大きく円形に残る。座についてた部分は褐色で疣状の突起が密に配列し、ざらつく。果皮は薄くて堅く、光沢がある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

果実の破片が検出された。黒褐色で大きさは2 cm程度。側面観は垂三角形で、片側が膨れる。表面は薄くて堅く光沢があるが、座についていた部分は淡褐色でざらつく。

・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

核(内果皮)が検出された。褐色～黒褐色で大きさは3 cm程度。核の形は楕円形でやや扁平である。基部は丸く大きな臍点がありへこんでおり、先端部はやや尖る。一方の側面にのみ、縫合線が顕著に見られる。表面は、不規則な線上のくぼみがあり、全体としてあらいしわ状に見える。

・スモモ (*Prunus salicina* Lindl.) バラ科サクラ属

核(内果皮)が検出された。黒褐色。大きさは1.5 cm程度。核の形は楕円形で、扁平である。下端には、丸く大きな臍点があり凹んでおり、上端は丸い。一方の側面にのみ、縫合線が顕著に見られる。表面は、浅いくぼみが不規則にみられる。

・ウメ (*Prunus mume* (Sieb.) Sieb. et Zucc.) バラ科サクラ属

核が検出された。褐色、核の形は楕円形で扁平である。大きさは1.5 cm程度。丸く大きな臍点がありへこむ。側面の一方には縫合線が発達する。表面は、不規則にくぼみが配列する。

・トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume) トチノキ科トチノキ属

種子および果実の破片が検出された。種子は、縦につぶれたいびつな球形。黒色で、種皮は薄くて堅く、大きさは4 cm程度。表面には黒く艶のある部分と、黒褐色でざらつく部分とがある。果実の破片は、大きさ4 cm程度。褐色で、厚くて弾力があり、表面はざらつく。

・エゴノキ属 (*Styrax* sp.) エゴノキ科

核が検出された。灰黒色。側面観は楕円形、上面観は円形。大きさは1 cm程度。下端に大きな「へそ」があり、表面に3本の浅い溝がある。核は厚く硬い。

・ヒメビシ (*Trapa incisa* Sieb. et Zucc.) ヒシ科ヒシ属

果実の破片が検出された。大きさは1 cm程度。果

皮は比較的薄くて堅く、やや光沢がある。側面観は逆三角形。4つの刺がある。

・ヒョウタン類 (*Lagenaria* sp.) ウリ科ユウガオ属

種子・果皮が検出された。種子は褐色で長さ10 mm程度。長楕円形をしており、縦軸方向にしわが存在する。果皮は褐色で肉厚、弾力がある。

(4) 考察

同定を行った試料は、主として奈良時代～中世にかけてのものが多く、検出された種類を見ると、遺構内を中心に、有用植物が多かった。

旧河道や溝から検出された種実遺体は、オニグルミ、エゴノキ属、クリ、コナラ属、トチノキ、マツ属等であり、とくにトチノキとマツ属の個数が比較的多い。トチノキをみると、表面が磨耗している点や、食用に不適な幼果が含まれていることから、利用後の残渣が投棄されたのではなく、周辺植生に起因していたものと考えられる。このことから、上記の種類は、遺跡周辺に生育していたものと推定される。このうち、オニグルミ、クリ、トチノキ、コナラ属は種実が可食であることから、食糧としても利用された可能性がある。

井戸や土坑からは、モモ、ヒメビシ、ヒョウタン類、ウメなどが検出され、モモが圧倒的に多い。ヒメビシをのぞくといずれも渡来種であり、食用、観賞用などを目的として、周辺でこれらの種類が栽培されていたと考えられる。一方ヒメビシは、保存状態が良いことから考えて、遺構廃絶後に生育していた可能性もある。

今回多量に検出されたモモは、各地の遺跡で数多く検出されている。遺跡出土のモモ核に関する研究は多く、時代によって形状に違いがあるとの報告もあるが(太田, 1986; 金原ほか, 1992など)、実際にはその詳細を明らかにするには至っていない(南木, 1991)。今回検出されたものをみても、図版にのせた形状のものが目立つものの、大きさ、形状ともにばらつきが大きい。これが品種の違い等を示しているか否かは、今後の課題として残される。

2 木製品の樹種

(1) 試料

試料は、第1次調査区および第3次調査区から出

土した木製品3点(試料番号138~140)である。各試料の詳細は、樹種同定結果とともに第74表に記した。

(2) 方法

試料は、剃刀の刃を用いて、木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の切片を作成する。切片は、ガム・クロラール(抱水クロラール・アラビアゴム粉末・グリセリン・蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートとした。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

(3) 結果

樹種同定結果を第74表に示す。試料は針葉樹1種類(ヒノキ)と広葉樹2種類(コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属アカガシ亜属)に同定された。各種類の解剖学的特徴などを以下に記す。

・ヒノキ(*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか~やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が晩材部付近に接線方向に配列する。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか、分野壁孔はヒノキ型~トウヒ型で1~3個。放射組織は単列、1~15細胞高。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節(*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris*) ブナ科

試料のほとんどは早材部を欠いた1年分の組織しか観察できないが、年輪のはじめに大型の道管が1ヶ所見られたことから、環孔材と判断した。小道管は漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属アカガシ属(*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸~厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高のものと複合放射組織とがある。

(4) 考察

同定を行った3点のうち、試料番号138は、丸鋏また泥除け未製品とされている。同定されたアカガ

シ亜属は、これまで行われてきた調査でも鋏・鋤に多数確認されており、とくに西日本では出土した鋏・鋤のほとんどがアカガシ亜属である。(島地・伊東, 1988; 伊東, 1991)。一方、泥除けは、アカガシ亜属も利用されているが、クスノキ、ヒノキ、ホオノキなど他にも多くの種類が利用されており(奈良国立文化財研究所, 1993)、鋏・鋤よりは利用される木材の範囲が広いことが推定される。今回の結果は、丸鋏と泥除けのいずれであってもこれまでの傾向と調和的といえる。

一方、丸鋏または泥除け未製品と同時期とされる杭は、ヒノキであった。ヒノキは、これまで本遺跡で行った調査でも出土しているが、多くは平安時代の試料であり、弥生時代後期の試料には認められていない。この結果から、ヒノキの利用が弥生時代後期まで遡ることが明らかとなった。杭に利用されていることから、遺跡周辺に生育していたものを利用したり、遺跡内で木材が利用され、加工時の余材や廃材が転用された可能性がある。

弥生時代末期の陽物形は、クヌギ節であった。陽物形の材質については比較的硬いことが挙げられる。陽物については、多少の樹種同定の例が知られているが、同様に硬質の材が比較的多い(島地・伊東, 1988; 伊東, 1991)。軟質の材よりも硬質の材の方が細かい加工を施しやすいため、選択されたのかも知れない。

3 獣骨の種類

(1) 試料

試料は、室町時代以降とされる土坑(S K 456)から出土した獣骨1点である。

(2) 方法

ルーペなどを用いて形態的特徴を観察し、種類・部位を同定する。なお、同定は、早稲田大学金子浩昌先生にお願いした。

(3) 結果

試料は、ウマの左側上腕骨であった。骨体の最小幅は31.0mmであり、骨格の大きさからみて、体高130 cm前後と考えられる。これは、中世頃にもっとも普通にみられる大きさのウマである。

(バリノ・サーヴェイ株式会社)

*本章の内容については、パリノ・サーヴェイ株式会社の分析によるものである。報告書作成を進めていくうえで、遺構の時期・遺物の用途などが分析当

時と若干の食い違いがでてきたため、パリノ・サーヴェイ株式会社の成果を基に加筆、修正を加えたことを断っておきたい。(小濱 学)

[引用文献]

橋本鉄男 (1979) ものと人間の文化史31 ろくろ. 444p.,法政大学出版局
 金原正明・粉川昭平・太田三喜 (1992) モモ核を中心とする古代有用植物の変遷. 日本文化財科学会第9回大会研究発表要旨集, p.76-77.
 南木睦彦 (1991) 栽培植物. 石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編「古墳時代の研究4 生産と流通I」, p.165-174,雄山閣.
 水越允治 (1975) 地形区分とその性状等の概要. 「縮尺20万分の1 土地分類図24 (三重県) 付属資料」, p.1-5, 国土庁土地局.
 パリノ・サーヴェイ株式会社 (1990) 材質 (樹種) 同定.
 (財) 愛知県埋蔵文化財センター調査報告第17集「清洲城下町

遺跡」, p.98-102, 財団法人愛知県埋蔵文化財センター.
 高地 謙・伊東隆夫編 (1988) 日本の遺跡出土木製品総覧. 296p.,雄山閣.
 鈴木正貴 (1992) 朝日西遺跡関連出土木製品材質同定. (財) 愛知県埋蔵文化財センター調査報告第28集「朝日西遺跡」, p.223-232, 財団法人愛知県埋蔵文化財センター.
 伊東隆夫 (1991) 日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途Ⅱ. 木材研究・資料, 26, p.91-189.
 奈良国立文化財研究所 (1993) 木器集成図録 近畿原始篇 (解説). 410p.
 太田三喜 (1986) 古代遺跡出土のモモ核について. 考古学と自然科学, 19,p.85-100.

整理番号	調査次	地区番号	遺構番号	層位など	時代・時期	同定結果	整理番号	調査次	地区番号	遺構番号	層位など	時代・時期	同定結果
1	1		SE37	土器内	奈良時代	モモ	30	2	J24	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	エゴノキ属
2	1		SK58		鎌倉時代	ヒョウタン類	31	2	J24	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	トチノキ
3	2	G24	SE207	(d)	鎌倉時代	コナラ属	32	2	J24	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	トチノキ
4	2	G24	SE207	(d)	鎌倉時代	オニグルミ	33	2	J24	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	トチノキ
5	2	G24	SE207	(d)	鎌倉時代	種子ではない	34	2	J24	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	クリ
6	2	G24	SE207	(d)	鎌倉時代	モモ	35	2	J23	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	トチノキ
7	2	H24	SR210	第3層	奈良～中世 (旧河道)	モモ	36	2	K27	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	トチノキ
8	2	H24	SR210	第3層	奈良～中世 (旧河道)	モモ	37	2	I22	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	トチノキ
9	2	L28	SR210	第3層	奈良～中世 (旧河道)	モモ	38	2	I22	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	トチノキ
10	2	K24	SR210	第3層	奈良～中世 (旧河道)	モモ	39	2	I22	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	トチノキ
11	2	I25	SR210	第4層	奈良～中世 (旧河道)	コナラ属	40	2	J24	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	トチノキ
12	2	I24	SR210	第4層	奈良～中世 (旧河道)	モモ	41	2	H21	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	トチノキ
13	2	J25	SR210	第4層	奈良～中世 (旧河道)	モモ	42	2	G20	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	オニグルミ
14	2	J20	SR210	第4層	奈良～中世 (旧河道)	オニグルミ	43	2	J18	SE221		鎌倉時代	モモ
15	2	J25	SR210	第4層	奈良～中世 (旧河道)	モモ	44	3	G77	SE327	集石の中井戸	弥生時代後期	コナラ属
16	2	J24	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	トチノキ	45	3		SK313		室町時代	ヒメビシ
17	2	J23	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	モモ	46	3	D75	SK313		室町時代	ヒメビシ
18	2	J22	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	トチノキ	47	3		SK313		室町時代	ヒメビシ
19	2	I23	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	モモ	48	3		SK313		室町時代	ヒメビシ
20	2	K27	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	モモ	49	3		SE323		平安時代末期 (井戸)	モモ
21	2	I24	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	モモ	50	3	F78	SE323		平安時代末期 (井戸)	モモ
22	2	K26	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	トチノキ	51	3	F78	SE323	石組の下	平安時代末期 (井戸)	モモ
23	2	K26	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	トチノキ	52	3	F77	SE323	IV	平安時代末期 (井戸)	ヒメビシ
24	2	K26	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	トチノキ	53	3	F77	SE323	IV	平安時代末期 (井戸)	モモ
25	2	K26	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	トチノキ	54	3	F77	SE323	IV	平安時代末期 (井戸)	モモ
26	2	I22	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	トチノキ	55	3	F77	SE323	IV	平安時代末期 (井戸)	モモ
27	2	J24	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	スモモ	56	3	F77	SE323	IV	平安時代末期 (井戸)	モモ
28	2	J24	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	モモ							
29	2	J24	SR210	第5層	奈良～中世 (旧河道)	モモ							

第72表 種実同定結果②

整理番号	調査次	地区番号	遺構番号	層位など	時代・時期	同定結果	整理番号	調査次	地区番号	遺構番号	層位など	時代・時期	同定結果
57	3	F77	SE323	IV	平安時代末期(井戸)	モモ	97	3	M73	SK341		平安時代末期	モモ
58	3	F77	SE323	IV	平安時代末期(井戸)	モモ	98	3	M73	SK341		平安時代末期	モモ
59	3	F77	SE323	IV	平安時代末期(井戸)	モモ	99	3	M73	SK341		平安時代末期	モモ
60	3	F78	SE323	III	平安時代末期(井戸)	モモ	100	3	M73	SK341		平安時代末期	モモ
61	3	F78	SE323	III	平安時代末期(井戸)	カヤ トチノキ	101	3	M73	SK341		平安時代末期	モモ
62	3	F78	SE323	III	平安時代末期(井戸)	モモ	102	3	M73	SK341		平安時代末期	モモ
63	3	F78	SE323	III	平安時代末期(井戸)	ヒメビシ	103	3	M73	SK341		平安時代末期	モモ
64	3	F78	SE323	III	平安時代末期(井戸)	ヒメビシ	104	3	M73	SK341		平安時代末期	モモ
65	3	F78	SE323	III	平安時代末期(井戸)	モモ	105	3	M73	SK341		平安時代末期	モモ
66	3	F78	SE323	III	平安時代末期(井戸)	モモ	106	3	G75	SK326	I	弥生時代後期	モモ
67	3	F77	SE323	I	平安時代末期(井戸)	モモ	107	3	G75	SK326	I	弥生時代後期	モモ
68	3	F77	SE323	I	平安時代末期(井戸)	モモ	108	3	G75	SK326	I	弥生時代後期	ヒョウタン類
69	3	F77	SE323	I	平安時代末期(井戸)	モモ	109	3	G76	SK326	I, III	弥生時代後期	モモ
70	3	F77	SE323	I	平安時代末期(井戸)	モモ	110	3	G76	SK326	I, IV	弥生時代後期	モモ
71	3	F77	SE323	I	平安時代末期(井戸)	モモ	111	3	G76	SK326	I	弥生時代後期	モモ
72	3	F77	SE323	I	平安時代末期(井戸)	モモ	112	3	G76	SK326	I	弥生時代後期	モモ
73	3	F77	SE323	IV	平安時代末期(井戸)	モモ	113	3	G76	SK326	IV	弥生時代後期	モモ
74	3	F77	SE323	I	平安時代末期(井戸)	モモ	114	3	G75	SK326		弥生時代後期	モモ
75	3	F77	SE323	I	平安時代末期(井戸)	モモ	115	3	H83	SE345	井戸の中	平安時代末期(井戸)	モモ
76	3	F77	SE323	I	平安時代末期(井戸)	モモ	116	3		SE345		平安時代末期(井戸)	ウメ
77	3	F77	SE323	I	平安時代末期(井戸)	モモ	117	3	H83	SE345		平安時代末期(井戸)	ヒョウタン類
78	3	F77	SE323	I	平安時代末期(井戸)	モモ	118	3	N87	SE353		平安時代前期	モモ
79	3	F77	SE323	I	平安時代末期(井戸)	モモ	119	3	N89	SK356		室町時代以降	ヒメビシ
80	3	F77	SE323	I	平安時代末期(井戸)	モモ	120	3	D43	SE358	曲物付近	平安時代末期(井戸)	モモ
81	3	F77	SE323	I	平安時代末期(井戸)	モモ	121	3	D43	SE358		平安時代末期(井戸)	モモ
82	3	F77	SE323	I	平安時代末期(井戸)	モモ	122	3		SE362		奈良時代	マツ属
83	3	M73	SK341	I	平安時代末期	モモ	123	3		SK367		鎌倉時代	モモ
84	3	M73	SK341	I	平安時代末期	モモ	124	3		SE370	底	奈良時代(井戸)	スモモ
85	3	M73	SK341	I	平安時代末期	モモ	125	3	F43	SE370	井戸枠の中	奈良時代(井戸)	スモモ
86	3	M73	SK341	I	平安時代末期	モモ	126	3	F44	SD371	sec内	室町時代(溝)	マツ属
87	3	M73	SK341	I	平安時代末期	モモ	127	3	F44	SD371	sec内	室町時代(溝)	マツ属
88	3	M73	SK341	I	平安時代末期	モモ	128	3	F44	SD371	sec内	室町時代(溝)	マツ属
89	3	L73	SK341		平安時代末期	モモ	129	3	F44	SD371	III	室町時代(溝)	マツ属
90	3	L73	SK341	III	平安時代末期	モモ	130	3	F44	SD371	III	室町時代(溝)	モモ
91	3	M74	SK341	II	平安時代末期	モモ	131	3	F44	SD371	III	室町時代(溝)	マツ属
92	3	M74	SK341	II	平安時代末期	モモ	132	3	F44	SD371	III	室町時代(溝)	マツ属
93	3	M74	SK341	II	平安時代末期	モモ	133	3	F44	SD371	III	室町時代(溝)	マツ属
94	3	M74	SK341	II	平安時代末期	モモ	134	3	F44	SD371	III	室町時代(溝)	マツ属
95	3	M74	SK341	II	平安時代末期	モモ	135	3	F44	SD371	III	室町時代(溝)	マツ属
96	3	M74	SK341	II	平安時代末期	モモ	136	3	E43	SD371	V	室町時代(溝)	マツ属
							137	3	E43	SD371	V	室町時代(溝)	マツ属

第73表 種実同定結果③

整理番号	調査次	遺構番号	時代・時期	用途など	樹種
138	1	SK31(井戸?)	弥生時代後期	No.42 丸鍬または 泥除け未製品	コナラ属アカガシ亜属
139	1	SK8	弥生時代末期	陽物形	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
140	3	SK305(井戸?)	弥生時代後期	No.203 杭	ヒノキ

第74表 樹種同定結果③

VI 結 語

1 遺構群の変遷

堀町遺跡は、遺跡が立地する自然堤防を縦断する形で発掘調査を4ヶ年に渡って行ってきた。その成果を踏まえ、遺構群の変遷を時代別に概観する。

弥生時代後期（一部末期も含む）については、掘立柱建物、土坑、井戸、環濠、溝を確認した。環濠については、環濠内出土遺物の時期差はあるものの、弥生時代後期に阿形遺跡^①、杉垣外遺跡^②、草山遺跡^③とこの地域に集中していることは、当時の社会動態を考える上で興味深い。環濠内には掘立柱建物を3棟確認しているものの、竪穴住居跡は検出されなかった。地元の古老の証言では、堀町遺跡を含む一帯は「ヤマ」と呼称されていたようで、周辺よりも一段高い微高地であったことが容易に推測できる。現代の農地整理や生活道路建設などにより削平されたようである。これらのことも竪穴住居跡が検出されなかった一因といえよう。土坑や井戸が多く検出されたのは、遺構自体が深く、遺構検出面をかなり削平されても痕跡をとどめたのだろう。弥生時代だけでなくそれ以降の時代でも同様のことがいえるのではないだろうか。掘立柱建物については、高床倉庫と考えるのが通常である。堀町遺跡のものもそれと考えられる。環濠外にあるものについては、どのような性格なのかは判断に苦しむ。また、土坑からは銅鐸形土製品が出土しているが、堀町遺跡から約1.5 km西には、時期が中期後半と若干遡るが銅鐸形土製品が出土した涌早崎遺跡^④や、約1.8 km南の丘陵上には弥生時代後期の草山遺跡では銅鐸形銅製品が出土している^⑤。このように銅鐸関連の遺物がこの地域に集中しているのは、当時の人々が行っていた祭祀や拠点集落の存在の有無を考える上で興味深い。土器については後述しているが、弥生時代後期前半に属する遺物が、良好な一括資料として多数出土している。それらの様相から伊勢湾沿岸や畿内の両地方との交流があったことが窺われる。

古墳時代になると調査区内の遺構は激減し、調査区南側に土坑がみられる程度である。堀町遺跡から北西へ0.5 kmのところには佐久米古墳群があり、何らかの関連が考えられる。

奈良時代になると遺構数が漸増する。掘立柱建物、土坑、井戸を確認した。土器や祭祀木製品が大量に出土した旧河道については弥生時代から中世にかけての遺物が出土した。それらの間存在したことになるのだろう。

平安時代になると、遺構数はより増加傾向にある。この遺跡の最盛期と考えられる。掘立柱建物、土坑、井戸、溝などを確認した。掘立柱建物については、大型掘立柱建物があるにもかかわらずあまり規則性はない。調査区南東部のS B 385～390やS B 391～394では、同地点で数度の建て替えが確認でき、他の掘立柱建物群の様相とは一線を画している。この地点に掘立柱建物を建てることに何らかの意味があるのかもしれない。また、平安時代初期創建と伝えられる朝田寺が遺跡から至近にあり、この時期の集落が朝田寺を中心にして発展した可能性や、前期と後期・末期に属する遺構がほとんどで中期の遺構がみられないことから集落の移動があった可能性も想定できよう。

鎌倉時代についても前時代と同様に遺構数は多い。もう一つの最盛期といえよう。掘立柱建物、土坑、井戸、溝などを確認した。調査区中央部の溝を境にして、南北に生活空間が分かれていたのであろうか。

室町時代に入ると、遺構数は激減する。掘立柱建物はなくなり、土坑の数も少なくなる。この時期から集落は衰退していくものの、遺物には近世の遺物がみられることから、その時期まで人々が生活していたことがわかる。

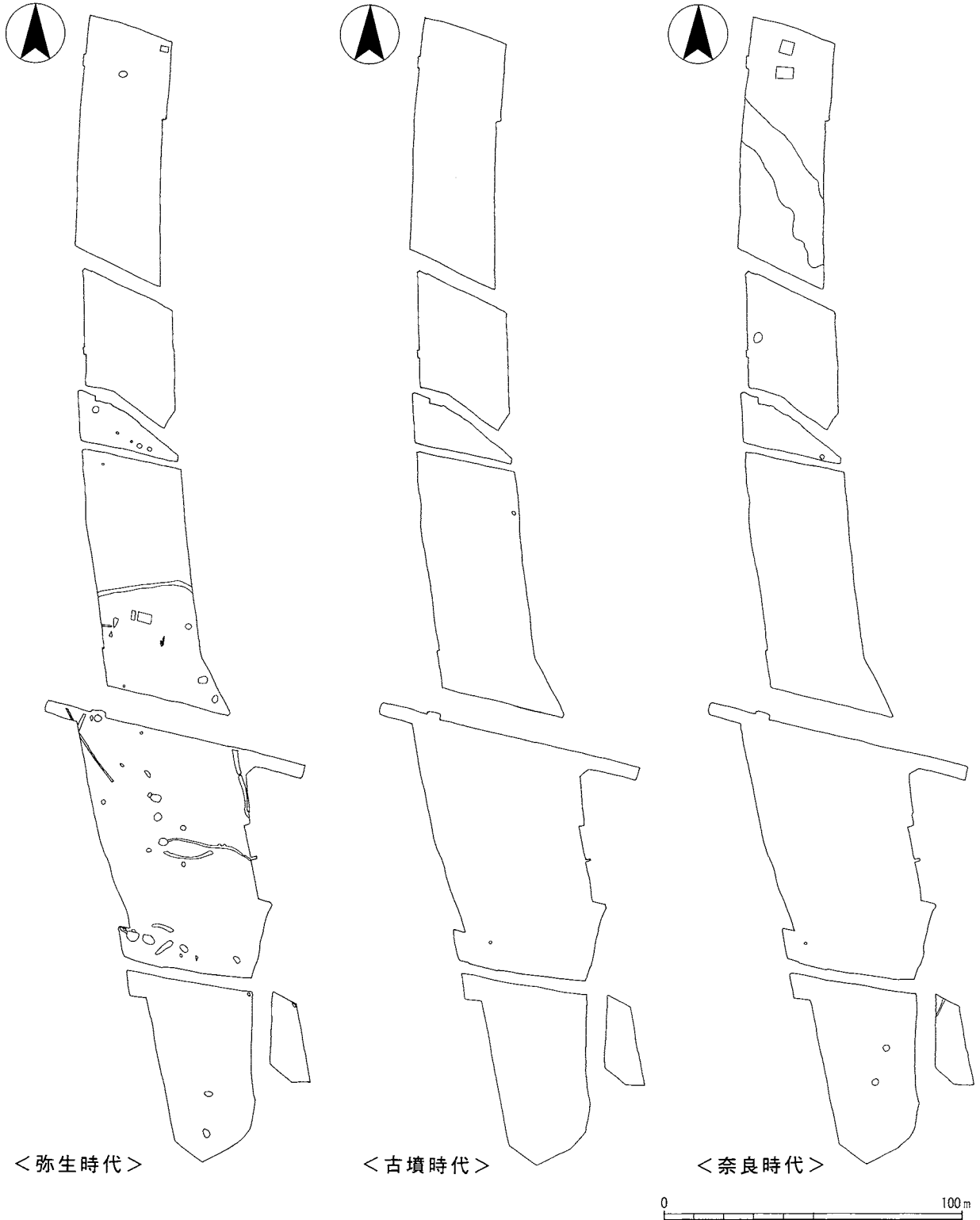
堀町遺跡では、弥生時代から人々の営みが始まり、断続的ではあるが近世に至るまでの長期間、連続と人が生活してきた。なかでも、弥生時代と平安時代から鎌倉時代がこの遺跡の集落としての最盛期であり、2つの画期と考えられる。このことは、井戸や

井戸の可能性のある遺構が多数検出されたことなど、この地域が自然堤防上に立地し、地下水位が高く、水の確保が容易で、人々が生活する上で好条件であったことが大いに関係しているのではないだろうか。また、古代以降は古代官道などとの位置関係から交

通の利便性も考慮に入れなければならないだろう。

2 後期前半弥生土器の分類

堀町遺跡出土の弥生土器については、概ね後期前



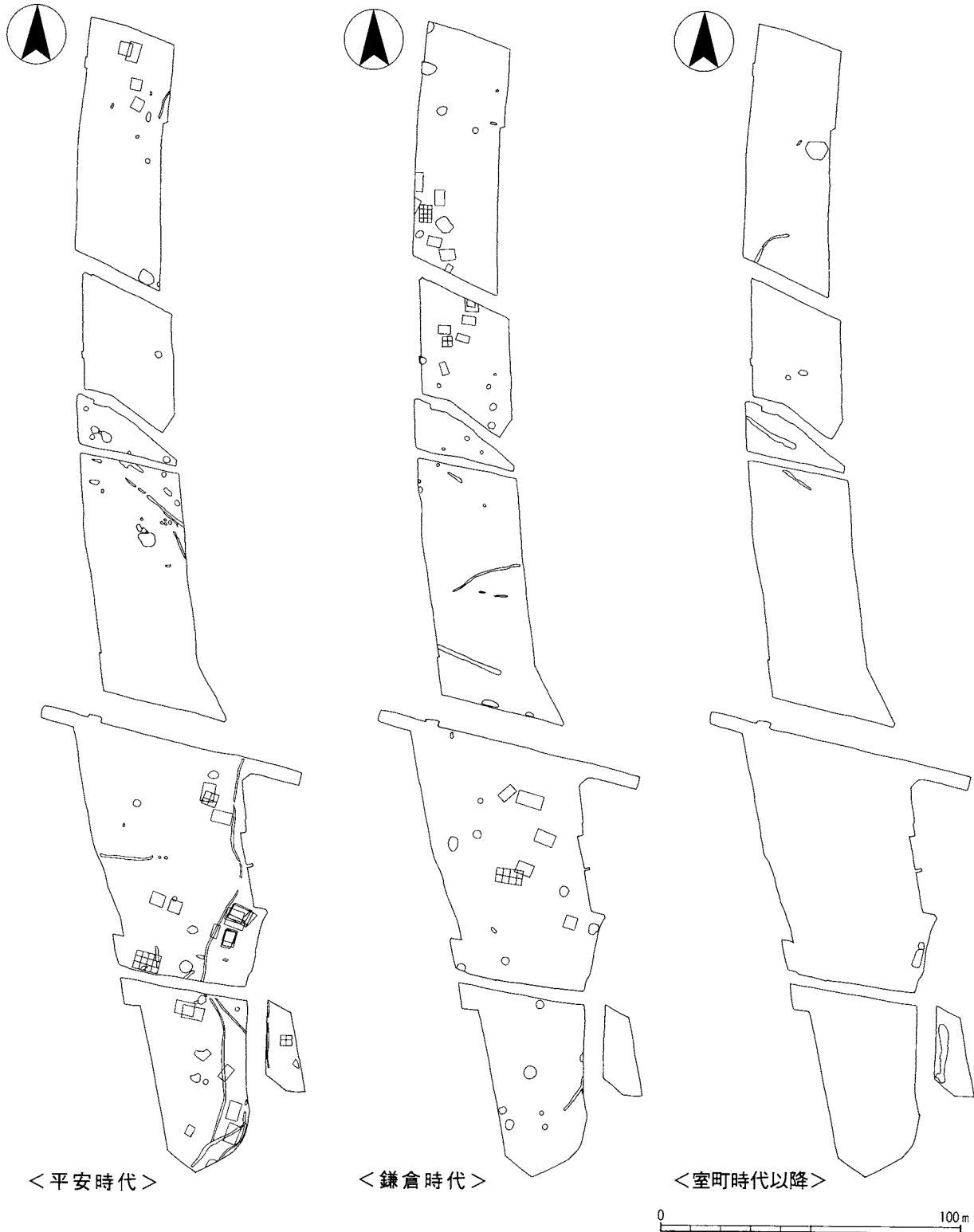
第191図 遺構の変遷① (1 : 2,000)

半に属するものと考えられる。それらは山中式^⑥、寄道式^⑦あるいは伊勢湾V様式^⑧と呼称される土器群と共通の要素をもっており、伊勢湾沿岸の文化圏に入っていたことが確認できる。また、甕体部外面にタタキを施す畿内的な要素をもつものや近江地方に多く

見られる受け口状口縁を有する甕の存在など、伊勢湾沿岸や畿内の両地方との交流が土器の様相から窺われる。以下に分類を行う。

<壺A>

いわゆる広口壺。口縁部が大きく外反し体部が膨



第192図 遺構の変遷② (1 : 2,000)

れる。パレス系のものである。口縁端部の形態により、A₁(370 など)、A₂(93など)、A₃(98など)に分類した。

<壺B>

いわゆる広口壺。口縁部が大きく外反し、体部が膨らむ。体部形態の相違により、B₁(196 など)、B₂(366 など)、B₃(283 など)に分類した。

<壺C>

広口壺の範疇。口縁部が大きく外反し、体部が大きく張り出すもの。口縁端部が受け口状になるものもみられる。C₁(423 など)、C₂(335 など)、C₃(108など)に分類した。

<壺D>

口頸部細長く伸び、体部の張り出しもあまりなくスマートなものである。口縁端部が受け口状になるものもみられる。D₁(181 など)、D₂(182 など)、D₃(210)に分類した。

<壺E>

直口壺にあたる。口頸部が直線的に伸び外反する。体部があまり張り出さずスマートなもの、体部が球形のもの、体部下半が張り出すものに分類した。E_{1a}(105など)、E_{1b}(2114)、E₂(104 など)、E₃(107 など)、E₄(299 など)に分類した。

<壺F>

口頸部が上方に大きく伸び、体部が大きく張り出す。いわゆる長頸壺を一括した。大型品もみられる。出土は少量である(53 など)。

<壺G>

壺底部に台が付くもの、台付壺を一括した。器形により、G₁(215)、G₂(428)、G₃(502)、G₄(74)に分類した。

<壺H>

小型壺を一括した。器形により、H₁(217 など)、H₂(216 など)、H₃(424 など)、H₄(219)に分類した。

<壺I>

一見口頸部が無く、体部だけにみえる。いわゆる無頸壺である(110など)。

<甕A>

口縁部が外反し、体部が膨れるもの。体部の形態により、A₁(224 など)、A₂(128 など)、A₃(234

など)に分類した。

<甕B>

口縁部が受け口状を呈するもの。B₁(131 など)B₂(238 など)に分類した。

<甕C>

口縁部が外反し、口縁端部が内外面とも肥厚するもの(119など)。

<甕D>

口縁部が外反し体部が膨れ底部に台が付く。いわゆる台付甕である。甕Aに台が付いた感がする。体部の形態により、D₁(240 など)、D₂(289 など)に分類した。

<甕E>

口縁部が受け口状を呈し、底部に台が付く。いわゆる台付甕である(2120 など)。

<甕F>

口縁部が外反し体部が膨れる小型甕。甕Aが縮小した感がある(533など)。

<甕G>

口縁部が外反し体部が膨れ底部に台が付くもの。小型台付甕である。甕Dがそのまま縮小したものという感がある(538)。

<高杯A>

杯部に段を有するもの。いわゆる有段高杯である。口縁部の外反、口縁部と杯底部の境界に稜の有無、杯底部の形態などから、A₁(25など)、A_{2a}(445など)、A_{2b}(256など)、A_{3a}(5など)、A_{3b}(349など)、A_{4a}(448)、A_{4b}(257)に分類した。

<高杯B>

ワイングラス形の高杯である。杯部口縁の形態により、B₁(26など)、B₂(148 など)に分類した。

<高杯C>

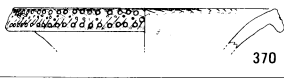
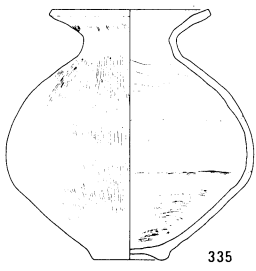
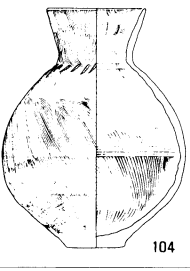
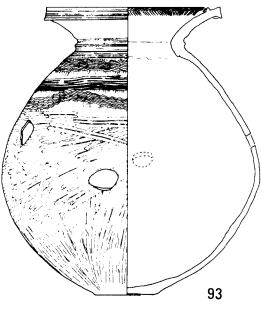
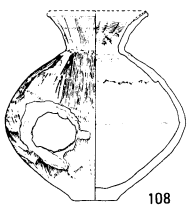
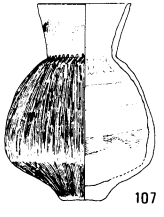
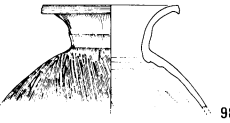
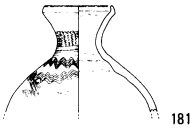

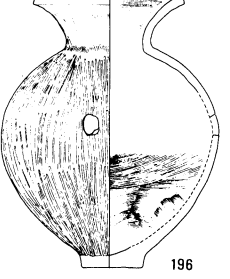
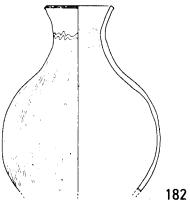
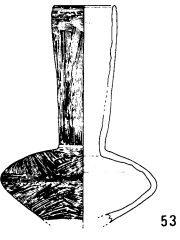
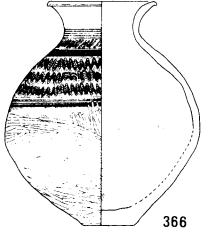
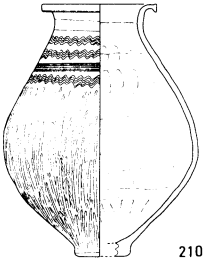
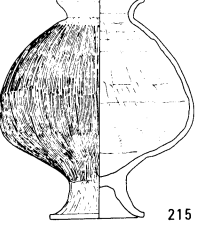
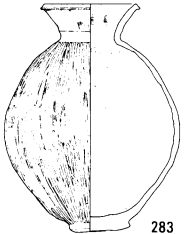
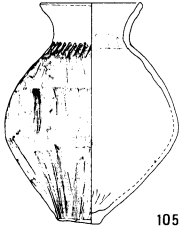
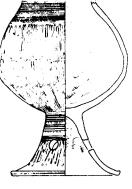
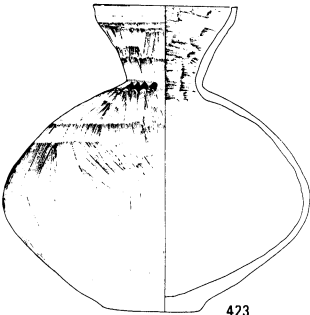
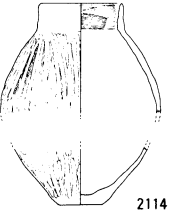
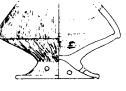
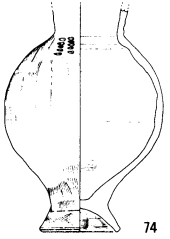
杯部が皿状のもの。杯底部の開き具合により、C₁(152など)、C₂(179 など)に分類した。

<鉢A>

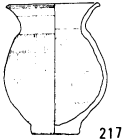
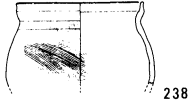
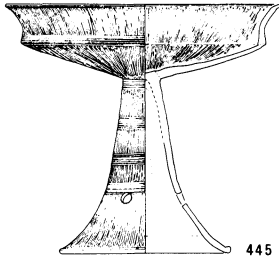

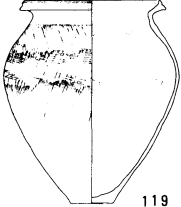

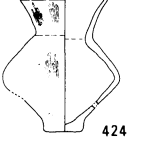
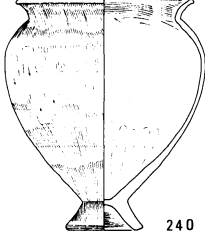
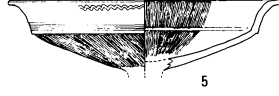

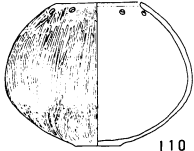
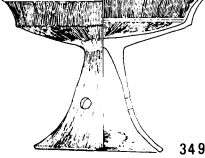
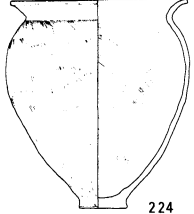
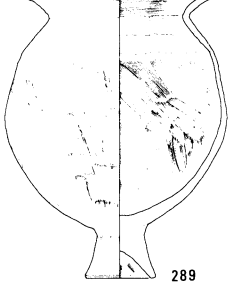
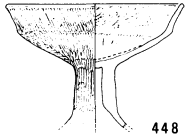
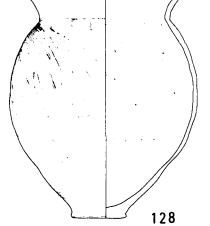
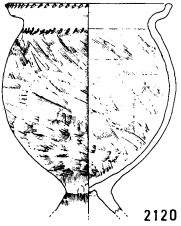
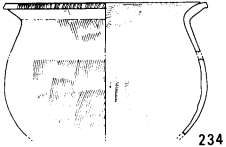

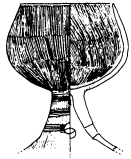
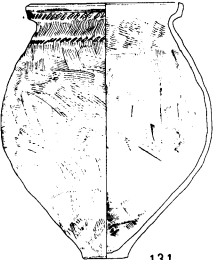

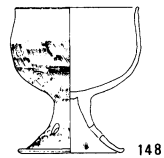
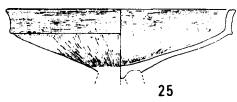
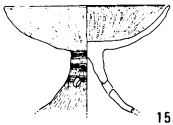
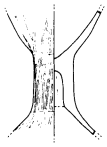
口縁部から体部にかけて全体的に外反するもの。大型品である。出土量は少量である。外反の度合いにより、A₁(552 など)、A₂(363)に分類した。

<鉢B>

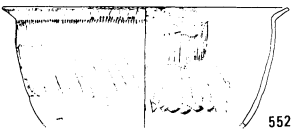
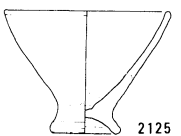
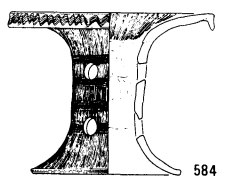
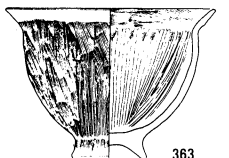
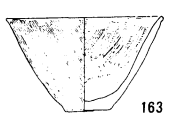
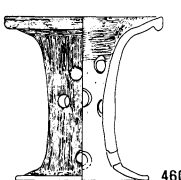
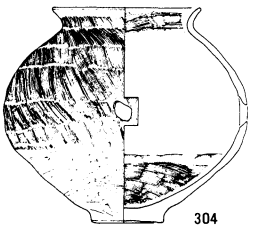


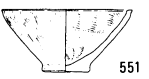

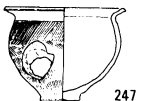
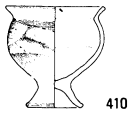

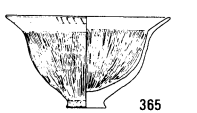


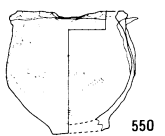
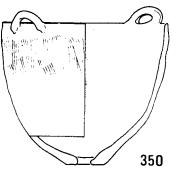

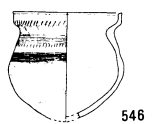
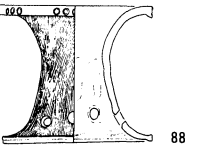

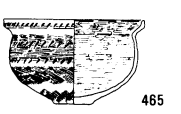
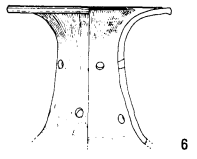

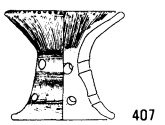
短い口縁部が外反し、体部が大きく張り出さずぐりした感のあるもの(304など)。

分類	例図	分類	例図	分類	例図
A ₁	 370	C ₂	 335	E ₂	 104
A ₂	 93	C ₃	 108	E ₃	 107
A ₃	 98	D ₁	 181	E ₄	 299
B ₁	 196	D ₂	 182	F	 53
B ₂	 366	D ₃	 210	G ₁	 215
B ₃	 283	E _{1a}	 105	G ₂	 428
C ₁	 423	E _{1b}	 2114	G ₃	 502
				G ₄	 74

第193図 後期前半弥生土器分類(案)① (1 : 8)

分類	例図	分類	例図	分類	例図	
壺	H ₁  217	B ₂	 238	高杯	A _{2a}  445	
	H ₂  216		C		 119	A _{2b}  256
	H ₃  424	D ₁	 240		A _{3a}  5	
	H ₄  219		I		 110	A _{3b}  349
	甗	A ₁  224	D ₂		 289	A _{4a}  448
		A ₂  128			E	 2120
A ₃  234		高杯	F	 533	B ₁  26	
B ₁  131			G	 538	B ₂  148	
			A ₁	 25	C ₁  152	
				C ₂  179		

第194図 後期前半弥生土器分類(案)② (1 : 8)

分類	例図	分類	例図	分類	例図
鉢	A ₁  552	鉢	E ₁  2125	器台	C ₁  584
	A ₂  363		E _{2a}  163		C ₂  460
	B  304		E _{2b}  275	ミニチュア土器	
	C ₁  334		E ₃  551		A ₂  426
	C ₂  247		F  410		B  276
	C ₃  365		G ₁  549	C ₁  595	
	C ₄  550		G ₂  350	C ₂  30	
	D ₁  546		A  88	C ₃  587	
	D ₂  485		器台	B ₁  6	
	D ₃  29			B ₂  407	

第195図 後期前半弥生土器分類(案)③ (1:8)

<鉢C>

口縁部から体部にかけて全体的に外反するもの。鉢Aの縮小版といってもおかしくはない。外反の度合いにより、C₁(334 など)、C₂(247 など)、C₃(365など)、C₄(550) に分類した。

<鉢D>

口縁部が受け口状を呈し、体部が偏平となるもの。口縁部と体部の形態により、D₁(546)、D₂(465 など)、D₃(29など) に分類した。

<鉢E>

一見すると底部片のように見え、口縁部が直線的に外反するもの。器高や土器全体の形態により、E₁(2125)、E_{2a}(163など)、E_{2b}(275)、E₃(551 など) に分類した。

<鉢F>

台付鉢。鉢C₂の底部に台を取り付けたようなものである(410など)。

<鉢G>

底部から外反する底部穿孔の鉢を一括。口縁部に把手が付くものもみられる。口縁部と体部の形態により、G₁(549)、G₂(350)に分類した。

<器台A>

受け部と柱状部の境界が明確に屈曲し、受け部の端部がバレス状になるもの(88など)。

<器台B>

受け部と柱状部の境界が明確に屈曲し、受け部が直線的であるもの。受け部の形態から、B₁(6)、B₂(407) に分類した。

<器台C>

受け部と柱状部の境界が明確でないもの。口縁端部や受け部の形態から、C₁(584 など)、C₂(460)に分類した。

<ミニチュア土器A>

壺形の一括した。A₁(277 など)、A₂(426 など) に分類した。

<ミニチュア土器B>

甕形のものである(276など)。

<ミニチュア土器C>

鉢形の一括した。器形の違いから、C₁(595 など)、C₂(30など)、C₃(587 など) に分類した。

3 後期前半弥生土器の統計的傾向

報告書掲載(621点)の土器についてのみの傾向であるが、全体の傾向は掴めると考える。ミニチュア土器については少量の出土であったがほとんどを掲載している。そのためミニチュア土器の割合は数値よりも実際は低くなるものと思われる。

器種構成の比率は、壺35.9%(223点)、甕28.2%(175点)、高杯23.0%(143点)、鉢6.9%(43点)、器台2.1%(13点)、ミニチュア土器3.1%(19点)であった。器種構成は壺が35.9%と最も多く甕が28.2%でそれに続く。

器種別の分類比率について述べたい。壺は分類可能なものは181点であった。その内訳には、A₁4.4%(8点)、A₂11.0%(20点)、A₃6.6%(12点)、B₁5.0%(9点)、B₂8.3%(15点)、B₃7.7%(14点)、C₁3.3%(6点)、C₂4.4%(8点)、C₃4.4%(8点)、D₁1.6%(3点)、D₂3.8%(7点)、D₃0.6%(1点)、E_{1a}12.1%(22点)、E_{1b}0.6%(1点)、E₂10.5%(19点)、E₃2.8%(5点)、E₄1.1%(2点)、F 1.6%(3点)、G₁0.6%(1点)、G₂0.6%(1点)、G₃0.6%(1点)、G₄0.6%(1点)、H₁1.6%(3点)、H₂1.1%(2点)、H₃2.2%(4点)、H₄0.6%(1点)、I 1.1%(2点)であった。壺A系、壺B系、壺E系ではほぼ70%を占め、壺Gいわゆる台付壺は2.4%と低い割合であった。

甕は分類可能なものは126点であった。その内訳については、A₁29.4%(37点)、A₂29.4%(37点)、A₃11.8%(15点)、B₁7.1%(9点)、B₂1.6%(2点)、C 1.6%(2点)、D₁9.5%(12点)、D₂2.4%(3点)、E 3.2%(4点)、F 3.2%(4点)、G 0.8%(1点)であった。甕A系ではほぼ70%を占め、甕Aが主流を占めていることがわかる。いわゆる台付甕は15.1%を占める。脚部だけ出土したものも少なくはないので、比率についてはもう少し上がるだろう。

高杯は分類可能なものは59点を数える。その内訳は、A₁5.1%(3点)、A_{2a}18.5%(11点)、A_{2b}10.2%(6点)、A_{3a}13.6%(8点)、A_{3b}10.2%(6点)、A_{4a}1.7%(1点)、A_{4b}1.7%(1点)、B₁

13.6% (8点)、B₂16.9% (10点)、C₁5.1% (3点)、C₂3.4% (2点)であった。高杯A、いわゆる有段高杯がほぼ70%の割合を占めている。ワイングラス形の高杯Bの2倍強という結果であった。

鉢は分類可能なものは39点を数える。その内訳については、A₁5.1% (2点)、A₂2.6% (1点)、B 5.1% (2点)、C₁17.9% (7点)、C₂17.9% (7点)であった。C₃7.7% (3点)、C₄2.6% (1点)、D₁2.6% (1点)、D₂5.1% (2点)、D₃5.1% (2点)、E₁2.6% (1点)、E_{2a}5.1% (2点)、E_{2b}2.6% (1点)、E₃7.7% (3点)、F 5.1% (2点)、G₁2.6% (1点)、G₂2.6% (1点)であった。鉢の多様性が窺われる。

器台は分類可能なものは、出土数が少なく10点を数えるのみであった。その内訳は、A50.0% (5点)、B₁10.0% (1点)、B₂10.0% (1点)、C₁20.0%

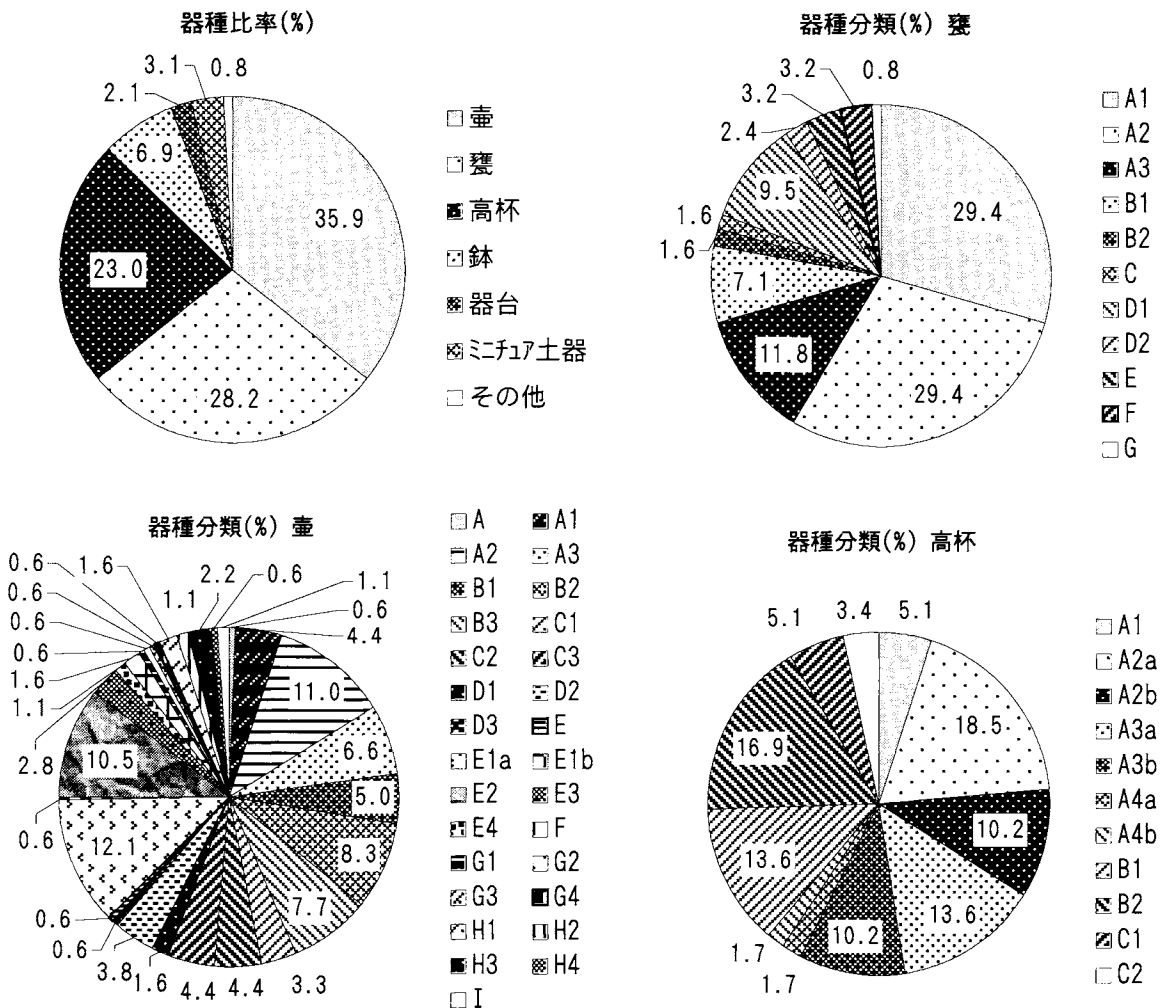
(2点)、C₂10.0% (1点)であった。

4 後期前半弥生土器の遺構別器種構成

弥生時代後期前半の遺構から出土した弥生土器器種構成について考えてみたい。当該期は土坑がほとんどで、一部に井戸がみられる。土坑については井戸の可能性も考えられる。ここでは、代表的な遺構 (SK31・326、SE327) を抽出して比較を行う。

SK31は銅鐸形土製品が出土しており祭祀的な色合いが濃い遺構である。壺76.0% (19点)、甕12.0% (3点)、高杯12.0% (3点)であった。鉢、器台、ミニチュア土器などは確認していない。また、木製農具や用途不明の木材が共伴する。

SK326出土土器の器種構成は、壺35.1% (32点)、甕27.5% (25点)、高杯25.3% (23点)、鉢



第196図 後期前半弥生土器統計結果①

4.4%(4点)、器台 3.3%(3点)、ミニチュア土器 3.3%(3点)であった。

SE327 出土土器の器種構成は、壺25.5%(14点)、甕29.1%(16点)、高杯27.3%(15点)、鉢 10.9%(6点)、器台 3.6%(2点)、ミニチュア土器 1.8%(1点)であった。SK326 とSE327 の器種構成については、鉢の比率に問題はあるがほぼ同傾向と考えるとよいであろう。また、この2つの遺構については、位置関係も近接している。土器出土状況も同じ状況であった。相違点は、SE327 には底部で集水するためと考えられる石組みが存在していることである。

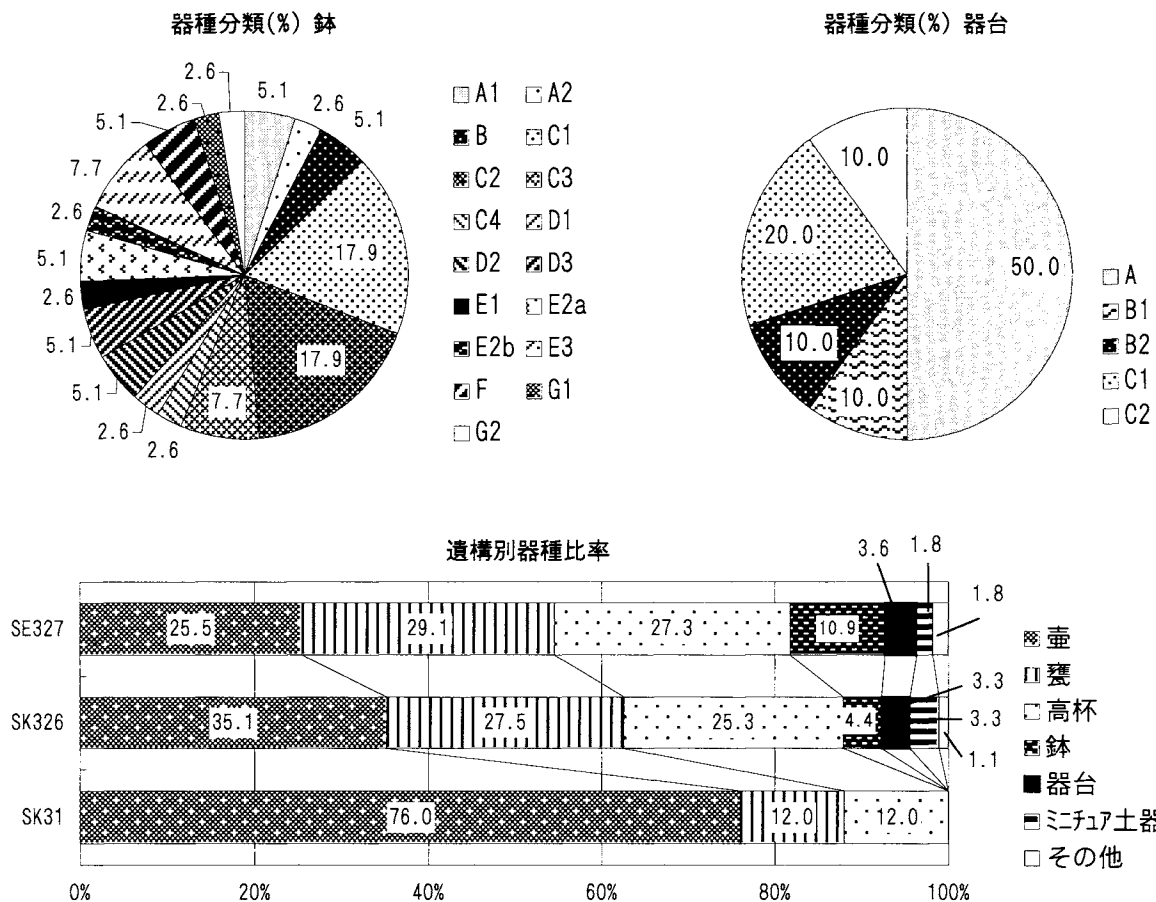
SK31は壺が76.0%を占め、鉢、器台、ミニチュア土器などを確認しておらず、SK326 とSE327 の器種構成と比較すると一種特異な感を受ける。また、SK326 とSE327 にはみられない銅鐸形土製品や木製農具などが共伴していることは、SK31が他の2遺構とは違う性質のものであることを示して

いるのではないだろうか。

5 祭祀木製品の統計的傾向

堀町遺跡においては、斎串・人形・舟形といった祭祀木製品が大量に出土している。報告書掲載分で146点を数える。県内においても資料の豊富さは松阪市杉垣内遺跡^⑧とともに群を抜いている。そこで祭祀木製品の統計的傾向を概観したいと思う。報告書掲載分の傾向であるが全体の傾向もつかめるものとする。斎串95.9%(140点)、人形 0.7%(1点)、舟形 3.4%(5点)という傾向が堀町遺跡においてみられる。

斎串は、細長い薄い板を尖らせたり、板の側面に切込みなどを施した串状のものである。斎串については、出土量が多く型式分類を行った。分類については『木器集成図録-近畿古代篇-』^⑨掲載の分類を参考にした。堀町遺跡出土の斎串については、A I、



第197図 後期前半弥生土器統計結果②

AV、CI、CII、CIII、CIV、CVの7型式に分類できる。特徴については第198図を参照されたい。

齋串が出土した遺構については、SR210からの出土が全体の98.6%(138点)で、ほとんどを占める。SK6、SE207はともに0.7%(1点)であった。SR210については、量の多少のばらつきはあるものの、調査区内の地区ほぼ全域で出土しているといっていだらう(第199図参照)。遺跡周辺で齋串を使った祭祀が行われ、その齋串が流れ込んできたと考えられる。また、埋土の層位別出土を概観すると、第5層が66.7%(92点)で最も多く、第4層が24.6%(34点)とそれに続く。第1・2層については出土がなく遺構底部での出土が目立つ。

型式分類比率については、AI 0.7%(1点)、AV 0.7%(1点)、CI 1.4%(2点)、CII 1.4%(2点)、CIII 1.4%(2点)、CIV 33.6%(47点)、CV 11.4%(16点)で、CIVが多くを占める。CI～CVに含まれないものの、概ねC型式と考えられるものが49.3%(69点)を占める。これらを含んで考えると齋串の98.6%(138点)がC型式であるという統計結果であった。

ここで祭祀木製品が大量に出土し、相伴土器がほぼ同時期で、SR210と同様の旧河道も存在する松阪市杉垣内遺跡出土の祭祀木製品の傾向との比較を行いたい。祭祀木製品については、75点が報告書に掲載されている。その内訳は、齋串77.3%(53点)、人形1.3%(1点)、馬形1.3%(1点)、刀形2.8%(2点)、刀子形1.3%(1点)、陽物4.0%(3点)であった。齋串がほとんどを占めているものの、堀町遺跡と違い祭祀木製品が多様である。齋串の型式分類比率は、AI 1.7%(1点)、BI 3.4%(2点)、BIII 25.9%(15点)、BVI 5.2%(3点)、CIII 58.7%(34点)、CIV 1.7%(1点)、CVI 1.7%(1点)、D 1.7%(1点)という統計結果であった^⑧。堀町遺跡よりも型式が豊富であることが窺えよう。堀町遺跡出土齋串のように100%近い比率ではないもののC型式と考えられる齋串が62.0%(36点)と他型式を圧倒している。地域的に近接している2遺跡で同傾向という結果が出たことは興味深い。また、堀町遺跡では確認できなかったB型式が多く存在している。

6 堀町遺跡の井戸について

堀町遺跡では、井戸の検出例が多く、弥生時代から鎌倉時代のものを29基確認している。ここでは、奈良時代から鎌倉時代の井戸について分類を行いたい。いわゆる井側の形態差により分類を行っており、井戸の部分名称や分類名については先行の研究を基にしている。名称についてもそのまま引用した。以下に分類を述べる。

<素掘り井戸>

木組や石組がなく地面を掘削しただけのもの。具体例としては、SE230・362・451・224・225があげられる。

<木組円形縦板組無支持型井戸>

縦板が円形に並び、縦板を支持する横棧などがみられないもの。具体例としては、SE37である。

<木組方形縦板組無支持型井戸>

縦板が方形に並び、縦板を支持する横棧などがみられないもの。具体例としては、SE370・358があげられる。

<木組方形縦板組横棧型井戸>

縦板が方形に並び、縦板の内側に方形に横棧が組まれているもの。具体例としては、SE47・353・363・357があげられる。

<木組方形横板組+縦板組横棧型井戸>

方形の井側の向かい合う位置にそれぞれ横板と縦板が組まれ、縦板の内側に横棧が組まれているもの。具体例としては、SE54・217・323があげられる。

<木組円形曲物単独型井戸>

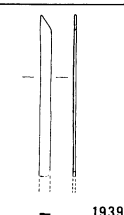
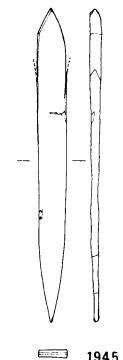
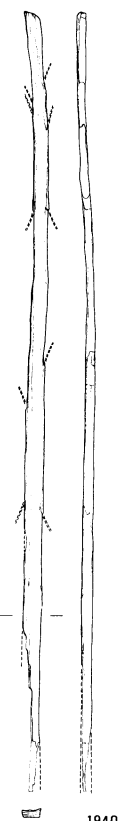
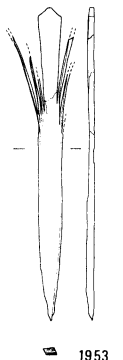
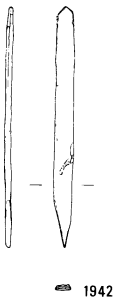
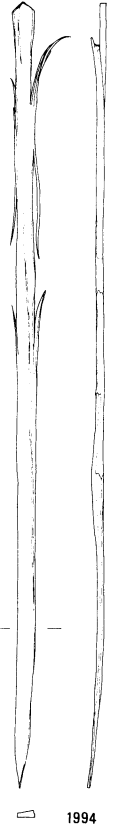

曲物が単独で井戸底部にみられるもの。縦板などの井戸枠はみられない。具体例としては、SE207・208・232・368があげられる。

<木組円形曲物積み上げ型井戸>

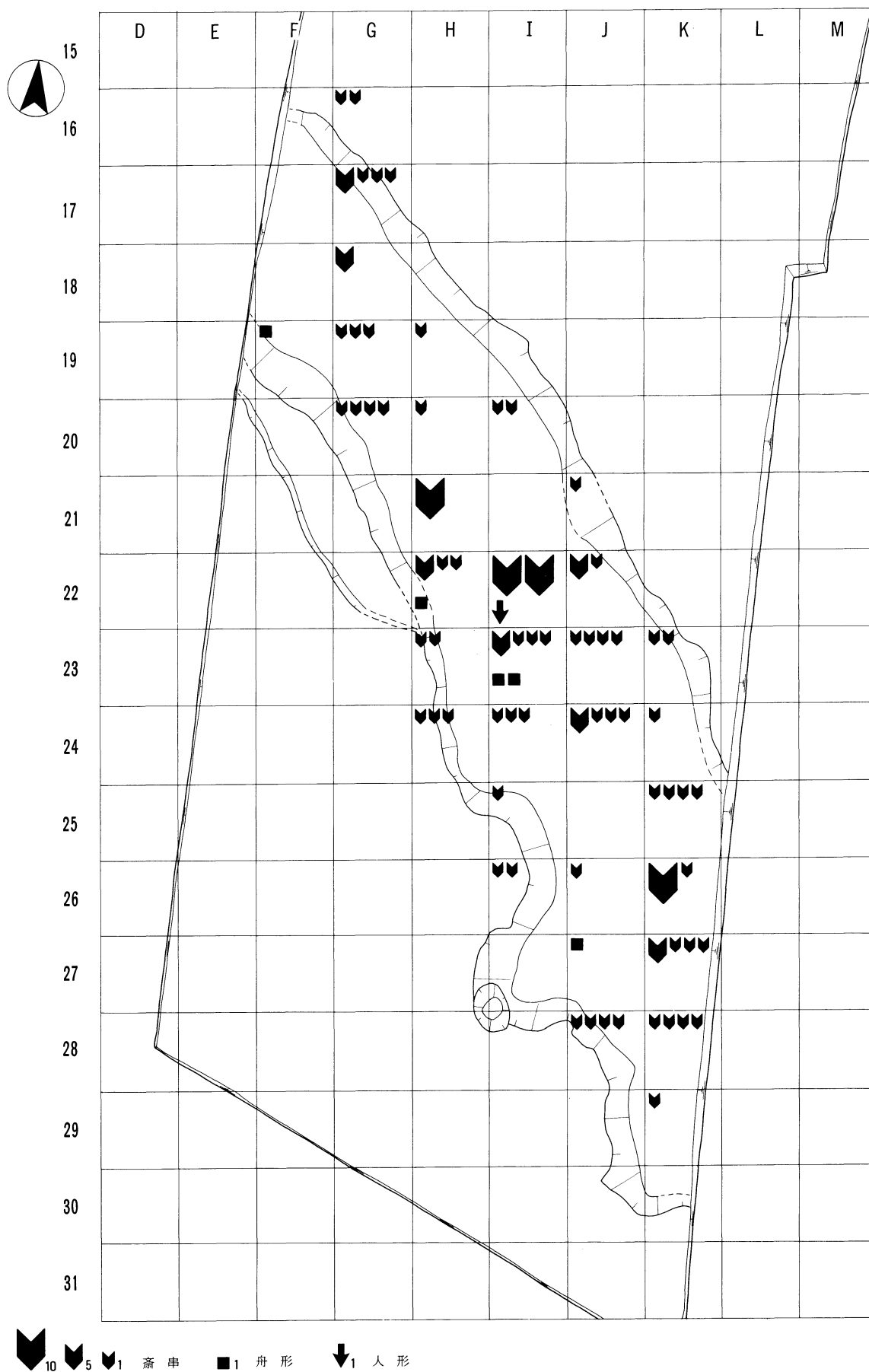
曲物が複数積み上げられているもの。具体例としては、SE55・221・231・233・337があげられる。

<木組円形丸太くり抜き型+曲物積み上げ型井戸>

丸太をくり抜いたような井戸枠と曲物が複数積み上げられているものとの複合型。SE218がこれに相当しよう。

分類	例図	特徴	分類	例図	特徴
A	I  1939	・板材の両端をそれぞれ一側面から斜めに切り落とし、切込みがないもの。	C	III  1945	・板材の上端は圭頭状に、付近の側面の左右1ヶ所に切込みをいれるもので、上端の斜辺から切込むものも含む。
	V  1940	・板材の両端をそれぞれ一側面から斜めに切り落とし、側面の左右2ヶ所以上に切込みをいれるもので、1ヶ所の切込み回数が複数回に及ぶもの。		IV  1953	・板材の上端近くは圭頭状に、下端は剣先状で、上端近くの側面の左右に2ヶ所以上切込みをいれるもので、1ヶ所の切込み回数は1回と考えられる。
C	I  1942	・板材の上端は圭頭状に、下端は剣先状で、切込みをいれないもの。	C	V  1994	・板材の上端近くは圭頭状に、下端は剣先状で、上端近くの側面の左右に2ヶ所以上切込みをいれるもので、1ヶ所の切込み回数は4～5回に及ぶことがある。
	II  1943	・板材の上端は圭頭状に、下端は剣先状で、板の側面を割裂くように上端木口から割れ目をいれるもの。			

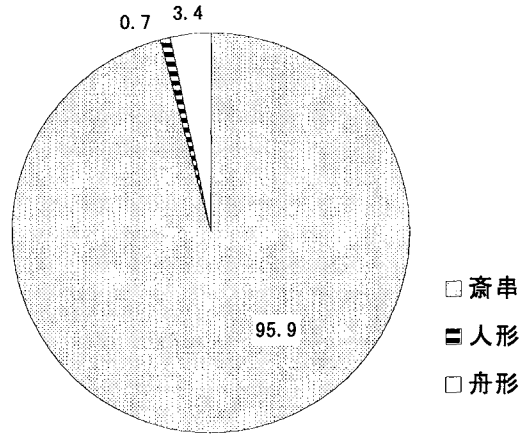
第198図 齋串型式分類(案) (1 : 6)



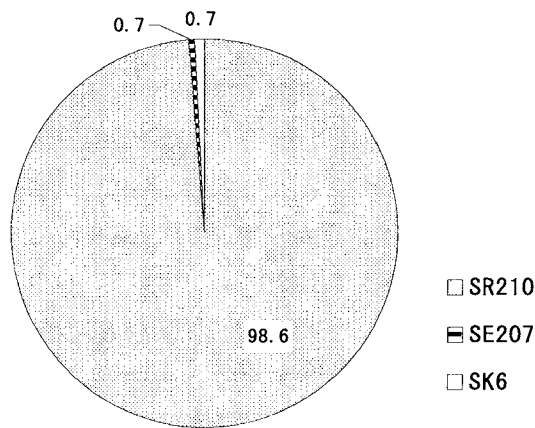
 10
  5
  1 齋串
  1 舟形
  1 人形

第199図 S R 210祭祀木製品出土状況 (1 : 300)

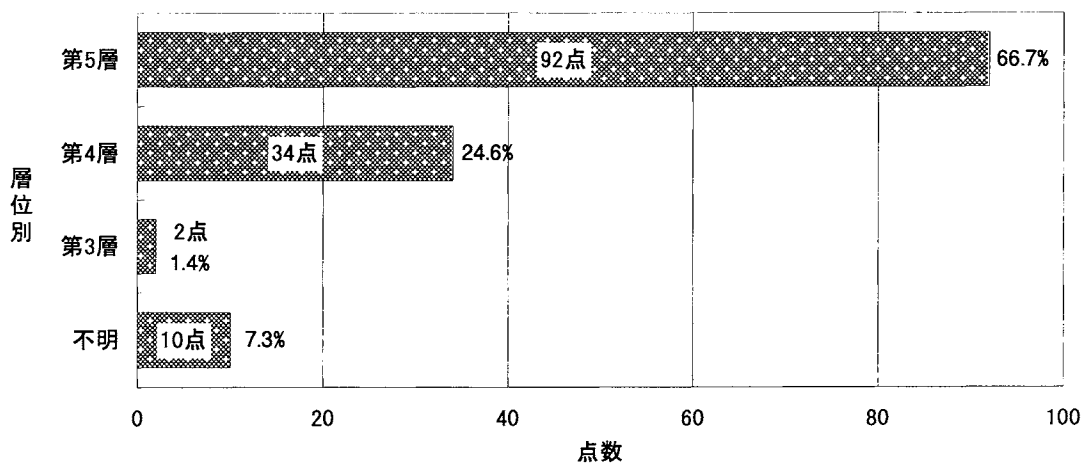
堀町遺跡の祭祀木製品 (%)



斎串の出土遺構別分類 (%)



SR210 層位別出土状況



第200図 祭祀木製品統計結果

<木組円形縦板組無支持型+曲物積み上げ型井戸>

縦板が円形に並び、縦板を支持する横棧などがみられないものと曲物が複数積み上げられているものとの複合型。S E46がこれに相当する。

<木組方形縦板組横棧型+曲物積み上げ型井戸>

縦板が方形に並び、縦板の内側に方形に横棧が組まれているものと曲物が複数積み上げられているものとの複合型。具体例としては、S E345があげられる。

<土器組+曲物単独型井戸>

井戸底部に土器と曲物があるもの。縦板などの井戸枠はみられない。S E226がこれに相当する。

以上のように、井側については11に分類することができた。素掘り井戸は奈良～鎌倉時代に至るまでみられ、平安時代まで井側の形態については円形と方形がそれぞれ存在し、鎌倉時代になると井側が円形のみになるという傾向がみられる。また、堀町遺跡では、石組み井戸の検出例がなく、井戸の時期別の変遷を考える上で興味深い結果である。なお、堀町遺跡だけの傾向であるので他遺跡との比較検討が必要と考える。

7 堀町遺跡出土の線刻・墨書土器

堀町遺跡において、時期差はあるものの報告書掲

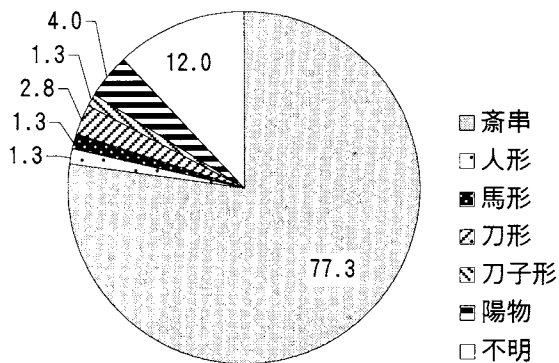
載分で線刻土器が58点、墨書土器が33点を数える。当遺跡で出土したほとんどのものを報告書に掲載している。

線刻土器は、58点のうち50点が土師器である。その50点のうち杯皿類が36点（皿15点、杯21点）で、最も多い。線刻を施す部位については底部外面がほとんどである。なお底部内外面に線刻を施すものも7点存在する。線刻は、「一」、「×」、放射状になっているもの、交差しているものなどがあり、「ドーマン」を意味すると考えられるものが21点を数える。線刻土器の40%近くを占めることになり、当時の人々の精神世界を考える上で興味深い結果である。

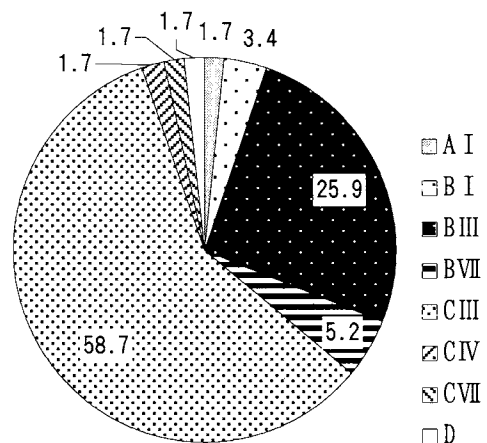
墨書土器は、33点のうち22点が土師器である。すべて杯皿類（皿5点、杯17点）であった。墨書を施す部位についてはほとんどが底部外面である。なお内外面に墨書を施すものは1点、内面に墨書を施すものは3点であった。墨書は「上」「大吉」「宮」「律」「西」「秋木」などがみられる。「大吉」や「律」はマージナルな意味をもつものか。「上」の墨書土器については斎宮跡でも出土例^⑧があり、遺跡内には斎宮という字名が残っていることから、斎宮との何らかの関連が考えられる。斎宮に関連のある施設や寮田などが遺跡の周辺に存在していた可能性も否定はできない^⑨。

線刻に多くみられた「ドーマン」の類は、墨書土

杉垣内遺跡祭祀木製品分類(%)



杉垣内遺跡の斎串型式分類(%)



第201図 杉垣内遺跡祭祀木製品統計結果

器にはほとんどみられず1点を確認しているだけである。堀町遺跡の出土例から、線刻や墨書は、土器に施すものにより使い分けしていた可能性が考えられる。これは、堀町遺跡出土例だけの傾向であり、他遺跡との比較を十分に行わなければいけないだろうし、土器の所属時期についても十分に吟味しなければならないだろう。

8 総括

堀町遺跡の発掘調査から様々な成果を得ることができた。以下に列記して総括としたい。

- ①環濠集落であることが判明し、弥生時代後期当時の社会動態を考える上で貴重な成果を得ることができた。
- ②銅鐸形土製品の出土から、近隣に銅鐸を持つ集団の存在が想定でき、阿形遺跡や草山遺跡との関係を考えてみると興味深いものがある。
- ③弥生時代後期前半の土器群はほとんどが遺構からの出土でもあり、当該期の基準資料となりえることが考えられる。
- ④弥生時代後期から中世にかけて盛衰はあるものの集落が連続と存続していくことが判明した。
- ⑤井戸が多く検出され、調査区内に限られるが石組井戸はなくすべて素掘りか木組井戸であり、井戸の形態の変遷を考える上で貴重な成果を得ることができた。
- ⑥旧河道からは多くの遺物が良好な形で出土したが、祭祀木製品の出土や「ドーマン」の線刻が施された土器などから古代から中世にかけて当時の人々の精神世界を知る上で貴重な成果であるといえる。
- ⑦自然科学分析の結果からは、昆虫化石から弥生時代と現代の気候が同条件であったこと、種実遺体から弥生時代から中世までの植物質食料事情の復元や、井戸枠や木製農具の樹種同定からそれぞれの使用木材が全国的な傾向と合致することなどが判明し、当時の人々の生活や自然環境を復元する上で貴重な成果を得ることができた。

以上のように弥生時代後期から中世にかけてのこの地域の様相を解明する手がかりを得ることができたといえる。(小濱 学)

[註]

- ① 福田哲也ほか「IV. 阿形遺跡」『ヒタキ廃寺・打田遺跡・阿形遺跡ほか』(1992年)。
- ② 松阪市教育委員会『松阪市史第2巻史料篇 考古』(1978年)。
- ③ 松阪市教育委員会『草山遺跡発掘調査月報』1～19(1982～1985年)。
- ④ 福田 昭『涌早崎遺跡発掘調査報告』(松阪市教育委員会、1992年)。
- ⑤ ③に同じ。
- ⑥ 赤塚次郎ほか『山中遺跡』〔財〕愛知県埋蔵文化財センター、1992年)。
- ⑦ 久永春男「弥生式土器総括」『瓜郷』(豊橋市教育委員会、1963年)。
鈴木敏則「山中様式三河型(寄道様式)」『三河考古 創刊号』(1988年)など。
- ⑧ 森本六爾・小林行雄『弥生式土器聚成』(1939年)。
- ⑨ 河瀬信幸ほか「IV 杉垣内遺跡」『昭和61年度農業基盤整備事業地域 埋蔵文化財発掘調査報告I』(三重県教育委員会、1989年)。
- ⑩ 奈良国立文化財研究所『木器集成図録-近畿古代編-』(1985年)。
- ⑪ 「杉垣内遺跡」の報告書には、齋串の分類はより細分された案が提示されている。今回の分析については、細分まで踏み込まず『木器集成図録-近畿古代編-』の分類によっている。
- ⑫ 奈良国立文化財研究所『木器集成図録-近畿古代編-』(1985年)。
- ⑬ 斎宮歴史博物館榎村寛之氏のご教示による。
- ⑭ 斎宮歴史博物館榎村寛之氏のご教示による。
- ⑮ 斎宮歴史博物館榎村寛之氏のご教示による。

[参考文献]

- ・ 豊橋市教育委員会『高井遺跡』(1996年)
- ・ 寺沢薫・森岡秀人ほか『弥生土器の様式と編年-近畿編I-』(1989年)。
- ・ 寺沢薫・森岡秀人ほか『弥生土器の様式と編年-近畿編II-』(1990年)。
- ・ 東海考古学フォーラム『鍋と甕そのデザイン』(1996年)。
- ・ 斎宮跡調査事務所「斎宮の土師器」『斎宮跡調査事務所年報』(1984年)。
- ・ 伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」『M i e h i s t o r y v o l . 1』(三重歴史文化研究会、1990年)。
- ・ 藤沢良祐「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要第3号』(三重県埋蔵文化財センター、1994年)。
- ・ 野村史隆「伊勢・志摩海民の漁撈と信仰」『伊勢と熊野の海』(小学館、1992年)。
- ・ 三重県埋蔵文化財センター『一般国道42号松阪・多気バイパス 埋蔵文化財発掘調査概報V～VIII』(1995～1998)。



調査前風景（南から）



第2次調査区空中写真（北西から）



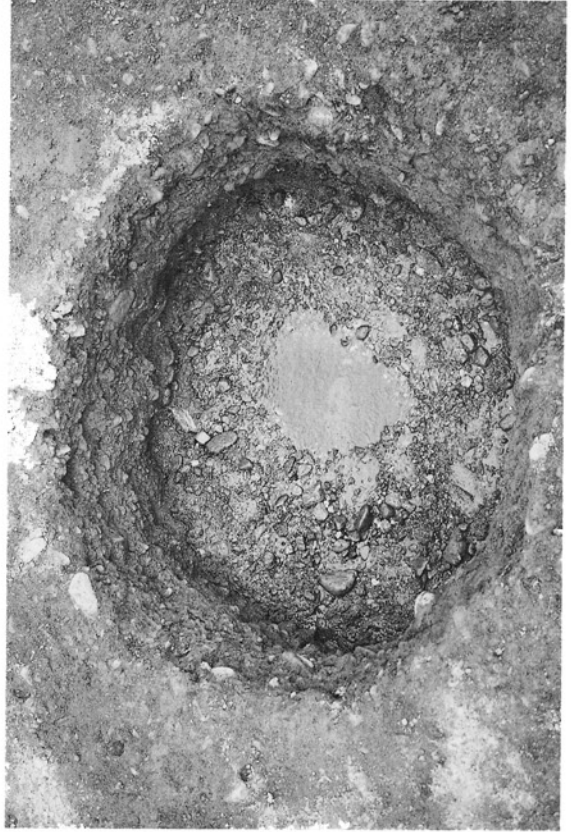
第1次調査区空中写真（上から）



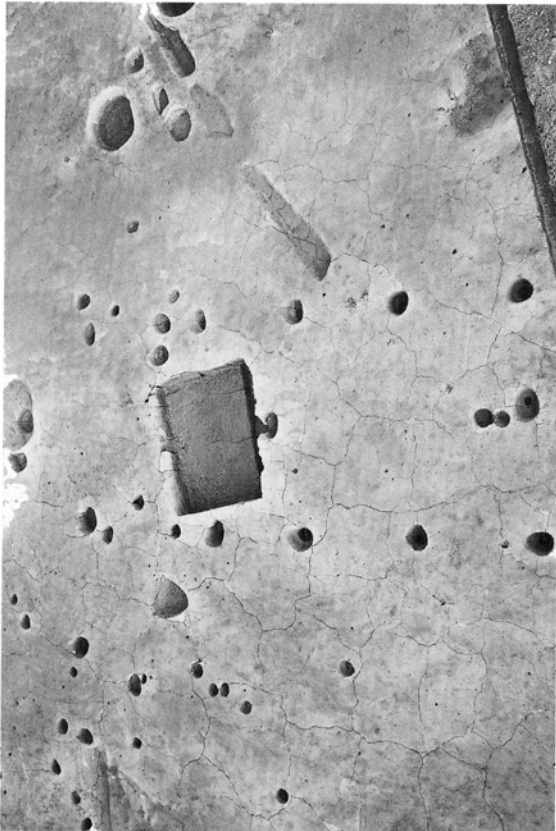
第3次調査区空中写真（南から）



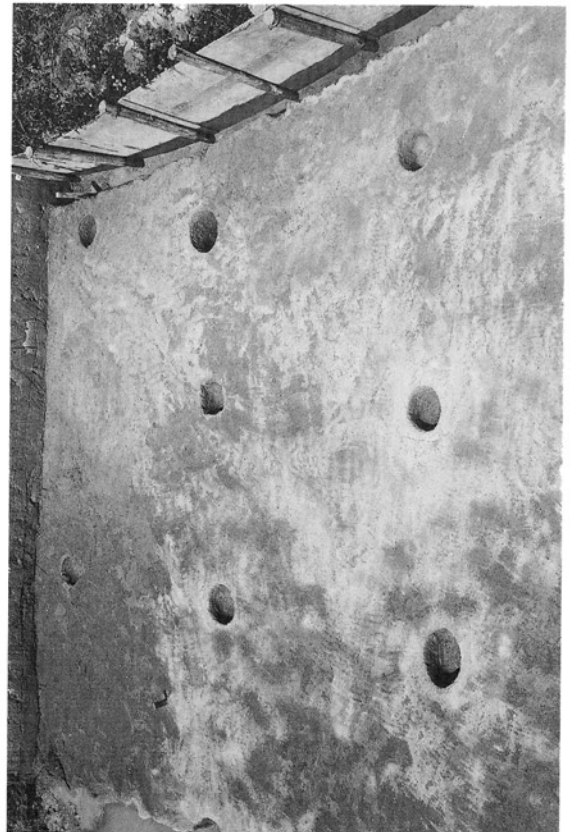
S K 15 (北から)



S K 340 (南西から)



S B 257・258 (東から)



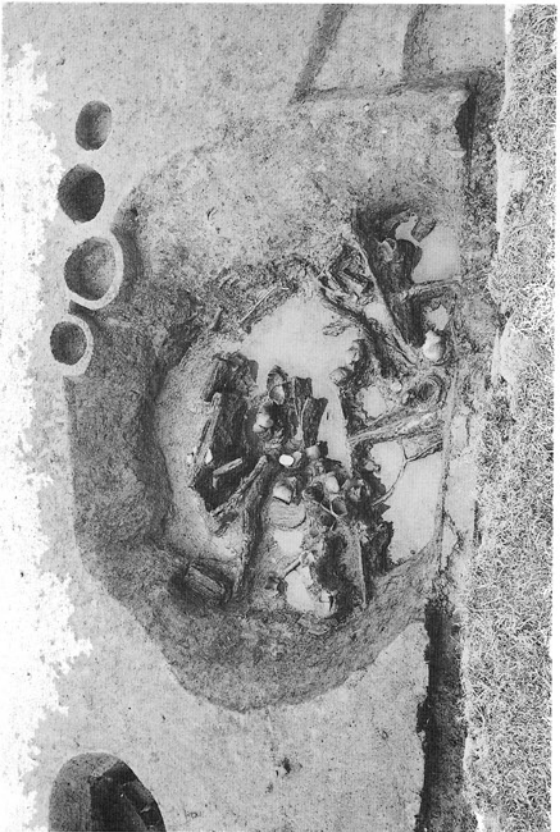
S B 480 (南から)



S K 305 出土状況 (南から)



S K 305 槽出土状況 (西から)



S K 31 出土状況 (北から)



S K 31 銅鐸形土製品出土状況 (西から)



S K 359 出土状況（北から）



S K 410 出土状況（東から）



S K 326 出土状況（北から）



S K 326（北から）



S K 426 出土状況（西から）



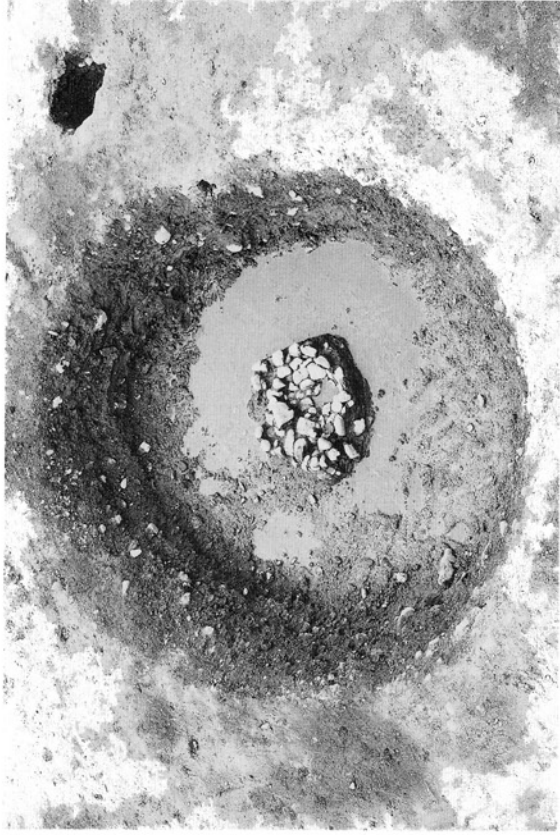
S K 426 土器集中地点（南から）



S K 420 出土状況（東から）



S K 421 出土状況（北から）



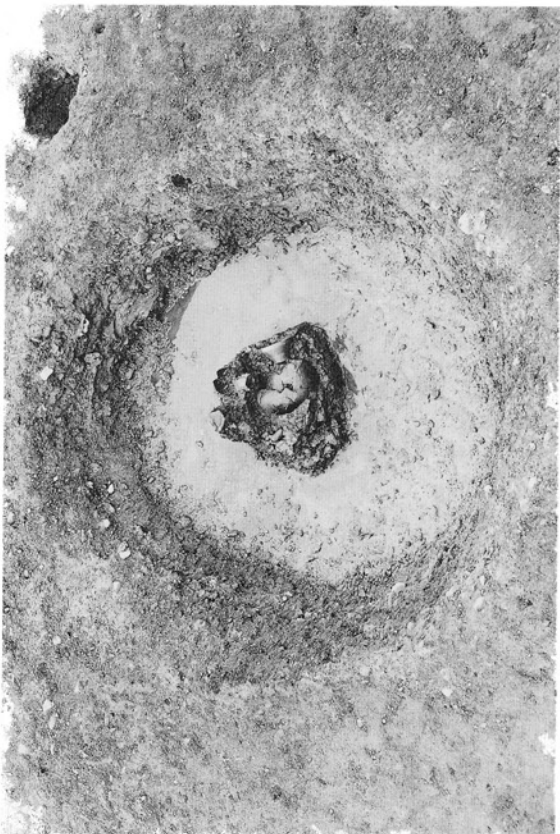
S E 327 集水遺構出土状況（北から）



S E 327 袋状土製品出土状況（東から）



S E 327 上層出土状況（東から）



S E 327 下層出土状況（北から）



S D 303 土器集中状況 (第3次調査区 南から)



S D 303 土層断面 (第3次調査区 南から)



S D 303 出土状況 (第3次調査区 北から)



S Z 399 (南から)